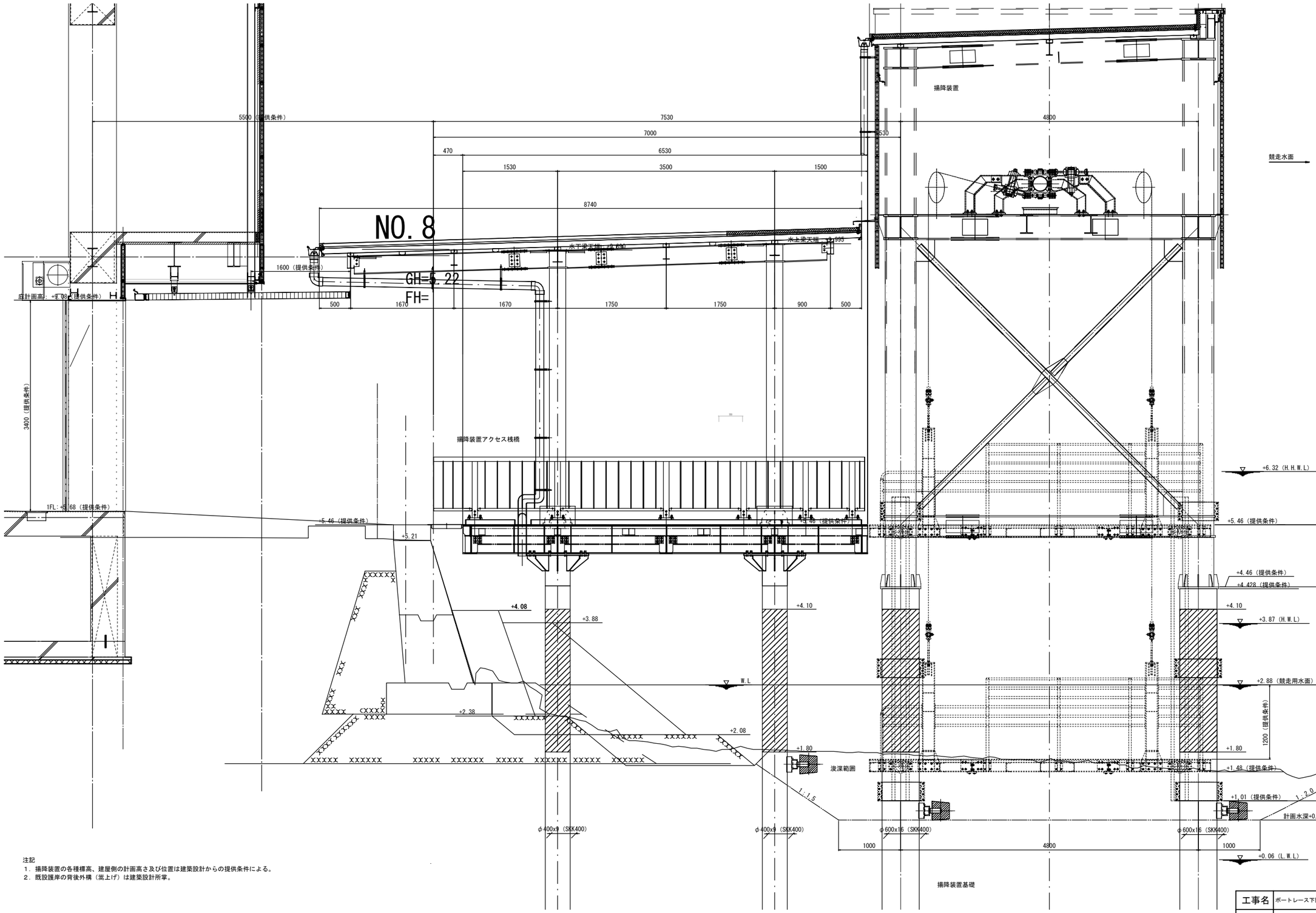
標準断面図（その２）　Ｓ＝１：６０



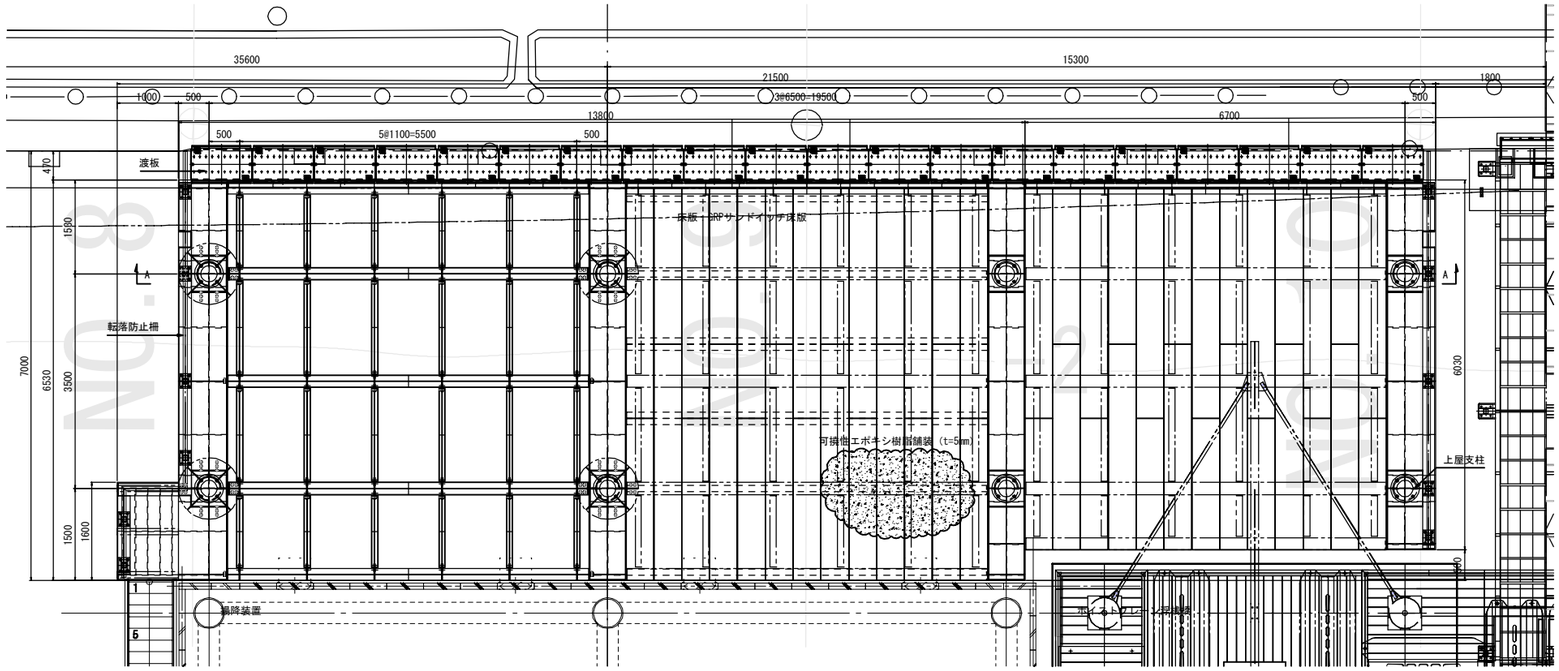
注記
1．揚降装置の各種標高、建屋側の計画高さ及び位置は建築設計からの提供条件による。
2．既設護岸の背後外構（嵩上げ）は建築設計所掌。

原図:A3，単位：mm

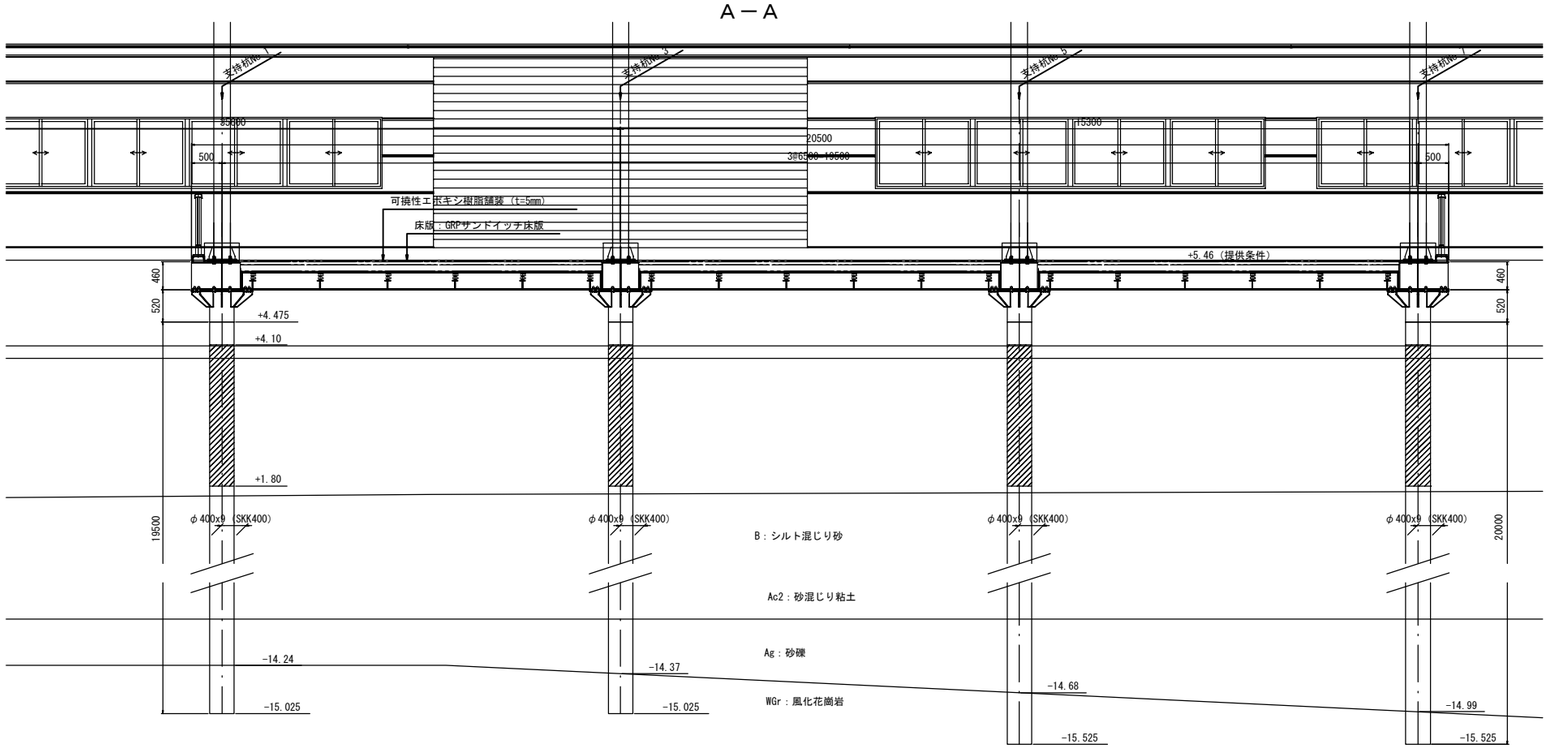
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	標準断面図（その2）		
縮　尺	1/60	図面番号	199
下関市ボートレース企業局			

構造一般図　　S＝1：100

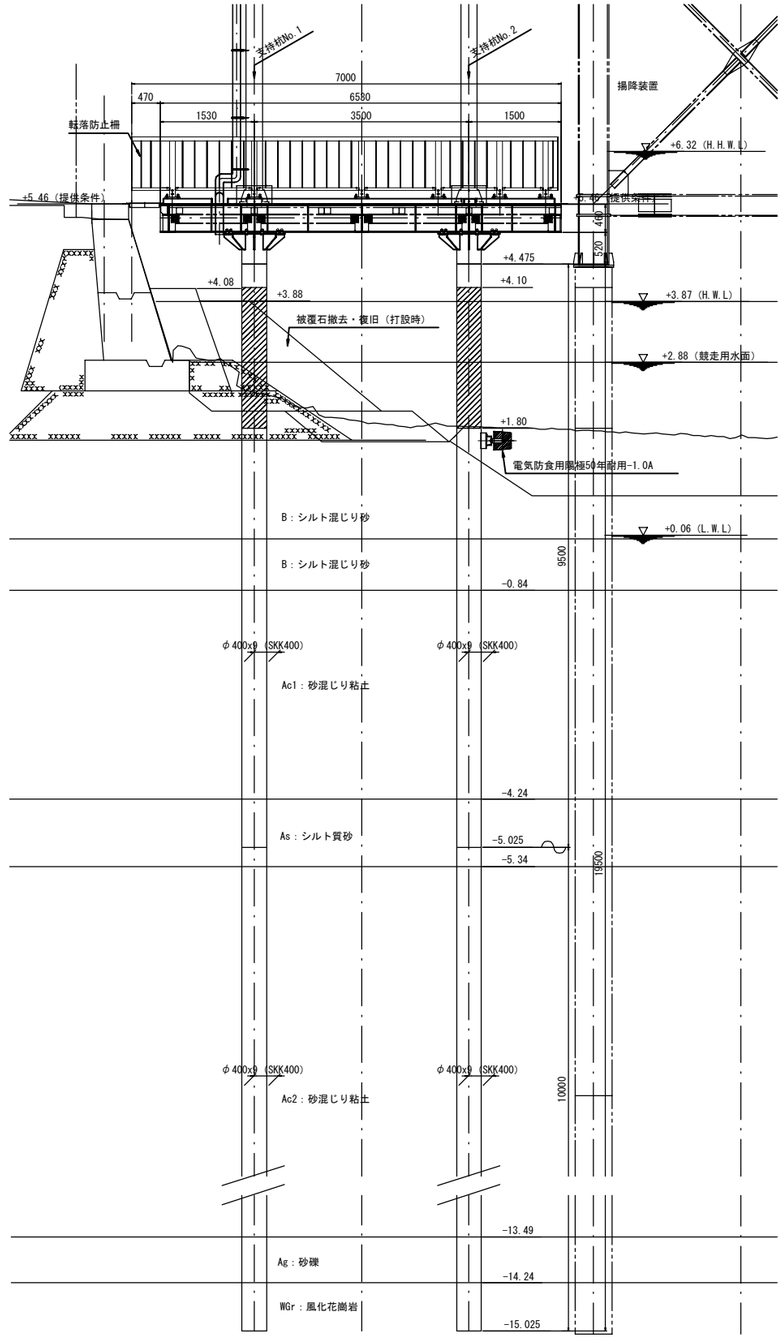
平面図



A－A



断面図

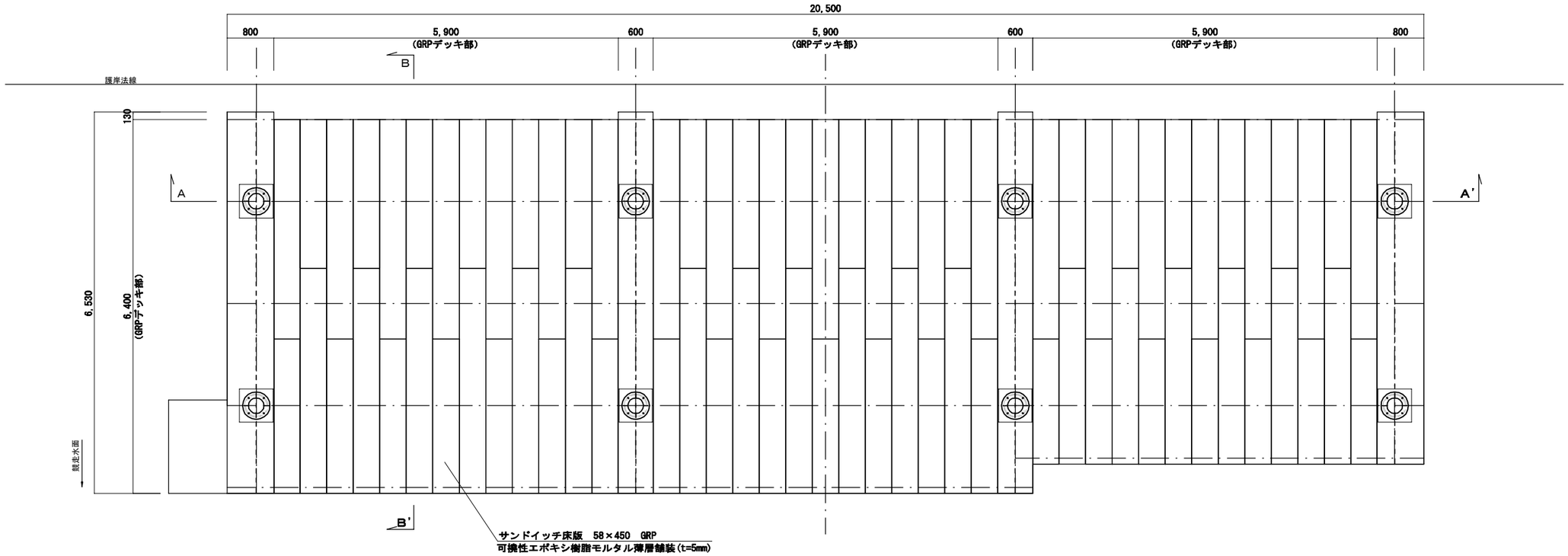


原図:A3、単位：mm

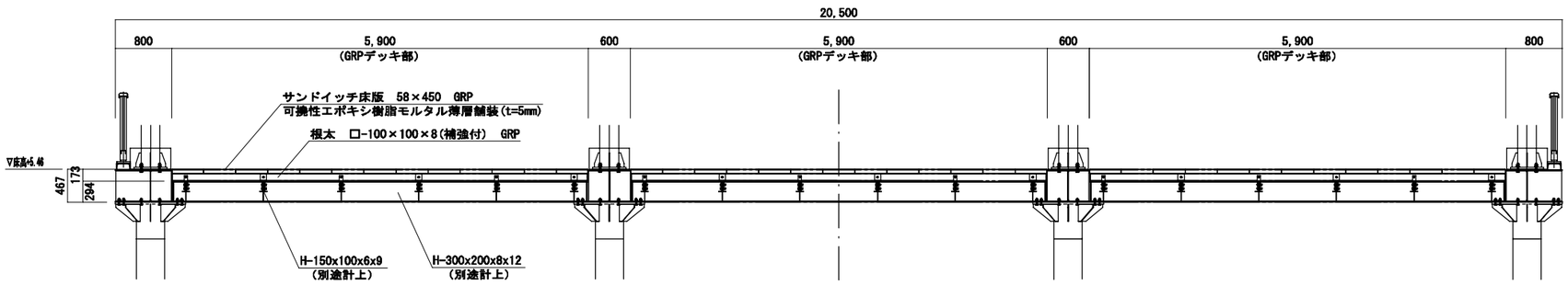
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	構造一般図		
縮　尺	1/100	図面番号	200
下関市ボートレース企業局			

床版割付図　　S＝1：80

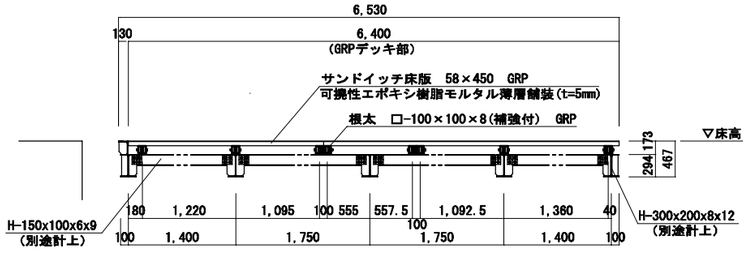
平 面 図



A－A



B－B



設計条件		
上載荷重	5.0 KN/m^u2 (群衆荷重)	立体横断施設技術基準・同解説
	4.5 KN/1ヶ所 (輪荷重)	指定荷重

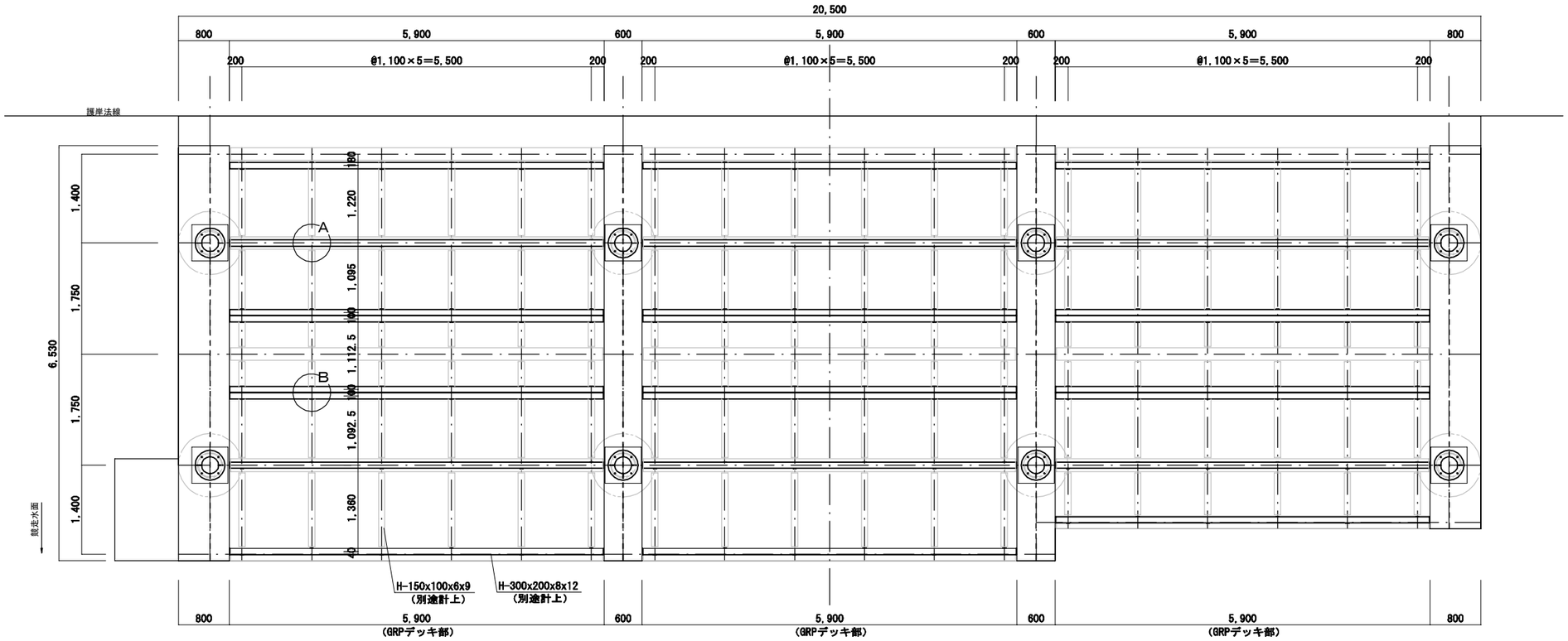
特記仕様

1）　床版(ＧＲＰ)材は、エポキシアクリレート樹脂とガラス繊維を用いた
　　バキュームインフュージョン工法により製造された形材とする。
2）　根太(ＧＲＰ)材は、不飽和ポリエステル樹脂とガラス繊維を用いた
　　引き抜き成形工法により製造された形材とする。
3）　床版表面は可撓性エポキシ樹脂モルタル薄層舗装仕上げとする。
4）　ＧＲＰ部塗装はアクリルシリコン系塗料を塗布するものとする。
5）　ネジ・ボルト類は特記なき限りSUS304製とする。(φ6以下はSUS410製)
　　(社) 日本公園施設業協会の総合賠償責任保険加入製品 (継続保険) とする。
※ (承認に先立ち総合賠償責任保険加入証の写しを提出の上、承諾を得るものとする。)

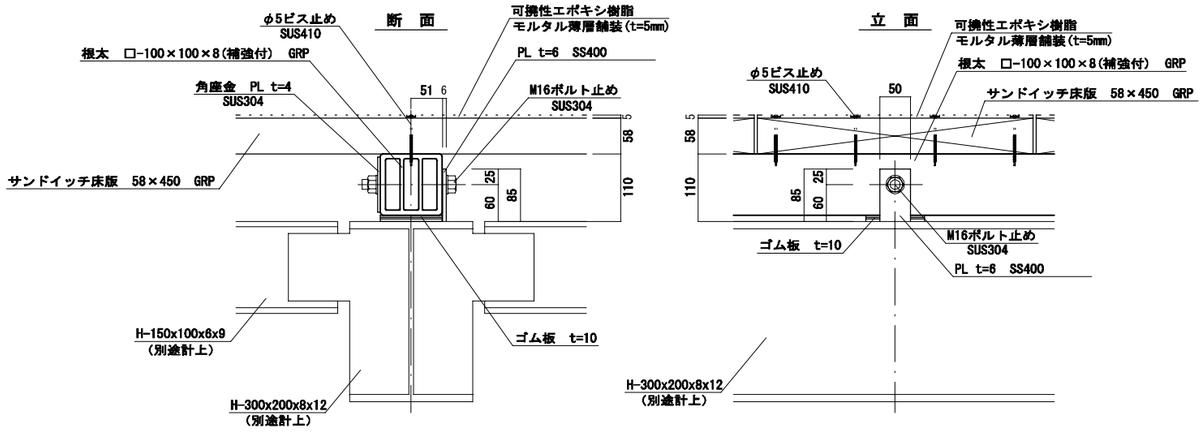
原図:A3、単位：mm

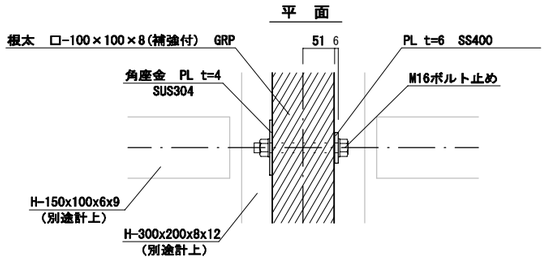
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	床版割付図		
縮　尺	1/80	図面番号	201
下関市ボートレース企業局			

床版取付詳細図　　S＝1：80

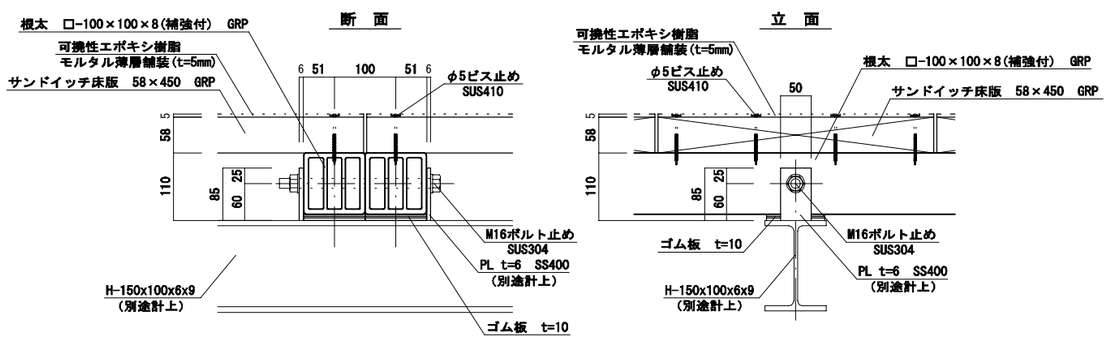


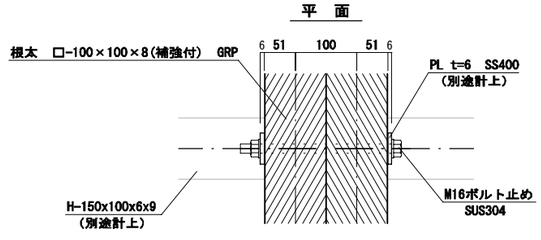
A部詳細図　S＝1：10





B部詳細図　S＝1：10

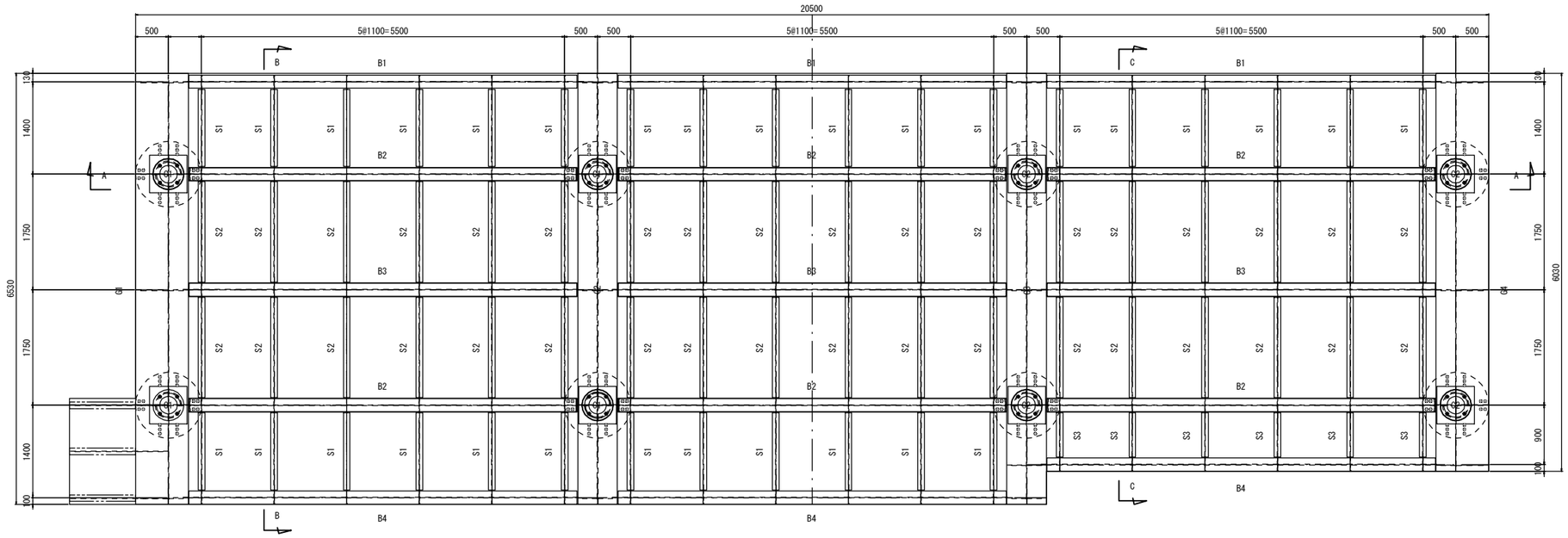




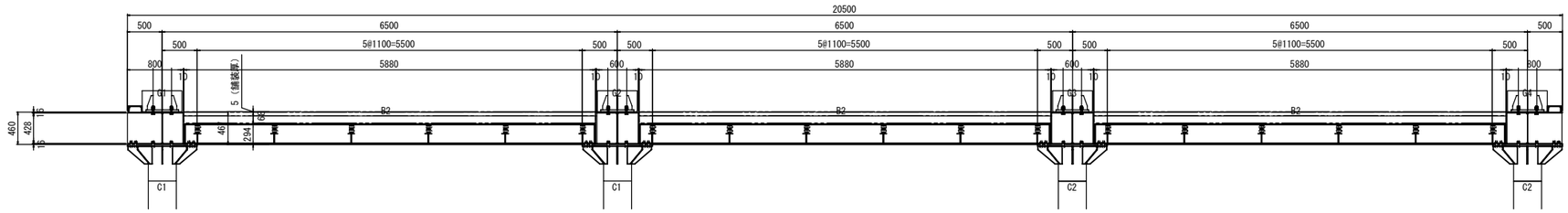
原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	床版取付詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	202
下関市ボートレース企業局			

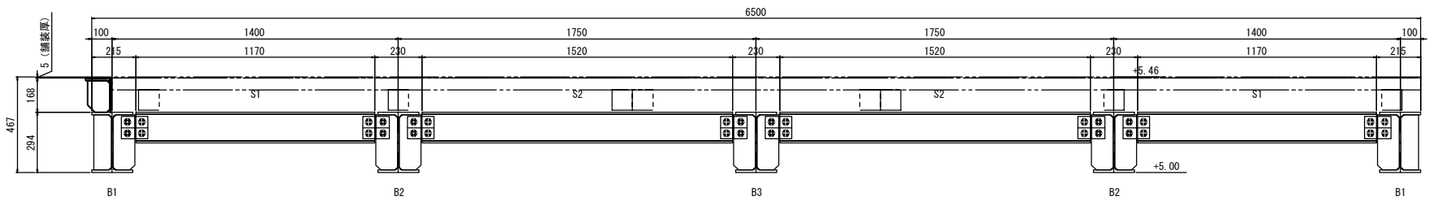
梁伏図・軸組図　　S＝1：80



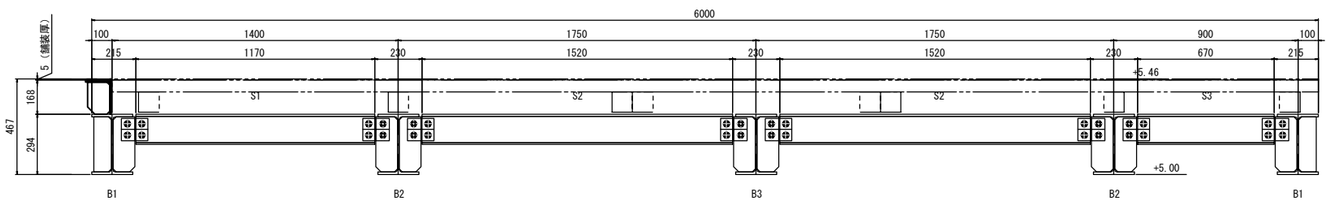
A－A



B－B　　S＝1：30



C－C　　S＝1：30



＜部材リスト＞

番号	規格	材質
C1	鋼管杭-φ400x9	SKK400
C2	鋼管杭-φ400x9	SKK400
G1	B.H-460x800x9x16	SM400A
G2	B.H-460x600x9x16	SM400A
G3	B.H-460x600x9x16	SM400A
G4	B.H-460x800x9x16	SM400A
B1	H-300x200x8x12	SS400
B2	H-300x200x8x12	SS400
B3	H-300x200x8x12	SS400
S1	H-150x100x6x9	SS400
S2	H-150x100x6x9	SS400
S3	H-150x100x6x9	SS400
備考		

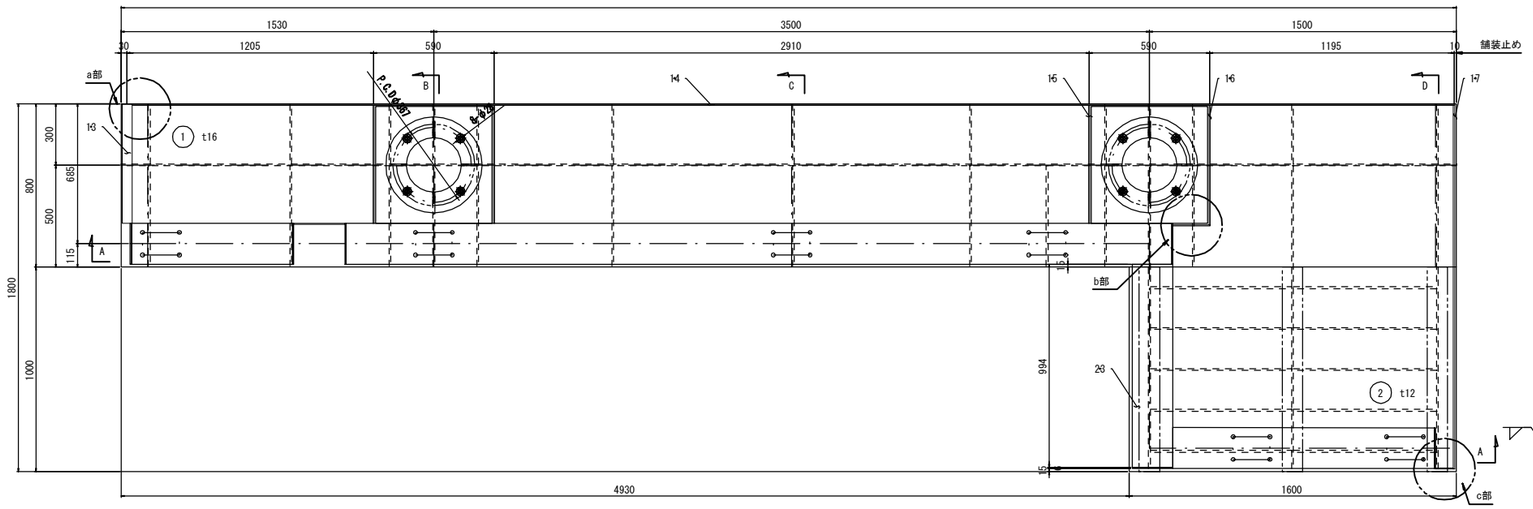
注記
1．各部材詳細は上部工詳細図参照のこと。

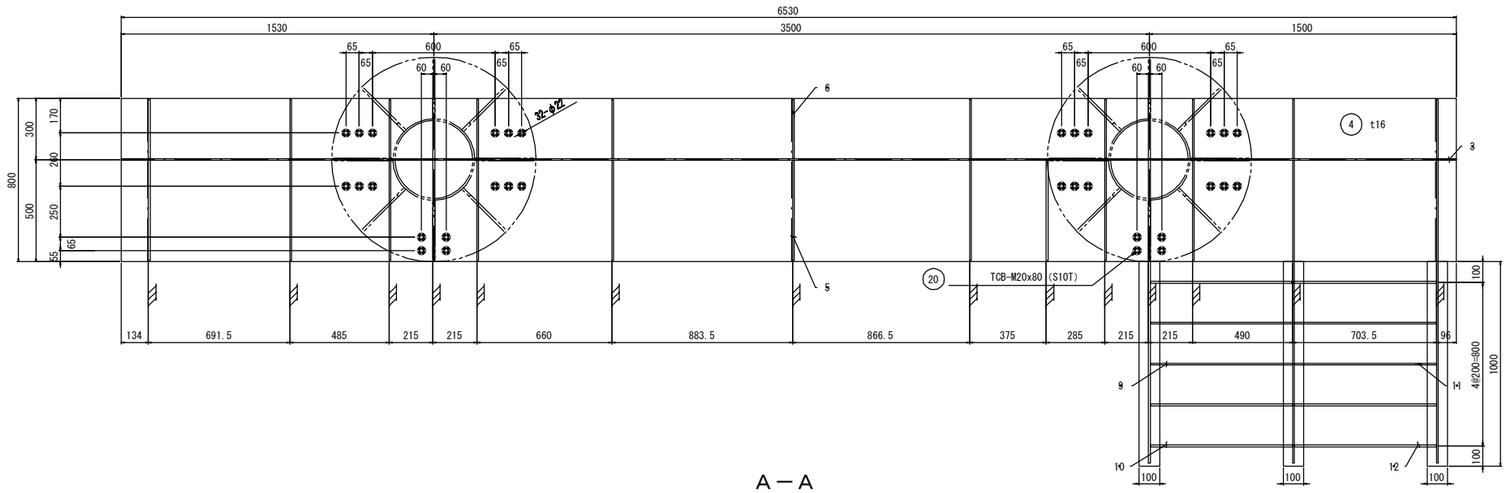
原図:A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	梁伏図・軸組図		
縮　尺	図示	図面番号	203
下関市ポートレース企業局			

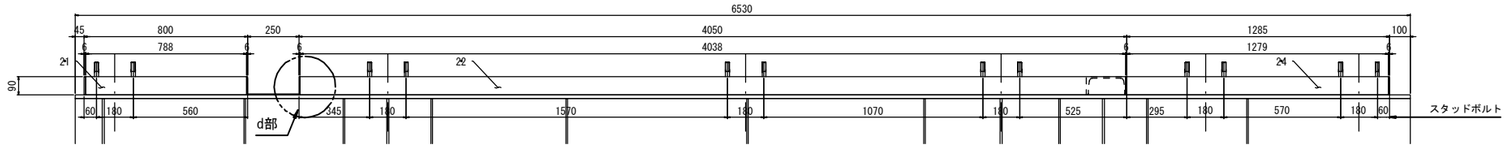
G桁詳細図（その１）　　S＝１：３０

Ｇ１桁詳細

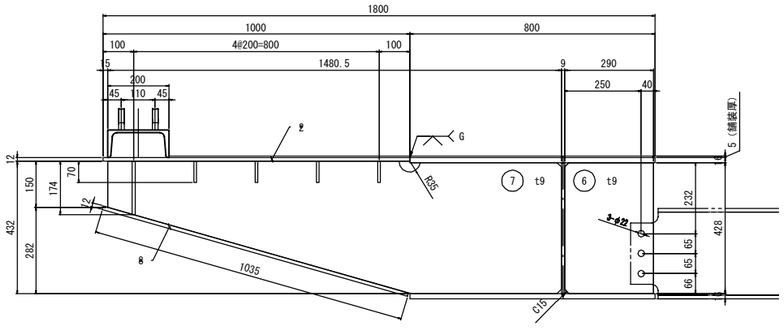




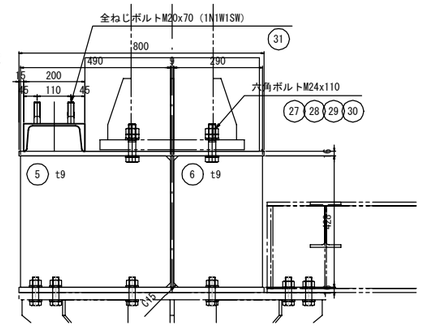
Ａ－Ａ



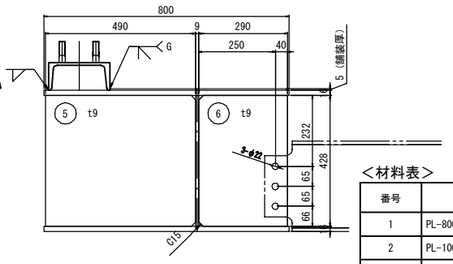
Ｄ－Ｄ　　Ｓ＝１：２０



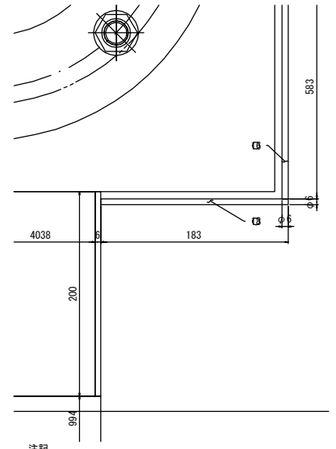
Ｂ－Ｂ　　Ｓ＝１：２０



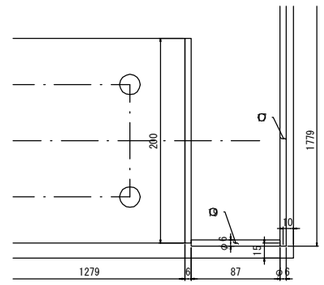
Ｃ－Ｃ　　Ｓ＝１：２０



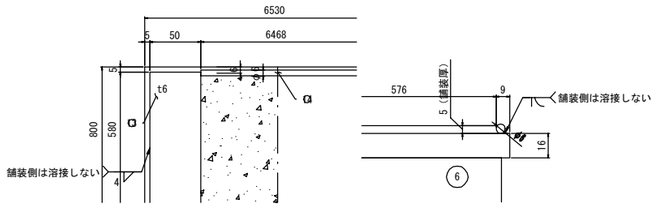
b部詳細　　Ｓ＝１：６



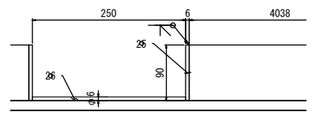
c部詳細　　Ｓ＝１：６



a部詳細　　Ｓ＝１：６



d部詳細　　Ｓ＝１：６



注記
1．特記なき溶接は、6 の連続溶接とする。
2．鋼材の角部はR2程度で面取り加工のこと。
3．添接部は、ボルト本締め後に現場塗装のこと。
4．転落防止柵アンカー部詳細は、転落防止柵詳細図を参照のこと。

＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
1	PL-800x16x6530	1	SM400A
2	PL-1000x12x1600	1	SM400A
3	PL-428x9x6530	1	SM400A
4	PL-800x16x6530	1	SM400A
5	PL-428x9x490	11	SM400A
6	PL-290x9x428	13	SM400A
7	PL-432x9x1481	3	SM400A
8	PL-100x12x1035	3	SM400A
9	PL-70x9x696	4	SM400A
10	PL-174x9x696	1	SM400A
11	PL-70x9x695	4	SM400A
12	PL-174x9x695	1	SM400A
13	PL-50x6x580	1	SUS304
14	RB-φ6x6468	1	SUS304
15	RB-φ6x576	3	SUS304
16	RB-φ6x583	1	SUS304
17	RB-φ6x1779	1	SUS304
18	RB-φ6x183	1	SUS304
19	RB-φ6x87	1	SUS304
20	TCB-M20x80	32	S10T
21	C-200x90x8x13.5x788	1	SS400
22	C-200x90x8x13.5x4038	1	SS400
23	C-200x90x8x13.5x994	1	SS400
24	C-200x90x8x13.5x1279	1	SS400
25	PL-90x6x200	6	SM400A
26	RB-φ6x250	1	SUS304
27	六角ボルトM24x110	8	SS400
28	六角ナットM24（1種）	8	SS400
29	六角ナットM24（3種）	8	SS400
30	平座金M24	8	SS400
31	全ねじボルトM20x70（1N1W1SW）	24	SS400・めっき

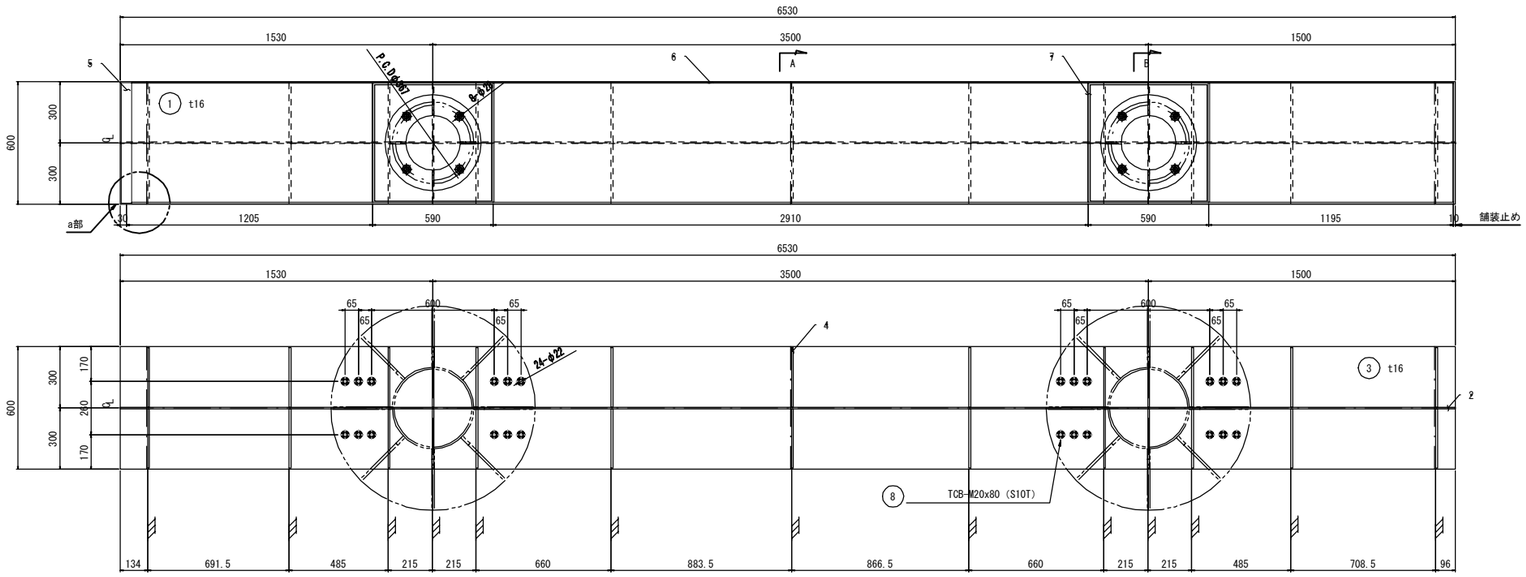
備考
1．数量はG1桁分の全数を示す。
2．転落防止柵固定ナット等は桁側購入品とする。材料諸元は転落防止柵詳細図参照。

原図:A3、単位：mm

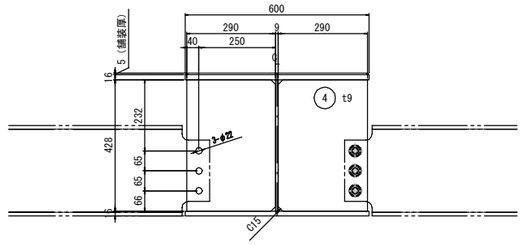
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	G桁詳細図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	204
下関市ボートレース企業局			

G桁詳細図（その２）　　S＝１：３０

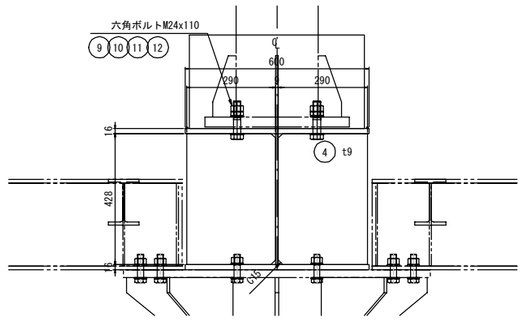
Ｇ２桁詳細



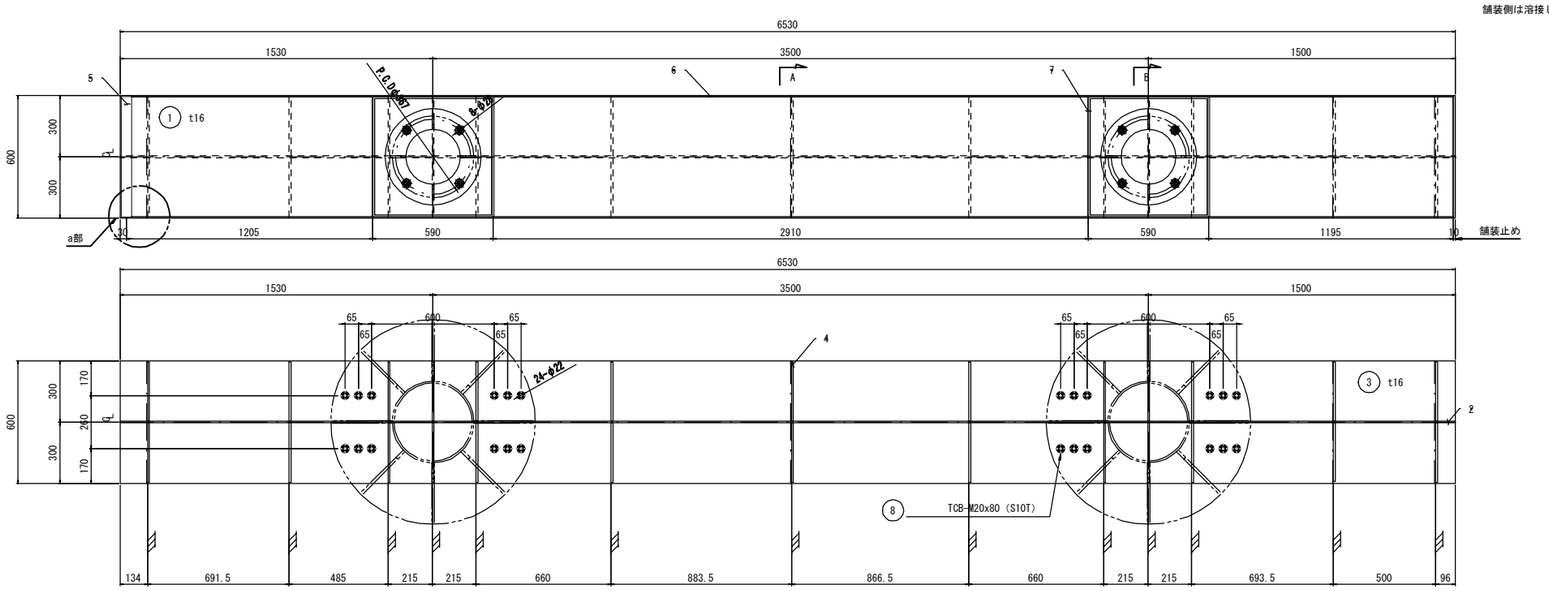
Ａ－Ａ　　S＝１：２０



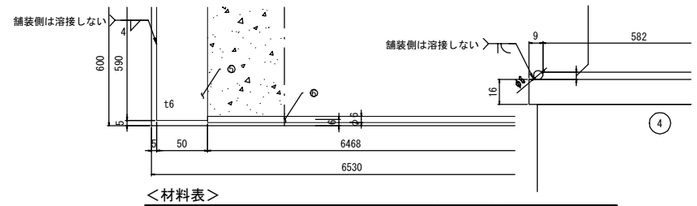
Ｂ－Ｂ　　S＝１：２０



Ｇ３桁詳細



a部詳細　　S＝１：６



＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
1	PL-600x16x6530	1	SM400A
2	PL-428x9x6530	1	SM400A
3	PL-600x16x6530	1	SM400A
4	PL-290x9x428	26	SM400A
5	PL-50x6x590	1	SUS304
6	RB-φ6x6468	2	SUS304
7	RB-φ6x582	5	SUS304
8	TCB-M20x80	24	S10T
9	六角ボルトM24x110	8	SS400
10	六角ナットM24（1種）	8	SS400
11	六角ナットM24（3種）	8	SS400
12	平座金M24	8	SS400

備考
1．数量はG2桁、G3桁の1組分を示す。2組分製作、購入のこと。

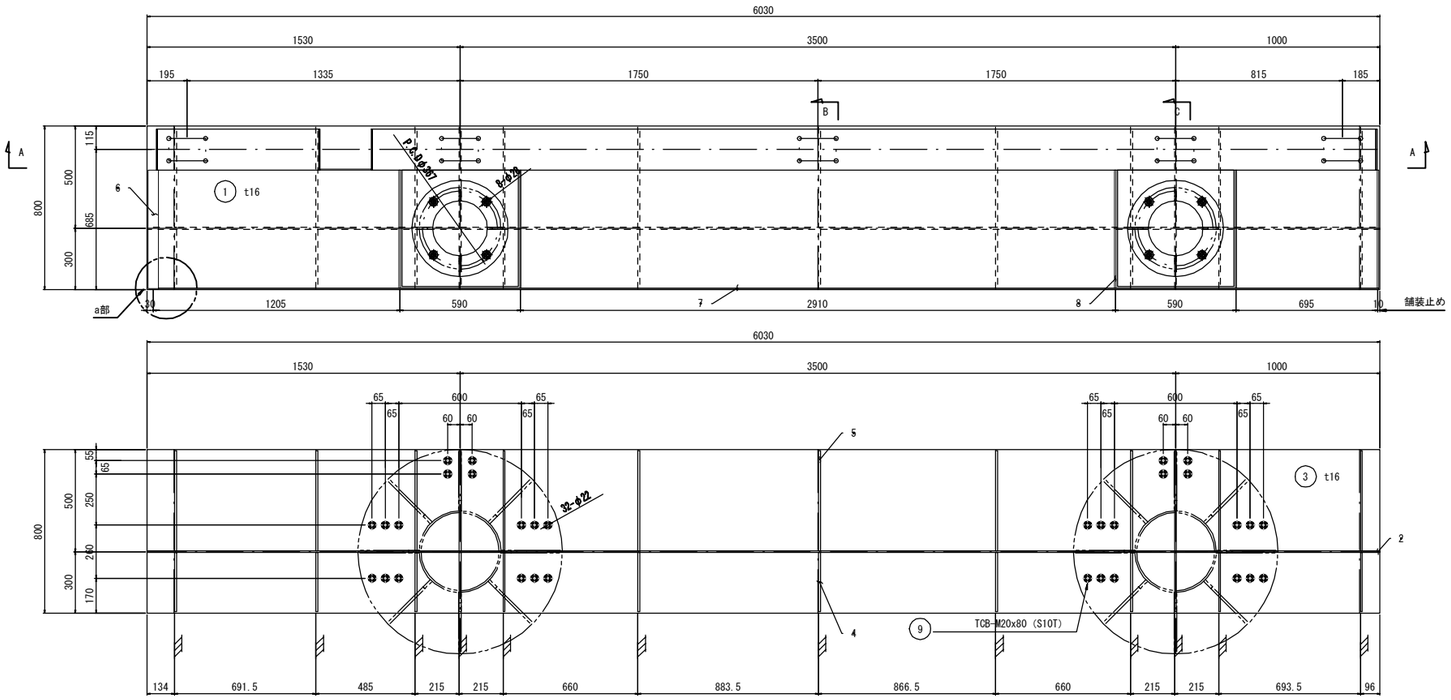
注記
1．本図はCLに対して対称とする。
2．特記なき溶接は、6の連続溶接とする。
3．鋼材の角部はR2程度で面取り加工のこと。
4．添接部は、ボルト本締め後に現場塗装のこと。

原図:A3，単位：mm

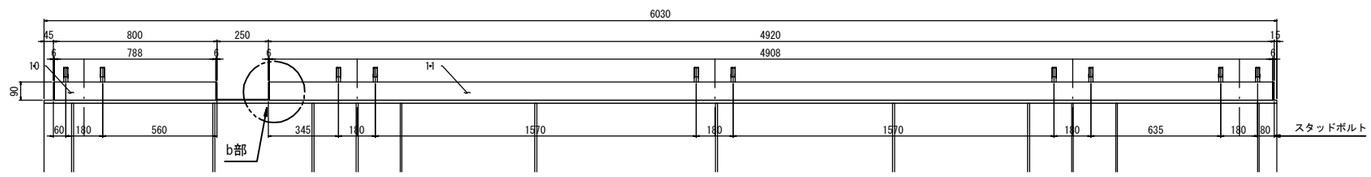
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	Ｇ桁詳細図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	205
下関市ボートレース企業局			

G桁詳細図（その３）　　S＝１：３０

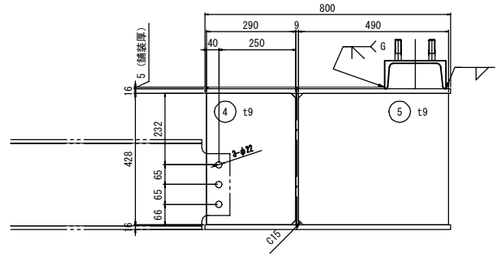
Ｇ４桁詳細



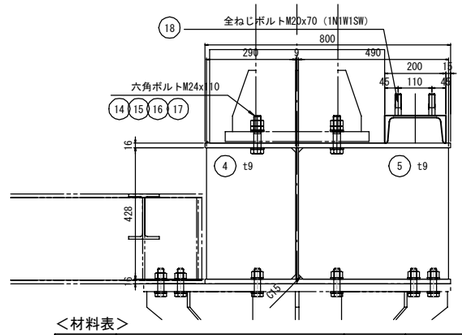
Ａ－Ａ



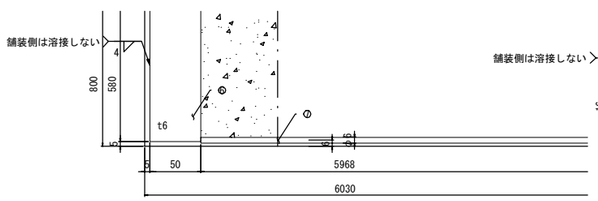
Ｂ－Ｂ　　S＝１：２０



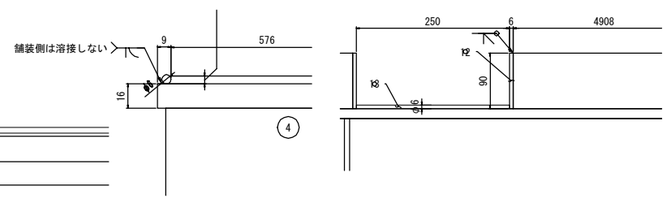
Ｃ－Ｃ　　S＝１：２０



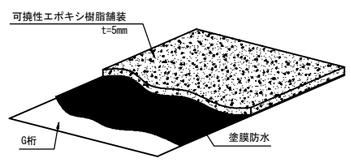
a部詳細　　S＝１：６



b部詳細　　S＝１：１０



舗装概要図



＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
1	PL-800x16x6030	1	SM400A
2	PL-428x9x6030	1	SM400A
3	PL-800x16x6030	1	SM400A
4	PL-290x9x428	12	SM400A
5	PL-428x9x490	12	SM400A
6	PL-50x6x580	1	SUS304
7	RB-φ6x5968	1	SUS304
8	RB-φ6x576	5	SUS304
9	TCB-M20x80	32	S10T
10	C-200x90x8x13.5x788	1	SS400
11	C-200x90x8x13.5x4908	1	SS400
12	PL-90x6x200	4	SM400A
13	RB-φ6x250	1	SUS304
14	六角ボルトM24x110	8	SS400
15	六角ナットM24（1種）	8	SS400
16	六角ナットM24（3種）	8	SS400
17	平座金M24	8	SS400
18	全ねじボルトM20x70（1N1W1SW）	20	SS400・めっき

備考
1．数量はG4桁分の全数を示す。
2．転落防止柵固定ナット等桁側購入品とする。材料諸元は転落防止柵詳細図参照。

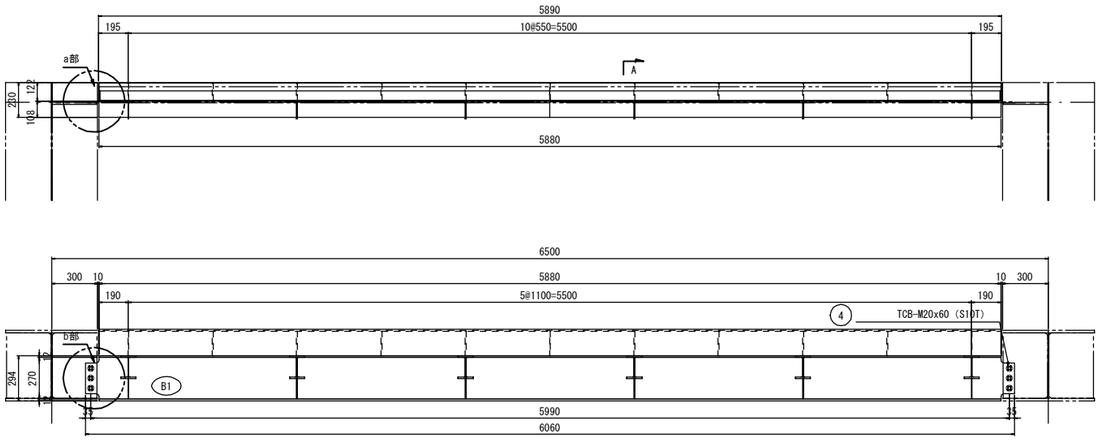
注記
1．特記なき溶接は、 6 の連続溶接とする。
2．鋼材の角部はR2程度で面取り加工のこと。
3．添接部は、ボルト本締め後に現場塗装のこと。
4．転落防止柵アンカー部詳細は、転落防止柵詳細図を参照のこと。

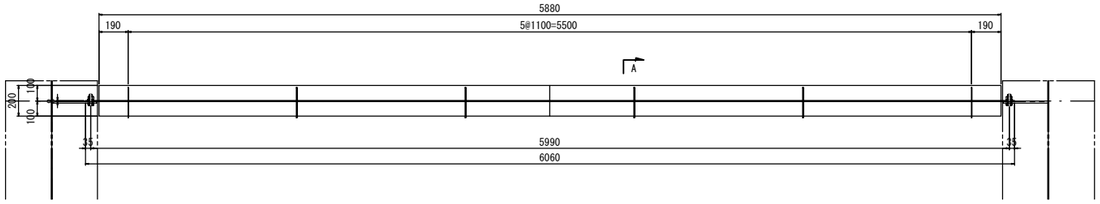
原図:A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	Ｇ桁詳細図（その３）		
縮　尺	図示	図面番号	206
下関市ポートレース企業局			

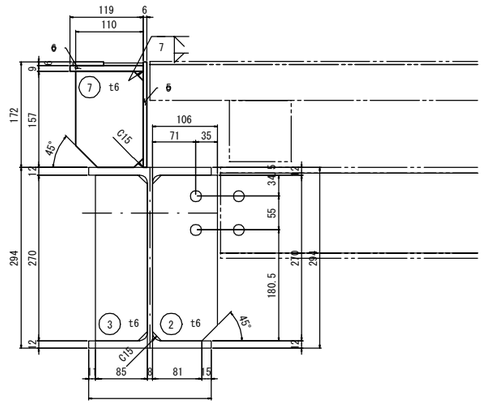
Ｂ桁詳細図（その１）　　Ｓ＝１：４０

Ｂ１桁詳細





Ａ－Ａ　Ｓ＝１：１０



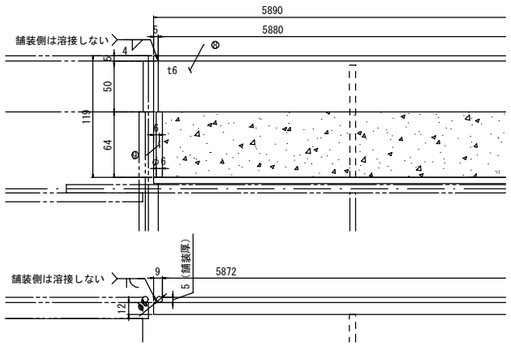
＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
B1	H-300x200x8x12x6060	1	SS400
2	PL-106x6x270	6	SM400A
3	PL-85x6x270	6	SM400A
4	TCB-M20x60	6	S10T
5	PL-172x6x5890	1	SUS304
6	PL-119x9x5890	1	SUS304
7	PL-110x6x157	11	SUS304
8	PL-50x6x5880	1	SUS304
9	RB-φ6x64	2	SUS304

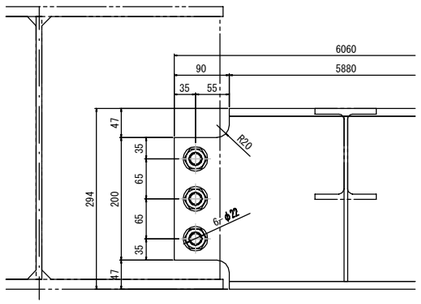
備考
１．数量は1組分を示す。3組分製作、購入のこと。

注記
１．特記なき溶接は、 6 の連続溶接とする。
２．添接部は、ボルト本締め後に現場塗装のこと。

a部詳細　　Ｓ＝１：１０



b部詳細　　Ｓ＝１：１０

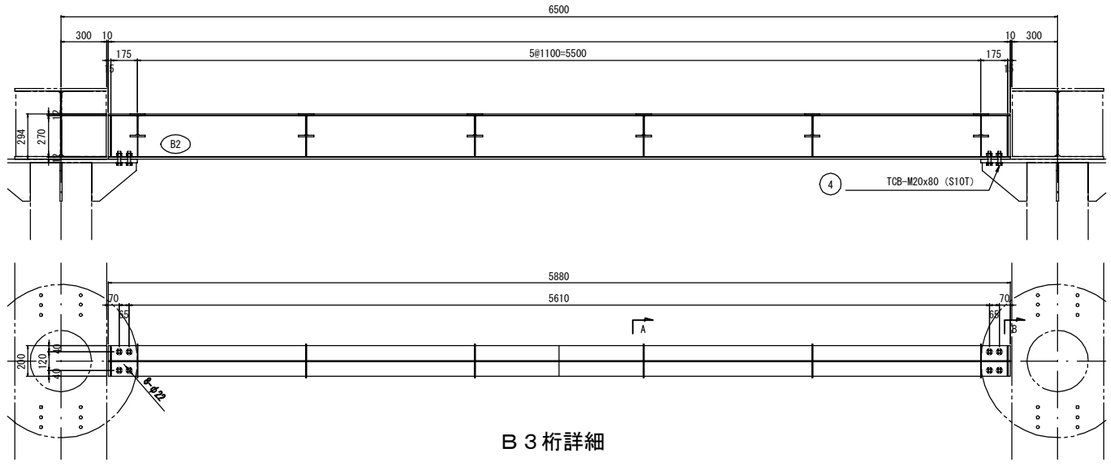


原図:A3、単位：mm

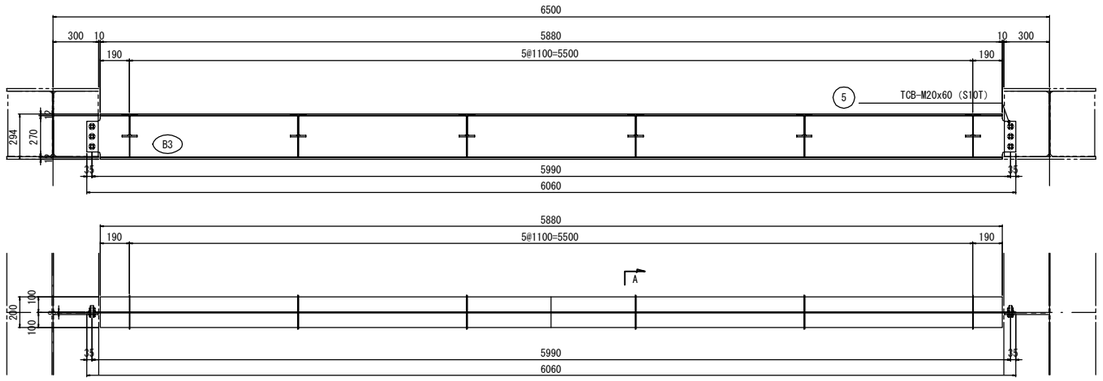
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	Ｂ桁詳細図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	207
下関市ボートレース企業局			

Ｂ桁詳細図（その２）　　Ｓ＝１：４０

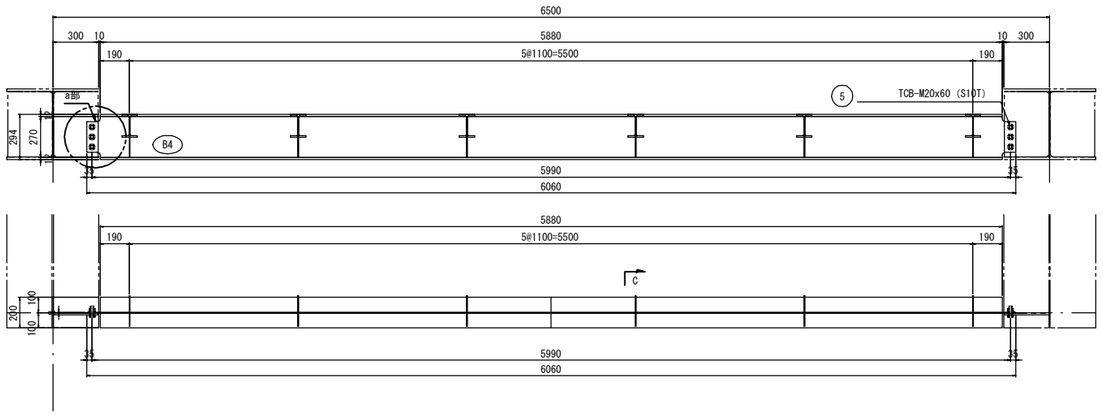
Ｂ２桁詳細



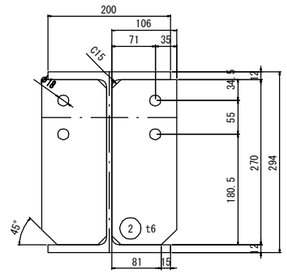
Ｂ３桁詳細



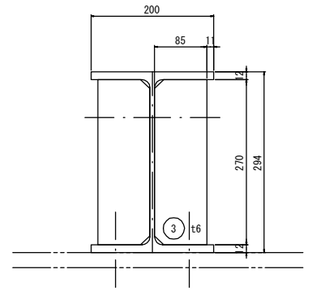
Ｂ４桁詳細



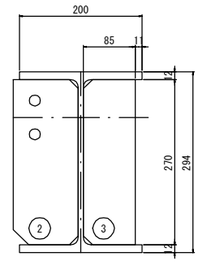
Ａ－Ａ　Ｓ＝１：１０



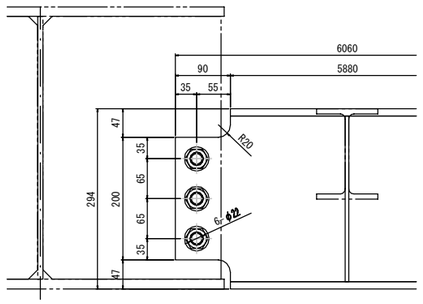
Ｂ－Ｂ　Ｓ＝１：１０



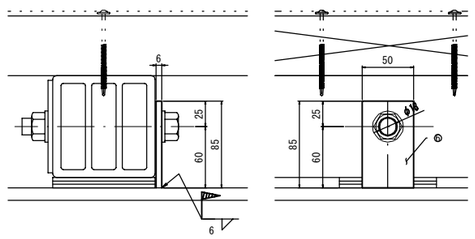
Ｃ－Ｃ　Ｓ＝１：１０



a部詳細　　Ｓ＝１：１０



根太固定プレート　　Ｓ＝１：６



＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
6	PL-50x6x85	54	SM400A

備考
1．数量はＢ桁取付分全数を示す。
2．固定ボルトナット及びゴム板は床版にて別途計上。

注記
1．根太固定プレート取付位置は、床組組立後に位置調整のこと。

＜材料表＞

B2	H-300x200x8x12x5880	1	SS400
2	PL-106x6x270	12	SM400A
3	PL-85x6x270	4	SM400A
4	TCB-M20x80	8	S10T

備考
1．数量は1組分を示す。6組分製作、購入のこと。

B3	H-300x200x8x12x6060	1	SS400
2	PL-106x6x270	12	SM400A
5	TCB-M20x60	6	S10T

備考
1．数量は1組分を示す。3組分製作、購入のこと。

番号	規格	数量	材質
B4	H-300x200x8x12x6060	1	SS400
2	PL-106x6x270	6	SM400A
3	PL-85x6x270	6	SM400A
5	TCB-M20x60	6	S10T

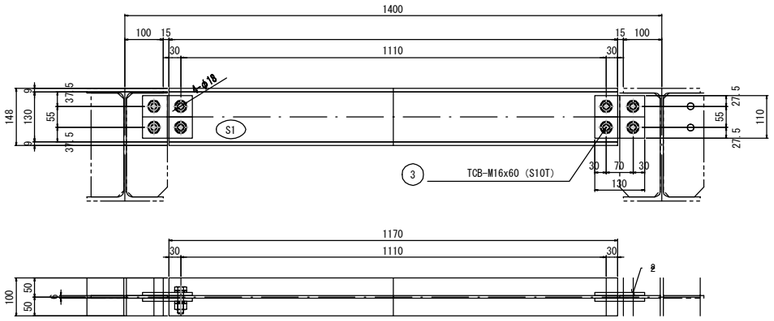
備考
1．数量は1組分を示す。3組分製作、購入のこと。

原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	Ｂ桁詳細図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	208
下関市ボートレース企業局			

Ｓ桁詳細図　　Ｓ＝１：１６

Ｓ１桁詳細

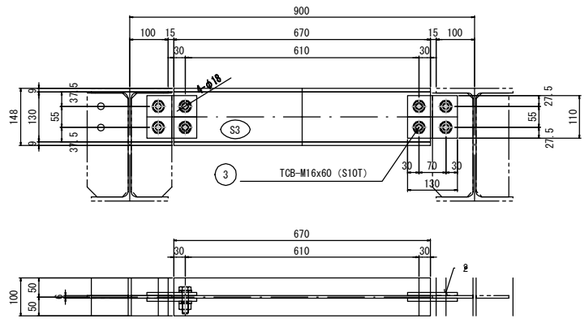


＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
s1	H-150x100x6x9x1110	1	SS400
2	SPL-110x9x130	4	SM400A
3	TCB-M16x60	8	S10T

備考
1．数量は1組分を示す。30組分製作、購入のこと。

Ｓ３桁詳細

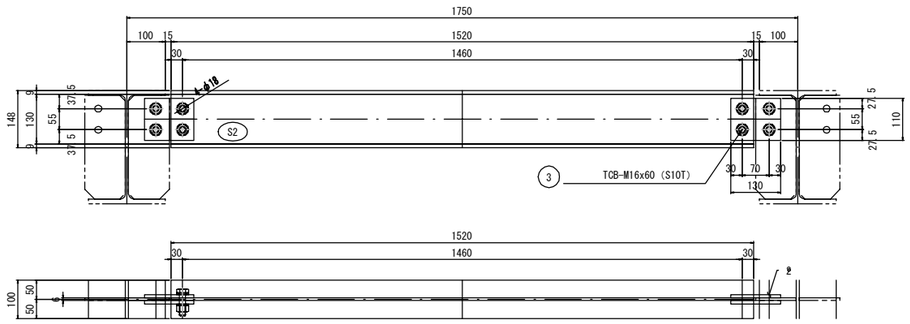


＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
s3	H-150x100x6x9x670	1	SS400
2	SPL-110x9x130	4	SM400A
3	TCB-M16x60	8	S10T

備考
1．数量は1組分を示す。6組分製作、購入のこと。

Ｓ２桁詳細

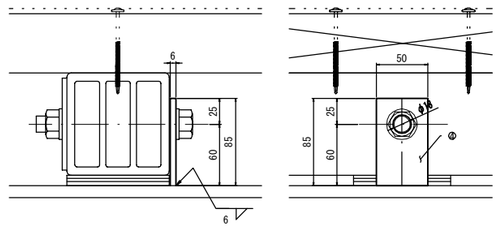


＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
s2	H-150x100x6x9x1520	1	SS400
2	SPL-110x9x130	4	SM400A
3	TCB-M16x60	8	S10T

備考
1．数量は1組分を示す。36組分製作、購入のこと。

根太固定プレート　　Ｓ＝１：６



＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
4	PL-50x6x85	90	SM400A

備考
1．数量はＳ桁取付分全数を示す。
2．固定ボルトナット及びゴム板は床版にて別途計上。

注記
1．根太固定プレート取付位置は、床組組立後に位置調整のこと。

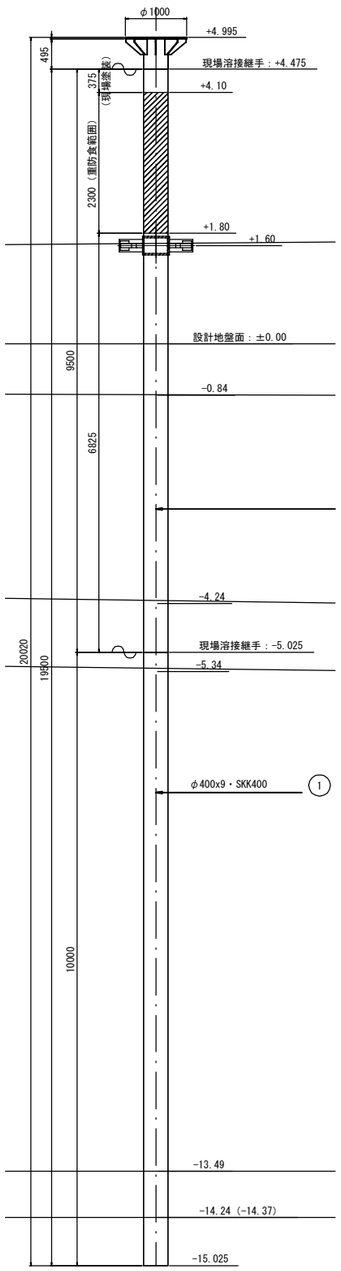
原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	Ｓ桁詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	209
下関市ボートレース企業局			

下部工詳細図　　S＝1：100

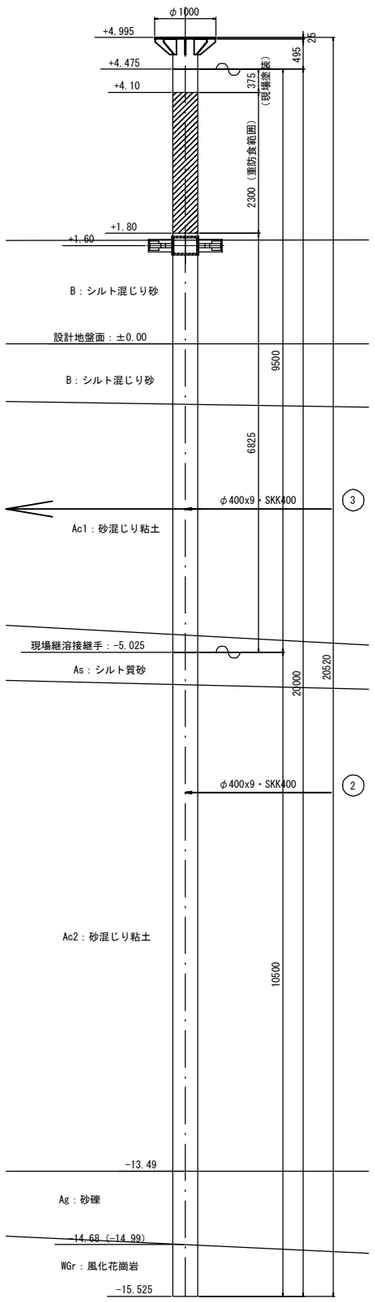
支 持 杭

No. 1～No. 4



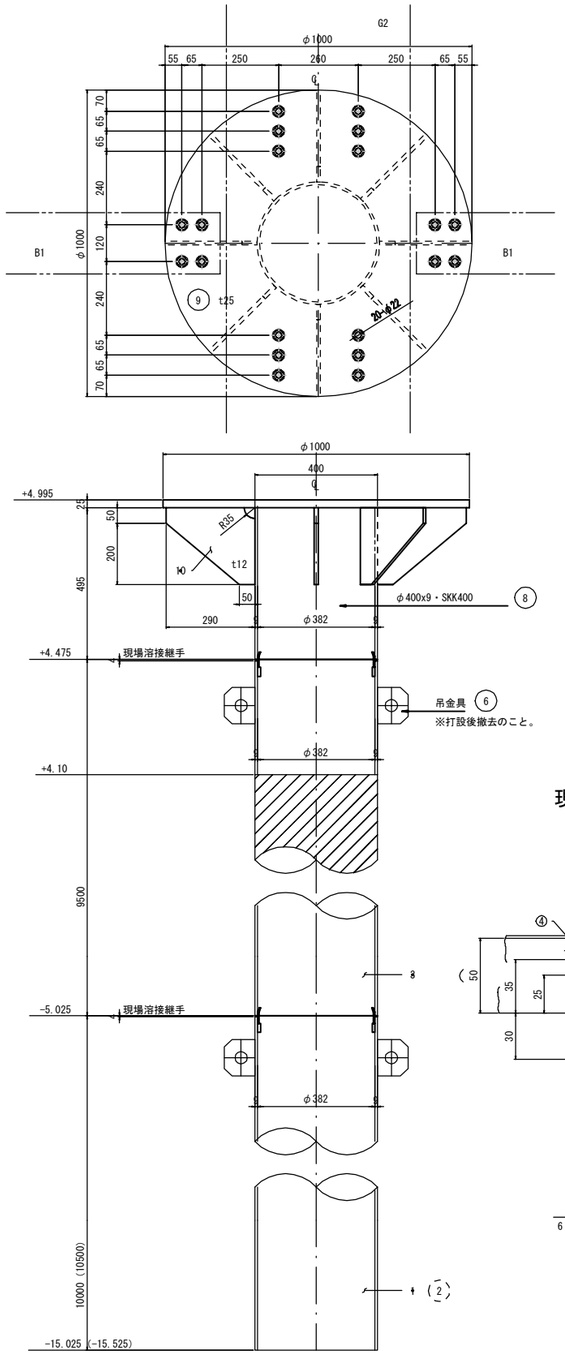
※（ ）内はNo.3、4を示す。

No. 5～No. 8

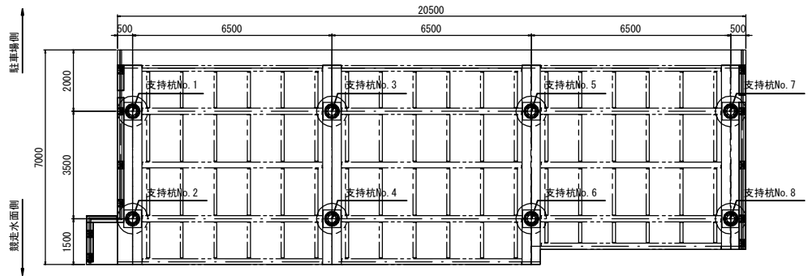


※（ ）内はNo.7、8を示す。

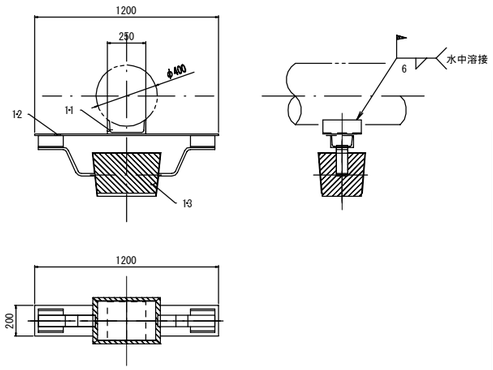
杭頭部詳細　S＝1：20



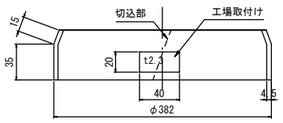
配 置 図　S＝1：200



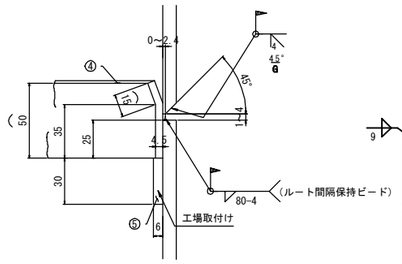
電気防食用陽極　S＝1：40



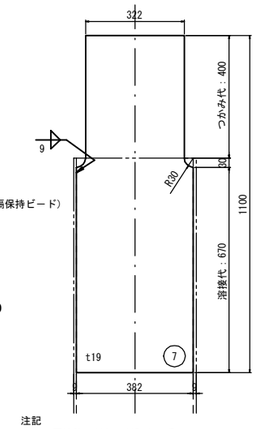
裏当てリングの形状



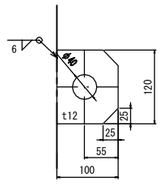
現場溶接継手部詳細　S＝1：4



チャッキングプレート　S＝1：20



吊 金 具　S＝1：10



注記
1．本図はCLに対して対称とする。
2．特記なき溶接は、　6　の連続溶接とする。
3．杭の打設は中心間隔及び倒れに注意して施工のこと。
4．杭頭部はボルト本締め後に現場塗装のこと。
5．杭打設後、高さ調整が必要な場合はライナー等で調整のこと。

＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
支持杭No. 1～No. 4			
1	鋼管杭-φ400x9x10000	4	SKK400
3	鋼管杭-φ400x9x9500	4	SKK400
4	FB-50x4.5x1186	8	SS400
5	FB-25x6x30	32	SS400
6	PL-100x12x120	16	SM490A
7	PL-382x19x1100	8	SS400
8	鋼管杭-φ400x9x495	4	SKK400
9	PL-φ1000x25	4	SM400A
10	PL-250x12x290	32	SM400A
11	C-250x90x9／13x300	2	SS400
12	FB-200 x 12 x 1200	2	SS400
13	電気防食用陽極 耐用年数50年-1.0A	2	アルミ合金
支持杭No. 5～No. 6			
2	鋼管杭-φ400x9x10500	4	SKK400
3	鋼管杭-φ400x9x9500	4	SKK400
4	FB-50x4.5x1186	8	SS400
5	FB-25x6x30	32	SS400
6	PL-100x12x120	16	SM490A
7	PL-382x19x1100	8	SS400
8	鋼管杭-φ400x9x495	4	SKK400
9	PL-φ1000x25	4	SM400A
10	PL-250x12x290	32	SM400A
11	C-250x90x9／13x300	2	SS400
12	FB-200 x 12 x 1200	2	SS400
13	電気防食用陽極 耐用年数50年-1.0A	2	アルミ合金

備考
1．数量は全数を示す。電気防食用陽極は、No.2、4、6、8に取付のこと。
2．杭頭の桁固定ボルトは、別途計上。

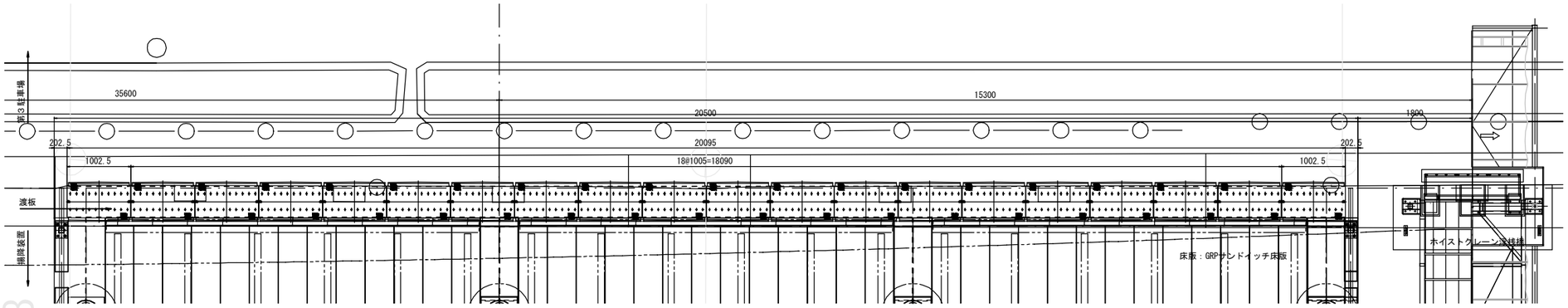
原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	下部工詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	210
下関市ボートレース企業局			

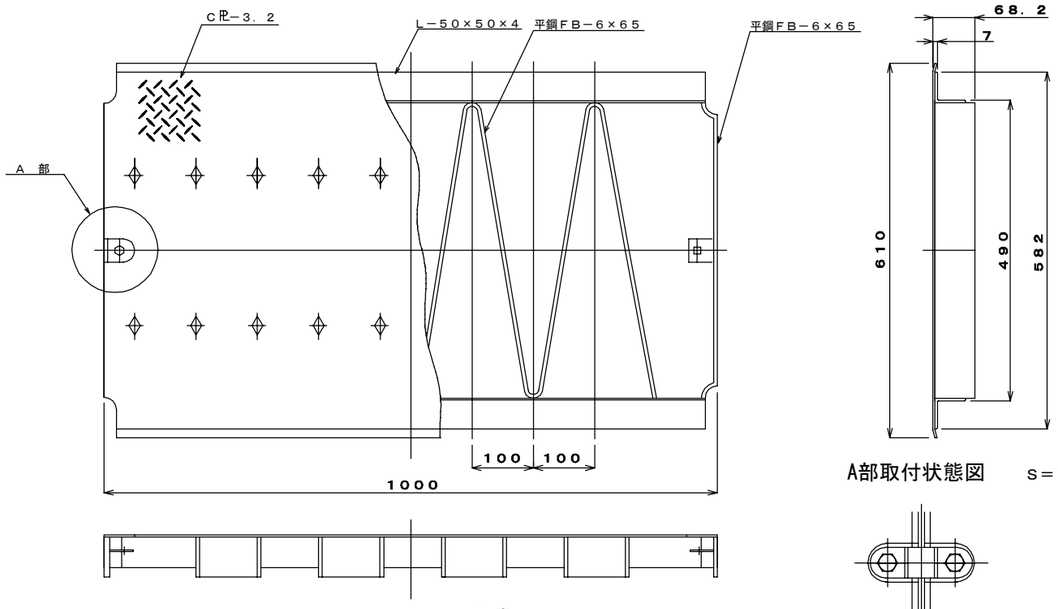
渡板詳細図

参考図

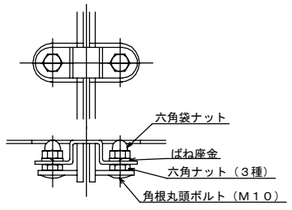
配 置 図　　S＝1：80



渡板詳細　　S＝1：10



A部取付状態図　　S＝1：6



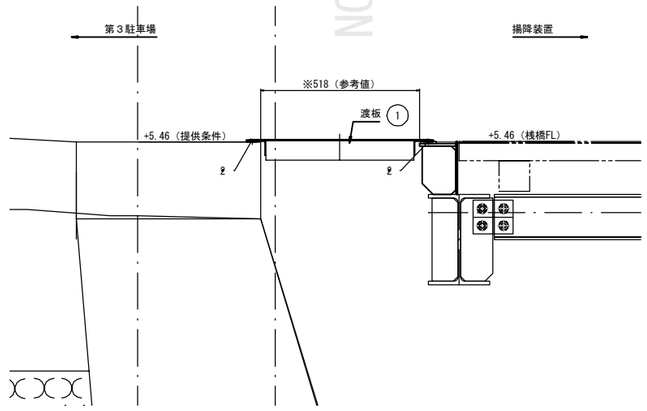
記 事

1．型　　式 ： CM－50

2．表面処理 ： 亜鉛メッキ

3．荷重条件 ： T－6

取付要領　　S＝1：20



＜材料表＞

番号	規格	数量	材質
1	トレンチカバーCM-50相当品	20	SS400・めっき
2	テープ付きゴム　33xt2x1000	40	ゴム

備考
1．数量は全数を示す。

注記
1．既設護岸に不陸、法線の出入りがある場合は、不陸整正のこと。

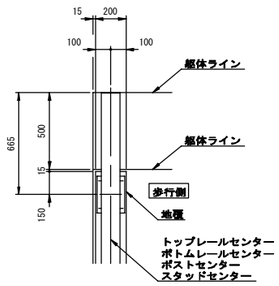
原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	渡板詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	211
下関市ボートレース企業局			

転落防止柵詳細図（その１）

参考図

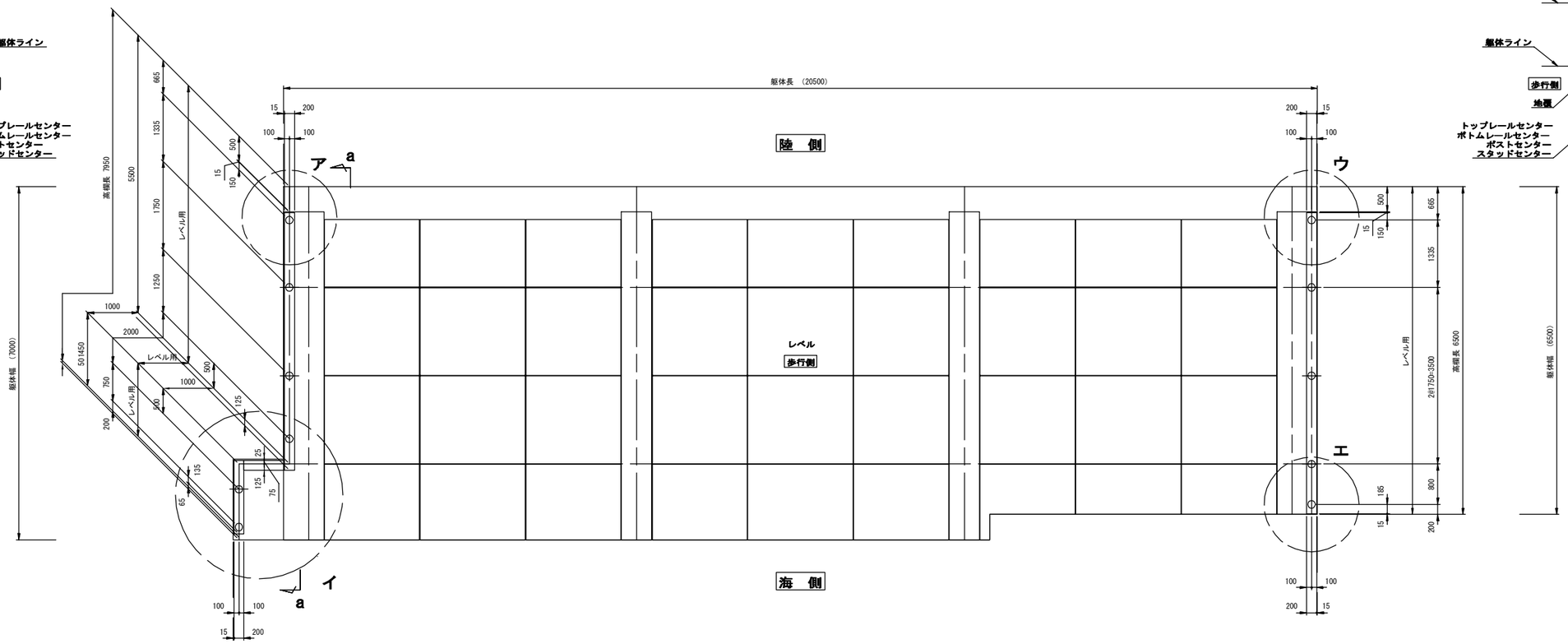
ア部詳細図　S=1/40



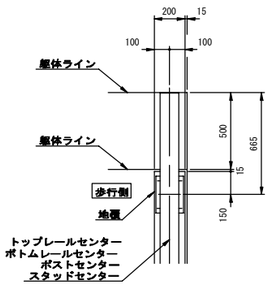
平　面　図　S=1/100

注記　1. 記入寸法はスタッドーセンター押さえとし、実長で示す。
2. （　）内寸法は水平長を示す。
3. 図中 ○ 印はポスト取付位置を示し、Φ 印はトップレール材線手部を示す。

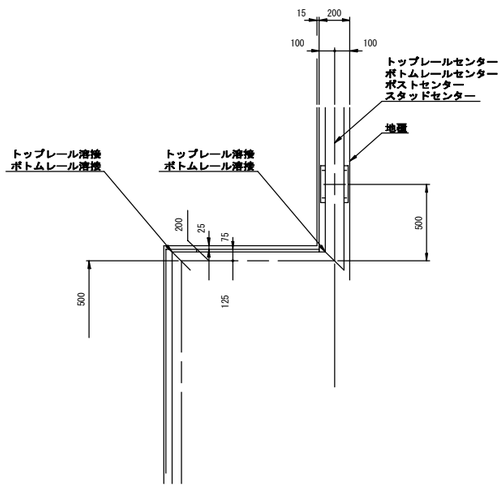
高柵総延長	14M450
内訳	
レベル用	14M450



ウ部詳細図　S=1/40

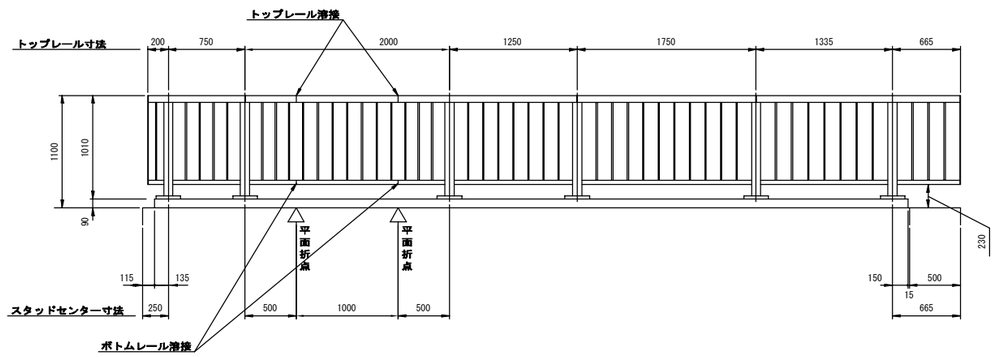


イ部詳細図　S=1/40

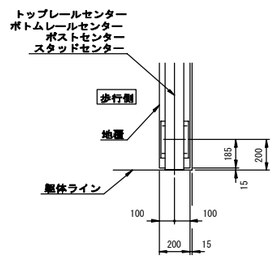


姿　図　S=1/60

a−a



工部詳細図　S=1/40



原図:A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	転落防止柵詳細図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	212
下関市ポートレース企業局			

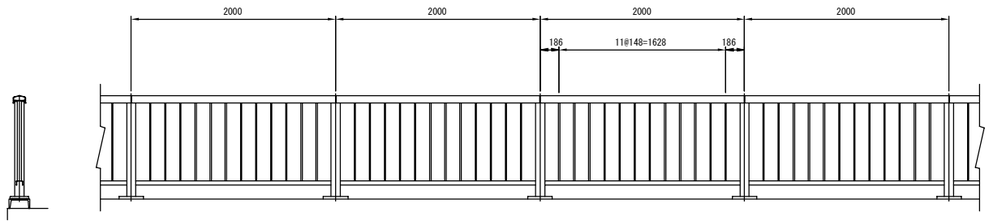
転落防止柵詳細図（その２）

参考図

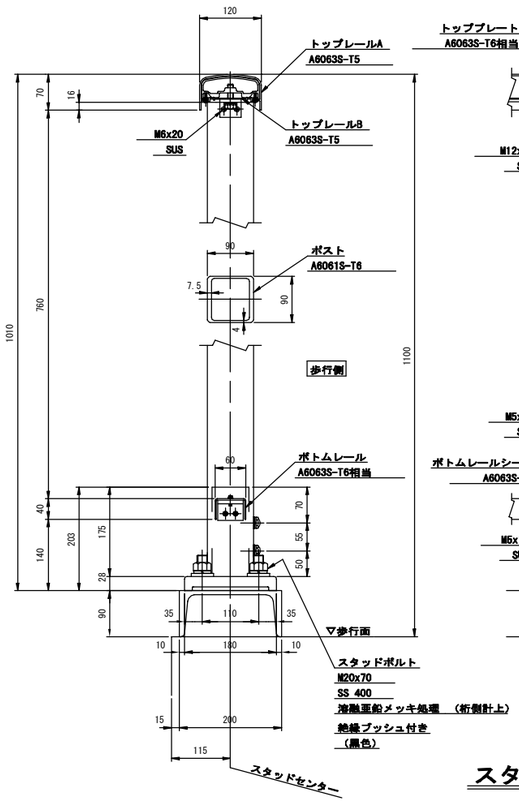
材　料　表

部番	名称	寸法	数量	単重	1本当	総重量	材質	備考
1	トップレールA	1995.0	10	2.055	4.10	41.0	A6063S-T5	
2	トップレールB	1995.0	10	0.791	1.58	15.8	A6063S-T5	
3	トップレールスリーブ	200.0	10	3.251	0.65	6.5	A6063S-T5	
4	ポスト	928.0	10	5.289	4.91	49.1	A6061S-T6	
5	ボトムレール	1902.0	10	0.824	1.57	15.7	A6063S-T6相当	
6	バラスター	782.0	150	0.362	0.28	42.0	A6063S-T5	
7	トッププレート	42.0	10	4.708	0.20	2.0	A6063S-T6相当	
8	ボトムレールシート	50.0	20	1.171	0.06	1.2	A6063S-T5	
9	六角ボルト	M12x40	20		0.06	1.2	SUS	W1,SW1
10	十字穴付き六角ボルト	M5x16	20		0.004	0.1	SUS	W1,SW1
11	トラスタッピンネジ	M5x16	40		0.003	0.1	SUS	
12	なべタッピンネジ	M6x20	40		0.006	0.2	SUS	
13	トラスタッピンネジ	M4x16	60		0.002	0.1	SUS	
14	なべタッピンネジ（2種）	M4x20	600		0.002	1.2	SUS	
15	アルミベース		10		4.86	48.6	A6061S-T6	
16	甲丸ボルト	M12x30	20		0.05	1.0	SUS	W1,SW1
17	絶縁ブッシュ	M20用	40		-	-	塩化ビニール	
					総重量	225.8	Kg/10M	
					M当り	22.6	Kg/M（端部除く）	

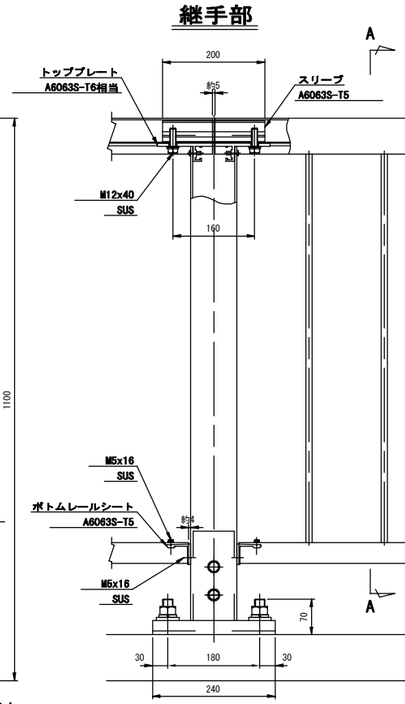
姿　図　S=1/60



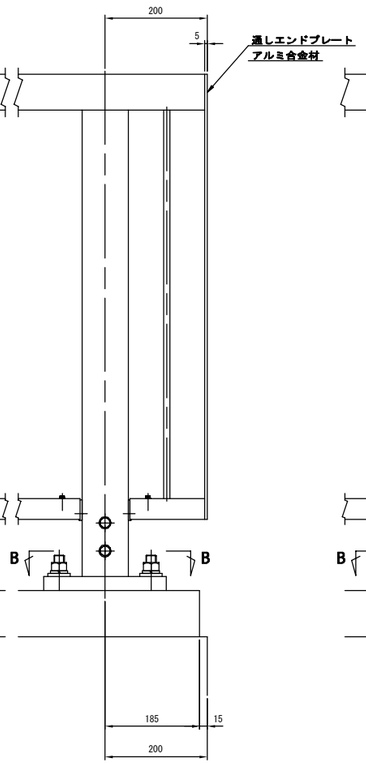
高欄取付詳細図　S=1/12



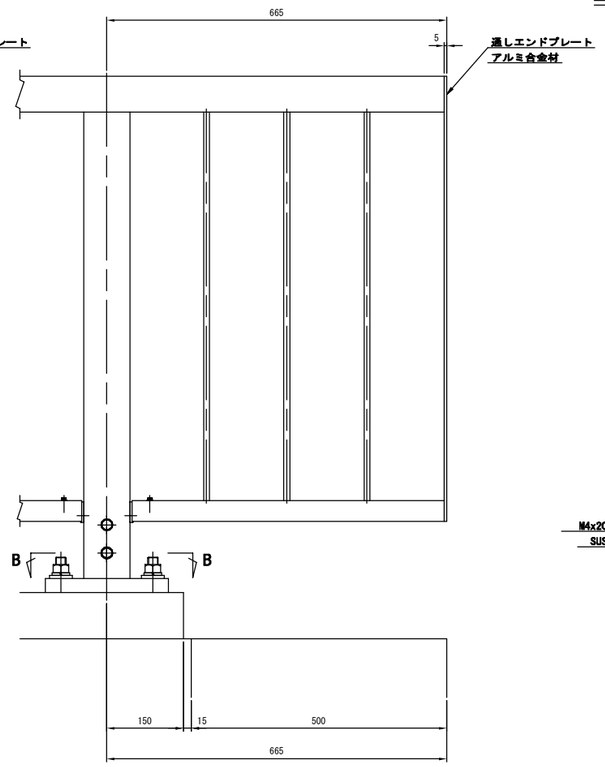
継手部



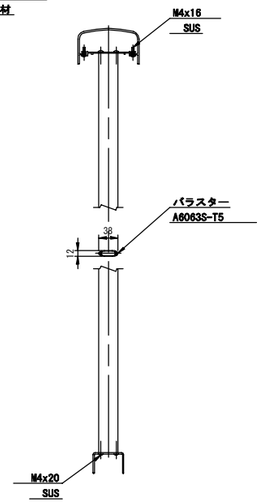
端　部　（１）



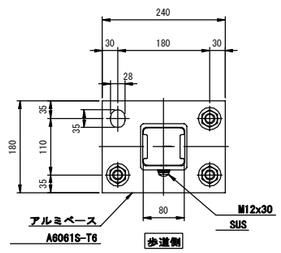
端　部　（２）



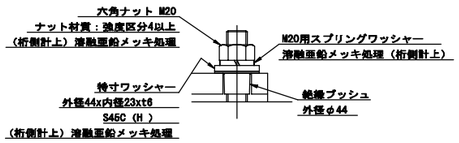
断面A-A



断面B-B



スタッドナット締め付け部　S=1/6



注記

1. 本高欄の設計・製作仕様は（社）日本アルミニウム協会　土木製品開発委員会作成
   「アルミニウム合金製橋梁用防護柵設計要領」（平成30年6月）による。
   「アルミニウム合金製橋梁用防護柵製作・施工要領」（平成27年3月）による。
2. 本高欄の表面処理は、アルマイト（シルバー色）仕上げとする。
   アルミベースポストのサヤ管部の表面処理は生地とする。
3. 強度区分の表記なきボルト類はA2-50以上とする。ただし、ビス類はA2とする。
4. ボルト・ビス類のSUS部材は、塩害対策処理を施す事。

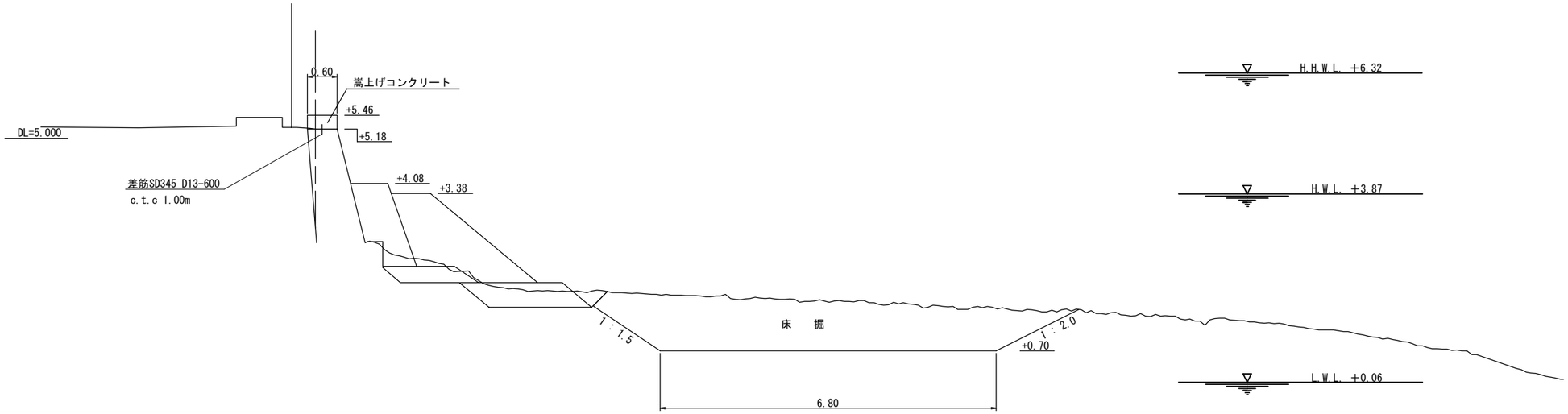
原図:A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	転落防止柵詳細図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	213
下関市ボートレース企業局			

標準断面図

S = 1 / 100 u : m

NO.9

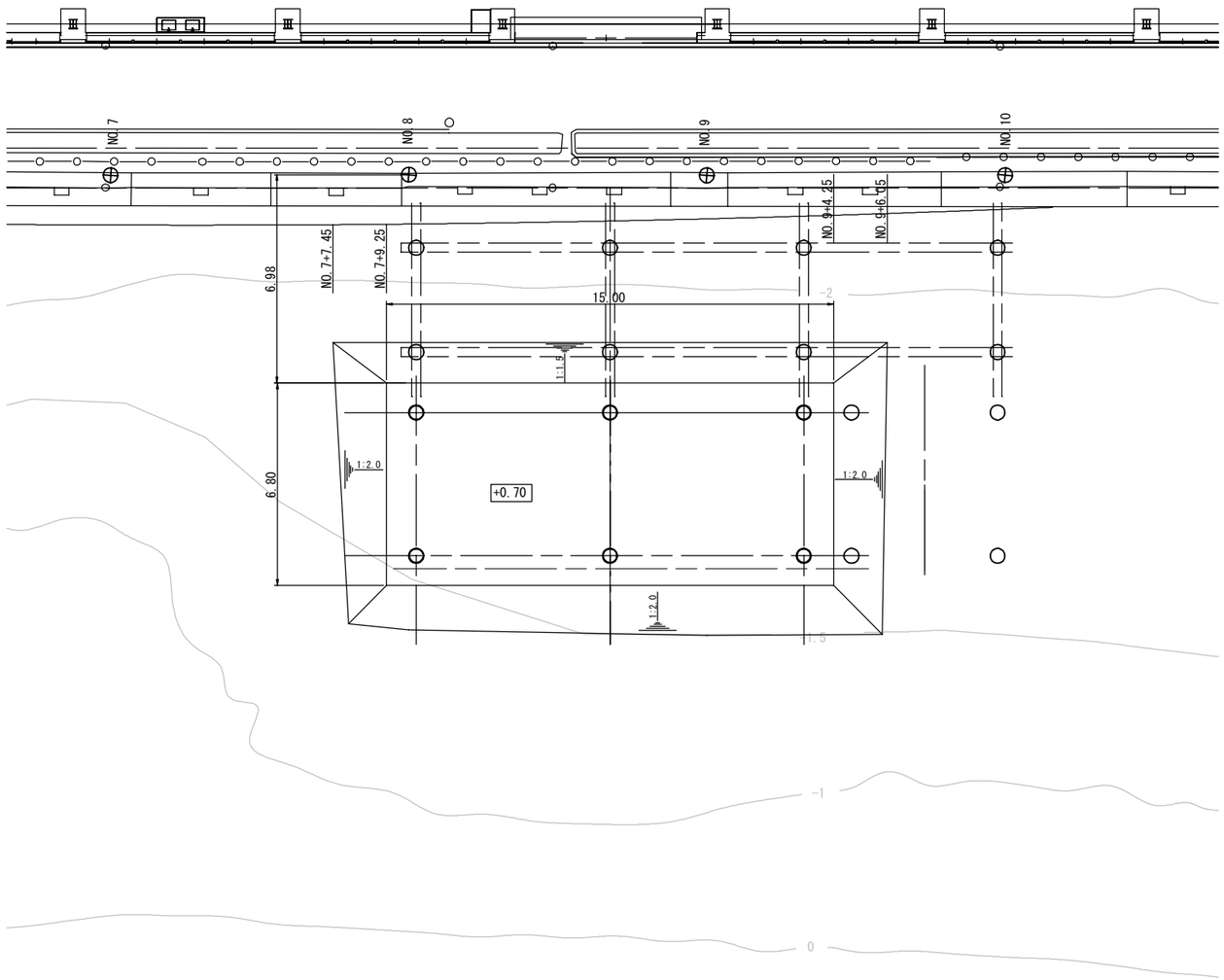


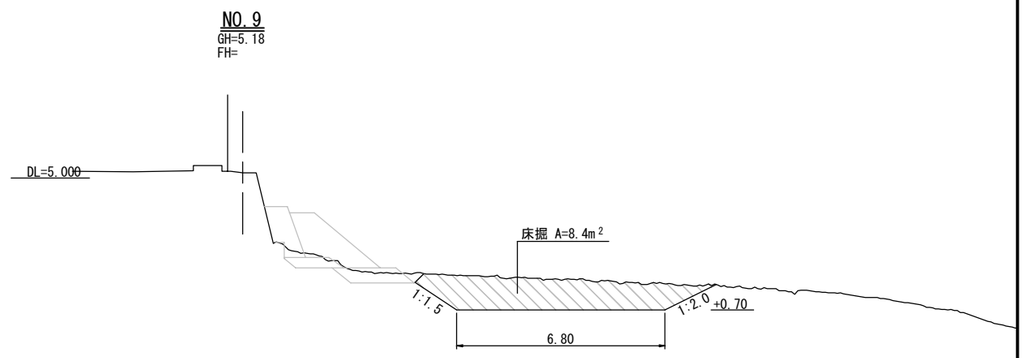
原図:A3、単位：m

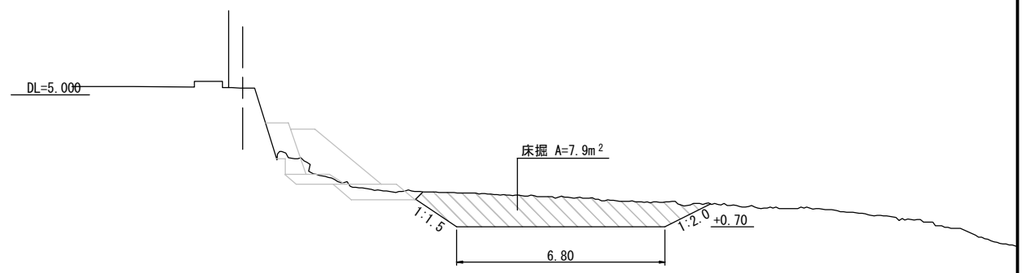
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	標準断面図		
縮　尺	1/100	図面番号	214
下関市ボートレース企業局			

床 掘 詳 細 図 S = 1 / 200 u : m

平 面 図





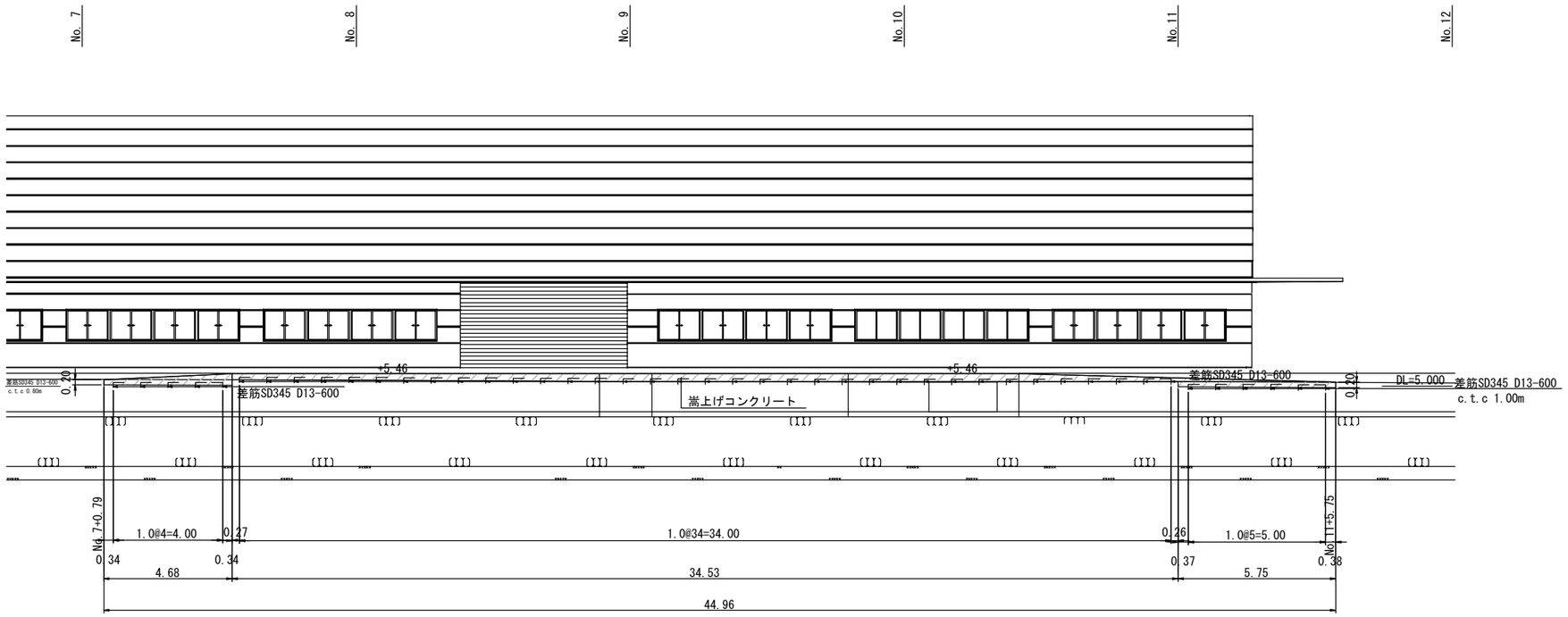


原図:A3、単位：m

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	床掘詳細図		
縮　尺	1/200	図面番号	215
下関市ボートレース企業局			

嵩上げ部詳細図 S = 1 / 200 u : m

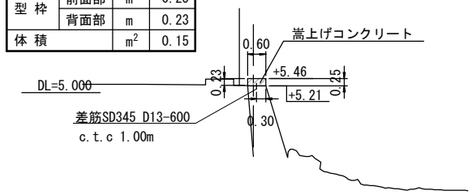
正 面 図



NO. 8

GH=5.22
FH=

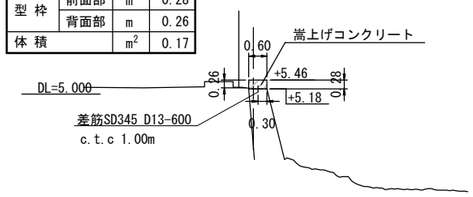
名 称		単位	数 量
チッピング		m	0.6
型 枠	前面部	m	0.25
	背面部	m	0.23
体 積		m^2	0.15



NO. 9

GH=5.18
FH=

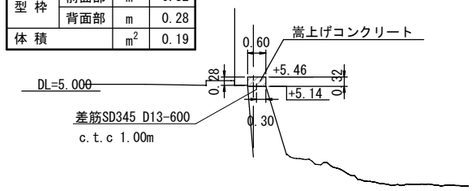
名 称		単位	数 量
チッピング		m	0.6
型 枠	前面部	m	0.28
	背面部	m	0.26
体 積		m^2	0.17



NO. 10

GH=5.15
FH=

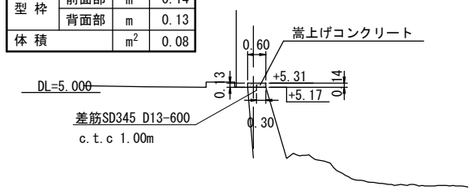
名 称		単位	数 量
チッピング		m	0.6
型 枠	前面部	m	0.32
	背面部	m	0.28
体 積		m^2	0.19



NO. 11

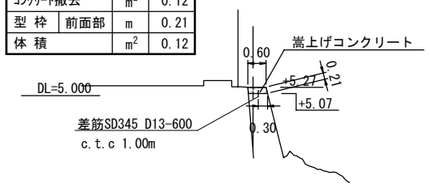
GH=5.18
FH=

名 称		単位	数 量
チッピング		m	0.6
型 枠	前面部	m	0.14
	背面部	m	0.13
体 積		m^2	0.08



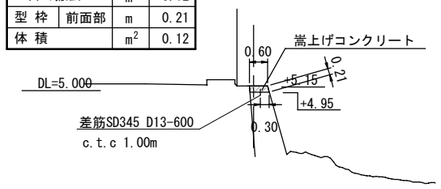
NO. 7+0. 79

名 称		単位	数 量
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去		m^2	0.12
型 枠	前面部	m	0.21
体 積		m^2	0.12



NO. 11+5. 75

名 称		単位	数 量
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去		m^2	0.12
型 枠	前面部	m	0.21
体 積		m^2	0.12

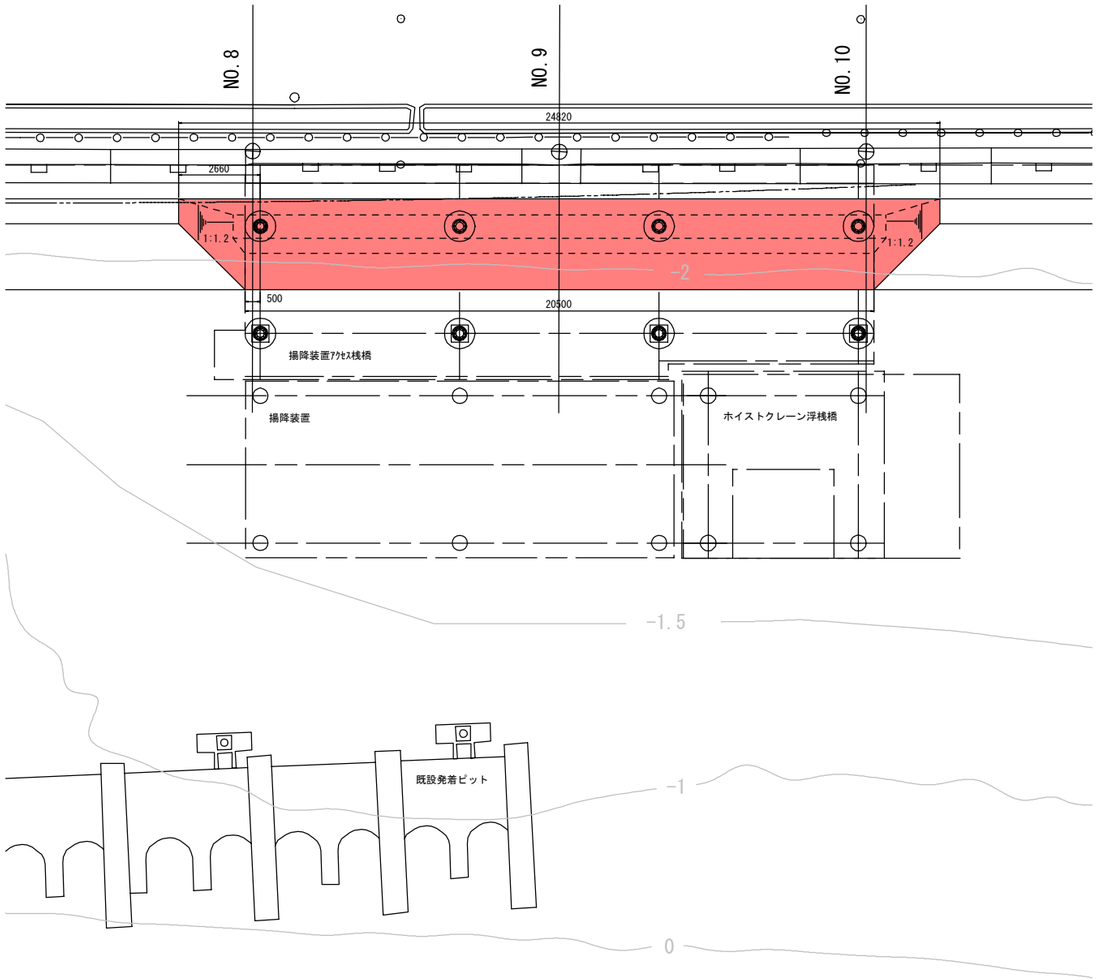


原図:A3、単位：m

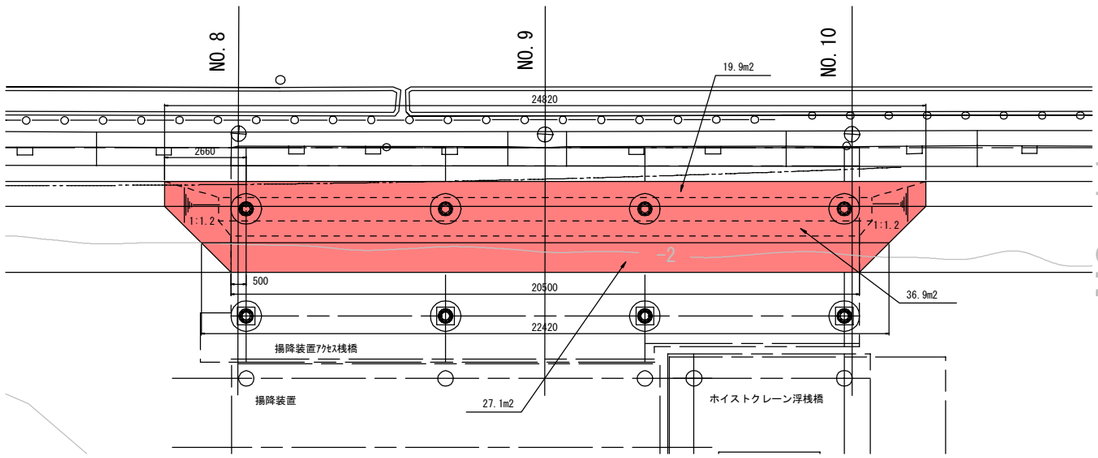
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	嵩上げ部詳細図		
縮 尺	1/200	図面番号	216
下関市ボートレース企業局			

被覆石詳細図

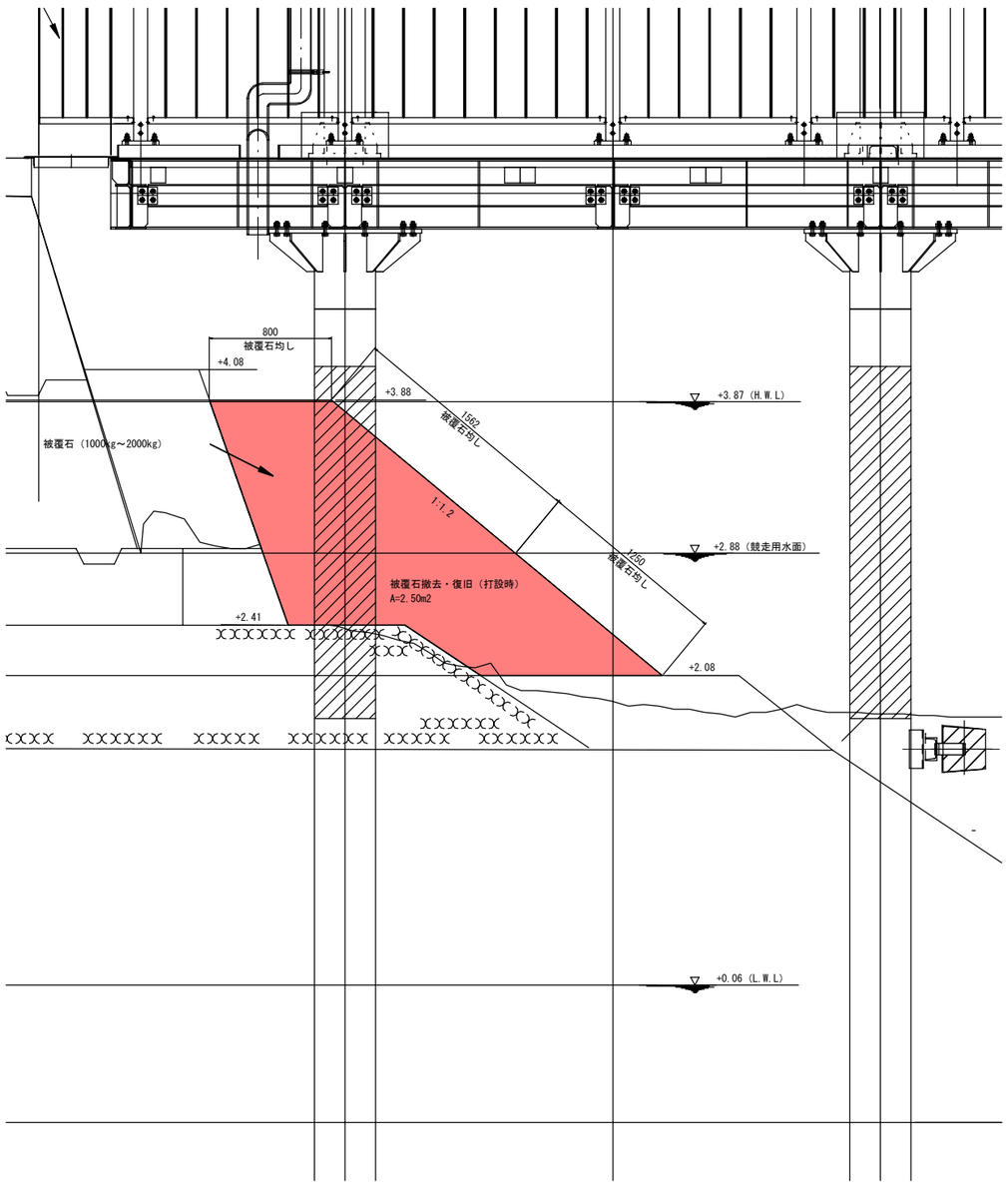
撤去平面図　S＝1：200



復旧平面図　S＝1：200



側面図　S＝1：40



NO. 11

被覆石均し（±50cm）
陸上　　=19.9
陸上　斜距離　=36.9
56.8㎥

水中　斜距離　=27.1
=27.1㎥

原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	被覆石詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	217
下関市ボートレース企業局			

鉄骨構造標準図（１）

１．一般事項

（１）材料及び検査

(a)構造設計仕様による
（ｂ）適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが４０mm以下のものとする
（ｃ）社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

（２）工作一般

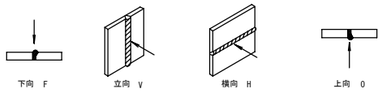
(a)鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事管理者の承認を得る
（ｂ）鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
（ｃ）高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（３）高力ボルト接合

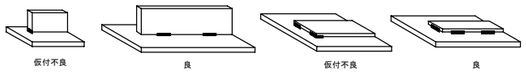
(a)本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

（４）溶接接合

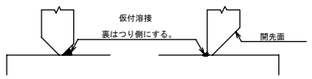
(a)溶接技術者
溶接技術者は施工する溶接に適応するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
（ｂ）溶接機器
（イ）交流アーク溶接機　300A～500A
（ロ）アークエアーガウンジング機（直流）
（ハ）サブマージアーク溶接機一式
（ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ホ）溶接電流を測定する電流計
（ヘ）溶接棒乾燥器
（ｃ）溶接方法
アーク手溶接（MC）
セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（NGC）
ガスシールドアーク半自動溶接（GC）
アークエアーガウンジング（AAG）
（ｄ）溶接姿勢



(e)組立て溶接技術者は、原則として本工事に従事する者が行う
（イ）仮付位置
仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



（ロ)突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



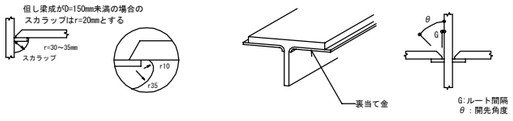
(f)溶接施工

（イ)エンドタブ
Ⅰ）突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
Ⅱ）エンドタブの材質は、母材と同質とする
Ⅲ）エンドタブの長さは、MC：35mm以上
NGC,GC：４０mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より１０mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
Ⅳ）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承諾を得る

（ロ）裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で６mm、
半自動溶接で９mm以上とする

（ハ）スカラップ半径は３０～３５mmと、10mmのダブルアールとする

（ニ）ノンスカラップ工法



（ホ）裏はつり
規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける

（ヘ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う。

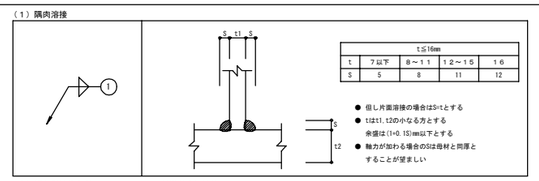
（５）塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接規準図

注）f:余盛　G：ルート　R：フェース　S：脚長（単位mm）

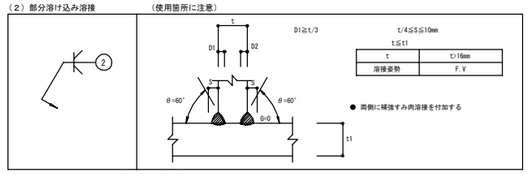
（１）隅肉溶接



	t≦16mm			
t	7以下	8～11	12～15	16
S	5	8	11	12

● 但し片面溶接の場合はS=tとする
● t≦11,12の小なる方とする
余盛は:f=0.15mm以下とする
● 軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

（２）部分溶け込み溶接　（使用箇所に注意）

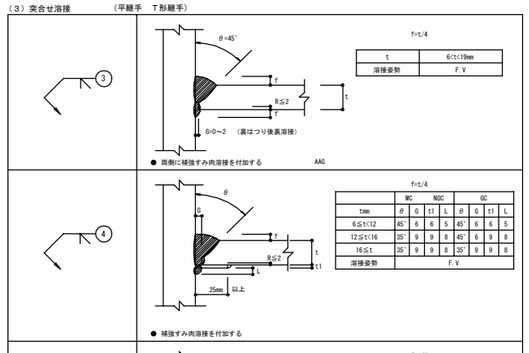


D1≧t/3　t/4≦S≦10mm　t≦t1

t	t>16mm
溶接姿勢	F.V

● 両側に補強すみ肉溶接を付加する

（３）突合せ溶接　（平継手　T形継手）



f=t/4

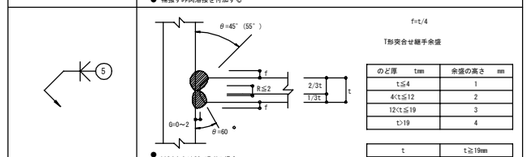
t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

● 両側に補強すみ肉溶接を付加する　AAG

f=t/4

	MC	NGC			GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

● 補強すみ肉溶接を付加する



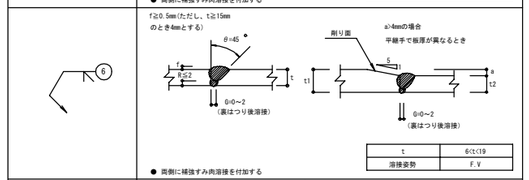
f=t/4

T形突合せ継手余盛

のど厚　tmm	余盛の高さ　mm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
t>19	4

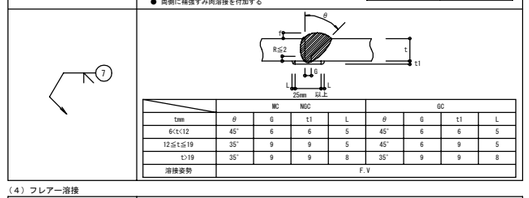
t	t≧19mm
溶接姿勢	F.V

● AAG(　)内はGC可F,Hの場合
● 両側に補強すみ肉溶接を付加する



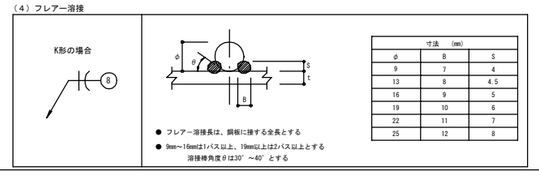
t	6<t<19
溶接姿勢	F.V

● 両側に補強すみ肉溶接を付加する



	MC	NGC			GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
t>19	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

（４）フレアー溶接

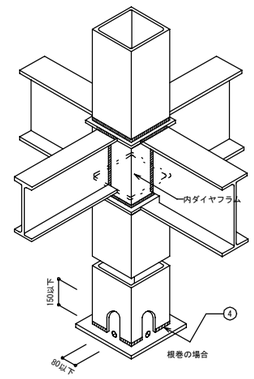


	寸法　(mm)	
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

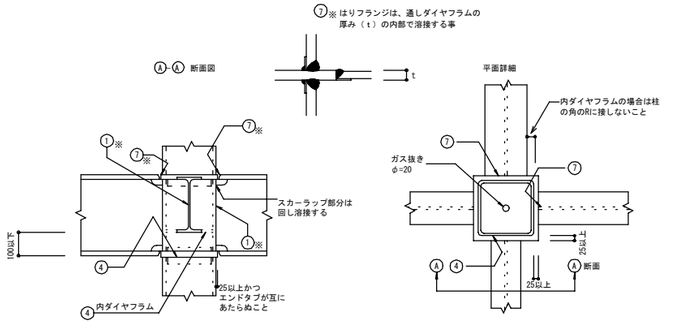
● フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
● 9mm～16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
溶接棒角度θは30°～40°とする

●溶接記号番号を○中に記入のこと

●ＢＯＸ型（通しダイヤフラムの場合）



①※ t>16mmの場合の溶接は　③～⑤とする



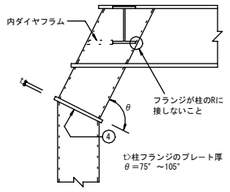
①※ t>16mmの場合の溶接は　③～⑤とする

＜柱材料：BCR295,BCP325を使用する場合＞
ダイヤフラムは、SN490C同等以上の鋼材を使用する事。
ダイヤフラム厚は、接合する柱、梁の最大厚の2サイズアップとする事。

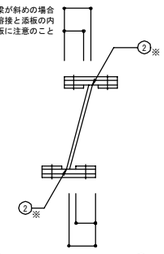
●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種別	溶接材料	入熱（KJ/cm）	パス温度差（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211,3212,3214	40以下	350以下
	YGW-11,15		
	YGW-18,19		
	YGA-50M,50P		
490N級鋼	JIS Z 3212,3214	40以下	350以下
	YGW-11,15	30以下	250以下
	YGW-18,19	40以下	350以下
	YGA-50M,50P		

●柱が途中で折れる場合及梁成が異なる場合

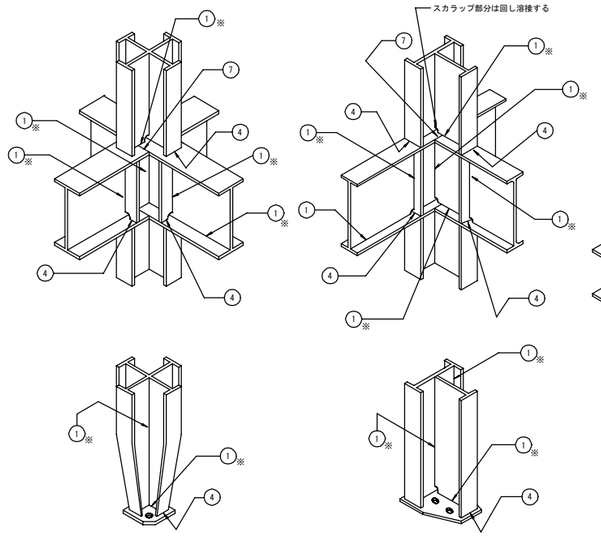


大梁が斜めの場合は溶接と添板の内側板に注意のこと



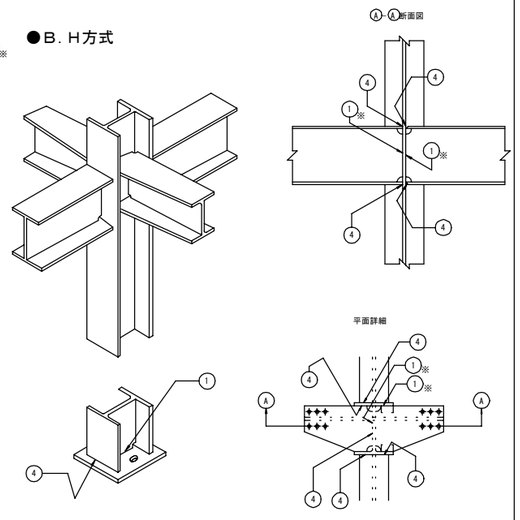
②※ t>16mmの場合の溶接は　③～⑤とする

●十、Ｉ、Ｈ型



①※ t>16mmの場合の溶接は　③～⑤とする

●Ｂ．Ｈ方式



①※ t>16mmの場合の溶接は　③～⑤とする

原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨構造標準図（その１）		
縮　尺	－	図面番号	218
下関市ボートレース企業局			

鉄骨構造標準図（２）

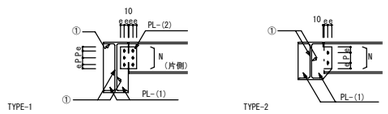
３．継ぎ手規準図、その他

（１）ボルトピッチ（Ｐ）　　ボルト穴径・最小縁端距離　　(mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離（e）				ピッチ（P）	
		（１）	（２）	（３）	(2)(3)の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	30	45	60	70

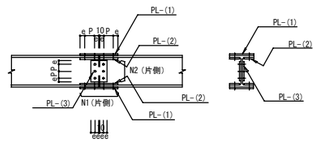
〔注〕(1)引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2)せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3)圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（２）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
本図による					

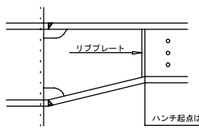
（３）剛接合継手リスト



注）端部をＢＨとする場合の部材は設計図による

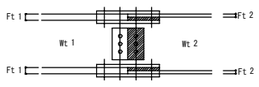
符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
本図による						

（４）ハンチ部の継ぎ手



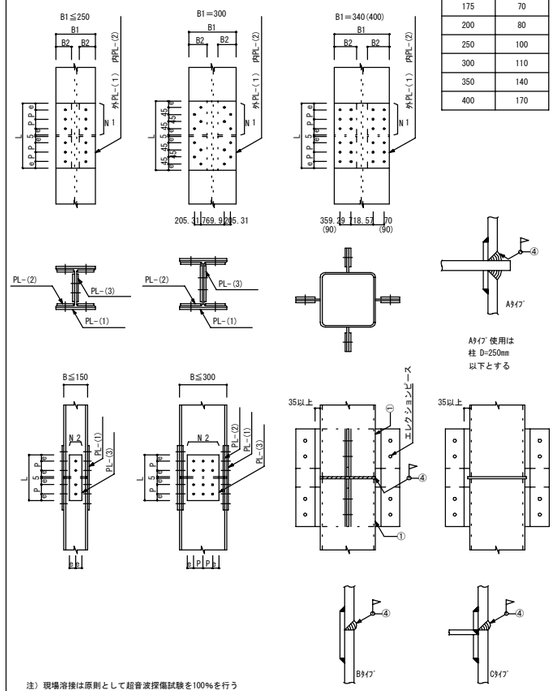
ハンチ勾配は普通 1:4 程度であるが構造図による

フランジ及ウェブ厚の差のある場合



Ft -Ft 2 ≧1mmフィラプレート併用のこと
Wt -Wt 2

（５）柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
本図による						

（６）鉄筋ブレース　　（ＪＩＳ規格品とする…ＪＩＳＡ5540…1982/5541,5542…1993）

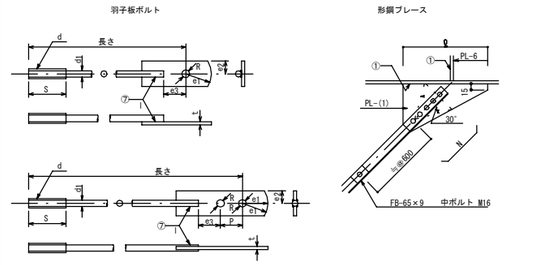
（ａ）羽子板ボルト

ねじの呼び（d）			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d_1	最大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差+0,-0.5mm		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小）	(2)	e_1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小） (1)	e_2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小） (1)	e_2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき（最小）		e_3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小）		l	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト (2)	種類		JIS B 1186 2種高力ボルト（F10T）又は JIS B 1180 中 8g 10.9						
	ねじの呼び		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

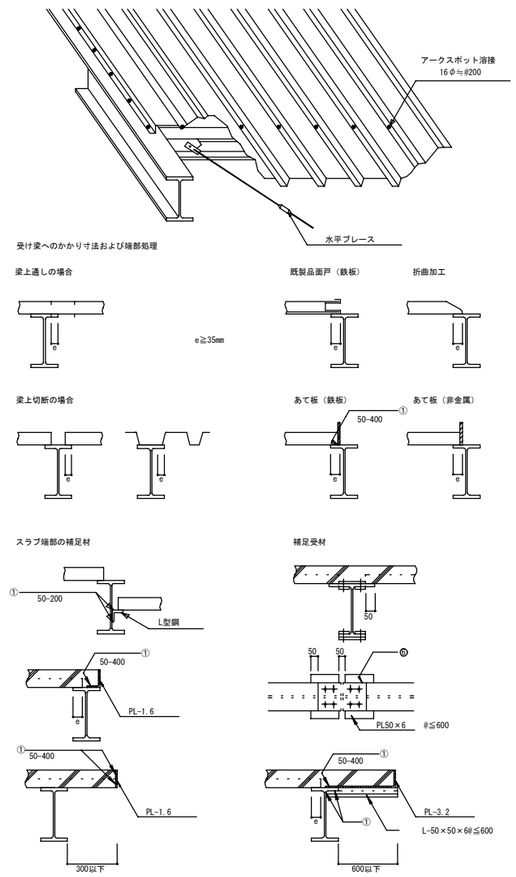
注 (1) e　1, e 2 が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

（ｂ）形鋼ブレース

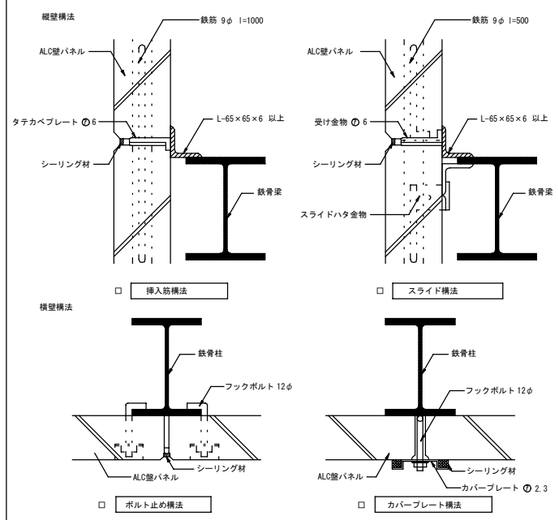
符号	部材	PL-(1)	N-径	l
本図による				



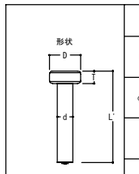
（７）デッキプレート　　（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）
梁との溶接およびコネクター



（８）ＡＬＣ板取付要領



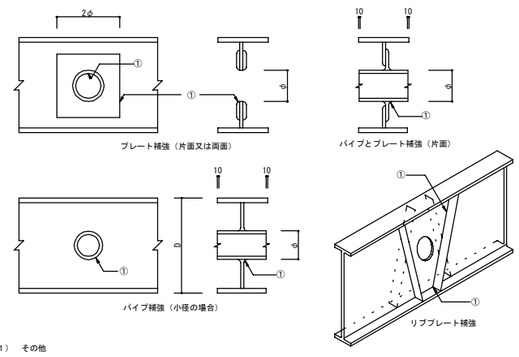
（９）頭付きスタッド（ＪＩＳ 1198）
スタッド材の標準形状・寸法



スタッド材				
呼び名	軸径 d mm	頭径D mm	頭高さT mm	溶接後の長さL mm
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50, 80, 100, 130
φ16 mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80, 100, 130
φ19 mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80, 100, 130, 150
φ22 mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100, 130, 150

（１０）梁貫通補強

- ●計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い
- ●梁端部（スパンのｌ/10以内かつ2D以内）は避ける
- ●φ≦0.4D



（１１）　その他

原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨構造標準図（その２）		
縮尺	－	図面番号	219
下関市ボートレース企業局			

鉄骨構造標準図

共通事項

適用範囲

・本図は鉄骨構造及び鉄骨鉄筋コンクリート構造の鉄骨についての基準を示す。

・構造設計図に示す事項の他は本基準による。

・使用材料の範囲：鉄骨SN400APLB(SS400)，SN490B(SM490)，高力ボルトS10T
　SN400(SS400)，SN490C(SM490)で接合する場合，SN400(SS400)材質でジョイントを決定する。

・添え板(SPL)の材質は全て主材と同じとする。
　2枚の板を挟んで接合される場合，板厚の差が1mmを超える場合は
　フィラプレートを挿入する。

・接合部で接合される相手方の材が弱い場合は，弱い方の材でジョイントを決定する。

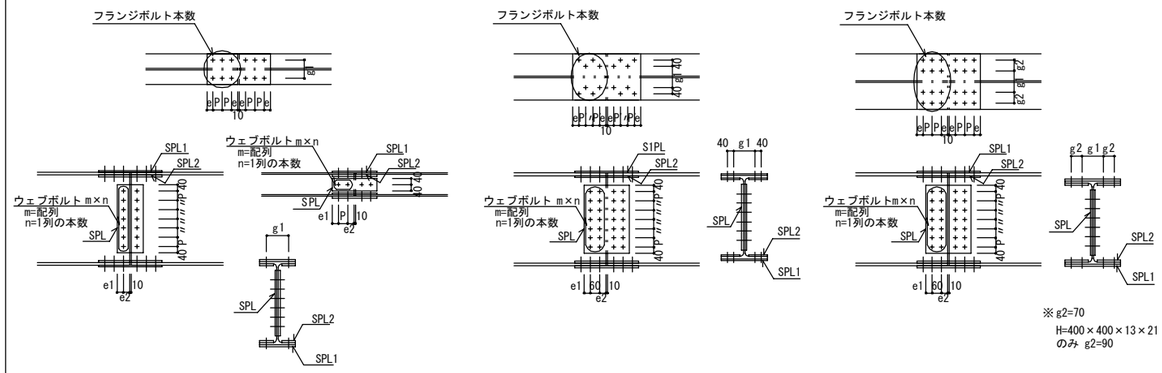
ゲージ(g1)

ﾌﾗﾝｼﾞ幅	g1	ﾌﾗﾝｼﾞ幅	g1
100	56	250	150
125	75	300	150
150	90	350	140
175	105	400	140
200	120		

フランジボルトのピッチ，はしあき

ボルト径 d	ピッチ p(p')	はしあき e
M16	60	40
M20	60(45)	40
M22	60(45)	40

(H) H型鋼梁継手



SN400B(SS400) 部材	ボルト径	フランジ 本数 n	フランジ添板SPL1 / フランジ添板SPL2	ウェブ 配列 m×n	P	e1	e2	ウェブ添板SPL	備考
H-200×100×5.5×8	M16	4	SPL1-16×100×290 / —	1×2	60	40	40	2PLs- 6×170×140	
H-248×124×5×8	M16	6	SPL1-12×124×410 / —	2×2	90	40	40	2PLs- 6×290×170	
H-250×125×6×9	M16	4	SPL1-12×125×410 / —	2×2	90	40	40	2PLs- 6×290×170	
H-298×149×5.5×8	M16	4	SPL1- 9×149×290 / SPL2- 9× 60×290	1×3	60	40	40	2PLs- 6×170×200	
H-300×150×6.5×9	M20	4	SPL1- 9×150×290 / SPL2- 9× 60×290	1×3	60	40	40	2PLs- 6×170×200	
H-346×174×6×9	M20	4	SPL1- 9×174×290 / SPL2- 9× 70×290	1×3	90	40	40	2PLs- 6×170×260	
H-350×175×7×11	M20	4	SPL1- 9×175×290 / SPL2- 9× 70×290	1×3	90	40	40	2PLs- 6×170×260	
H-396×199×7×11	M20	6	SPL1- 9×199×410 / SPL2- 9× 80×410	1×4	60	40	40	2PLs- 9×170×260	
H-400×200×8×13	M20	6	SPL1- 9×200×410 / SPL2- 9× 80×410	1×4	60	40	40	2PLs- 9×170×260	
H-446×199×8×12	M20	6	SPL1-12×199×410 / SPL2-12× 80×410	1×5	60	40	40	2PLs- 9×170×320	
H-450×200×9×14	M20	6	SPL1-12×200×410 / SPL2-12× 80×410	1×5	60	40	40	2PLs- 9×170×320	
H-496×199×9×14	M20	6	SPL1-12×199×410 / SPL2-12× 80×410	1×5	60	40	40	2PLs- 9×170×320	
H-500×200×10×16	M20	6	SPL1-12×200×410 / SPL2-12× 80×410	1×5	60	40	40	2PLs- 9×170×320	
H-596×199×10×15	M20	6	SPL1-12×199×410 / SPL2-12× 80×410	2×4	120	40	40	2PLs- 9×290×440	
H-600×200×11×17	M20	6	SPL1-12×200×410 / SPL2-12× 80×410	2×4	120	40	40	2PLs- 9×290×440	

SN400B(SS400) 部材	ボルト径	フランジ 本数 n	フランジ添板SPL1 / フランジ添板SPL2	ウェブ 配列 m×n	P	e1	e2	ウェブ添板SPL	備考
H-148×100×6×9	M16	4	SPL1-16×100×290 / —	2×1	60	40	40	2PLs- 6×290× 80	ウェブ横打ち
H-194×150×6×9		4	SPL1- 9×150×290 / SPL2- 9× 60×290	1×2	60	40	40	2PLs- 6×170×140	
H-244×175×7×11	M20	4	SPL1- 9×175×290 / SPL2- 9× 70×290	1×2	60	40	40	2PLs- 9×170×140	
H-294×200×8×12		6	SPL1- 9×200×410 / SPL2- 9× 80×410	1×3	60	40	40	2PLs- 9×170×200	
H-340×250×9×14		6	SPL1-12×200×410 / SPL2-12×100×410	1×3	60	40	40	2PLs- 9×170×200	
H-390×300×10×16		6	SPL1-12×300×350 / SPL2-12×110×350	1×3	90	40	40	2PLs- 9×170×260	フランジ千鳥打ち
H-440×300×11×18		8	SPL1-12×300×440 / SPL2-12×110×440	1×5	60	40	40	2PLs- 9×170×320	フランジ千鳥打ち
H-482×300×11×15		8	SPL1-12×300×440 / SPL2-12×110×440	1×5	60	40	40	2PLs-12×170×320	フランジ千鳥打ち
H-488×300×11×18		8	SPL1-12×300×440 / SPL2-12×110×440	1×5	60	40	40	2PLs-12×170×320	フランジ千鳥打ち
H-582×300×12×17	M22	8	SPL1-12×300×440 / SPL2-16×110×440	1×7	60	40	40	2PLs- 9×170×440	フランジ千鳥打ち
H-588×300×12×20		8	SPL1-12×300×440 / SPL2-16×110×440	1×7	60	40	40	2PLs- 9×170×440	フランジ千鳥打ち
H-692×300×13×20		10	SPL1-19×300×530 / SPL2-19×110×530	1×9	60	40	40	2PLs- 9×170×560	フランジ千鳥打ち
H-700×300×13×24		10	SPL1-19×300×530 / SPL2-19×110×530	1×9	60	40	40	2PLs- 9×170×560	フランジ千鳥打ち
H-800×300×14×26		10	SPL1-19×300×530 / SPL2-19×110×530	1×10	60	40	40	2PLs-12×170×620	フランジ千鳥打ち
H-900×300×16×28		12	SPL1-19×300×620 / SPL2-22×110×620	1×12	60	40	40	2PLs-12×170×740	フランジ千鳥打ち

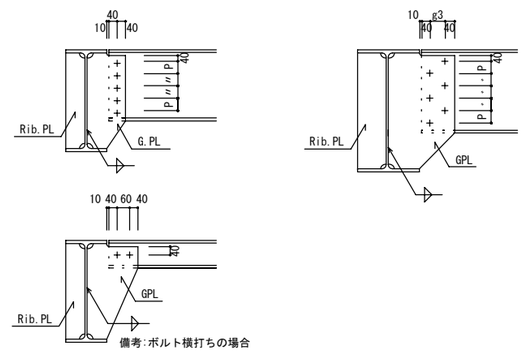
SN400B(SS400) 部材	ボルト径	フランジ 本数 n	フランジ添板SPL1 / フランジ添板SPL2	ウェブ 配列 m×n	P	e1	e2	ウェブ添板SPL	備考
H-100×100×6×8	M16	4	SPL1-16×100×290 / —	2×1	60	40	70	2PLs- 9×350× 50	ウェブ横打ち
H-125×125×6.5×9	M16	6	SPL1-12×125×410 / —	2×1	60	40	70	2PLs- 6×350× 80	ウェブ横打ち
H-150×150×7×10	M16	4	SPL1- 9×150×290 / SPL2- 9× 60×290	3×1	60	40	70	2PLs- 9×470× 80	ウェブ横打ち
H-175×175×7.5×11	M16	6	SPL1- 9×175×410 / SPL2- 9× 70×410	3×1	60	40	40	2PLs- 9×410× 80	ウェブ横打ち
H-200×200×8×12	M20	4	SPL1- 9×200×290 / SPL2- 9× 80×290	1×2	60	40	70	2PLs- 6×230×140	
H-250×250×9×14	M20	8	SPL1-12×250×530 / SPL2-12×100×530	2×2	60	40	40	2PLs- 9×290×140	
H-300×300×10×15	M22	6	SPL1- 9×300×350 / SPL2-12×110×350	1×3	60	40	40	2PLs- 9×170×200	フランジ千鳥打ち
H-300×305×15×15	M22	6	SPL1-12×305×350 / SPL2-12×110×350	1×3	60	40	40	2PLs-12×170×200	フランジ千鳥打ち
H-350×350×12×19	M22	8	SPL1-12×350×290 / SPL2-12×140×290	2×3	60	40	40	2PLs-12×290×200	フランジダブル打ち
H-400×400×13×21	M22	12	SPL1-12×400×410 / SPL2-16×170×410	2×3	90	40	40	2PLs-12×290×260	フランジダブル打ち

SN490B(SM490) 部材	ボルト径	フランジ 本数 n	フランジ添板SPL1 / フランジ添板SPL2	ウェブ 配列 m×n	P	e1	e2	ウェブ添板SPL	備考
H-200×100×5.5×8	M16	6	SPL1-16×100×410 / —	2×2	60	40	40	2PLs- 6×290×140	
H-248×124×5×8	M16	8	SPL1-12×124×530 / —	2×2	90	40	40	2PLs- 6×290×170	
H-250×125×6×9	M16	8	SPL1-12×125×530 / —	2×2	90	40	40	2PLs- 6×290×170	
H-298×149×5.5×8	M16	6	SPL1- 9×149×410 / SPL2- 9× 60×410	2×3	60	40	40	2PLs- 6×290×200	
H-300×150×6.5×9	M20	4	SPL1- 9×150×290 / SPL2- 9× 60×290	1×3	60	40	40	2PLs- 6×170×200	
H-346×174×6×9	M20	4	SPL1- 9×174×290 / SPL2- 9× 70×290	1×3	90	40	40	2PLs- 6×170×260	
H-350×175×7×11	M20	4	SPL1- 9×175×290 / SPL2- 9× 70×290	1×3	90	40	40	2PLs- 6×170×260	
H-396×199×7×11	M20	6	SPL1- 9×199×410 / SPL2- 9× 80×410	2×3	90	40	40	2PLs- 9×290×260	
H-400×200×8×13	M20	6	SPL1- 9×200×410 / SPL2- 9× 80×410	2×3	90	40	40	2PLs- 9×290×260	
H-446×199×8×12	M20	8	SPL1-12×199×530 / SPL2-12× 80×530	2×3	120	40	40	2PLs- 9×290×320	
H-450×200×9×14	M20	8	SPL1-12×200×530 / SPL2-12× 80×530	2×3	120	40	40	2PLs- 9×290×320	
H-496×199×9×14	M20	8	SPL1-12×199×530 / SPL2-12× 80×530	1×6	60	40	40	2PLs- 9×170×380	
H-500×200×10×16	M20	8	SPL1-12×200×530 / SPL2-12× 80×530	1×6	60	40	40	2PLs- 9×170×380	
H-596×199×10×15	M20	8	SPL1-12×199×530 / SPL2-12× 80×530	2×6	60	40	40	2PLs-12×290×380	
H-600×200×11×17	M20	8	SPL1-12×200×530 / SPL2-12× 80×530	2×6	60	40	40	2PLs-12×290×380	

SN490B(SM490) 部材	ボルト径	フランジ 本数 n	フランジ添板SPL1 / フランジ添板SPL2	ウェブ 配列 m×n	P	e1	e2	ウェブ添板SPL	備考
H-148×100×6×9	M16	6	SPL1-16×100×410 / —	3×1	60	40	40	2PLs- 6×410× 80	ウェブ横打ち
H-194×150×6×9	M16	6	SPL1- 9×150×410 / SPL2- 9× 60×410	2×2	60	40	70	2PLs- 6×350×140	
H-244×175×7×11	M20	4	SPL1- 9×175×290 / SPL2- 9× 70×290	2×2	60	40	40	2PLs- 9×290×140	
H-294×200×8×12	M20	6	SPL1- 9×200×410 / SPL2- 9× 80×410	2×2	120	40	40	2PLs- 6×290×200	
H-340×250×9×14	M22	8	SPL1-12×250×530 / SPL2-12×100×530	2×3	60	40	40	2PLs- 9×290×200	
H-390×300×10×16	M22	8	SPL1-12×300×440 / SPL2-12×110×440	2×3	90	40	40	2PLs- 9×290×260	フランジ千鳥打ち
H-440×300×11×18	M22	10	SPL1-12×300×530 / SPL2-12×110×530	1×5	60	40	40	2PLs- 9×170×320	フランジ千鳥打ち
H-482×300×11×15	M22	10	SPL1-12×300×530 / SPL2-12×110×530	1×6	60	40	40	2PLs- 9×170×380	フランジ千鳥打ち
H-488×300×11×18	M22	10	SPL1-12×300×530 / SPL2-12×110×530	1×6	60	40	40	2PLs- 9×170×380	フランジ千鳥打ち
H-582×300×12×17	M22	10	SPL1-12×300×530 / SPL2-16×110×530	2×5	90	40	40	2PLs- 9×290×440	フランジ千鳥打ち
H-588×300×12×20	M22	10	SPL1-12×300×530 / SPL2-16×110×530	2×5	90	40	40	2PLs- 9×290×440	フランジ千鳥打ち
H-692×300×13×20	M22	14	SPL1-19×300×710 / SPL2-19×110×710	2×6	90	40	40	2PLs-12×290×530	フランジ千鳥打ち
H-700×300×13×24	M22	14	SPL1-19×300×710 / SPL2-19×110×710	2×6	90	40	40	2PLs-12×290×530	フランジ千鳥打ち
H-800×300×14×26	M22	14	SPL1-19×300×710 / SPL2-19×110×710	2×7	90	40	40	2PLs-12×290×620	フランジ千鳥打ち
H-900×300×16×28	M22	16	SPL1-19×300×800 / SPL2-22×110×800	2×10	60	40	40	2PLs-16×290×620	フランジ千鳥打ち
	M22	20	SPL1-25×300×980 / SPL2-28×110×980	2×11	60	40	40	2PLs-16×290×680	フランジ千鳥打ち

(HG) H型鋼小梁継手

※Rib.PLは，G.PLと同厚とする。



SN400A(SS400) 部材	ボルト径	本数	GPL	ボルト配列 P	備考	SN400A(SS400) 部材		本数	GPL	ボルト配列 P	ボルト配列 ゲージ g3	備考
H-100× 50×5×7	M16	2	6	60	横打ち	H-148×100×6×9	M16	2	9	60		横打ち
H-125× 60×6×8	M16	2	6	〃	〃	H-194×150×6×9	M16	2	9	〃		
H-150× 75×5×7	M16	2	6	〃	〃	H-244×175×7×11	M20	2	9	〃		
H-175× 90×5×8	M16	2	6	〃		H-294×200×8×12	M20	3	9	〃		
H-198× 99×4.5×7 H-200×100×5.5×8	M20	2	6	〃		H-340×250×9×14	M20	4	12	〃		
H-248×124×5×8	M20	2	6	〃		H-390×300×10×16	M20	4	12	〃		
H-250×125×6×9	M20	3	9	〃		H-440×300×11×18	M20	5	12	〃		
H-298×149×5.5×8	M20	3	6	60		H-482×300×11×15	M20	6	12	〃		
H-300×150×6.5×9	M20	3	9	80		H-488×300×11×18	M20	6	12	〃		
H-346×174×6×9	M20	4	9	60		H-582×300×12×17	M22	7	12	〃		
H-350×175×7×11	M20	4	9	〃		H-588×300×12×20	M22	7	12	〃		
H-396×199×7×11	M20	5	9	〃		H-692×300×13×20	M22	9	16	〃		
H-400×200×8×13	M20	5	9	〃		H-700×300×13×24	M22	9	16	〃		
H-446×199×8×12	M20	6	9	〃		H-800×300×14×26	M22	11	16	〃		
H-450×200×9×14	M20	6	9	〃		H-900×300×16×28	M24	12	16	〃	40	千鳥打ち
H-496×199×9×14	M20	6	9	〃								
H-500×200×10×16	M20	6	12	〃		H-100×100×6×8	M16	2	9	60		横打ち
H-596×199×10×15	M22	8	12	〃		H-125×125×6.5×9	M16	2	9	〃		〃
H-600×200×11×17	M20	8	12	〃		H-150×150×7×10	M16	2	12	〃		〃
						H-175×175×7.5×11	M16	3	9	25	55	千鳥打ち
						H-200×200×8×12	M16	3	9	35	50	〃
						H-250×250×9×14	M20	3	12	50	35	〃
						H-300×300×10×15	M20	4	12	50	35	〃
						H-350×350×12×19	M20	6	16	35	50	〃
						H-400×400×13×21	M20	6	16	45	40	〃

※　接合の際は仮ボルトを使用し、1次締めを行い　　マーキング後本締めとする

備考　梁継手諸元表（鉄骨構造基準接合部委員会　　SCSS-H97　　、建設省住宅局建築指導課監修）に準ずる。

※ ▒ 部分は今回の使用部材の継手を示す。

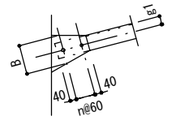
原図：A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨構造標準図（その３）		
縮　尺	－	図面番号	220
下関市ボートレース企業局			

山形鋼継手 (JIS G 3101)

部材	軸ブレース・床ブレース 径	2面継手 高力ボルト 数量	2面継手 高力ボルト 継手	2面継手 ガセットプレート 最小B	2面継手 ガセットプレート 厚さ	1面継手 径	1面継手 高力ボルト 数量	1面継手 高力ボルト 継手	1面継手 ガセットプレート 最小B	1面継手 ガセットプレート 厚さ	床ブレース 径	床ブレース 1面継手 高力ボルト 数量	床ブレース 1面継手 高力ボルト 継手	床ブレース 1面継手 ガセットプレート 最小B	床ブレース 1面継手 ガセットプレート 厚さ	綴りボルト
L- 65x 65x 6	M16	4	G1	165	9	M16	5	G1	90	9	M20	2	G1	80	9	L≦600
L- 75x 75x 6	M16	4	G1	190	9	M16	5	G1	95	9	M20	2	G1	100	9	L≦700
L- 75x 75x 9	M20	5	G1	205	12	M16	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9	
L- 90x 90x 7	M20	5	G1	205	12	M20	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9	L≦800
L- 90x 90x10	M20	5	G1	270	12	M20	5	G1	165	9	M20	4	G1	140	9	
L-100x100x 7	M20	5	G1	225	12	M20	4	G1	135	9	M22	3	G1	140	9	L≦900
L-100x100x10	M20	6	G1	305	12	M20	5	G1	185	9	M22	4	G1	160	9	
L-100x100x13	M20	8	G1	385	12	M20	6	G1	185	12	M22	5	G1	200	9	

G1



特記事項

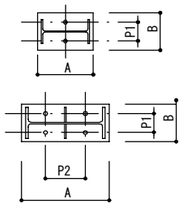
- 適用範囲の母材の鋼種は、SS400, SM400, SN400とする。
- プレートの鋼種は母材と同等とする。
- 高力ボルトは、F10T (S10T) とする。
- 軸ﾌﾞﾚｰｽ継手は、建築構造設計指針2010（東京都建築構造行政連絡会）による。

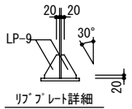
間柱柱脚 (JIS G 3101)

部材	アンカーボルト 径	数量	P1	P2	ベースプレート 厚さx A x B
150x 75x 5x 7	M16	2	100		PL-12x200x180
175x 90x 5x 8	M16	2	100		PL-12x225x180
198x 99x4.5x 7 200x100x5.5x 8	M16	2	100		PL-12x250x180
248x124x 5x 8 250x125x 6x 9	M20	2	110		PL-16x300x220
298x149x5.5x 8 300x150x6.5x 9	M24	2	120		PL-19x350x240
346x174x 6x 9 350x175x 7x11	M24	2	120		PL-19x400x240
396x199x 7x11 400x200x 8x13	M20	4	120	200	PL-16x450x240
446x199x 8x12 450x200x 9x14	M20	4	120	225	PL-16x500x240
496x199x 9x14 500x200x 10x16	M24	4	120	250	PL-19x550x240
596x199x 10x15 600x200x 11x17	M24	4	120	300	PL-19x650x240
148x100x 6x 9	M16	2	100		PL-12x200x180
194x150x 6x 9	M20	2	110		PL-16x250x220
244x175x 7x11	M20	2	110		PL-16x300x220
294x200x 8x12	M24	2	120		PL-19x350x240
125x125x6.5x 9	M16	2	100		PL-12x175x180
150x150x 7x10	M20	2	110		PL-16x200x220

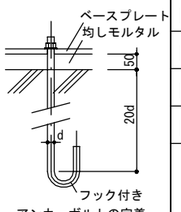
特記事項・凡例

- 適用範囲の母材の鋼種は、SS400, SM400, SN400とする。
- プレートの鋼種は母材と同等とする。
- アンカーボルトの材質は、特記なき限りSS400とする。





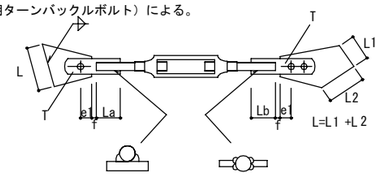
リブプレート詳細



アンカーボルトの定着

JIS建築用ターンバックル筋かい (TB) (JIS G 3101)

特記なきはJIS・A・5540（建築用ターンバックル） 5541（建築用ターンバックル胴）
5542（建築用ターンバックルボルト）による。



	高力ボルト	G.PL	T	e1	f	La	Lb	L
M12	1-M12	6	4.5	35	12	40		60
M14	1-M16	6	6	40	12	50		60
M16	1-M16	9	6	45	14	55		80
M18	1-M20	9	9	50	16	60		80
M20	1-M20	9	9	50	16	75		80
M22	1-M22	12	9	55	18	85		100
M24	2-M20	12	9	50	20		85	100
M27	2-M20	12	9	50	22		90	121
M30	2-M22	12	12	55	28		95	147

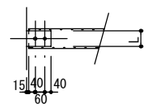
(mm)

- 高力ボルトは、原則としてF10Tとし、溶融亜鉛メッキ処理を行う場合は、F8Tとする。
- 継手は建築構造設計指針２０10（東京都建築構造行政連絡会）による。

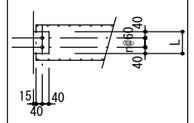
溝形鋼継手 (G) (JIS G 3101)

部材	径	ウェブ 高力ボルト 数量	ウェブ 高力ボルト 継手	ウェブ ガセットプレート 厚さx L
[-100x 50x 5	M16	2	G1	PL- 9x100
[-125x 65x 6	M20	2	G1	PL- 9x100
[-150x 75x6.5	M20	2	G2	PL- 9x140
[-150x 75x 9	M22	2	G2	PL- 9x140
[-180x 75x 7	M22	2	G2	PL- 9x140
[-200x 80x7.5	M24	2	G2	PL- 9x140
[-200x 90x 8	M24	2	G2	PL- 9x140
[-250x 90x 9	M22	3	G2	PL-12x200
[-250x 90x 11	M22	3	G2	PL-12x200

G1



G2



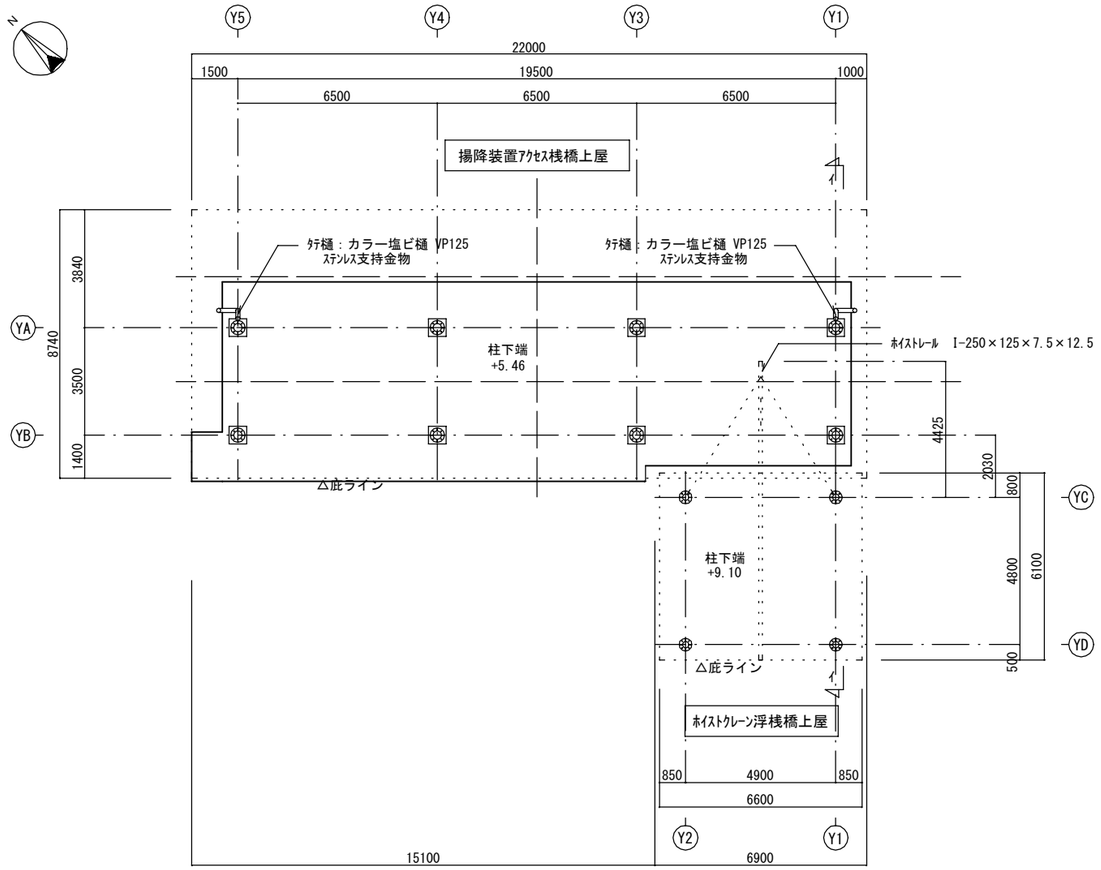
特記事項

- 適用範囲の母材の鋼種は、SS400, SM400, SN400とする。
- プレートの鋼種は母材と同等とする。
- 高力ボルトは、F10T (S10T) とする。
- 継手耐力は、SCSS-H97に準拠する。
- 継手耐力は、母材せん断耐力の７０%以上とする。

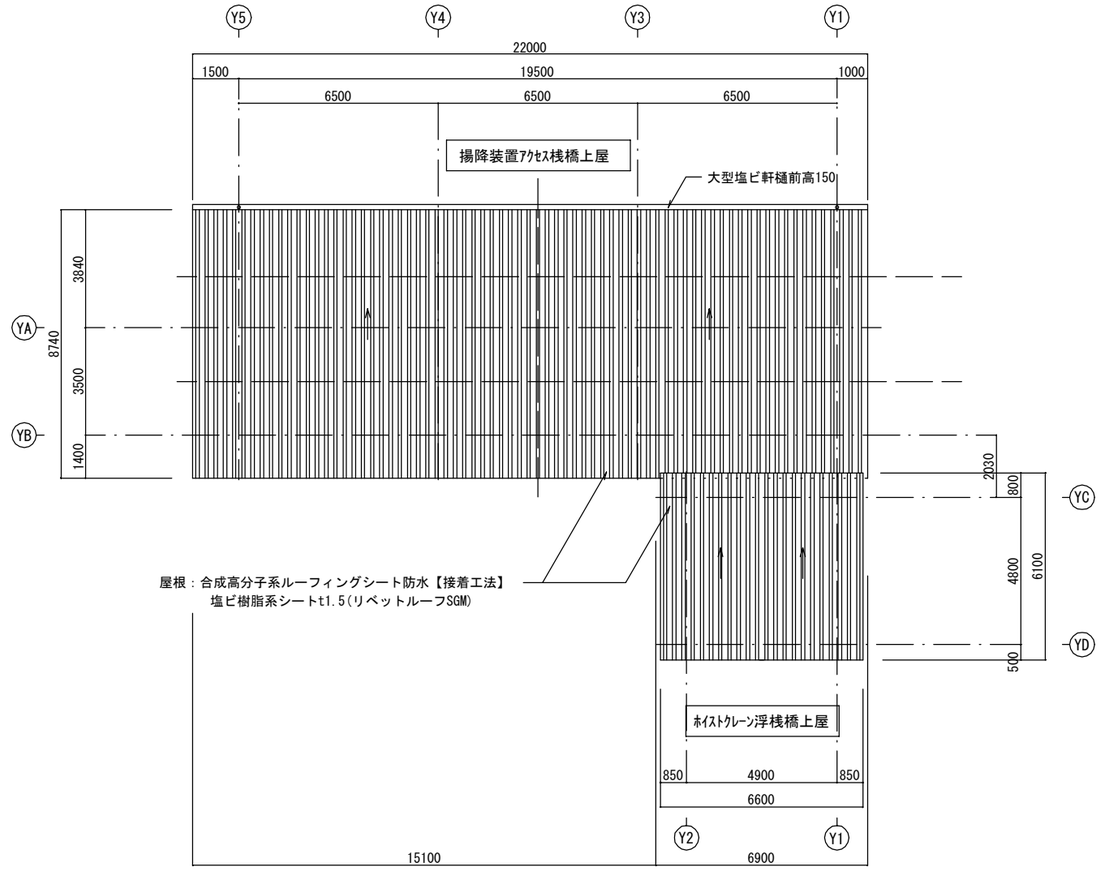
※ ▭ 部分は今回の使用部材の継手を示す。

原図:A3、単位：mm

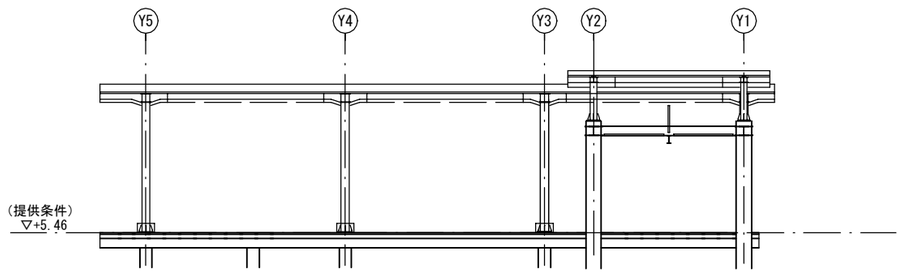
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨構造標準図（その４）		
縮　尺	－	図面番号	221
下関市ボートレース企業局			



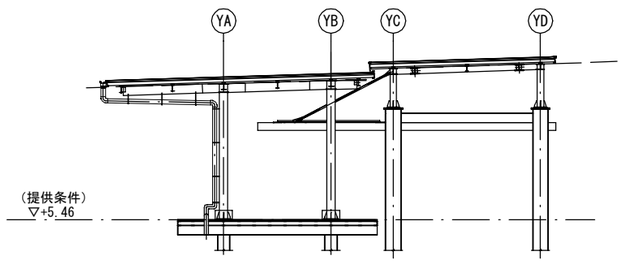
平面図　S=1/200



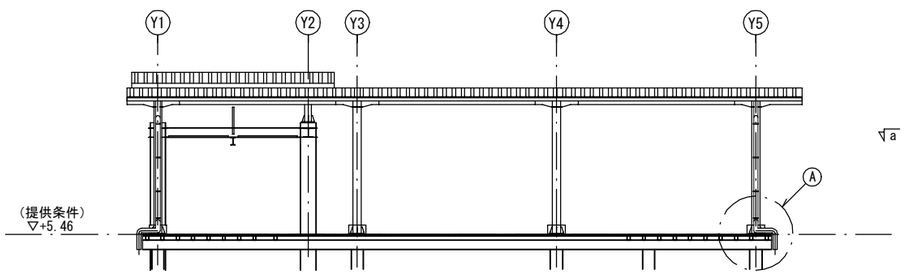
屋根伏図　S=1/200



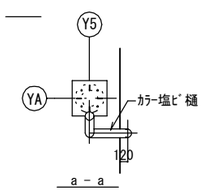
南西側立面図　S=1/200

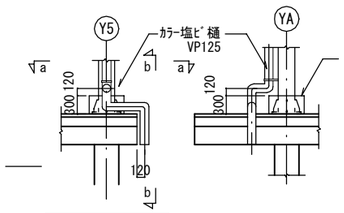


北西側立面図　S=1/200

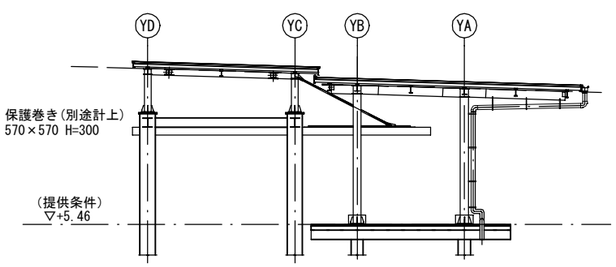


北東側立面図　S=1/200





Ⓐ部詳細図

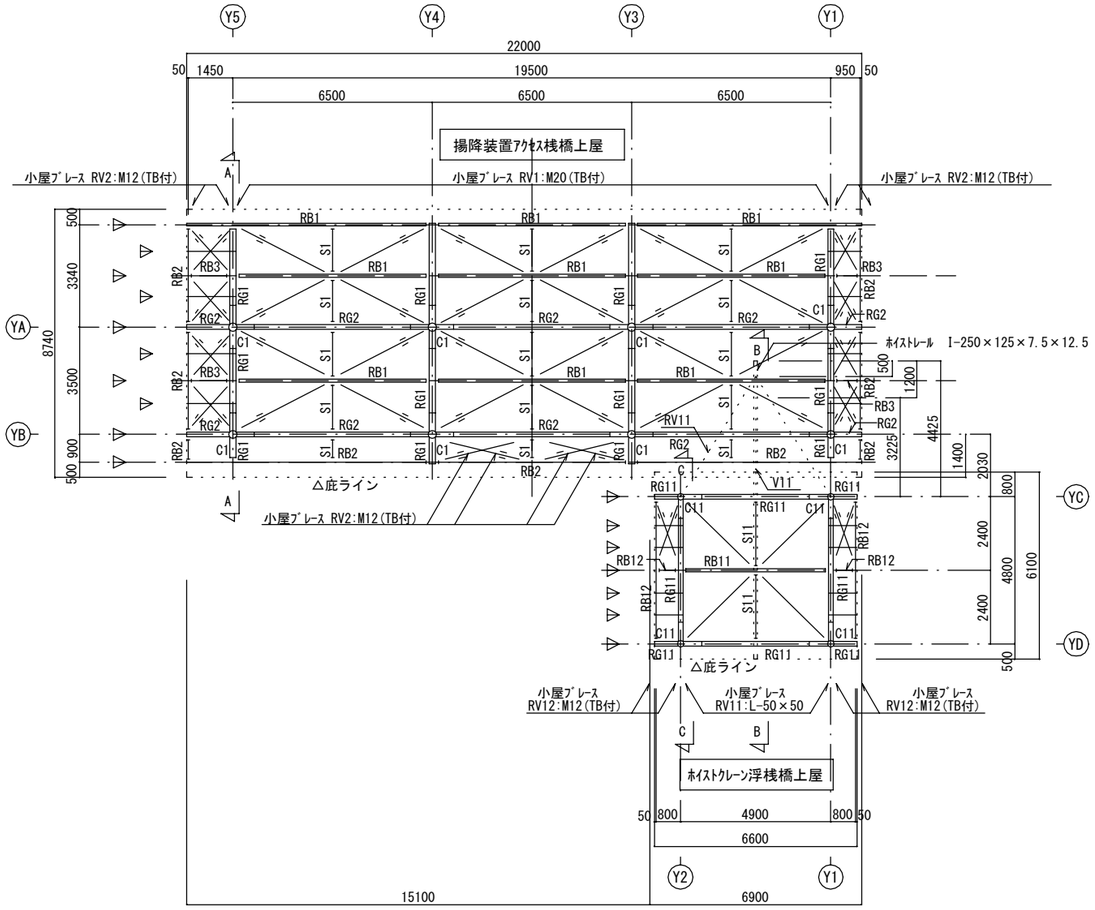


南東側立面図　S=1/200

鉄部仕上：海洋厚膜ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗装CM-A
下地無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ塗り

原図:A3、単位：mm

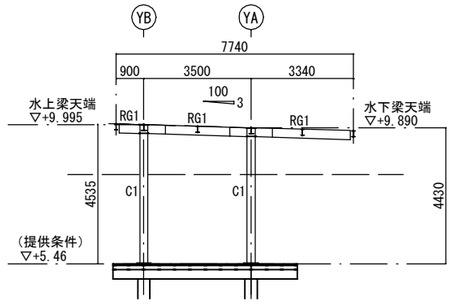
工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	平面図・立面図		
縮　尺	1/200	図面番号	222
下関市ボートレース企業局			



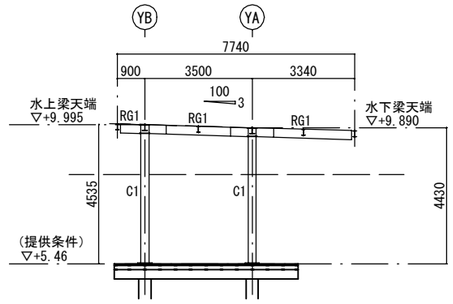
小屋伏図　S=1/200

註）大梁JOINT位置は,柱芯より700とする

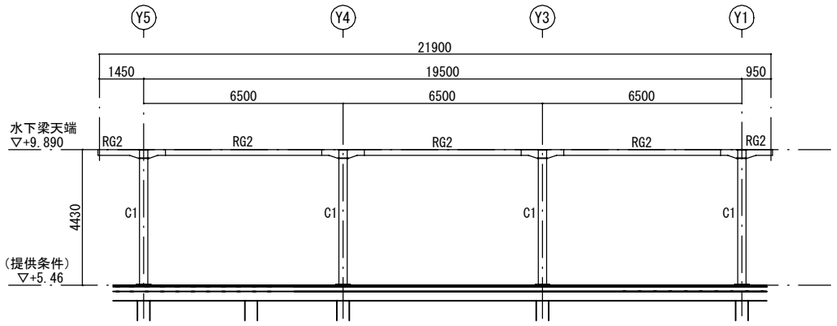
— ▷ ﾃﾞｯｷ受位置を示す。



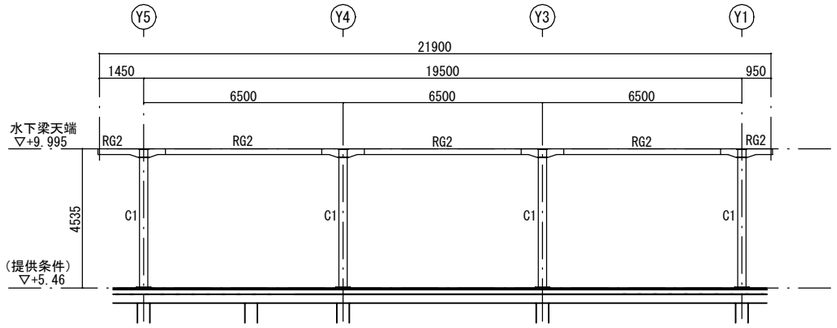
Y1,Y5通り軸組図　S=1/200



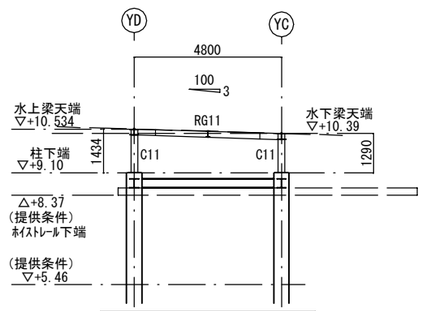
Y3,4通り軸組図　S=1/200



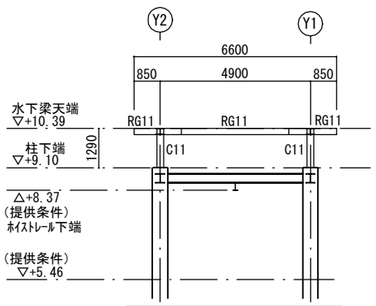
YA通り軸組図　S=1/200



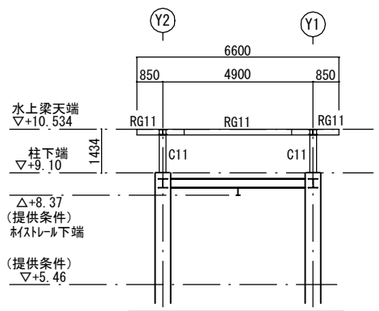
YB通り軸組図　S=1/200



Y1,Y2通り軸組図　S=1/200



YC通り軸組図　S=1/200



YD通り軸組図　S=1/200

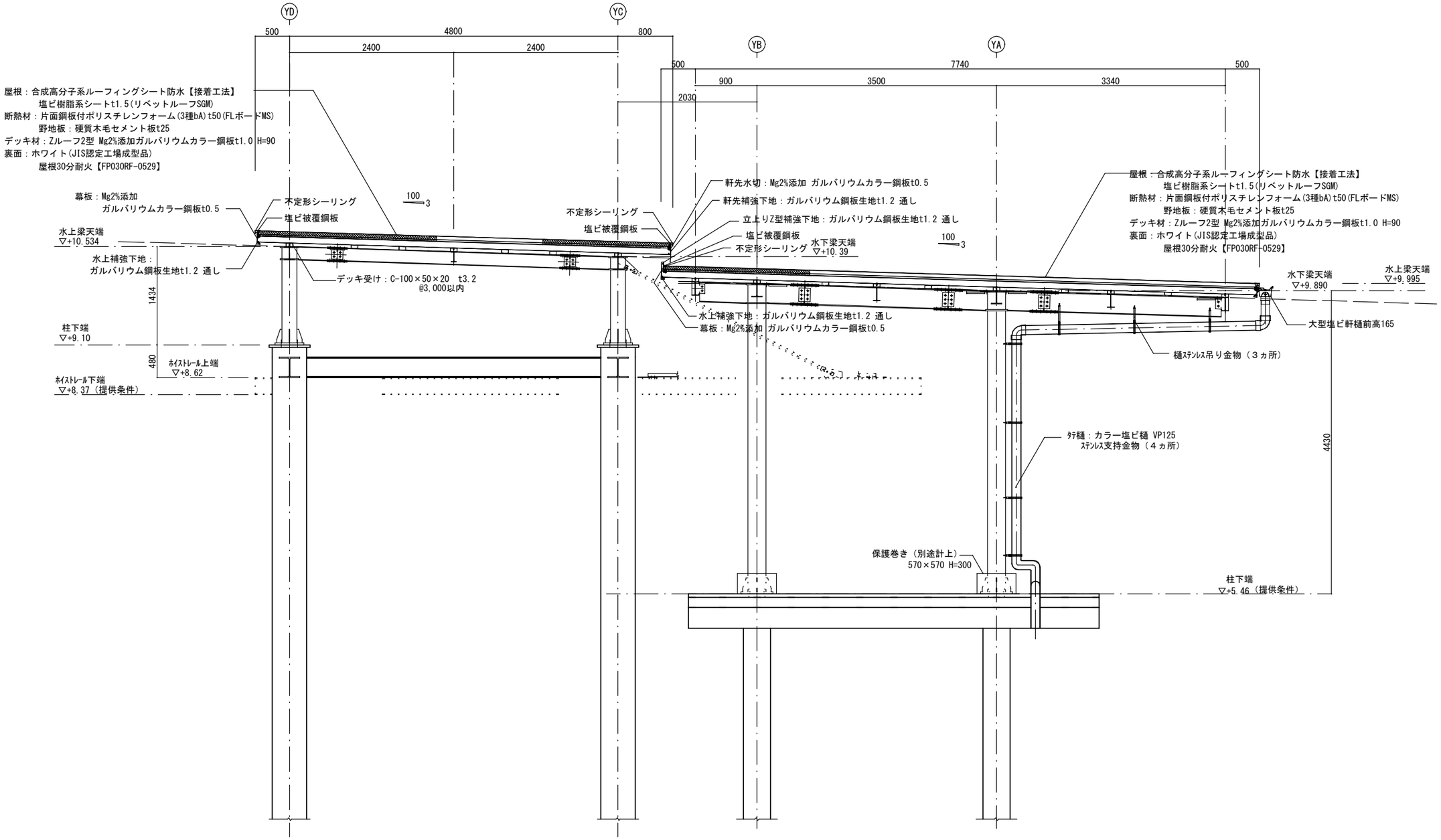
部材リスト　（特記なき限り,使用鋼材はSS400規格品とする）

揚降装置アクセス桟橋上屋			ホイストクレーン上屋		
符　号	部　　材	備考	符　号	部　　材	備考
C1	φ267.4×6.0	STK400	C11	φ216.3×5.8	STK400
RG1	H-294×200×8×12	λ= 132.8	RG11	H-194×150×6×9	λ= 132.8
RG2	H-194×150×6×9	λ= 147.9			λ= 147.9
RG3	H-200×100×5.5×8	λ= 146.5	RB11	H-175×90×5×8	λ= 146.5
			RB12	H-150×75×5×7	
RB1	H-200×100×5.5×8				
RB2	H-198×99×4.5×7		S11	H-150×75×5×7	
RB3	H-150×75×5×7		RV11	L-50×50×6	
			RV12	M12(TB付)	
S1	H-150×75×5×7		V11	2L-50×50×6	
RV1	M20(TB付)		▷ ﾃﾞｯｷ受	C-100×50×20 t=3.2	
RV2	M12(TB付)				

鉄部仕上：海洋厚膜ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗装CM-A
下地無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ塗り

原図:A3、単位：mm

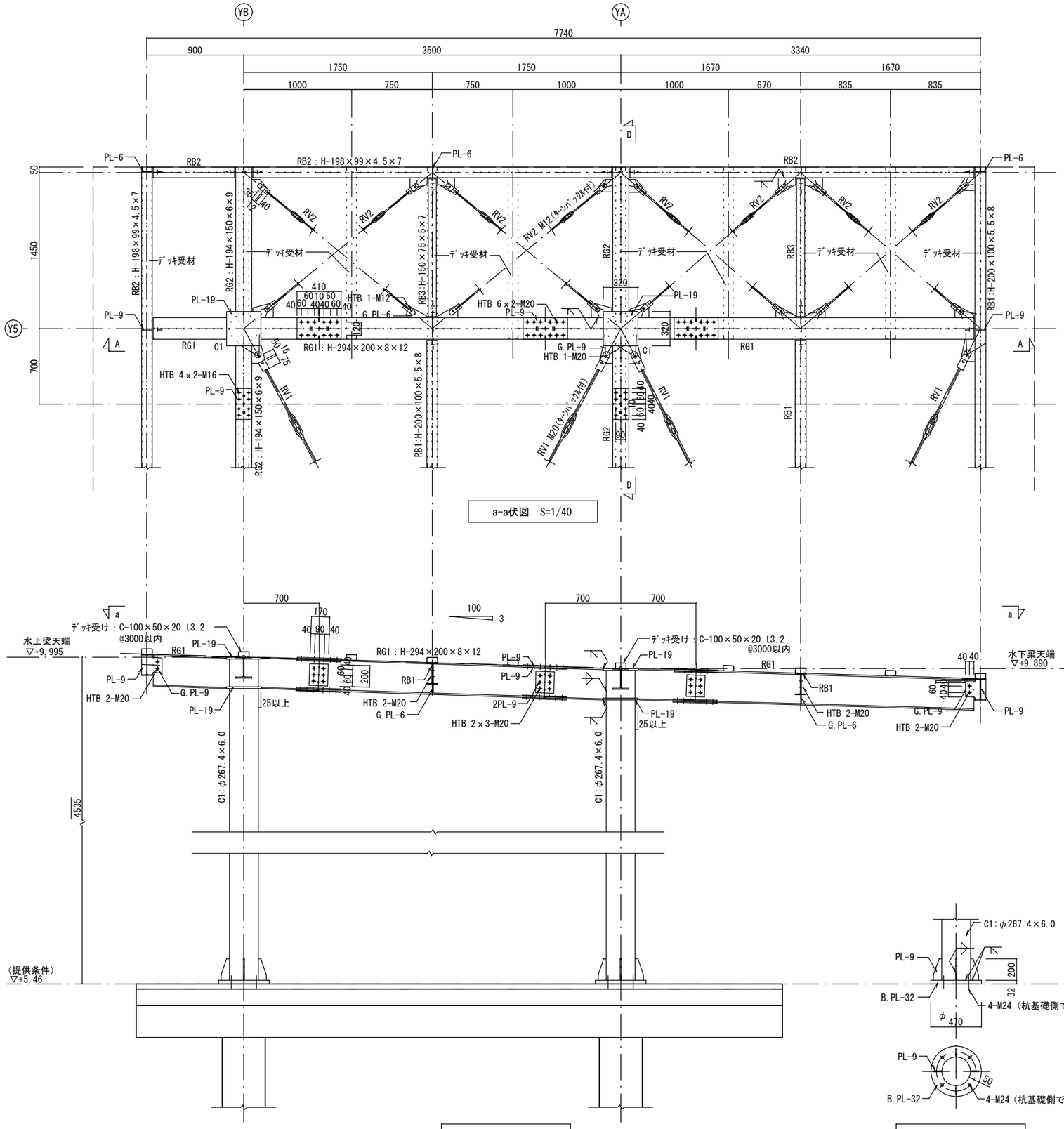
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	梁伏図・軸組図・部材リスト		
縮　尺	1/200	図面番号	223
下関市ボートレース企業局			



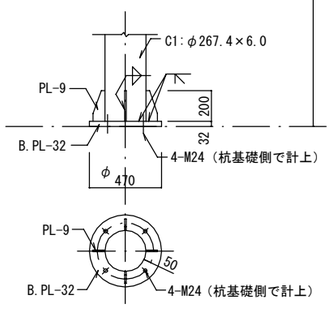
イ－イ 断面詳細図 S=1/60

原図:A3、単位：mm

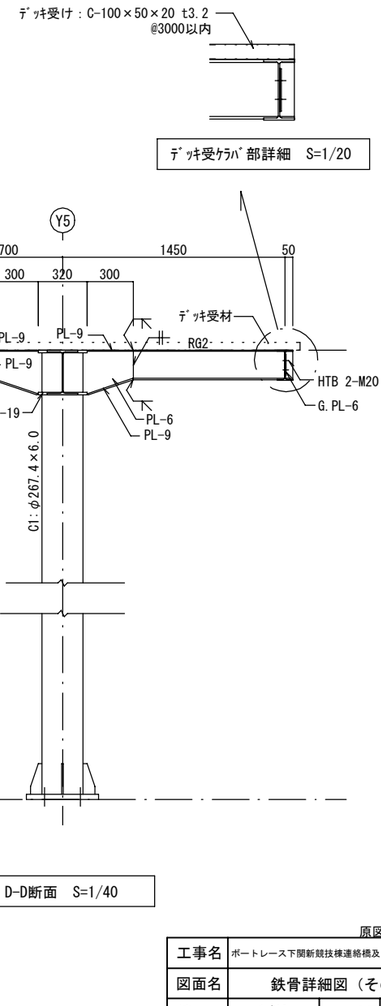
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	断面詳細図		
縮　尺	1/60	図面番号	224
下関市ボートレース企業局			



A-A断面　S=1/40



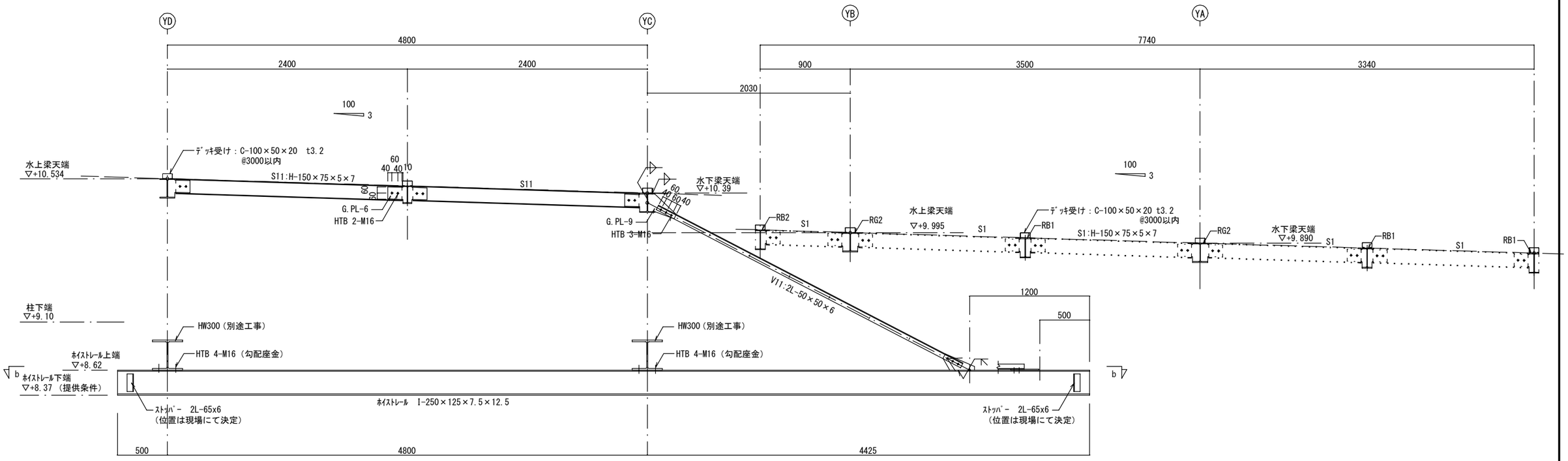
C1柱脚詳細図　S=1/40



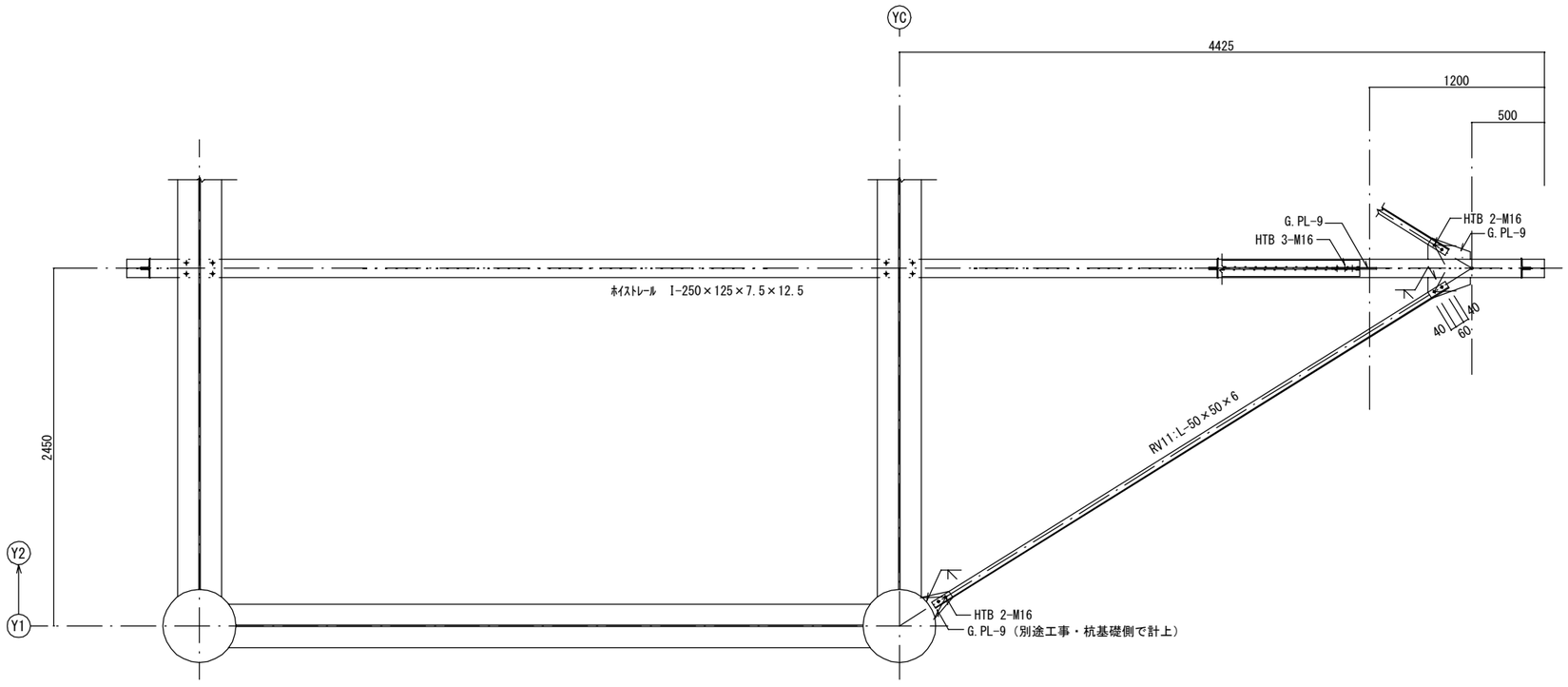
D-D断面　S=1/40

原図:A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨詳細図（その１）		
縮　尺	1/40	図面番号	225
下関市ボートレース企業局			



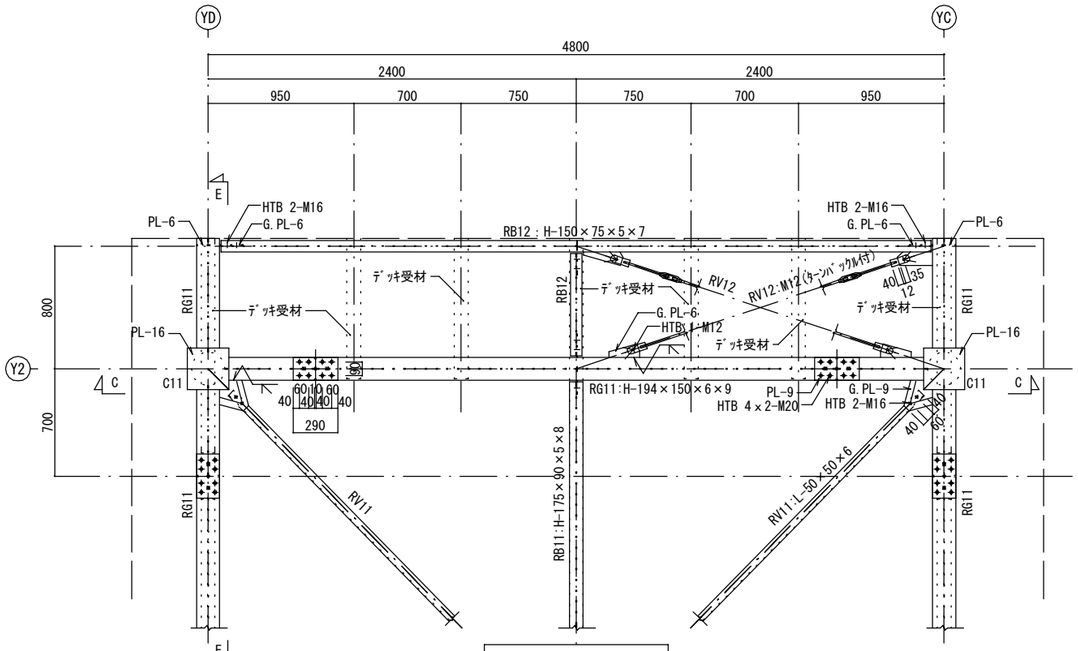
B-B断面 S=1/40



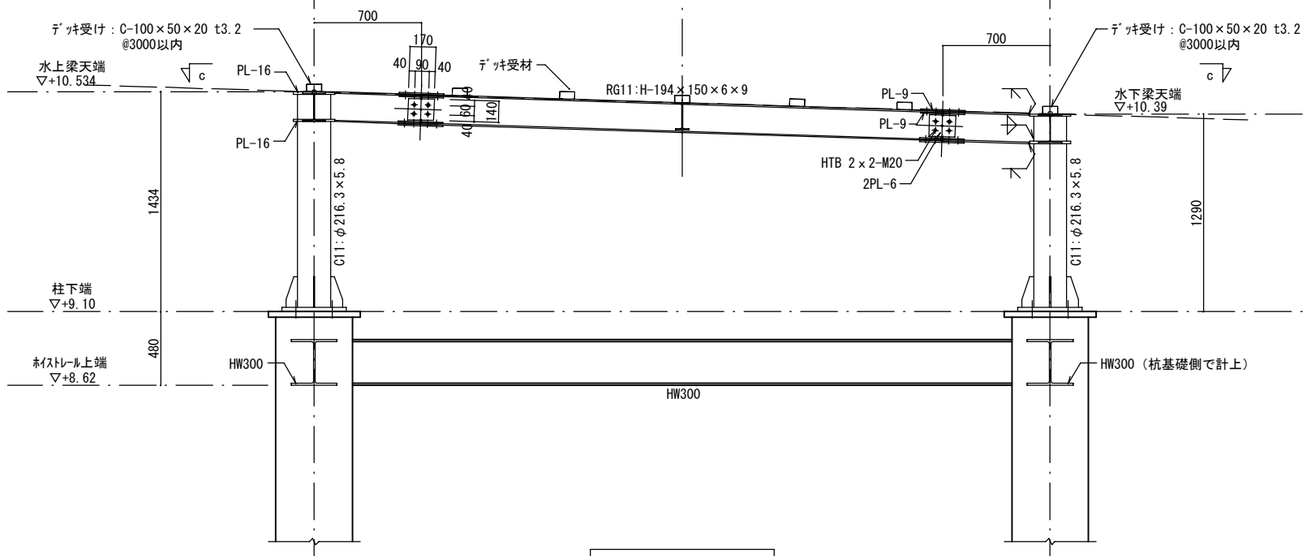
b-b 伏図(ﾎｲｽﾄﾚｰﾙ上端 +8.62) S=1/40

原図:A3、単位：mm

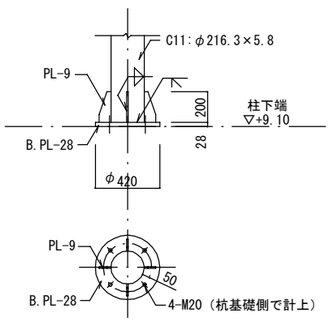
工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨詳細図（その２）		
縮　尺	1/40	図面番号	226
下関市ボートレース企業局			



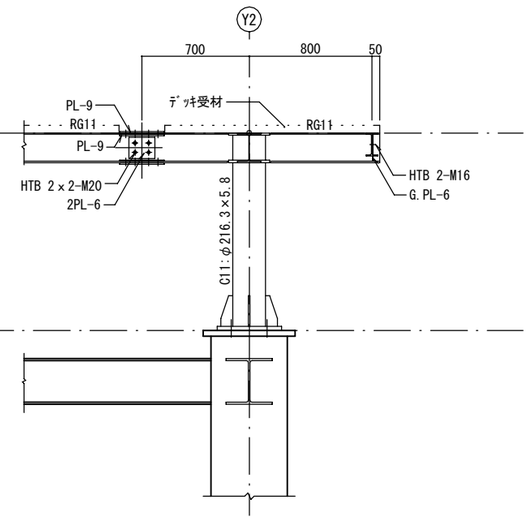
c-c伏図 S=1/40



C-C断面 S=1/40



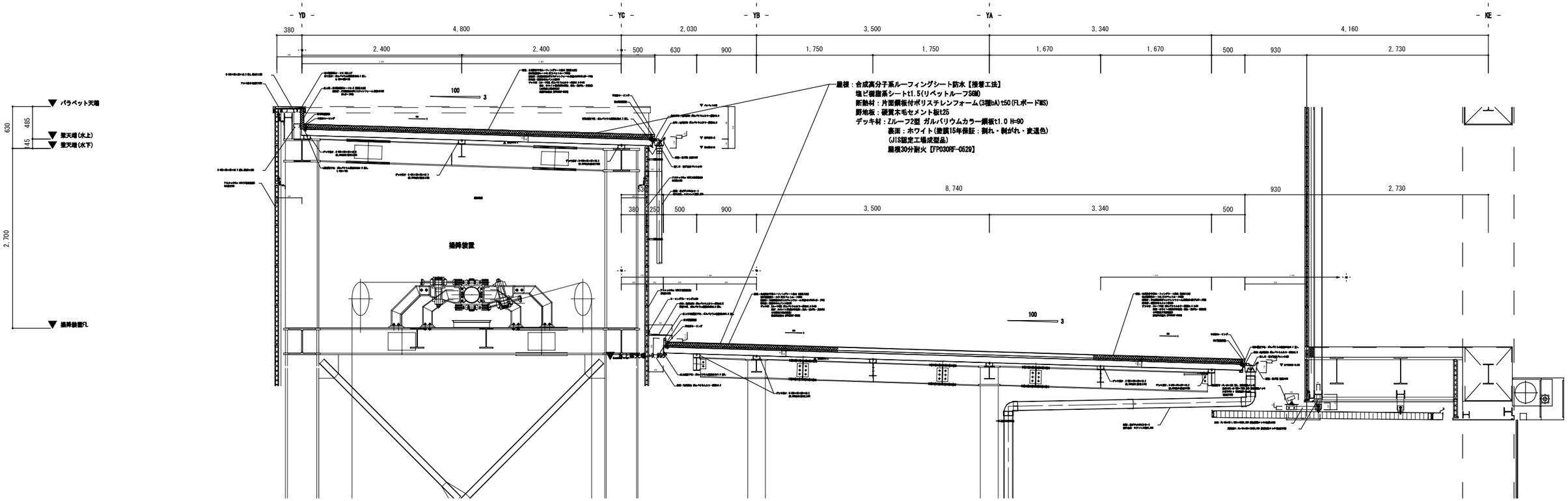
C11柱脚詳細図 S=1/40

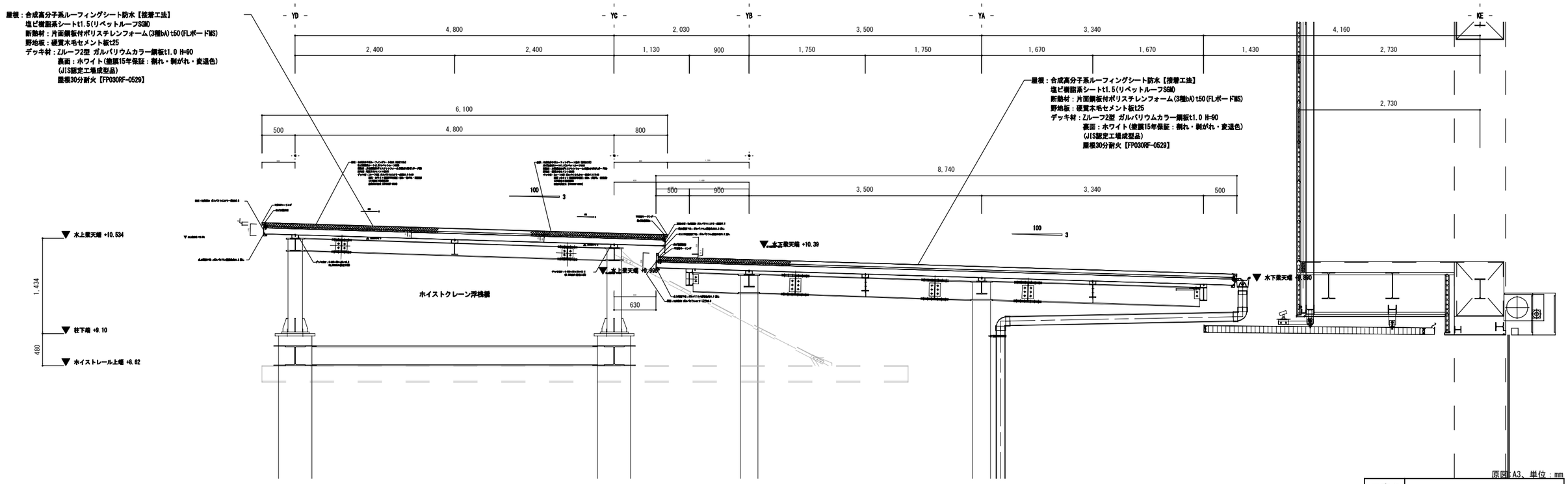


E-E断面 S=1/40

原図:A3、単位：mm

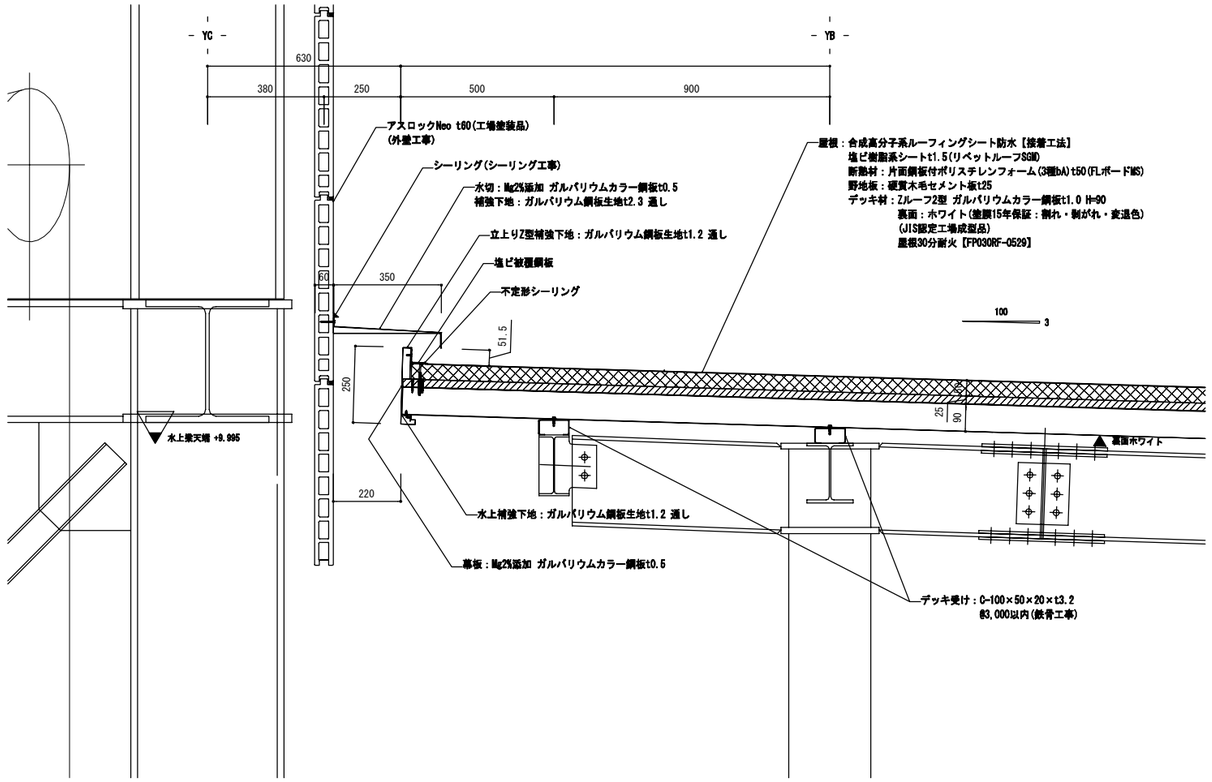
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨詳細図（その３）		
縮　尺	1/40	図面番号	227
下関市ボートレース企業局			

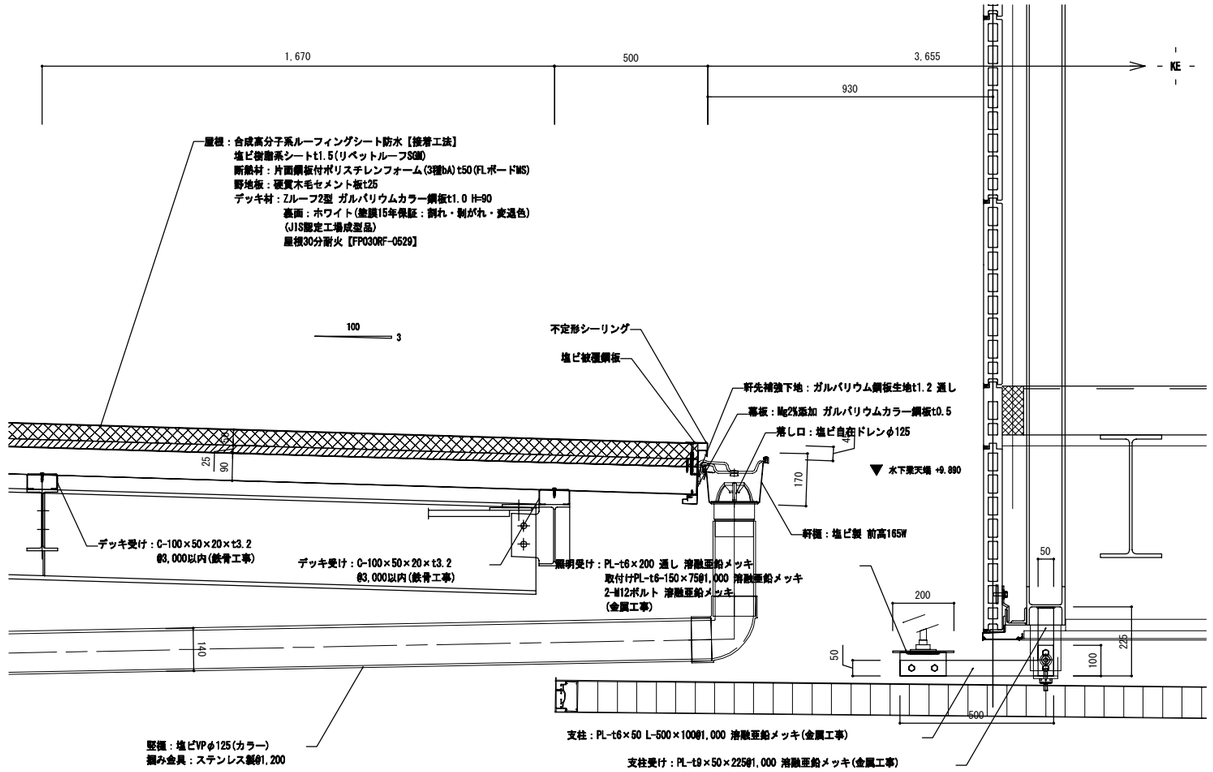


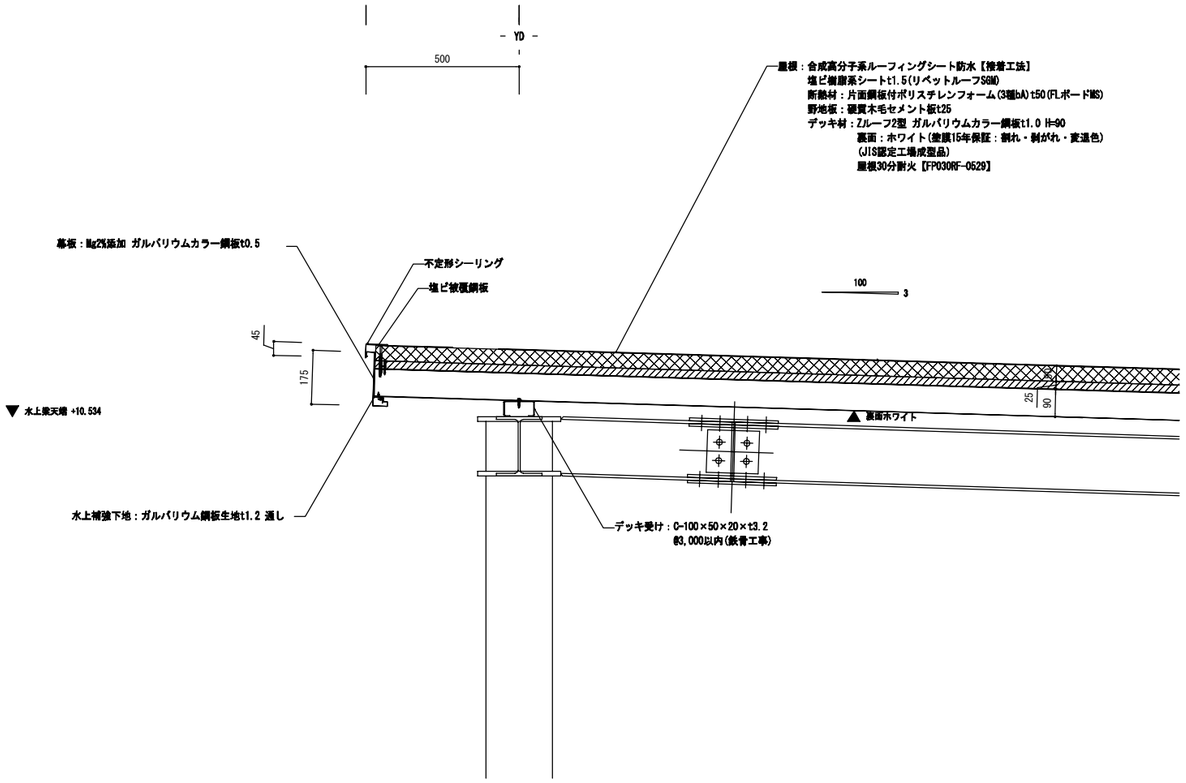


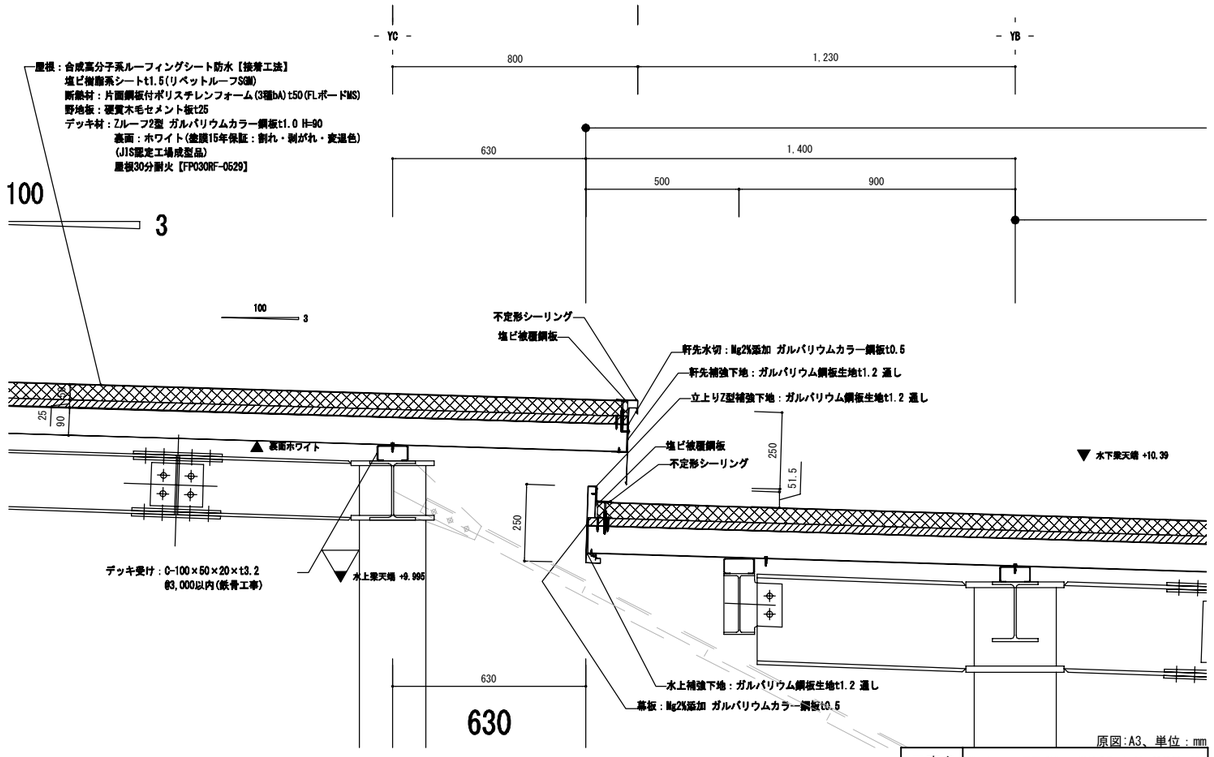
原図A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	屋根詳細図（その１）		
縮　尺	1/60	図面番号	228
下関市ボートレース企業局			



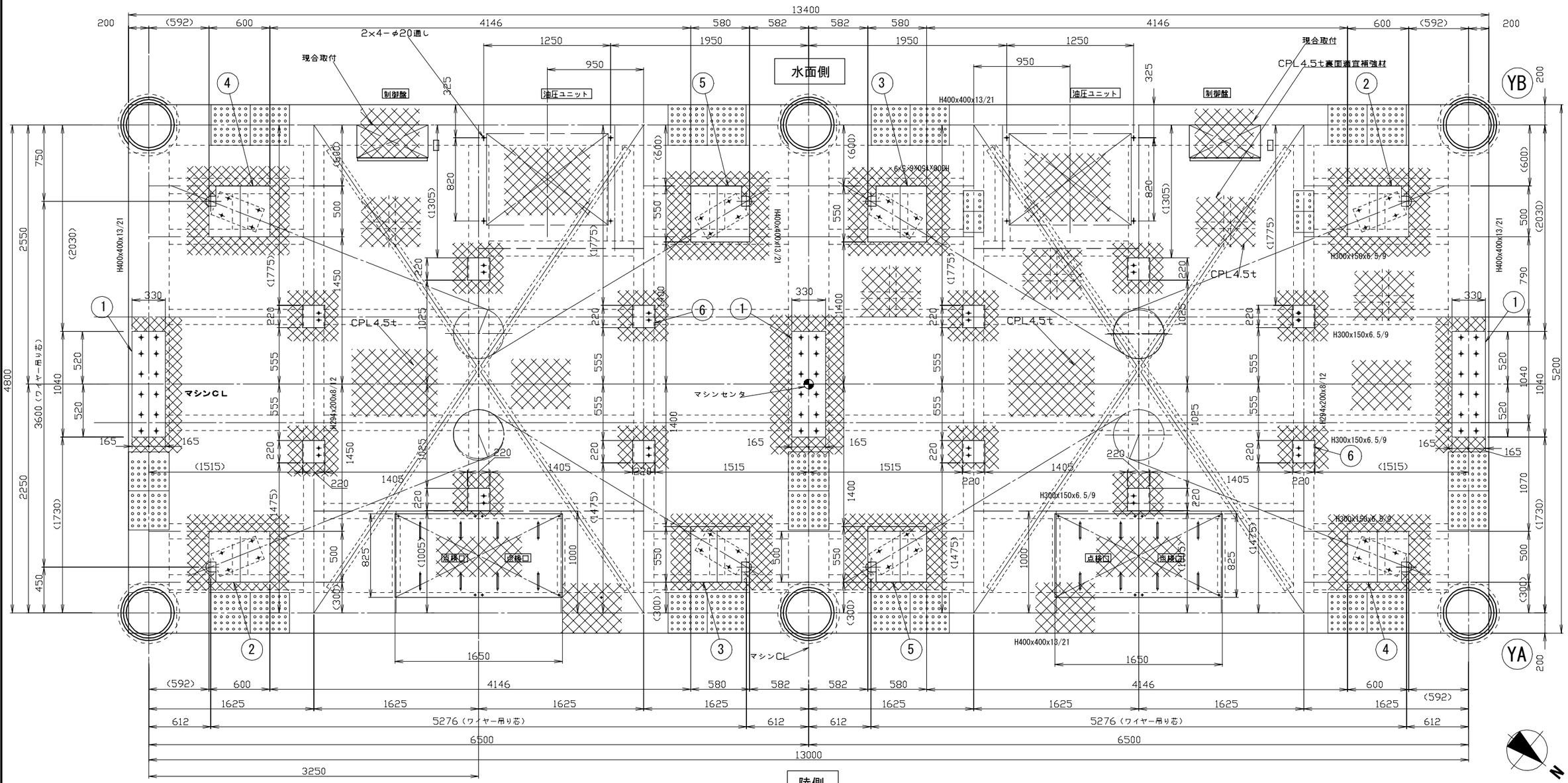


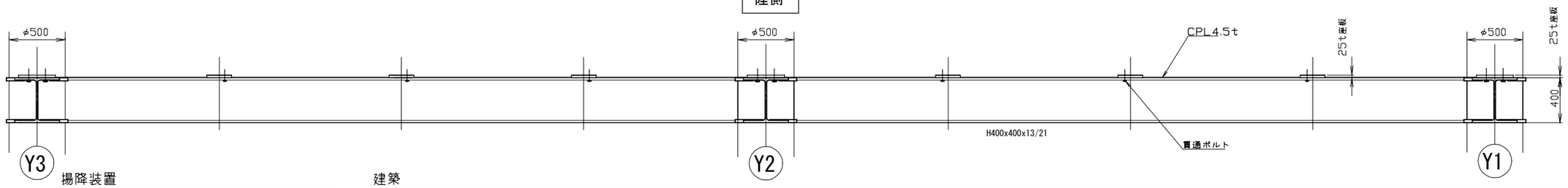




原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	屋根詳細図（その２）		
縮　尺	1/20	図面番号	229
下関市ボートレース企業局			





揚降装置

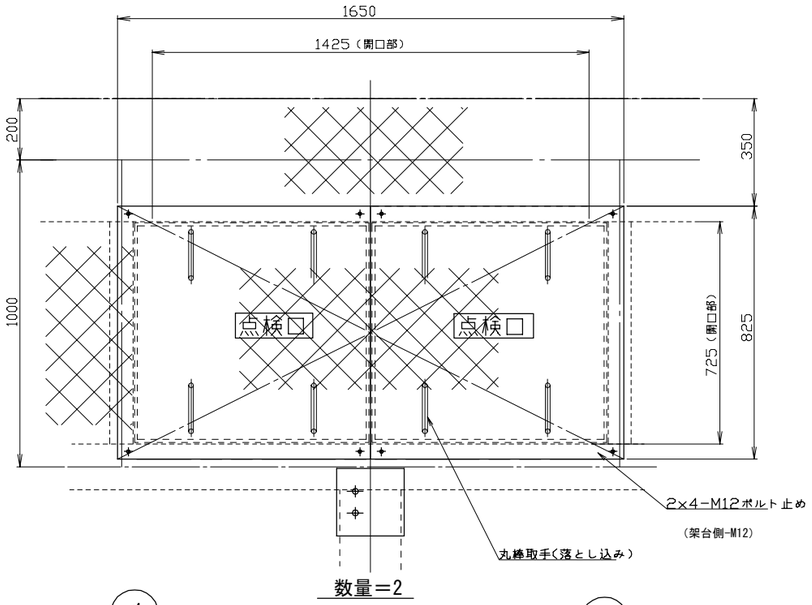
1，25t座板Ⓐ～⑥は、機械側で製作します。

建築

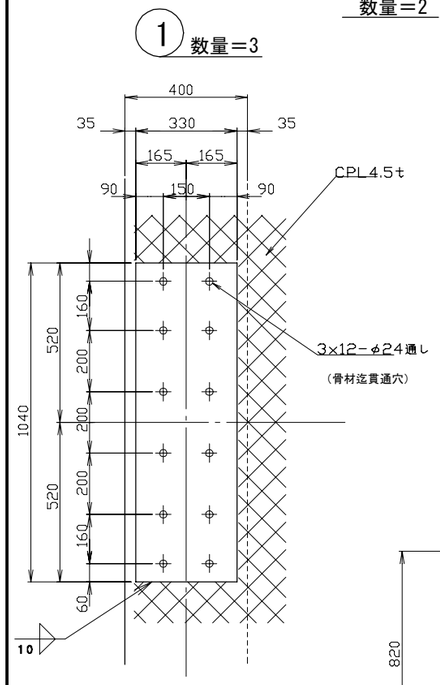
1，25t座板Ⓐ～⑥は、機械側で製作後取付溶接します。
2，鉄骨穴加工は、25t座板溶接後骨材まで貫通穴加工します。
3，油圧ユニット部用に取付穴加工します。
4，CPL4.5tは、25t座板と、ロープ貫通穴を切り欠いた形状とします。又CPL下面は適宜補強材を施工します。
5，機械室天井部に、メンテ用吊りビーム(I180×100×6)2t用を機械室駆動部中心部に13mの長さで施工します。
6，機械室天井部に、蛍光灯を設置します。[建築(電気設備工事)]

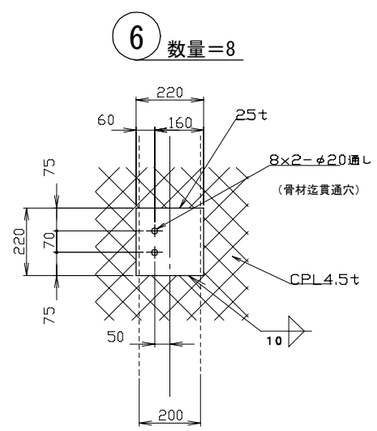
原図:A3、単位：mm

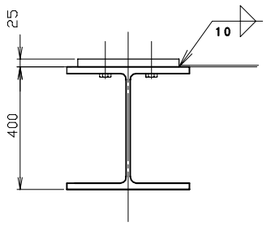
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室梁部材計画図（1）		
縮　尺	1/40	図面番号	230
下関市ボートレース企業局			



数量＝2

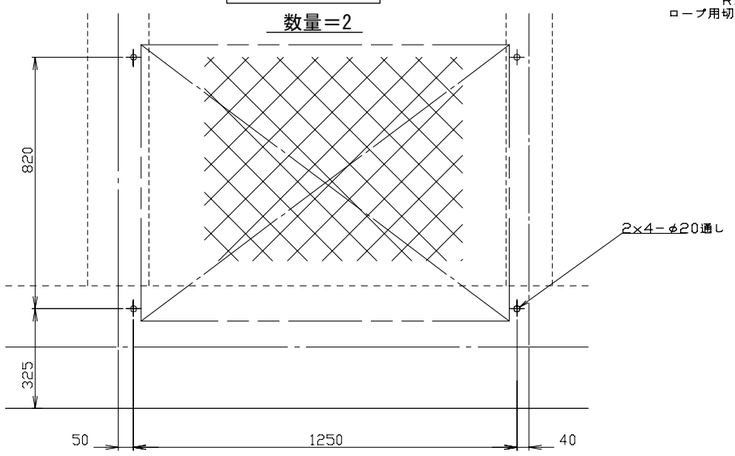


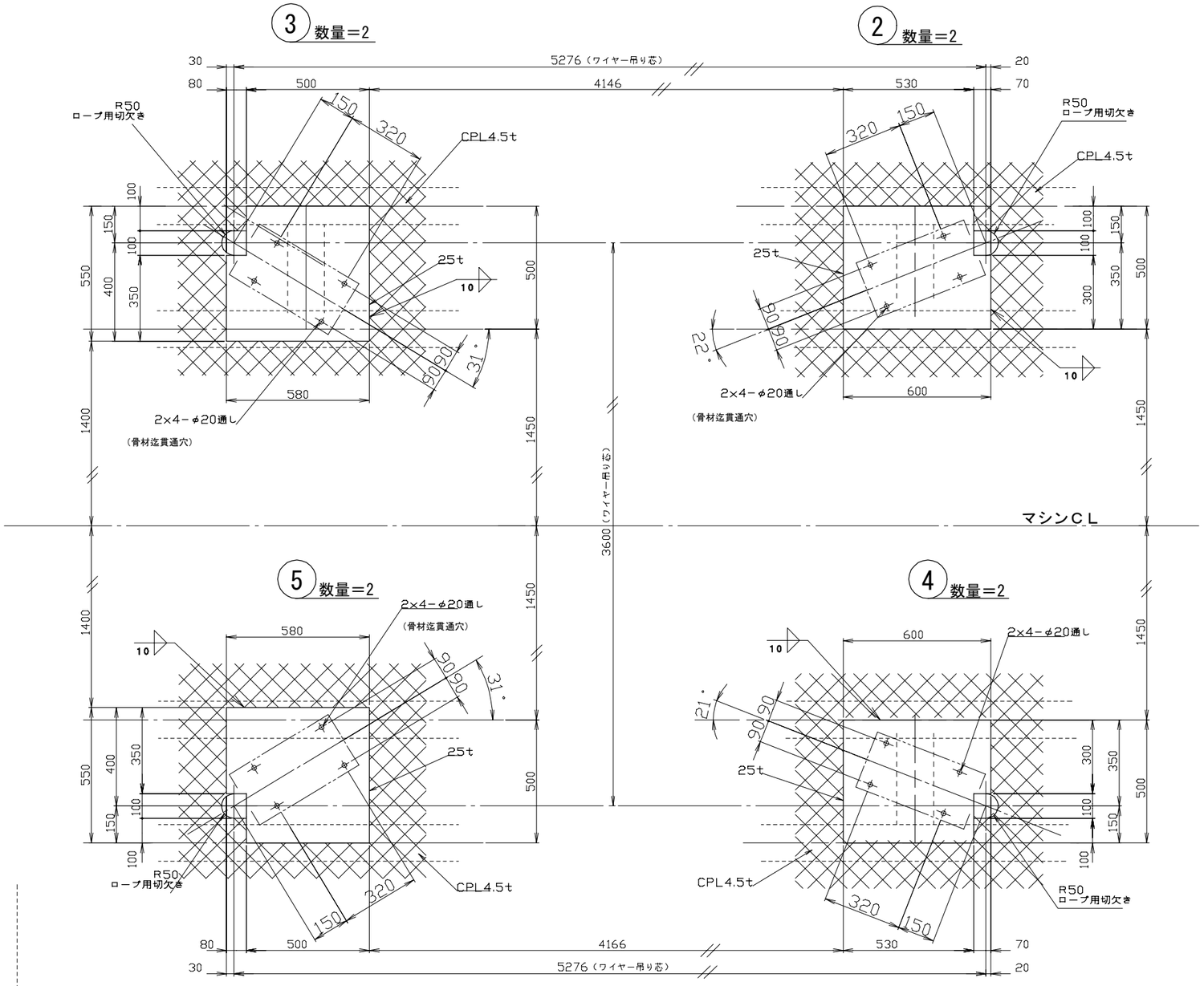




油圧ユニット

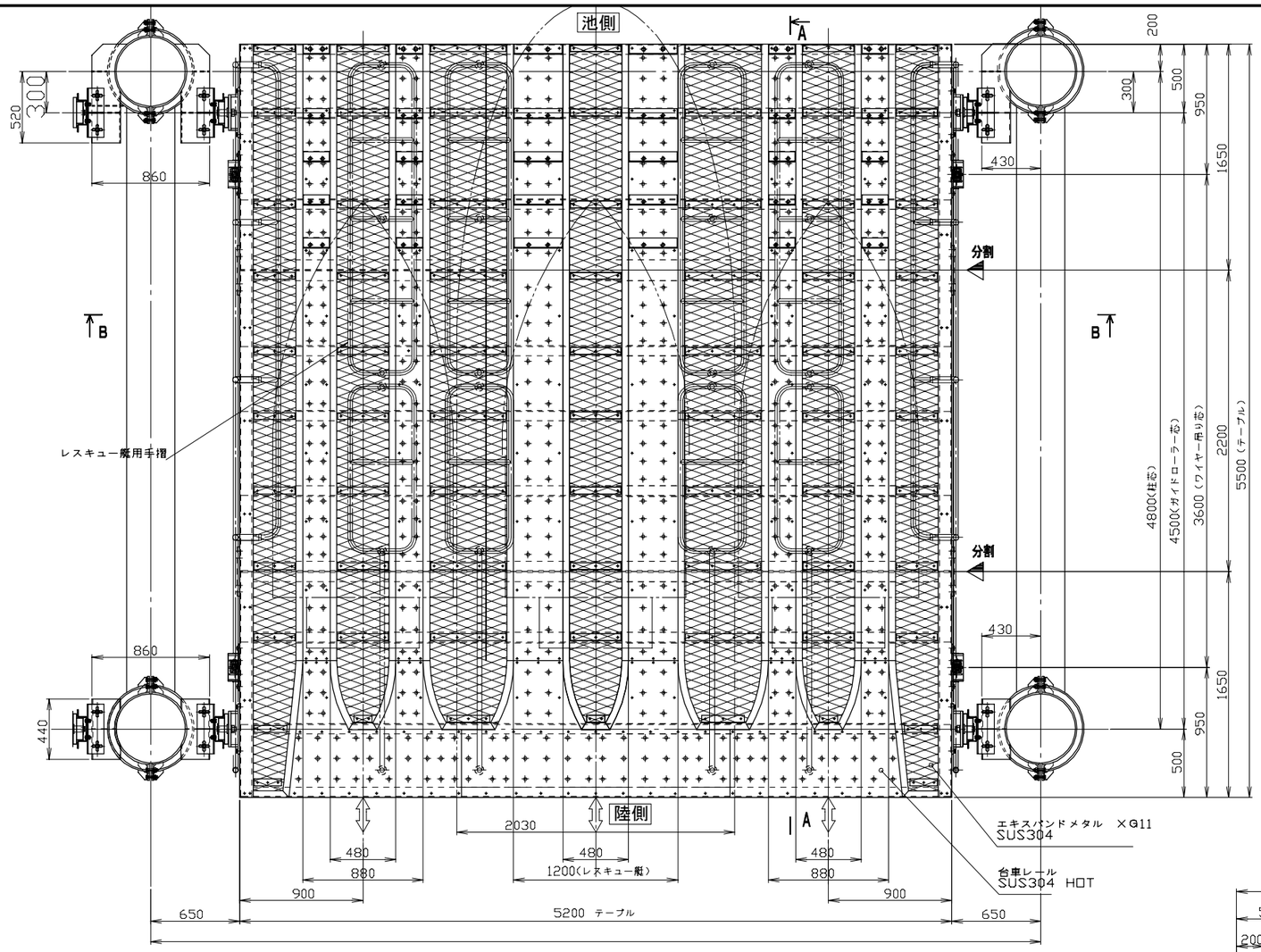
数量＝2

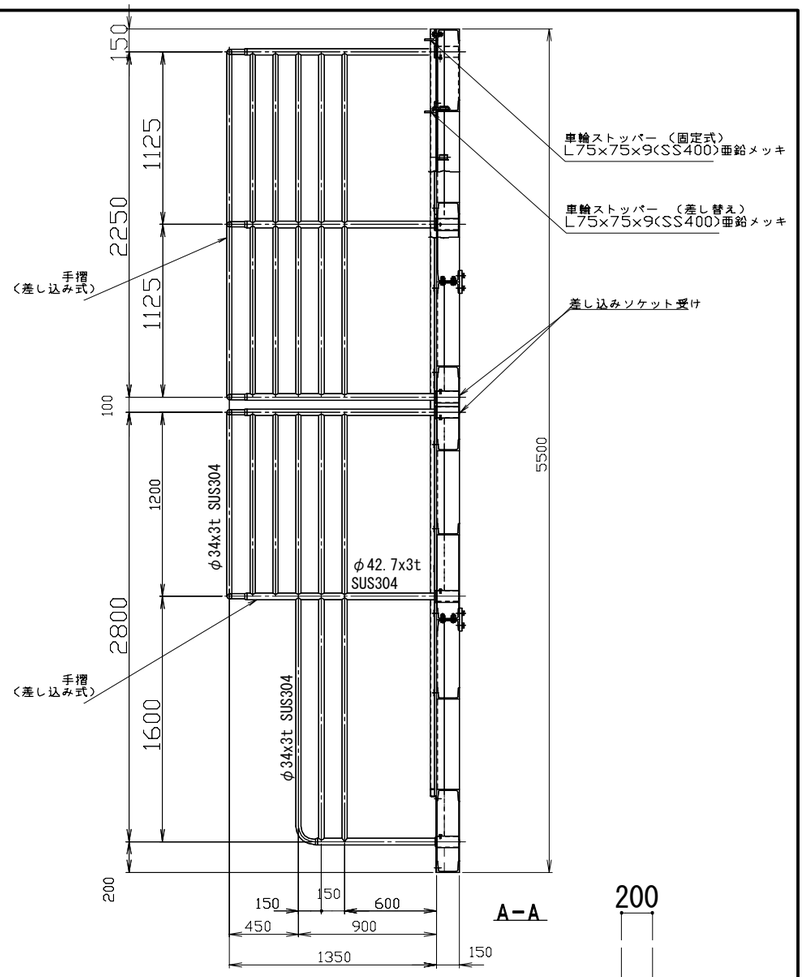


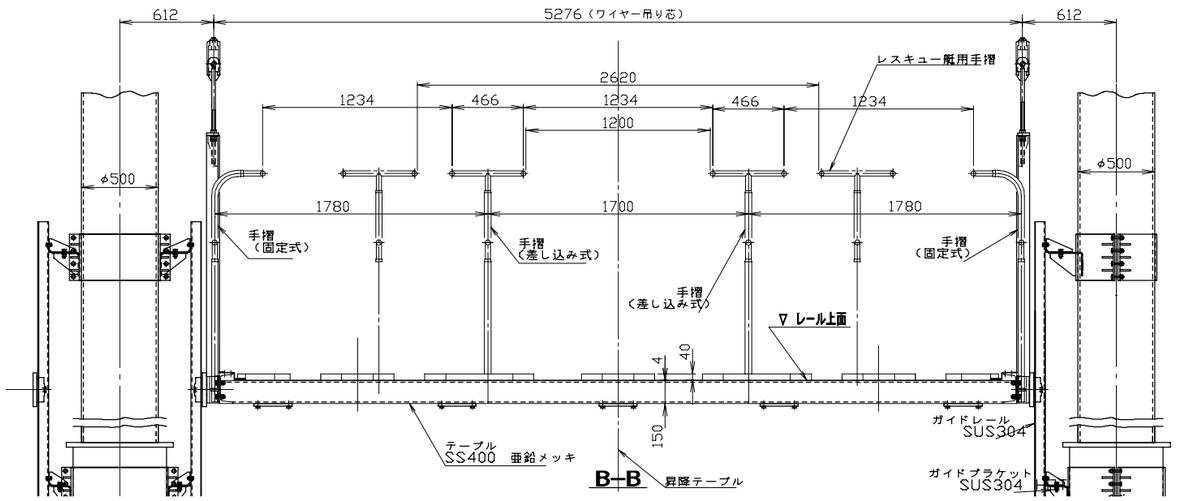


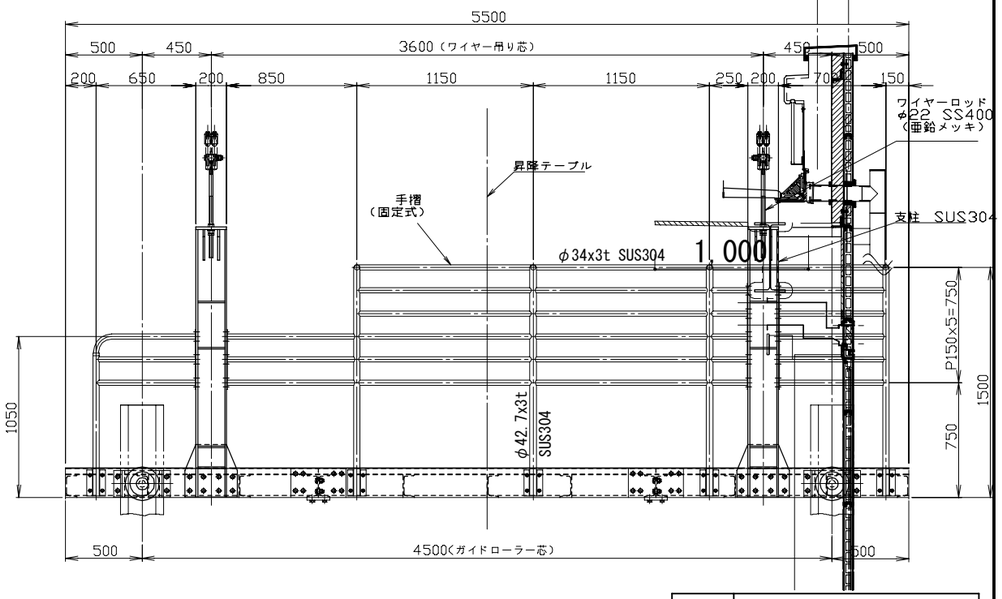
原図：A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室梁部材計画図（２）		
縮　尺	1/20	図面番号	231
下関市ボートレース企業局			



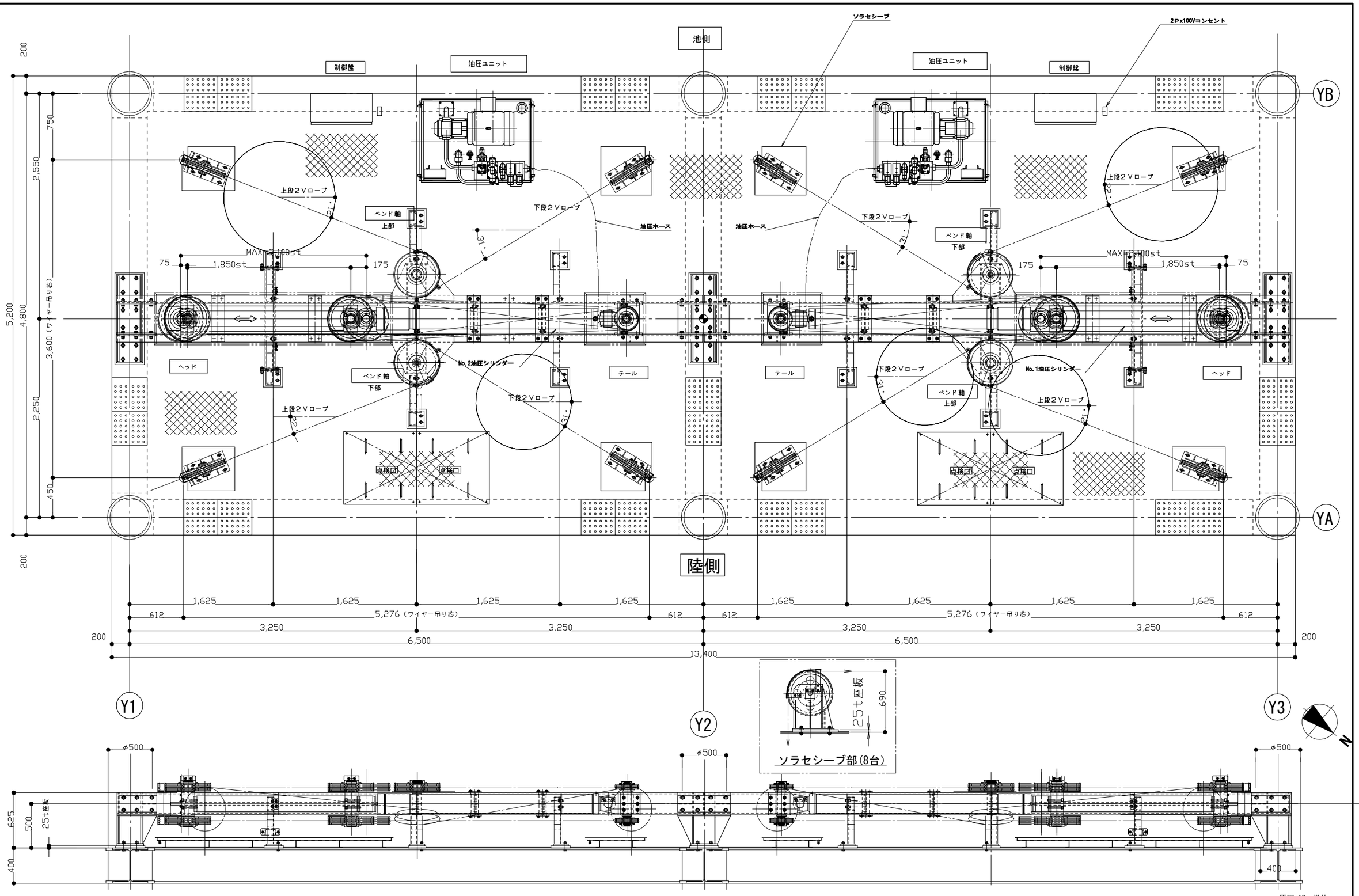






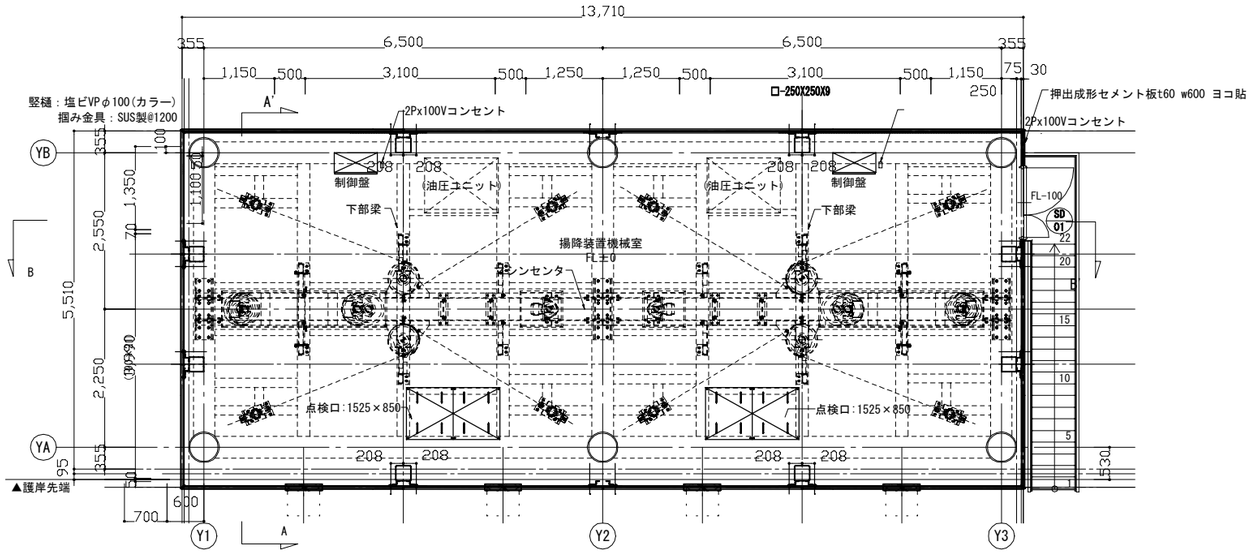
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置昇降テーブル組立図		
縮　尺	1/40	図面番号	232
下関市ボートレース企業局			

原図:A3、単位：mm

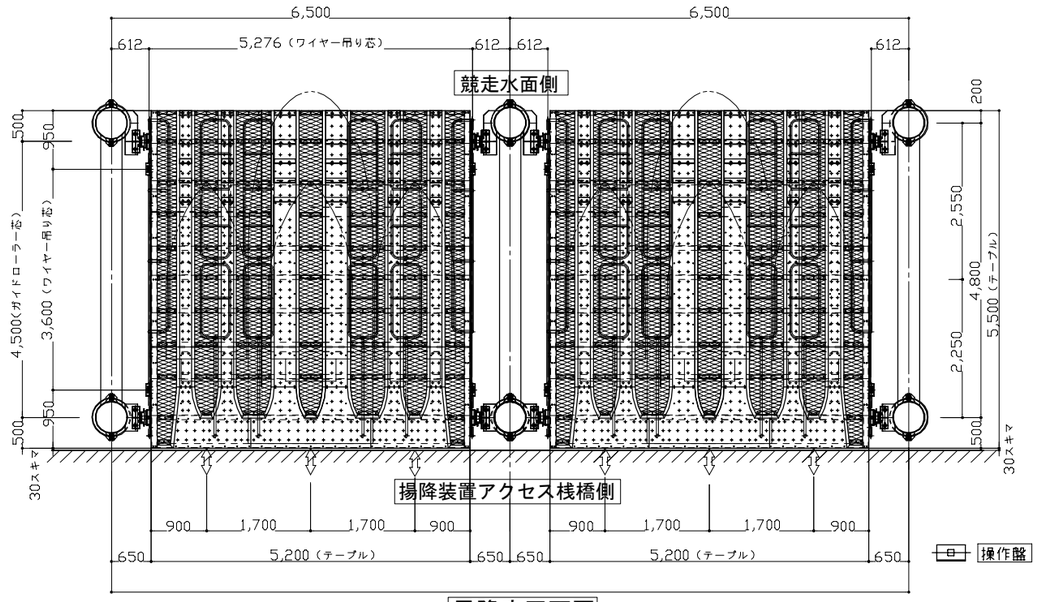


原図:A3、単位：mm

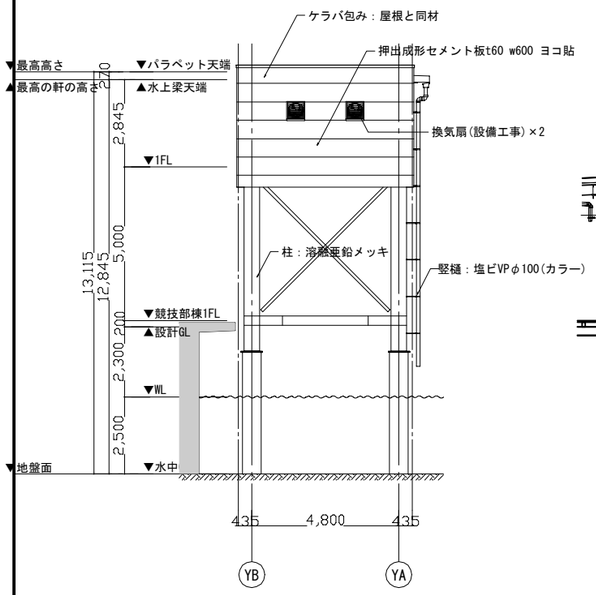
工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置駆動部組立図		
縮　尺	1/40	図面番号	233
下関市ポートレース企業局			



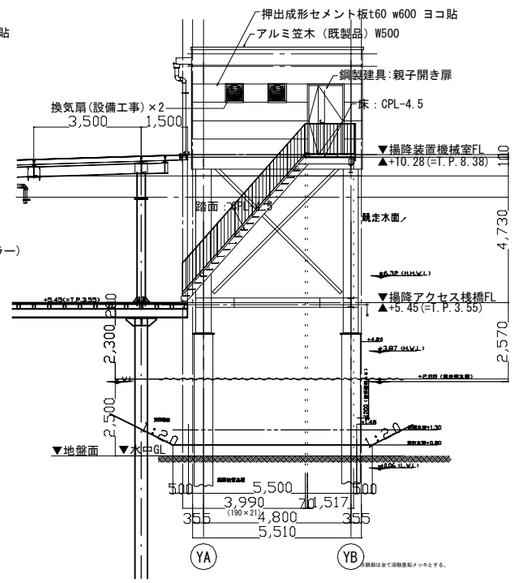
機械室平面図 S=1/100



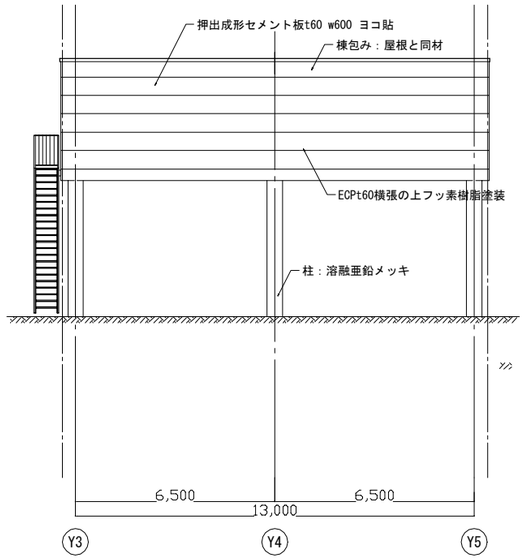
昇降床平面図（昇降テーブルは本設揚降装置に移設）



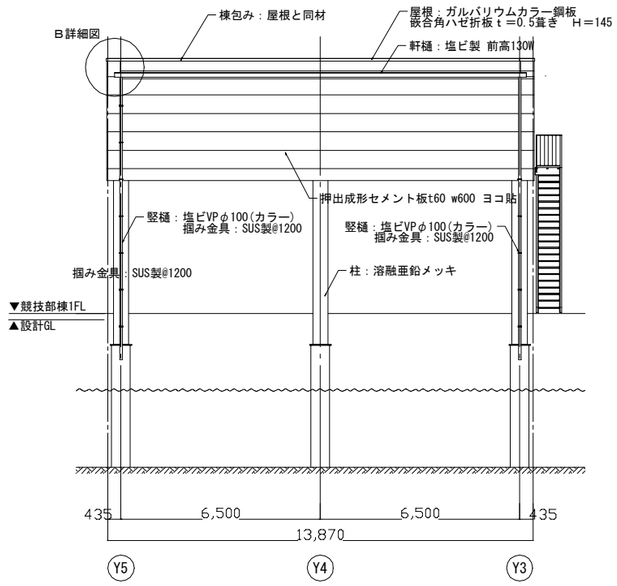
東側立面図 S=1/200



西側立面図 S=1/200



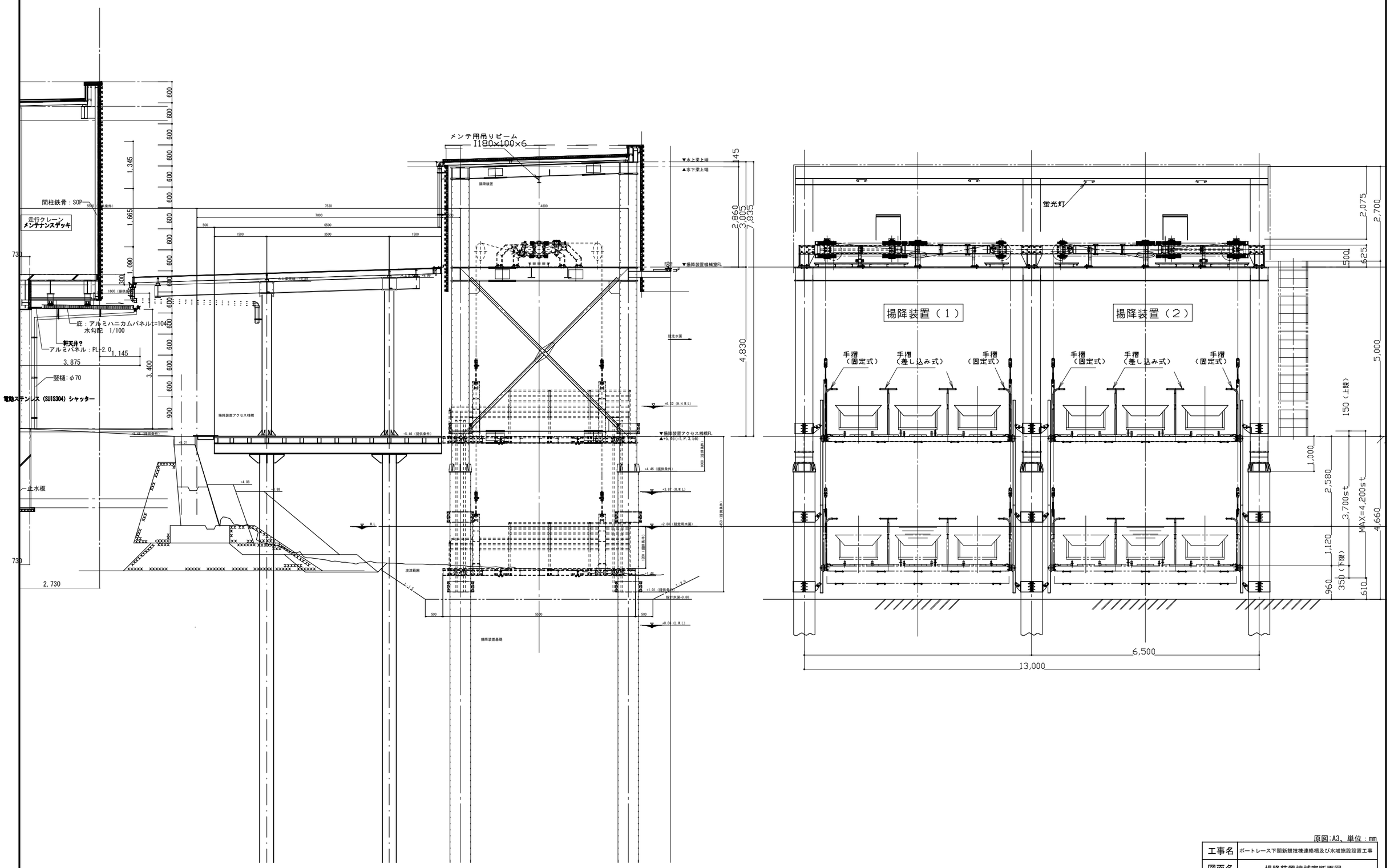
南側立面図 S=1/200



北側立面図 S=1/200

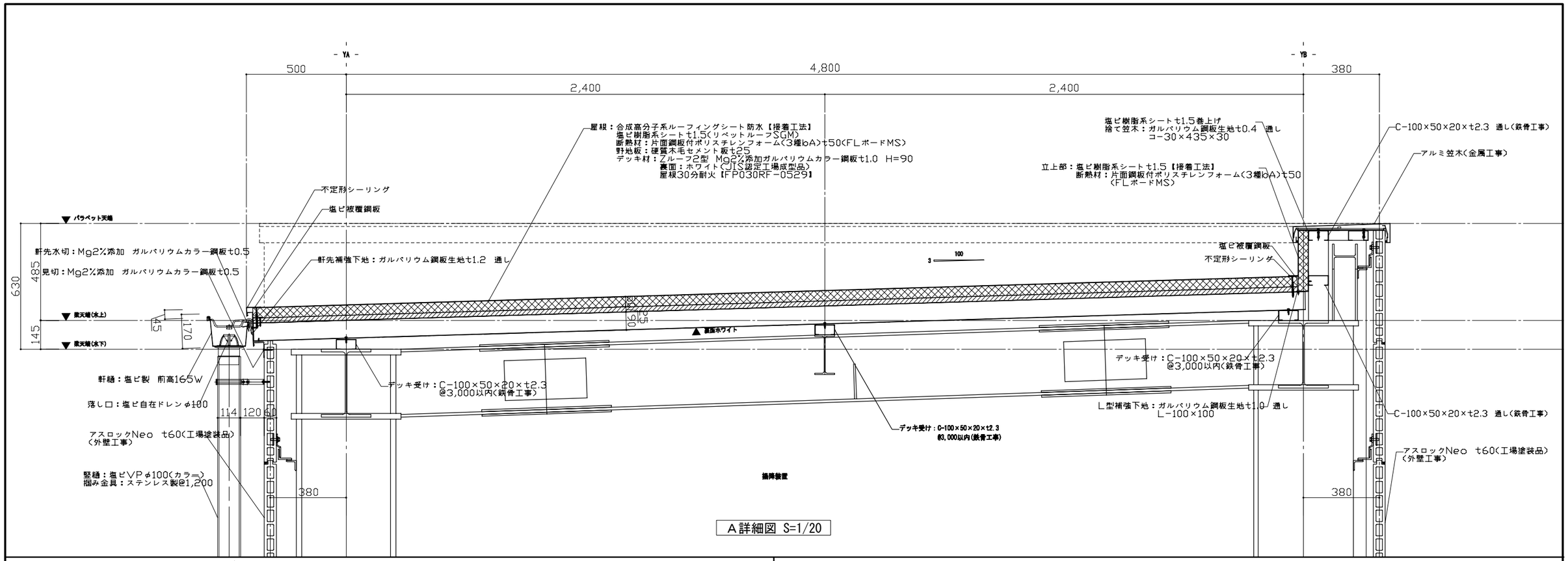
原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置全体組立図		
縮　尺	図示	図面番号	234
下関市ボートレース企業局			

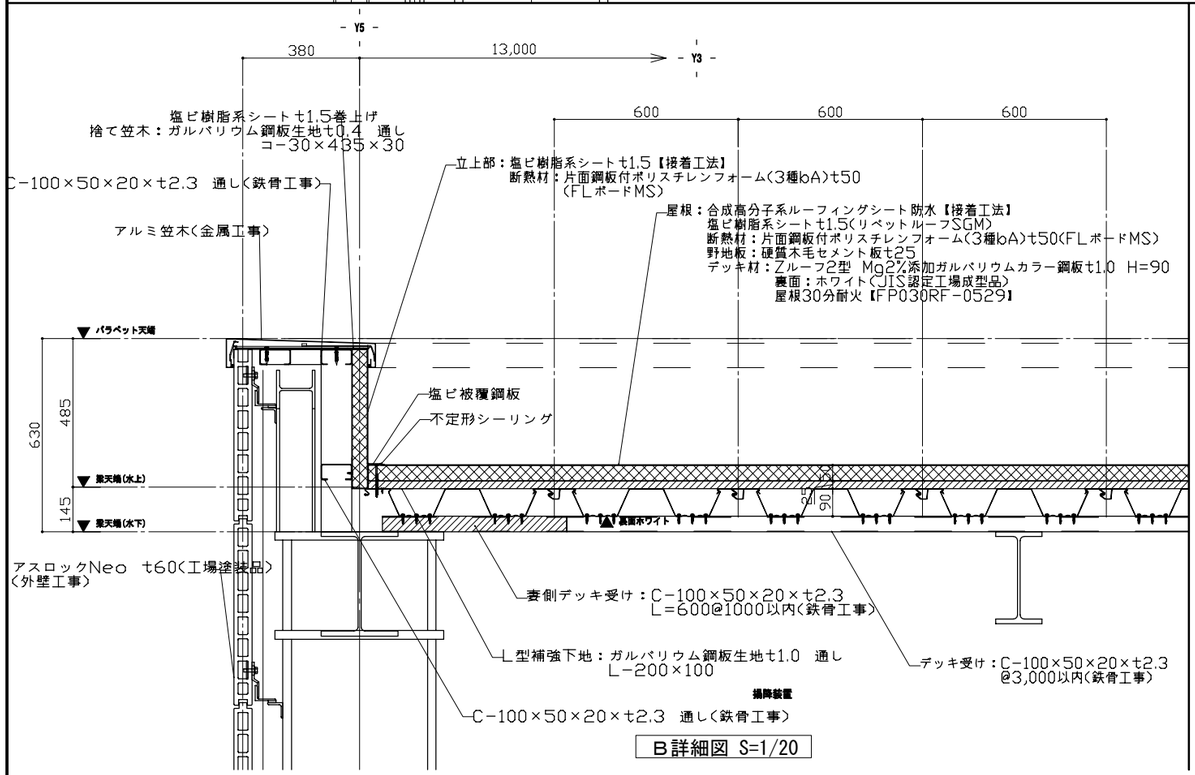


原図：A3、単位：mm

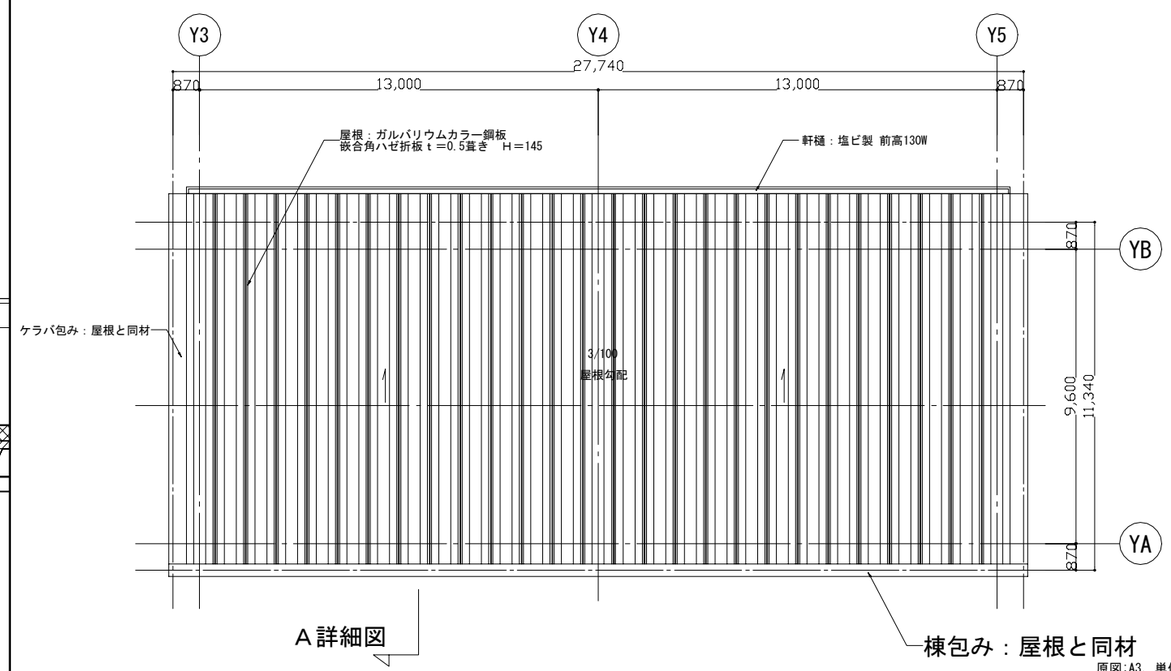
工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室断面図		
縮　尺	1/100	図面番号	235
下関市ポートレース企業局			



A詳細図 S=1/20



B詳細図 S=1/20

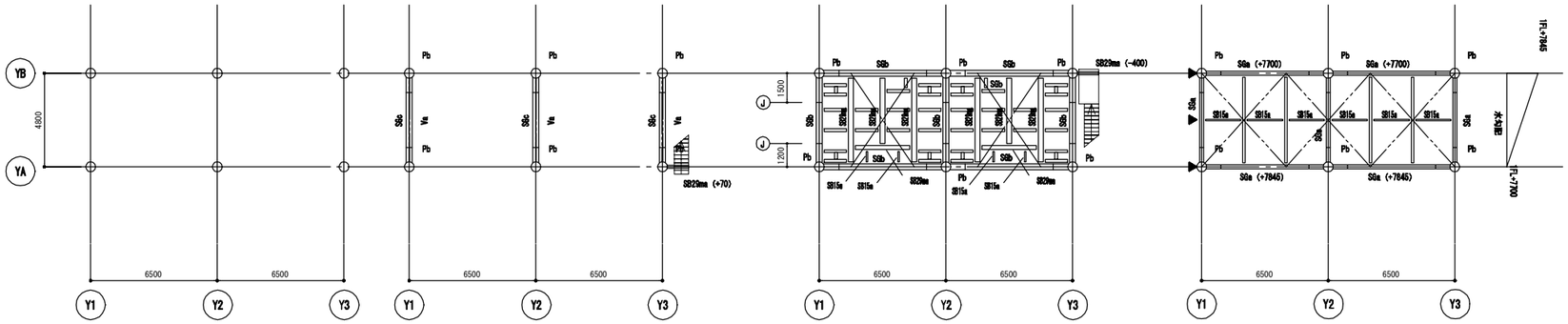


A詳細図

機械室屋根伏図 S=1/100

原図:A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室屋根詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	236
下関市ボートレース企業局			



杭伏図　1:300

1. 設計GL=TP+3.68m

1FL　1:300

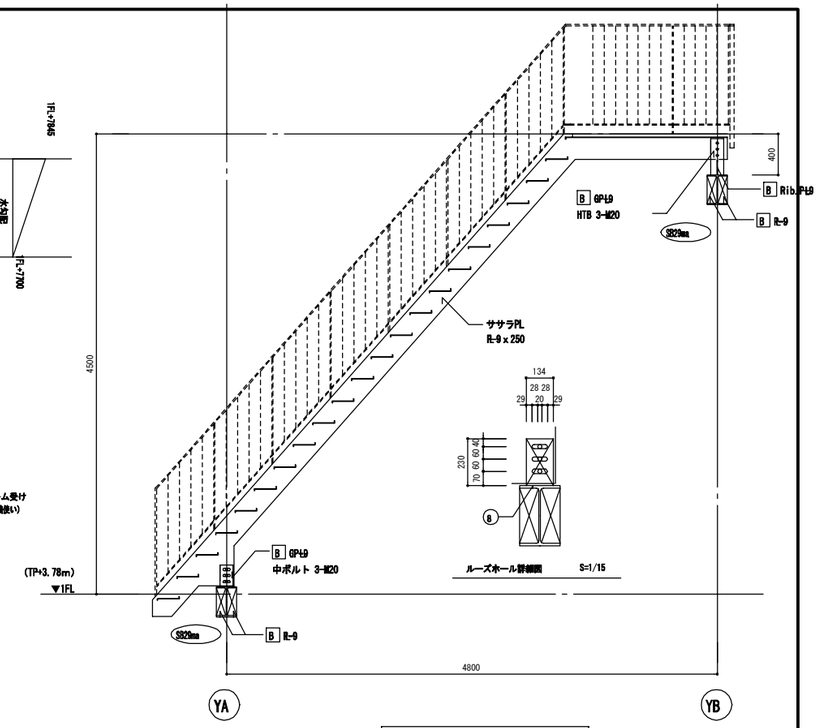
1. 1FL=設計GL+100 (TP+3.78m)
2. 鉄骨天端=1FL-220
3. 継手位置は柱芯より1000の位置とする
4. （ ）内値は1FLからの鉄骨天端レベルを示す。

1FL+4500　1:300

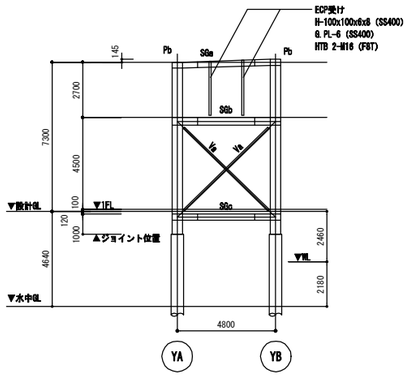
1. 小梁符号　SB30a（揚降装置受け鉄骨）
2. 水平符号　HVa
3. 鉄骨天端＝1FL+4500
4. ◀▶印：剛接合を示す
5. 継手位置は柱芯より1000の位置とする

1FL+7200　1:300

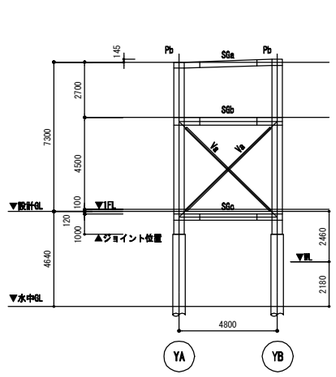
1. 小梁符号　SB25a
2. 水平符号　HVa
3. 鉄骨天端=水勾配による
4. 継手位置は柱芯より1000の位置とする
5. （ ）内値は1FLからの鉄骨天端レベルを示す。
6. ▶は2タイトフレーム受け C-100x50x20x2.3（溶接い）を示す



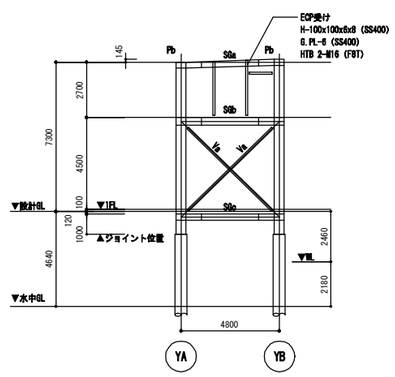
階段詳細図　1:30



Y1 通り軸組み図　1:300

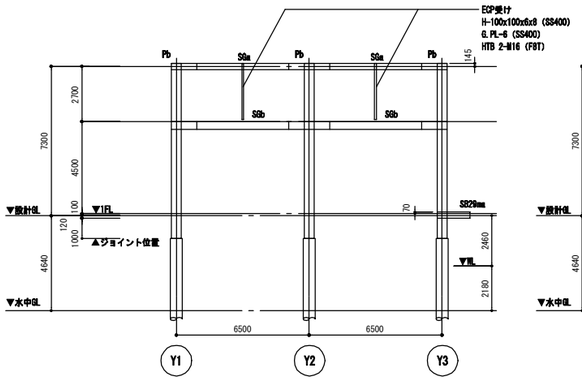


Y2 通り軸組み図　1:300

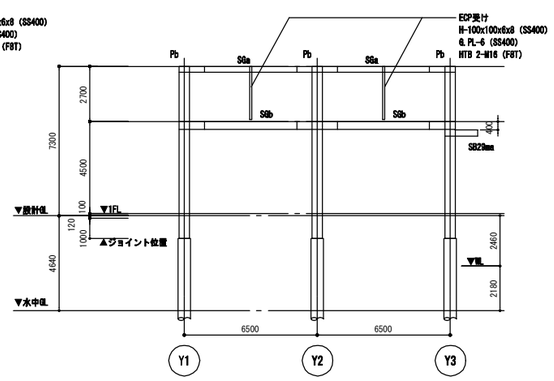


Y3 通り軸組み図　1:300

1. 設計GL=TP+3.68m



YA 通り軸組み図　1:300



YB 通り軸組み図　1:300

鉄骨柱大梁リスト・剛接合タイプ

符号	部材断面寸法（中央部材）	フランジ継手 H.T.BOLT	フランジ継手 $S_{RL}-1$	フランジ継手 $S_{RL}-2$	フランジ継手 $S_{RL}-L$	ウェブ継手 H.T.BOLT	ウェブ継手 N-M	ウェブ継手 E1	ウェブ継手 P1	ウェブ継手 $RL-3$
SGa	Ⓐ H-294x200x8x12	8 -M20	Ⓑ RL-9x200	Ⓑ 2PL 9x 80	530	6 -M20	2	3	87	60	Ⓑ 2PL 9x200x290
SGb	Ⓐ H-390x300x10x16	14 -M20	Ⓑ RL-12x300	Ⓑ 2PL12x110	710	12 -M20	3	4	105	60	Ⓑ 2PL 9x260x410
SGc	Ⓐ H-300x300x10x15	12 -M20	Ⓑ RL-12x300	Ⓑ 2PL12x110	620	12 -M20	3	3	90	60	Ⓑ 2PL 9x200x410
Pb	φ-600x22 (STK490)									
SB29mm	A H -294x200x8x12	6 -M20	B RL-9x200	B 2PL12x80	410	3 -M20	1	3	87	60	B 2PL 9x200x170

共通事項
1. 基本事項はS-000に従う
2. 鉄骨材質　無印：SS400　B印：SM400B　Ⓐ印：SM490A　A印：SM400A　C印：SM400C　Ⓒ印：SM490C
3. 鉄骨はすべて溶融亜鉛メッキとし高カボルトはF8Tとする。
4. 大梁は杭施工後に柱芯位置を計測し部材長さを決定することとする。

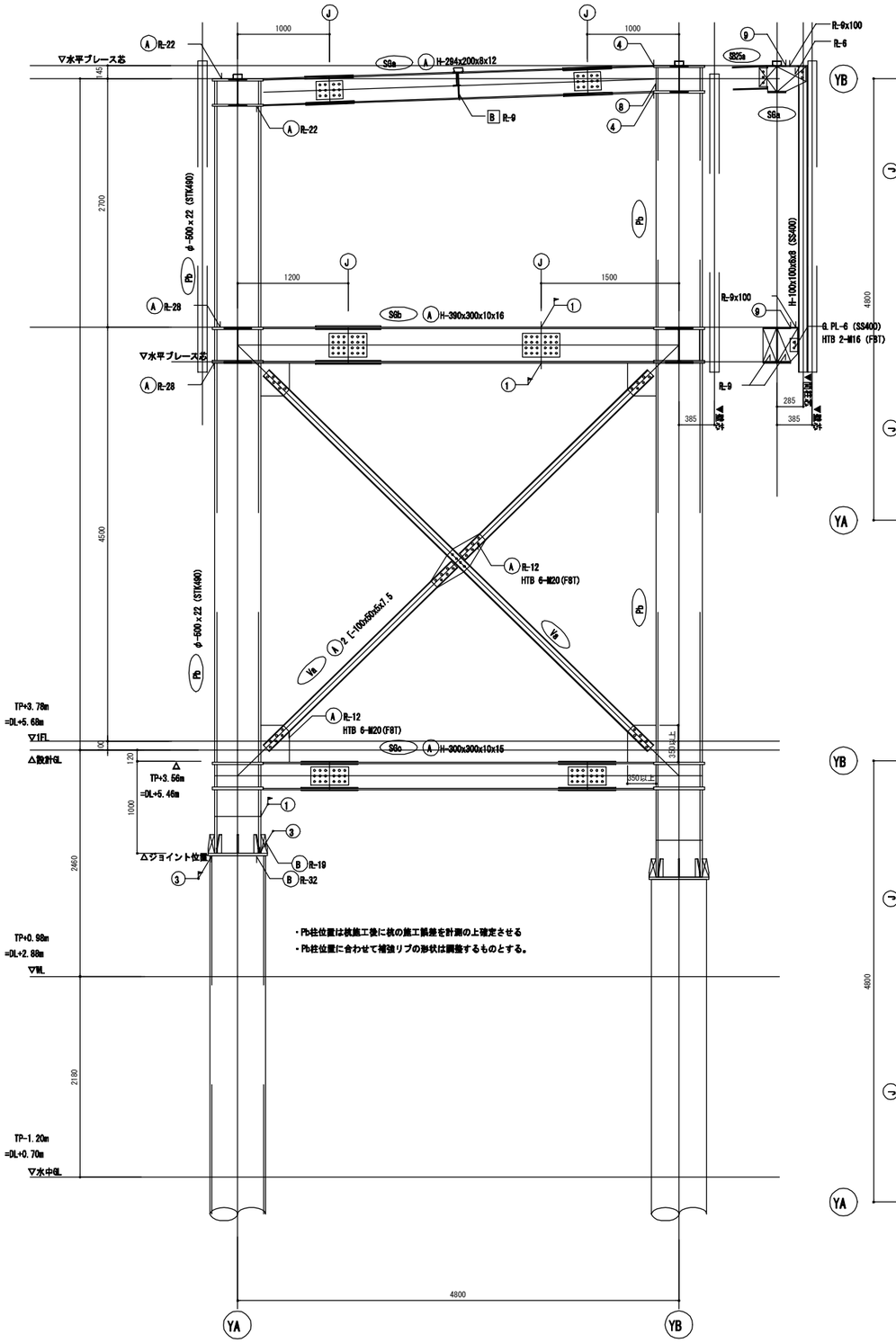
鉄骨小梁リスト・ピン接合タイプ

符号	部材断面寸法	継手タイプ	ウェブ継手 H.T.BOLT	ウェブ継手 N-M		ウェブ継手 P1	$RL-A$	$2S_{RL}-B$	備考
SB15a	A H -150x75x5x7	A	2-M16	2	1	60	B RL-9	-	
SB25a	A H -250x125x6x9	A	3-M20	1	3	60	B RL-9	-	
SB29mm	A H -294x200x8x12	A	4-M20	1	4	60	B RL-9	-	
SB30a	A H -300x150x6.5x9	A	3-M20	1	3	60	B RL-9	-	
HVa	L -70x70x6	A	3-M16	1	3	60	B RL-9	-	
Va	Ⓐ2 [-100x50x5x7.5	A	6-M20	2	3	60	Ⓐ RL-12	-	

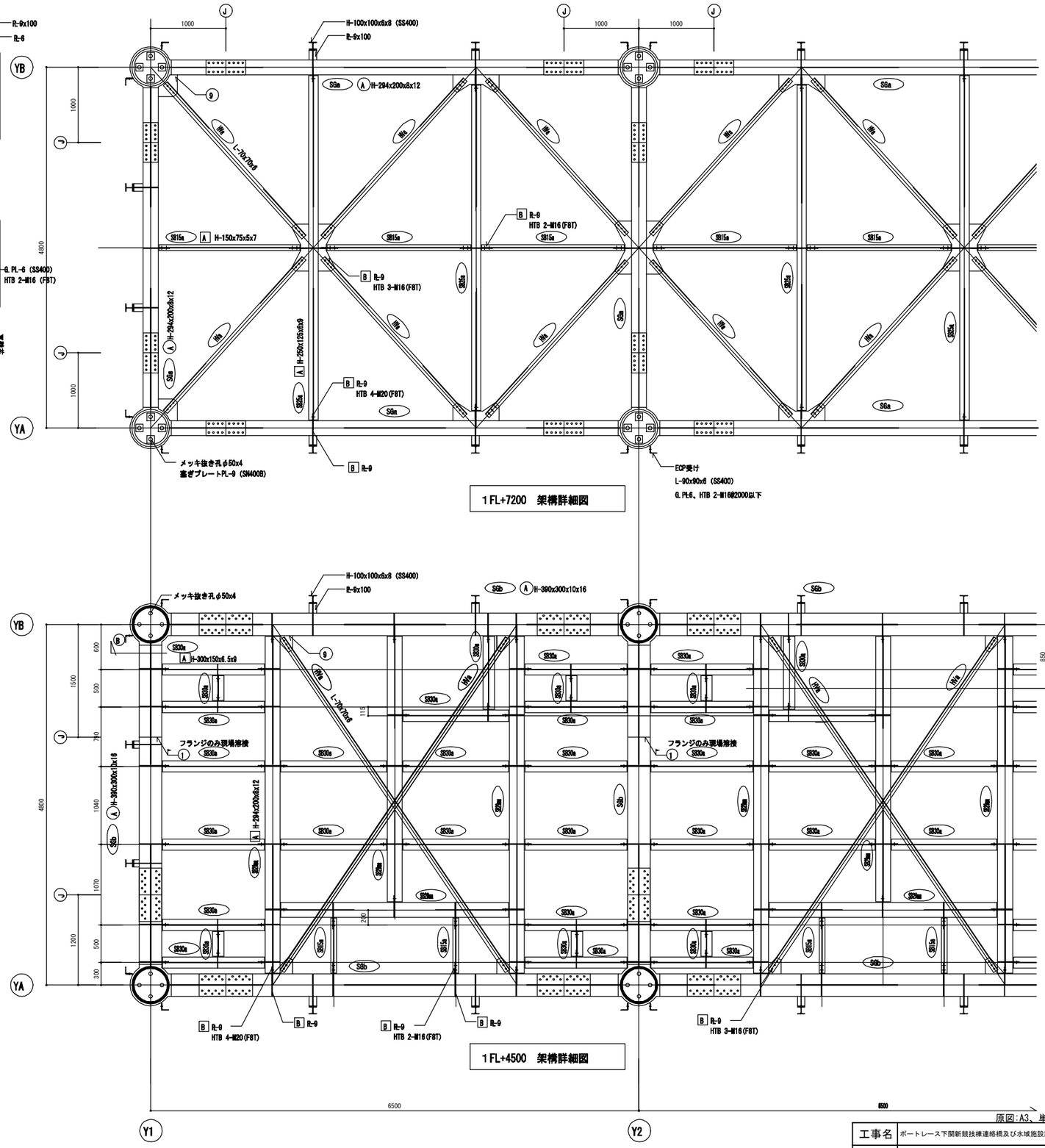
共通事項
1. 基本事項はS-000に従う
2. 鉄骨材質　無印：SS400　B印：SM400B　Ⓐ印：SM490A　A印：SM400A　C印：SM400C　Ⓒ印：SM490C
3. 鉄骨はすべて溶融亜鉛メッキとし高カボルトはF8Tとする。

原図:A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨構造図		
縮　尺	図示	図面番号	237
下関市ポートレース企業局			



Y1 通り　架構詳細図

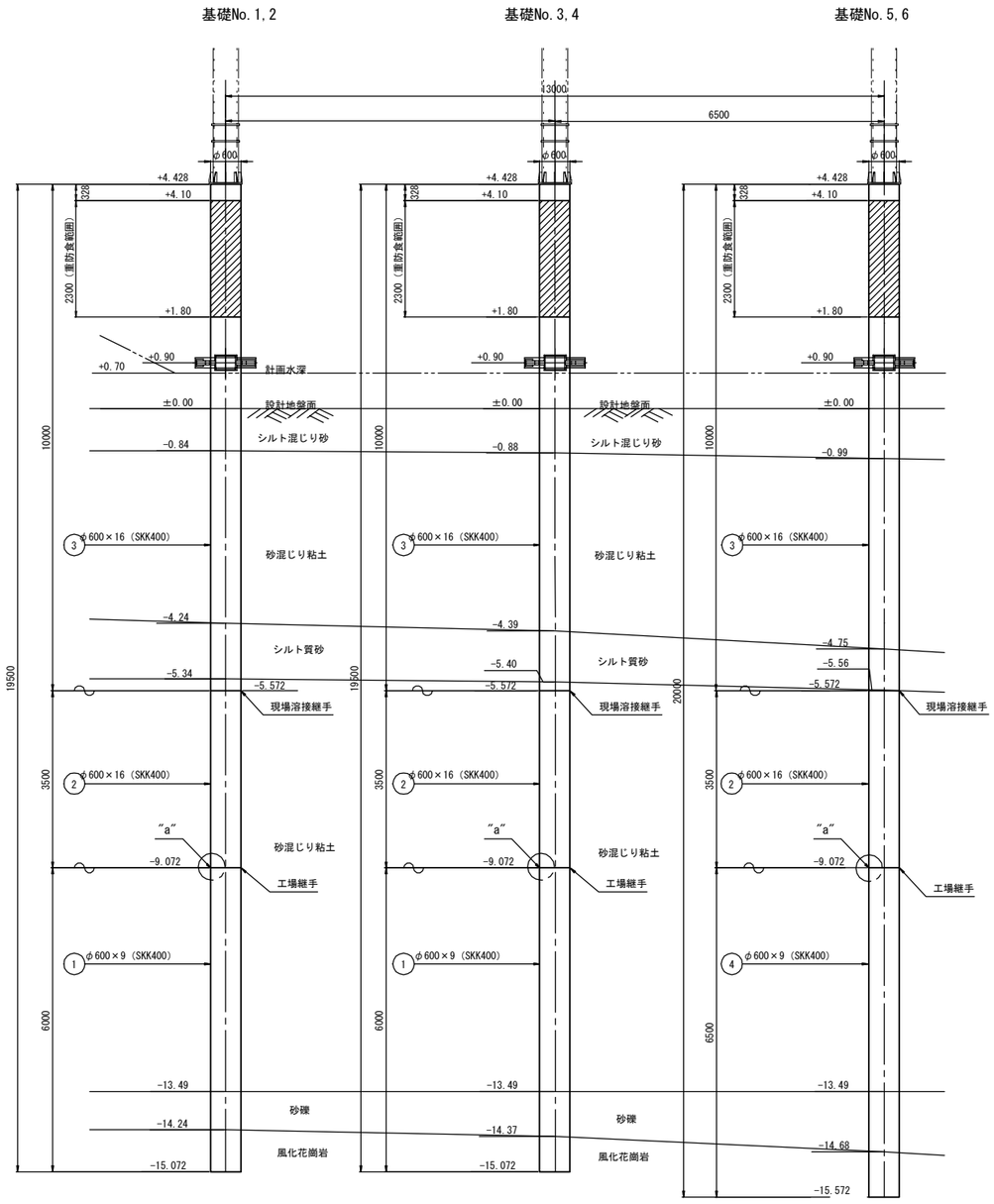


原図:A3、単位：mm

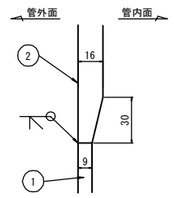
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	鉄骨架構詳細図		
縮　尺	1/60	図面番号	238
下関市ボートレース企業局			

揚降装置基礎詳細図

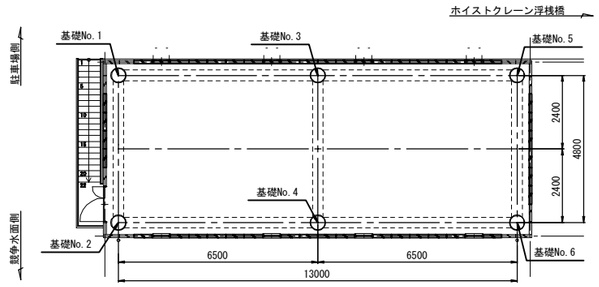
揚降装置基礎　S＝1：120



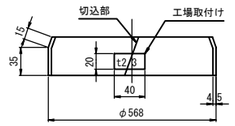
"a"部詳細図　S＝1：4



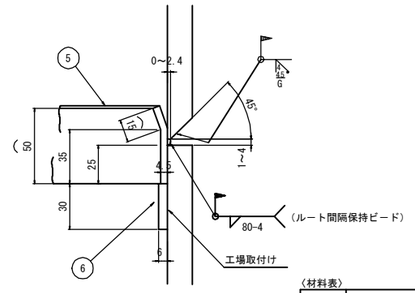
配 置 図　S＝1：200



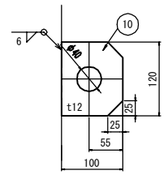
裏当てリングの形状　no scale



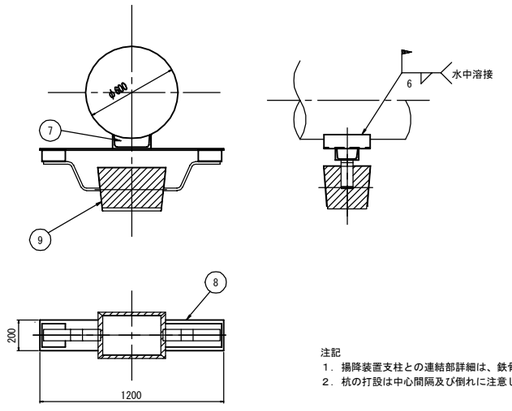
現場溶接継手部詳細　S＝1：4



吊金具　S＝1：10



電気防食用陽極　S＝1：40



注記
1．揚降装置支柱との連結部詳細は、鉄骨架構詳細図を参照のこと。
2．杭の打設は中心間隔及び倒れに注意して施工のこと。

（材料表）

番　号	規　　格	個数	材　　質
	基礎No.1～基礎No.4		
1	鋼管杭　φ600 x 9 x 6000	1	SKK400
2	鋼管杭　φ600 x 16 x 3500	1	SKK400
3	鋼管杭　φ600 x 16 x 10000	1	SKK400
5	FB- 50 x 4.5 x 1770	1	SS400
6	PL- 25 x 6 x 30	4	SS400
7	C- 250 x 90 x 9/13 x 300	1	SS400
8	PL- 200 x 12 x 1200	1	SS400
9	電気防食用陽極 （耐用年数 50年－1.0A）	1	アルミ合金
10	PL- 100 x 12 x 120	4	SM490A
	基礎No.5,6		
2	鋼管杭　φ600 x 16 x 3500	1	SKK400
3	鋼管杭　φ600 x 16 x 10000	1	SKK400
4	鋼管杭　φ600 x 9 x 6500	1	SKK400
5	FB- 50 x 4.5 x 1770	1	SS400
6	PL- 25 x 6 x 30	4	SS400
7	C- 250 x 90 x 9/13 x 300	1	SS400
8	PL- 200 x 12 x 1200	1	SS400
9	電気防食用陽極 （耐用年数 50年－1.0A）	1	アルミ合金
10	PL- 100 x 12 x 120	4	SM490A

注；数量は基礎1本分を示す。
基礎No.1～基礎No.6各1本、計6本製作のこと。

原図:A3、単位：mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置基礎詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	239
下関市ボートレース企業局			

計画平面図　　S＝1：400

参考図

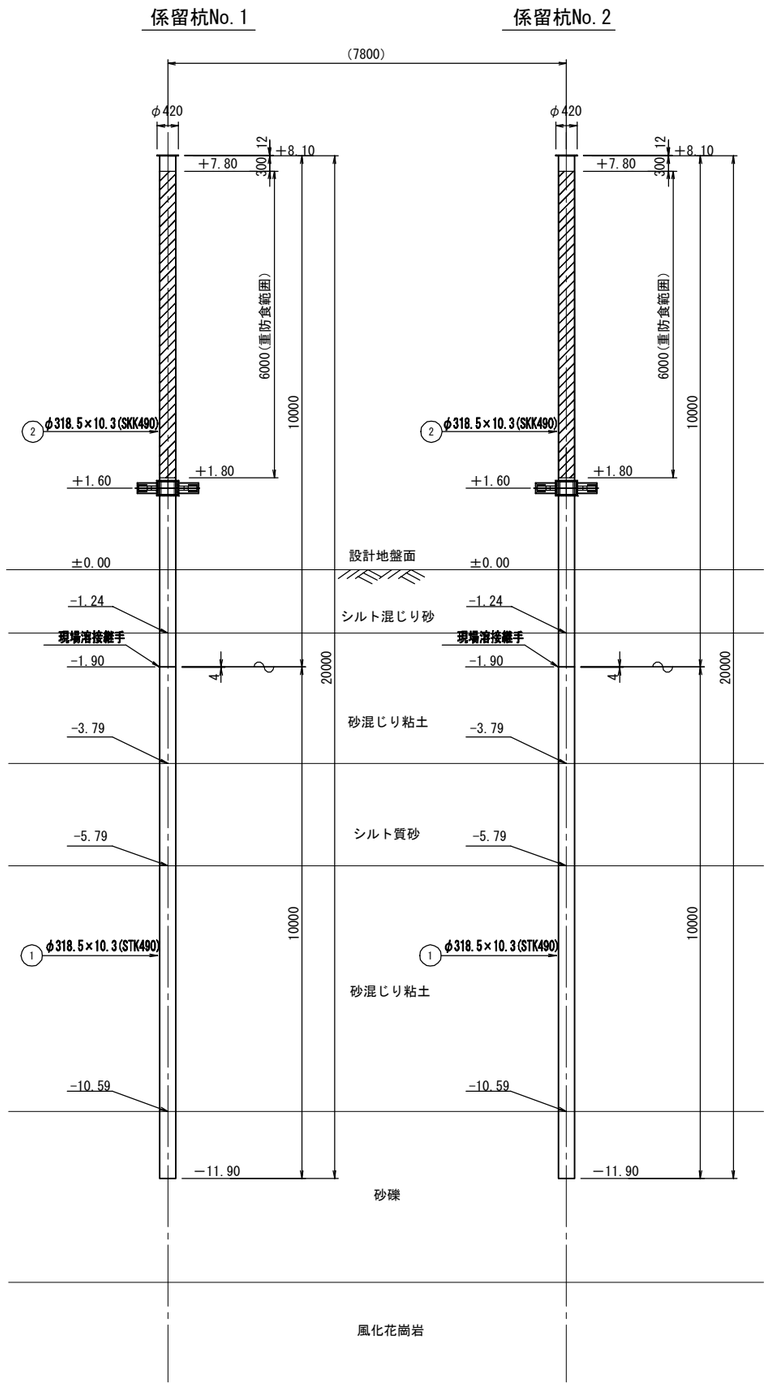
注記
1．本図は参考図とする。既設発着ピット移設先は、発注者と協議のこと。

原図:A3、単位：m

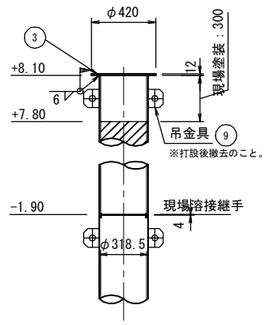
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	計画平面図		
縮　尺	1/400	図面番号	240
下関市ボートレース企業局			

係留杭詳細図　　S＝1：120

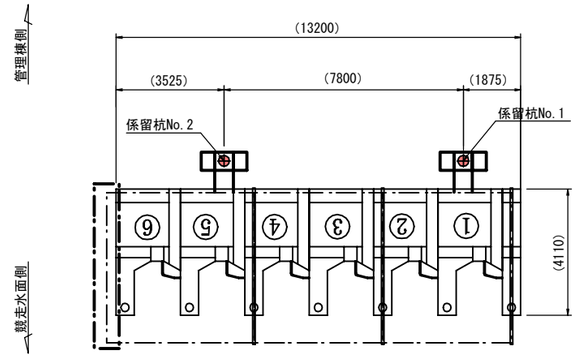
係留杭
(S=1:120)



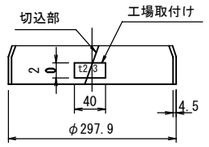
杭頭部詳細図
(S=1:40)



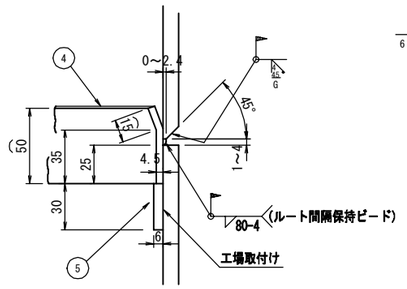
配置図
(S=1:200)



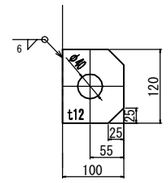
裏当てリングの形状



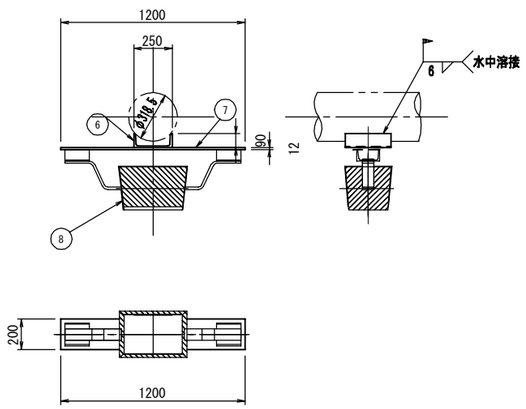
現場溶接継手部詳細
(S=1:4)



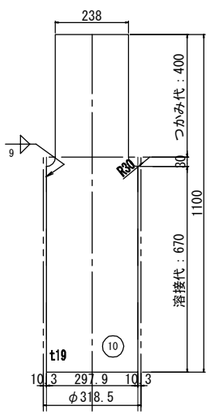
吊金具 (S=1:10)



電気防食用陽極



チャッキングプレート



番号	規格	個数	材質
①	鋼管杭 φ318.5 x 10.3 x 10000	1	SKK490
②	鋼管杭 φ318.5 x 10.3 x 10000	1	SKK490
③	PL- φ420 x 12	1	SS400
④	FB- 50 x 4.5 x 922	1	SS400
⑤	FB- 25 x 6 x 30	4	SS400
⑥	C- 250 x 90 x 9/13 x 300	1	SS400
⑦	FB- 200 x 12 x 1200	1	SS400
⑧	電気防食用陽極 (耐用年数 50年－1.0A)	1	アルミ合金
⑨	PL- 100 x 12 x 120	4	SM490A
⑩	PL- 298 x 19 x 1100	2	SS400

注；数量は係留杭1本を示す。2本製作のこと。
SKK490が入手困難な場合は、相当品を使用のこと。

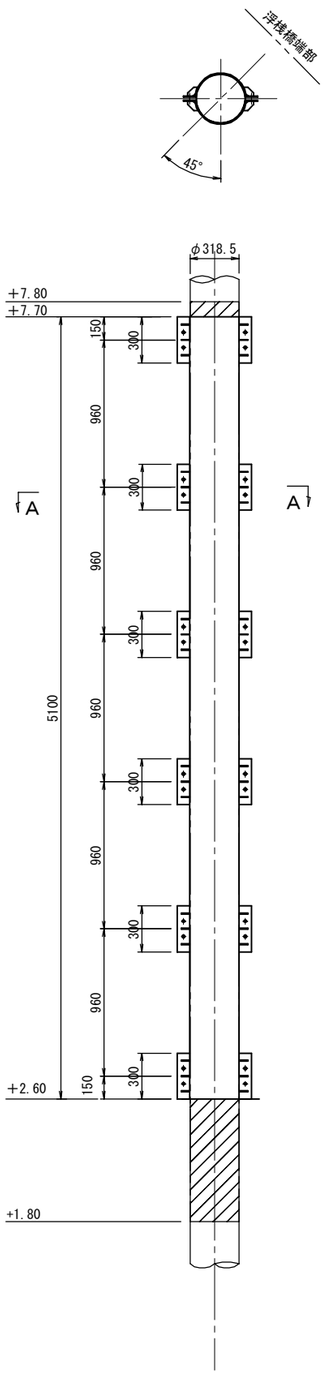
注記
1. 打設位置は発注者と調整のこと。
2. 杭の打設は中心間隔及び倒れに注意して施工のこと。
3. 係留杭打設工事時期は、発注者と協議のこと。

原図:A3、単位：mm

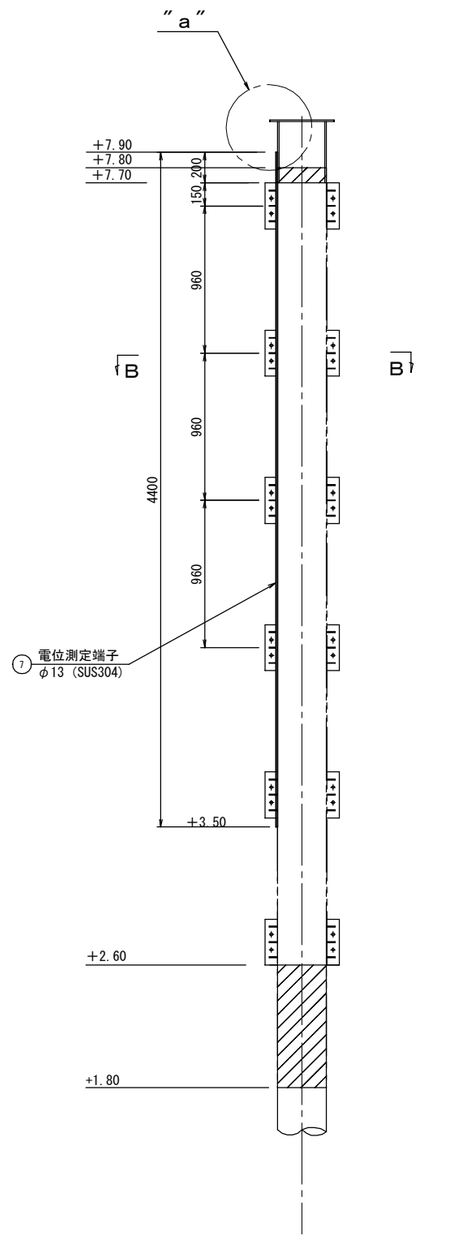
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	既設発着ピット_係留杭詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	241
下関市ボートレース企業局			

戸当り詳細図　　S＝1：40

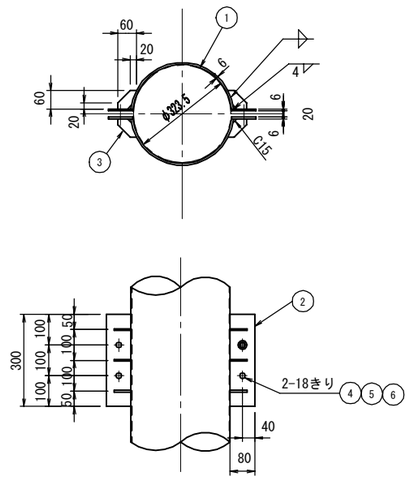
戸当り



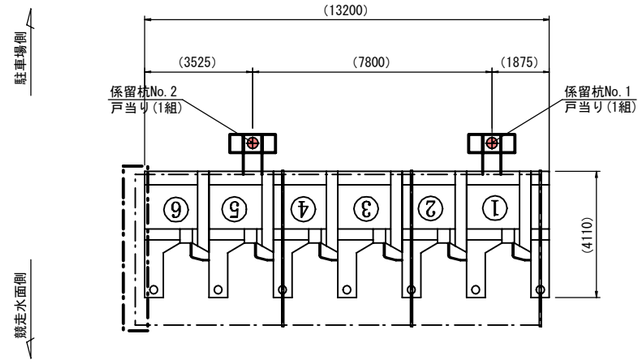
電位測定端子詳細図



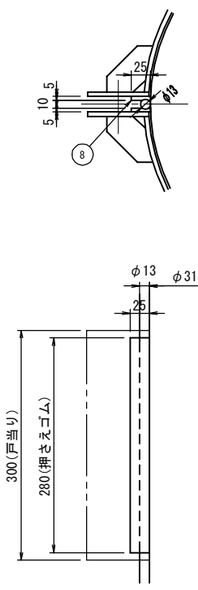
A－A
(S=1:20)



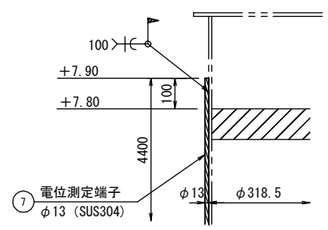
配置図
(S=1:200)



B－B
(S=1:8)



"a"部詳細
(S=1:20)



番号	規格	個数	材質	摘要
	係留杭No.1,No.2			
①	PL- 486 x 6 x 5100	2	SUS304	
②	PL- 80 x 6 x 300	24	SUS304	
③	PL- 60 x 6 x 60	72	SUS304	NET 58%
④	六角ボルト M16 x 60	24	SUS304	
⑤	六角ナット M16(1種)	24	SUS304	
⑥	ばね座金　M16	24	SUS304	
⑦	電位測定端子　φ13 x 4400	1	SUS304	
⑧	押さえゴム PL-25 x 5 x 280	10	合成ゴム	

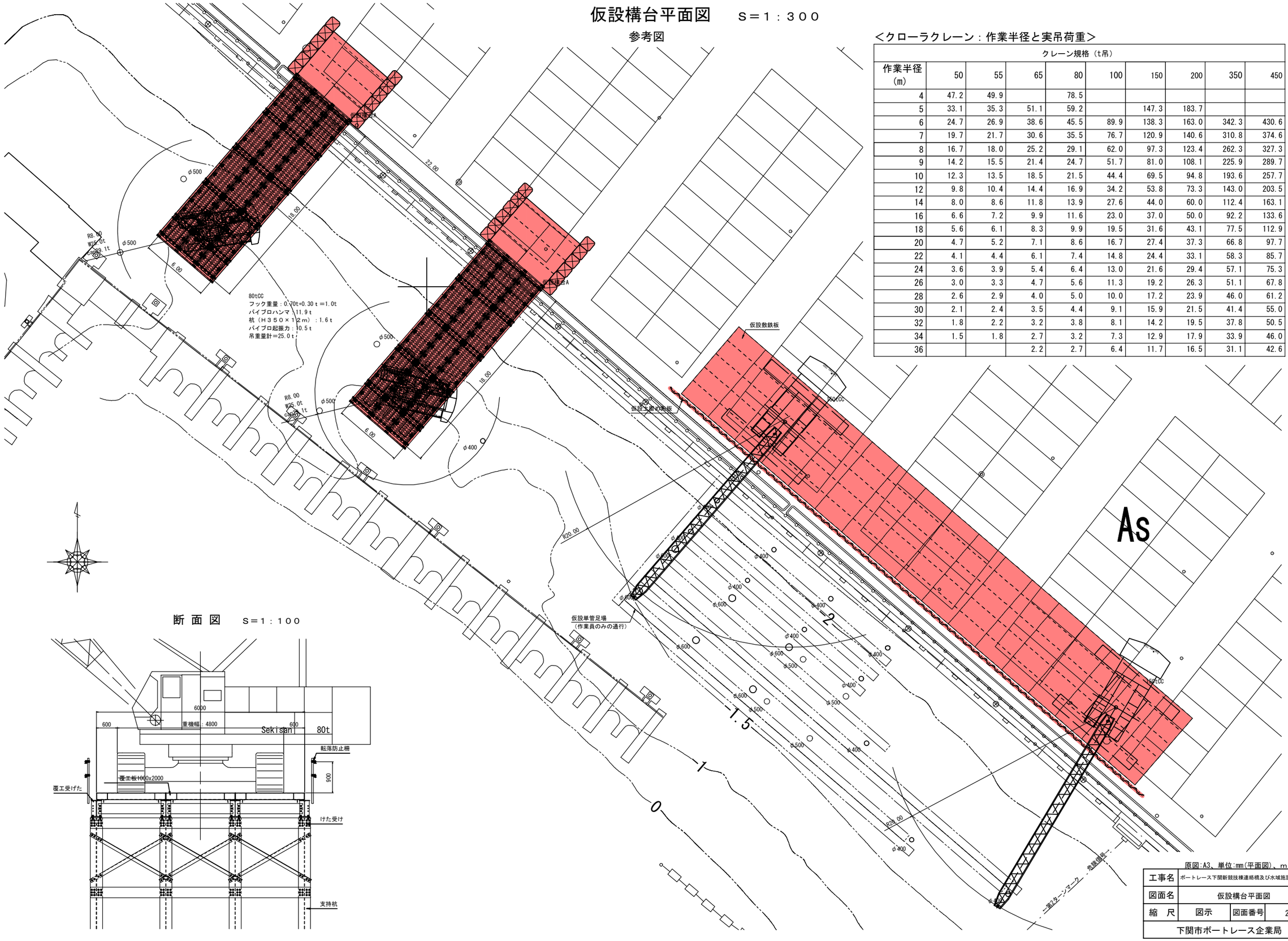
注；1.数量は係留杭1本を示す。2本製作のこと。
2.電位測定端子は現場溶接とし、その後現場塗装を施すこと。
3.電位測定端子取付方向は、係留ローラー取付方向と重複しないこと。
4.押さえゴムと戸当りは接着すること。

原図:A3、単位：mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	既設発着ピット_戸当り詳細図		
縮　尺	図示	図面番号	242
下関市ボートレース企業局			

仮設構台平面図　S＝1：300

参考図



＜クローラクレーン：作業半径と実吊荷重＞

作業半径 (m)	クレーン規格（t吊）								
	50	55	65	80	100	150	200	350	450
4	47.2	49.9		78.5					
5	33.1	35.3	51.1	59.2		147.3	183.7		
6	24.7	26.9	38.6	45.5	89.9	138.3	163.0	342.3	430.6
7	19.7	21.7	30.6	35.5	76.7	120.9	140.6	310.8	374.6
8	16.7	18.0	25.2	29.1	62.0	97.3	123.4	262.3	327.3
9	14.2	15.5	21.4	24.7	51.7	81.0	108.1	225.9	289.7
10	12.3	13.5	18.5	21.5	44.4	69.5	94.8	193.6	257.7
12	9.8	10.4	14.4	16.9	34.2	53.8	73.3	143.0	203.5
14	8.0	8.6	11.8	13.9	27.6	44.0	60.0	112.4	163.1
16	6.6	7.2	9.9	11.6	23.0	37.0	50.0	92.2	133.6
18	5.6	6.1	8.3	9.9	19.5	31.6	43.1	77.5	112.9
20	4.7	5.2	7.1	8.6	16.7	27.4	37.3	66.8	97.7
22	4.1	4.4	6.1	7.4	14.8	24.4	33.1	58.3	85.7
24	3.6	3.9	5.4	6.4	13.0	21.6	29.4	57.1	75.3
26	3.0	3.3	4.7	5.6	11.3	19.2	26.3	51.1	67.8
28	2.6	2.9	4.0	5.0	10.0	17.2	23.9	46.0	61.2
30	2.1	2.4	3.5	4.4	9.1	15.9	21.5	41.4	55.0
32	1.8	2.2	3.2	3.8	8.1	14.2	19.5	37.8	50.5
34	1.5	1.8	2.7	3.2	7.3	12.9	17.9	33.9	46.0
36			2.2	2.7	6.4	11.7	16.5	31.1	42.6

断 面 図　S＝1：100

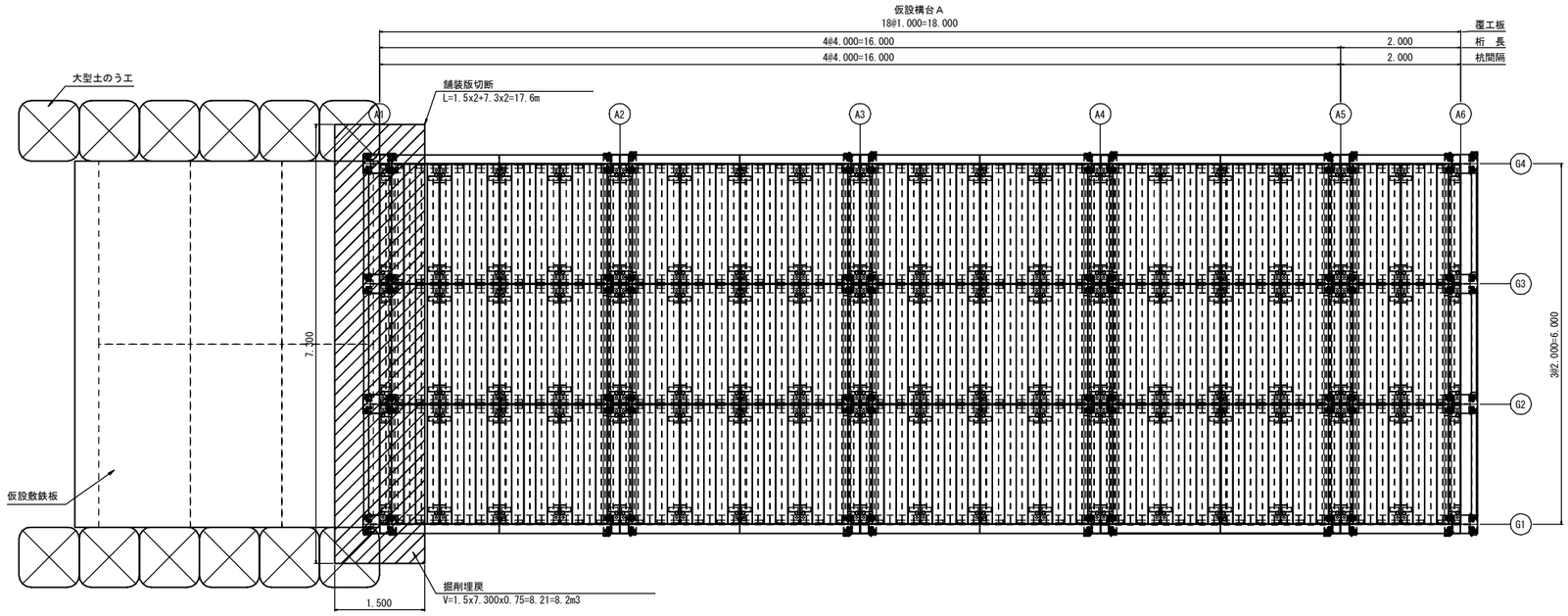
原図：A3、単位：mm（平面図）、m（断面図）

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	仮設構台平面図		
縮　尺	図示	図面番号	243
下関市ボートレース企業局			

仮設構台　構造一般図（その１）　　Ｓ＝１：１００

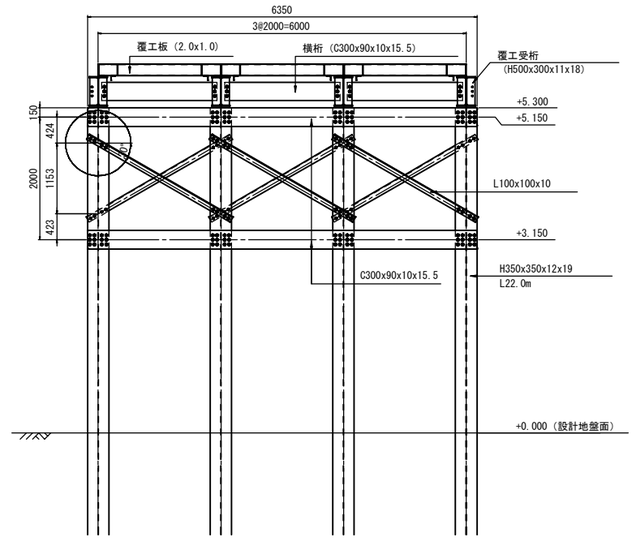
仮設構台Ａ

平　面　図

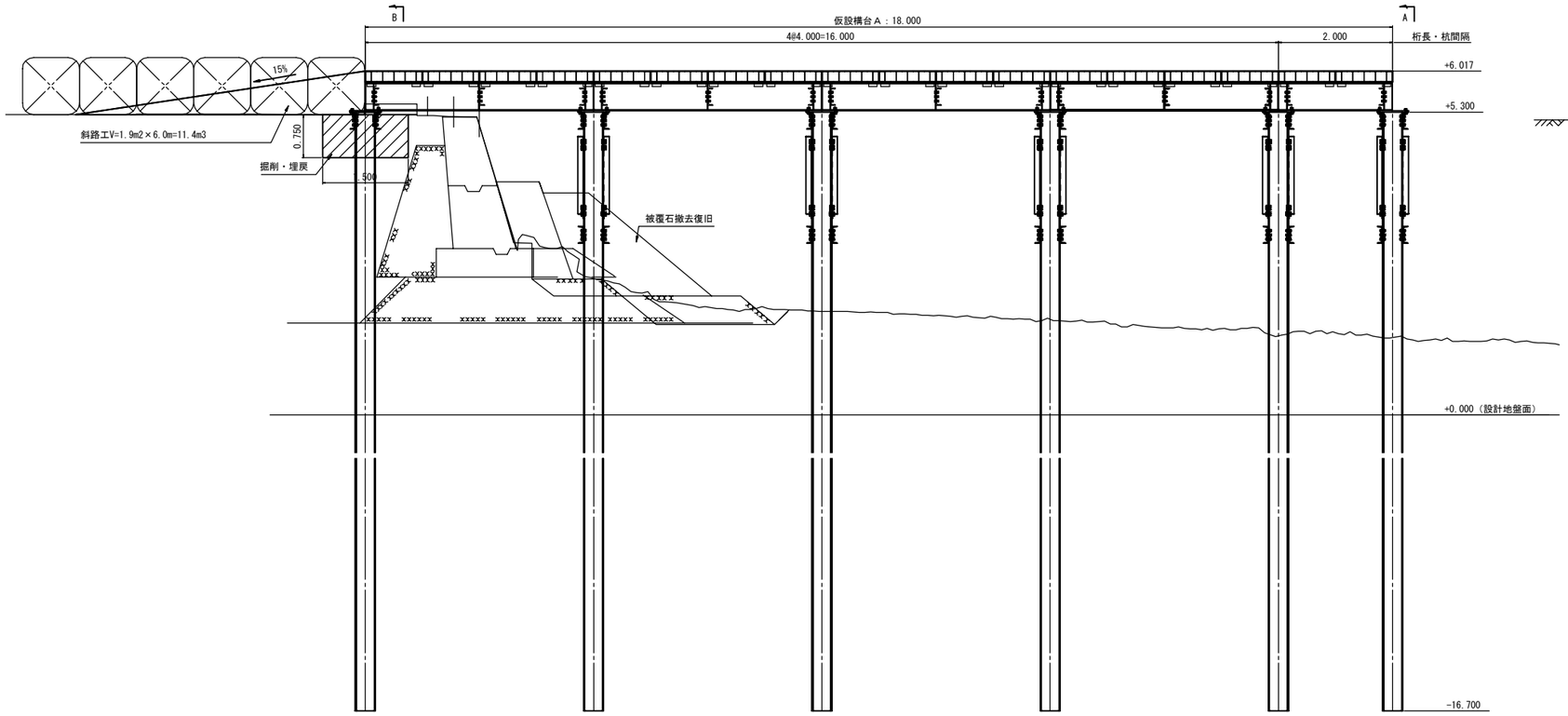


断　面　図

Sect.A-A

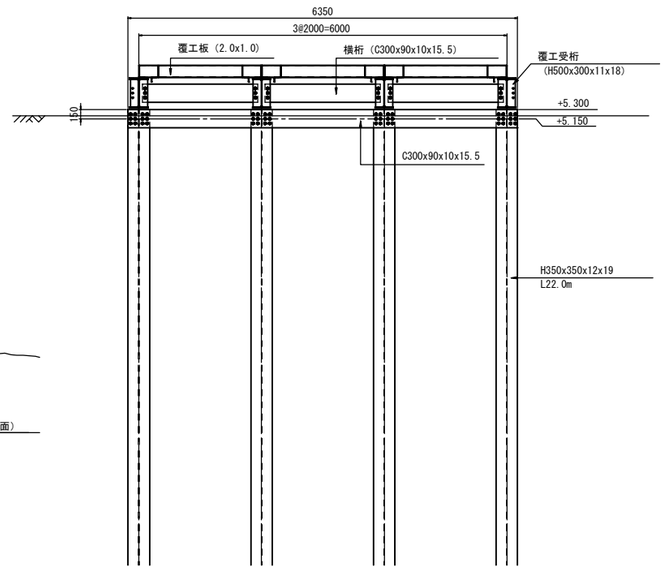


側　面　図



断　面　図

Sect.B-B



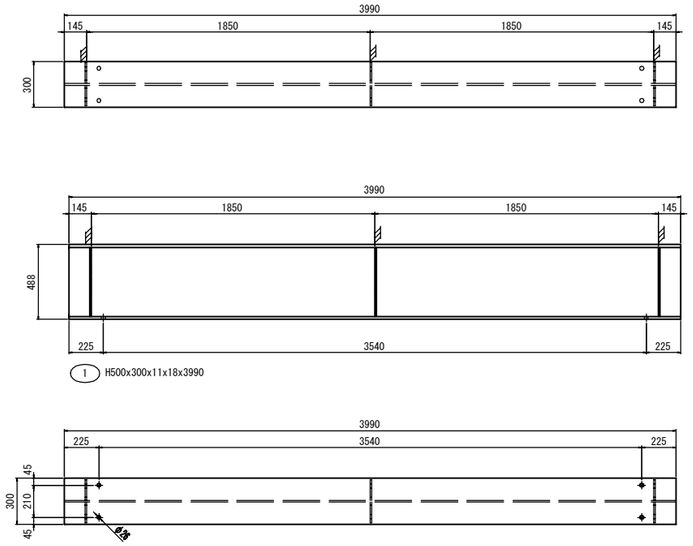
原図:A3、単位:m(平面図・側面図)、mm(断面図)

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	構造一般図		
縮　尺	1/100	図面番号	244
下関市ボートレース企業局			

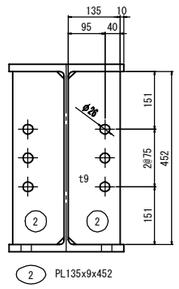
仮設構台　上部工詳細（その１）

桁長４ｍ

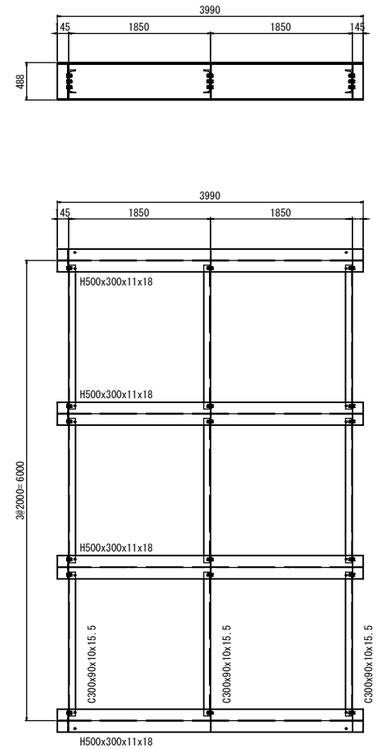
主桁詳細　　Ｓ＝１：４０



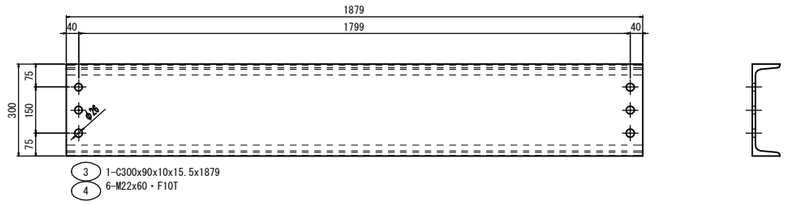
主桁詳細　　Ｓ＝１：１６



KEY-PLAN　　Ｓ＝１：８０



横桁詳細　　Ｓ＝１：２０



〈材料表〉

番号	規格	数量	材料
1	H500x300x11x18x3990	4.0	SS400
2	PL135x9x452	24.0	SM400
3	C300x90x10x15.5x1879	9.0	SS400
4	M22x60	54.0	F10T

備考
・上表は、G1～G4桁1スパンあたりを表す。
・全8スパン製作のこと。

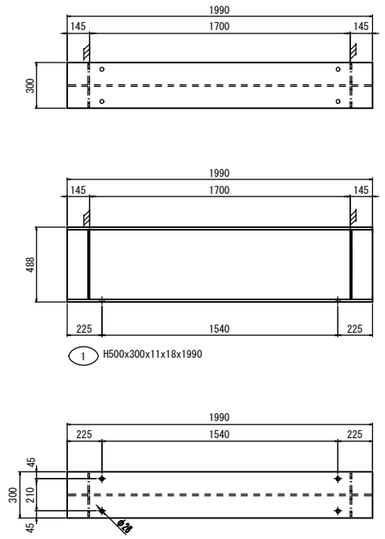
原図:A3、単位:mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	上部工詳細図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	245
下関市ボートレース企業局			

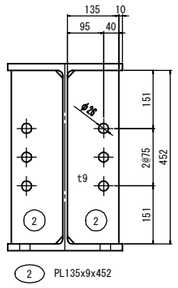
仮設構台　上部工詳細（その２）

桁長２ｍ

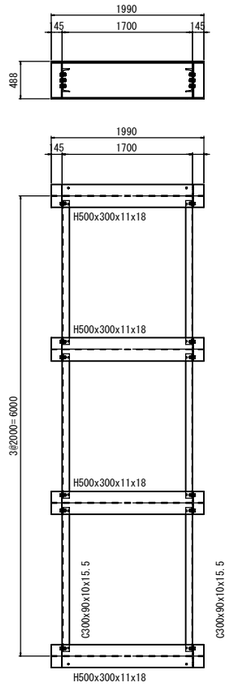
主桁詳細　　Ｓ＝１：４０



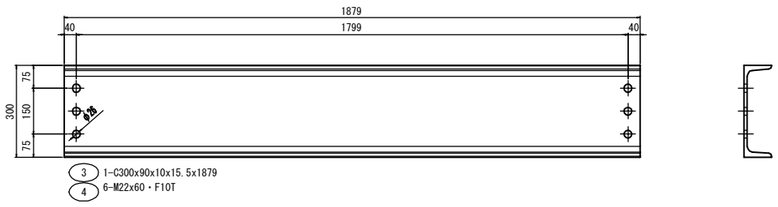
主桁詳細　　Ｓ＝１：１６



KEY-PLAN　　Ｓ＝１：８０



横桁詳細　　Ｓ＝１：２０



〈材料表〉

番号	規格	数量	材料
1	H500x300x11x18x1990	4.0	SS400
2	PL135x9x452	16.0	SM400
3	C300x90x10x15.5x1879	6.0	SS400
4	M22x60	36.0	F10T

備考
・上表は、G1～G4桁1スパンあたりを表す。
・全2スパン製作のこと。

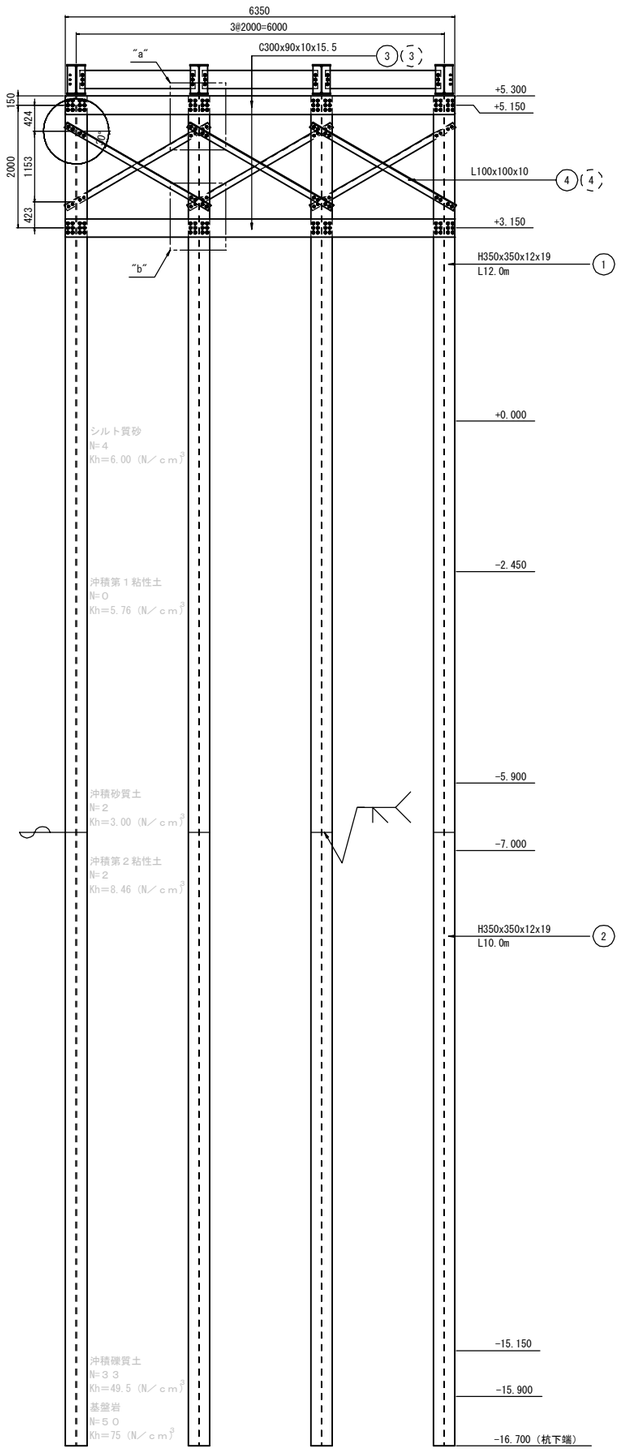
原図:A3、単位:mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	上部工詳細図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	246
下関市ポートレース企業局			

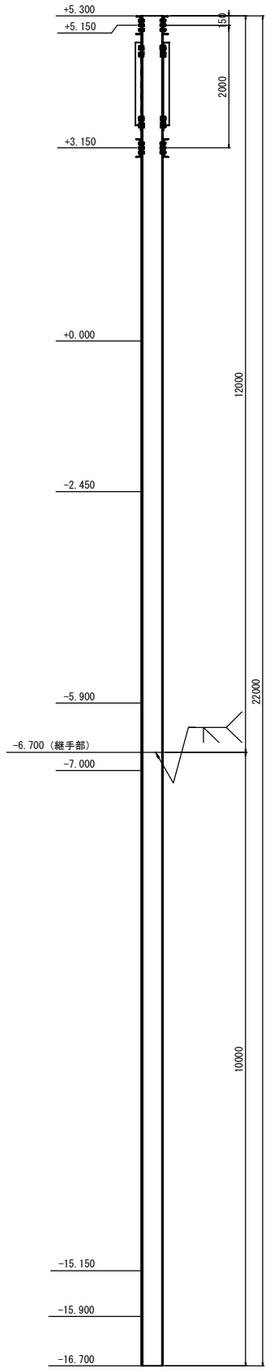
仮設構台　下部工詳細図（その１）

一般部

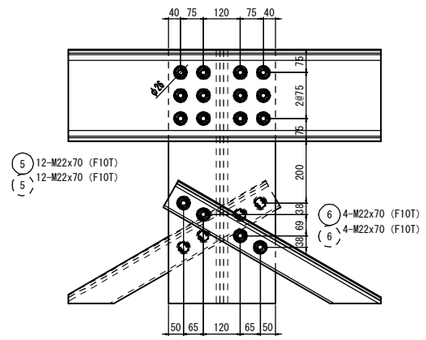
正　面　図　S＝１：１００



側　面　図　S＝１：１００



a部詳細　S＝１：２０

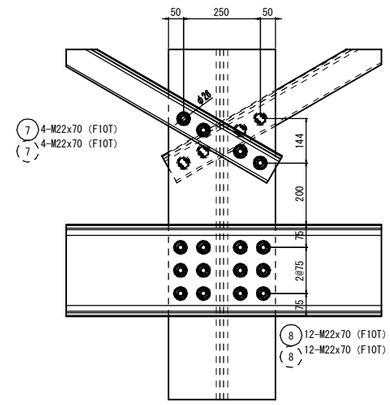


〈材料表〉

番号	規格	数量	材料
1	H350x350x12x19x12000	4.0	SS400
2	H350x350x12x19x10000	4.0	SS400
3	C300x90x10x15.5x6350	4.0	SS400
4	L100x100x10x2700	6.0	SS400
5	M22x70	96.0	F10T
6	M22x70	24.0	F10T
7	M22x70	24.0	F10T
8	M22x70	96.0	F10T
9	PL310x25x550	4.0	SM400
10	M22x105	16.0	F10T
11	M22x85	－	F10T
12	ﾃｰﾊﾟｰﾜｯｼｬ5°　・M22	16.0	SS400

備考
・上表は、横脚1基(面)あたりを表す。
・全8基(面)製作のこと。

b部詳細　S＝１：２０

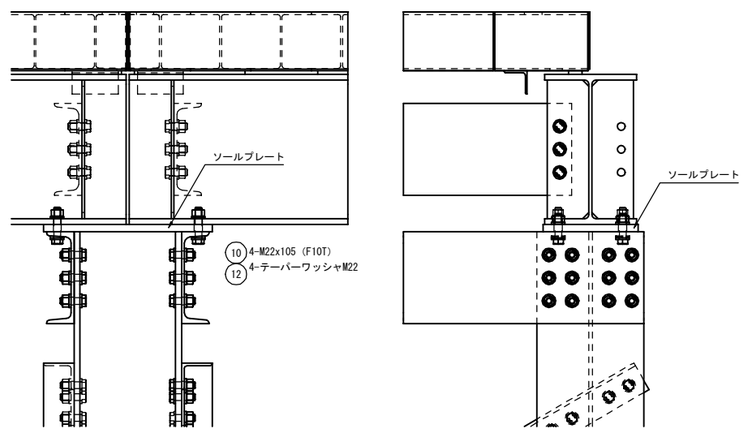


〈材料表〉

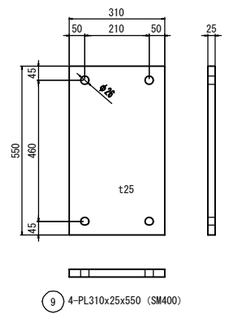
番号	規格	数量	材料
1	H350x350x12x19x12000	4.0	SS400
2	H350x350x12x19x10000	4.0	SS400
3	C300x90x10x15.5x6350	4.0	SS400
4	L100x100x10x2700	6.0	SS400
5	M22x70	96.0	F10T
6	M22x70	24.0	F10T
7	M22x70	24.0	F10T
8	M22x70	96.0	F10T
9	PL310x25x550	4.0	SM400
10	M22x105	8.0	F10T
11	M22x85	8.0	F10T
12	ﾃｰﾊﾟｰﾜｯｼｬ5°　・M22	16.0	SS400

備考
・上表は、横脚1基(面)あたりを表す。
・全2基(面)製作のこと。(A6脚)

上部工接続部詳細　S＝１：２０



ソールプレート詳細　S＝１：２０



備考
1．杭の根入れは、-10.1m以上かつ、先端支持力
　１５００（ｋＮ）を確認すること。

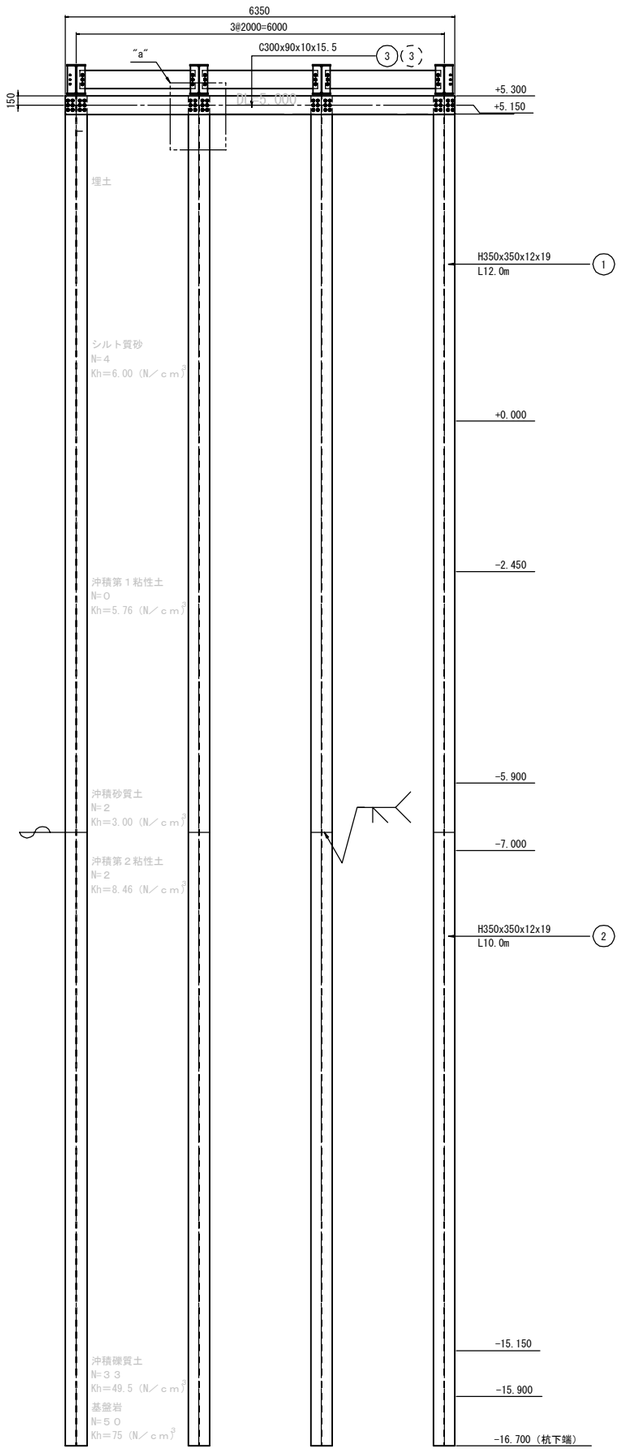
原図:A3、単位:mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	下部工詳細図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	247
下関市ボートレース企業局			

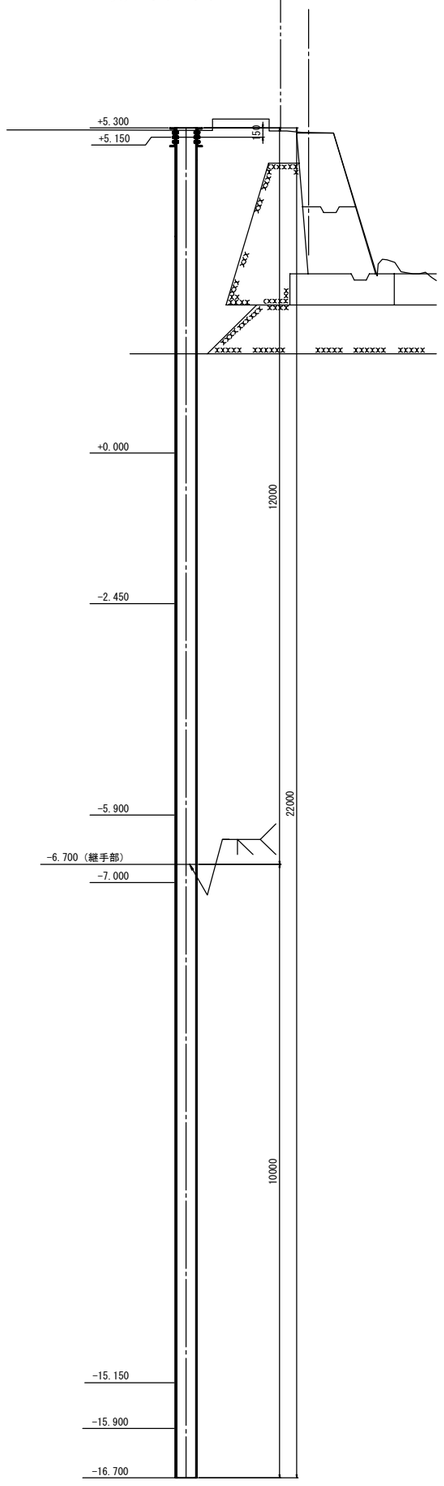
仮設構台　下部工詳細図（その２）

仮設構台Ａ　既設護岸部（Ａ１脚）

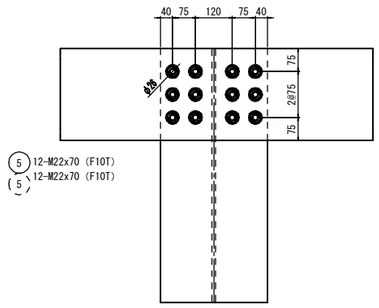
正　面　図　S＝１：１００



側　面　図　S＝１：１００



a部詳細　S＝１：２０

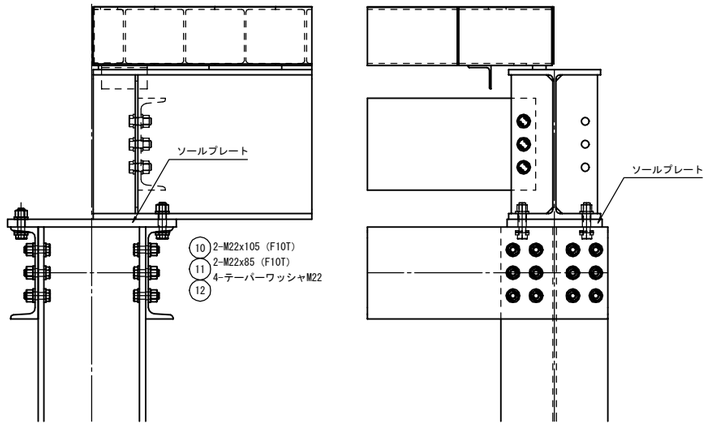


〈材料表〉

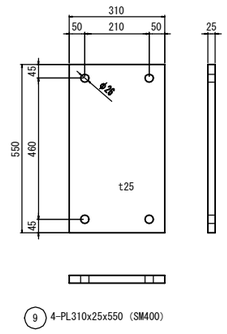
番号	規格	数量	材料
1	H350x350x12x19x12000	4.0	SS400
2	H350x350x12x19x10000	4.0	SS400
3	C300x90x10x15.5x6350	2.0	SS400
5	M22x70	96.0	F10T
9	PL310x25x550	4.0	SM400
10	M22x105	8.0	F10T
11	M22x85	8.0	F10T
12	ﾃｰﾊﾟｰﾜｯｼｬ5°・M22	16.0	SS400

"備考
・上表は、橋脚1基(面)あたりを表す。
・全2基(面)製作のこと。(A1脚)

上部工接続部詳細　S＝１：２０



ソールプレート詳細　S＝１：２０

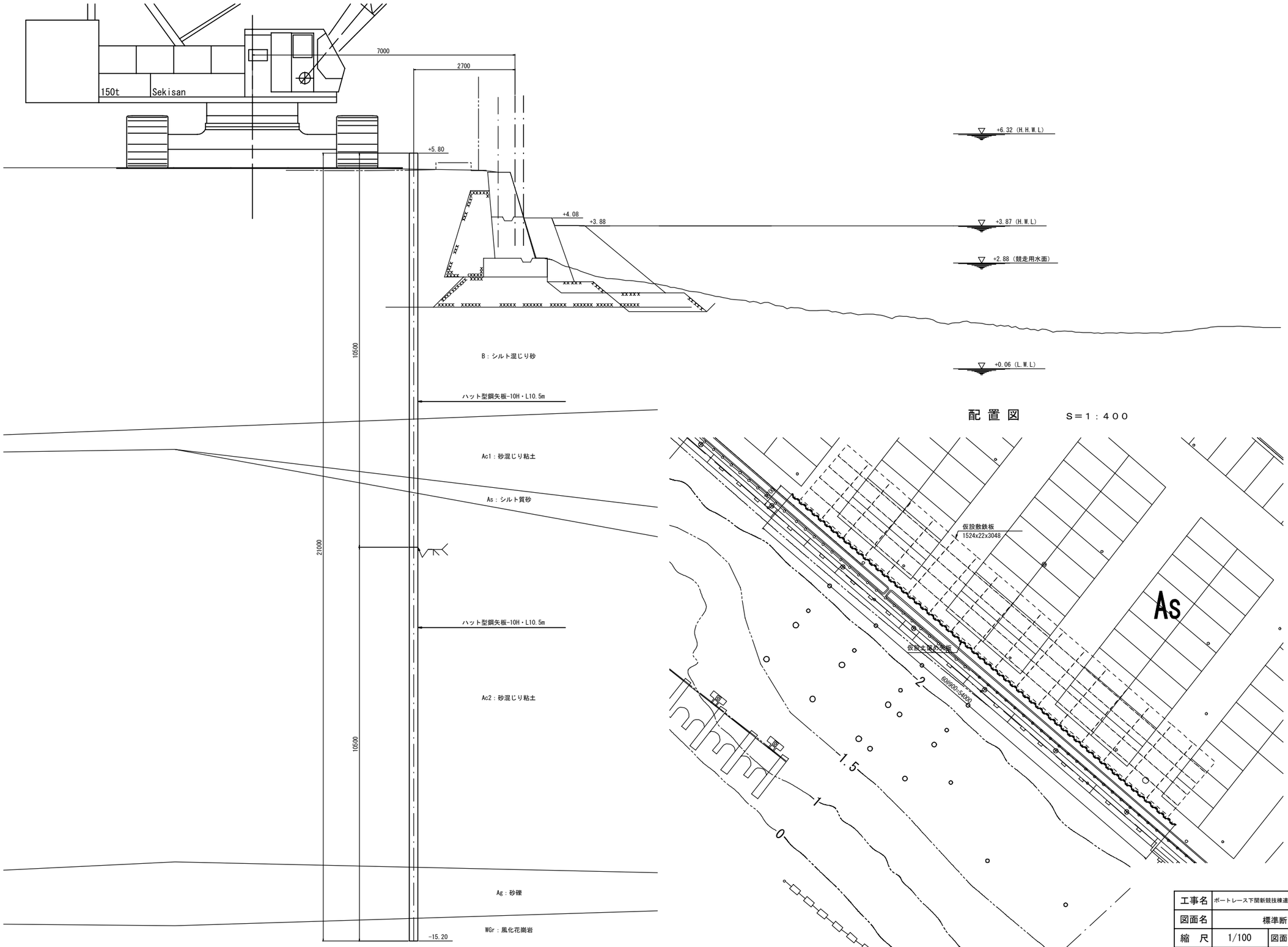


備考
１．杭の根入れは、-10.1m以上かつ、先端支持力
　　１５００（ｋＮ）を確認すること。

原図:A3、単位:mm

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	下部工詳細図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	248
下関市ボートレース企業局			

標準断面図　　S＝1：100

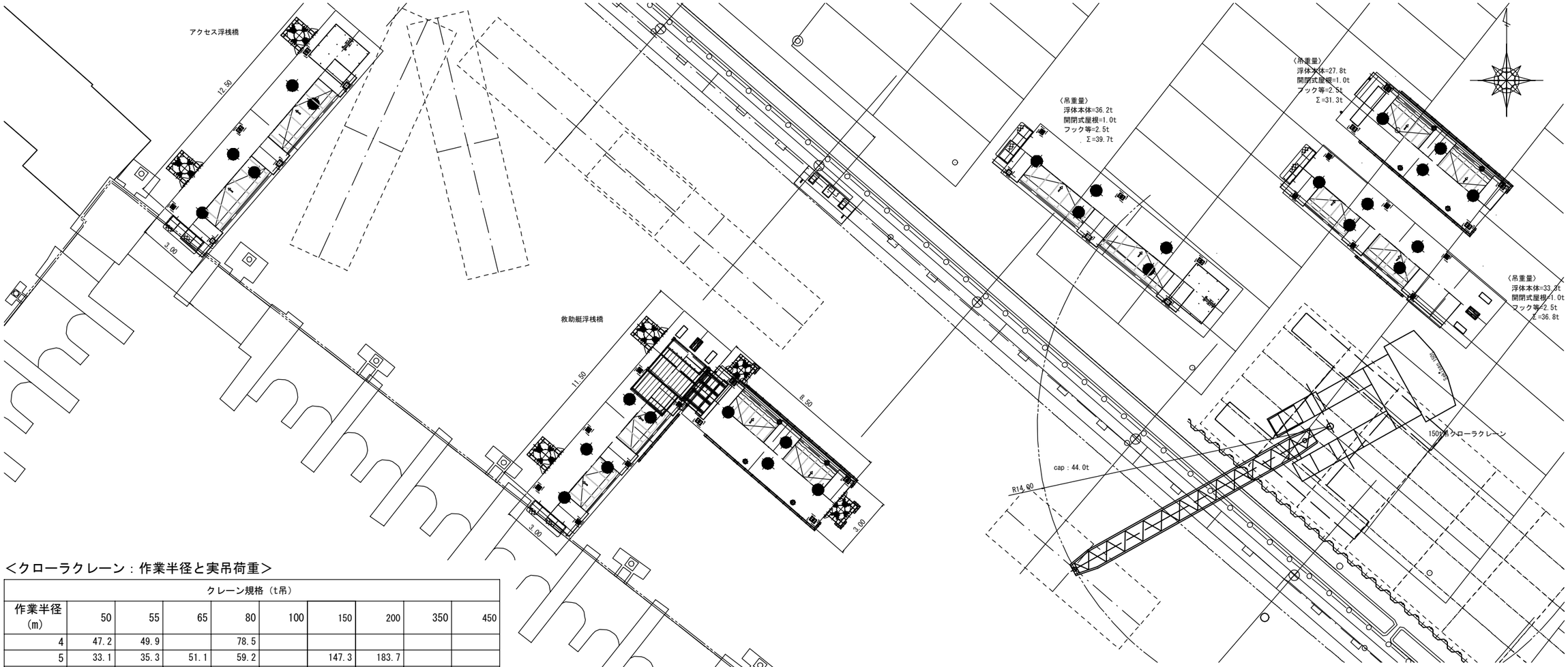


原図:A3、単位:mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	標準断面図		
縮　尺	1/100	図面番号	249
下関市ボートレース企業局			

架設計画図（その１）　　Ｓ＝１：２００

参考図

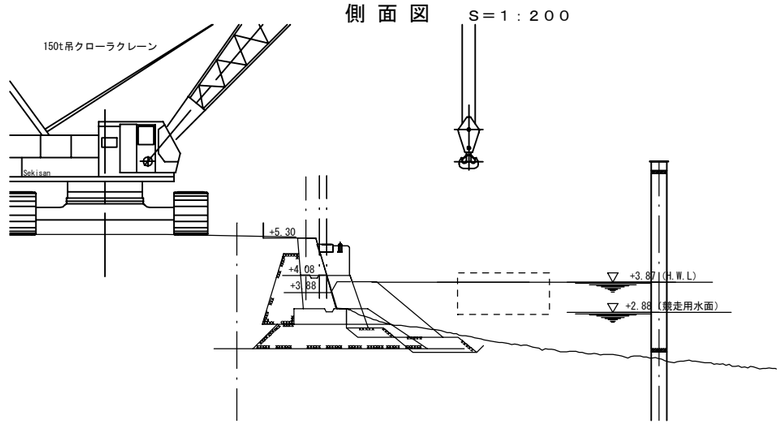


＜クローラクレーン：作業半径と実吊荷重＞

クレーン規格（t吊）									
作業半径（m）	50	55	65	80	100	150	200	350	450
4	47.2	49.9		78.5					
5	33.1	35.3	51.1	59.2		147.3	183.7		
6	24.7	26.9	38.6	45.5	89.9	138.3	163.0	342.3	430.6
7	19.7	21.7	30.6	35.5	76.7	120.9	140.6	310.8	374.6
8	16.7	18.0	25.2	29.1	62.0	97.3	123.4	262.3	327.3
9	14.2	15.5	21.4	24.7	51.7	81.0	108.1	225.9	289.7
10	12.3	13.5	18.5	21.5	44.4	69.5	94.8	193.6	257.7
12	9.8	10.4	14.4	16.9	34.2	53.8	73.3	143.0	203.5
14	8.0	8.6	11.8	13.9	27.6	44.0	60.0	112.4	163.1
16	6.6	7.2	9.9	11.6	23.0	37.0	50.0	92.2	133.6
18	5.6	6.1	8.3	9.9	19.5	31.6	43.1	77.5	112.9
20	4.7	5.2	7.1	8.6	16.7	27.4	37.3	66.8	97.7
22	4.1	4.4	6.1	7.4	14.8	24.4	33.1	58.3	85.7
24	3.6	3.9	5.4	6.4	13.0	21.6	29.4	57.1	75.3
26	3.0	3.3	4.7	5.6	11.3	19.2	26.3	51.1	67.8
28	2.6	2.9	4.0	5.0	10.0	17.2	23.9	46.0	61.2
30	2.1	2.4	3.5	4.4	9.1	15.9	21.5	41.4	55.0
32	1.8	2.2	3.2	3.8	8.1	14.2	19.5	37.8	50.5
34	1.5	1.8	2.7	3.2	7.3	12.9	17.9	33.9	46.0
36			2.2	2.7	6.4	11.7	16.5	31.1	42.6

注記
1．本図は参考図とする。RC浮体据付工事に適用する。
2．護岸前面は水深が浅いため、高潮位時に進水のこと。
3．浮体の仕上り重量を確認の上、クレーン規格を再検討のこと。
4．仮設矢板背後にクレーン据付のこと。

側面図　Ｓ＝１：２００

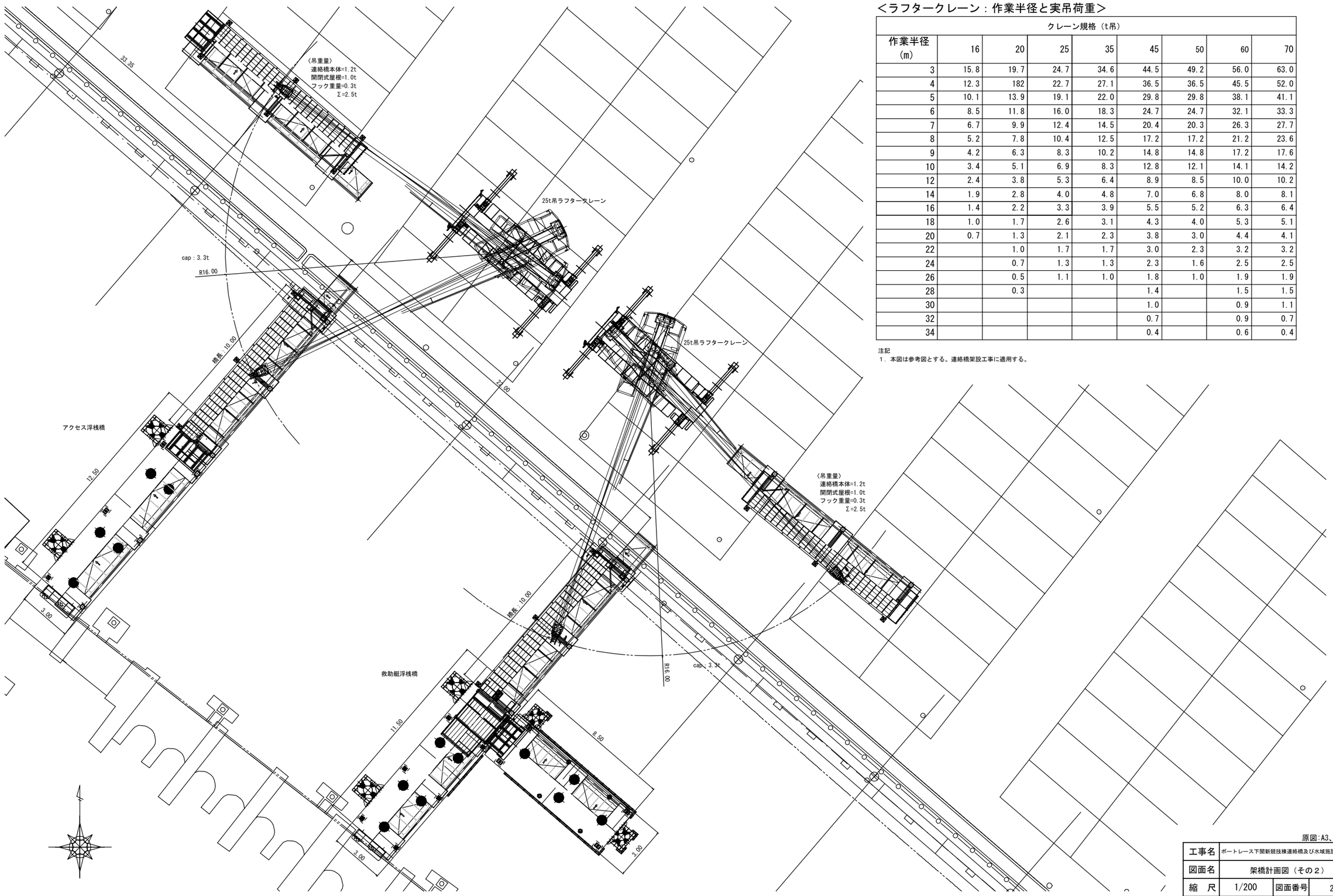


原図:A3、単位:m

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	架橋計画図（その１）		
縮　尺	1/200	図面番号	250
下関市ボートレース企業局			

架設計画図（その２）　　Ｓ＝１：２００

参考図



＜ラフタークレーン：作業半径と実吊荷重＞

作業半径 (m)	クレーン規格（t吊）							
	16	20	25	35	45	50	60	70
3	15.8	19.7	24.7	34.6	44.5	49.2	56.0	63.0
4	12.3	182	22.7	27.1	36.5	36.5	45.5	52.0
5	10.1	13.9	19.1	22.0	29.8	29.8	38.1	41.1
6	8.5	11.8	16.0	18.3	24.7	24.7	32.1	33.3
7	6.7	9.9	12.4	14.5	20.4	20.3	26.3	27.7
8	5.2	7.8	10.4	12.5	17.2	17.2	21.2	23.6
9	4.2	6.3	8.3	10.2	14.8	14.8	17.2	17.6
10	3.4	5.1	6.9	8.3	12.8	12.1	14.1	14.2
12	2.4	3.8	5.3	6.4	8.9	8.5	10.0	10.2
14	1.9	2.8	4.0	4.8	7.0	6.8	8.0	8.1
16	1.4	2.2	3.3	3.9	5.5	5.2	6.3	6.4
18	1.0	1.7	2.6	3.1	4.3	4.0	5.3	5.1
20	0.7	1.3	2.1	2.3	3.8	3.0	4.4	4.1
22		1.0	1.7	1.7	3.0	2.3	3.2	3.2
24		0.7	1.3	1.3	2.3	1.6	2.5	2.5
26		0.5	1.1	1.0	1.8	1.0	1.9	1.9
28		0.3			1.4		1.5	1.5
30					1.0		0.9	1.1
32					0.7		0.9	0.7
34					0.4		0.6	0.4

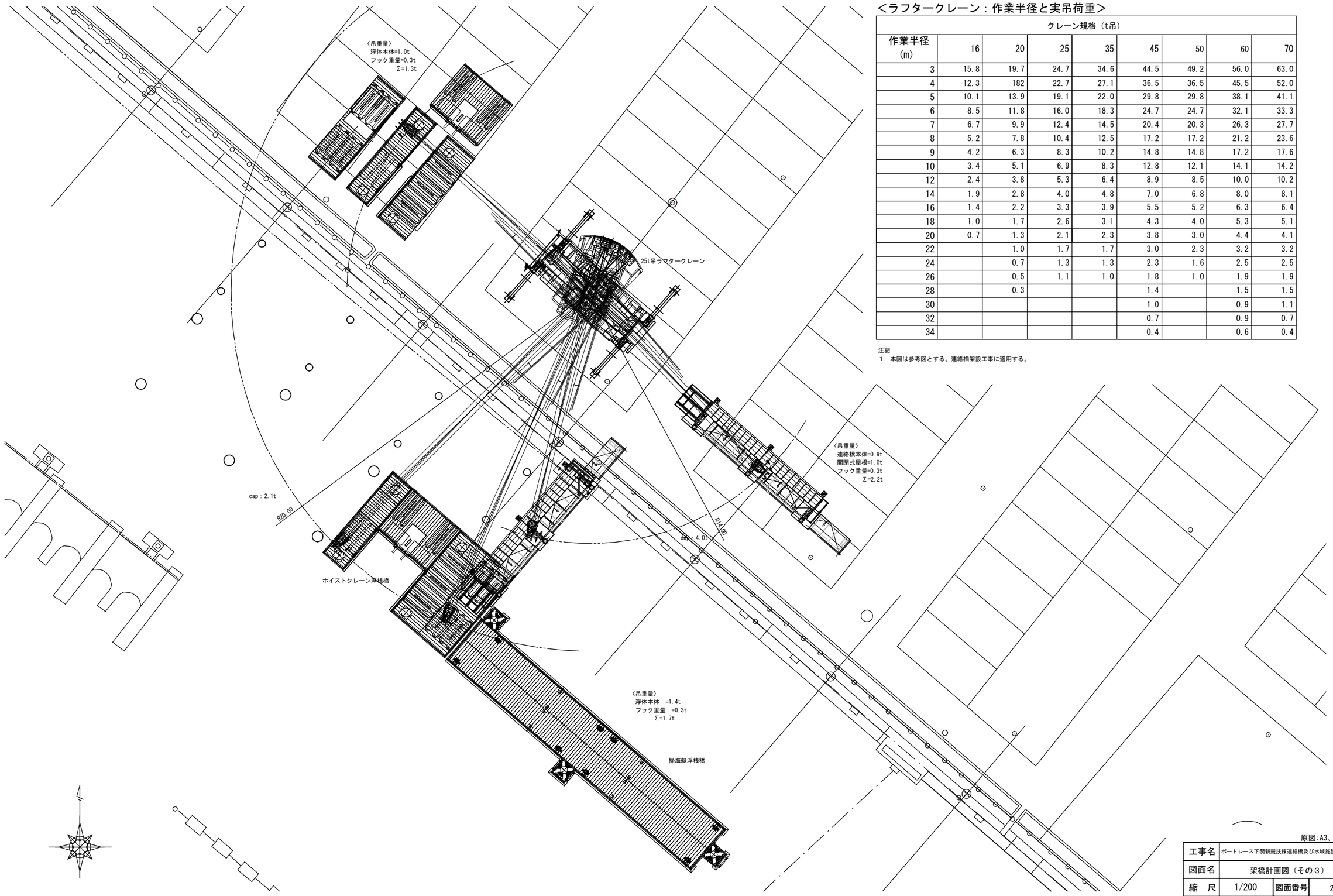
注記
1．本図は参考図とする。連絡橋架設工事に適用する。

原図：A3、単位：m

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	架橋計画図（その２）		
縮　尺	1/200	図面番号	251
下関市ボートレース企業局			

架設計画図（その３）　　Ｓ＝１：２００

参考図



＜ラフタークレーン：作業半径と実吊荷重＞

作業半径 (m)	クレーン規格（t吊）							
	16	20	25	35	45	50	60	70
3	15.8	19.7	24.7	34.6	44.5	49.2	56.0	63.0
4	12.3	182	22.7	27.1	36.5	36.5	45.5	52.0
5	10.1	13.9	19.1	22.0	29.8	29.8	38.1	41.1
6	8.5	11.8	16.0	18.3	24.7	24.7	32.1	33.3
7	6.7	9.9	12.4	14.5	20.4	20.3	26.3	27.7
8	5.2	7.8	10.4	12.5	17.2	17.2	21.2	23.6
9	4.2	6.3	8.3	10.2	14.8	14.8	17.2	17.6
10	3.4	5.1	6.9	8.3	12.8	12.1	14.1	14.2
12	2.4	3.8	5.3	6.4	8.9	8.5	10.0	10.2
14	1.9	2.8	4.0	4.8	7.0	6.8	8.0	8.1
16	1.4	2.2	3.3	3.9	5.5	5.2	6.3	6.4
18	1.0	1.7	2.6	3.1	4.3	4.0	5.3	5.1
20	0.7	1.3	2.1	2.3	3.8	3.0	4.4	4.1
22		1.0	1.7	1.7	3.0	2.3	3.2	3.2
24		0.7	1.3	1.3	2.3	1.6	2.5	2.5
26		0.5	1.1	1.0	1.8	1.0	1.9	1.9
28		0.3			1.4		1.5	1.5
30					1.0		0.9	1.1
32					0.7		0.9	0.7
34					0.4		0.6	0.4

注記
1．本図は参考図とする。連絡橋架設工事に適用する。

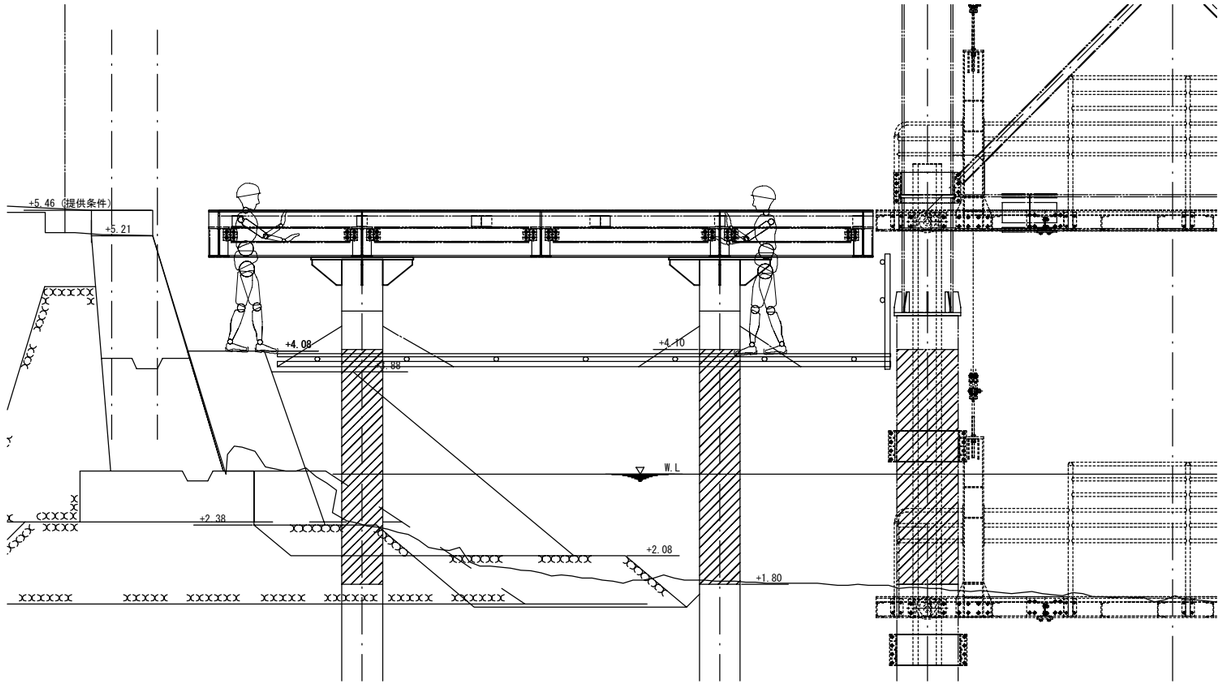
原図:A3、単位:m

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	架橋計画図（その３）		
縮　尺	1/200	図面番号	252
下関市ボートレース企業局			

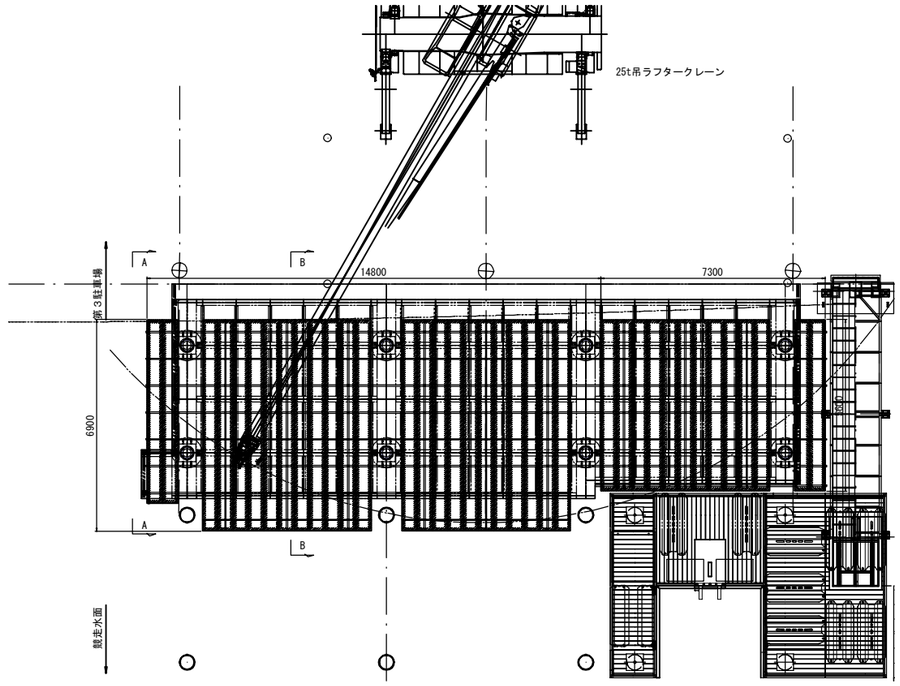
仮設備計画図（その１）　　Ｓ＝１：６０

参考図

A-A

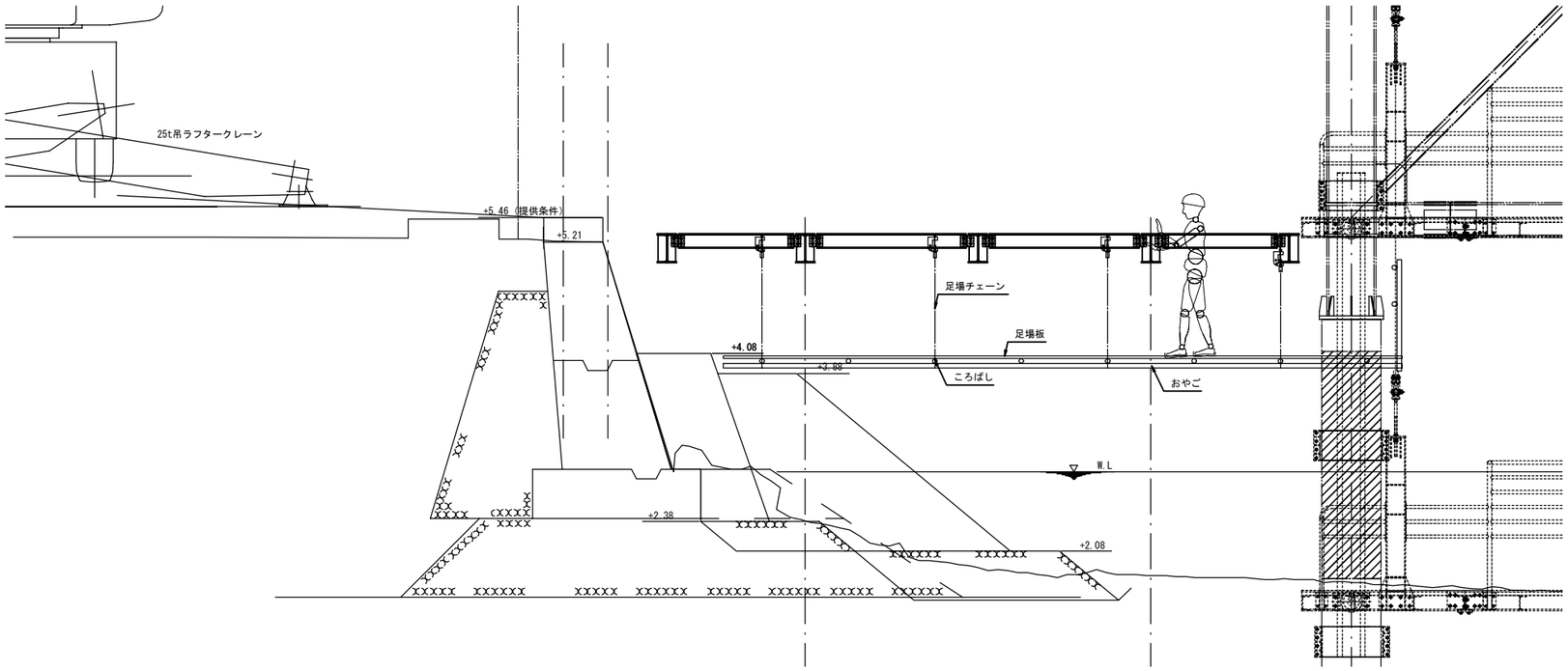


平 面 図　Ｓ＝１：２００



仮設足場面積A=6.9×14.8+5.6×7.3=143.0m2

B-B



注記
1．本図は参考図とする。揚降装置アクセス桟橋工事に適用する。

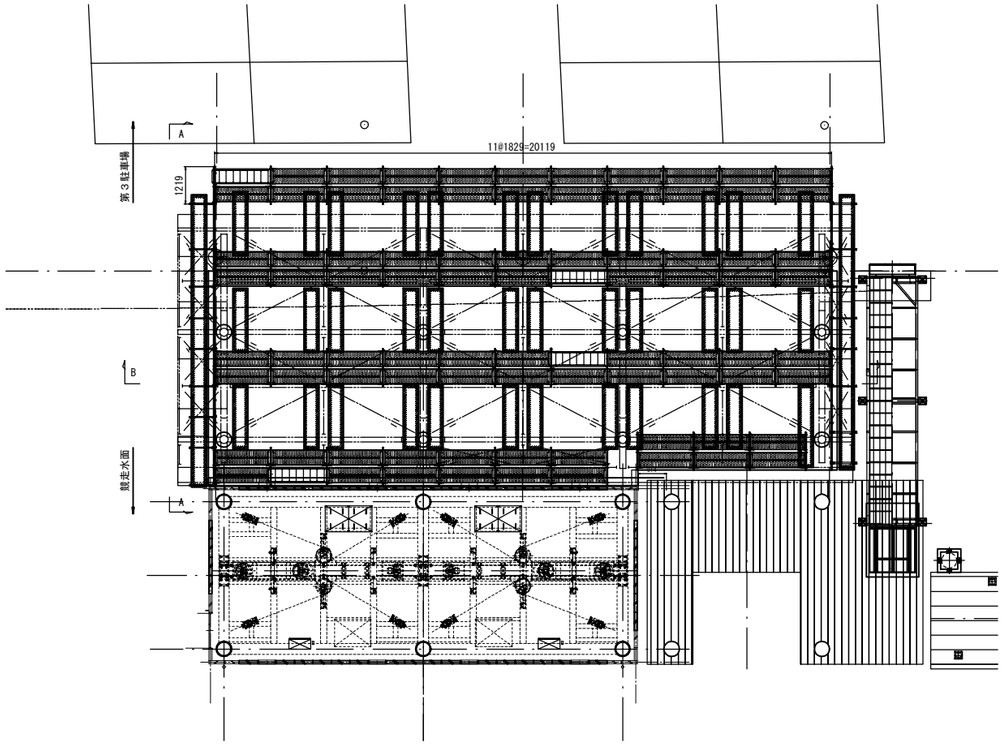
原図:A3、単位:mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	仮設備計画図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	253
下関市ボートレース企業局			

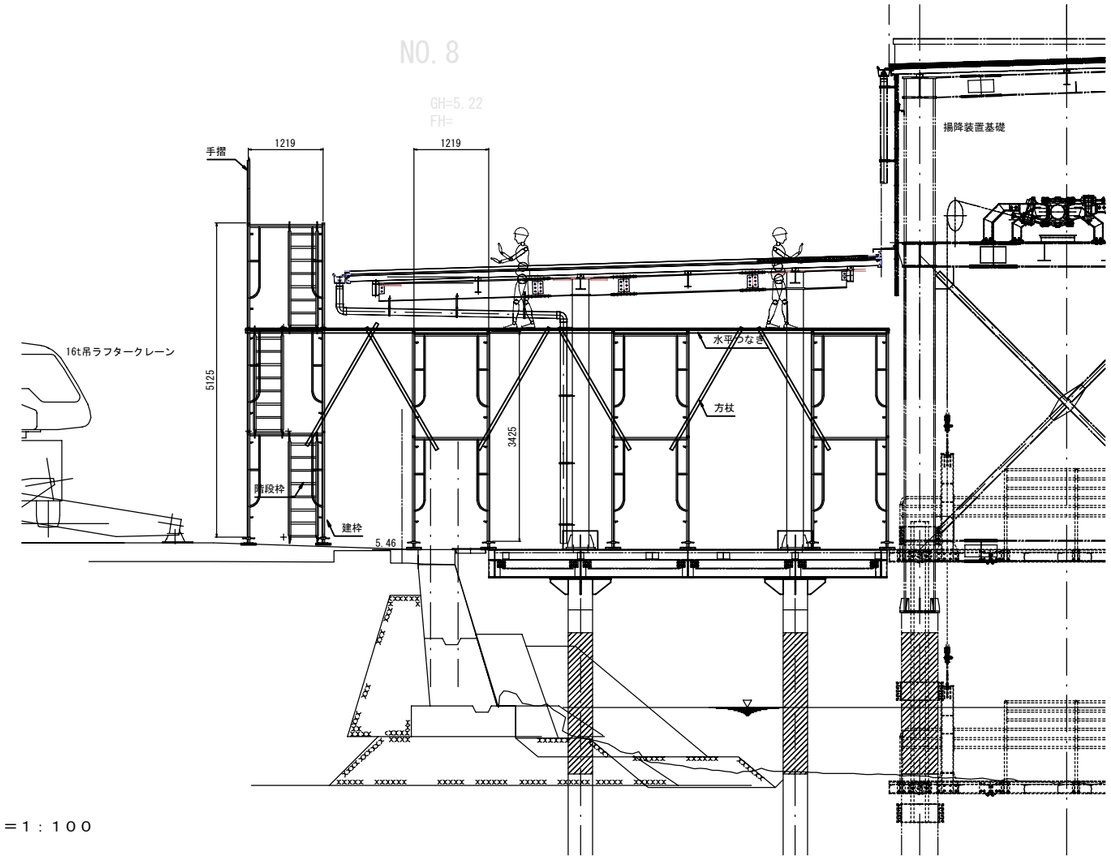
仮設備計画図（その２）

参考図

平 面 図　　S＝1：200

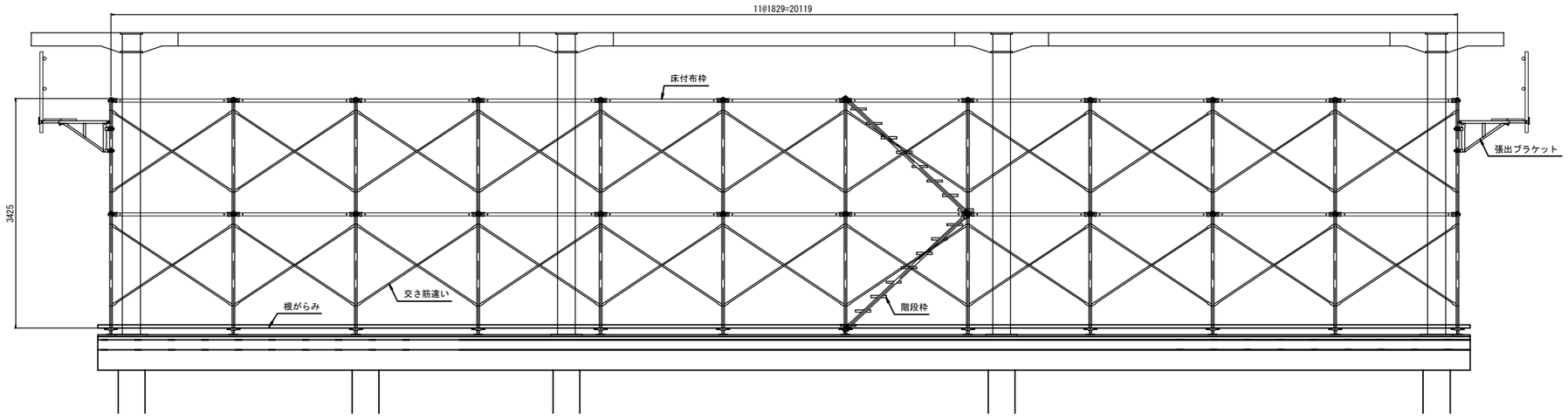


A-A　　S＝1：100



仮設足場面積A=5.1×20.1+3.4×20.1×3=307.5m2

B-B　　S＝1：100



注記
1．本図は参考図とする。揚降装置アクセス桟橋上屋工事に適用する。

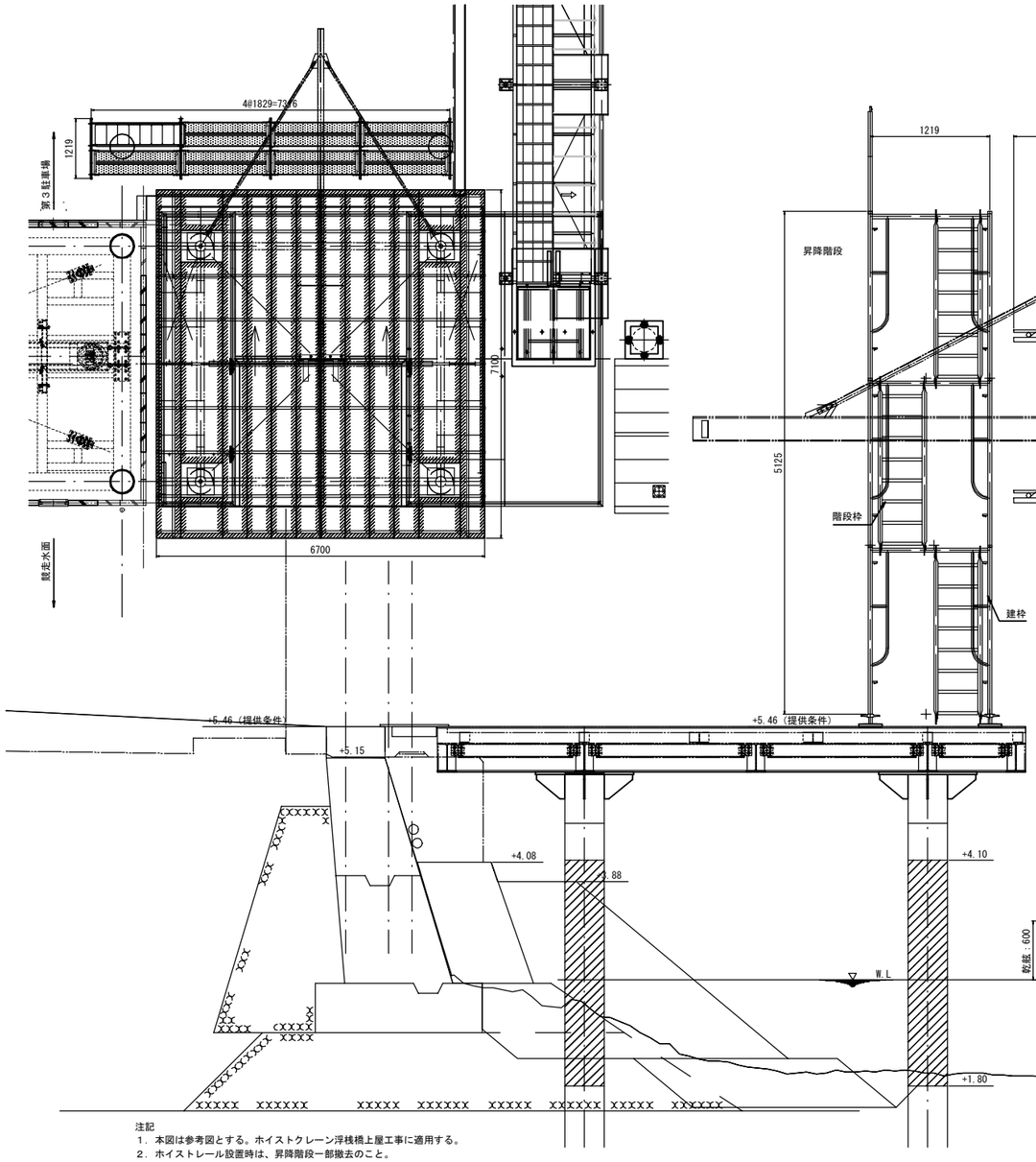
原図:A3、単位:mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	仮設備計画図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	254
下関市ボートレース企業局			

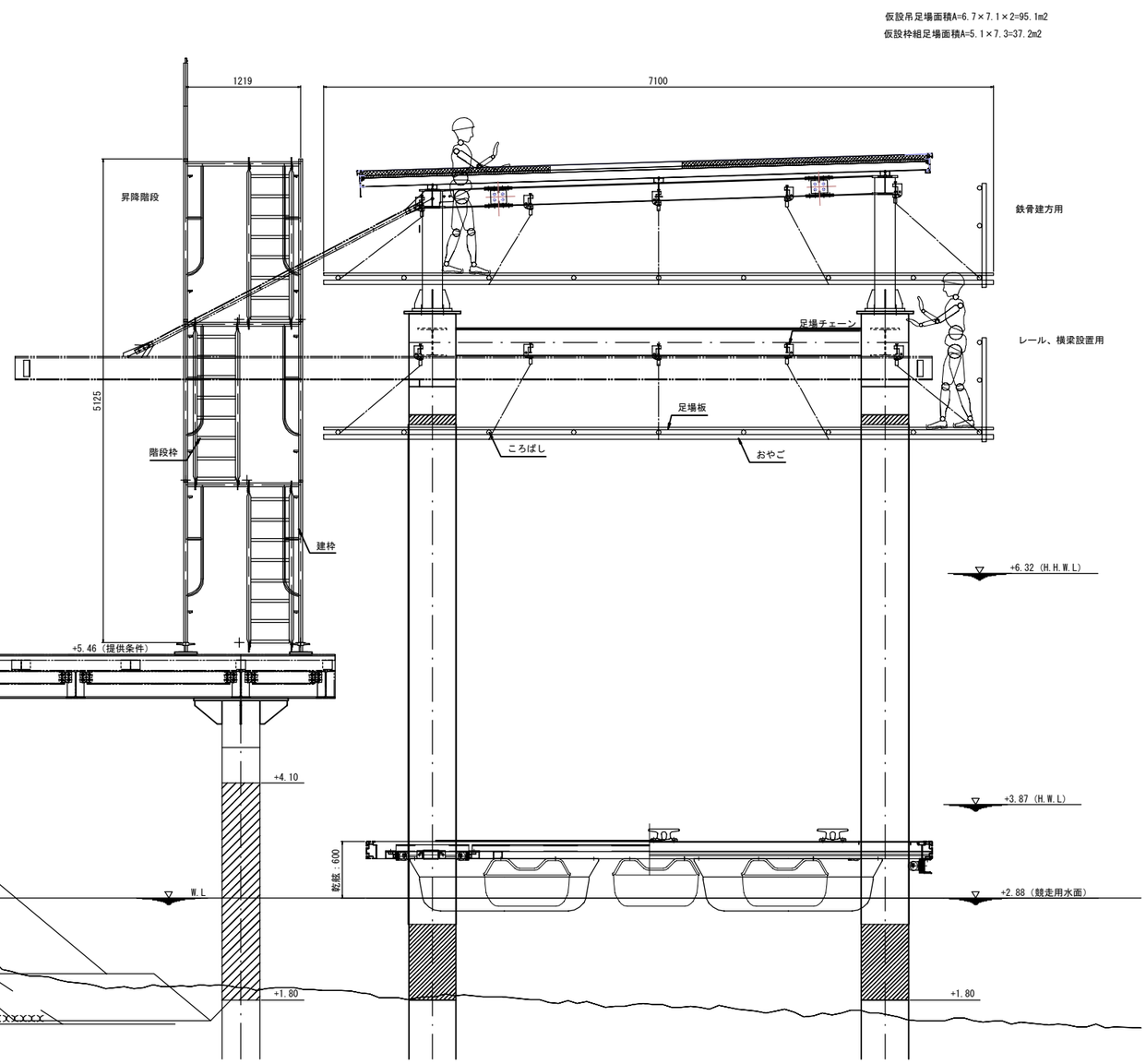
仮設備計画図（その３）　Ｓ＝１：６０

参考図

平 面 図　Ｓ＝１：１２０



断 面 図



注記
１．本図は参考図とする。ホイストクレーン浮桟橋上屋工事に適用する。
２．ホイストレール設置時は、昇降階段一部撤去のこと。

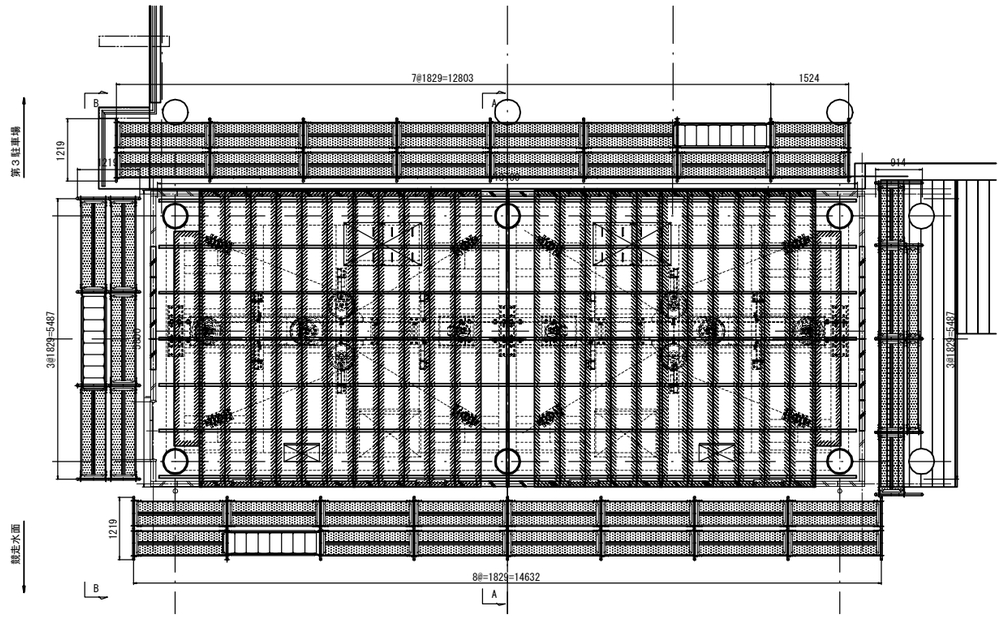
原図:A3、単位:mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	仮設備計画図（その３）		
縮　尺	図示	図面番号	255
下関市ボートレース企業局			

仮設備計画図（その１）　Ｓ＝１：６０

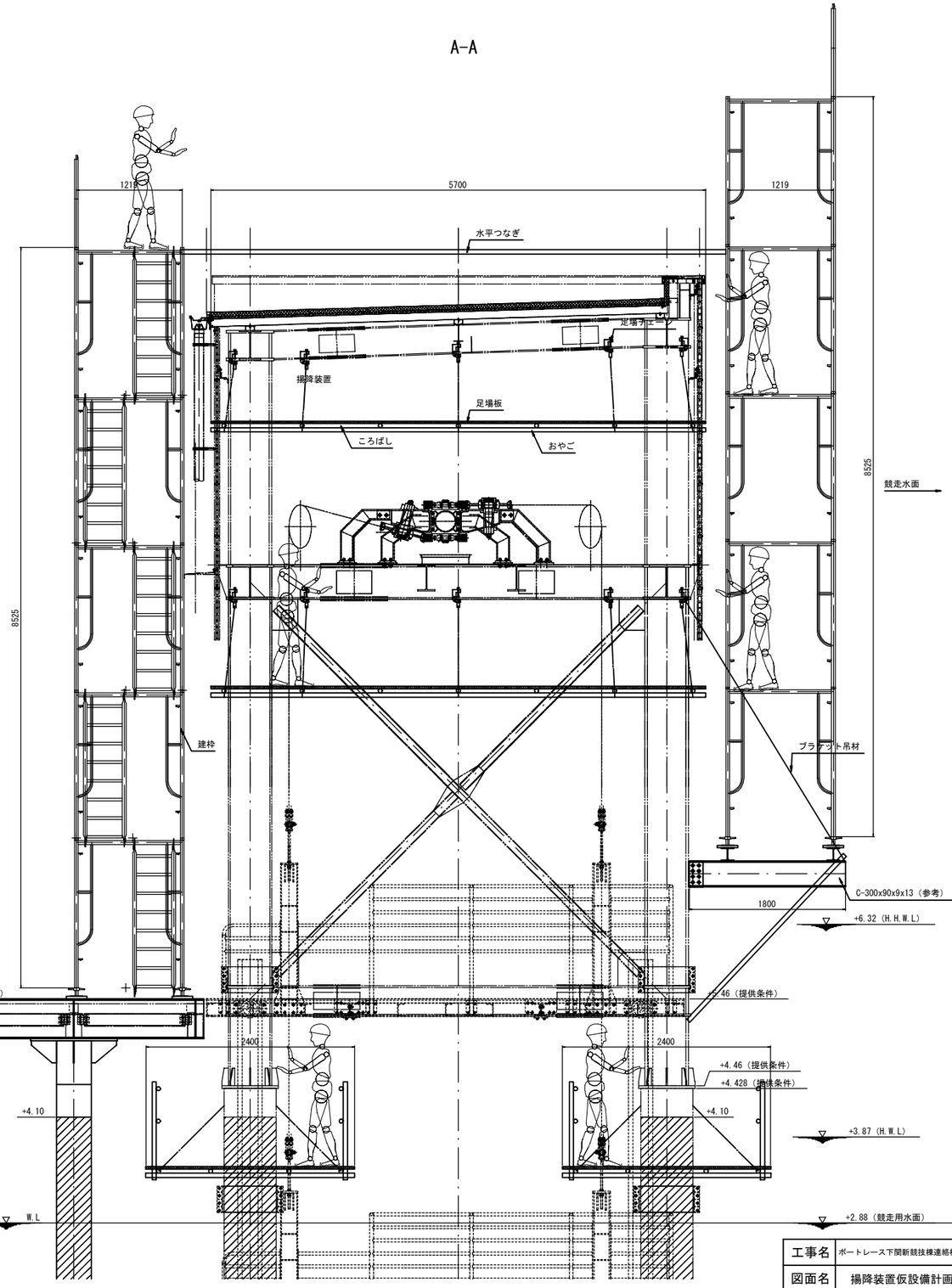
参考図

平 面 図　Ｓ＝１：１２０



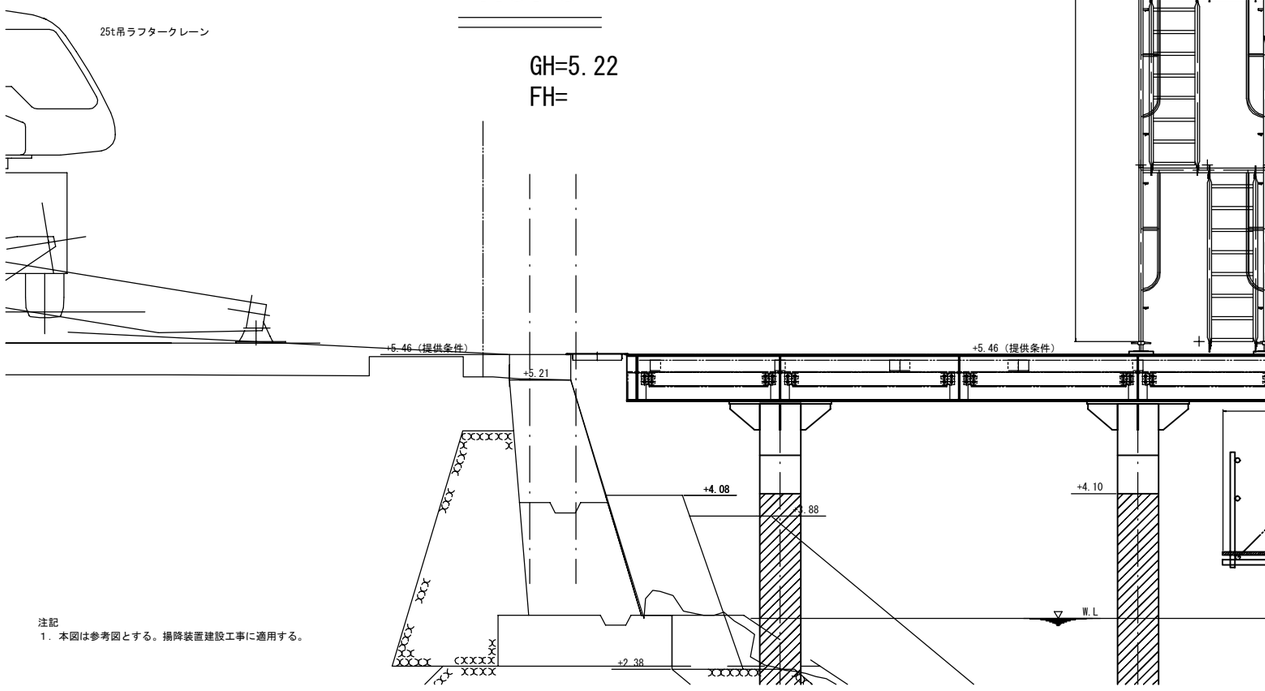
仮設吊足場面積A=5.7×13.7×2+2.4×2.4×6=190.7m2

A-A



NO. 8

GH=5.22
FH=



注記
1．本図は参考図とする。揚降装置建設工事に適用する。

原図:A3、単位:mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置仮設備計画図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	256
下関市ボートレース企業局			

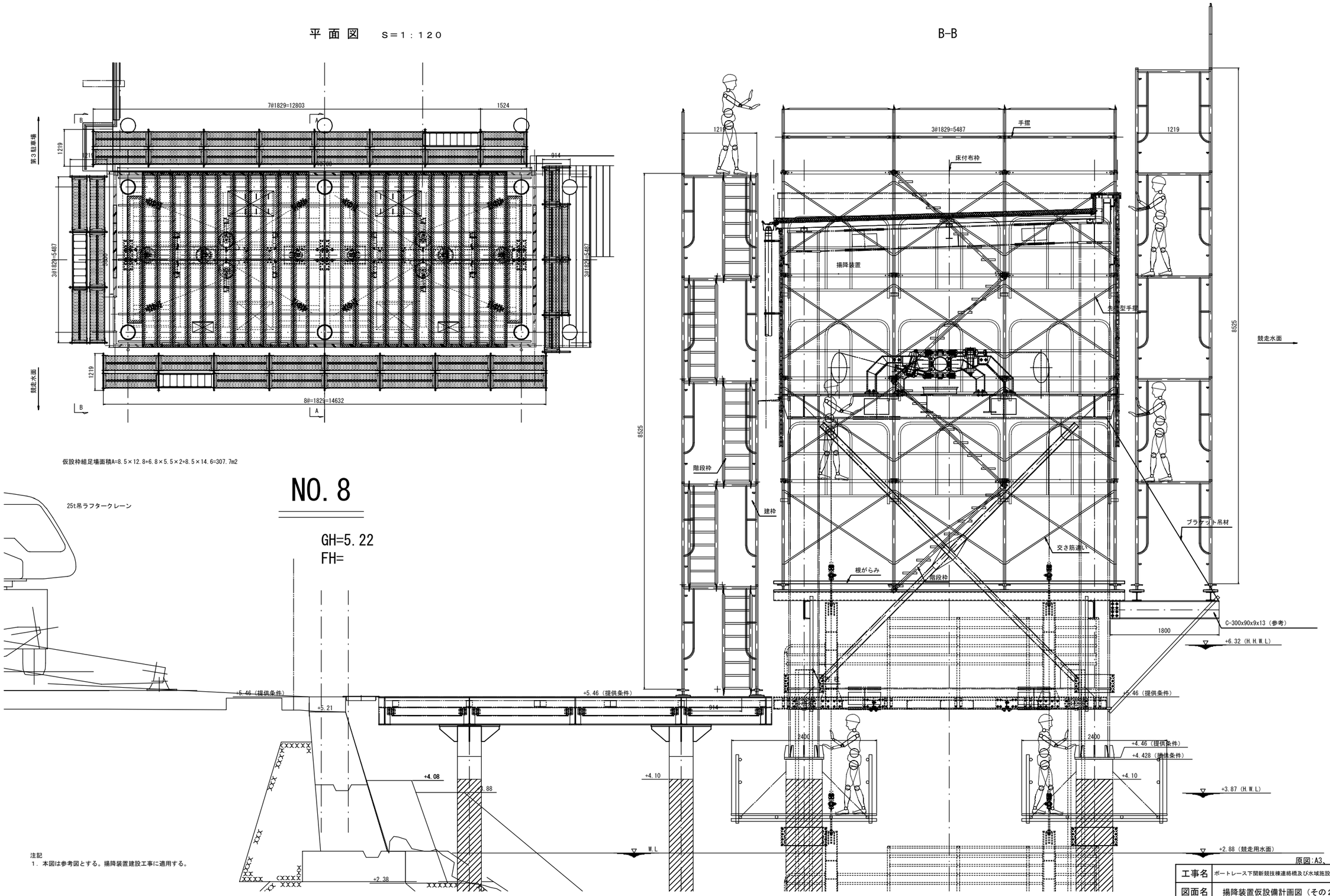
仮設備計画図（その２）　S＝１：６０

参考図

平 面 図　S＝１：１２０

仮設枠組足場面積A=8.5×12.8+6.8×5.5×2+8.5×14.6=307.7m2

B-B



NO. 8

GH=5.22
FH=

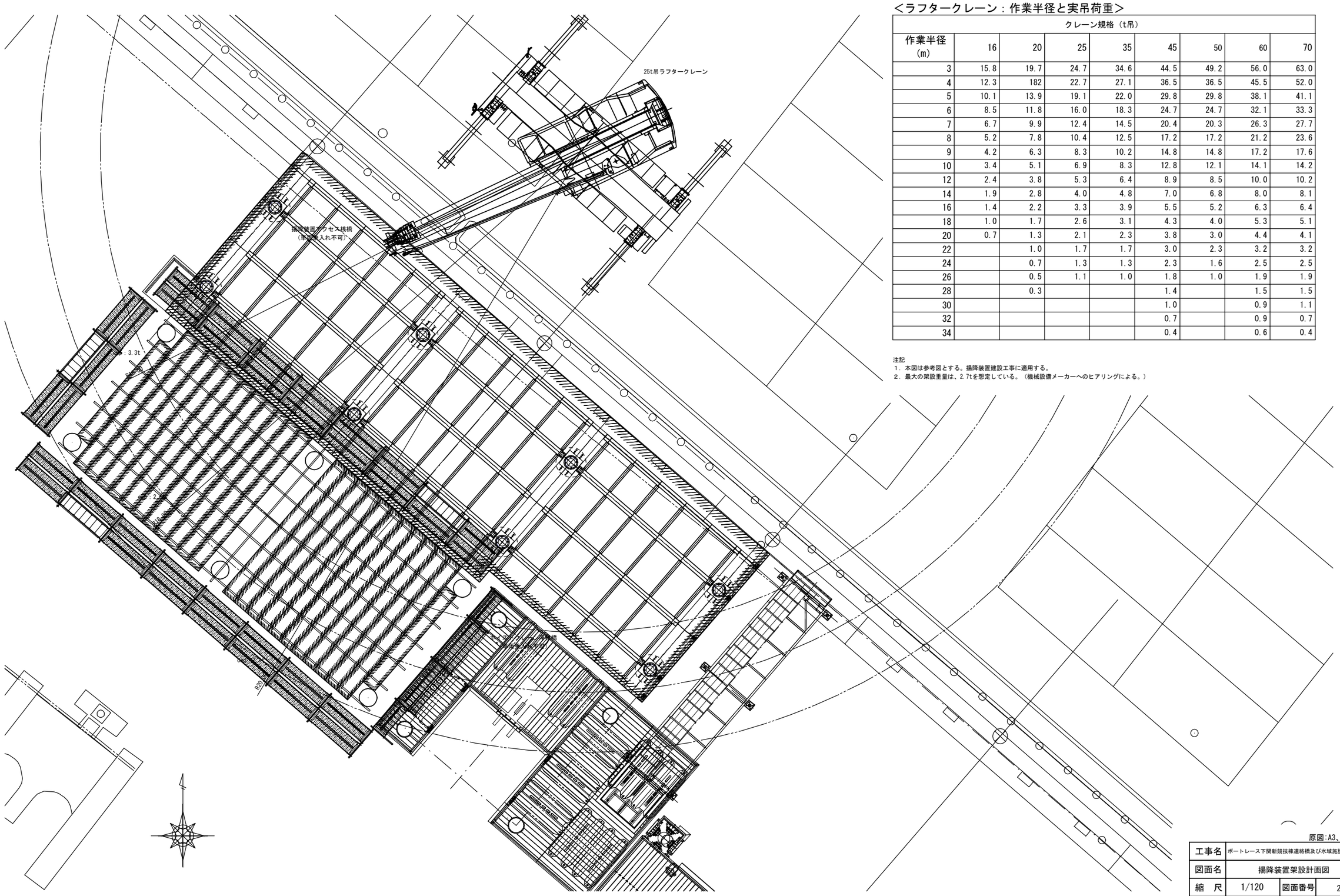
注記
1．本図は参考図とする。揚降装置建設工事に適用する。

原図:A3、単位:mm

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置仮設備計画図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	257
下関市ボートレース企業局			

架設計画図　　S＝1：120

参考図



＜ラフタークレーン：作業半径と実吊荷重＞

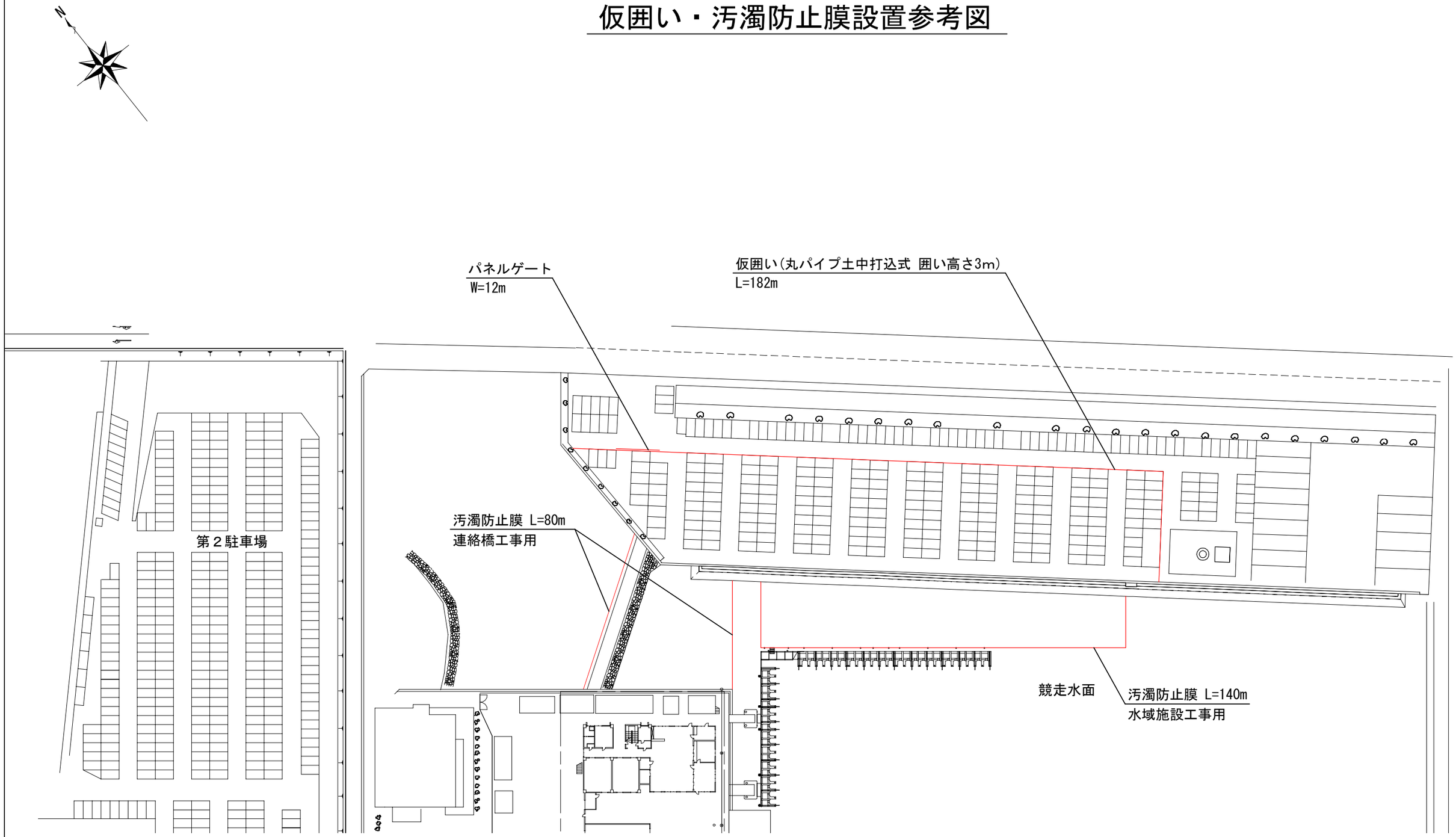
クレーン規格（t吊）								
作業半径（m）	16	20	25	35	45	50	60	70
3	15.8	19.7	24.7	34.6	44.5	49.2	56.0	63.0
4	12.3	182	22.7	27.1	36.5	36.5	45.5	52.0
5	10.1	13.9	19.1	22.0	29.8	29.8	38.1	41.1
6	8.5	11.8	16.0	18.3	24.7	24.7	32.1	33.3
7	6.7	9.9	12.4	14.5	20.4	20.3	26.3	27.7
8	5.2	7.8	10.4	12.5	17.2	17.2	21.2	23.6
9	4.2	6.3	8.3	10.2	14.8	14.8	17.2	17.6
10	3.4	5.1	6.9	8.3	12.8	12.1	14.1	14.2
12	2.4	3.8	5.3	6.4	8.9	8.5	10.0	10.2
14	1.9	2.8	4.0	4.8	7.0	6.8	8.0	8.1
16	1.4	2.2	3.3	3.9	5.5	5.2	6.3	6.4
18	1.0	1.7	2.6	3.1	4.3	4.0	5.3	5.1
20	0.7	1.3	2.1	2.3	3.8	3.0	4.4	4.1
22		1.0	1.7	1.7	3.0	2.3	3.2	3.2
24		0.7	1.3	1.3	2.3	1.6	2.5	2.5
26		0.5	1.1	1.0	1.8	1.0	1.9	1.9
28		0.3			1.4		1.5	1.5
30					1.0		0.9	1.1
32					0.7		0.9	0.7
34					0.4		0.6	0.4

注記
1．本図は参考図とする。揚降装置建設工事に適用する。
2．最大の架設重量は、2.7tを想定している。（機械設備メーカーへのヒアリングによる。）

原図:A3、単位:m

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置架設計画図		
縮　尺	1/120	図面番号	258
下関市ボートレース企業局			

仮囲い・汚濁防止膜設置参考図



原図:A3 単位:m

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	仮囲い・汚濁防止膜設置参考図		
縮　尺	1/1000	図面番号	259
下関市ボートレース企業局			

I. 工事概要

1.	工事名称	ボートレース下関競技棟 新築工事
2.	工事場所	山口県下関市長府松小田東町１－１
3.	工期	令和 7年 2月 1日 ～ 令和 10年 10月 31日
4.	建築主	下関市ボートレース企業局
5.	用途地域等	都市計画区域（⊙内 ・外 ）
		用途地域 商業地域・工業地域
		防火地域等 （・防火 ⊙準防火 ・指定なし ⊙22条）
		その他の地域・地区
6.	主用途	区分089900 ボートレース場
7.	敷地面積	44,117.94(商業地域),4,157.69(工業地域)㎡
	総建築面積	㎡ 建ぺい率 %
	延べ床面積	㎡ 容積率 %
	道路種別	1号道路 道路幅員
	敷地状況	概ね平坦

8. 概要

	棟名	① 管理棟	② 整備棟	③ 燃料庫	④ 油庫	⑤ 倉庫１	⑥ 倉庫２	⑦ 梯海詰所
	階数							
	軒高							
	最高の高さ							
	基礎下端							
	主体構造							
	地業							
	建築面積							
建築概要 各階床面積	階							
	2階							
	1階							
	合計							

	棟名	⑧ 給油庫	⑨ ×××	⑩ ×××	⑪ ×××	⑫ ×××
	階数					
	軒高					
	最高の高さ					
	基礎下端					
	主体構造					
	地業					
	建築面積					
建築概要 各階床面積	階					
	2階					
	1階					
	合計					

外部仕上げ	既存図による。
内部仕上げ	既存図による。

		方式	設備概要
電気設備	受電設備		・ φ W V Hz ・屋内形 ・屋外形
	発電設備		・ φ W V Hz
			・ディーゼル機関 ・ガスタービン （・キュービクル形 ・開放形 ・ ）
	電力貯蔵設備		・直流電源装置 （・鉛 ・アルカリ ）
			・交流無停電電源装置（・鉛 ・アルカリ ）
	幹線設備		・動力（ 3φ 3W 200V） ・電灯（ 1φ 3W 200V/100V）
	通信・情報設備		・構内情報通信網設備(・配管 ・ｹｰﾌﾞﾙ ・ﾈｯﾄﾜｰｸ機器) ・構内交換設備(・ﾃﾞｼﾞﾀﾙPBX ・VoIP)
			・情報表示設備(・マルチサイン装置 ・出退表示装置 ・時刻表示装置) ・映像音響設備
			・拡声設備(・業務用 ・非常用 ・業務用非常用兼用 ・ 回線)
			・誘導支援設備 ・音声誘導装置 ・インターホン(・保守用 ・外部受付用 ・)
			・トイレ等呼出装置 ・受付呼出装置
			・テレビ共同受信設備(・UHF ・BS ・CS ・110°CS ・124・128°CS)
			・テレビ電波障害防除設備 ・監視カメラ設備（・アナログ伝送 ・ネットワーク伝送 ）
			・駐車場管制設備 ・防犯・入退室管理設備(・防犯装置 ・入退室管理装置)
	自動火災報知設備		・型 級 回線(・単独 ・複合) ・自動閉鎖装置 ・ｶﾞｽ漏れ
	雷保護設備		・JIS A4201-1992 ・JIS A4201-2003(・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) ・受雷部(・笠木 ・突針 ・棟上導体)
	警報監視制御設備		・警報盤 ・簡易型監視制御装置 ・監視制御装置
設備概要 給排水衛生設備	上水供給方式		・水道直結式 ・増圧給水方式 ・高置水槽式 ・加圧ポンプ式
	雑用水(中水)		・水源（・処理水 ・雨水 ・井水 ） ・供給方法（・高置水槽式・加圧ポンプ式・ ）
	給湯方式		・中央（・貯湯式・瞬間式)(・ガス・電気) ・個別式（・貯湯式・瞬間式)(・ガス・電気)
	排水方式		・直接放流 ・浄化槽 ・屋内（・分流式・合流式) ・屋外（・分流式・合流式）
	消火設備		・屋内消火栓・屋外消火栓・スプリンクラー・不活性ガス・泡消火・連結送水管・
	ガス設備		・都市ガス ・液化石油ガス(・ボンベ・バルク)
	エネルギー		・電気 ・ガス（・都市 ・液化石油ガス） ・油（・重油 ・灯油） ・廃熱利用
	熱源方式		・中央熱源 ・個別空調 ・地域熱源
	熱源機器		・冷凍機 ・ボイラー（温水発生器含） ・ヒートポンプ冷凍機 ・冷温水発生機
			・蓄熱槽 ・氷蓄熱ユニット ・コジェネレーション
空気調和設備	配管方式		・冷温水配管（・２管式 ・４管式 ） ・冷媒配管（・２管式 ・３管式 ）
	空調ﾀﾞｸﾄ方式		・単一ダクト ・単一ダクト＋ファンコイルユニット ・ファンコイルユニット
			・パッケージ形空調機（床置） ・空冷ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾊﾟｯｹｰｼﾞ （・マルチタイプ・セパレート）
			・ガスエンジンヒートポンプユニット ・氷蓄熱ヒートポンプユニット ・小型太熱源ヒートポンプユニット
	換気方式		・中央 ・個別 ・第１種 ・第２種 ・第３種 ・自然換気システム
	排煙方式		・自然 ・機械 ・告示免除 ・避難安全検証法
	自動制御		・電気 ・電子（・デジタル調節器 ） ・デジタル（・DDC、中央監視装置 ）
昇降機設備	エレベーター		・乗用 ・車椅子兼用 ・荷物用（ kg)・ 人乗 ・ m／分・ 台
			・乗用 ・車椅子兼用 ・荷物用（ kg)・ 人乗 ・ m／分・ 台
	非常用エレベーター		・ 人乗 ・ m／分・ 台
	エスカレーター		・幅 mm ・ 基
機械駐車設備	乗り入れ方式		・
	適用車種（収容台数）・大型車用（ 台） ・中型車用（ 台） ・ 中小型車用（ 台）		

9. 工事内容

⊙ 地上構築物	※ 図示	⊙ 外構	※ 図示
⊙ 地下構築物	※ 図示	・	※ 図示
⊙ 基礎	※ 図示	・	※ 図示
⊙ 地業（杭）	※ 図示	・	※ 図示

10. 別途工事

II. 解体工事特記仕様書

項目	特記事項
①. 共通仕様	a.図面および本特記仕様書に記載されていない事項は,全て建築物解体工事共通仕様書 令和4年版及び同解説令和5年版(以下「共仕・同解説」という)による。 b.建築物解体工事共通仕様書・同解説において「監督職員」とあるのは全て監理者と読み替える。
②. 特記事項	1) 項目は番号に○印のついたものを適用する。 2) 特記事項で⊙印、◉印、・印のある場合の適用は下記による。 ⊙印のついたものを適用する。 ⊙印のない場合は、※印のものを適用する。 ⊙印と◉印ある場合は,共に適用する。
③. 設計図書の優先順位	設計図書に関する優先順位は次による。 1) 質問回答書 2) 現場説明書 3) 特記仕様書 4) 図面 5) 建築物解体工事共通仕様書・同解説
4. 工事区分	電気設備解体工事及び機械設備解体工事も一式で含むものとする。

1章 各章共通事項

項目	特記事項
①. 一般事項	工事着手前に、解体建物内外共の事前調査を十分に行い,事故防止及び環境保全に十分配慮した解体工法並びに建設廃棄物の処理等について具体的に定めた施工計画書を監理者に提出する。 工事着手前に近隣住民等へ周知するとともに必要に応じて隣接地の家屋等調査を行うこと。事後調査により本解体工事に起因する損害が発見された場合については、速やかに監理者に報告するとともに、受注者の負担において従前の状態へ復旧するものとする。 工事に伴う官公庁への届出等の手続き(その費用を含む。)及び工事用電気・水道の使用に係る費用は、受注者の負担とする。 建築物の除却届等の許可申請及び届出（「共仕・同解説」表1.2）については受注者が所定の手続きを行うこと。 工事にあたっては、近隣住民や通行人に対する安全の確保に努めること。 工事にあたっては、騒音規制法、振動規制法等の関係諸法令を遵守し、必要な措置を講ずること。(騒音測定調査及び振動測定調査報告書を提出する) 工事による発生材は、産業廃棄物処理法、建設リサイクル法等の関係諸法令を遵守し、監理者の承認を得て処分すること。 受注者は監理者と随時打合せを行い工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗を図ること。 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監理者に報告の上、指示に従うこと。 (汚染土壌,不発弾,有毒ガス,埋蔵文化財,電波障害等) 解体施工に携わる下請人が解体工事業の登録を行っている場合は,「建設リサイクル法」で定める技術管理者について資格を証明する資料を監理者に提出する。
②. 電気保安技術者（1.3.3）	⊙配置する ・配置しない
③. 施工条件（1.3.5）	関連工事による ・有（内容 ： ） 施工時期の調整 ・無 ⊙有（ 新競技棟に引越完了後 ） 施工時期・時間の制限 ⊙指定あり（内容 ：レース運営状況による） ・指定なし 工事用車両の駐車場所 ⊙工事現場内 ・工事現場外（位置，広さ図示） 資機材の置場所 ⊙工事現場内 ・工事現場外（位置，広さ図示） その他 ⊙有（内容 ：レース運営に支障のない解体計画とする）
④. 施工中の安全確保（1.3.6）	建築基準法、労働安全衛生法、その他関係法令等に基づくほか、「建設工事公衆災害防止対策要綱」及び、「建築工事安全施工技術指針」を踏まえ、常に工事の安全に留意して現場代理人が管理を行い、施工に伴う災害及び事故の防止に努める。 コンクリート破砕片や鉄筋、鉄骨の切断片等の飛散により、第三者及び作業員に危害を与えないよう、解体作業区域を関係者以外の立ち入り禁止区域とし、必要に応じて監視員を置くなどの措置を講じる。
⑤. 発生材の処理（1.3.10）	⊙発注者に引渡しを要するもの (※金属類 ※PCB含有物 ・) ・再利用を図るもの (・ ・ ・) ⊙再資源化を図るもの (⊙金属類 ・ ・) ⊙調査範囲 ※図示 ⊙(解体建屋全て) [1.4.1(7)(イ)] ⊙既存の設計図書の貸与（⊙あり ・なし ） ⊙既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与（⊙あり ・なし ） ⊙分析調査を行う 吹付材の試料 3箇所以上 10㎡／箇所を採取 施工階単位で採取 1フロアの施工面積が3000㎡以上の場合は600㎡ごとに採取 保温材の試料 3箇所以上 100㎡／箇所を採取 成形板保温材同士のつなぎ目を貫通して採取 成形板その他の試料 3箇所 100㎡／箇所を採取 分析方法 ・定性分析 ⊙定量分析
⑥. 石綿含有建材の事前調査（1.4.1）	
⑦. 施工数量調査（1.5.2）	調査範囲・方法 ※事前措置等に係わる調査(3.2.1) ※分別解体等の計画等に係わる調査 ※建設廃棄物等の処理に係わる調査(4.1.3) ・特別管理産業廃棄物等の処理に係わる調査(5.1.3) ・アスベストの処理に係わる調査(1.4.1) ※契約約款，発注設計図書等の内容確認
⑧. 完成図等	※完成原図一式 ※工事完成後１ヶ月以内に下記の図面などを提出する。 ⊙原図一式（新規に作成、又は原図訂正、用紙 ・トレーシングペーパー ・普通紙 ） ⊙ＣＡＤ図面データ ⊙PDF又は画像データ ・マイクロフィルム（マスターフィルム ※１部 ・ 部） ⊙２つ折り製本 ２部 ・折り込み製本（A4版全文字入り） 部 ・Ａ３縮小原図及び２つ折り白焼き製本 部
⑨. 完成写真	・作成する 下記のものを監理者の指示する指定の台紙に貼付け、又は指定のカバー、ケースに収納し撮影個所を明記し提出する。 種類：完成写真／分類：※カラープリント、※キャビネ版／規格：外部（ ）内部（ ）・ 部／※102×127以上 ・リバーサルフィルム：外部（ ）内部（ ）・ 部／※102×127以上 ・カラースライド：外部（ ）内部（ ）・ 部／※26×36以上 ※ディスク：外部（ ）内部（ ）・ 部／※200万画素以上 ・作成しない
⑩. 保険等	解体工事について 次により保険に付す。 保険の種類： ・請負業者賠償責任保険 保険期間 ： ※工事着手から工事目的物引き渡しまで ・( )
⑪. 不法無線局の排除	※受注者は電波法令を遵守し、不法無線局を搭載した車両を使用してはならない。
12. 工事実績情報サービス（CORINS）への登録（1.1.4(1)）	・登録する ・登録しない
⑬. 工事の記録（1.2.3(5)）	履行報告書の書式 ※絆設計「工事に関する書類作成要領」による ・ 工事写真の撮影対象 ※営繕工事写真撮影要領「平成31年度版(令和3年一部改訂)」による（国土交通省大臣官房官庁営繕部） ・
14. 技能士（1.6.2）	適用工事種別 ・
15. 技術検査（1.7.2）	工事施工途中における技術検査（中間技術検査） ・実施する ・実施回数( ) ・実施段階( ) ・実施しない
⑯. 関連工事等の調整（1.1.7）	契約書に基づく関連工事及び設計図書に明示された他の発注者の発注に係る工事（以下「関連工事等」という。）について、監理者の調整に協力し、当該工事関係者とともに、工事全体の円滑な施工に努める。

2章 仮設工事

①. 仮囲い	⊙設ける （位置、延長等は図示） ・設けない ⊙万能鋼板 (H=3,000) ・波形鉄板 (H=) ・パネルゲート (W= H=) × 個所 ・シートゲート (W= H=) × 個所
②. 騒音・粉塵等の対策（2.2.1）	※防音パネル ・防音シート ・養生シート 防音パネル等を取りつける足場等の設置範囲等 ※図示 ・
③. 交通誘導員	⊙配置する （11ヶ月× 2 人） ・配置しない
④. 監理者事務所等（2.3.1）	⊙設ける ・既存建物内の一部を使用する。 ⊙構内に新設する (規模 20 ㎡程度) ・備品類 ( ) ・設けない ※現場表示板 （監理者の指示する場所） 「 設置枚数 枚 」 ※その他法令等による表示板 （監理者の指示する場所）
⑤. 工事用水	構内既存の施設 ⊙利用できる(⊙有償 ・無償) ・利用できない
⑥. 工事用電力	構内既存の施設 ⊙利用できる(⊙有償 ・無償) ・利用できない
⑦. 工事用通路	・指定する(図示) ⊙指定しない
8. 山留めの撤去（2.4.3）	鋼矢板等の抜き跡の処理 ・直ちに砂で充填する。 ・
⑨. その他	酸素、アセチレン、軽油等の危険物は所定の位置で施設できる小屋等に保管すること。 作業通路は、指定通路表示を行い、足場等の堅固なもので頭上の保護を行うこと。

3章 解体施工

①. 事前措置（3.2.1）	⊙浄化槽、排水槽の汚水、汚物等の回収、洗浄、消毒等 3.2.1(コ) ・オイルタンク、オイルサービスタンク及び配管内の廃油の回収、洗浄等 3.2.1(サ)
②. 杭の処理（3.9.2）	⊗引抜工法 杭の処理 ・破砕 ・図示 ※解体し再資源化 ・残置（種別、杭径等は図示による。）
③. さく、照明設備等の撤去物（3.10.1）	⊙さく ⊙照明設備 ・ ・
④. 構内舗装・樹木等（3.11.1）	⊙樹木伐採抜根（図示） ・樹木移植（図示） ・その他 (・)
⑤. 地下埋設物・埋設配管（3.12.1）	⊙地下埋設物 （「図示」 ） ・埋設配管 （「図示」 ）
⑥. 埋戻し・盛土（3.13.1）	⊙埋戻し (※購入土 ・現場発注再生材 ・) ・盛土 (※購入土 ・現場発注再生材 ・)

4章 建設廃棄物の処理

①. 建設廃棄物の保管（4.2.1）	廃棄物処理法の「産業廃棄物保管基準」に基づき、分別した廃棄物の種類ごとに保管する。
2. 再資源化等（4.4.1）	建設廃棄物に応じた 中間処理施設・ 再資源化施設・ ・以下の建設廃棄物を再資源化する。 ・廃棄物処理法に基づく水銀使用製品産業廃棄物 ・硬質ポリ塩化ビニル管及び継手 ・ガラス ・木材を指定建設資材廃棄物として縮減する。 ・再資源化物の現場での再利用（・ ・ ・ ）
3. 産業廃棄物広域認定制度（4.4.2）	対象建設廃棄物（・ ・ ・ ）
4. 最終処分（4.4.3）	・安定型最終処分場 建設廃棄物の種類（ ・ ・ ・ ） ・管理型最終処分場 建設廃棄物の種類（ ・ ・ ・ ） ・遮断型最終処分場 建設廃棄物の種類（ ・ ・ ・ ）
⑤. 処理に注意を要する建設廃棄物（4.5.1）	・ＣＣＡ処理木材（ｸﾛﾑ・銅・ひ素化合物系木材・防腐剤処理木材） 適切な燃焼・排ｶﾞｽ処理設備を有する中間処理施設にて処理。 ・せっこうボード（ひ素・ｶﾄﾞﾐｳﾑ含有） ・製造業者による処分 （業者名：・小名浜古野石膏(株)いわき工場 ・日東石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(株)八戸工場 ・管理型最終処分場で埋立処分 ⊙せっこうボード（一般） ・再資源化施設で再資源化 ・管理型最終処分場で埋立処分

5章 特別管理産業廃棄物等の処理等

1. 施工計画調査（5.1.2）	分析調査項目 ・ ・ ・
2. 特別管理産業廃棄物の処理（5.4.1）	・廃石綿類 (5.4.1(1)) ・PCBを含む機器類 (5.4.1(2)) 微量PCBの分析調査 ・行う ・行わない ・PCB含有ｼｰﾘﾝｸﾞ材 (5.4.1(3)) 分析調査 ・行う ・行わない 撤去 ・ ・廃油 (5.4.1(4)) ・焼却処分 ・中間処理施設で再生処理 ・廃酸・廃アルカリ (5.4.1(5)) ・中和処理 ・焼却処分 ・中間処理施設で再生処理 ・ダイオキシン類 (5.4.1(6)) サンプリング調査 ・行う ・行わない 解体方法 ・ 処分方法 ・

6章 石綿含有建材の除去等

①. 施工一般	大気汚染防止法、廃棄物処理法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令第21号）その他石綿処理に関する諸法令等に基づき施工を行う。
②. 石綿粉じん濃度測定（6.1.3）	⊙粉じん濃度測定を行う 粉じん濃度測定方法 ※JIS K 3850-1（空気中の繊維状粒子測定方法第1部、光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法） ・

測定時期	測定名称	測定場所	測定箇所数
処理作業前	測定1	※作業場内 ・	箇所
	測定2	※作業場外部の付近 ・	箇所
処理作業中	測定3	※作業場内	箇所
	測定4	※負圧・除じん装置の排出吹き出し口 ・	箇所
	測定5	※作業場外 ・	箇所
処理作業後（シート養生中）	測定6	※作業場内 ・	箇所
処理作業後(シート撤去後１週間以降)	測定7	※作業場内 ・	箇所
	測定8	※作業場外部の付近 ・	箇所

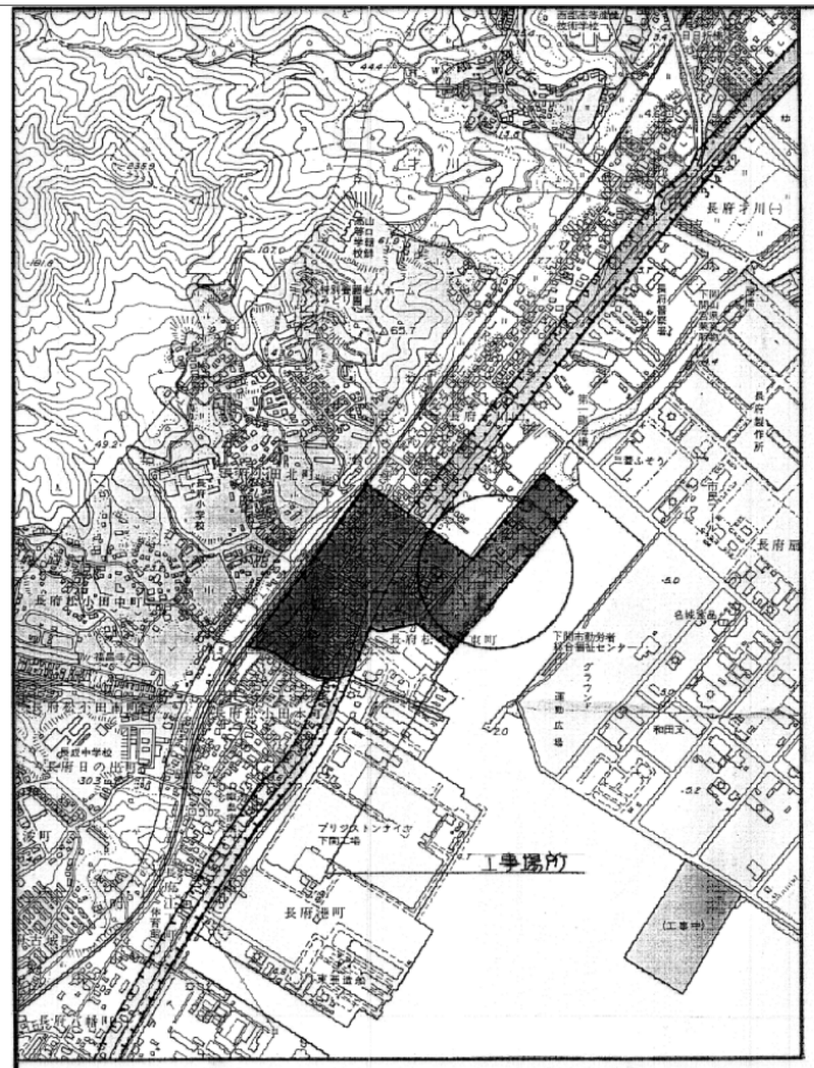
※測定機関は都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。
※計数分析は、第１種作業環境測定士が行うものとする。

③. 石綿含有吹付け材の除去（6.3）	除去工法 ※6.3.2(1) ・ (6.3.2(1)) 飛散防止措置 ※湿潤化 ・固形化 (6.3.2(2)) 処分 ・埋立処分 ・中間処理 (6.3.3(1))
④. 石綿含有保温材等の除去（6.4）	除去方法 ※原形のまま手ばらし (6.4.2～6.4.4) ・切断又は破砕して除去 (6.3) 養生シート等を用いた作業場所周辺の養生 ・行う ・行わない
⑤. 石綿含有成形板の除去（6.5）	石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分 ⊙埋立処分 6.5.4(ｴ)(6)① ・中間処理 6.5.4(ｴ)(6)②
⑥. 石綿含有仕上塗材の除去（6.6）	除去方法 ・ 除去した石綿含有仕上塗材の汚泥としての処理 ⊙必要 ・不要
⑦. その他	※『石綿含有成形板』，『石綿含有断熱材・耐火被覆板』の廃棄物分類は、特別管理産業廃棄物に該当しない。「がれき類」あるいは「ｶﾞﾗｽくず，ｺﾝｸﾘｰﾄくず及び陶磁器」に該当する。 マニフェストの備考欄等にそれぞれの廃棄物名を明示し、安定型処分場に処分する。

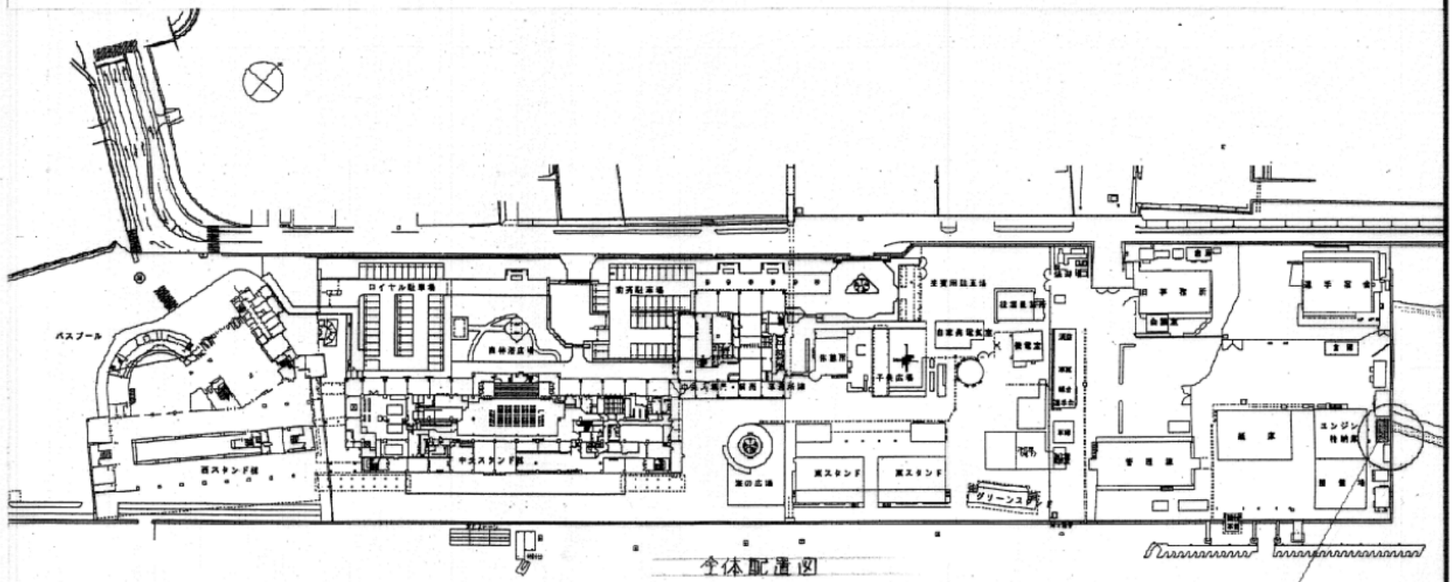
7章 特殊な建設副産物の処理

①. 施工計画調査（7.1.3）	分析調査 ・
②. 処理等（7.3.1）	⊙フロン（冷媒） ※回収 ・フロン（建材用断熱材フロン） ※焼却による破壊処理 ・ハロン消火設備のハロン容器 ※設備業者等に処理委託 ・放射性同位元素を使用しているイオン化式感知器 ※製造業者等に処理委託 ・六ふっ化硫黄（SF6）ガスを使用する受変電機器 ※製造業者に処理委託 ・PFOS(ペルフルオロ(オクタン-1-スルホン酸))を含む泡消火剤等 ※処理業者に処理委託 ・特定化学物質 ※処理業者に処理委託

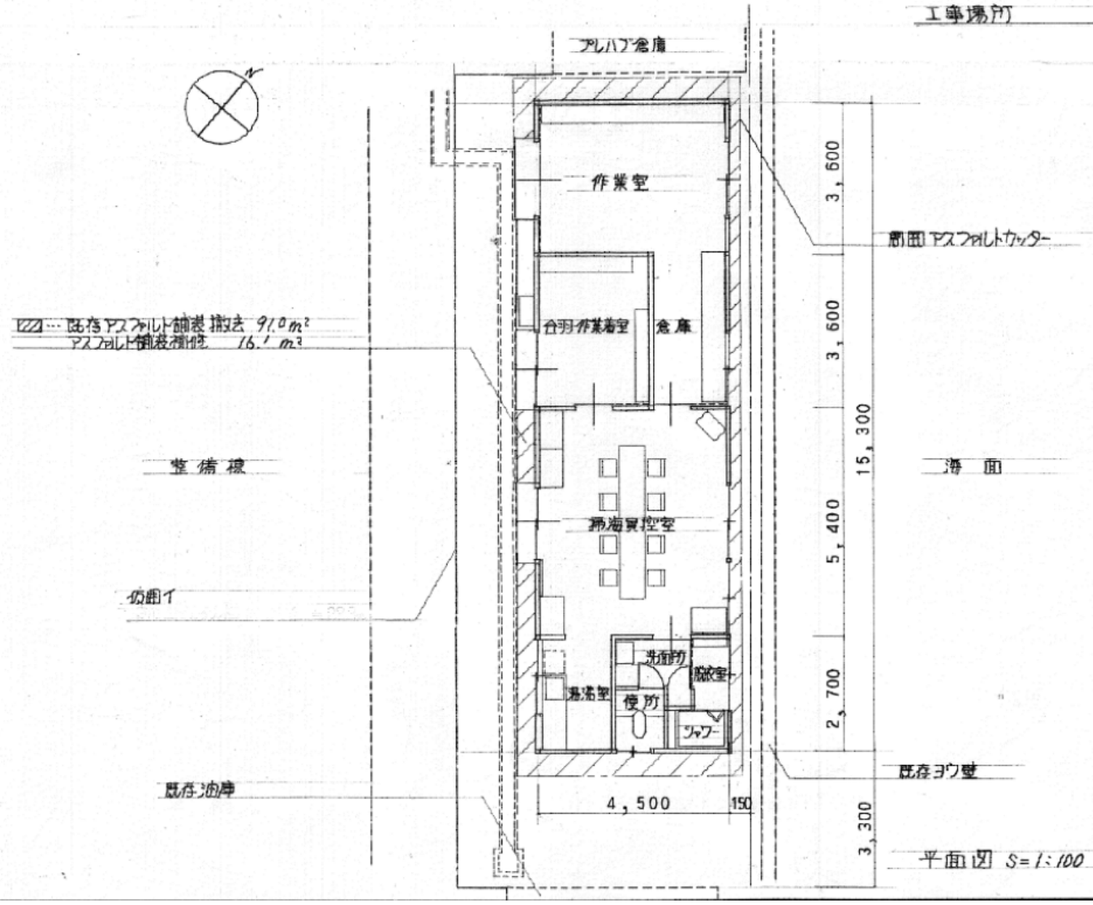
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	解体工事特記仕様書		
縮尺	－	図面番号	260
下関市ボートレース企業局			



附近見取図



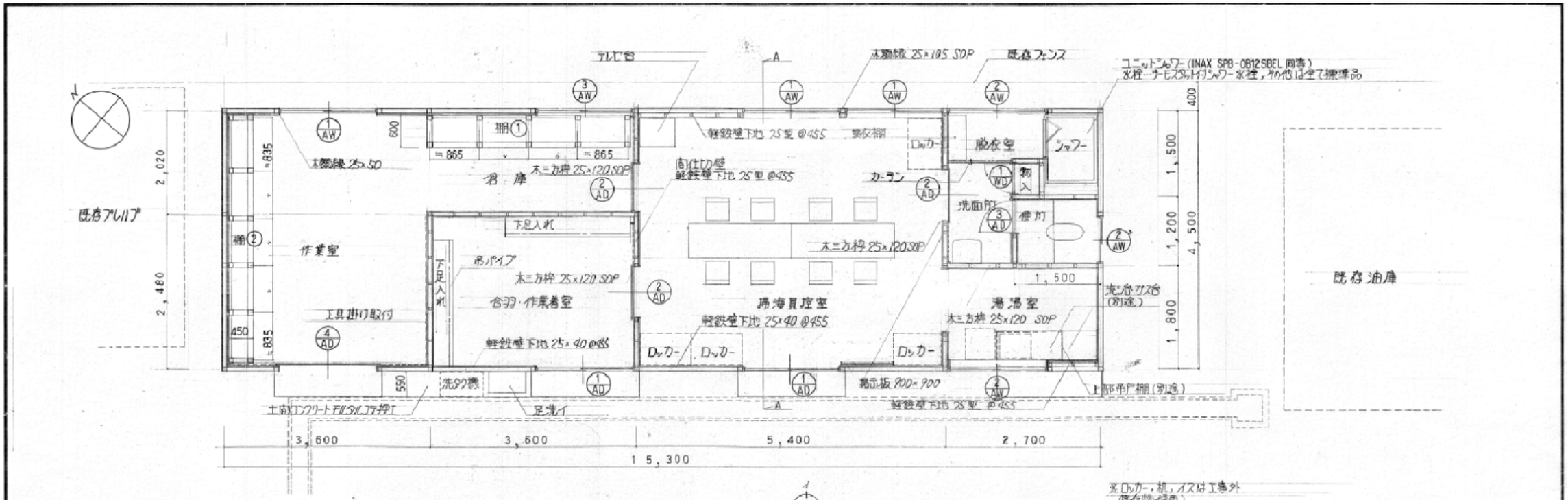
全体配置図

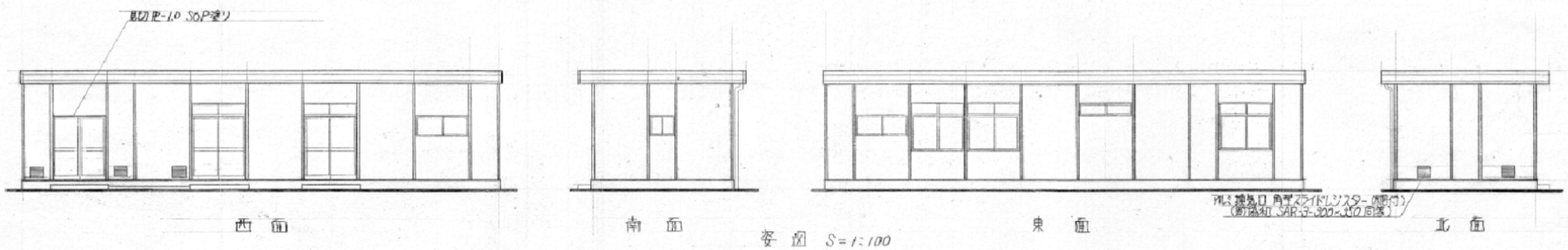


平面図 S=1:100

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	付近見取図・全体配置図・平面図（掃海詰所）		
縮　尺	－	図面番号	261
下関市ボートレース企業局			

電気設備解体工事及び機械設備解体工事も一式で含むものとする。



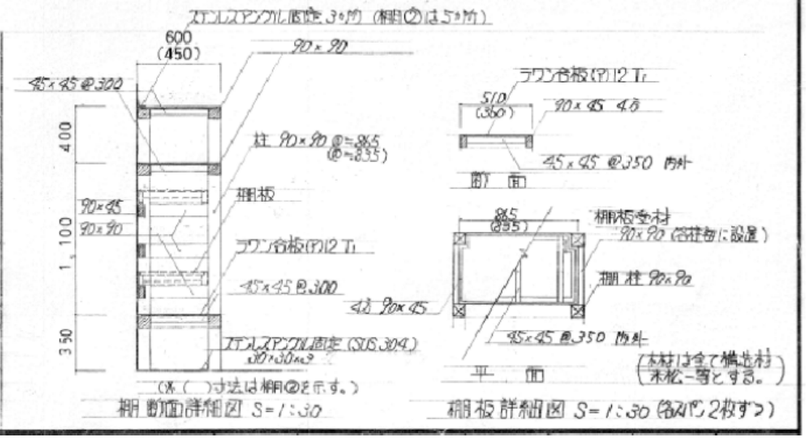


仕上表

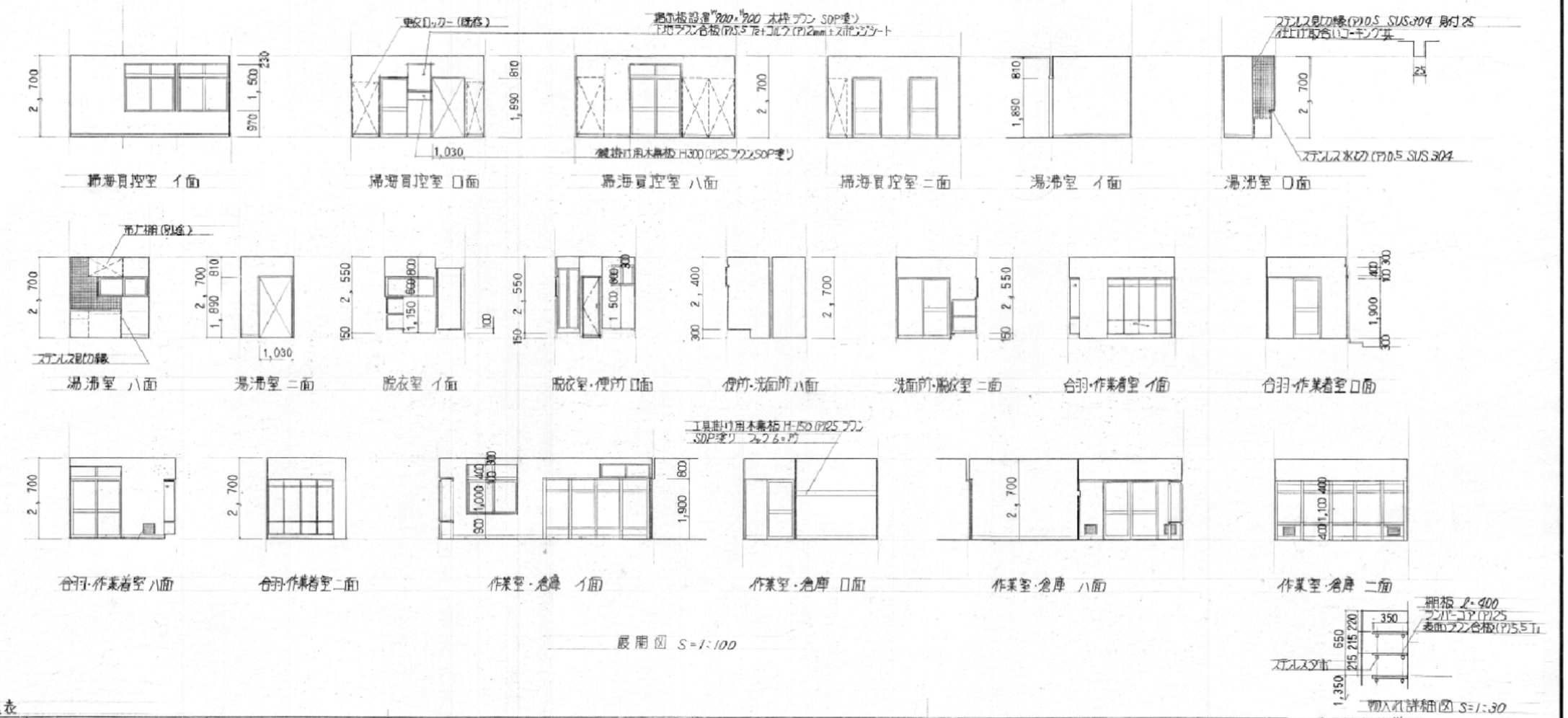
	床	壁	天井	備考
掃海員控室	石R ビニルシート(P)2t 下地モルタル(エポキシ樹脂塗布) (巾木 NSシート NS400同等) 木巾木 H=100 SOP 2回塗り	石コウボード(P)9.5 捨て張り ケイ酸カルシウム板(P)6 受付 ビニルクロス張り	化粧石コウボード(P)9.5 断熱材グラスウール敷込み(P)50 24kg/m³	廻り縁…塩ビ 掲示板…900×900 1ヶ所 木額縁 SOP塗り
合羽・作業着室	モルタルコテ押エ エポキシ樹脂系塗床(P)0.3 ランダムアイ仕上げ ソフト巾木 H=100	ケイ酸カルシウム板(P)6 捨て張り 〃 目スクン VP 2回塗り	ケイ酸カルシウム板(P)6 目スクン VP 2回塗り 断熱材グラスウール敷込み(P)50 24kg/m³	廻り縁…塩ビ 木額縁 SOP塗り
湯沸室	掃海員控室と同じ	流し台廻り…50角タイル ケイ酸カルシウム板(P)6 捨て張り タイルボード(P)9 他の所…脱衣室と同じ	掃海員控室と同じ	廻り縁…塩ビ 流し台上部 ステンレス水切り 木額縁 SOP塗り
便所	50角タイル 下地モルタル (INAX プレイン50同等)	湯沸室 流し台廻りと同じ (タイルは INAX プレイン50 ミクスチャックス同等とする。)	合羽・作業着室と同じ	廻り縁…塩ビ 木額縁 SOP塗り
脱衣室 (洗面所)	掃海員控室と同じ	ケイ酸カルシウム板(P)6 捨て張り 〃 受付 ビニルクロス張り	合羽・作業着室と同じ	廻り縁…塩ビ 物入内部…底:ランダムアンコ(P)9 壁・天井…ラワン合板 T.(P)5.5 木額縁 SOP塗り
倉庫・作業室	合羽・作業着室と同じ	合羽・作業着室と同じ	合羽・作業着室と同じ	廻り縁…塩ビ 木額縁 SOP塗り

概要

本体	コマツハウス タウン21 同等 (TOWN RFH 2.5×8.5)
屋根	カラー鉄板(P)0.5 ルーフデッキ葺 母屋 C-75×45×15×2.3 @1800 勾配 1/180
外壁	サンドイッチパネル(P)22 (外部)カラー鉄板(P)0.35 (内部)——〃——(P)0.35 (床:材)硬質ポリウレタンフォーム充填
鉄骨	錆止メ(JIS K 5622)2回塗り 見え掛り部分 SOP 2回塗り
軸組	土台 ロ-100×100×2.3 柱 2C-75×45×15×2.3 小屋梁 軽量H形鋼 壁・小屋ブレース M12
その他	土台水切…カラー鉄板(P)0.35 屋根裏換気口…丸型フード付サラテ アルミ製 (防虫網付(第一産業 SK-SGF75相当)) 1ヶ所



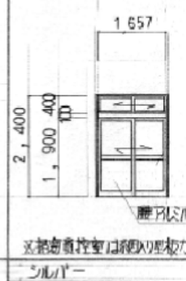
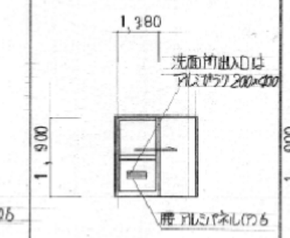
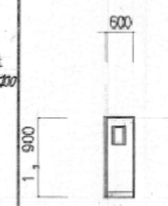
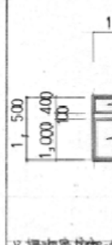
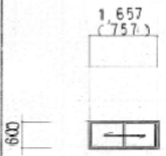
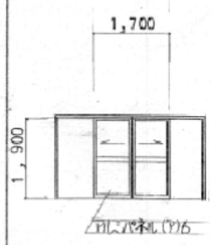
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	平面詳細図・姿図・仕上表（掃海詰所）		
縮尺	—	図面番号	262
下関市ボートレース企業局			



展開図 S=1:100

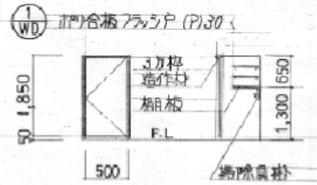
網入れ詳細図 S=1:30

建具表

記号・見込み	① AD 70	② AD 35	③ AD 方開き アルミフラッシュ戸 70	① AW 70	②AW, ②AW' 70	③ AW 70	④ AD 70
姿図							
	※浴室前室は網入り型板ガラス(P)6.8			※浴室前室は網入り型板ガラス(P)6.8			
仕上げ・数量	シルバー 2	シルバー 3	シルバー 1	シルバー 3	AW-2 … シルバー 2 AW-2' シルバー 1	シルバー 1	シルバー 1
金物	標準金物一式，SUSレール，SUSアリ板(P)1.5 シリンダー錠(内サムターン)	標準金物一式，SUSレール，SUSアリ板(P)1.5 引手	標準金物一式，SUS丁番，取手 表示錠(非常開錠)	標準金物一式，クレセント	同左	同左	AD-1と同じ
硝子	網入りガラス(P)6.8(トーメイ) 硝子押エ … ガスケット	普通型板(P)4 硝子押エ … ウーキング	同左 硝子押エ … 同左	網入りガラス(P)6.8(トーメイ) 硝子押エ … ガスケット	網入り型板ガラス(P)6.8 硝子押エ … 同左	同左 硝子押エ … 同左	AD-1と同じ

建具特記仕様

- 製作に先立ち施工図を作成し監督員の承諾を得ること。
- レール，ケリ板はSUS 304 HL仕上げとする。
- レール形状は監督員と打合せの上決定する。
- アルミパネルはアルミ1.5+樹脂板3.0+アルミ1.5とする。



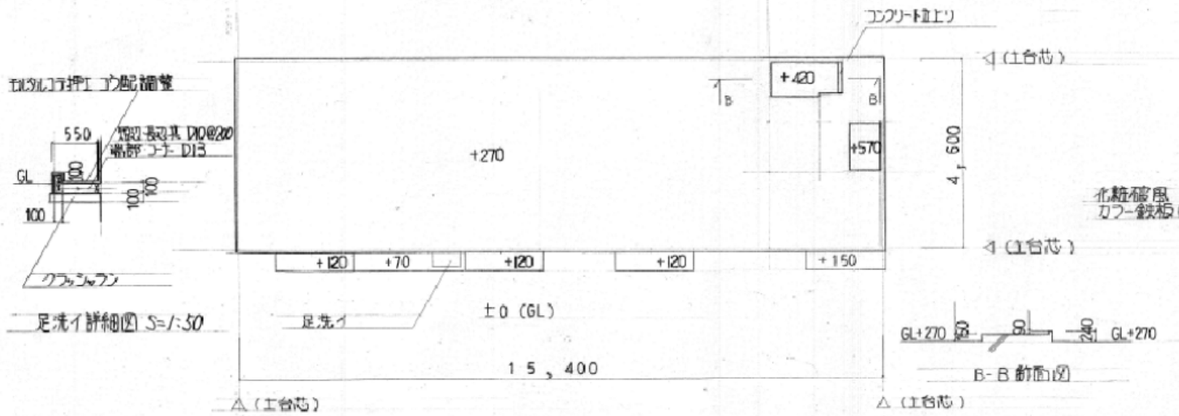
金物…SUS丁番，取手，マグネットキャッチ，

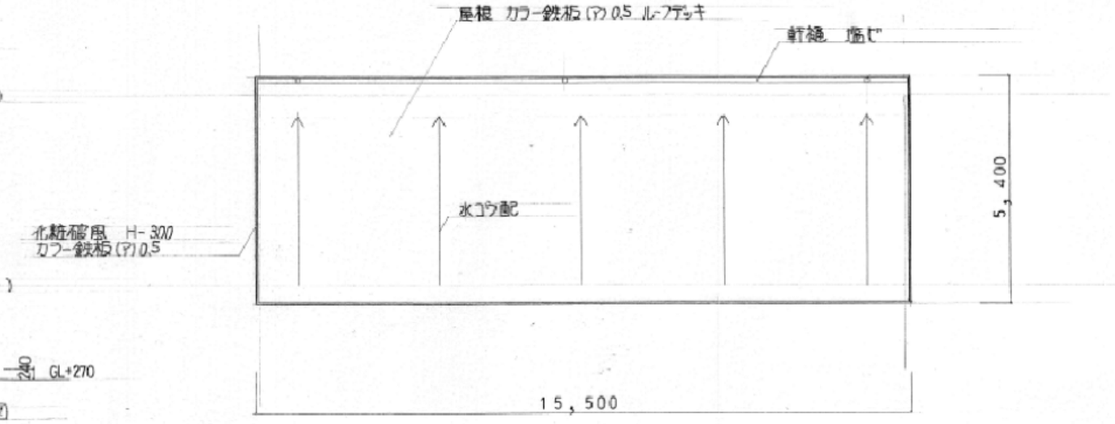
埋込長掛…H-150 l=400(P)25 ラワン SOP塗り フック2ヶ所

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	展開図・建具表（掃海詰所）		
縮　尺	－	図面番号	263
下関市ボートレース企業局			

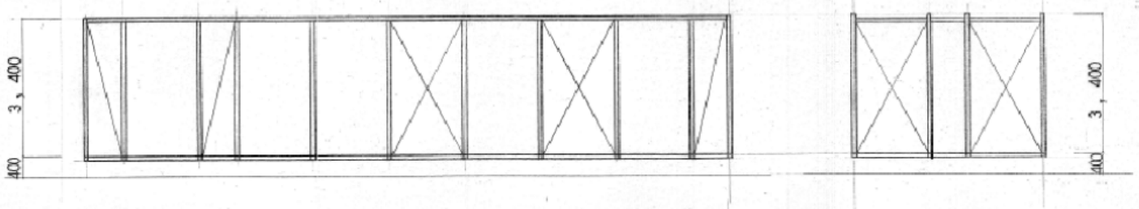
電気設備解体工事及び機械設備解体工事も一式で含むものとする。

コンクリート設計基準強度：FC-210, S-15



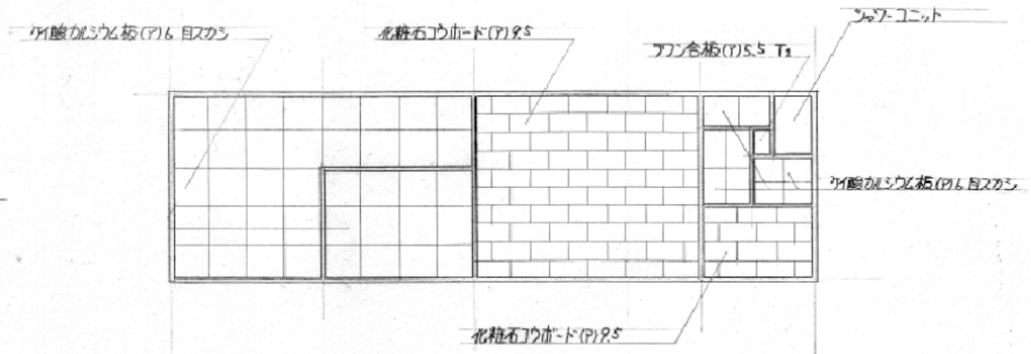


基礎伏図 S=1:100

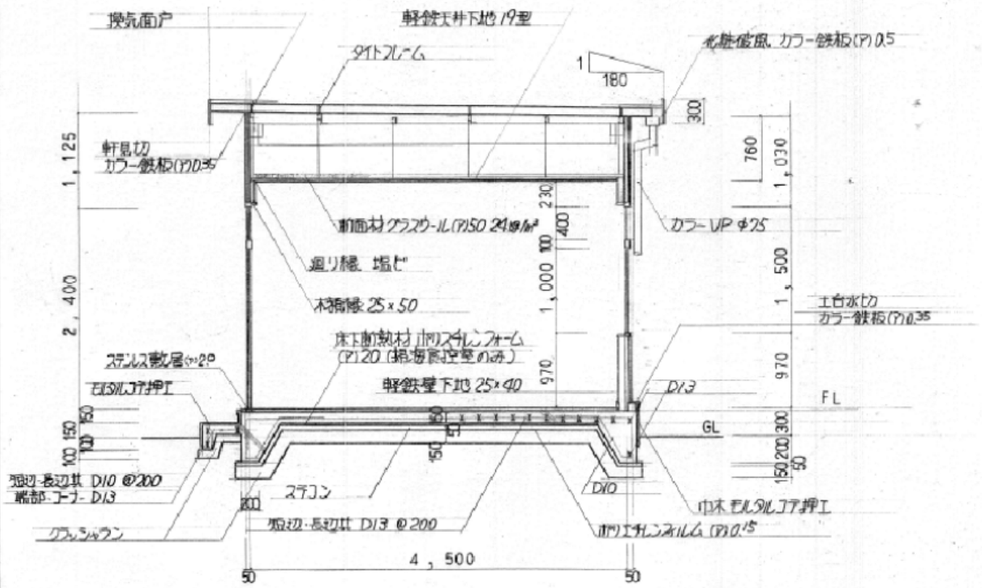


軸組図 S=1:100

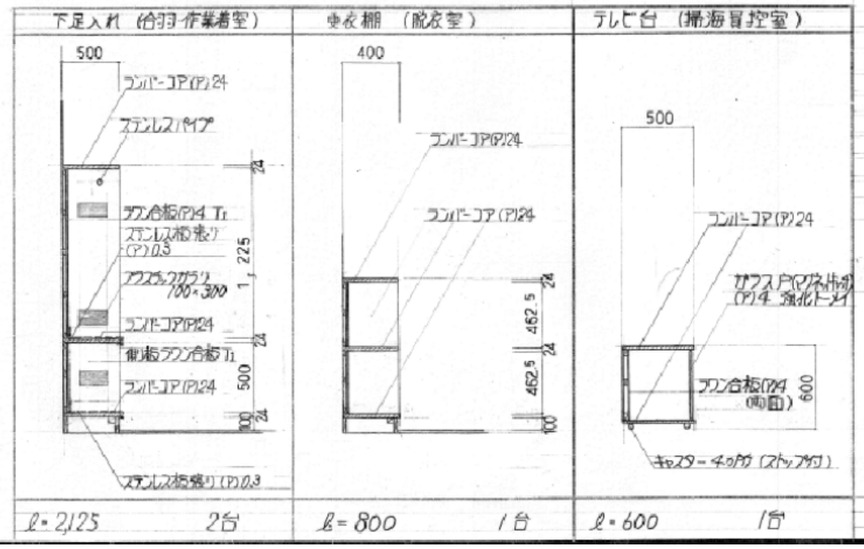
屋根伏図 S=1:100



天井伏図 S=1:100

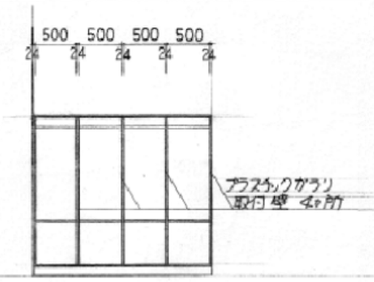


A-A 断面図 S=1:50



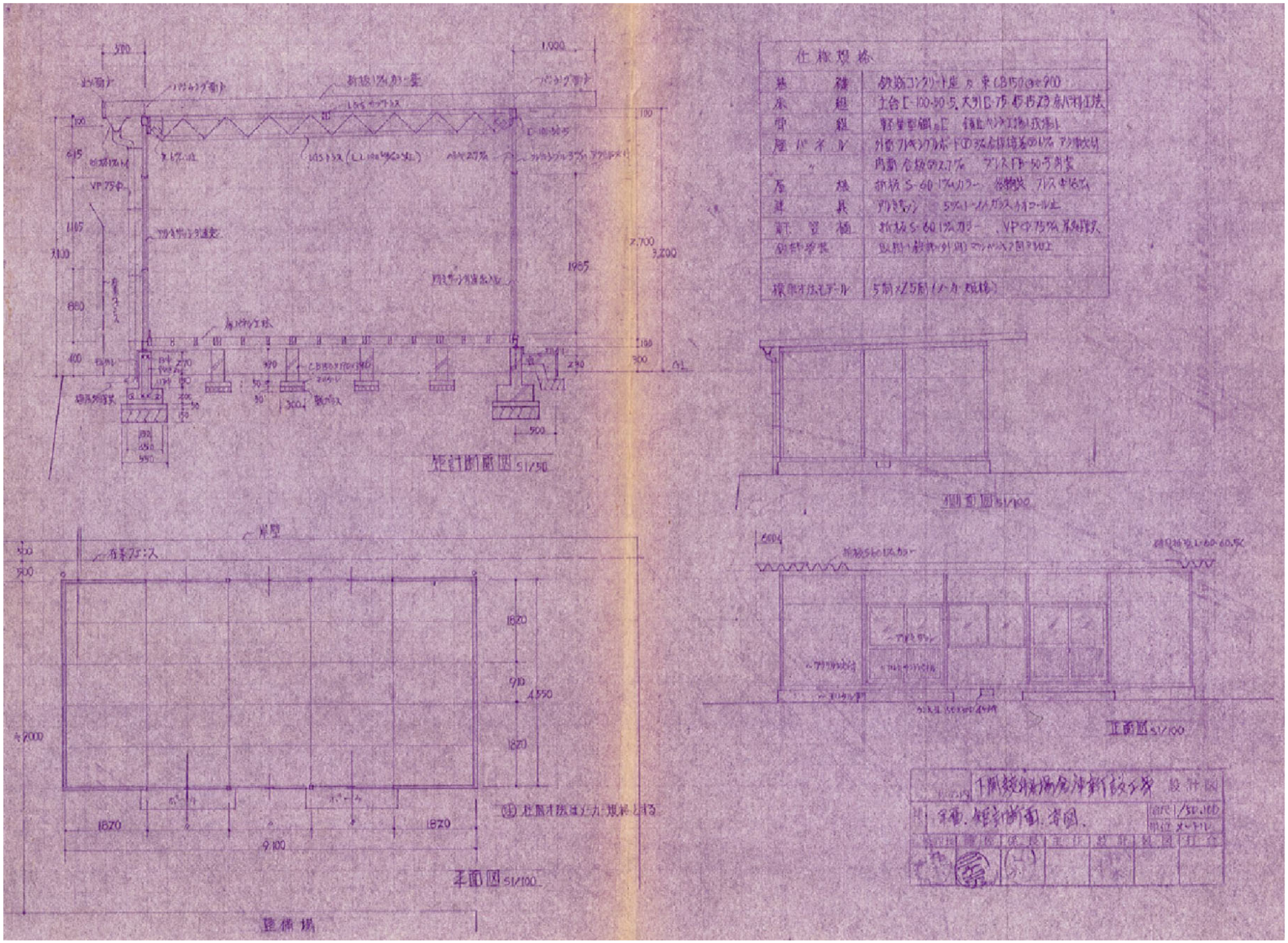
家具特記仕様

- ランバーコアは表面プラン合板(P)5.5とし、下足入れ更衣棚はT_1、テレビ台はT_2とする。
- 裏胴縁は21×45とし、横は図示の位置、縦は@450以内とする。
- 仕上げは　キシラデコール 2回塗りとする。
  ※ 更衣棚は SOP 2回塗りとする
- 下足入れ側壁は全てプラン合板(P)4 T_1とする。
- 家具製作に当り別途工図を作成し、監督員の承認を得ること。



下足入れ平図 S=1:50

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	基礎伏図・軸組図・屋根伏図・断面図 (掃海詰所)		
縮　尺	－	図面番号	264
下関市ボートレース企業局			



電気設備解体工事及び機械設備解体工事も一式で含むものとする。

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	平面図・矩計図・姿図（倉庫１・２）		
縮　尺	－	図面番号	265
下関市ボートレース企業局			

Ⅰ. 設　計　概　要

一般事項

建物名称	ボートレース下関競技棟	所在地	山口県下関市長府扇町４丁目
建築主	下関市ボートレース事業管理者 田中康弘	用途	08340 ボートレース整備場/08470 事務所
工事種目	⊙新築 ・増築 ・改築 ・改修 ・その他（　　）		
用途地域	工場専用地域	防火地域	指定なし
その他の地域地区	・		
建ぺイ率	60 %	容積率	200 %
工期	着工：令和　年　月　日 ── 竣工：令和　年　月　日		
概成工期	着工：令和　年　月　日 ── 竣工：令和　年　月　日		

敷地面積	11,975.90 ㎡		
総建築面積	4,465.65 ㎡	建ぺイ率	37.28 %
延べ床面積	5,069.07 ㎡	容積率	42.32 %
容積率対象床面積	5,069.07 ㎡	容積対象外床面積	0 ㎡
道路種別	建築基準法42条１項１号道路	道路幅員	13 m
敷地状況	概ね平坦		

棟別概要

棟名	① 競技棟	② 厩舎棟	③ 燃料庫棟	④ 給油庫棟
階数	2	1	1	1
軒高	GL+9.3m	GL+4.22m	GL+3.7m	GL+3.7m
最高の高さ	GL+10.0m	GL+4.77m	GL+3.975m	GL+3.975m
基礎下端	GL-2.65m	GL-1.30m	＊＊＊	＊＊＊
構造種別	SRC造	S造	RC造	RC造
	⊙耐震構造・免震構造	⊙耐震構造・免震構造	⊙耐震構造・免震構造	耐震構造・免震構造
地業	杭基礎	布基礎	べた基礎	べた基礎
建築面積	3,641.26㎡	346.87㎡	14.97㎡	14.97㎡
	消防法別表１（⊙普通・無変）	消防法別表１（⊙普通・無変）	消防法別表１（⊙普通・無変）	消防法別表１（⊙普通・無変）
構造制限	・耐火 ⊙準耐火 ・制限無	・耐火 ・準耐火 ⊙制限無	⊙耐火 ・準耐火 ・制限無	⊙耐火 ・準耐火 ・制限無
床面積 各階 2階	1,098.77 ㎡ 項（替・無）	㎡ 項（替・無）	㎡ 項（替・無）	㎡ 項（替・無）
1階	3,286.53 ㎡ 項（替・無）	346.87 ㎡ 項（替・無）	14.97 ㎡ 項（替・無）	14.97 ㎡ 項（替・無）
合計	4,385.30 ㎡ 項	346.87 ㎡ 項	14.97 ㎡ 項	14.97 ㎡ 項

棟名	⑤ 油庫棟	⑥ 半屋外上屋（１）	⑦ 半屋外上屋（２）	半屋外上屋（４）
階数	1	1	1	1
軒高	GL+3.7m	GL+5.715m	GL+5.715m	＊＊＊
最高の高さ	GL+3.975m	GL+5.985m	GL+5.970m	＊＊＊
基礎下端	＊＊＊	GL-1.95m	GL-1.85m	＊＊＊
構造種別	RC造	S造	S造	S造
	⊙耐震構造・免震構造	⊙耐震構造・免震構造	⊙耐震構造・免震構造	・耐震構造・免震構造
地業	べた基礎	布基礎	布基礎	布基礎
建築面積	14.97㎡	140.62㎡	291.99㎡	
	消防法別表１（⊙普通・無変）	消防法別表１（⊙普通・無変）	消防法別表１（⊙普通・無変）	消防法別表１（⊙普通・無変）
構造制限	⊙耐火 ・準耐火 ・制限無	・耐火 ・準耐火 ⊙制限無	・耐火 ・準耐火 ⊙制限無	・耐火 ・準耐火 ⊙制限無
床面積 各階 2階	㎡ 項（替・無）	㎡ 項（替・無）	㎡ 項（替・無）	㎡ 項（替・無）
1階	14.97 ㎡ 項（替・無）	－ ㎡ 項（替・無）	291.99 ㎡ 項（替・無）	－ ㎡ 項（替・無）
合計	14.97 ㎡ 項	－ ㎡ 項	291.99 ㎡ 項	－ ㎡ 項

外部仕上げ	仕上げ表による
内部仕上げ	仕上げ表による

注：以下、⊙ のついたものを適用する。

設備概要

電気設備

方式	設備概要
受電設備	⊙ φ W V Hz ⊙屋内形 ・屋外形
発電設備	⊙ φ W V Hz
	⊙ディーゼル機関 ・ガスタービン形 （⊙キュービクル形 ・開放形 ・ ）
電力貯蔵設備	・直流電源装置 （・鉛 ・アルカリ ）
	⊙交流無停電電源装置 （⊙鉛 アルカリ ）
幹線設備	⊙動力（ 3φ 3W 200V ）⊙電灯（ 1φ 3W 200V/100V ）
通信・情報設備	⊙構内情報通信網設備（⊙配管 ⊙ｹｰﾌﾞﾙ ⊙ﾈｯﾄﾜｰｸ機器）⊙構内交換設備（・ﾃﾞｼﾞﾀﾙPBX ・VoIP）
	⊙情報表示設備（・マルチサイン装置 ・出退表示装置 ⊙時刻表示装置 ）⊙映像音響設備
	⊙拡声設備（ ・業務用 ・非常用 ⊙業務用非常用兼用 W 回線 ）
	⊙誘導支援設備 ・音声誘導装置 ⊙インターホン（・保守用 ⊙外部受付用 ・ ）
	・トイレ等呼出装置 ・受付呼出装置
	⊙テレビ共同受信設備（スタンド 機器と接続 ）
	・テレビ電波障害防除設備 ⊙監視カメラ設備（・アナログ伝送 ⊙ネットワーク伝送）
	・駐車場管制設備 ⊙防犯・入退室管理設備（⊙防犯装置 ・入退室管理装置）
自動火災報知設備	⊙型 級 回線（・単独 ⊙複合 ）・自動閉鎖装置 ・ｶﾞｽ漏れ
雷保護設備	・JIS A4201-1992 ・JIS A4201-2003(・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) ・受雷部(・笠木 ・突針 ・棟上導体)
警報監視制御設備	⊙警報盤 ・簡易型監視制御装置 ・監視制御装置

給排水衛生設備

上水供給方式	⊙水道直結式 ・増圧給水方式 ・高置水槽式 ・加圧ポンプ式
雑用水(中水)	・水源（・処理水 ・雨水 ・井水） ・供給方法（・高置水槽式・加圧ポンプ式・ ）
給湯方式	・中央（・貯湯式 ・瞬間式 ・ガス・電気）｜⊙個別式（・貯湯式・瞬間式)(⊙ガス ⊙電気)
排水方式	⊙直接放流 ・浄化槽 ⊙屋内（⊙分流式・合流式）⊙屋外（・分流式⊙合流式）
消火設備	⊙屋内消火栓・屋外消火栓・スプリンクラー・不活性ガス・泡消火・連結送水管・
ガス設備	⊙都市ガス ・液化石油ガス（・ボンベ・バルク）

空気調和設備

エネルギー	⊙電気 ⊙ガス（⊙都市 ・液化石油ガス） ・油（・重油 ・灯油） ・廃熱利用
熱源方式	・中央熱源 ⊙個別空調 ・地域熱源
熱源機器	・冷凍機 ・ボイラー（温水発生器含） ・ヒートポンプ冷凍機 ・冷温水発生機
	・蓄熱槽 ・氷蓄熱ユニット ・コジェネレーション
配管方式	・冷温水配管（ ・２管式 ・４管式） ⊙冷媒配管（⊙２管式 ・３管式）
空調ﾀﾞｸﾄ方式	⊙単一ダクト ・単一ダクト＋ファンコイルユニット ・ファンコイルユニット
	・パッケージ形空調機（床置） ⊙空冷ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾊﾟｯｹｰｼﾞ（⊙マルチタイプ ⊙セパレート）
	⊙ガスエンジンヒートポンプユニット ・氷蓄熱ヒートポンプユニット ・小型水熱源ヒートポンプユニット
換気方式	・中央 ⊙個別 ⊙第１種 ・第２種 ⊙第３種 ・自然換気システム
排煙方式	・自然 ・機械 ・告示免除 ・避難安全検証法
自動制御	⊙電気 ⊙電子（・デジタル調節器） ・デジタル（・DDC、中央監視装置）

昇降機設備

エレベーター	・乗用 ・車椅子兼用 ・荷物用（ kg） ・ 人乗 ・ m／分 ・ 台
	・乗用 ・車椅子兼用 ・荷物用（ kg） ・ 人乗 ・ m／分 ・ 台
非常用エレベーター	・ ・ 人乗 ・ m／分 ・ 台
エスカレーター	・ ・幅 mm ・ 基

設備機械駐車場

乗り入れ方式	・
適用車種（収容台数）	・大型車用（ 台） ・中型車用（ 台） ・中小型車用（ 台）

注：以下、記入値及び ※. ⊙のついたものを適用する。

設計気象条件

気象条件	外気温湿度	夏： 37.0 ℃、 74 %（下関市）	冬： -6.5 ℃、 63 %（下関市）
	積雪量	0.39 m（ kg／㎡・cm） 多雪区域の指定 ・指定あり ⊙指定なし	
	凍結深度	－ cm	
	最多降水量	32.5 mm／10min	
	風向	年間最多： 東	冬：
設計条件	風圧力	建築基準法に基づき定められた風速（Vo）： 34 m/s 地表面粗度区分：・Ⅰ ⊙Ⅱ ・Ⅲ ・Ⅳ	
	耐風性能分類	耐風性能分類の表示 「官庁施設の基本的性能基準」に準ずる）（W：風圧力，再現期間）	
	構造体	・Ⅰ(1.3W,200年) ・Ⅱ(1.15W,100年) ※Ⅲ(1.0W,50年:建基法)・	
	建築非構造部材	・Ⅰ(1.3W,200年) ※Ⅱ(1.15W,100年) ・Ⅲ(1.0W,50年:建基法)・	
	建築設備	・Ⅰ(1.3W,200年) ※Ⅱ(1.15W,100年) ・Ⅲ(1.0W,50年:建基法)・	
	その他	・風洞実験による ・時刻歴応答解析による ・	

騒音規制

	昼間	朝・夕	夜間
第　種地域	dB以下	dB以下	dB以下
第　種地域	昼間	朝・夕	夜間
	dB以下	dB以下	dB以下

耐震安全性の分類他

「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準（令和３年版）」耐震安全性の分類に準ずる

施設分類等	建物(棟名) 競技棟その他すべての棟
構造体	・Ⅰ・Ⅱ⊙Ⅲ
建築非構造部材	・A ⊙B
建築設備	・甲 ⊙乙
	・特定 ・一般
エレベーターの耐震クラス	・S ・A
エスカレーターの耐震処置	・

※ 昇降機の耐震処置は「昇降機技術基準の解説」2016年版による

設計水平震度

※耐震構造の水平震度は以下による

建築非構造部材の水平震度は下表による

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
A類の外部及び特定室	1.0	1.0	0.6
B類及びA類の一般室	1.0	0.6	0.4

建築設備の水平震度は下表による

イ　重要機器(水槽類を除く、防振支持の機器については、括弧内の数字)

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	2.0 (2.0)	1.5 (1.5)	1.0 (1.0)
一般	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)

ロ　一般機器(水槽類を除く、防振支持の機器については、括弧内の数字)

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
一般	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

ハ　重要水槽

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	2.0	1.5	1.5
一般	1.5	1.0	1.0

ニ　一般水槽

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	1.5	1.0	1.0
一般	1.0	0.6	0.6

■注意事項

①建築非構造部材の定義
1.外壁及びその仕上げ
2.建具及びガラス
3.層仕切り及び内装材
4.天井及び床材
5.屋根材
6.造り付けの家具及び事務機器類
7.外構その他

②特定室の定義
活動拠点室、活動支援室、活動通路、活動上重要な設備室、危険物を貯蔵又は使用する室等をいう。

③建築設備の重要機器等の指定は、電気・機械設備工事特記仕様書による。

④鉛直震度は各々の水平震度の1/2とする。

場所		建物(棟名) ①	②	③
上層階、屋上及び塔屋	上層階の定義 ・２～６階建の場合は最上階 ・７～９階建の場合は上層２階 ・10～12階建の場合は上層３階 ・13階建以上の場合は上層４階	屋上及び塔屋 階 ～ 階	屋上及び塔屋 階 ～ 階	屋上及び塔屋 階 ～ 階
中間階	地階、１階と上層階を除く 但し、１階＝１階の床面を除く１階	階 ～ 階	階 ～ 階	階 ～ 階
1階及び地階	地階 但し、１階＝１階の床面	1階及び地階	1階及び地階	1階及び地階

Ⅱ. 工事発注形態

建築(解体・仮設・外構含む)、電気、機械(空調・衛生)土木の一括発注とする。

Ⅲ. 工事区分

注：該当項目は番号に◯印の付いたものを適用する。区分は⊙印か、㊙印のない場合は※印のついたものを適用する。

分類	項目	建築	電気	空調	衛生	昇降	機駐	土木		別途
① 共通	①.工事用電力、上下水道、ガス引込み工事（引込み負担金を含む）	※								
	②.工事用電力、上下水道、ガス使用料金（基本料金を含む）	※	※	※	※	※	※			
	③.本設電力引込み工事		※							
	④.本設上水引込み工事				※					
	⑤.本設下水引込み工事				※					
	⑥.本設ガス引込み工事				※					
	⑦.本設電力引込み負担金			・						※
	⑧.本設上水引込み負担金				・					※
	⑨.本設下水引込み負担金				・					※
	⑩.本設ガス引込み負担金				・					※
	⑪.本設受電後引き渡し迄の基本料金	※	※	※	※	※	※		・	
	本設受電後引き渡し迄の使用料金	※	※	※	※	※	※			
	⑫.本設後引き渡し迄の上水基本料金	※	※	※	※	※	※		・	
	本設後引き渡し迄の上水使用料金	※	※	※	※	※	※			
	⑬.本設後引き渡し迄の下水基本料金	※	※	※	※	※	※		・	
	本設後引き渡し迄の下水使用料金	※	※	※	※	※	※			
	⑭.本設後引き渡し迄のガス基本料金	※	※	※	※		※		・	
	本設後引き渡し迄のガス使用料金	※	※	※	※		※			
	⑮.本設電話引込み工事	※	※							
	⑯.本設電話引込み負担金		・							※
	⑰.工事上の各種申請、届出費用	※	※	※	※	※	※			
	⑱.既存上下水道、ガス管の撤去及び手続き（届出費用を含む）	※			・					
	⑲.工事施工に関する電波障害調査	・	⊙							
	⑳.工事施工に関する電波障害対策工事	・	⊙							
② 機械基礎	①.大規模な機器類の基礎の製作及び設置	※	・	・	・					
	②.同上アンカーボルトの箱入れ、埋込み設置	・	※	※	※					
	③.小規模な機器類の基礎や架台の製作及び設置	・	※	※	※					
	④.外灯基礎の製作及び設置		※							
	⑤.設備機器類の取付用インサート及び吊りボルトの製作及び設置		※	※	※	※	※			
	⑥.S造の設備機器類吊り下げ用取付け金物の製作及び設置	※								

分類	項目	建築	電気	空調	衛生	昇降	機駐	土木		別途
③ 躯体貫通	①.地中梁の連通管、通気管及び人通孔の製作、設置及び補強	※								
	2.地下室等の二重壁内の水抜き管の製作及び設置	※								
	③.S、SRC造梁貫通鋼管スリーブの製作、設置及び補強	※								
	④.RC造梁貫通スリーブの製作及び設置	※	※	※	※	※	※			
	⑤.同上補強	※								
	⑥.床や壁の貫通及び半貫通部分のスリーブ、箱等の製作及び設置	※	※	※	※	※	※			
	⑦.同上補強	※								
	⑧.各貫通穴あけ箇所の空隙充填及び補修	※	※	※	※	※	※			
	⑨.梁貫通予備スリーブの孔蓋の製作、設置及び耐火被覆	※	・	・	・	・	・			
	⑩.防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※				
④ 躯体以外の開口・貫通	①.工場製作の床パネル、層仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※								
	②.現場製作の床、層仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※	※	※	※	※	※			
	③.層仕切り壁開口部の空隙充填及び補修	※	※	※	※	※	※			
	④.天井付各種機器類の取付け用の開口、取付け枠の製作、設置及び補強（吹出口、吸込口等を含む）	※								
	⑤.床や壁の直付け各種器具類の取付け枠の製作、設置及び補強	※	※	※	※	※	※			
	⑥.ブロック、れんがへの設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※								
	⑦.ALC版、押出し成形セメント板、PC版類の設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※								
	⑧.床や壁の石材面の設備機器取付け用開口の製作	※								
⑤ ピット・マンホール・水槽等	①.湧水槽、蓄熱槽等の各種水槽の躯体断熱層、内外の防水及び仕上げ	※								
	②.同上マンホール蓋及びタラップの設置	※								
	③.屋内の排水溝、配管ピット及び配線ピットの内外の防水及び仕上げ	※					・			
	④.同上付属蓋類の設置	※	・	・	・					
	⑤.同上内設備配管類の架台の製作及び設置		※	※	※					
	⑥.屋内の電気引込み用マンホール及びタラップの設置	※								
	⑦.電気設備用ハンドホール及びマンホール蓋の設置		※							
	⑧.屋内マンホールの躯体、錆鉄蓋及び化粧蓋の設置	※	※							
	⑨.屋外マンホールの躯体、錆鉄蓋の設置	※	※	※	※					
	⑩.屋外マンホールの化粧蓋の設置	※	※	※	※					
	⑪.同上化粧蓋の仕上	※								
	12.浄化槽設備の躯体、内外防水及び仕上げ	※			・					
	13.同上用マンホール蓋及びタラップの設置	※			・					
	⑭.排水槽、浄化槽等の内外鉄製の設置				※					
	15.湧水槽、蓄熱槽等用液面電極取付け座の設置		※	※	※					
	16.同上用各種漏滴水警報、液面電極棒取付け		※		※					
	17.同上用電気配管配線		※							
⑥ 点検口・ガラリ	①.設備機器及び配管配線用の床、壁及び天井の点検口の製作及び設置	※	・	・	・	・	・			
	②.外壁に取りつく給排気用ガラリの製作及び配置（接続用アングル、防鳥ネットを含む）	※		・						
	③.同上外壁ガラリのウェザーカバー及びチャンバーの製作及び設置	・		※						
	④.内壁等に取りつく吹出口、吸込口のガラリ等の製作及び設置			※						
	①.同上化粧用特殊ガラリの製作及び設置	※								
	⑥.各室建具ガラリの製作及び設置	※								
⑦ 雨水排水工事	①.ルーフドレイン類、軒樋及び縦どいの設置	※								
	2.同上凍結防止ヒーター装置の設置		※							
	③.同上縦どいの第一桝への配管接続	※			・					
	④.同上第一桝の製作及び設置	※			・					
	5.雨水利用時、貯留槽への流入配管接続	※			・					
	6.同上貯留槽への流入遮断弁の設置	・			・					
	7.同上貯留槽からのオーバーフロー管の設置	・			・					
	8.同上貯留槽以降の雨水利用設備				※					
⑧ 便所・浴室・湯沸室等	①.流し台、ガス台、戸棚及びフードの製作及び設置	※			・					
	②.同上給排水管及び排水金物の接続				※					
	③.同上フードへのダクト接続			※	・					
	④.洗面化粧台の製作及び設置	※			・					
	⑤.同上給排水管接続				※					
	⑥.同上陶製洗面器の設置				※					
	⑦.既製浴槽の設置	※								
	⑧.ユニットバス・ユニットシャワー類の設置	※								
	⑨.同上給排水管接続				※					
	⑩.同上ダクト接続			※						
	①.同上一次側電気配管配線		※							
	②.既製化粧鏡の設置	・			※					
	③.特注化粧鏡の設置	※			・					
	④.大便器等水平区画の開火区画の製作及び設置				※					
	⑤.手すり、ベビーベット、ベビーチェアー	※								
⑨ 防火設備（防火戸等）	①.防火（煙）シャッターの製作・設置及び自動閉鎖装置の製作及び設置	※								
	②.同上用連動制御器と感知器との製作と設置及び配管、配線工事		※							
	③.防火戸の扉、枠の製作・設置（自動閉鎖装置用切り込み補強共）	※								
	④.同上用自動閉鎖装置、連動制御器及び感知器の製作と設置及び配管配線工事		※							
	⑤.可動式防煙壁の製作・設置及び自動降下装置緩衝装置の製作及び設置	※								
	⑥.同上用連動制御器、感知器の製作・設置及び配管配線工事		※							
	⑦.電動式排煙窓の開放装置の製作、設置及び二次側配管配線工事	※								
	⑧.セキュリティー区画等に用いる扉の配管配線用ボックスの製作及び設置	※								
	⑨.同上用配管工事		※							
	⑩.同上用配線及び装置の製作及び設置		・							※
	①.防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※	※			
	②.機械排煙口、排煙ダンパーの製作・設置及び手動開閉装置の製作及び設置	・		※						
	③.同上用配管、配線工事（受信機～機械排煙口）		※							
	④.同上用配管、配線工事（機械排煙口～手動開閉装置）			※						
	⑤.防煙ダンパーの製作、設置及び自動閉鎖装置の製作及び設置			※						
	⑥.同上用連動制御器、感知器の製作、設置及び配管配線工事		※							

分類	項目	建築	電気	空調	衛生	昇降	機駐	土木		別途
⑩ 設備工事等	1.自家発電設備用オイルタンク及びサービスタンク迄の油配管工事		※	・	・					
	2.サービスタンク用防油堤躯体及び仕上げ	※								
	3.自家発電設備用一次側給排水配管工事				※					
	4.自家発電運転用給排気設備工事		※	・						
	5.ユニットバス・ユニットシャワーの換気扇の設置	・	・	※						
	6.一般換気扇の設置	・	・	※						
	7.同上用の取付枠の製作及び設置	※	・	・	・					
	8.機器類付属制御盤とその二次側配管配線工事			※	※	※	※			
	9.自動制御などの現場盤への電源接続		※							
	10.設備用機器、付属制御盤への電源接続及び接地工事		※							
	11.生産設備用機器、付属制御盤などの取付及び二次側配管配線工事								※	
	12.電動ブラインド、電動カーテン、電動シャッター、自動ドアなどの制御盤及び二次側配管配線工事	※								
	13.ガス漏れ警報設備		※							
	14.制御用の電極棒の設置		・	※	・					
	15.制御用のフロートスイッチの設置		・	・	※					
	16.光天井などの照明器具用箱付及び下面仕上材料（ルーバー等）の設置	※								
⓪ 場降機装置（※土木先行発注工事の内建築工事）	①.機械室の床開口設置及び補強	※						㊙		
	2.機械室の床配管ピット及び蓋の製作及び設置	・				※				
	③.巻揚機周囲のチェックプレートの製作及び設置					※		㊙		
	4.昇降路内ピットの防水、集水桝及び点検用タラップの製作及び設置	※								
	5.各階出入り口開口の設置及び補強	※								
	6.出入り口三方枠取付け用下地鉄骨の設置	・				・				
	7.出入り口扉三方枠の製作及び設置					※				
	8.三方枠取付けと枠廻り空隙の充填及び補修	・				※				
	⑨.軌条、中間ビーム、ブラケット等昇降路内の鋼製部材一式の製作及び設置	・				※		㊙		
	⑩.9のうち中間ビームの製作及び設置	・				・		㊙		
	⑪.9のうち軌条取付け用下地鉄骨の製作及び設置	・						㊙		
	⑫.機械室天井フックの製作及び設置	※						㊙		
	13.ホール押し釦、インジケーター、調索等の躯体開口の設置及び補強	※								
	14.昇降路、ピット内の保守用コンセントの設置		※							
	⑮.昇降路外の遠方操作又は警報監視インターホン用配管配線工事		※					㊙		
	⑯.遠方操作盤、警報監視盤及インターホンの設置及び調整（監視盤DC電源共）					※		㊙		
	⑰.一次側電源供給工事		※					㊙		
	18.機械室内非常電源と商用電源切替え開閉装置の製作及び設置					※				
	19.同上インターホン本体及び取り付け					※				
12 機械駐車設備	1.機器類設置用フックの製作						※			
	2.機器類設置用フックの設置	※								
	3.ターンテーブルピット内の防水と仕上げ	※								
	4.ターンテーブルピット内の排水管工事	※								
	5.一次側電源供給工事		※							
	6.非常用電源設備工事（バッテリー）						※			
	7.消火設備工事						※			
	8.カーブミラーの製作及び設置	※					・			
⑬ 外構関係	①.外構範囲の整地、舗装、マーキング工事	※						・		
	②.外構範囲の雨水排水設備（桝、配管等）	※						・		
	③.外構範囲の雨水排水抑制設備、調整池工事	※								
	④.外構範囲の汚水・雑排水設備工事(桝、配管)					※				
	⑤.外灯設備、弱電設備（ITVその他）の配線工事		※							
	⑥.外灯設備、弱電設備（ITVその他）の基礎工事		※							
	⑦.外灯設備、弱電設備（ITVその他）の埋設配管		※							
	⑧.外構範囲の散水栓設備（埋設管含む）					※				
	⑨.外構範囲のサイン工事（基礎含む）	※								
	⑩.上記サイン工事までの電気設備工事		※							
	⑪.門扉設置工事（基礎含む）	※								
	⑫.先行土木工事部分の仕上げ復旧工事	※						・		
14 太陽光	1.太陽電池アレイの製作及び設置	・	・							
	2.接続箱の製作及び設置	・	・							
	3.太陽電池アレイ架台の基礎の製作及び設置	※	・							
	4.パワーコンディショナー及び系統連係保護装置の製作及び設置	・	・							
	5.データ計測装置の製作及び設置	・	・							
	6.表示装置の製作及び設置	・	・							
	7.日射計・気温計の製作及び設置	・	・							
	8.電気配線・配管工事（太陽電池アレイ～接続箱）	・	・							
	9.電気配線・配管工事（接続箱～パワーコンディショナー）	・	※							
	10.電気配線・配管工事（パワーコンディショナー～データ計測装置・日射計・気温計・表示装置・受電設備等）	・	※							
15 その他	1.屋外キュービクル等のネットフェンスの設置	※	・							
	②.煙突工事（内部ライニング、タラップ、掃除口扉及び水抜き管、煙導接続口の設置を含む）	※								
	③.同上煙導の製作及び設置		※	※	※					
	④.クレーン及びホイストの製作及び設置	・							※	
	⑤.同上クレーンレールの製作及び設置	⊙							・	
	⑥.同上電源盤以降の配管配線工事		・						※	
	⑦.消火器の設置（諸官庁手続き共）	・							※	
	⑧.同上設置用ボックス	※								
	⑨.高調波対策		・	・		・				
	1⓪.橋梁建設工事						※			
	1①.橋梁上部 上屋設置工事								※	
	1②.橋梁上部 上屋照明設置工事		※							
	1③.橋梁部インフラ設置・接続工事		※				※			
	1④.水上施設 揚降装置、アクセス桟橋建設工事									
	1⑤.ボート発着ピット係留杭 設置工事						※			
	1⑥.ボート発着ピット移設工事								※	
	1⑦.消波装置 撤去移設工事								※	
	1⑧.土壌汚染調査・処置改良								※	
	1⑨.業務用洗濯機・脱水機本体及び配管接続								※	
	2⓪.エアーコンプレッサー・エアーガン本体及び配管への接続								※	
	2①.ガス焼き乾燥機本体の設置及び配管接続								※	
	2②.アスベスト調査及び撤去								※	

注：該当項目は番号に◯印の付いたものを適用する。区分は⊙印か、㊙印のない場合は※印のついたものを適用する。

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記

Ⅴ. 建築工事特記仕様書

項目	特記事項
①. 共通仕様	a. 図面及び特記仕様に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書　（建築工事編）（令和4年版）」（以下「共仕」という）及び「建築工事監理指針（令和4年版）」、「建築工事補足仕様書令和4年度版」（以下「補仕」という）による。
②. 特記事項	a. 項目は番号に○印の付いたものを適用する。 b. 特記事項は⊙印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は※印のついたものを適用する。　⊙印と◎印の付いた場合は共に適用する。 c. 特記事項に記載の（　　）内の表示番号は「共仕」の当該項目、当該図及び当該表を示し、（補　　）内の表示番号は「補仕」の当該項目,当該図及び当該表を示す。 d. 特記事項で「図示」とあるは、設計図面記載事項を意味する。 e. ◎ 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。
3. 適用基準等	・ ・ ・
④. 設計図書の優先順位	設計図書に関する優先順位は次による。 1）質問回答書（2）から5）までに対するもの） 2）現場説明書 3）特記仕様書、「補仕」 4）図面 5）「共仕」

1章　各章共通事項

①. 建築材料等

本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。
ただし、同等のものとする場合は監理者の承諾を受ける。
※石綿(アスベスト)含有建材は使用を禁止する。

②. 特別な材料の工法

「共仕」及び「補仕」に記載されていない特別な材料の工法は監理者の承諾を受けて、当該製品の指定工法によることができる。

3. 施工条件

・　(1.3.5(2))
・

④. 発生材の処理等

発注者に引渡しを要するもの　・　(1.3.11(2)(ｱ))
特別管理産業廃棄物　⊙なし　(1.3.11(2)(ｲ))
・あり　種　類（　　）
処理方法（　　）
汚染土壌　土壌汚染調査　⊙行う（調査費は別途工事）　・調査済み
汚染土壌の処置　⊙処置対策を行う（対策費は別途工事）　・処置済み
汚染物質の種類（　　）
汚染物質の処置対策　・図示

工事現場において再利用を図るもの　・　(1.3.11(2)(ｳ))
工事現場において再資源化を図るもの　・　(1.3.11(2)(ｳ))

⑤. 着工時・中間時及び完成時の提出書類

提出書類は「工事に関する書類作成要領-施工者が提出する書類-」による。
・着工時に設計図を A３版に縮小を行い、白焼き製本を提出する。
※3部　⊙5部

⑥. 竣工写真等

下記のものを監理者の指示する指定の台紙に貼付け、又は指定のカバー、ケースに収納し撮影個所を明記し提出する。　(補1.7.3)

種類	分類	規格	撮影箇所数	部数	版面の大きさ（ ）等 mm
竣工写真	※カラープリント	※キャビネ版	外部（　）内部（　）	・部	※102×127以上
	・リバーサルフィルム		外部（　）内部（　）	・部	※102×127以上
	・カラースライド		外部（　）内部（　）	・部	※26×36以上
	※ディスク		外部（　）内部（　）	・部	※200万画素以上
ビデオ記録	※DVD（ナレーション、BGM付）		・工事記録（　工事） ・竣工時記録	・巻 ・巻	・編集時間　分程度 ・編集時間　分程度
航空写真	○ドローン撮影		◎外部（１０）	・部	

２つ折り製本　部　・折り込み製本（A4版全文字入り）　部

360度画像データ　・作成する（箇所・範囲は図示）　・作成しない
3Dスキャンデータ　・作成する（箇所・範囲は図示）　・作成しない

⑦. 完成時の提出図書

工事完成時の提出図書は下記による。　(1.7.1)(補1.7.1)(補1.7.2)
完成図　※工事完成後１ヶ月以内に下記の図面などを提出する。　(1.7.2)(補1.7.1)
⊙原図一式（新規に作成、又は原図訂正、用紙　・トレーシングペーパー　・普通紙　）
◎CAD図面データ　※PDF又は画像データ（・一般図　・指定図（　　））
・マイクロフィルム（マスターフィルム　※1部　・　部）
・２つ折り製本　部　⊙折り込み製本（A4版全文字入り）　部
⊙A３縮小原図及び２つ折り白焼き製本　部

完成図の種類及び記入内容

区分		種類	記入内容（下記及び監理者の指示する内容）
一般図		⊙設計概要書	建物と概要、内外仕上表、敷地・建物の面積表
		⊙配置図及び案内図	建物と敷地の関係、外構計画概要
		⊙各階平面図	室名、室面積、耐震壁の位置
		⊙各立面図	外壁仕上げ、打継目地、伸縮目地
		⊙断面図	標準地盤面、道路・隣地斜線、階高、天井高、（2面以上作成）
		・	
建築図	その他	⊙矩計図	基本的寸法、対応した平面図、立面図
		⊙平面詳細図	必要な寸法・仕上げ、各部分納まり
		⊙部分詳細図	必要な寸法・仕上げ、各部分納まり
		⊙展開図	天井高、主要な仕上げ
		⊙各種伏図	天井伏図、床伏図、屋根伏図、主要な仕上げ
		⊙仕上げ表	建物外部・内部の仕上げ
		⊙建具表	建具の名仕様、防火性能
		⊙特記仕様書	
		⊙法規チェック図	防火区画、防煙区画、防火設備（戸）
		⊙防災計画書	防火区画、防煙区画、防火設備（戸）
		⊙外構図、植栽図	舗装種別、土木工作物、樹種等
		⊙その他監理者が指示する図面	
		⊙構造図一式	
		⊙水域施設図一式	

完成図の種類及び記入内容　(補1.7.1)

区分	種類	記入内容（下記及び監理者の指示する内容）
構造図	⊙各伏図	杭、基礎、柱、梁、床、必要な寸法・符号
	⊙軸組図	杭、基礎、柱、梁、床、必要な寸法・符号
	⊙断面表	寸法、鉄筋、鉄骨
	⊙架構図	配筋、必要な寸法
	・詳細図	必要な寸法・符号、配筋
	・床荷重表	
	・床荷重伏図	
	・特記仕様書	
	・	
施工図等	⊙総合図	一式
	⊙躯体図	必要な寸法、納まり、符号
	・	

保全に関する資料　提出部数　※２部　・　部　(1.7.3(1)(補1.7.4)
中長期修繕計画　・作成する（提出部数　・1部　・　部　・作成しない
数量調書　※作成する（提出部数　※1部　・　部　・作成しない
作成する範囲及び項目
外　装：　開口部：
内　装：　その他：
屋　根：
※ディスクによる竣工データファイル（ディスク：　セット）　(補1.7.2)
※作成する範囲は完成写真、完成図及び保全に関する資料とする。（対象書類及びデジタル化仕様などについては、「-工事に関する書類作成要領-施工者が提出する書類-」による。）
竣工BIMデータ　・作成する（箇所・範囲は図示）　・作成しない
点群データ　・作成する（箇所・範囲は図示）　・作成しない

⑧. 工事区分等

図示によるほか、工事区分による（○印により適用する）。但し、疑義を生じた場合は工事着手前に質疑応答書をもって確認する。
設備工事など他の工事との取合わせ部分は、補強納まり仕上げなどを検討できる施工図を提出して監理者の承諾を受ける。

⑨. 総合図等

作成図面の種別　(補1.5.1)

種別	作成図・縮尺				
	○平面図	○天井伏図	○天井内伏図	○展開図	・
⊙総合図	※1/ 50 ・1/100	※1/ 50 ・	○1/ 50（指定室） ・	※1/ 50（指定室） ・	・
・総合施工図	・1/ 50 ※1/ 20	※1/ 50 ・	※1/ 50（指定室） ・	※1/ 50（指定室） ・	・

躯体開口について建築、構造、設備間の整合確認を目的として総合図調整時に「開口確認会議」を実施する。
各工事間の相互調整完了後の総合図、総合施工図（詳細寸法等を記述した図面）の監理者による取扱い。
※確認を行う　・承諾を行う

⑩. 起工式・上棟式等に要する費用

※工事請負金額に含む（起工式　式　式）　・含まない

11. 契約

本工事の契約は民間（七会）連合協定工事請負契約約款による。

⑫. 建設工事保険等

受注者は本工事の全ての物件に対して、建設工事保険等に加入し、それらの証書の写しを契約後すみやかに監理者を経て建築主に提出する。
建設工事保険会社　※見積要項書による。　・

⑬. 施工者による自主的な品質管理

受注者は当該工事の施工管理にあたり、日常工事に直接係わる現場作業所職員の構成とは別に、施工品質の自主的管理を目的とする自主施工管理者を選任し、この者を含めた自主施工管理体制を組織し、品質管理を徹底すること。当該自主施工管理者は、品質管理上の重要な事項と時期及び監理者の指示する事項について、施工品質の確保のための指導、監督を実施すること。尚、指導、監督を実施した事項は、記録し監理者に報告すること。　(補1.7.5)

⑭. 現場情報の電子的な情報交換

工事期間中、施工品質の管理と現場の円滑な運用を目的として、工程表・工事写真・議事録・その他、現場情報をインターネットを使用して情報交換が可能とすること。

⑮. 電気保安技術者

※配置する　・配置しない　(1.3.3(1))

⑯. 技能士

適用工事種別　(1.5.2(1))

工事種目	技能職種	工事種目	技能職種
仮設工事	⊙とび	屋根及びとい工事	⊙建築板金（内外装板金作業）
鉄筋工事	⊙鉄筋施工（鉄筋組立て作業）		・スレート施工
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	⊙型枠施工	金属工事	⊙内装仕上げ施工
鉄骨工事	・鉄工（構造物鉄工作業）		（鋼製下地工事作業）
ブロック及びALC	・ブロック建築	左官工事	⊙左官
EPCパネル工事	・ALCパネル施工	建具工事	⊙サッシ施工
防水工事	防水施工 ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ⊙塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業		⊙ガラス施工 ⊙自動ドア施工
		ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・カーテンウォール施工
		塗装工事	⊙塗装（建築塗装作業）
		内装工事	内装仕上げ施工 ⊙プラスチック系床仕上げ工事作業 ⊙ボード仕上げ工事作業 ⊙表装（壁装作業） ⊙カーペット系床仕上げ工事作業
		舗装工事	・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業
石工事	・石材施工（石張り作業）		
タイル工事	⊙タイル張り	植栽工事	⊙造園
木工事	⊙建築大工		

※各工事種目の技能士資格は１級を原則とする。
※タイル工事施工計画書作成にあたり、左官工事との整合を図ると共に１級技能士による内容確認を行う。

⑰. 性能試験

性能試験の範囲及び内容は、各工事特記仕様書の性能試験の項目による。
(要する費用は工事請負金額に含む。)
構造関係の試験は、建築工事特記仕様書(10)(11)<構造関係(1)(2)>の各項目による。

⑱. 試験及び検査の立会い

試験及び検査の立会いに要する費用（交通費及び宿泊費）で工事負担金額に含まれるもの。
※工事現場外での試験及び検査　・

⑲. 設計G.L

※図示　・設計G.L＝現状G.L（　　）

⑳. 作品の対外発表

施工業者又は関係者が、本工事に関する内容を新聞雑誌等に発表する際には、工事期間中及び建物完成後を問わず、事前に発表の企画内容を建築主及び粁設計に通知して、その了承を得ること。また、仕上り原稿について建築主及び粁設計の最終承諾を得るものとする。

㉑. 化学物質を発生する建築材料等

本工事に使用する建築材料等の選定にあたっては、環境への配慮を行う。　(1.4.1)
化学物質の濃度測定は建築工事特記仕様書（６）19章内装工事2.健康障害への対策による。　(1.5.9)

㉒. 合法木材の証明書等

本工事に使用する木材は、持続可能な森林から産出された合法木材であることとし証明書等を監理者に提出する。

㉓. 技術検査

工事施工中の技術検査 ⊙実施する　⊙実施回数（２回　）　(1.6.2(1)(ｲ))
⊙実施段階（建方完了時、内装工事完了時）
・実施しない

㉔. 建築物省エネ法対応

建築物省エネ法　※適合　・届出　・対象外
省エネ計算の方式　・モデル建物法　・標準入力法
※適合の場合は、省エネ基準工事監理報告書において確認の必要な資料(納入仕様書、自主検査記録書、試験成績書等)を作成し監理者の指示により整理し提出する。

㉕. 工事実績情報サービス（CORINS）への登録

・登録する　・登録しない　(1.1.4(1))

㉖. 工事の記録

報告に関する書類等　・粁設計「工事に関する書類作成要領」による　・　(1.2.4(1))
工事写真の撮影対象　・
⊙営繕工事写真撮影要領「平成31年版（令和3年一部改訂）」による（国土交通省大臣官房官庁営繕部）

㉗. 施工の検査等

見本施工の実施　⊙選手ロッカー、ECP塗装　(1.5.5(3))

㉘. 関連工事等の調整

契約書に基づく関連工事及び設計図書に明示された他の発注者の発注に係る工事（以下「関連工事等」という。）について、監理者の調整に協力し、当該工事関係者とともに、工事全体の円滑な施工に努める。　(1.1.7)

2章　仮設工事

①. 仮囲い

危険防止及び保安上支障のないもとし、工事現場周囲に体裁よく設ける。
⊙鋼板製　（※ペイント仕上　・塗装なし　高さ　※3m　・　m 程度）
・有刺鉄線塀（高さ　m程度）

②. 監理者事務所

◎設ける　規模　・10㎡　⊙20㎡　・35㎡　・65㎡　・100㎡　・　㎡ 程度　(2.3.1(1))
・設けない

③. 監理者事務所の備品

備品　⊙机、椅子、書棚、黒板、製図板、掛時計、寒暖計　(2.3.1(2)(ｱ)(ｲ))
⊙ゴム長靴、雨合羽、防寒服、保護帽、懐中電灯、安全帯、安全靴
⊙電話機、ファクシミリ、コピー機（通信費、複写費、工事連絡便を含む）
⊙衣類ロッカー、冷暖房機器、消火器、湯沸器、掃除具
⊙パソコン機器一式（⊙外付け記憶装置　⊙アプリケーションソフト　⊙印刷装置
⊙LAN設備　⊙インターネット設備　・　を含む）
数量　⊙監理者人数と必要に応じた数量とする。

④. 工事用水

構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償）

⑤. 工事用電力

構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償）

⑥. 障害物の処理

※現場説明事項によるほか、工事上撤去移設を要する軽微なものは本工事の範囲とする。

⑦. 工事用看板

※粁設計工事用看板を設ける。設置する看板や仕様等は「補仕」とし、製作者は（補2.5.1）下記による。
・監理者の指示による。　・

⑧. 仮設計画書

建物位置と敷地との相対関係、搬出入方法と敷地内外の条件、足場の危険防止、衛生、安全計画書等を作成し監理者に提出する。（建設省営監発第１３号（平成７年５月２５日）「建築工事安全施工技術指針」、建設省経建発第１号（平成５年１月１２日）「建設工事公衆災害防止対策要綱」を厳守すること。）

3章　土工事

①. 埋戻し及び盛土

種別　・A種　⊙B種　・C種　・D種　(3.2.3(2))(表3.2.1)
○種の場合建設発生土受入量　㎥、発生場所

②. 建設発生土の処理

※工事現場外に搬出し関係法令等に基づき適切に処理する。　(3.2.5)
（残土処理事業許可通知書の写しを提出すること）
・工事現場内指示の場所に敷均す。
・工事現場内指示の場所に堆積する。
・工事現場外指定場所に処分（搬出調書等を監理者に提出する。）

③. 山留めの撤去

山留め壁等　⊙撤去
・存置
鋼矢板等の抜き跡の処理　・直ちに砂で充填する　・

4章　地業工事

①. 床下防湿層等

防湿層・断熱層　(4.6.2(4))(4.6.5(1))

種別	防湿層材料	断熱層材料	範囲
・A種	ポリエチレンフィルム厚0.15mm以上	—	※図示・
⊙B種	ポリエチレンフィルム厚0.15mm以上	ポリスチレンフォーム厚　50mm	※図示 ⊙埋戻し部
・C種	—	木繊セメント板　厚　mm	※図示・

注）木繊セメント板は寒冷地、凍結の恐れのある箇所では使用しないこと。

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(10)<構造関係(1)>参照

5章　鉄筋工事

建築工事特記仕様書(10)<構造関係(1)>参照

6章　コンクリート工事

①. コンクリートの仕上り

コンクリートの打放し仕上げ　(6.2.5(2)(ｱ)(ｵ))(表6.2.4)

せき板の種別	仕上がりの程度		適用箇所
⊙合板	⊙A種	化粧打放し仕上げ	⊙壁立上部
	※B種	打放し仕上げ	※仕上げ塗材仕上げ面
	・C種	打放しのまま	・
・	・		・

コンクリートの仕上りの平たんさ　(6.2.5(2)(ｲ))(表6.2.5)

種別	適用部位 柱・梁・壁	床
⊙a種	・ ※化粧打放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り	・ ※合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア（置敷式）
⊙b種	・ ※仕上塗材塗り	・ ※カーペット張り 防水下地 セルフレリング材塗り
・c種	・ ※セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、胴縁	・ ※タイル張り、モルタル塗り 二重床

②. 型枠

材料　(6.8.2)

せき板の種別		規格	厚さmm	適用箇所
⊙木製	⊙合板	⊙JAS規格（表面加工品）	※12　・	
		⊙JAS規格　B-C	※12　・	
	・合板以外			
⊙金属製	⊙床	※鉄骨工事(7.2.7)による（構造特記7.2） ・		
	・壁			
・断熱材兼用		※ｾﾗﾐｯｸ砂混入木繊ｾﾒﾝﾄ板	・30・40・50	

注）JAS規格とは「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」を表す。
せき板面気泡緩衝シート張り（MCR工法用シート）　(6.8.2(5))
・使用する　※難燃性ポリエチレン気泡シート
※コンクリート増打厚　10mm
⊙使用しない

スリーブの材料　(6.8.2(9)(ｲ))(表6.8.1)

材種	寸法	箇所数	適用箇所
⊙鋼管	※図示　・	※図示　・	
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	※図示　・	※図示　・	
・溶融亜鉛めっき鋼板	※図示　・	※図示　・	
⊙つば付き鋼管	※図示　・	※図示　・	
・紙チューブ（径200mm以下）	※図示　・	※図示　・	

注）鉄骨部分の貫通孔は構造図による。

③. 耐震スリット

スリットの種別（設置位置、形状は構造図による。）

方向		耐火性能	防水性能
⊙垂直方向	※完全(貫通型)スリット ・	⊙耐火型 ・非耐火型	⊙有り ・無し
⊙水平方向	※完全(貫通型)スリット ・	⊙耐火型 ・非耐火型	⊙有り ・無し

目地の種別

方向	内壁	外壁
⊙目地材	・シーリング材（見え掛かりのみ）	⊙シーリング材（内外とも）
⊙目地寸法（mm）	※20×10　・	※20×10　・

※耐火壁の箇所は耐火目地材を充填すること。

④. 土間コンクリート

壁際伸縮調整目地　※設ける　（⊙材料 エラスタイト　厚さ　20　mm ）
・設けない

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(10)<構造関係(1)>参照

7章　鉄骨工事

1. 耐火被覆 耐火構造

耐火被覆の種類及び耐火性能　(7.9.2)(7.9.3(2))

構造区分		耐火性能	適用箇所	種類	材料	工法	[認定番号]	厚さmm
屋根		30分					[　] [　]	
床		1 時間	階床～　階床				[　] [　]	
		2 時間	階床～　階床				[　] [　]	
梁		1 時間	階床梁～　階床梁				[　] [　]	
		2 時間	階床梁～　階床梁				[　] [　]	
		3 時間	階床梁～　階床梁				[　] [　]	
斜材	水平材	1 時間	階床～　階床				[　] [　]	
		2 時間	階床～　階床				[　] [　]	
	鉛直材	1 時間	階　～　階				[　] [　]	
		2 時間	階　～　階				[　] [　]	
		3 時間	階　～　階				[　] [　]	
柱		1 時間	階　～　階				[　] [　]	
		2 時間	階　～　階				[　] [　]	
		3 時間	階　～　階				[　] [　]	
外壁	延焼恐れ	1 時間	階～　階				[　] [　]	
	上記以外	30分	階～　階				[　] [　]	
非耐力壁	合成耐火壁	1 時間					[　] [　]	
間仕切壁		1 時間					[　] [　]	

注）外壁欄の「延焼恐れ」とは、「延焼の恐れのある部分」を表し、又「上記以外」とは「上記以外の部分」を表す。

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(1)<構造関係(2)>参照

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記仕様書（２）		
縮尺	—	図面番号	267
下関市ボートレース企業局			

8章　コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1．建築用コンクリートブロック

補強コンクリートブロック造　(8.2)
材料　ブロック　種類　・図示　※空洞ブロックC（16）　(8.2.2(1))
正味厚さ　・
モデュール呼び寸法　・
モルタル調合　※表8.2.1　・　(8.2.3)
表8.2.2以外のレディミクストコンクリート ※呼び強度21 N/mm² スランプ21cm　(8.2.4)
各部の配筋　※図示　(8.2.5)
目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ　(8.2.7(6))
まぐさを受ける圃口部両側のブロックのモルタル及びコンクリートの充填範囲　(8.2.8(4))
・図示　・200　・

コンクリートブロック帳壁及び塀　(8.3)
材料　ブロック　種類　※表8.3.1による　・図示　(8.3.2(1)(ア))(表8.3.1)
正味厚さ　・100 mm　・120 mm　・150 mm　・190 mm
モデュール呼び寸法　・
塀に用いるブロックの正味の厚さ　(8.3.2(1)(イ))
塀の高さが2m以下の場合120mm、2mを超える場合150mm
壁鉄筋の継手定着及び末端部の折り曲げ形状　※図示　・　(8.3.4(1)(イ))
各部の配筋　※図示　・　(8.3.4(2))

2．ALCパネル

材料　(8.4.2(1))(補8.4.2)

区　分	表面形状	単位荷重 N/㎡	厚さ mm	幅 mm	長さ mm	耐火性能等
・外壁パネル						—
・外壁大型パネル						—
・圃仕切壁パネル						—
・屋根パネル						—
・床パネル						

外壁パネル構法　(8.4.3)(表8.4.2)

壁種別	建物高さ18m以下	建物高さ18m超31m以下
縦壁	※A種　・	※A種　・
横壁	※B種　・	※B種　・
耐風圧性能	※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。	
耐震性能	※建築工事特記仕様書（1）の耐震安全性の分類他による。	

圃仕切壁パネル構法　(8.4.4)(表8.4.3)

壁種別	階層が連続する場合	スラブ圃に用いる場合
縦壁	※C種　・E種　・	・C種　・E種　・
横壁	※D種　・	※D種　・
耐震性能	※建築工事特記仕様書（1）の耐震安全性の分類他による。	

屋根パネル構法　※敷設筋構法　・　(8.4.5)(補8.4.3)
床パネル構法　※敷設筋構法　・　(8.4.5)(補8.4.3)
外壁パネルのパネル幅、最小限度　※300mm・　(8.4.3(5))
外壁パネルの短辺小口相互の接合部の伸縮目地幅　※10mm～20mm・　(8.4.3(7))
外壁パネルの出隅、入隅部の伸縮目地幅　※10mm～20mm・　(8.4.3(8))
パネルコーナー部の処理　外壁パネル　※図示　・
圃仕切壁パネル　※図示　・
圃仕切壁パネルの伸縮目地　・設ける（図示）・設けない
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.12 による
伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない　(8.4.3(9))(8.4.(2))

耐火目地材　※ロックウール　・セラミックファイバー(8.4.2(6))(8.4.3(9))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　・　(補8.4.4(c))
溶接技能者　※JIS Z 3801の基本級以上　(補8.4.4(c))
ALCパネルにタイル張りを施す場合　※特記仕様書11.2による

③．押出成形セメント板（ECPパネル）

材料　(8.5.2)(8.5.3)(8.5.4)(表8.5.1)(表8.5.2)

パネルの種類	形　状	厚さ（mm）	幅（mm）	工法の種別	備考
⊙外壁パネル	・F（フラットパネル）	・50・60・	・600 ・900	・A種 ・B種	
	⊙D（デザインパネル）	・50⊙60			
	・T（タイルベースパネル）	60			
	耐風圧性能；※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。 耐震性能；　※建築工事特記仕様書（1）の耐震安全性の分類他による。				
・圃仕切壁パネル	・F（フラットパネル）	・50・60・	・600 ・900	・B種 ・○種	
	・D（デザインパネル）	・50・60			
	・T（タイルベースパネル）	60			
	耐震性能；　※建築工事特記仕様書（1）の耐震安全性の分類他による。				

外壁パネル相互の目地幅　※長辺10mm以上 短辺15mm以上・　(8.5.3(9))
外壁パネルの出隅、入隅部の伸縮目地幅　※15mm程度　・　(8.5.3(10))
パネルコーナー部の処理　外壁パネル　※図示　・
圃仕切壁パネル　※図示　・
パネル開口の限度を超える開口部の補強　※補8.5.5による　・図示　(8.5.5(4))(補8.5.5)
開口部の箇所数　⊙図示　・
開口部の補強　⊙図示　・
パネルの取扱い　※8.5.3及び補8.5.3による　(8.5.3) (補8.5.3)
施工図　※補8.5.7による　(補8.5.7)
耐火性能　※図示　(補8.5.6(a))
中空充填材（外壁は除く）　※ロックウール　(補8.5.6(b))
耐火目地材　※ロックウール　・セラミックファイバー　(補8.5.6(c))
耐火構造以外の目地材　※製造所の仕様　・　(8.5.3(4))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　・　(補8.5.6(d))
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.12 による

4．繊維補強セメントコンクリート複合材

材料　(補8.6.2)(補8.6.4)

材　料	・CFRC	・GRC	・
表面仕上げ材			
表面形状			
添加剤			
添加量（%）			
複合材圧縮強度(N/mm²)			
複合材曲げ強度(N/mm²)			
かさ比重			
製法	・プレミックス法 ・	・ダイレクトスプレー法 ・プレミックス法	・ ・
適用箇所			

タイル・石型枠先付工法における耐久性能　(補8.6.3)
低アルカリ性セメント　・適用する　・適用しない
耐火性能　・1時間（適用箇所：　）　(補8.6.5)
・2時間（適用箇所：　）

5．穴あきPC板

耐火目地材　※ロックウール　・セラミックファイバー
耐火構造以外の目地材　※製造所の仕様　・
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　・
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.12 による

材料　(補8.7.2(a))

種類	板厚	呼幅	板長	配筋種別	表面形状	表面仕上	区分
・壁板	x	x		・30種板 ・45種板			・常備品 ・注文品
・	x	x		・30種板 ・45種板			・常備品 ・注文品
・	x	x		・30種板 ・45種板			・常備品 ・注文品

工法　(補8.7.6)

部　位	工　法		層間変位量
外壁	・縦張り	※層間変位対応工法　・固定取付け工法	
	・横張り	※層間変位対応工法　・固定取付け工法	
圃仕切	・縦張り	・層間変位対応工法　・固定取付け工法 上部ロックウール充填高さ ※50 mm・　mm	
	・横張り	・層間変位対応工法　・固定取付け工法	
床	・普通床	※現場溶接工法　・置きスラブ工法	
	・構造床	・水平力負担床工法　・合成床板工法	

パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.12 による　(補8.7.3(d))
開口部の箇所数　・図示　・　(補8.7.7(a))
開口部の補強方法　・図示　・　(補8.7.7(b))
耐火性能　・図示　・　(補8.7.8(a))
耐火目地材　※ロックウール　・　(補8.7.8(b))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　・成形板張付け　(補8.7.8(c))
コーナー部の材種　・RC　・SUS304　・

9章　防水工事

1．アスファルト防水

種別　(9.2.3)(表9.2.3)～(表9.2.8)

工　法	種　別	施工箇所
※熱工法		
・常温工法		
・トーチ工法		

改質アスファルトルーフィングシート　種類 ※非露出複層防水用R種　厚さ ※1.5mm以上
・露出複層防水用R種　厚さ・　mm以上　(9.2.2(3)(ま))
部分粘着層付改質アスファルト　種類 ※非露出複層防水用R種　・
ルーフィングシート　厚さ ※1.5mm以上　・　(9.2.2(3)(ま))
露出防水工法の躯部押え金物　(9.2.2(6)(9.2.4(4)(ケ)(c))
材　種　※アルミニウム製　・
形状寸法　※L-30×15×2.0(mm)・
保護防水工法の躯部押え金物　(9.2.4(4)(ケ)(a))
・設ける　材　種　※アルミニウム製　・SUS製
形状寸法　※FB-20×2.5（アルミニウム製）　・L-30×12×2.0（SUS製）
・設けない
保護防水断熱工法用断熱材　(9.2.2(8))
※JIS A 9521 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き)(厚さ・　mm)
東西アスファルト事業協同組合RBボード及び日本アスファルト防水工業協同組合
BKボード或いは同等品以上（厚さ・　mm）
露出防水断熱工法用断熱材　(9.2.2(9))
・JIS A 9521(透湿係数を除く）硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号（厚さ・　mm）
・JIS A 9521(透湿係数を除く）硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号（厚さ・　mm）
・
絶縁用シート　(9.2.2(10))
屋根保護防水密着工法または屋根保護防水絶縁工法
・ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・フラットヤーンクロス（70 g/㎡程度）
・
屋根保護防水密着断熱工法または屋根保護防水絶縁断熱工法
※フラットヤーンクロス（70 g/㎡程度）・
立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置　(表9.2.6)(表9.2.6)
・適用する　・適用しない
保護コンクリート（平場）の厚さ　(9.2.5(4)(イ))
※80 mm(こて仕上)・60mm（タイル張り等）・図示
保護コンクリート以外の平場保護材料
・図示　・
立上り部の保護工法　(9.2.2(11)(ま))(9.2.2(11)(ま))(9.2.3(7)～(ま))(9.2.5(5))
・乾式保護材（※製造所の仕様　）・コンクリート押え　・
・モルタル押え　・れんが押え（・図示　・　）
D種・DI種の脱気装置　(9.2.3(ま))(9.2.3(h))
材種　※製造所の指定　・SUS製　・錆鉄製
数量　※製造所の指定　・防水層平場70㎡程度毎に1箇所　・
D種・DI種の仕上塗料　種類・　使用量　※製造所の仕様　・
(9.2.3(ま)(h))
屋内防水密着工法の保護層　・設ける　・設けない　(9.2.3(ま))
E-1の工程3を行う場合　※貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位　・　(表9.2.9)
防水層の下地　(9.2.4(1))
平　場　※コンクリート直均し　・モルタル塗り（適用箇所　）
立上り部　※コンクリート打放し（B種）・モルタル塗り（適用箇所　）
ルーフドレイン回り及び立上り部周辺の断熱材の張じまい位置 ※図示・　(9.2.4(4)(イ)(g))
屋上排水溝　形状、寸法　※図示　(9.2.5(7))
ひび割れ防止金網　※溶接金網2.6φ50×50　・平ラスF500（JIS A 5505）
伸縮調整目地　※特記仕様書9.11シーリングによる
水勾配　※図示　・1/200以上

2．改質アスファルトシート防水

種別　(9.3.2(1))(表9.3.1)

工法	種別	施工箇所
屋根露出防水密着工法	・AS-T1	
	・AS-T2	
屋根露出防水絶縁工法	・AS-T3	
	・AS-T4	
	・AS-J1	
屋根露出防水絶縁断熱工法	・ASI-T1	
	・ASI-J1	

改質アスファルトシートの種類・厚さ　※表9.3.1～表9.3.3・　(9.3.2(1)(ア))
粘着層付改質アスファルトシート及び　(9.3.2(1)(イ))
部分粘着層改質アスファルトシートの種類・厚さ　※表9.3.1～表9.3.3・
押え金物の材質、形状及び寸法　※アルミニウム製L-30×15×2.0(mm)　(9.3.2(3)(イ))

屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材の種類　(9.3.2(3)(ウ))
・JIS A 9521(透湿係数を除く）硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号（厚さ・　mm）
・JIS A 9521(透湿係数を除く）硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号（厚さ・　mm）

仕上塗料　種類・　使用量 ※製造所の仕様・　(9.3.3(7)(イ)(ウ))
絶縁工法・絶縁断熱工法の脱気装置　(9.3.3(イ)(ウ))
種類 ※製造所の指定・　設置数量 ※製造所の指定・
絶縁断熱工法の防湿用シート・設ける　・設けない　(9.3.3(ウ))

③．合成高分子系ルーフィングシート防水

種別　(9.4.3)

	工法	種別	施工箇所
	接着工法	・S-F1	
		・S-F2	
	機械的固定工法	・S-M1	
		・S-M2	
断熱工法	接着工法	・SI-F1	
		⊙SI-F2	競技棟 各階屋根
	機械的固定工法	・SI-M1	
		・SI-M2	
屋内	屋内保護密着工法	・S-C1	

ALCパネル下地の場合は接着工法とする
S-C1はALCパネル下地及びプレキャストコンクリート下地には適用しない。
ルーフィングシートの種類・厚さ　※表9.4.1,表9.4.2,表9.4.3　(9.4.2(1))
・　mm以上
可塑剤移行防止用シート　※発泡ポリエチレンシート・　(9.4.2(2))
固定金具の材質、形状及び寸法　※9.4.2(3)(イ)・　(9.4.2(3)(イ))
断熱工法に用いる断熱材・材質　※9.4.2(3)(エ)(a)(b)　・　(9.4.2(3)(エ))
厚さ・　mm
断熱工法（機械的固定方法）の防湿用フィルム　・設ける　・設けない　(表9.4.2)
仕上塗料　種類・　使用量　※製造所の仕様　・
(9.4.3(1)(2))(表9.4.1)(表9.4.2)
屋内保護密着工法の保護モルタル塗り　厚さ・　mm　(9.4.3(1)(2))(表9.4.3)
接着工法の脱気装置 ※製造所の仕様　・(種類・　数量・　個/㎡)　(9.4.3(2))

プレキャストコンクリート部材下地の目地処理　(9.4.4(4)(イ))
※図示　・
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(S-F1,SI-F1)　(9.4.4(5)(イ))
※図示　・
機械式固定工法の設計風圧力に対応した工法(建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による)
・図示　・　(9.4.4(6)(イ)(a))
立上り部の保護モルタル塗厚 ※ 7mm以下　・　mm　(9.4.4(10)(イ))

4．塗膜防水

種別　(9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・X－1		⊙Y－1	ピット外周部
・X－2		・Y－2	
・		・	

仕上塗料　種類・　使用量 ※製造所の仕様・　(9.5.3(1)(ア))
X－1種の脱気装置　(9.5.3(1)(イ))
材種　※主材料の製造所の仕様　・SUS製　・錆鉄製
数量　※主材料の製造所の仕様　・防水層平場50㎡程度毎に1箇所　・
Y－2種の保護層材料　(9.5.3(2))
保護材　・保護コンクリート（厚　mm）・保護モルタル（厚　mm）

⑨．ケイ酸質塗布防水

防水層の下地　壁及び天井部　※コンクリート打放し仕上げB種・　(9.6.4(1)(4))
コンクリートの打継ぎ箇所の処理　※9.6.4(2)(7)・　(9.6.4(2)(7))
特殊な下地処理　※図示　・　(9.6.4(2)(エ))
施工範囲は、ピット内の床・壁、モーター洗浄構内とする。

6．複合防水

種別　(補9.7)

種　別	仕　様	施工箇所
・［塗膜］＋［FRP］系		
・［改質アス］＋［FRP］系		
・［改質アス］＋［塗膜］系		
・［改質アス］＋［塗膜］補層系		
・［シート］＋［塗膜］系		
・［シート］＋［FRP］系		

7．金属シート防水

材料　(補9.8)

材料・厚さ mm	仕上げ	下葺き材・厚さ mm	下地材・厚さ mm
※SUS304　※0.4	※2D　・2B	※軟質発泡ポリスチレン	※木毛セメント板・15・20・25
	・カラー－S1系	※4　・4+10	・硬質木片セメント板・18・25
・SUS316　・	・カラー－F系	・	・パーライトM+木毛セメント複合板
	・銅めっき	・	・20・25・30・40・50
・	・	・	・

8．セメント質系防水

種別

種　別	仕　様	施工箇所
・ポリマーセメントペースト系（水和凝固型）		
・モルタル防水		

9．外壁防水

種別　(補9.9)

種　別	仕上げ	工　法	施工箇所
・アクリルゴム系	・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン系	・吹付け ・ローラー	
・	・	・	

10．地下外壁防水

種別

種　別	仕　様	施工箇所
・		
・		

①．責任施工の保証

受注者、施工業者及び材料製造者は保証期間中に施工上の過失又は使用材料の不良などにより事故を生じた場合、無償にて補償復旧をなすものとする。

防水の種別	竣工後保証期間	防水の種別	竣工後保証期間
・アスファルト防水（保護防水）	※10年圃　・	・アスファルト防水（露出防水）	※10年圃　・
⊙合成高分子系ルーフィングシート防水	※10年圃　・	・複合防水	※10年圃　・
		・セメント質系防水	※5年圃　・
・金属シート防水	※10年圃　・	・外壁防水	※10年圃　・
⊙塗膜防水	※10年圃　・	・改質アスファルトシート防水	※10年圃　・

※屋上緑化部分には耐根層を設け、屋上緑化部分防水の保証期間は耐根層を設けた場合を原則とする。

①2．シーリング

材料　(9.7.2(2))(表9.7.1)

	工法・部位・構成材			シーリングの種類							
				SR-1	SR-1	SR-2	IB-2	MS-2	MS-1	PS-2	PU-2	AC-1
				HW	LW				LW			
カーテンウォール	ガラス・マリオン形式	・ガラスとめ				※						
		・方立、無目ジョイント 方立目地はSR-2（シリコーン系）に区分				※						
	金属パネル形式	・ガラスとめ				※						
		・パネル目地				※						
	PC板形式・石打込みPC（大理石以外）	・PC板圃目地						※				
		・サッシ廻り目地						※				
	・タイル打込みPC	・ガラスとめ				※						
	・吹付け塗装PC											
各種外装パネル	・塗装金属板	・パネル目地						※				
	・アルミニウム板	・サッシ廻り目地						※				
	・GRC板	・板圃目地	・仕上あり					※			・	
			・仕上なし					※				
	・押出成形セメント板	・サッシ廻り目地	・仕上あり					※			・	
			・仕上なし					※				
	ALCパネル（スライド工法）（ロッキング工法）	・ALCパネル目地	・仕上あり								※	
			・仕上なし					※				
		・サッシ廻り目地	・仕上あり								※	
			・仕上なし					※				
	石張り（乾式工法）（大理石以外）	・石目地						※				
		・石下躯体目地									※	
		・サッシ廻り目地						※				
ガラス	ガラス廻り	⊙ガラスとめ		※								
		⊙ガラス圃目地		※								
	SSG構法（※ｻｯｼ及びｶﾞﾗｽﾒｰｶと協議する）	・ガラスとめ										
		・ガラス圃目地										
	DPG構法（MPG構法）	・ガラスとめ				※						
		・ガラス圃目地				※						
建具	サッシ廻り	⊙水切り、圃板目地						※				
	サッシ工場シール	⊙シーリング材受								※		
笠木	金属製笠木	⊙笠木圃目地				※						
	石材笠木（大理石以外）	・笠木圃目地						※				
	PC製笠木	・笠木圃目地						※				
コンクリート壁	RC壁	⊙打ち継ぎ	・仕上あり							・	※	
		伸縮目地	・仕上なし					※		・		
		⊙サッシ廻り	・仕上あり							・	※	
		目地	・仕上なし					※		・		
		・PCコンクリート廻り目地						※				
		・ALCパネル廻り目地	・仕上あり								※	
			・仕上なし					※				
		・押出成形セメント板廻り目地						※				
	石張り（湿式工法）大理石以外	・石目地						※				
		・石下躯体目地									※	
		・サッシ廻り目地						※				
	大理石	・石目地								※		
		・サッシ廻り目地								※		
	タイル張り	・タイル目地						・		※		
		・タイル下躯体目地									※	
		・サッシ廻り目地						※		・		
内装	石張り（乾式工法）（大理石）	・石目地								※		
		・サッシ廻り目地								※		
	遮音壁取合い部	⊙遮音壁取合い部廻り目地										※
水回り	浴室・浴槽	⊙目地	※									
	キッチン・キャビネット	⊙目地	※									
	洗面・化粧台	⊙目地	※									
各種外装汚染防止	ﾀｲﾙ・石・ｶﾞﾗｽ・金属ﾊﾟﾈﾙ	⊙目地					※					
		・										
		・										
		・										
		・										

シーリング材の種類・耐久性区分

材料記号	シーリング材の種類	耐久性区分
SR-1HW	1成分形シリコーン系（高モジュラス形）	9030G
SR-1LW	1成分形シリコーン系（低モジュラス形）	10030
SR-2	2成分形シリコーン系	10030
IB-2	2成分形ポリイソブチレン系（目地周辺汚染防止用）	10030
MS-2	2成分形変成シリコーン系	9030
MS-1LW	1成分形変成シリコーン系(50%モジュラス、0.2 N/mm²以下)	8020
PS-2	2成分形ポリサルファイド系	9030
PU-2	2成分形ポリウレタン系	8020
AC-1	1成分形アクリル系	7020

目地　寸法　※図示　・9.7.3(1)(ア)～(ウ)　(9.7.3(1))
適用箇所　※図示　・
※「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に該当する場合のシーリング防水の保証条件は、日本シーリング工事業協同組合連合会・日本シーリング材工業会発刊の「品確法に対するシーリング防水の保証条件と補償範囲について」による

①3．性能試験

(補1.8.1(c)(1))(9.7.5(2))

試験の方法		試験箇所
⊙漏水試験		防水施工箇所全て
⊙塗膜厚試験		防水施工箇所全て
・金属シート防水漏水試験		
・金属シート防水真空試験		
⊙シーリングの接着性試験	※簡易接着性試験	
	・引張接着性試験	

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記仕様書（3）		
縮　尺	－	図面番号	268
下関市ボートレース企業局			

10章　石 工 事

1．共通事項

石材の割付け　※図示　(10.1.3(1))
石材の加工　(10.1.3(2)(ｲ))
便所、浴室等の水がかりの部分に使用する大理石の穴処理
※透明樹脂にて穴埋め処理　・

2．材　料

岩石の等級
床　用　・２等品　・
床用以外　・１等品　・
(10.2.1(1))(表10.2.1,2)(補表10.2.1)
石材の種類・表面仕上げ　(10.3.2)(10.4.2)(10.5.2)(10.6.2)(10.6.3)(10.7.2)(10.7.3)

種類・産地・名称	厚さmm	仕上げの種類	適用箇所

石材の形状及び寸法　※図示　・10.2.1(1)(ｲ)による　(10.2.1(1)(ｲ))
テラゾブロック及びテラゾタイルの種石の種類・表面仕上げ　(10.2.1(2))(表10.2.2)

種石の種類	種石の大きさmm	板厚mm	仕上げの種類	適用箇所
※大理石	※1.5～12		※本磨き・	
・				

テラゾブロックの形状による区分、仕上げ面による区分及び寸法　(10.2.1(2)(ｹ)(a))
※図示　・
テラゾタイルの寸法による区分
※図示　・　(10.2.1(2)(ｹ)(b))
取付け金物　(10.2.2)
外壁湿式工法及び内壁空積工法用金物　(10.2.2(1))(表10.2.3)
受金物の材質形状及び寸法　※10.2.2(1)(ｲ)による・図示
外壁乾式工法用金物　種類、形状、寸法　※表10.2.4　・　(10.2.2(2))(表10.2.4)
方式　・スライド方式　・ロッキング方式
特殊部位用金物
引金物　だぼ、かすがい　※10.2.2(1)(ｱ)による・　(10.2.2(3)(ｱ))
ファスナー　種類、形状、寸法　・図示　(10.2.2(3)(ｲ))
方式　・スライド方式　・ロッキング方式
アンカーの材質、寸法　・図示・　※10.2.2(4)による・　(10.2.2(4))
あと施工アンカーの材質、寸法　※図示・　(10.2.2(5))
その他の金物の材質、形状及び寸法　※図示　・　(10.2.2(6))
その他の材料　(10.2.3)
取付け用モルタル　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(1)(ｲ))
既調合の目地用モルタル　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(1)(ｲ))
浸透性吸水防止剤　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(2))
石裏面処理材　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(3))
裏打ち処理材　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(4))
外壁湿式工法に使用するドレンパイプの材質　・　(10.2.3(6))
金物の固定に使用する充填材料　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(7))

3．外壁湿式工法

石材の厚さ　※図示　・有効25mm以上・　(10.3.2)
石裏面処理　(10.3.2(2)(ｹ))
※行う（小口とも）（適用箇所　）・行わない
裏打ち処理　10.3.2(2)(ｹ))
・行う（適用箇所　）・行わない
下地こしらえ　(10.3.3(2))
※あと施工アンカー横筋流し工法　・流し筋工法　・あと施工アンカー工法　(10.2.3(5))
目地　(9.7.3(1)(ｹ))(10.3.3(5))(表11.1.1)

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅mm
一般目地	・図示	※シーリング・	※6　・
伸縮調整目地	・図示　・10.3.3(5)(ｲ)※表11.1.1	※シーリング・	※9.7.3・

注）シーリングは特記仕様書９章１２による。
ドレインパイプの材質
※ステンレスSUS304　・樹脂ネット製クロスメッシュ巻き・　(10.2.3(6))

4．内壁空積工法

石材厚さ　※有効20mm以上・　(10.4.2(1))
石裏面処理　(10.4.2(2)(ｹ))
・行う（適用箇所　）・行わない
裏打ち処理　(10.4.2(2)(ｹ))
・行う（適用箇所　）・行わない
下地こしらえ　(10.4.3(2))
※あと施工アンカー・横筋流し工法　・あと施工アンカー工法
※床面から300mm 全てとろ工法
目地　(10.4.3(5))

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅mm
一般目地	・図示	※シーリング・	※6　・
伸縮調整目地	・図示 ※6m程度ごと	※シーリング・	※9.7.3・

注）1．シーリングは特記仕様書９章１２による。
注）2．内壁空積工法のねむり目地はテフロンテープを横目地合端の上端に２か所貼り付けること。

5．外壁乾式工法

石材厚さ　※有効30mm以上　・
石のだぼ穴位置　※10.5.2(2)(ｱ)による・図示　(10.5.2(2)(ｱ))
だぼ穴径　※8 mm　・　mm　(補10.5.2(c)(2))
だぼピン径　※6 mm　・　mm　(補10.5.2(c)(2))
裏打ち処理　(10.5.2(2)(ｹ))
・行う（適用箇所　）・行わない
構造体のコンクリート増し打ち　※20mm　・　mm　(補10.5.2(a)(1))
耐風圧性能　(10.5.3(1))(補10.5.1(c))
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設省告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力：※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。
耐震性能　※設計震度(K)　水平方向Kh=1.0　鉛直方向Kv=0.5　(補10.5.1(c))
乾式工法の耐衝撃　・破損防止　・１段目の石まで砕石、モルタル裏込め
乾式工法の巾木上端部分　※防水処理　※ドレインパイプ
目地　(10.5.3(6))

目地位置	目地材料	目地幅mm及び深さ
・図示・	※シーリング・	※8　・

注）シーリングは特記仕様書９章１２による。

6．床及び階段の石張り

床及び階段
石材厚さ　※図示　・　(10.6.2(1)(ｱ))(10.6.3(1)(ｱ))
床石張り
浸透性吸水防止剤　・行う（適用箇所　）・行わない　(10.6.2(1)(ｲ))
石裏面処理　・行う（適用箇所　）・行わない　(10.6.2(1)(ｲ))
裏打ち処理　・行う（適用箇所　）・行わない　(10.6.2(1)(ｲ))
階段張り
石裏面処理　・行う（適用箇所　）・行わない　(10.6.3(1)(ｹ))
目地　(10.6.2(5))(10.6.3(4))

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅　mm	
一般目地	・図示	・モルタル ・シーリング	屋内	※3～6　・
			屋外	※4 以上　・
伸縮調整目地	※図示 ・10.6.2(5)(ｲ)	・モルタル ・シーリング	・	

7．特殊部位の石張り

特殊部位の石張り　(10.7.1)(10.7.2)(10.7.3)(10.7.4)

部　位	石材の種類	表面仕上げ	形状・厚さmm	取付工法
・笠　木			・図示	・湿式　・乾式
・甲　板			・図示	・湿式　・乾式
・隅　板			・図示	・湿式　・乾式
・アーチ			※図示	・湿式　・乾式
・上げ裏			※図示	・湿式　・乾式

石裏面処理　(10.7.2(1)(ｹ))(10.7.3(1)(ｹ))
・行う（適用箇所：　）・行わない
一般目地及び伸縮調整目地の位置及び寸法　(10.7.2(5)(ｱ)(a))(10.7.2(5)(ｲ)(b))
・図示　・
目地　(10.7.2(6))

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅 mm	適用箇所
一般目地	※図示 ・	・シーリング ・	・図示　・6（湿式） ・　※8（乾式）	・
伸縮調整目地	・図示 ※10.7.2(5)(ｲ)	※シーリング ・	・図示　※10・	・

乾式工法の場合の取付け代　(10.7.2(3)(ｲ))
※10.5.3(2)による　・
乾式工法の場合の石裏補強用モルタル　(10.7.2(5)(ｲ))
・行う　・行わない
隔板の厚さ　※40mm　・　(10.7.4(1)(ｱ))
※その他乾式工法に関する仕様は特記仕様書10.3壁の石張り工法に準ずる。

8．タイル状花崗岩類及び大理石

石及び仕上げの種類

石の種類	形状、寸法	仕上げの種類	工　法	適用箇所
・	・	・	・	・

9．性能試験

(補1.8.1(c)(2))(補1.8.1(c)(11))

試験の方法	試験箇所	試験の方法	試験箇所
・吸水率試験 ・圧縮強さ試験		・あと施工アンカー引抜き試験	

11章　タ イ ル 工 事

1．共通事項・材料

タイルの種類　(11.2.2)(11.3.2)

形状 寸法	きじの質	成形法	色調	釉薬	役物	耐凍害性	耐滑り性	面状	備考
・600×600	○磁器・陶器 ・せっ器	○湿式 ・乾式	○標準 ・特注	・無釉 ○施釉	○有 ・無	・有 ○無	○有 ・無	・	
・1000×3000	○磁器・陶器 ・せっ器	○湿式 ・乾式	○標準 ・特注	・無釉 ○施釉	・有 ○無	○有 ・無	・有 ・無	・	品番：GAR827(ｻﾝﾄｰﾌﾟ) 室内壁面仕様の為、耐滑性は満えず。
・1000×3000	○磁器・陶器 ・せっ器	○湿式 ・乾式	○標準 ・特注	・無釉 ○施釉	・有 ○無	○有 ・無	・有 ・無	・	品番：GAR829(ｻﾝﾄｰﾌﾟ) 室内壁面仕様の為、耐滑性は満えず。
・1600×3240	○磁器・陶器 ・せっ器	○湿式 ・乾式	○標準 ・特注	・無釉 ○施釉	・有 ○無	○有 ・無	・有 ・無	・	品番：GAC506(ｻﾝﾄｰﾌﾟ) クリンター仕様の為、耐滑性は満えず。
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・特注	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・	

耐滑り性有の場合の基準　・C.S.R≧　・C.S.R・B≧
※有機系接着材による外壁陶磁器タイル張り用タイルは専用タイルとする。
※タイルは社団法人全国タイル業協会加入のメーカーの製品とする。
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地　(11.1.3)

適用箇所	壁目地	床目地
目地の材料	※特記仕様書9章12シーリングによる	・特記仕様書9章12シーリングによる
目地の位置	・表11.1.1　※図示	・表11.1.1　※図示
目地の寸法	※11.1.3(3)　・	・11.1.3(3)　・図示

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地に接するタイルの側面の形状及び仕上げ
※図示　・
張付けモルタル　※既調合モルタル（製造所の仕様による）・　(11.2.3(3))
まぐさ等のはく落防止用引き金物　(11.2.2(2))(11.2.4(1))
※使用する　タイルの種類　※小口タイル以上二丁掛け以下　・
適用箇所　・まぐさ　・ひさし先端下部　・
タイルの見本焼き　・行う（　回）・行わない　(11.1.4(1))
タイルの試験張り　・行う（　㎡程度）・行わない　(11.1.4(2))

2．セメントモルタルによるタイル張り

壁タイル張り工法　(11.2.6(3)(ｱ))(表11.2.3)

タイルの種類	タイルの寸法	工　法
内外装タイル	・小口平 二丁掛、100角 ・	※密着張り　・ ・改良圧着張り ・
ユニットタイル （内装タイル以外）	・50二丁以下 ・	・マスク張り　・ ・ユニットタイルバイブレーション工法（シート張り） ・モザイクタイル張り　・

ALCパネルにタイル張りを行う場合は、下記に準拠すること。
※「ALCパネル現場タイル張り工法指針・同解説」「ALCパネル現場タイル接着剤張り工法指針（案）・同解説（2010版）」（日本建築仕上学会）
・
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理　(11.2.6(1)(ｱ))
工　法　※目荒し工法(超高圧水洗150pa以上)・MCR工法　・立体繊維材料張り工法
適用箇所　・

3．有機系接着剤によるタイル張り

床タイル張り工法　(補11.3.3(b))

工　法	適用箇所	工法選択の目安（備考）
・敷きモルタル張り		300角超の大型タイル、張付け面積小
・下地モルタル張り	・	一般タイル、ユニットタイル
・圧着張り		重量物通過

壁タイル張り工法　(11.3.7(2)(ｱ))(表11.3.2)

タイルの種類	タイルの大きさ	工法	裏足高さと裏面反り	備考
○内装タイル	○900×2700 ・	内装タイル接着剤張り	・	廊下(1)内壁面
・外装タイル	※小口平以上二丁掛け以下 ・	外装タイル接着剤張り	・裏あし高さ0.9mm以下かつ裏面反り±0.7mm以下 ・上記以外	
・ユニットタイル（内装タイル以外）	※小口未満50二丁以下	外装タイル接着剤張り	・裏あし高さ0.9mm以下かつ裏面反り±0.7mm以下 ・上記以外	

内装タイル接着剤張りに使用する有機質系接着剤の　(11.3.3(1))
ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・
外装タイルにおける目地詰め　※行う　・行わない　(11.3.3(2))
下地調整剤塗りを行うコンクリート素地面の処理　(11.3.5(1)(ｱ)(ｲ))
外装タイル接着剤張りの目地のシーリング材　(11.3.4(1))
打ち継ぎ目地及びひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系　・
伸縮調整目地・その他の目地　※変成シリコーン系・
コンクリート素地面の下処理　・　(11.3.5)
工法　※目荒し工法(超高圧水洗)　・MCR工法

4．陶磁器質タイル先付けPC部材

種類　・タイルシート法　・目地棋法　・タイル単体法
仕様等の適用基準　※国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」最新版
タイル工事タイル型枠先付けPC部材に準拠する。

5．特殊タイル

タイルの種類

形状 寸法	きじの質	成形法	色調	釉薬	役物	用途 屋内外	用途 部位	耐凍害性	滑り抵抗性	面状	備考
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・特注	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・特注	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・特注	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・特注	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無		
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・特注	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無		

滑り抵抗性有の場合の基準　・C.S.R≧　・C.S.R・B≧
・
特殊タイル張り工法　・

6．性能検査

(11.1.7(3))(表11.1.2)(補1.8.1(c)(3))

試験の方法	適用箇所
※接着力試験	

7．その他（外壁タイル）

・社団法人全国タイル業協会編「陶磁器質タイルのコンクリート直張り工事標準仕様書」
・社団法人全国タイル業協会編「外装タイル張りノ設計上の配慮事項、施工管理上の注意事項」
・社団法人全国タイル業協会編「外装タイル有機系接着剤張りQ-CAT工事標準仕様書」

12章　木 工 事

1．木材

含水率　※A種　・B種　(12.2.1(1)(ｲ))(表12.2.1)
材料のホルムアルデヒド放散量等　※F☆☆☆☆　・　(12.2.1(1)(ｹ))
JAS 1083（製材）に基づく製材　(12.2.1(2)(ｱ))

区分	寸法	等級	含水率	保存処理
下地用 計業樹製材	○	・１級 ※２級	※Ａ種 ・Ｂ種 ・　%以下	・
造作用 計業樹製材	・	※見掛かり上小節 それ以外小節 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・　%以下	
広葉樹製材	・	※１等 ・	※ 10 %以下 ・Ａ種 ・Ｂ種	・

JAS 1083以外の製材　(12.2.1(2)(ｲ))(表12.2.2)

区分	寸法	材面の品質	含水率	防虫処理
下地	・	・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・　%以下	・行う ・行わない
造作	・	※Ａ種 ・Ｂ種	※Ａ種 ・Ｂ種 ・　%以下	・行う ・行わない
仕上げ	・	・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・　%以下	・行う ・行わない

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等　(12.2.1(3)(ｱ))

区分	品名	樹種	見付け材面	寸法	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ
造作用集成材	・	・	・	・	※１等 ・２等	―
化粧ばり 造作用集成材	・	化粧薄板・ 芯材　・	・	・	・　― ※１等	・

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等　(12.2.1(3)(ｲ))

区分	樹種	寸法	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ	含水率
造作用集成材	・	・	・ （仕上材に限る）	―	※15%以下 ・
化粧ばり 造作用集成材	化粧薄板・ 芯材　・	・	・	―	※15%以下 ・

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材　(12.2.1(4)(ｱ))

品名	寸法	表面の品質	防虫処理
・	・	・表面の化粧加工有（・天然木化粧　・塗装　） ・表面の化粧加工無（・　◯１等　）	・行う ・行わない

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材　(12.2.1(4)(ｲ))

寸法	表面の品質	含水率	防虫処理
・	・表面の化粧加工有（・天然木化粧　・塗装　） ・表面の化粧加工無（・　）	※14%以下 ・	・行う ・行わない

「直交集成板の日本農林規格」に基づく直交集成板(CLT)　(12.2.1(5))

品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種	寸法
・	・	・	・	・	・

普通合板　(12.2.1(6)(ｱ)(a))

品名	厚さ	接着の程度	板面の品質	単板の樹種	防虫処理
・	※5.5mm ・	※１類 ・２類	※２等以上(広葉樹) ※C-D以上（針葉樹）	・ ・	・行う ・行わない

構造用合板　(12.2.1(6)(ｱ)(a))

品名	厚さ	接着の程度	等級	板面の品質	単板の樹種	保存処理
・	※12mm ・	※１類 ・特類(湿潤状態)	※２級以上 ・	※C-D以上 ・	・	

構造用合板の防虫処理　・　(12.2.1(6)(ｱ)(b))
構造用合板の強度等級　・　(12.2.1(6)(ｱ)(b))
化粧ばり構造用合板　(12.2.1(6)(ｲ))

品名	厚さ	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
・	・	・	・特類（湿潤状態） ・	・

天然木化粧合板　(12.2.1(6)(ｳ))

厚さ	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種名	防虫処理
・	・１類 ・２類	・	・行う ・行わない

特殊加工化粧合板　(12.2.1(6)(ｴ))

品目	厚さ	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
・	・	・１類 ・２類	・	・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装　・	・行う ・行わない

パーティクルボード　(12.2.1(6)(ｵ))

厚さ	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
※15mm ・	・	・　※13タイプ	・MR1(M)（一般） ・MR2(P)（耐水）	・普通 ・難燃2級 ・難燃3級

構造用パネル　(12.2.1(6)(ｷ))

品名	寸法
・	・　mm

ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）　(12.2.1(6)(ｸ))

厚さ	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
・	・	・	・M（一般） ・P（耐水）	・難燃2級 ・難燃3級

2．接合具等

造作材の化粧面の釘打ち　※隠し釘打ち・釘頭埋め木・釘頭埋め木・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し　(12.2.2(1))
諸金物の形状、寸法、材質　※表12.2.3～表12.2.5　・　(12.2.2(2))
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(12.2.2(3))
諸金物　(12.2.2(2)(ｱ))

	形　状	寸　法	材　質
かすがい	・　※表12.2.3	・	・　※鉄鋼亜鉛めっきF種程度
座金	・　※表12.2.4	・	・　※
箱金物及び短冊金物	・　※表12.2.5	・	・　※

3．木れんが

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(12.2.3(2))

4．防腐・防蟻処理

下地木材への防腐・防蟻処理　(12.3.1)
・薬剤による防腐・防蟻処理を省略できる製材（適用部材　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理（適用部材・
性能区分・K2　・K3　・K4　・　）
・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理
（処理方法　※薬剤の製造所の仕様による　・　）
表面処理用保存剤の適用　・有　・無
薬剤の種類　・　適用部材・
・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
（処理方法　※薬剤の製造所の仕様による　・　）

5．防虫処理

防虫処理　・行う　・行わない　(12.3.2)

6．鉄筋コンクリート等の内部圍仕切軸組及び床組

木材　(12.4.1)

部位	樹種等
・圍仕切軸組	※杉又は松・
・床組	※杉又は松・
・土圍スラブの類の場合の土台，転ばし大引及び転ばし根太	※ひのき又は保存処理木材

7．窓、出入口その他

木材　(12.5.1)

部位	樹種等
・吊元枠，水掛りの下枠及び敷居	※ひのき　・
・上記以外	※松又は杉・

8．床板張り

縁甲板及び上がりかまちに用いる木材　※ひのき　・　(12.6.1)

9．壁及び天井下地

下地木材　※杉又は松　・　(12.7.1)

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記仕様書（４）		
縮　尺	―	図面番号	269
下関市ボートレース企業局			

13章　屋根及びとい工事

①．長尺金属板葺

材料　・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル　(13.2.2(1))(表13.2.1)
・溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯のＡ種、SG
・冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
・塗装ステンレス鋼板及び鋼帯
・その他

塗膜の耐久性の種類　・　(13.2.2(1))
めっき付着量　・　(13.2.2(1))
金属板の板厚　・0.4mm　・0.5mm　・0.6mm　・0.8mm　・　mm　(13.2.2(1))
下葺材料　・アスファルトルーフィング940　・　(13.2.2(3))(表13.2.2)
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）
断熱材　※あり（材種・　厚さ・　mm）・なし
屋根葺形式　・立て平葺　・心木無し瓦棒葺　・横葺　・図示　(13.2.3(1))
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法　・　(13.2.3(2))
耐風圧性能値　建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力：　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。
葺板の寸法・厚さ、下地、留付方法　※図示　・
・　・
横葺きの場合のけらば納め　・つかみ込み納め　・けらば包み納め　(13.2.3(4)(b)(b))
雪止め　・設置する（工法　※図示　・　）・設置しない　(13.2.3(4)(3))

②．折板葺

材料による区分　※鋼板製　・　(13.3.2(1))
材質　・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル　(13.3.2(2))(表13.2.1)
・溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯のＡ種、SG
・冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
⊙塗装ステンレス鋼板及び鋼帯
・その他
金属板の板厚　⊙0.6mm　⊙0.8mm　・　mm　(13.3.2(1))
塗膜の耐久性の種類　・　(13.2.2(1))
めっき付着量　・　(13.2.2(1))
形式　・重ね形　・はぜ締め形　・かん合形　・　(13.3.2(1))
寸法　・山高（　mm）　・山ピッチ（　mm）　(13.3.2(1))
耐力　・等分布荷重　N/㎡　(13.3.2(1))
ボルト材料　※SUS304（ナット共）
屋内のタイトフレーム材料　※溶解亜鉛めっき鋼板及び鋼帯　・　(13.3.2(3))
面戸板　※軒先面戸及び２重面戸は図示　(13.3.2(5))
断熱材　※あり（材種・　厚さ・　mm　防火性能・　）(13.3.2(6))
・なし
耐火性能　※30分耐火　・なし　(13.3.2(7))
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法　※　・
耐風圧性能値　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。　(13.3.3(1))
耐雪性能に対応した工法・適用する（・図示・　）・適用しない　(13.3.3(2))
折板のけらば納め　※けらば包み　・図示　(13.3.3(3)(ｴ))

3．シングル葺

種別

種　別	施工箇所
・アスファルトシングル葺	
・不燃シングル葺	
・金属箔シングル葺	
・	

責任施工の保証期間（竣工期日以降）※10年間

4．粘土瓦葺

材料　種類　※Ｊ型　・　・　(13.4.2(1)(ｱ))
大きさ　※53A　・　・
産地　・　・　・
役物瓦の種類　・　(13.4.2(1)(ｲ))
雪止め瓦の使用　・使用する　・使用しない　(13.4.2(1)(ｲ))
凍害試験　・行う　・行わない　(13.4.2(1)(ｳ))
瓦桟木　材質※杉　・　寸法※幅21×高さ15（mm）以上　・　(13.4.2(2)(ｱ))
棟補強用心材　材質※杉　・　寸法※幅40×高さ30（mm）以上　・　(13.4.2(3))
瓦緊結用釘又はねじ　(13.4.2(4)(ｱ))
種類・　径　※2.3mm以上　・
長さ※先端が野地板厚さの1/2以上に達する長さ　・
棟補強等に使用する金物等　材質　・ステンレス製・溶融亜鉛めっき処理鋼製　・
形状　※図示　・
寸法　※図示　・
留付け方法　※図示　・
建築基準法に基づく風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結工法　(13.4.3(1))
風圧力　※図示　・　地震力　※図示　・
風圧力・地震力　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。
木材以外の野地板　材料　・
留付け工法・
桟木の留付け工法　※図示　・　(13.4.3(3)(ｲ))
棟の工法　・７寸丸伏せ棟　・Ｆ形用冠瓦伏せ棟　・のし積み棟　(13.4.3(4))
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上を施す場合　(13.4.3(4)(ｲ)(f))
・モルタル　・瓦葺き用しっくい

⑤．とい

材種　たてどい ⊗配管用鋼管 ⊙(外部)アルミバンドレス　(13.5.2(1))(表13.5.1)
・ステンレス管　・アルミ管（内面耐食塗装）
⊙硬質ポリ塩化ビニル管（⊙VP・RF-VP）・耐火被覆硬質塩化ビニル管
⊙ステンレスバンドレス
軒どい　※図示　・
製造所：　（製品名：　）（表13.5.1）
・表面処理鋼板（・表面及び裏面の塗膜の種類（　）・耐酸被覆鋼板）
・ステンレス鋼板
軒どいの伸縮継手　※設ける　・設けない
伸縮継手の間隔　※10m以内　・図示
オーバーフローの水抜　材種　※SUS304　・　形状・
金属屋根のドレイン部ゴミ除去金網　※設ける　・設けない
材料　※ステンレスメッシュ　・

ルーフドレンなど　(表13.5.1)
排水方法　・竪引　・横引　・中継
寸法　・80　・100　⊙125　⊙150　・
材種　※鋳鉄製　・SUS製　・
とい受金物及び足金物の機種、形状及び取付け間隔　※表13.5.2による　・図示

多雪地域の適用　・適用する　・適用しない　(13.5.2(2))
防露　※行う　・行わない　(13.5.2(3))(13.5.3(1)(ｲ))
材料　※表13.5.3による（寒冷地の保温材厚さ　mm）
工法　※表13.5.4による　・図示
防露材のホルムアルデヒドの放散量
※F ☆☆☆☆
排除口　※設ける　・設けない

⑥．性能試験

試験の種類	試験箇所
⊙とい満水試験	屋根、庇、縦樋

14章　金属工事

1．あと施工アンカー

確認強度は下の表による
※引張試験　(14.1.3(1)(ｴ))(補1.8.1(b)(11))

あと施工アンカー種別	施工箇所	確認強度	備考
・	・	・　N/c㎡	・
・	・	・　N/c㎡	・
・	・	・　N/c㎡	・

※あと施工アンカーの施工は(一社)日本建築あと施工アンカー協会の有資格者による

②．表面処理

アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.2(1))(表14.2.1)
・陽極酸化皮膜　JISH8601

表面処理	種　別	皮膜厚μm	色　合	施工箇所
無着色陽極酸化皮膜	・AB-1種	※15	※標準	
	・AC-1種	※ 6	・標準　・標準外	
着色陽極酸化皮膜	・AB-2種	※15	※標準	
	・AC-2種	※ 6	・標準　・標準外	

・陽極酸化塗装複合皮膜　JISH8602

表面処理	種　別	複合被膜の種類	色　合	塗装の艶	表面仕上（ダイスライン）（なし：梨地処理）	施工箇所
無着色陽極酸化塗装複合皮膜	・BA-1種	A2	※標準	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	⊙BB-1種	B	※標準	⊙有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BC-1種	C	※標準	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
着色陽極酸化塗装複合皮膜	・BA-2種	A2	※標準(着色) ・標準外(ホワイト)	⊙有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	⊙BB-2種	B	※標準(着色) ・標準外(ホワイト)	⊙有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BC-2種	C	※標準(着色) ・標準外(ホワイト)	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	

JISH8602 改正規格の種類（性能規格）

種類	複合耐食性		耐候性		
	紫外線蛍光ランプ耐候性試験	キャス試験	キセノンランプ式促進耐候性試験	サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験	
	試験時間 h				
A1	240	120	4000	3000	
A2	240	120	2000	1500	
B	240	72	1000	750	
C	―	―	350	250	
備考	紫外線蛍光ランプ耐候性試験を行った後、キャス試験を実施する。		キセノンランプ式促進耐候性試験又はサンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験のいづれかを実施する。		

A1　過酷な環境で、かつ、紫外線露光量の多い地域の屋外
A2　過酷な環境の屋外
※B　一般的な環境の屋外
C　屋内
・過酷な環境とは、腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
・一般的な環境とは、工業地域、都市地域及び田園地域
・海浜とは、海岸線から300m以内の地域
・沿岸とは、海岸線から300mを超えて2km以内の地域
・紫外線露光量の多い地域とは、亜熱帯海洋性気候に類似した地域（南西諸島等）

・着色塗装皮膜

表面処理	種　別	塗装厚	仕上がり	施工箇所
着色塗装皮膜	・B-FE(P)	・　μm	⊙ソリッド・メタリック	
	⊙B-FE(F)	⊙　20μm	⊙ソリッド・メタリック	
	・	・		

注）B-FE(P)：高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り　B-FE(F)：中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り

着色陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　(14.2.2(2))
・三次電解着色
・自然発色
・その他の電解着色（　）

鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.3(1))(表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	・A種（HDZT77）	
	・B種（HDZT63）	
	・C種（HDZT49）	
電気亜鉛めっき	・D種　5級	
	・E種　4級	
	・F種　3級	
表面処理	・JIS G 3302＊1	
亜鉛めっき鋼板	・JIS G 3313＊2	
常温亜鉛めっき	・ZRC工法　＊3	

注）＊1：溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
＊2：電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
＊3：ZRC乾燥皮膜厚76μm以上塗布

亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の焼付塗装仕上げ　(補14.9)

塗装種別	素地材料	仕上がり	表面処理	塗膜厚（μm）	施工箇所
・高温焼付形ふっ素樹脂エナメル(B-FE(P))	・	・ ・	・化成皮膜	・	・
・中温焼付形ふっ素樹脂エナメル(B-FE(F))	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・

③．軽量鉄骨天井下地

天井材の単位面積当たりの質量が20kg/㎡を超える天井，傾斜，段差，曲面等の水平でない天井，システム天井　※図示　・
天井高6m以上で面積200㎡を超える天井　※図示　・
野縁の種類　屋内　※19形　・25形　(14.4.2(2))(表14.4.1)
屋外　・19形　※25形
屋外の場合の下地の形式及び寸法　(14.4.3(1)(2))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
吊りボルトの間隔が900を超える補強方法　※図示　(14.4.4(5)(ｱ))
天井ふところ1.5m以上（3m以下）の補強方法　※14.4.4(8)による　(14.4.4(8))
天井ふところ3mを超える場合　※図示　(14.4.4(8))
耐震性を考慮した補強　(14.4.4(10))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
屋外の軒天井，ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強　(14.4.4(11))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
特殊軽量鉄骨天井下地　製造所、工法（天井下地　ステンレス製 SICS SUS　同等品，使用部位：図示　）
・図示

④．軽量鉄骨壁下地

スタッド及びランナーの種類　・50形　・65形　⊙90形　⊙100形　(14.5.3(1))(表14.5.1)
スタッドの高さが5.0mを超える場合　※図示
特殊軽量鉄骨壁下地　製造所、工法（ステンレス製 開仕切壁下地 SICS SUS　同等品，使用部位：図示　）
・図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※14.5.4（5）　・

⑤．金属成形板張り

天井の金属成形板　(14.6.2(1))

種　別	・スパンドレル形		・パネル形	・
製　法	・押出し	・ロール	・プレス	・
材　種	・		・	・
表面処理・仕上	・		・	・
寸　法　mm	・		・	・
板　厚　mm	・		・	・
施工箇所	・		・	・

取付け用下地　※14.4（軽量鉄骨天井下地）による　・図示　(14.6.3(1))
長尺ものの伸縮調整継手　・設けない　※設ける（施工箇所は図示による）　(14.6.3(5))

壁の金属成形板

種　別	・折板	・サイディング類	・金属成形断熱パネル	・
製　法	・	・	・	・
材　種	・	・	・	・
表面処理・仕上	・	・	・	・
寸　法　mm	・	・	・	・
板　厚　mm	・	・	・	・
施工箇所	・	・	・	・
外装パネル工法	多雪区域の指定 風圧力	※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。		

⑥．アルミニウム製笠木

笠木本体の材料　※アルミニウム押出形材　・アルミニウム合金押出形材　(14.7.2(1))
笠木部材の種類　・250形　・300形　・350形　⊙図示　(表14.7.1)
伸縮調整継手　⊙設ける（　m以内）　・設けない
役物の種類及び工法　※主材製造所の仕様　・　(14.7.2(2))
表面処理　・AB－1種　⊙BB－1種　・　(14.7.2(3)(ｱ))(表14.2.1)
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法　※図示　・
風圧力　建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。　(14.7.3(1)(ｱ))

7．エキスパンションジョイント

ＥＸＰＪカバー可動量（Ｘ，Ｙ方向）
※下表による　・図示

可動量				
屋根	外壁	床	内壁	天井
※ 50% ・100%	※ 50% ・100%	※ 50% ・100%	※ 50% ・100%	※ 50% ・100%

可動量50%の場合であっても、耐震安全性分類のＡ類は、屋根の止水帯と各部位の耐火帯は、可動量100%に追従すること。
安全機構
※可動量を100%としない場合は安全機構を設ける。　(補14.11.1)
床カバーの安全機構の設置　※図示　・

構造クリアランス、仕様　(補14.11.2)
※下表による　・図示
(構造躯体の層間変形角　・ＲＣ造，ＳＲＣ造：1/200　・Ｓ造：1/100　・計算：1/　,1/　)

階	階高 mm	FLからの床高さmm	床クリアランス mm以上	床可動量 mm以上	耐火帯	止水帯（床）	断熱材	遮音帯
パラペット					・無	※有	・有	・有
1階					・無	・有	・有	・有
2階					・無	・有	・有	・有
3階					・無	・有	・有	・有
4階					・無	・有	・有	・有
5階					・無	・有	・有	・有
6階					・無	・有	・有	・有
7階					・無	・有	・有	・有
8階					・無	・有	・有	・有
9階					・無	・有	・有	・有

耐火帯　※特記なき限り有り
耐火帯は防火区画の壁、床においては建築基準法施行令第107条2項に規定する「1時間遮熱性能」、外壁、屋根部分においては同第107条3項に規定する「30分遮熱性能」（延焼のおそれのある部分については1時間）とし、仕様は製造所の仕様による。
止水帯　※止水帯は外壁、屋根部分に施し、仕様は製造所の仕様による。また、その他の部分で止水帯を施す場合は上表による。

断熱材　※特記なき限り無し
・断熱材（仕様　）
遮音帯　※特記なき限り無し
・遮音帯（仕様　）

主材料・仕上
※下表による　・図示

部位	屋根	外壁	床	内壁	天井
主材料	・	・	・	・	・
仕上	・	・	・	・	・

耐荷重性能
床　※下表による　・図示

	適用箇所
・軽歩行用	
・重歩行用	
・車両用　T-5	
・車両用　T-14	
・車両用　T-25	

屋根・外壁の耐風圧力・耐積雪量
※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。

8．パンチングメタル

材質	打抜型	板厚（mm）	孔径（mm）	芯々距離（mm）	施工箇所

⑨．エキスパンドメタル

種　類	品　番	施工箇所
XG-2	XG-2	メンテナンスデッキ

⑩．ステンレス鋼板の曲げ加工

工法　※普通曲げ　・角出し曲げ（・Ａ角　・Ｂ角　・Ｃ角）　(補14.10.1)

①．性能試験

(補1.8.1(c)(6))(補14.9.7(b))

試験の方法	試験箇所
⊙アルミニウム表面処理の皮膜及び塗膜の品質試験	・
⊙溶融亜鉛めっき亜鉛の付着量試験	・
・電気亜鉛めっきの皮膜厚さ試験及び塩水噴霧試験	・
⊙金属素地上の焼付け塗装の塗膜厚試験	・
⊙金属素地上の焼付け塗装の品質試験	・

15章　左官工事

①．防火材料

防火材料　※屋内の壁及び天井の仕上塗材は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた防火材料とする。

②．下地

直張り工法の場合のラス系下地の種類　⊙ラスモルタル下地　・ラスシートモルタル下地　(15.2.4(2)(ｱ))
上記の場合で外張断熱工法とする場合の通気構法　⊙行う　・行わない　(15.2.4(2)(ｲ))
建築基準法に基づく指定の有無　・耐力壁　⊙防火構造　⊙準耐火構造　・指定なし
上記の場合で外張断熱工法とする場合の通気構法　(15.2.4(2)(ｴ))
ラス及び補強用平ラスの仕様　(15.2.4(3)(ｱ))
材料記号　※Ｋ　・
種類及び単位面積当りの質量
・二層下地通気構法　※波形ラス(W700)　・こぶラス(K800)　・力骨付ラス(BP700)
・単層下地通気構法　※防水裏打ち材一体化リブラス(RC800)　・
・図示
ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分　(15.2.4(3)(ｴ))
・ＬＳ１　・ＬＳ２　・ＬＳ３　※ＬＳ４（耐力壁）・図示
ステープルの形状・寸法　(15.2.4(3)(ｵ))
・リブラスＣ(RC800)(※L925TS以上・　)・波型ラス(W700)(※L1019JS以上・　)
・図示
換気口部の措置　※「公共建築木造工事標準仕様書」11.4.3(2)(ｸ)　(15.2.4(4)(ｱ)③④)
・図示
耐力壁の場合のラスシートの施工　※図示　(15.2.4(4)(ｴ)(c))
・せっこうボード　種類・　厚さ・　(15.2.5(2)(ｱ))
・せっこうラスボード　種類・　厚さ・
・木質系セメント板　種類・　厚さ・　※15mm(木毛セメント板)
耐力壁の場合のこまい下地の適用範囲　※図示　(15.2.6(1))
木ずり下地の木ずり用小幅板の樹種　※杉心去り材　・図示　(15.2.7(2)(ｱ))

③．モルタル塗り

モルタルの材料　・現場調合材料　・15.3.2.(1)(ｱ)　(15.3.2(1))
・既調合材料JIS A 6916（建築用下地調整塗材）　(15.3.2(1)(ｴ))
既製目地材　※使用する　形　状　⊙図示　・　(15.3.2(6))
適用箇所　・
床の目地　目地割り及び種類　※15.3.5(2)(ｳ)　・　(15.3.5(9))
施工箇所　・
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・行う　・行わない　(15.3.5(4)(C)③)

⑤．セルフレベリング材塗り

種類及び品質　※表.15.5.1による　(15.5.2(1))
塗り厚　・10 mm程度　・
施工箇所　※図示　⊙塗床材を施工する諸室

6．仕上塗材仕上げ

仕上塗材の種類、仕上げ形状及び工法　(15.6.2(1)(ｲ))(表15.6.1)(15.6.6)

種　類	呼び名	仕上の形状	工法	施工箇所
・薄付け仕上塗材 JIS A 6909	・外装薄塗材S1	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け	
		・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
	・可とう形外装薄塗材S1	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け	
		・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
	・外装薄塗材E	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	
		・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
		・着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて塗り	
	・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	
		・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
		※凹凸状	吹付け	
	・外装薄塗材S	※砂壁状	吹付け	
	・内装薄塗材C ・内装薄塗材L	※凹凸状	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	
		・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
	・内装薄塗材S1 ・内装薄塗材E	※砂壁状じゅらく・ゆず肌状	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	
		・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
	・内装薄塗材W	※京壁状じゅらく	吹付け	
		・ゆず肌状		
		※平たん状 ※凹凸状	**こて塗り**	

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記仕様書（５）		
縮　尺	－	図面番号	270
下関市ボートレース企業局			

・厚付け仕上塗材 JIS A 6909	・外装厚塗材C	・吹放し　・凸部処理	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し・かき落とし	こて塗り	
	・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E	・吹放し　・凸部処理	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し	こて塗り ローラー	
	・内装厚塗材C	・吹放し　・凸部処理	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し・かき落とし	こて塗り	
	・内装厚塗材L	※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し・かき落とし	こて塗り	
	・内装厚塗材G	※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し・かき落とし	こて塗り	
	・内装厚塗材Si ・内装厚塗材E	・吹放し　・凸部処理	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し	・こて塗り ・ローラー	
・複層仕上塗材 JIS A 6909	・複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材SI ・複層塗材E	・凸部処理　・凹凸模様	吹付け	
		※ゆず肌状	ローラー	
	・可とう形複層塗材CE	・凸部処理　・凹凸模様	吹付け	
		※ゆず肌状	ローラー	
	・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材RE ・防水形複層塗材E	・凸部処理　・凹凸模様	吹付け	
		※ゆず肌状	ローラー	
・軽量骨材仕上塗材 JIS A 6909	・吹付用軽量塗材	※砂壁状	吹付け	
	・こて塗用軽量塗材	※平たん状	こて塗り	

外装厚塗材Si・E　上塗材の適用　・有　・無　(15.6.2)(表15.6.1)
外装厚塗材C　上塗材　※セメントスタッコ　・

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　(15.6.2(1)(7))
内装薄塗材，内装厚塗材の吸放湿性　・有（　　）・無　(15.6.2(1)(i))
複層仕上塗材の耐候性　⊙耐候形3種　・耐候形2種　・耐候形1種　(15.6.2(1)(k))
複層仕上塗材の上塗材　(15.6.2(1)(ｸ))
溶媒　・水系　・溶剤系　・弱溶剤系　(表15.6.2)
樹脂　・アクリル系・アクリルシリコン系（低汚染型）・ふっ素系（低汚染型）
・シリカ系　・ポリウレタン系
外観　・つやあり　・つやなし　・メタリック

装飾仕上塗材　※下表による　・図示による

仕上塗材の名称	施工箇所	使用材料（商品名）
・		同等品とする
・		同等品とする
・		同等品とする

7．マスチック塗材塗り　種別　・A種　・B種　(15.7.2(1))(表15.7.1)

8．せっこうプラスター塗り　下塗り及び中塗り　15.8.2(1)による　(15.8.2(1))

9．ドロマイトプラスター塗り　施工箇所　・

10．しっくい塗り　下地　※せっこうボード、せっこうラスボード、モルタル塗り、木ずり又はこまい土壁塗り　・　(15.10.1)
材料　・既調合しっくい材料（色しっくいの適用・あり　・なし）・現場調合材料　(15.10.2(1)(ｱ))
調合及び塗厚　※表15.10.1（せっこうボード下地）、表15.10.2（モルタル塗下地）、表15.10.3（木ずり下地）、表15.10.4（せっこうプラスター下地及びこまい土壁下地）　(15.10.3)
・
上塗りの仕上工法　・なで切り仕上げ　・パターン仕上げ　(15.10.4(4)(ｴ))(表.15.10.5)

11．こまい壁塗り　土壁用のりの種類　※つのまた　・ふのり　・ぎんなんそう　・粉末海藻　・　(15.11.2(5)(ｱ))
砂壁用ののりの種類※ふのり　・つのまた　・こんにゃくのり　・にかわ　(15.11.2(5)(ｲ))
・合成高分子系湿和剤　・
土物仕上げに用いる色土の種類　・　(15.11.2(6)(ｱ))
大津仕上げに用いる色土の種類　・　(15.11.2(6)(ｲ))
色砂の種類　・天然砂　・岩石の砕砂　・人工色　(15.11.2(8))
下塗りの調合　※表15.11.2　・　(15.11.3(1)(表15.11.2)
塗厚　※表15.11.8　・　(15.11.4(表15.11.8)
耐力壁の指定　・有　・無
工程の種別　※A種　・B種　(15.11.5(1)(表15.11.9)
土物仕上げ工法の種類　(15.11.7(1)(ｱ)(ｲ)(ｳ))
・土物仕上げ工法（水こね土物１工法）・土物仕上げ工法（水こね土物２工法）
・土物仕上げ工法（のりさし土物工法）・土物仕上げ工法（のりごね土物工法）
・砂壁仕上げ工法　・切返し仕上げ工法
大津仕上げ工法の種類　・普通大津仕上げ工法　・大津みがき仕上げ工法　(15.11.8(1)(ｱ)(ｲ))

12．ロックウール吹付（半乾式及び乾式工法）　ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆・　(15.12.2(1)(4))

仕上げ吹付け厚さ　(15.12.3(2))

施工箇所	吹付け厚さ	備　考
・	・　mm	
・	・　mm	
・	・　mm	

13．薄塗り工法　工法の種類　(補15.8.2)(表15.8.1)

種別	A　種	B　種	C　種
施工箇所	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・

C種の種類　・1種　・2種　・3種　(補15.8.3(b)(1))(補表15.8.2)

14．特殊仕上げ　・耐摩耗床　材料　工法　厚さ　mm
・耐薬品床　材料　工法　厚さ　mm

16章　建具工事

建具工事特記仕様書・建具表（1）参照

17章　カーテンウォール工事

1．見本の製作
実物大見本　・製作する　（範囲　※図示　・　）　(補17.1.5(a))
・製作しない
模型　・製作する　（範囲　※図示　・　）　(補17.1.5(b))
（縮尺　※図示　・　）
（材料　※図示　・　）
・製作しない
各部材の組立て試験　・行う　・行わない　(補17.1.5(c))

2．実大試験
・行う　（範囲・規模　※図示　・　）　(補17.1.6)
・行わない

3．性能
耐風圧性能　(17.1.3(1))(補17.1.3(a))
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。
主要部材のたわみ　(補17.1.3(a))

支点間距離 h	たわみ量	状　態
※4m以下	※±(1/150)×h かつ絶対量20 mm以下	※各部の破損，残留変形、有害な変形が起こらないこと
※4mを超える	※1/200以下	

耐震性能（層間変位追従性能）　(17.1.3(1))(補17.1.3(b))
設計震度　水平方向(Kw)　※1.0　・
鉛直方向(Kv)　※0.5　・
(補17.1.3(b))
層間変位追従性能　H:階高

・（Ⅰ）	いっさいの補修なしに継続使用できる限界　±H/300
・（Ⅱ）	カーテンウォール部材に破損、脱落、及び残留変形の何れも起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用できる限界 ±H/200
・（Ⅲ）	カーテンウォール部材に破損及び脱落が起こらない限界　±H/150 かつ ±25mm以上

水密性能　はめ殺し部分　・1500 Pa　・0.5Pかつ1500 Pa　(17.1.3(1))(補17.1.3(c))
・0.75Pかつ2250 Pa　P：耐風圧性能に用いた最大の正圧値
可動部分　・　Pa以上

気密性能　はめ殺し部分　・　m³/m²h　・　m³/m²h　(17.1.3(1))(補17.1.3(d))
可動部分　・8　m³/m²h　・2　m³/m²h　・0.5 m³/m²h　・　m³/m²h
・　m³/m²h

耐火性能　合成耐火構造　※図示　・　(17.1.3(1))(補17.1.3(e))
防火区画　※図示　・

耐温度差性能（熱安定性能）　(17.1.3(1))(補17.1.3(f))
許容温度差　直射日光の当たる暗色の金属材　※80℃　・
直射日光の当たる明色の金属材　※70℃　・
その他の部材　※60℃　・

遮音性能　平均透過損失　・T-2等級線　・T-3等級線　・T-4等級線　(17.1.3(1))(補17.1.3(g))

断熱性能　熱貫流抵抗　・H-3等級　・H-4等級　・H-5等級　(17.1.3(1))(補17.1.3(h))

撓音対策　※予測される風圧力、躯体の変形、外気温の変化に起因して発生する撓音や摩擦音は最小限に抑えるようにする。　(補17.4.7(e))

4．性能試験
実大試験の項目　(17.1.3(3))(補1.8.1(c)(8))(補17.1.7)
・カーテンウォールユニットの耐風圧性能試験
・カーテンウォールユニットの層間変位追従性能試験
・カーテンウォールユニットの水密性能試験
・カーテンウォールユニットの等圧性能確認試験
・カーテンウォールユニットの排水経路確認試験

5．メタルカーテンウォール
金属材料の種類　(17.2.2(1))(補17.2.2)
・アルミニウム及びアルミニウム合金材　(補17.2.2(a))
押出形材の厚さ　※溶接部4.0mm以上、非溶接部2.5mm以上　(補17.2.2(a)(1))
・
板材の厚さ　※2.5mm以上　・　(補17.2.2(a)(2))
表面処理　(16.2.4(3))(表14.2.1)(補17.2.2(a)(3))
・陽極酸化皮膜　JISH8601

表面処理	種　別	皮膜厚μm	皮膜種類	色　合		施工箇所
無着色陽極酸化皮膜	・AB-1種	※15	AA15	※標準		
	・AC-1種	※ 6	AA6	・標準	・標準外	
着色陽極酸化皮膜	・AB-2種	※15	AA15	※標準		
	・AC-2種	※ 6	AA6	・標準	・標準外	

・陽極酸化塗装複合皮膜　JISH8602

表面処理	種　別	複合皮膜の種類	色　合	塗装の艶	表面仕上（ダイスライン）（なし：梨地処理）	施工箇所
無着色陽極酸化塗装複合皮膜	・BA-1種	A2	※標準	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BB-1種	B	※標準	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BC-1種	C	※標準	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
着色陽極酸化塗装複合皮膜	・BA-2種	A2	※標準(着色) ・標準外(ホワイト)	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BB-2種	B	※標準(着色) ・標準外(ホワイト)	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BC-2種	C	※標準(着色) ・標準外(ホワイト)	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	

JISH8602 改正規格の種類（性能規格）

種類	複合耐食性		耐候性	
	紫外線蛍光ランプ耐候性試験	キャス試験	キセノンランプ式促進耐候性試験	サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験
	試験時間 h			
A1	240	120	4000	3000
A2	240	120	2000	1500
B	240	72	1000	750
C	—	—	350	250
備考	紫外線蛍光ランプ耐候性試験を行った後、キャス試験を実施する。		キセノンランプ式促進耐候性試験又はサンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験のいずれかを実施する。	

A1 過酷な環境で，かつ，紫外線露光量の多い地域の屋外
A2 過酷な環境の屋外
※B 一般的な環境の屋外
C 屋内
・過酷な環境とは，腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
・一般的な環境とは，工業地域，都市地域及び田園地域
・海浜とは，海岸線から300m以内の地域
・沿岸とは，海岸線から300mを超えて2km以内の地域
・紫外線露光量の多い地域とは，亜熱帯海洋性気候に類似した地域（南西諸島等）

6．PCカーテンウォール
・着色塗装皮膜

表面処理	種　別	塗装厚	仕上がり	施工箇所
着色塗装皮膜	・B-FE(P)	・　μm	・ソリッド・メタリック	
	・B-FE(F)	・　μm	・ソリッド・メタリック	
	・	・		

注）B-FE(P)：高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り B-FE(F)：中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り

・鋼材　(17.2.2(1))(補17.2.2(b))
材料の厚さ　※1.6mm以上　・　(補17.2.2(b)(2))
表面処理　※表14.2.2の溶融亜鉛めっきの　種　・　(補17.2.2(b)(3))
見え掛り部分の仕上げ　※図示　・　(17.2.3(2))(補17.2.3(b))
・ステンレス鋼材　(17.2.2(1))(補17.2.2(c))
種類　※SUS304　・　(補17.2.2(c)(1))
材料の厚さ　※鏡面仕上げ2.0mm以上、その他1.5mm以上　(補17.2.2(c)(2))
表面処理　※図示　・　(補17.2.2(c)(3))
見え掛り部分の仕上げ　※図示　・　(17.2.3(2))(補17.2.2(c)(3))
・耐候性鋼材　(17.2.2(1))(補17.2.2(d))
表面処理　※図示　・　(補17.2.2(d))
見え掛り部分の仕上げ　※図示　・　(17.2.3(2))(補17.2.2(d))

シーリング材の種類　(17.2.2(2))(補17.2.2(g))
・不定形シーリング材　種類　※特記仕様書9.12シーリング材による　(補17.2.2(g)(1))
・定形シーリング材　種類　・　(補17.2.2(g)(2))

ガラス取付け材料　(17.2.2(4))(補17.2.2(f)(2))
・シーリング材　種類　※特記仕様書9.12シーリング材による　(17.2.2(4))(ｱ))
・構造用ガスケット　材質　※図示　・　(17.2.2(4)(ｲ))(補17.2.2(f)(2))
形状　※図示　・

断熱材料　種類　※図示　・　厚さ　※図示　・　mm　(17.2.2(5))
製品の寸法許容差　(17.2.3(1))(表17.2.1)
メタルカーテンウォール（アルミニウム合金鋳物によるものを除く）製品の寸法許容差　(17.2.3(1))(表17.2.1)

区分		項　目	寸法許容差 mm
単一形材	長さ	・1.5m以下	※±1.0　・
		・1.5mを超え4m以下	※±1.5　・
		・4m　を超えるもの	※±2.0　・
		曲がり	※JIS H4100（アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材）による
		ねじれ	
単一パネル材	辺長	・1.5m以下	※±1.5　・
		・1.5mを超え4m以下	※±2.0　・
		・4m　を超えるもの	※＋2.0、-3.0　・
		見込み深さ	※±1.0　・
		対角線長の差	※＋3.0、0　・
		平面度	※　2/1000　・
組立ユニット	外法寸法	・1.5m以下	※±2.0　・
		・1.5mを超え4m以下	※＋2.0、-3.0　・
		・4m　を超えるもの	※＋2.0、-4.0　・
		対角線長の差	※＋3.0、0　・

・アルミニウム合金鋳物カーテンウォール製品の寸法許容差　(補17.2.3)(補表17.2.1)

項　目	寸法許容差 mm	項　目	寸法許容差 mm
辺長	※＋2～-4　・	ねじれ、反り	※　4　・
対角線長の差	※　5　・	曲がり	※　3　・
板厚	※－2　・	見込み深さ	※±2　・
開口部内法寸法	±3　・	ボルトピッチ	※±3　・

注）製品の大きさは、長辺≦4000mm、短辺≦2000mmの範囲内とする。

ガラス溝の寸法、形状　※カーテンウォール製作所の仕様による　・　(17.2.3(4))

躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差　(17.2.5(1)(ｲ))(表17.2.2)

方　向	寸法許容差 mm
鉛直方向	※±10　・
水平方向	※±25　・

接合部工法　・二重シールによるクローズドジョイント　(補17.4.6)
・等圧オープンジョイント
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差（　）mm　(17.2.5(2)(ｲ))(表17.2.3)(補17.2.5(b))(補表17.2.2)

項　目	メタルカーテンウォール	アルミニウム合金鋳物カーテンウォール
目地の幅	※±3　・	※±5　・
目地心の通り	※＋2、0　・	※　3　・
目地両側の段差	※＋2、0　・	※　4　・
各階の基準墨から各部材までの距離	※±3　・	※±5　・

ガラスの取付け方法　※図示　・　(17.2.6)

コンクリート
種類　・軽量コンクリート（表6.10.1の1種）・普通コンクリート　(6.3.1)
(17.3.2(1)(ｱ))
品質　(17.3.2(1)(ｲ))

設計基準強度	スランプ	気乾比重	単位水量	配　筋
※30 N/mm²	※12cm	※6.2.3［気乾単位容積質量］(1)による	※185kg/m³	※図示（計算書を提出）
・	・	・	・	・

繊維補強セメント・コンクリート複合材　(補17.3.2(a)(2))
材料　※図示　・CFRC　・GRC　(補8.6.3)(補表8.6.1)
かさ比重　・
設計基準強度　圧縮強度　・　N/mm²
曲げ強度　・　N/mm²
脱型強度　・　N/mm²
鉄筋の種類　※SD295　・　(17.3.2(2))
補強鉄線の寸法　径　※径3.2　以上　・4.0　・5.0　・6.0　(17.3.2(3))
網目寸法　・
シーリング材の種類　(17.3.2(4))
・不定形シーリング材　種類　※特記仕様書9.12シーリング材による
・定形シーリング材　種類　・
耐火目地材　※図示　・　(17.3.2(5))

断熱材　種類　※図示　・　厚さ　※図示　・　mm　(17.3.2(6))

7．大型ガラスの支持方式
先付け仕上材、建具枠、ゴンドラ用ガイドレール等　※図示　・　(17.3.2(1))

PCカーテンウォール製品の寸法許容差　(17.3.3(1))(表17.3.1)

項　目	寸法許容差 mm	項　目	寸法許容差 mm
辺長	※±3　・	ねじれ、反り	※ 5　・
対角線長の差	※ 5　・	曲がり	※ 3　・
板厚	※±2　・	面の凹凸	※ 3　・
開口部内法寸法	※±2　・	先付け金物の位置	※ 5　・

PCカーテンウォールの仕上げ　※図示　・　(17.3.3(2))(補17.3.3(b))
構造用ガスケット　アンカー溝の寸法　※図示　・　(17.3.3(4))
寸法許容差　・
配筋　・図示　・　(17.3.4(2)(ｱ))

躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差　(17.3.5(1))(表17.2.2)

方　向	寸法許容差 mm
鉛直方向	※±10　・
水平方向	※±25　・

接合部工法　・二重シールによるクローズドジョイント　(補17.4.6)
・等圧オープンジョイント
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差　(17.3.5(2)(ｱ))(表17.3.2)

項　目	寸法許容差 mm
目地の幅	※±5　・
目地心の通り	※ 3　・
目地両側の段差	※ 4　・
各階の基準墨から各部材までの距離	※±5　・

ガラスの取付け方法　※図示　(17.2.6)

工法　・SSG工法　・DPG工法　・MPG工法
・ガラスリブ工法（・ガラス吊下げ工法　・ガラス方立工法　・併用工法）
・テンションマリオン工法
飛散防止フィルム貼り　※特記仕様書16.14による。

18章　塗装工事

1．材料
※屋内の壁及び天井の仕上げ材で塗料を使用する場合のホルムアルデヒド放散量は JIS 等で規定されている場合　※F☆☆☆☆　・　(18.1.3(1))
※屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材で、防火材料は建築基準法に基づく指定または認定を受けたものとする。　(18.1.3(2))
※ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆

2．塗装業者　※日本塗装工業会の会員　・監理者の承認する業者

3．素地ごしらえ　種別　(表18.2.1)～(表18.2.7)(補18.10.2)(補18.11.2)

素地面種別	素地ごしらえ種別		仕上塗料種別
木部	表18.2.1	・A種	※ 不透明塗料塗り
		・B種	※ 透明塗料塗り（・CL　・UC　・WP　）
鉄鋼面	表18.2.2	・A種	※ 製作工場塗装
		・B種	※ 製作工場塗装 ・2-FUE・2-ASE・DP
		※C種	⊙ SOP（適用範囲は図示）
亜鉛めっき鋼面	表18.2.3	・A種	※ 製作工場塗装 ・2-ASE⊙2-FUE・DP　・
		・B種	※ 鋼製建具面（・SOP　⊙ファインFR工法IN同等）
モルタル及びせっこうプラスター面	表18.2.4	・A種	・
		※B種	・EP-G ⊙EP　・NAD　・
コンクリート面	表18.2.5	・A種	⊙ DP
		※B種	・EP-G ・EP　・NAD　・
	表18.2.6	・A種	⊙ DP　・2-ASE・
		・B種	・FUC　・ASC
ALCパネル	表18.2.5	・A種	・
		※B種	・NAD
押出成形セメント板	表18.2.6（7節）	・A種	・DP　⊙ファインFR工法EX(フッ素)同等
		・B種	・EP-G ・EP　・NAD　・
せっこうボード その他ボード面	表18.2.7	・A種	※ 継目処理工法　（・EP-G・EP・　）
		・B種	※ その他の目地処理（・EP-G・EP・　）

4．錆止め塗料塗り　塗料種別　鉄鋼面　EP－Gの場合　・A種　※B種　(18.3.2(1))(表18.3.1)
亜鉛めっき鋼面　※A種　・B種　(18.3.2(2))(表18.3.2)
EP－Gの場合　※C種
屋外及び装着室は、20.重防食塗装を適用すること。
種別　(18.3.2)(18.3.3)(表18.3.1)(表18.3.2)(表18.3.3)(表18.3.4)

下地面等			錆止め塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	SOP	A種	※A種　・B種
		DP	1回目　C種 2、3回目　D種	標準仕様書 表18.3.4
		EP-G	※B種　・A種	※A種　・B種
	見え隠れ部分	SOP	A種	※B種　・A種
		DP	1回目　C種 2、3回目　D種	標準仕様書 表18.3.4
		EP-G	※B種　・A種	※B種　・A種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	SOP	※A種　・B種	※A種　・B種
		DP	B種	標準仕様書 表18.3.6
		EP-G	C種	※A種　・B種
	鋼製建具以外	SOP	※B種　・A種	※B種　・A種
		DP	B種	標準仕様書 表18.3.6
		EP-G	C種	※B種　・A種

鉄骨工事における鉄鋼面錆止め塗料塗りは、建築工事特記仕様書(11)＜構造関係(2)＞の7章 鉄骨工事による。

5．合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）　木部合成樹脂調合ペイント塗り　屋外※A種　・B種　(18.4.2)(表18.4.1)
屋内・A種　※B種
鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り　・A種　※B種　(18.4.3)(表18.4.2)

6．クリヤラッカー塗り（CL）　種別　・A種(表.18.5.1の工程2の塗料の種類(　　))　(18.5.2)(表18.5.1)
※B種

7．アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）　種別　・A種　※B種　(18.6.2)(表18.6.1)

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事
図面名	建築工事特記仕様書（6）
縮　尺	－
図面番号	271
下関市ボートレース企業局	

⑧．耐候性塗料塗り（DP）

上塗り塗料の等級 (18.7.2)(18.7.3)(表18.7.1)(表18.7.2)
鉄鋼面 ⊙1級 ・2級 ・3級
亜鉛めっき鋼面 ⊙1級 ・2級 ・3級
コンクリート面及び押出し成型セメント板面 (18.7.4)(表18.7.3)
種別 ⊙A種 ・B種 ・C種

9．アクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）

塗料種別 ・一般形 ・低汚染形 (補18.10.5)
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格 ※補18.10.5(b)
※上塗り塗料製造所の指定品 ・ (補表18.10.6)

10．常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り（2-FUE）

塗料種別 ・一般形 ※低汚染形 (補18.11.4)
種別 金属系素地 ※補18.11.4(b)

11．つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）

種別 コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面鉄鋼面 (18.8.2)(表18.8.1)
・A種 ※B種

12．合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）

種別 コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面鉄鋼面 (18.9.2)(表18.9.1)
・A種 ※B種

13．ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）

種別 一般床 ・A種 ※B種
工程1の着色 ・適用する ・適用しない
体育館弾性床 ・補19.12.4(e)による (18.10.2)(表18.10.1)

14．ステイン塗り

ピグメントステイン塗り (18.11.2)
・オイルステイン塗り（OS） 仕様(・図示 ・)

15．木材保護塗料塗り（WP）

種別 ・A種 ※B種 (18.12.2)(表18.12.1)

16．アクリルシリコン樹脂クリヤ塗り（ASC）

塗料種別 ・一般形 ・低汚染形 (補18.10.6)
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格 (補18.10.6(b))(補表18.10.7)
※上塗り塗料製造所の指定品 ・

17．常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り（FUC）

塗料種別 ・一般形 ・低汚染形 (補18.11.5)
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格 (補18.11.5(b))
※上塗り塗料製造所の指定品 ・

18．防塵用塗料塗り

材料 水性アクリル系樹脂系塗料（※標準色 ）・
仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量 主剤２回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡以上とする。

19．性能試験

・塗り厚試験 試験を行う箇所 ・ (補1.8.1(c)(9))
試験を行う箇所 ・

19章 内装工事

①．防火材料

屋内の壁及び天井の仕上げ材は、特記により防火材料の指定がある場合は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。
・

②．健康障害への対策

※低ホルムアルデヒド等の材料及び工法
内装工事に使用する下地材及び仕上材は、その材料の製造工程及び施工工程において、品質・性能上等で支障なき場合、当該特記仕様書に特記された事項以外でも、ホルムアルデヒド等の揮発性有機化合物（VOC）を放散しないもの、又は極力低濃度の材料及び工法とすること。又、接着剤の使用に際しては、固有の使用規定に基づいてオープンタイム（乾燥期間）を確保できる工程管理を実施する。
壁紙、ビニル床シート、ビニル床タイル及びそれらの貼り付けに使用する接着剤等の製品中の可塑剤は、分子量300g/mol以上の難揮発性可塑剤とする。
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量F☆☆☆☆
使用する建材が含有する成分量の確認のため、施工に先立ちメーカーの規格証明書、試験結果等を監理者に提出する。
※施工中の室内換気
内装仕上げを行った室内は、常に換気に注意し、仕上げ材等から初期に放散されるホルムアルデヒド、その他の揮発性物質を、室内に滞留させないようにする。
※揮発性有機化合物の室内濃度の測定 (1.5.9(a))
図示した室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
測定法
パッシブ型採取機器を用い、下記の要領で測定する。

1．対象室の全ての窓を開放し、３０分間換気する。作り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を開放。
2．対象室の全ての窓を５時間閉鎖。作り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放のまま。
５時間後にパッシブ型採取機器を設置。
3．測定時間は２４時間。（工程等の都合で２４時間測定が行えない時は８時間）
８時間測定の場合は午後２時から３時が測定時間の中央となるよう、１０時３０分から１時３０分までの時間帯で測定。
測定終了後、パッシブ型採取機器を回収。
4．測定回数は１回。
＊ １．の３０分換気開始から測定終了の間は、換気設備機、空気調和施設を稼動させたままとする。
5．測定対象化合物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。
6．測定結果が厚生労働省の基準を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度上記測定要領により測定を行う。
測定箇所数
測定箇所数は、次による。また、全ての測定箇所において、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度測定を行う。

(1.5.9(2))

室の面積(㎥)	A≦50	50＜A≦200	200＜A≦500	500＜A
測定個所数	1	2	3	4
測定箇室	105 箇室	21 箇室	1 箇室	1 箇室

報告書の様式等については、監理者の指示による。

③．ビニル床シート張り

材料 (19.2.2(1))(19.2.3(2))(補19.2.1(a))

種類		記号	色柄	厚さmm	熱溶接工法	備考（製品名等）
・発泡層なし	複層	※FS	⊙無地 ・柄物	※2.0,3.0	※有 ・無	PW,PF,PG(ｻﾝﾀﾞｰﾝ)
	単層	・TS			※有 ・無	
・発泡層有り	発泡複層	・HS	・無地 ・柄物	・	※有 ・無	図示
	ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ	・KS			※有 ・無	

・施工用接着剤（19章3～7 項に共通 ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・ ） (19.2.2(6))

④．ビニル床タイル張り

材料 (19.2.2(2))(19.2.3(3))(補19.2.1(b))

種類	記号	色柄	寸法	厚さmm	備考（製品名等）
※コンポジションビニル床タイル	KT			※2.0・	図示
・ホモジニアス単層ビニル床タイル	TT			・	
・ホモジニアス複層ビニル床タイル	FT	石目・木目	457㎜,152×914	※2.5	IS,WD(ｻﾝﾀﾞｰﾝ)
・置敷きビニル床タイル	FOA	石目・木目	500㎜,333×500,250×1000	※5.0	OT(ｻﾝﾀﾞｰﾝ)
・薄型置敷きビニル床タイル	FOB			・	
				・	

ホモジニアスビニル床タイルの目地棒工法 ・あり ・なし

5．特殊機能床材

・帯電防止床シート 種類 ・ (19.2.2(3)(7))
性能 ・
厚さ mm ・
・帯電防止床タイル 種類 ・ (19.2.2(3)(ｲ))
性能 ・
厚さ mm ・
・視覚障害者用床タイル 種類 ・ (19.2.2(3)(ｳ))
形状 ・
・耐動荷重性床シート 種類 ・ (19.2.2(3)(ｴ))
厚さ mm ・
・防滑性床シート 種類 ・ (19.2.2(3)(ｵ))
厚さ mm ・
・防滑性床タイル 種類 ・ (19.2.2(3)(ｶ))
厚さ mm ・
・その他の床材

6．ビニル幅木

材料 (19.2.2(4))

種類	高さ mm	厚さ mm	備考（製品名等）
⊙軟質ビニル	※60 ・75 ⊙100	※1.5 ・2 ・	
・硬質ビニル	・60 ・75 ・	・1.5 ・2 ・	

7．ゴム床タイル

材料 (19.2.2(5))

種類	色柄	種類	厚さmm	寸法	備考（製造所・製品名等）
・天然ゴム					
・合成ゴム					

9．接着剤

接着剤のホルムアルデヒド放散量による区分 ※F☆☆☆☆ ・ (19.2.2(6))
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外 ・ (19.2.3(1)(ｴ))

9．カーペット敷き

・織じゅうたん（JIS L 4404） (19.3.2(1)(7)(ｲ))(19.3.3)(表19.3.1)

織り方の種別	パイル形状	品質種別・パイル長mm	色柄	備考
・ウィルトンカーペット	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・アキストミンスター	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・緞通	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・				
・				

織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・手縫いでつづり縫い

・タフテッドカーペット（JIS L 4405） 19.3.2(2))(19.3.3(4)(7))(表19.3.2)

パイル形状	パイル長mm	色柄	工法	備考
・カット ・ループ ・	・	・標準品 ・特注品	・グリッパー工法 ・全面接着工法	
・				
・				

・タイルカーペット（JIS L 4406） (19.3.2(3))(19.3.3(4)(ｲ))(表19.3.2)

パイル形状	品質種別	寸法mm	縦 厚	色柄	電気抵抗値Ω	敷き方	備考
※ループ ・カット ・	※一種 ・二種	※500角	※6.5 ・	・標準品 ・特注品	※適用しない ・10⁸Ω以下	・市松(※平場・) ・模様流し(※階段・)	
・							
・							

・その他のカーペット

織り方の種別	パイル形状	パイル長mm	色柄	工法	備考
・					
・					

・帯電性 (19.3.2.(1)(ｳ))

カーペットの種別	帯電性（人体帯電圧）	備考
・ウィルトンカーペット	※3kv以下 ・	
・タフテッドカーペット	※3kv以下 ・	
⊙タイルカーペット	⊙2kv以下 ・1kv以下 ・0.5kv以下	
・		

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・
・下敷き材 ※反毛フェルト第2種1号 厚さ8mm (19.3.2(4))
・黄麻フェルト厚さ8mm
・取付け用付属品 見切、押え金物 材質・ 種類・ 形状・ (19.3.2(5))

⑪．合成樹脂塗床

材料及び工法 (19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1)～(表19.4.8)

種類	仕上げの種類	備考（施工箇所）
⊙厚膜型塗床材（弾性ウレタン樹脂系塗床材）	※平滑仕上げ	
	⊙防滑仕上げ	塗床(1)
	・つや消し仕上げ	
⊙厚膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）	・薄膜流しのべ仕上げ(※平滑 ・防滑)	
	⊙厚膜流しのべ仕上げ(※平滑 ⊙防滑)	塗床(2)
	・樹脂モルタル仕上げ(※平滑 ・防滑)	
・薄膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）	※平滑仕上げ	

弾性ウレタン樹脂系塗床材、エポキシ樹脂系塗床材及び薄膜型塗床材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆

⑫．フローリング張り

材料及び工法 ・下表 ⊙図示 (19.5.2)～(19.5.6)(表19.5.1)～(表19.5.6)

工法	・単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ	樹種	備考
・根太張り工法（釘留め工法）	・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ 根太張用	・A種 ・B種 ・C種(・一般・防湿)		・ ・なら	
・直張り工法（釘留め工法）	・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ 直張用	・A種 ・B種 ・C種		・ ・なら	
・接着工法	・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ 直張用	・A種 ・B種 ・C種	厚さ・ 幅 ・ 長さ・	・なら ・	

フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※19.5.2 ・ (19.5.2(2))
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (19.5.5)
※接着剤等不使用、ホルムアルデヒドを拡散しない塗料等使用（単層フローリングに限る）
※非ホルムアルデヒド系接着剤使用又は非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを拡散しない塗料等使用
・接着工法の裏面不陸緩和材 ※合成樹脂発砲シート ・ (19.5.5(7)(e))
裏面緩衝材付きフローリングの遮音性能
軽量衝撃音 ・L-45 ・L-50 ・L-55

⑫．畳敷き

種別 (19.6.1)(19.6.2)(表12.5.1)(表12.6.1)(補19.10.1)(補19.11又は19.12)

適用箇所	種別
⊙表12.6.1による床組又は住宅用乾式遮音二重床下地	・A種 ※B種 ・C種 ・D種
・ポリスチレンフォーム床下地	※C種 ・D種

D種における畳床 ・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N
畳床（組わら畳床、縫わらサンドイッチ畳床）の防虫処理
※誘電加熱処理（防虫処理後の畳床の含水率は15%以下とする。）
・防虫加工紙の適用（※ピレスロイド系薬剤使用のもの）
建材畳床 ※普通合板（※F☆☆☆☆ ） ・
・衝撃緩和型畳の畳表 ・C1 ・C2 (19.6.2(2)(7))

⑬．せっこうボード その他ボード及び合板張り

材料 (19.7.2)(表19.7.1)

規格名称	種類	厚さmm等
木質系セメント板	・硬質木毛セメント板	・15 ・20 ・25 ・
	・中質木毛セメント板	・15 ・20 ・25 ・
	・普通木毛セメント板	・15 ・20 ・25 ・
	・硬質木片セメント板	・12 ・15 ・18 ・21 ・
	・普通木片セメント板	・30 ・
繊維強化セメント板	⊙けい酸カルシウム板	タイプ2（無石綿）・6 ⊙8
	・火山性ガラス質複層版	・ ・
火山性ガラス質複層版（VSボード）	・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）	・3 ・7 ・9 ・12
繊維板	・ハードボード（素地）	・無研磨板 (・スタンダード ・テンパード) ・研磨板 (・スタンダード ・テンパード) ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
	・ハードボード（素地）	・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
	・インシュレーションボード	・A級 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18
パーティクルボード	・単板張りパーティクルボード	・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・
	・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ ・プラスチックオーバーレイ ・塗装 ・10 ・12
吸音材料	⊙ロックウール化粧吸音板	・フラットタイプ (・9（不燃） ・12（不燃）・) ⊙凹凸タイプ (・9（不燃） ⊙12（不燃）・)
	・ロックウール吸音ボード1号	・25 ・
	・グラスウール吸音ボード32K	・25（ガラスクロス包）
せっこうボード製品	・せっこうボード	・12.5（不燃）・15（不燃）・
	・不燃積層せっこうボード	・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様） ・9.5（不燃）・
	⊙シージングせっこうボード	⊙12.5（不燃）・
	⊙強化せっこうボード	⊙12.5（不燃）⊙15（不燃）
	・せっこうラスボード	・9.5 ・
	・化粧せっこうボード（木目）	模様（・延目 ・板目） 専用下地材有り ・12.5（不燃）幅440mm程度
	⊙化粧せっこうボード（トラバーチン模様）	⊙9.5（準不燃）

◎パーティクルボード、MDF、ハードボード、インシュレーションボードのホルムアルデヒドの放散量 パーティクルボード及びMDF ※F☆☆☆☆ ・
合板 ※F☆☆☆☆ ・
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・
ボード表面への化粧張り仕上の有無 ⊙有り（種類; ）(19.7.2(1))(表19.7.1)

⑭．吸音材・遮音材

吸音材料 (19.7.2)(表19.7.1)

種類		密度	厚さmm	施工箇所
・ロックウール吸音材 JIS A 6301	・ボード (RW-B)	・1号	・	
	・フェルト (RW-F)	・ —	・	
	・ブランケット(RW-BL)	・1号	・	
⊙グラスウール吸音材 JIS A 6301	⊙ボード (GW-B)	⊙2号32K	⊙50	図示
	・フェルト (GW-F)	・2号16K	・	
・				

ガラスクロス包みの適用 ⊙あり ・なし

遮音材料

種類			厚さmm	施工箇所
・鉛遮音板	・遮音用鉛板		・	
	・鉛複合板	・鉛板＋せっこうボード	・ ＋	
		・鉛板＋合板	・ ＋	
・				

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※アクリル系シーリング材 (19.7.2(8))
・ジョイントコンパウンド

15．合板

天井及び壁に使用する合板のホルムアルデヒド放散量※(19.7.2(2)) ・ (19.7.2(2))
天井及び壁に使用する合板 (19.7.2(2))

区分	厚さmm	接着の程度	防虫処理	難燃処理	防炎処理
・普通合板	・	・1類(水掛り) ・2類	・	・	・
・天然木化粧合板	・	・1類(水掛り) ・2類	・	・	・
・特殊加工化粧合板	・	・1類(水掛り) ・2類	・	・	・

・普通合板の表板の樹種 ・ラワン程度 ・しな程度(不透明仕上) (19.7.2(2)(7))
・普通合板の板面の品質 ・ (19.7.2(2)(7))
・天然木化粧合板の化粧板の樹種・ (19.7.2(2)(4))
・特殊加工化粧合板の化粧加工 ・オーバーレイ ・プリント ・塗装 (19.7.2(2)(5))
・特殊加工化粧合板の表面性能 ・ (19.7.2(2)(9))

⑯．ボード類の工法

合板類の張付け工法 (19.7.3(4)(7))(表19.7.3)

張付け種類	合板類の種類	適用箇所
・A種		
⊙B種		

せっこうボードの目地工法 (19.7.3(6))(表19.7.5)

目地処理の種類	せっこうボードのエッジの種類	適用箇所
⊙継目処理工法	テーパーエッジ,ベベルエッジ	居室、廊下等
⊙突付け工法	ベベルエッジ,スクエアエッジ	倉庫等
⊙目透かし工法		図示

⑰．壁紙張り

材料 ・下表 ⊙図示 (19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類 紙	織物	ビニル	化学繊維	無機質	防火性能の認定区分	品質等
図示	・	・	⊙	・	・	⊙不燃 ・準不燃 ・難燃	AA
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	

※壁紙は、ISM機構の品質保証のある製品（当該規定類が適用される範囲の製品）とする。

素地ごしらえ モルタル面、せっこうプラスター面 ・A種 ※B種 (19.8.3(1))(表18.2.4)
コンクリート面 ・A種 ※B種 (19.8.3(2))(表18.2.4)
せっこうボード面、その他ボード面 ・A種 ※B種 (19.8.3(3))(表18.2.7)

壁紙及び施工用接着剤 ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ (19.8.2(1))

⑱．断熱材・防露材

材料 (19.9.3)(19.9.4)

種類	厚さmm	品質等	施工箇所
板状発泡プラスチック断熱材 JIS A 9521			
⊙押出法ポリスチレンフォーム断熱材	※2種b	※25 特定フロンを使用しないもの ※A種1	⊙一般部 ・
	※3種b (ｽｷﾝ層付)	※25 ・	・土層接地スラブ下面 ・
⊙硬質ウレタンフォーム断熱材	・ ・	⊙25 ・ ⊙ノンフロン ・※難燃性を有するもの	⊙一般部 ・
・ポリエチレンフォーム断熱材	・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・
・フェノールフォーム断熱材	・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・
現場発泡断熱材 JIS A 9526			
吹付硬質ウレタンフォーム断熱材（現場発泡断熱材） ・A種1 ・A種1H	・ ・ ・	※ノンフロン ※難燃性を有するもの ・ 製造所：監理者の承認する製造所	※断熱材補修部分 ・一般部 ・
・木繊セメント板(ストロングボード) ・ゼオライト混入木繊セメント板 ・	・50 ・	・熱伝導率0.058W/(m･k) ・ 製造所：日本モクセン板協会加入の製造所	・土層接地スラブ下面 ・
人造鉱物繊維断熱材 JIS A 9521			
・ロックウール（RW） ・グラスウール（GW-2）	・ ・	熱伝導率 ・ W/(m・k)以下	・

開口部等補修のための張付け用接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆
フェノールフォーム断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・

⑲．浴室天井材

種別（市販品）

材質	表面仕上げ	性能	幅 mm	備考
⊙アルミニウム製	・焼付け塗装品 ⊙アルマイト処理品	準不燃品	・200 ⊙100	回り縁は縁付とし、製造所の標準品とする。
・硬質塩ビ製	・塗装品 ・木目調		・300 ・100	

20．ポリスチレンフォーム床下地材

(補19.10.3)

種別	厚さ mm	施工箇所
・畳下パネル	※40 ・65 ・80	
・フローリング類下パネル（桟付）	※80 ・95	

21．住宅用乾式遮音二重床下地材

種別 (補19.11.2)

種別	床高 mm	ベースパネルの厚さ	捨板合板の有無	施工箇所
・A種		※25 ・20	・有 ・無	
・B種(水廻り)		※25 ・20	・有 ・無	

ベースパネルのパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 (補19.11.3)
・Mタイプ（※F☆☆☆☆） ・Pタイプ（※F☆☆☆☆）
捨板合板のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (補19.11.3)

②2．弾性床

・塗り床 (補19.12.2)

種類	厚さ mm	施工箇所
・ゴムチップ弾力層＋ネオプレン保護層塗り床	・13 ・15 ・18	
・ゴムチップ弾力層＋ウレタン仕上層塗り床	・15 ・18	
・ウレタン厚塗り床	・5 ・8 ・10	

工法 ・コンクリート直塗り
⊙鋼製床下地合板二重張り床
合板 厚さ mm（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆）

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記仕様書（7）		
縮尺	－	図面番号	272
下関市ポートレース企業局			

⊙張り床 (補19.12.3)

種　類	厚さ　mm	施工箇所
⊙ビニル床シート（・発泡　・非発泡）	・5.5　・6.2　・9.2	
・合成ゴム系シート	・5　・	
・	・	

工法　・コンクリート直塗り
・鋼製床下地合板二重張り床
合板　厚さ　　mm（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆）

・木造床 (補19.12.4)

種　類		厚さ　mm	施工箇所
・フローリングボード		・15　・18	
・複合フローリングボード	・ボード形式	・15　・18	
	・大型積層形式	・18　・27　・30	
・集成フローリング		・18・21・24・30	
・		・	

複合フローリングボードのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆

樹種　フローリングボード又は　※カバ　・アサダ　・イタヤ　・ブナ　・ナラ
複合フローリングボード　・
集成フローリング　・さくら　・なら　・ひのき　・すぎ　・

工法　※接着剤併用隠し釘打ち脳天ビス留め　（・二重張り　・直張り）
・接着剤併用隠し釘打ち　（・二重張り　・直張り）

二重張り工法の下張り材
合板　厚さ　　mm（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆）

塗装　※ポリウレタン樹脂（・２液反応型　・湿気硬化型　・油変性型）
・酸硬化アミノアルキッド樹脂　・水性ウレタン樹脂

・鋼製床下地（JIS A 6519） (補19.12.5)
構成区分　・組床式（F）　・置床式（S）
使用区分　・一般体育館用（G）　・柔道場用（R）
・剣道場用（K）　・柔剣道場用（R･K）

床上換気口　材種　・アルミニウム製　・SUS製　・鋼製
形状　・パンチングタイプ　・開閉式パンチングタイプ
寸法　・グレーチングタイプ
・図示

㉓．遮音性能

⊙室間音圧レベル差、内外音圧レベル差

遮音等級	適用箇所	遮音等級	適用箇所
D-50	プロペラ修正室	D-	
D-		D-	

⊙床衝撃音レベル

遮音等級		適用箇所
軽量衝撃音 L-	重量衝撃音 L-	
軽量衝撃音 L-	重量衝撃音 L-	
軽量衝撃音 L-	重量衝撃音 L-	

・室内騒音レベル

騒音等級	適用箇所	騒音等級	適用箇所
N-		N-	
N-		N-	

㉔．性能試験 (補1.8.1(c)(10))

試験項目		試験箇所
⊙外周壁遮音測定		プロペラ修正室及び隣接する諸室
⊙室間遮音測定		プロペラ修正室及び隣接する諸室
⊙床衝撃音測定		プロペラ修正室及び隣接する諸室
室内音響測定	・騒音レベル	
	・残響測定	
	・明瞭度測定	
・給排水音測定		

２０章　ユニット及びその他の工事

①．ユニット工事に使用する材料等

ユニット工事に使用する集成材又は単板積層材は(12.2.2)に準拠する。
ユニット工事に使用する材料等の健康障害への対策については本特記仕様書19章2

②．フリーアクセスフロア

材料及び工法 (20.2.2)

	性能項目		⊙フリーアクセスフロア
床パネル	所定荷重		⊙3000N/㎡ ・4000N/㎡ ・5000N/㎡ ・　N/㎡
	主材料		・アルミニウム合金ダイカスト⊙鋼製（無機質材充填） ・合成樹脂
	規格寸法（縦×横×厚　）		※500x500　・
	表面仕上げ材料		・帯電防止ビニルタイル(厚　mm)・ ⊙タイルカーペット(厚6.5mm) ・メラミン化粧板 ・
	帯電防止性能		⊙U≧0.6　・ （一般事務室等） ・U≧1.2 （電子計算機室等）
	漏えい抵抗		※抵抗値　・ R≧1.0×10⁶Ω
	備　考		
支持脚	床パネル支持型式		⊙支持脚分離型　・ ・支持脚一体型（置敷型） ・配線、床機能分離型
	床高（mm）		⊙100
	耐震性能	耐震強度	※地震時水平力⊙1.00　・0.66 ・
		耐震工法	・パネル押え ・大型支持脚 ・支持脚横つなぎ ・斜材補強
	備　考		

③．可動間仕切

⊙耐荷重性能　※20.2.2(2)(イ)(a)　・　(20.2.2(2)(ア))
⊙耐衝撃性能　※20.2.2(2)(イ)(b)　・
⊙ローリングロード性能　※20.2.2(2)(イ)(c)　・
⊙耐燃焼性能　※20.2.2(2)(イ)(d)　・
⊙寸法精度　※20.2.2(2)(オ)　・　(20.2.2(2)(オ))
⊙ウイスカ対策　・ウイスカ対策品　・

スロープ及びポーダー　※製造所の標準仕様　・図示
コンセント等の取付け対応　※製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数　※図示　・　箇所/㎡
配線用取出し用開口　※対応品又は工場加工品（施工箇所は図示）・図示
空調用吹出しパネル　※なし
・あり（※固定式　・可変式　：施工箇所は図示）
製造所　・　（製品名：　）
下地面の防塵処理　⊙行う（材料　アクリル樹脂系防塵塗装　）
・行わない

形式　※パネル式　・スタッド式　・スタンド式
品質・性能 (20.2.3)

性能による区分	厚さmm	表面材	表面仕上げ	施工箇所
⊙遮音タイプ（遮音性能・　）		※鋼板・	・焼付け塗装　・壁紙張り・	
・吸音タイプ		※鋼板・	・焼付け塗装　・壁紙張り・	
⊙不燃タイプ		※鋼板・	⊙焼付け塗装　・壁紙張り・	

表面仕上げの壁紙張りの品質　・
製造所　・　（製品名：　）
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆
パネル内に取り付ける建具　寸法　・
形状　・

④．移動間仕切

開閉形式　⊙引き戸式（スライディング）・折れ戸式（フォールディング）
・伸縮式（アコーディオン）
品質・性能 (20.2.4)

性能による区分	厚さ	表面材	表面仕上げ	施工箇所
・一般タイプ		※鋼板・	・焼付け塗装　・壁紙張り・	
⊙遮音タイプ（遮音性能・　）		※鋼板・	⊙焼付け塗装　・壁紙張り・	施工箇所すべて

表面仕上げの壁紙張りの品質
パネル圧接装置の操作方法　⊙ギアハンドル式　(20.2.4(3)(ア))
ハンガーレール取付け下地補強　※ランナーに加わる重量の５倍以上の荷重に耐えられるもの　・　(20.2.4(3)(ウ))
パネルをランナーに取り付ける部品　※ランナーに加わる重量の５倍以上の荷重に耐えられるもの　・　(20.2.4(3)(エ))
ハンガーレール※ランナーを取り付けた状態でパネル重量の５倍の荷重をパネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して支障なし　(20.2.4(3)(オ))
・
ランナー　※パネル重量の５倍の荷重をパネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して耐力及び変形量が使用上支障のないもの　(20.2.4(3)(カ))
・
ハンガーレール取付け下地の防振・防音　※行う　方法　※図示　・防振ゴム
・行わない
あと施工アンカー　材質　※図示　(20.2.4(4)(イ))
寸法　※図示
製造所　・　（製品名：　）

⑤．トイレブース

表面仕上げ材　⊙メラミン樹脂系化粧板　・ポリエステル樹脂系化粧板 (20.2.5(2)(ア))
ブースパネル形状　※図示
足形状　※幅木型　・足金物型
ドアエッジの材質　・標準色アルミ製コーナー　※焼付塗装アルミ製コーナー
・製造所の仕様
工法　※製造所の仕様
製造所　⊙アイカ工業　（製品名：メラフロント同等　）
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(20.2.5(2)(イ))

⑥．洗面カウンター

表面仕上げ材　⊙メラミン樹脂板ポストフォーム　・人造大理石（品質　※図示　）
形状・寸法　※図示　・
製造所　⊙アイカ工業　（製品名：AICA SU-KIT同等　）

⑦．手すり

材料の種別　※図示　・鉄鋼　⊙SUS304　・アルミニウム　(20.2.6)

⑧．階段滑り止め

⊙階段滑り止め　材種　※SUS304　・硬質アルミニウム　・磁器製　(20.2.7(1))
形状　※ピニルタイヤ入り　・図示
両端フラットエンド　・なし⊙あり（※ピニル製⊙SUS304）
幅　※35　mm　・　mm
工法　※接着工法　・埋込工法　(20.2.7(2))

⑨．床目地棒
コーナーピート
その他

⊙床目地棒　材種　※SUS304　・塩化ビニル　・　(20.2.8)
寸法　※6x12　・
⊙コーナーピート　材種　※SUS304　・塩化ビニル
高さ　※天井まで　・床から　まで　・
⊙コーナーガード　壁（柱）⊙図示
床　・
⊙天井回り縁　材　種　⊙アルミニウム　⊙塩ビ　・
形状寸法　※図示　・
⊙ピクチャーレール　材　種　・アルミニウム　⊙SUS304
形状寸法　※図示　・

⑩．黒板及びホワイトボード

・黒板　区分　※焼付け　(20.2.9(1))
種類　・鋼製黒板　・ほうろう黒板
形状　・平面　・曲面　・上げ下げ　・内部映写スクリーン内蔵型
枠等　※アルミニウム製枠（チョーク溝、チョーク入れ、チョーク納入れ付）
⊙ホワイトボード　枠等　・アルミニウム製枠（マーキングペン受け付）　(20.2.9(2))
・
⊙掲示板　材種　・　形状　・
枠　・　色彩　・

⑪．鏡

⑫．表示

⊙鏡　縁　※なし（防湿性）・あり　(20.2.10)
形状寸法　※図示　・
厚　さ　※5　mm　・　mm

⊙衝突防止表示　形状、寸法、材質　※図示　(20.2.11(1))
・市販品（※SUS304　径約30）
・非常用進入口表示　形状等　※消防法適合の市販品　・　(20.2.11(2))
取付箇所　※図示　・　ヶ所
⊙室名札、ピクトグラフ、案内板等　(20.2.11(3))
種別　⊙図示　・下表

名称	材種及び仕上げ	長さ×幅×厚さ	設置箇所	数量	備考
・室名札	・アクリル樹脂板 文字シルク印刷 ・				・受金物（SUS） ・差込み式 （片持出） ・正面付
・室名文字	・ペイント書				
	・アクリル板				・貼付け
	・ステンレス切板 文字鏡面仕上				・貼付け
	・				
・階数表示			・各階踊場 ・		
・銘板	・ステンレス板 腐蝕仕上文字鏡面仕上 ・				
・定礎板	・花こう岩 （　程度） ・			・定礎箱鋼板0.8 内箱は桐製 銘板入り	
・案内板					
・看板					
・屋外案内板					
・屋外掲示板					
・ ・					

注）上記に使用される文字は何れも指定書体とする。
・免震建築物であることの表示「平成12年建設省告示第2009号第4の五」
形状、寸法、材質　※図示　・
・免震エキスパンションジョイント注意喚起表示
形状、寸法、材質　※図示　・

⑬．タラップ

材料の種別・表面処理　※SUS304(※HL　・　)　(20.2.12)
・鉄鋼　(※C種・　)

⑭．煙突ライニング

⊙煙突用成形ライニング材　形状、寸法　※図示　・　(20.2.13(1)(ア))
材質　⊙ソノライト系けい酸カルシウムライニング材
・
適用安全使用温度　⊙ガス焚き乾燥機　設定温度以下
製造所　⊙フジモリ産業　（製品名：ハイスタック同等品以上　）
・キャスタブル耐火材　(20.2.13(1)(イ))
製造所　・　（製品名：　）
工法　・　(20.2.13(2))

⑮．ブラインド

・ブラインド (20.2.14)

形式	材料（スラット）	開閉方式	スラット幅	適用箇所
※横形	※アルミニウム合金 ・硬質塩化ビニル	※ギヤ式　・操作棒式 ・コード式　・電動式	・15　・25 ・35　・	
・縦形	・アルミ（焼付塗装） ・ガラス繊維 ・クロス（化繊、麻）	※2本操作コード式 ・操作棒式 ・電動式	・100　・80 ・	
・ロールブラインド	・ガラス繊維 ・クロス（化繊、麻）	・手動式 ・電動式		
・特殊タイプ				

・ヘッドボックス　材　種　※鋼製　⊙アルミニウム（押出し型材）・
内法寸法　深さ　・　mm　幅　・　mm
仕上げ　・
・ボトムレール　材　種　※鋼製　⊙アルミニウム（押出し型材）・
・ヘッドレール　材　種　※アルミニウム合金製

⑯．ロールスクリーン

⊙ロールスクリーン (20.2.15)

形式	材種・品質	開閉方式	幅及び高さ	適用箇所
⊙ロールスクリーン	⊙ガラス繊維 ・クロス（化繊、麻）	⊙手動式 ・電動式	・幅　mm 高さ　mm	図示

巻き取りパイプ、ウェイトバー操作コードその他材料　※製造所の仕様・
製造所　⊙サンゲツ　（製品名：　）

⑰．カーテン及びカーテンレール

⊙カーテン (20.2.16(2)(表20.2.1))

施工箇所	形式		装置			生地の品質、種別 柄、色合、組織	ひだの種類
	片引	引分	電動	ひも	手引		
医務室	⊙	・	・	・	⊙		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		

製造所　⊙サンゲツ　（製品名：　）
⊙カーテンレール　強さによる区分　※10-90　(20.2.16(2)(イ))
材種　※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
⊙SUS304
仕上　※アルマイト　・
形状　※角型　⊙C型　・D型
種別　⊙シングル掛け　・ダブル掛け
・レール交差掛け（・シングル　・ダブル）
取付け方法　⊙直付け　・中空吊り下げ
引分け装置　⊙手動　・電動
・暗幕用カーテン　両端及び召合わせの重ねかけ　(20.2.16(3)(ま))
※300以上　・
・カーテンボックス　材　種　・鋼板　・アルミニウム（押出し形材）
⊙図示
内法寸法　深さ　・　mm　幅　・　mm
仕上げ　⊙図示

18．情報障害対応
誘導用材料・装置

誘導用床材・注意喚起床材

材　料		寸法	適用箇所	製造所
・ビニル床タイル	・既製品　・特注品			
・コンクリート平板	・既製品　・特注品			
・金属鋲	・既製品　・特注品			
・				

点字表示

適用箇所	寸法	内　容
・案内板		
・手すり		・階数表示　・上り下り
・室名		
・押しボタン		

その他の誘導装置
誘導鈴　設置場所　・　（製造所：　）
音声ガイド　設置場所　・　（製造所：　）
音声触知案内板　設置場所　・　（製造所：　）

⑲．流し台ユニット

種別　⊙図示　・下表

種　類	寸法L=	材　質	規格・品質等	適用内容
・流し台	・1200	※SUS ・	※優良住宅部品（BL型） ・	※ドラムトラップ付
・コンロ台	・600	※SUS ・		※バックガード付
・吊り戸棚	・1200 ・	※SUS ・		※耐震取っ手付き
・水切り棚	・1200 ・			耐火性 ※有り　・無

製造所　・　（製品名：　）

⑳．浴槽

材　種　・SUS304　・ほうろう　・ガラス繊維強化ポリエステル　・
形　態　・単槽　・ユニット　・ハーフユニット　・
寸　法　・

㉑．ユニットバス

形状、寸法　※図示　・
附属設備　※図示　・
製造所　⊙株式会社　小笠原　（製品名：フリーユニットバス同等品以上）

㉒．ユニットシャワー

形状、寸法　※図示　・
附属設備　※図示　・
製造所　⊙TOTO　（製品名：JSV0812L同等品以上　）

㉓．ユニットトイレ

形状、寸法　※図示　・
附属設備　※図示　・
製造所　⊙TOTO　（製品名：　）

㉔．配管化粧カバー
（配管用ライニング）

天板材種　⊙メラミン樹脂化粧板ポストフォーム　・人造大理石　・ステンレス板　・
立上り仕上⊙メラミン樹脂化粧合板　・耐水合板塗装仕上　・化粧フィルム板　・

㉕．防災器具等

種別

名称	形式・寸法・仕上げ等	設置箇所
・非常用救命袋	・傾斜式　・鉛直式	
・緩降器		
・バルコニー用避難器具	※マンホール組込伸縮式金属避難吊り下げハシゴ ・	
・埋込み消火器ボックス	材種　・鋼板　・SUS304	
・		

注）上記防災器具類は、消防法規定合格品とする。

26．郵便受け

材　種　※SUS304　・
形状、寸法　・　個数　・
製造所　・　（製品名：　）

27．靴拭きマット

材種　マット本体　・SUS304　・硬質アルミ　・ゴム　・合成樹脂　・
受枠　・SUS304　・硬質アルミ　・
寸法　・
排水　・設ける　・設けない

㉘．止水板

材　種　⊙塩化ビニル製　・水膨張ゴム　・　寸法　・　mm
適用箇所　⊙土に接する外壁及びコンクリート打ち継ぎ部

29．換気孔

材種　・図示　・下表

材　種	寸法	適用箇所
・鋼鉄製　錆止め塗装　防虫網付（SUS304）		
・硬質塩化ビニル管　防虫網付		

㉚．家具書架・実験台書架その他什器等

合板、木質系建材等及び塗材を使用して作られたものは、ホルムアルデヒドの放散量を発散しないか、極めて少ないものとする。

㉛．屋内消ふた

種別　⊙図示　・下表

種　類		寸法	形式・品質・仕様	設置箇所
・鎧鋼板				
⊙SUS304				
⊙グレーチング	・鋼板			
	⊙SUS製			
・				

㉜．鋳鉄製マンホール
（屋内）

マンホールふた種別　・図示　・下表

種　類	寸法	安全荷重kN	設置箇所
⊙密閉形　完全防水、防臭形	600φ	⊙15　・	
・簡易密閉形（パッキン式）簡易防水、防臭形		・15　・	
・断熱形　完全防水、防臭形		・15　・	
・			

化粧ふた（充填用）種別　・図示　・下表

種　類	目　地		寸法	安全荷重kN	設置箇所
・一般形	・SUS目地	・L型SUS目地		・15　・	
・二重ふた形	・SUS目地	・L型SUS目地	※600×600	・15　・	

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記仕様書（８）		
縮　尺	－	図面番号	273
下関市ポートレース企業局			

③B．点検口

種別

区分	材　種	形式・仕様	寸法	数　量
天井用	※アルミニウム ・	※額縁タイプ枠　⊙目地タイプ枠	◉600×600 ⊙450×450	・　ヶ所 ⊙図示 ・　ヶ所 ・図示
床　用	※アルミニウム ⊙SUS304	⊙充填用　⊙貼物用　⊙裏面断熱 ⊙鍵付　⊙防水型　⊙防臭型	※600×600 ・	・　ヶ所 ⊙図示
二重 壁用	※GRC ・		※400×400 ・	・　ヶ所 ・図示
壁　用	※図示（建具表）・			

③H．丸環　　材種　※SUS304　　吊下げ強度　・荷重　N

35．簡易ゴンドラ　　固定用受金物　材　種　※SUS304　　形状、寸法　※図示
箇所数　・図示　・　ヶ所
吊下げ用金物　材　種　※SUS304
吊下げ用金物及びゴンドラ（１人用）　　形状、寸法　※図示
設置台数　・　セット
製 造 所　・　（製品名：　）

36．旗竿　　・旗竿　材種　※アルミニウム合金製　・鋼製（仕上げ：　）
形式　※テーパー型　・同一断面型
清車　・内装形　・外装形
高さ　・　m　　数量　・　本
・竿受け金物　材種　※SUS304　・　数量　・　箇所
形式　※着脱式　・固定式

37．特殊内外装材　　材料

材　種	形式、寸法	仕様・品質	適用箇所
・結晶化ガラス			
・大型陶板			
・			
・			
・			

38．トップライト　　形状、仕様　※図示　・
製 造 所　・　（製品名：　）

39．プレキャスト コンクリート（小規模）　　適用部位　・手すり　・段板　・ルーバー・　(20.3.1)
調合　脱型圧縮強度　※12N/ mm² 以上　・　(20.3.3(1))
28日圧縮強度　※30N/ mm² 以上　・
強度上の水セメント比※55 %　以下　・
単位セメント量　※300 kg/m³以上　・
補強鉄線　・JIS G 3532（補強鉄線）　・JIS G 3551（溶接金網）　(20.3.2(3))
※径3.2 mm以上
網目寸法　・
型枠　※鋼製　・木製（　）
取付け方法　※図示　(20.3.4)
・
原寸試作品　・作成する　・作成しない
配筋　※計算書を提出

40．間知石及び コンクリート間知ブロック積み　　間知石　材種　・花崗岩　・凝灰岩　面の寸法　・300×300　mm　(20.4.2(1))
コンクリート間知ブロック　面の寸法　・300×300　mm　(20.4.2(3))
質量区分　・300～350 kg/m²　・350 kg/m² 以上
工法　積み方　※谷積み　・布積み　(20.4.3(3)(7))
目塗り　・行う　・行わない　(20.4.3(3)(9))
伸縮調整目地　材種　・　厚さ　・　mm　(20.4.3(3)(3))

41．敷地境界石標　　石標の種別　・A種（花こう岩類）※B種（コンクリートブロック製）
・真鍮製　・鋲打ち　・

④2．外構フェンス　　高さ　・　m
金網　・ビニル被覆10#56　mm 目　・
控柱　・H=1500以上は控柱付、控柱間隔は柱1本おき　・
種別　・軸部鋼板加工、合成樹脂塗料焼付既製品

43．小規模外構工作物基礎

適用箇所	形状・寸法	設計長期地耐力		路床安定処理方法	コンクリート 設計基準強度
	※図示	※図示 ・30kN/㎡	・50kN/㎡	・転圧 ・添加剤	※21N/mm2 ・18N/mm2(無筋)

添加剤による路床安定処理　材料　・
添加量　・　Kg/m³
厚さ　・　mm

２１章　排 水 工 事

①．材料　　排水管用材料　(21.2.1)(表21.2.1)

材　種	種類・記号		管形状（接合方法）
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種　・　）		B形（ゴム接合）
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP	・VU　・RS-VU	
・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・DV	・VU継手	

形状、呼び径 ※図示

側塊、排水桝及びふた　種類、形状、寸法　※図示　(21.2.1(4)(5))

鋳鉄製マンホールふた　(21.2.1(5))

種　類	適用荷重				形状寸法（ ）	施工箇所
	・T-2用	・T-6用	・T-14用	・T-20用		
・水封形	・	・	・	・	図示	図示
⊙密閉形（ﾃｰﾊﾟｰﾊﾟｯｷﾝ式）	⊙	・	・	⊙		
・簡易密閉形（ﾊﾟｯｷﾝ式）	・	・	・	・		
・中ふた付密閉形	・	・	・	・		
・断熱型	・	・	・	・		

グレーチングふた　(21.2.1(6))

材　質	形　式	用　途	適用荷重	メインバーピッチ	上面形状
・鋼製 ⊙SUS製	※受枠付き ⊙ ボルト固定 ※無し ⊙図示	⊙溝ふた用 ⊙桝ふた用 ・かさ上げ用 ⊙U字溝用	⊙歩行用 ・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ⊙T-20用	※細目 ※普通目 ⊙細目	※凹凸形 ※平形 ・凹凸形

床化粧マンホールふた

種　類	安全荷重 kN
・簡易密閉形（バッキン式）　・密閉形（ボルト・パッキン式）	・50　・15

インターロッキング用化粧マンホールふた

種　類	安全荷重 kN
・簡易密閉形（バッキン式）	・50

現場打ちの場合のコンクリート　(21.2.1(8))
コンクリートの種類　※普通コンクリート　・
設計基準強度　※18N/mm²　・
スランプ　・15cm　・18cm　・
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295　・
凍上抑制層　※砂　（粒度は表21.2.2）　・　(21.2.1(10))(表21.2.2)
砂の粒度試験　・行う　・行わない
埋戻し土　表3.2.1　・A種　※B種　・C種　・D種
・建設汚泥から再生した処理土Ⓖ　(21.2.1(12))

②．施工　　管路敷設の工法　(21.2.2)
※21章2節21.2.2施工による
・上記以外の地盤　※図示
内法が600mmを超え、かつ深さ1.2mを超える排水桝の足掛け金物（現場打ち）　(21.2.2(ｴ)(a))
・SUS　・鋼製　・合成樹脂被膜加工
遠心力鉄筋コンクリート管基床　厚さ・　mm　種類・　(21.2.2(7))
硬質ポリ塩化ビニル管基床　厚さ・　mm　種類・　(21.2.2(8))
継手　※接着剤　・ゴム輪　(21.2.2(8)(ｲ))

③．街きょ、縁石及び側溝　　縁石の形状 ※図示・種類　・寸法　・形状　(21.3.1(1))(表21.3.1)
側溝の形状 ※図示・種類　・寸法　・形状　(21.3.1(1))(表21.3.1)
側溝の蓋

種別	形状・寸法	強度	設置箇所
・縞鋼板			
・PC板			
・グレーチング			
・鋳鉄製			

砂利地業の厚さ　※100mm　・　(21.3.2(1))

２２章　舗 装 工 事

①．路床　　⊙盛土用材料　・A種　⊙B種　・C種　・D種　・建設汚泥から再生した処理土Ⓖ
(22.2.3(1))(表3.2.1)
・凍上抑制層　(22.2.2(1)(ｱ))(22.2.3(2))
材料　※再生クラッシャラン　・クラッシャラン　・切込み砂利　・砂
厚さ　・図示・　mm　(21.2.1(10))
・透水性舗装に用いるフィルター層　(22.2.2(1)(ｴ))
材料　・川砂　・海砂　・良質な山砂　(22.2.3(3))(21.2.1(10))
厚さ　・図示・　mm
・路床安定処理　(22.2.3(3))(表22.2.1)
方法　※添加材料による安定処理　(22.2.2(1)(ｳ))
材料　・普通ポルトランドセメント・高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種
・生石灰（・特号　・1号）　・消石灰（・特号　・1号）
添加量　・　kg/m3
添加量を定めるために用いるCBR　・5以上　・　(22.2.4(7))
厚さ　・300mm　・
②．路盤　　路盤　(22.3.2(1))
厚さ　※図示　・　(22.3.3(1))(表22.3.1)
材料　・クラッシャラン　⊙粒度調整砕石　・再生クラッシャラン Ⓖ
・再生粒度調整砕石　・クラッシャラン鉄鋼スラグ　・粒度調整鉄鋼スラグ
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

③．アスファルト舗装 カラー舗装　　舗装の構成、厚さ、仕上がり　(22.4.2(1))(22.6.2(1))(表22.6.1)

舗装の種類			厚さ	構成
⊙アスファルト舗装			※図示	※図示
・カラー舗装	・加熱系	表層に用いる結合材 ・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物 （顔料添加量　%） ・樹脂系混合物	※図示	※図示
	・常温系	・ニート工法（配合図示） ・ゴムチップ混合物（弾性） ・スラリー混合物 ・塗布工法（配合図示） ・	※図示 ※表22.6.1	※図示 着色部の下部 ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装

カラー舗装用材料　(22.6.3)
着色骨材　・有色骨材（焼成）　・着色骨材（樹脂皮覆）・自然石
カラー舗装厚さの許容差　※22.4.2(3)　・　(22.6.2(2)(ｳ))
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・　(22.4.2(4))
アスファルト　※再生アスファルト　種類　・60～80　・80～100　(22.4.3)
・ストレートアスファルト
再生加熱アスファルト混合物及び加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表22.4.4)

	一般地域	寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（13） ※細粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13F） ※

骨材　※JIS A 5001によるもの　(22.4.3(3)(ｱ))(表22.4.2)
・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材Ⓖ
・再生クラッシャランⓖ
・道路用鉄鋼スラグⓖ
カラー舗装の配合　加熱系混合物の結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料の添加量　・　(22.6.2(2))
常温系工法の配合その他　※図示・　(22.6.2(3))

④．コンクリート舗装　　コンクリート舗装の構成及び厚さ　車道部　※150mm　・　(22.5.2(1))
歩道部　※ 70mm　・
コンクリート舗装に使用するコンクリート　※６章14節による　(22.5.3(1))(表22.5.1)
コンクリートの種類　※普通コンクリート　・

設計基準強度　※表22.5.1　・　(22.5.3(1))
スランプ　※表22.5.1　・
粗骨材の最大寸法　※表22.5.1　・
早強ポルトランドセメントの使用　※使用しない　・使用する　(22.5.3(1))
注入目地材料　※加熱施工式低弾性タイプ　(22.5.3(4))(表22.5.2)
・加熱施工式高弾性タイプ
コンクリート目地　種類及び間隔　※表22.5.3　・　(22.5.4(5))
構造※図22.5.1　・
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じさせない程度　(22.5.2(4))(22.2.(4))

5．透水性アスファルト舗装　　舗装の構成　※図示　・
舗装の厚さ　※図示　・30mm　(22.7.2(1))
舗装の平たん性　※著しい不陸がないもの　・　(22.7.2(2)(ｲ))

6．ブロック系舗装　　・コンクリート平板舗装　(22.8.3(1))(22.8.2(1)(ｱ))

種　類	寸法　mm	厚さ　mm	目地材
※普通平板(N)　・カラー平板(C) ・流出平板(W)　・擬石平板(S)	※300角	※60	⊙砂 ・モルタル

・インターロッキングブロック舗装　(22.8.3(2))

種　類	厚さ　mm		曲げ強度	色彩及び表面加工等
※普通ブロック　(N-　)	車道部	※80　・	※5.0N/mm² ・	※標準品
・透水性ブロック　(P-　)	歩道部	※60　・	※3.0N/mm² ・	・
・植生用ブロック　(G-　)	※80　・100		・	
・視覚障害者誘導用ブロック			・	

製造所・　（製品名：　）

・舗石舗装　(22.8.3(3))

種類	寸法	厚さ　mm	施工方法	規格品
※小舗石（花こう岩） ・	(　)角	※80～100　・ ・	※うろこ張り ・	※2等品

舗石舗装の基層　・アスファルト混合物50mm　・コンクリート版　70mm
コンクリート平板舗装及び舗石舗装のクッション材 ⊙砂 ・空練りモルタル (22.8.2(1)(ｳ))
ブロック系舗装の仕上がり面の平たん性　(22.8.2(2))
⊙歩行に支障となる段差がないこと（舗装材間の段差3mm以内とする。）・

7．砂利敷き　　砂利敷き種別　(22.9.2)(表22.9.1)
通路　※A種　・
建物周囲その他　※B種　・

8．区画線　　材料　⊙路面表示用塗料（トラフィックペイント、JIS K 5665）

種別	・1種（常温）	・2種（加熱）	※3種(溶融)(ビーズ含)
規格	※A(水系)・B(溶剤系)	※A(水系)・B(溶剤系)	※1号　・2号　・3号

色彩　※白色　・黄色
ライン引きの幅　※150mm　・図示
塗布厚さ　※1.0mm　・
本番選手　敬礼時立ち位置表示　⊙図示

9．車止め　　材料　※図示　・
形状　※図示　・
寸法　※図示　・
数量　※図示　・

10．性能試験　　(22.2.5(1)(2)(3)(4))(22.3.5)(22.4.6(1))(22.4.6(3))(22.7.6(3))(表22.4.6)

試験の方法・概要	試験箇所
路床土の支持力比（CBR）試験 ⊙行う（※乱した土　・乱さない土）　・行わない	
路床締固め度の試験　※行う　・行わない	
現場CBR試験　⊙行う　・行わない	
路盤締固め度の試験　※行う	
アスファルト舗装切取り試験　※行う アスファルト混合物の抽出試験 ⊙アスファルト舗装　・行う　※行わない ・透水性舗装　・行う　※行わない	

２３章　植 栽 及 び 屋 上 緑 化 工 事

①．植栽基盤整備　　※行う　・行わない　(23.2.2)(23.2.3)(23.2.4)(表23.2.1)(表23.2.2)

樹高	有効土層の厚さ　cm	工法	整備範囲
・12m以上	※100　・120　・150	※A種	※植込み部分
・7～12m	※80　・100	・B種	・葉張りの範囲
⊙3～7m	※60　・80	・C種	（植高7m以上）
⊙3m以下	※50　・60	・D種	・図示
⊙芝、地被類	※20	※B種・C種・D種	※植栽範囲

注）工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。
雨水排水の工法　※図示　・暗きょ　・開きょ　・排水層　(23.2.2(3))
・縦穴排水

②．材料　　植込み用土　※現場発生土の良質土　(23.2.3(1))
⊙客土　種類　※畑土　・黒土
範囲　※植込み部分　・図示
土壌改良材　適　用　※する　・しない　(23.2.2(5))(23.2.3(2))
種　別　・バーク堆肥Ⓖ　・
・発酵下水汚泥コンポストⓖ
指定量　植栽面積1㎡当り（・　L）
施工範囲　※植込み部分　・図示
特殊基盤整備　・

③．植樹　　樹木の樹種、寸法、株立数及び刈込みものの適用、数量　※図示・　(23.3.2(2))
支柱の形状　※図示　・添え柱形　⊙鳥居形　・八ッ掛け形　(23.3.3(4))
・布掛け形　・ワイヤ掛け形　⊙地下埋設形
材料　・移植丸太(間伐材)Ⓖ・竹　・金属　・ワイヤー（防錆処理品）(23.3.2(3))
※加圧式防腐処理丸太
支柱の耐風強度※風速30m/s程度に充分耐える強度とする。
幹巻き用材料　※幹巻き用テープ　・わら　・こも　(23.3.2(4))
新植樹木の結補償の期間　(23.3.4)
※引渡しの日から1年間　・
移植樹木の枯損処置の期間　(23.3.6)
※引渡しの日から1年間　・

④．芝張り、吹付けは種及び地被類　　・芝の種類　※コウライシバ　・ノシバ　・　(23.4.2(1))
芝張り工法　平地　※目地張り　・　(23.4.3(1))
法面　※べた張り　・
・
客土　※行わない　・行う（※畑土　・黒土）
・吹付けは種　種子の量　※25 g/m²　・　(23.4.2(3))
種子の種類　※洋芝類　・
被覆養生　※行う　・行わない
・地被類　植物の種類・　芽立数・　径・　(23.4.2(4))
株数・　/m²

5．屋上緑化Ⓖ　　屋上等の植栽　(23.5.1)
植栽基盤　・屋上緑化システム　(23.5.2(1))
土壌層の厚さ・　cm　・図示
※防水保護層
・屋上緑化軽量システム
排水層　・軽量骨材（厚さ・　mm）・板状成形品　(23.5.3(1)(ｳ))
土壌層　・人口軽量土　・改良土
植栽工法　※耐風圧性能　(23.5.4)
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
耐風圧対策　・
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数並びに刈込みものの適用、数量
※図示　・
見切り材　※図示　・　(23.5.3(5))
舗装材　※図示　・
排水孔　※図示　・
マルチング材 ※図示　・　(23.5.3(5))
支柱　※図示　・　(23.5.4(5))
自動潅水　・行う（※図示）・行わない　(23.5.4(6))

6．性能試験　　土壌の水素ｲｵﾝ濃度指数(pH)　・行う　・行わない　(23.1.3(1))
電気伝導度(EC)の試験　・行う　・行わない

7．既存樹林調査　　⊙行う（樹勢、根回り）　・行わない

２４章　ゴンドラ設備工事

1．設置目的　　※外壁清掃用，点検及び補修等
・その他の目的（　）

2．種別　　形式　・電動式台車型アーム俯仰型　・電動式台車型アーム固定型
・
走行方式　・軌道式　・片軌道式　・無軌道式

3．仕様　　ゲージ積載荷重　・　N/台
サクションファン　・あり　・なし

4．安全性能　　耐風圧性能
作業時風速　※水平方向16m/s　垂直方向8m/s
・
格納時風速・風圧力　※建築工事特記仕様書（1）の気象条件による。
耐震性能　※水平加速度1.0G（作業時、格納時共）
・
風速計　※設置する

5．材料、仕上げ　　ゴンドラ本体　・鋼板焼付塗装　・
ゲージ　・鋼板焼付塗装　・
レール　※溶接部亜鉛めっきA種　・塗装（　）
※走行部の処理は適切に行う　・下階への騒音対策（　）

6．避雷設備　　避雷設備　・あり　・なし

7．規格基準　　※ゴンドラの構造及び安全装置は以下の法令等に適合すること
「労働安全衛生法・同施工及び規則」
「ｺﾝﾄﾞﾗ安全規則（厚生労働省令を含む）」
「ｺﾝﾄﾞﾗ構造規格（厚生労働省告示）」
「その他の関係法令等」

8．製造の許可及び検査、届出　　※製造所は設計図書に示されたゴンドラの製造及び労働安全法に関し、所轄の都道府県労働安全局長の製造許可・製造検査を受け、検査済証の交付を受ける。
また、労働安全法による設置届けを監理者の指示により行う。

9．承認　　※工事着手前に施工計画書・施行図・製作図を作成し、監理者の承認を得る。

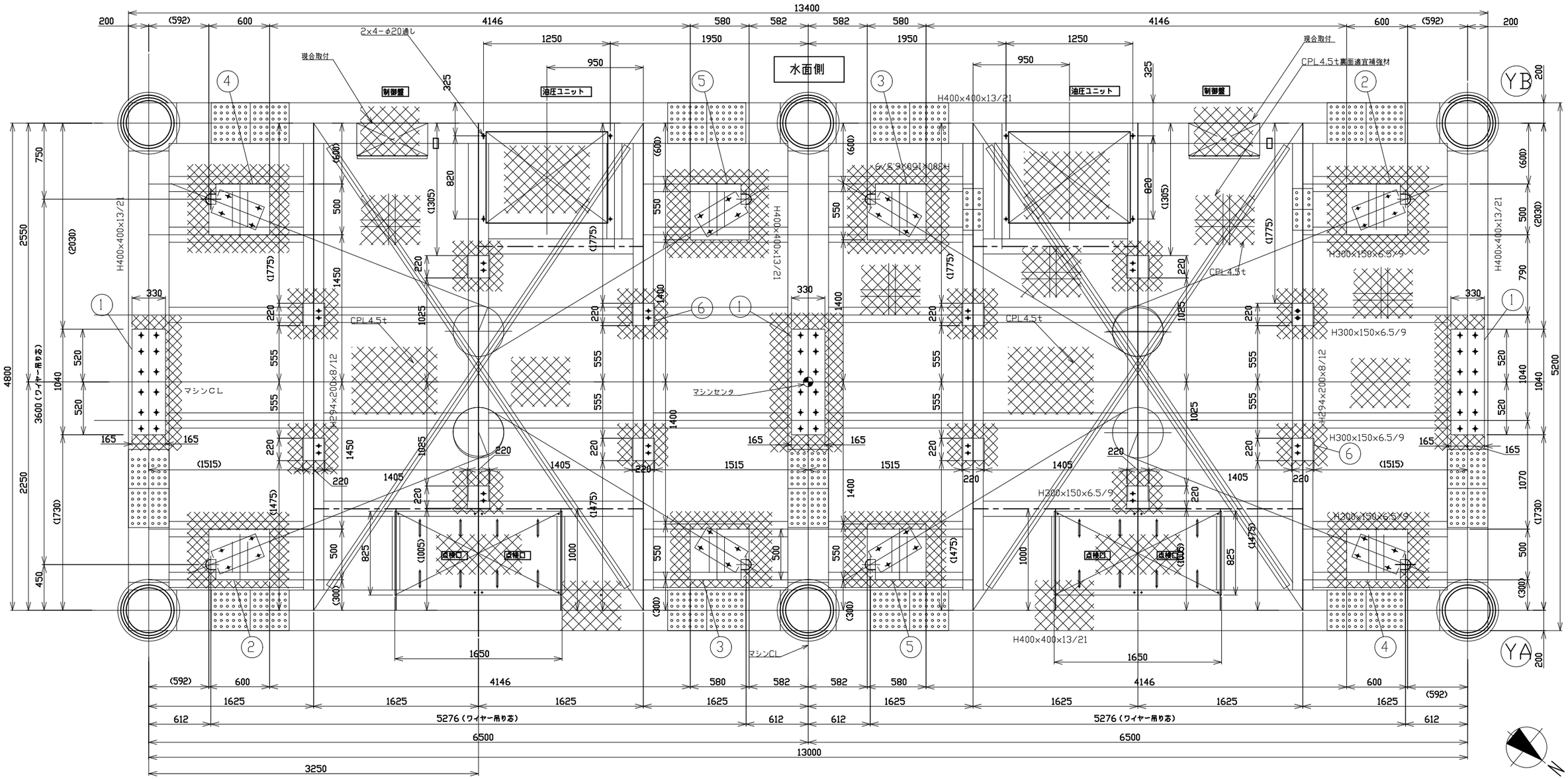
10．調整試験・検査報告　　※据付完了後の試験運転調整及び工事完了時の試験及び検査の計画書を作成し、その試験報告書を監理者に提出する。

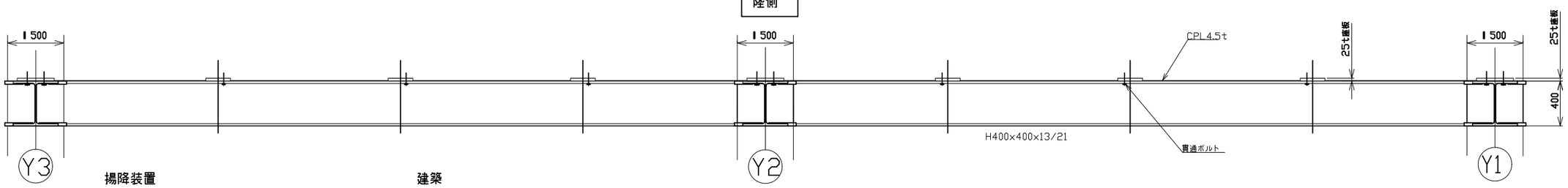
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記仕様書（９）		
縮　尺	－	図面番号	274
下関市ボートレース企業局			

Ｖ．　建　築　工　事　指　定　業　者　及　び　メ　ー　カ　ー　リ　ス　ト

工事区分	材料・施工部門	製造所名及び施工業者名
コンクリート工事	特殊型枠	杉板型枠
	床型枠用デッキプレート	
鉄骨工事	耐火吹付け材	
	耐火板	
コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事	押出成形セメント板	ノザワ 1階外壁　アスロックNeo60t（カラーフロンメタリック）　同等品 ノザワ 2階外壁　アスロック　ソレイユライン　同等品
	ＧＲＣパネル	
防水工事	アスファルト防水	
	合成高分子ルーフィング防水	アーキヤマデ㈱ リベットルーフSGM t1.5同等品
		コリドールt2.5同等品
		リベットルーフナイン　t2.0同等品
	塗膜防水	
	複合防水	
	金属シート防水	
	シーリング（　　）	
石　工　事	花こう岩類・大理石	
	テラゾーブロック	
	タイル状花こう岩類・大理石	
タイル工事	外部用タイル	
	内部用タイル	サンゲツガルザス　同等品
	特殊タイル	
	はく落防止工法	
木　工　事		
屋根及びとい工事	長尺金属板葺き（デッキ材）	㈱佐渡島 サドシマZルーフ2型 t1.0（裏面：ホワイト） 屋根30分耐火認定番号【FP030RF-0529】 ヨドHyperGLカラーEXEエグゼ ポリエステル樹脂系塗装 塗膜15年保証（割れ・剥がれ・変退色）同等品
	折板葺き	折板葺き（燃料庫） ㈱三邦 ルーフ150 東海カラー㈱ トーカイカラーSGL・15 いぶき 塗膜15年保証（割れ・剥がれ） 穴あき25年保証 同等品
金属工事	軽量鉄骨天井・壁下地	三洋工業　〈高耐食〉建築用鋼製下地 KT-SICS 同等品 ステンレス製 建築用鋼製下地 SICS SUS 同等品
	金属成形板	
	アルミニウム製笠木	板金笠木 東海カラー㈱ トーカイカラーSGL・15 いぶき
	ガルバリウム製笠木	塗膜15年保証（割れ・剥がれ） 穴あき25年保証 同等品
	アルミハニカムパネル	日軽エンジニアリング㈱ アルスリーム 1液型弾性シリコーン接着剤 不燃認定番号【NW-3868】 同等品
左官工事	仕上塗材	
	吹付け材	
	耐磨耗床	
建具工事	アルミニウム製建具	YKK・AP
	鋼製建具	
	鋼製軽量建具	
	ステンレス製建具	
	自動ドア開閉装置	オリエンタル
	シャッター	三和シャッター
	建具用金物（錠　　）	
	（自閉装置）	
	（押板引手）	
	（オペレーター）	
	（　　）	
	ガラス	
	ガラスフィルム	サンゲツガラスフィルム
	スーパーステンレスシャッター	三和工業
塗装工事	一般塗料	エスケー化研　ファインFR工法EX シリコンクリアー仕上げ
	高耐候性塗料（　　）	ジャパンカーボライン社　厚膜形無機系ポリシロキサン樹脂塗料
内装工事	ビニル床シート	サンゲツ　ストロング/消臭レストリューム/エスリュームミスト同等,東リ同等
	厨房用ビニル床シート	サンゲツ　ニューセーフティ同等,東リ 同等
	ビニル床タイル	サンゲツ　イビザ同等 東リ 同等
	ビニル床タイル(OAフロア)	サンゲツ　ラージコンクリート同等,東リ 同等
	特殊ビニル床タイル	サンゲツ　ココフロア同等,東リ 同等
	合成樹脂塗り床材	ABC商会　厚膜型硬質ウレタン樹脂複合工法　ビューコートハイブリット工法A
		厚膜型エポキシ樹脂系塗床材　ケミクリートE
	フローリング	
	壁紙・布類	サンゲツ フェイス/リアテック,東リ 同等
	カーペット類	サンゲツ NT700H/DT
	弾性床（　　）	三洋工業九州システム　ヒアリング中
	弾性床鋼製床下地	
	特殊造作（ 造作家具 ）	オリバー
	防塵塗装	水性ハイソリッド型コンクリート表面強化材 エスケー化研　アーキタイトエコ同等品
ユニット及びその他の工事	階段滑り止め	
	黒板・掲示板	
	カーテン	立川ブラインド
	ブラインド	サンゲツ ロールスクリーン
	流し台ユニット	サカエ
	サイン・看板	日本サイン
	移動間仕切	小松ウォール
	可動間仕切	小松ウォール
	フリーアクセスフロアー	
	トイレブース	アイカ工業
	遮光フィルム	3M スコッチティント ウィンドウフィルム同等
	屋外歩廊（腰屋根式）	太陽工業
排水工事		
舗装工事	透水性舗装	
	インターロッキングブロック	
植栽工事		
搬送設備	揚降装置	第一施設工業　同等品
プレハブ工事		大和リース　同等品

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事特記仕様書（１０）		
縮　尺	－	図面番号	275
下関市ボートレース企業局			





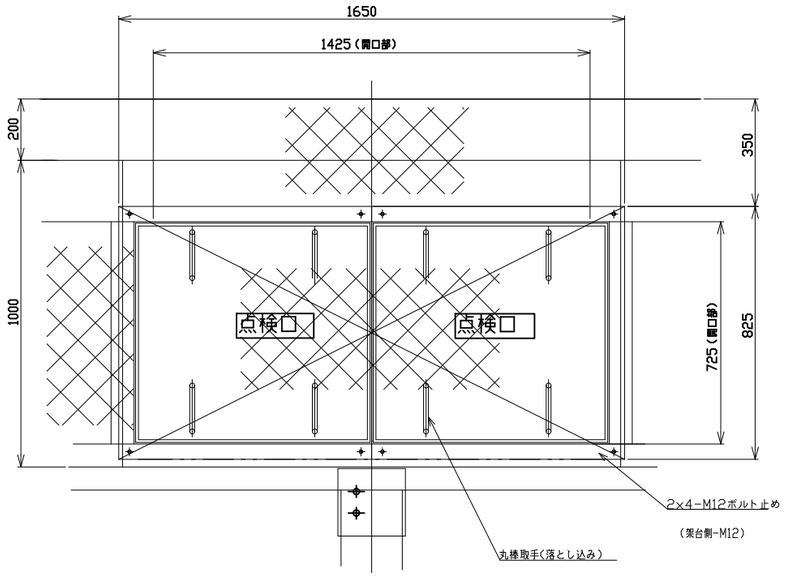
揚降装置

1，25t座板①～⑥は、機械側で製作します。

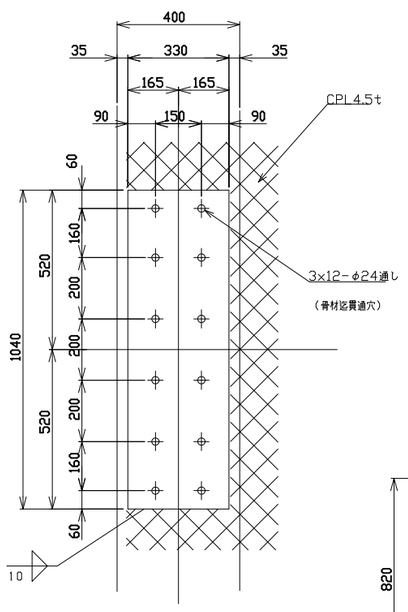
建築

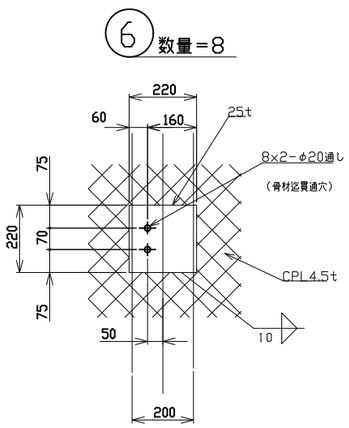
1，25t座板①～⑥は、機械側で製作取付溶接します。
2，鉄骨穴加工は、25t座板溶接後骨材まで貫通穴加工します。
3，油圧ユニット部用に取付穴加工します。
4，CPL4.5tは、25t座板と、ロープ貫通穴を切り欠いた形状とします。又CPL下面は適宜補強材を施工します。
5，機械室天井部に、メンテ用吊りビーム（I180×100×6）2t用を機械室駆動部中心部に13mの長さで施工します。
6，機械室天井部に、蛍光灯を設置します。[建築(電気設備工事)]

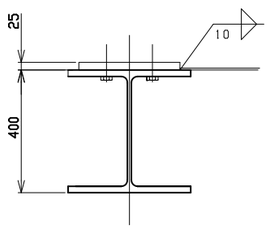
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室梁部材計画図（1）【参考】		
縮　尺	1/40	図面番号	276
下関市ボートレース企業局			



数量＝2

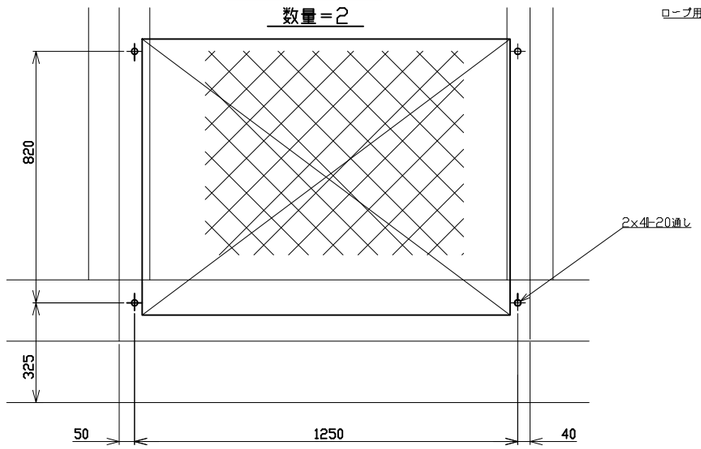


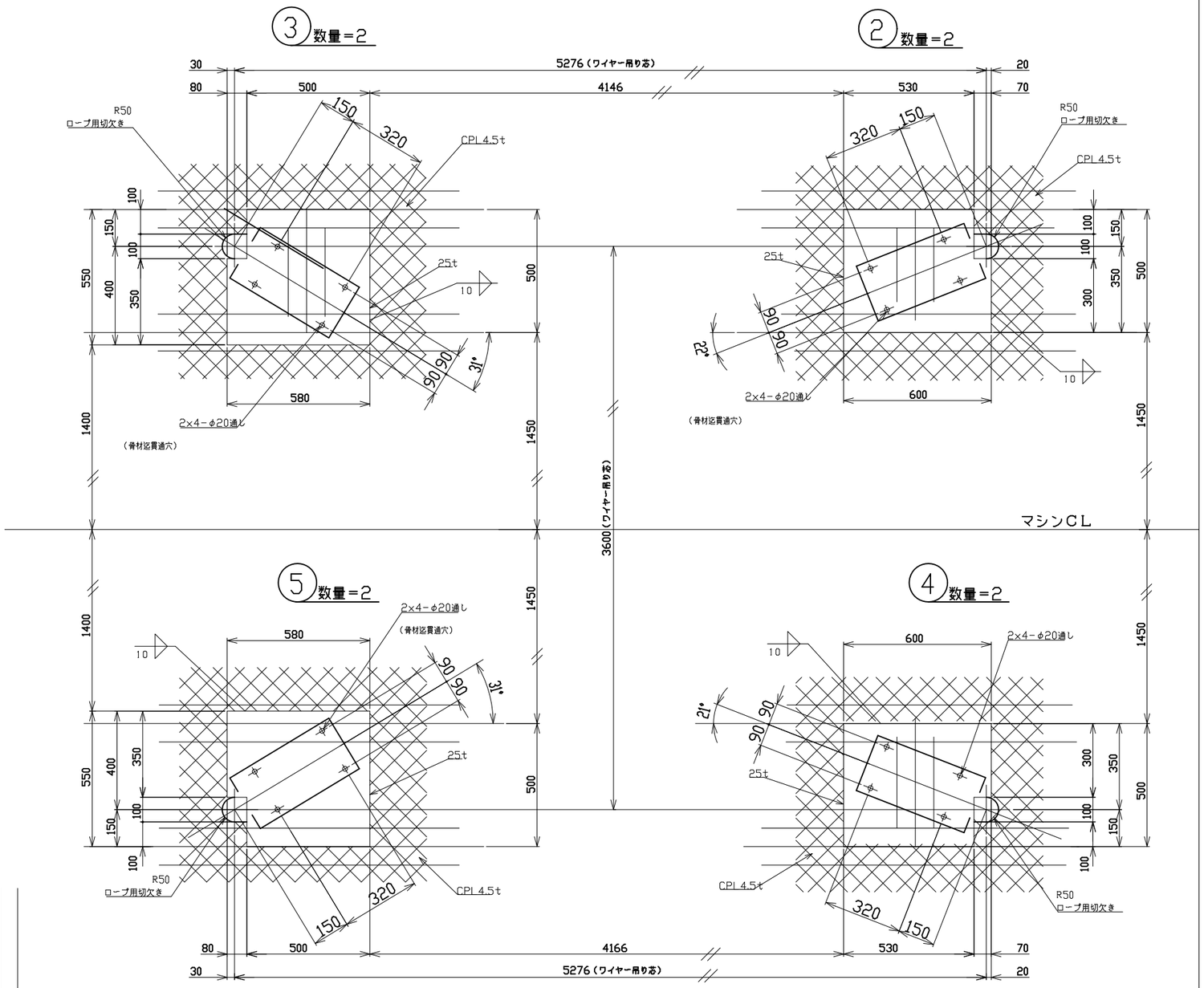




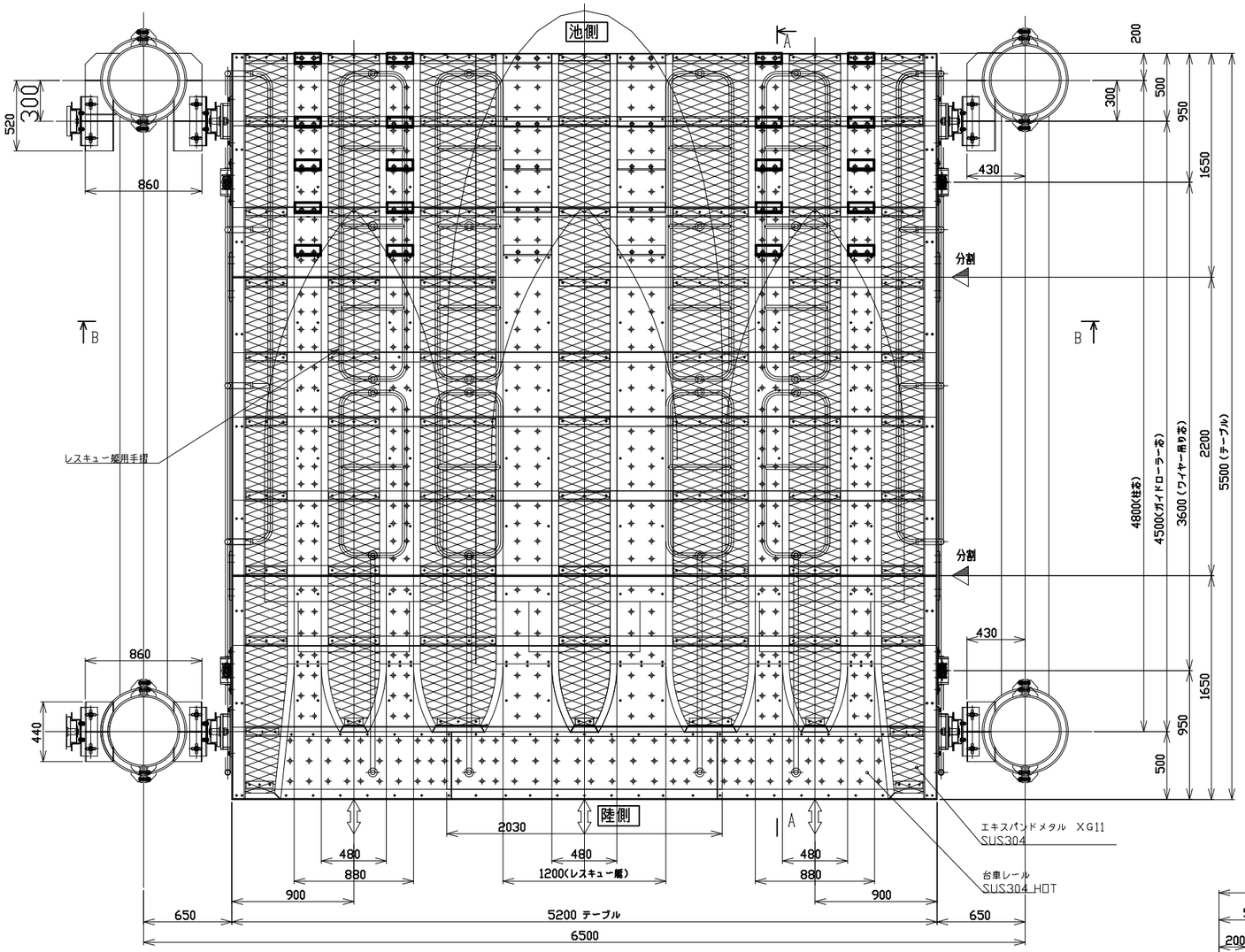
油圧ユニット

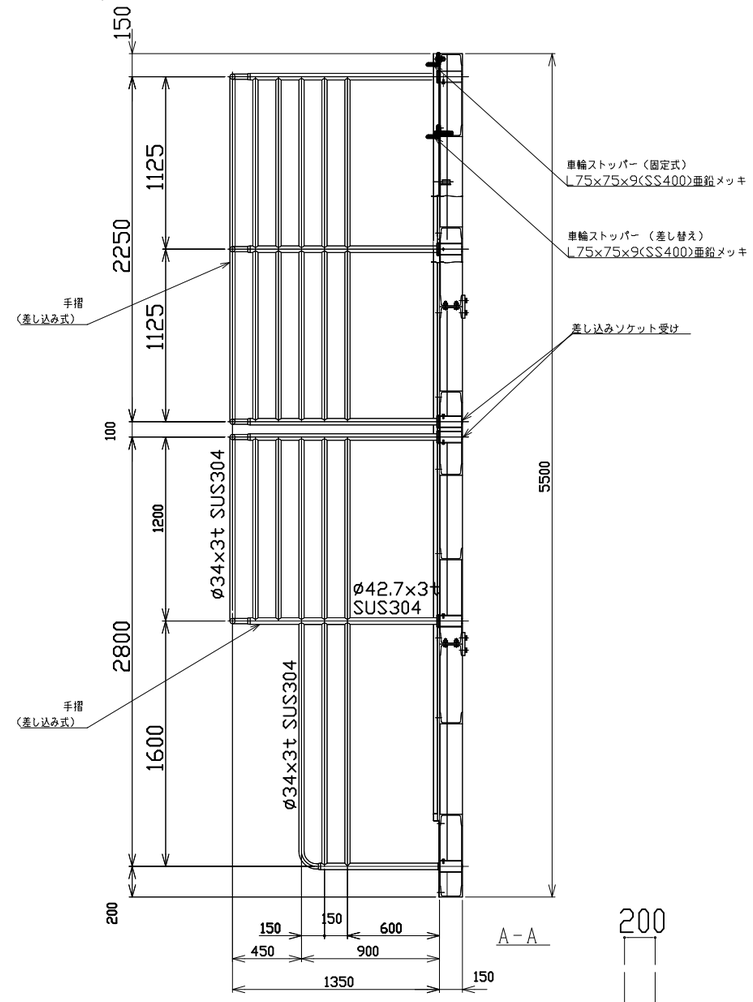
数量＝2

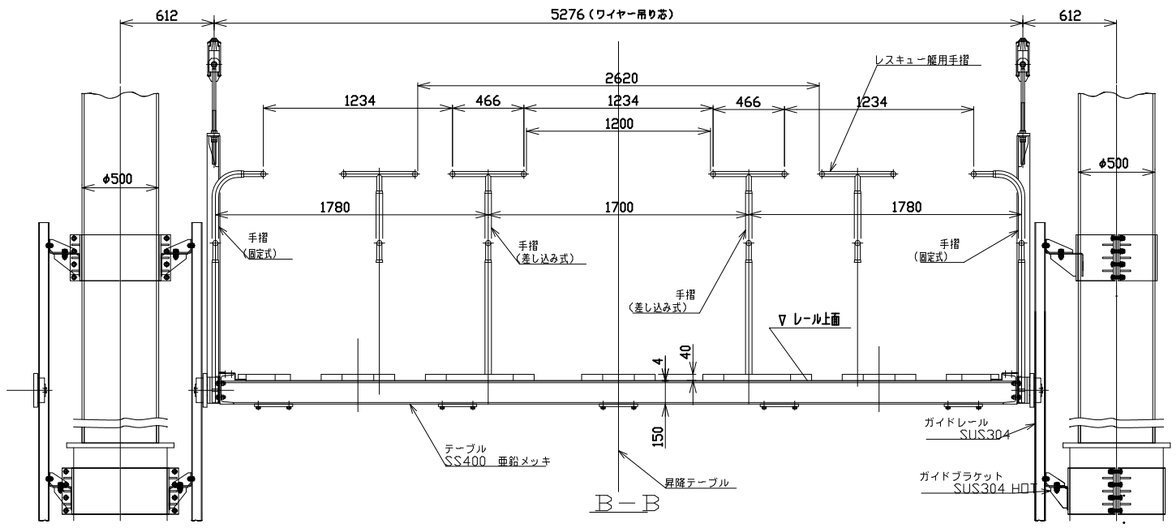


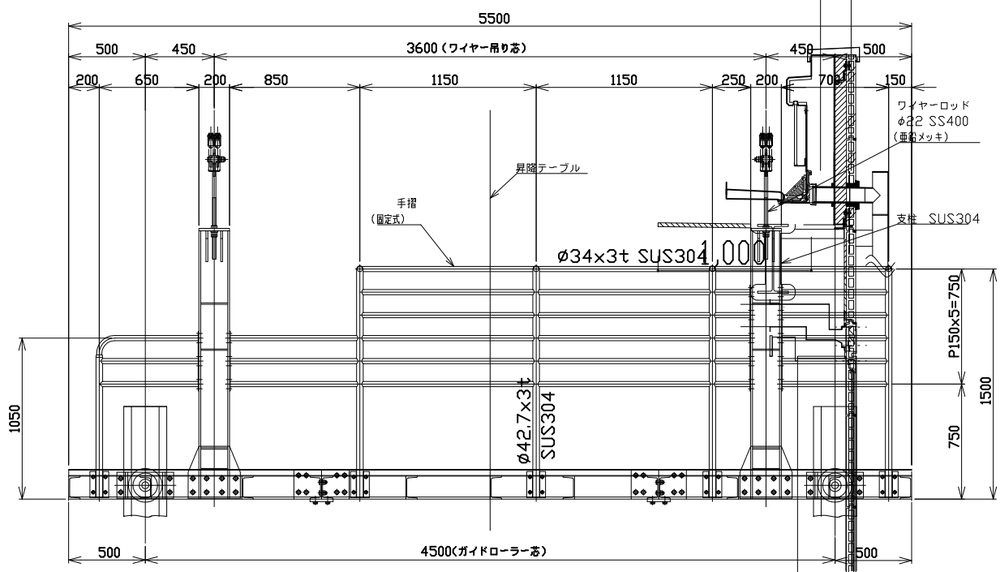


工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室梁部材計画図（２）【参考】		
縮　尺	1/20	図面番号	277
下関市ボートレース企業局			

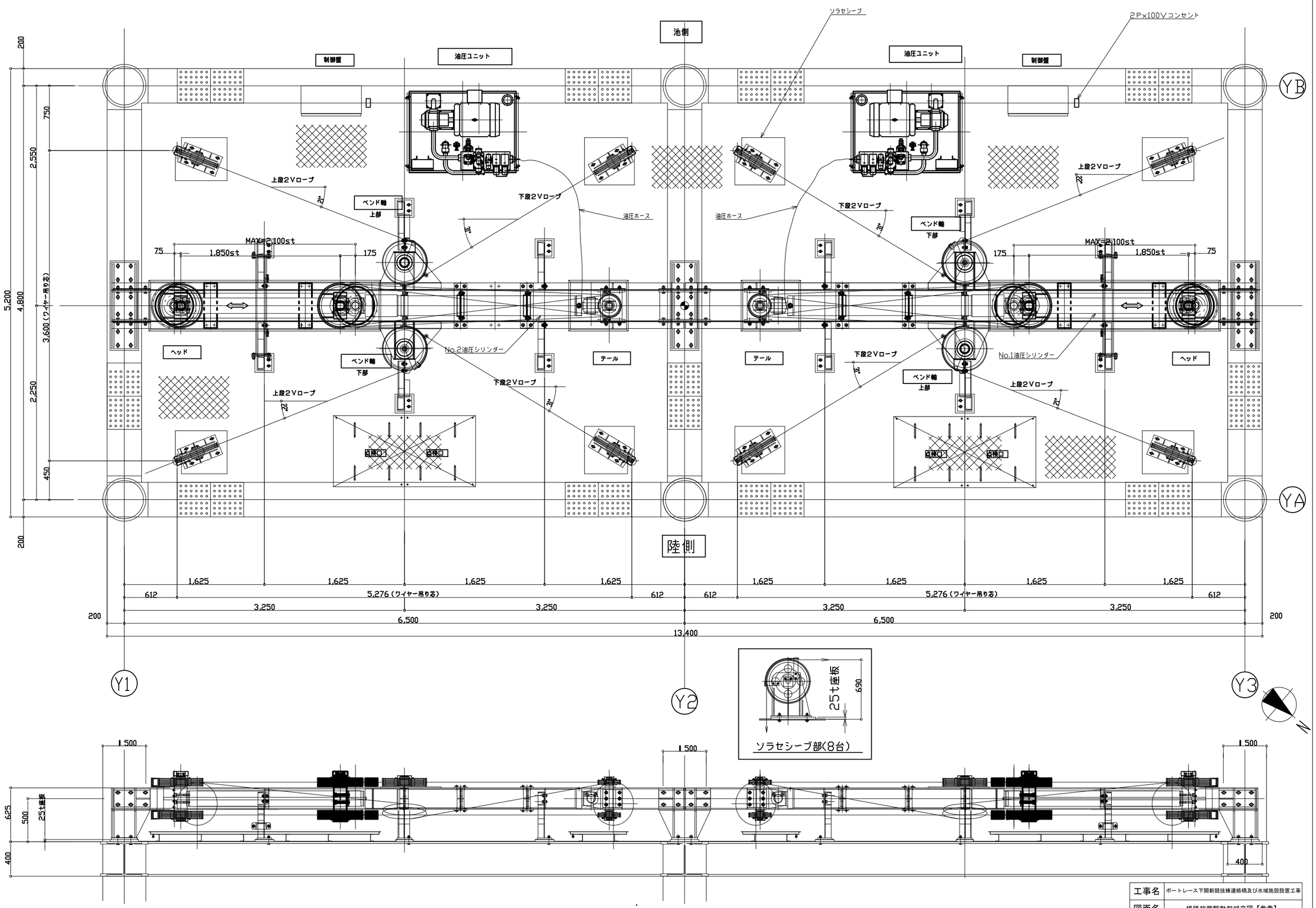




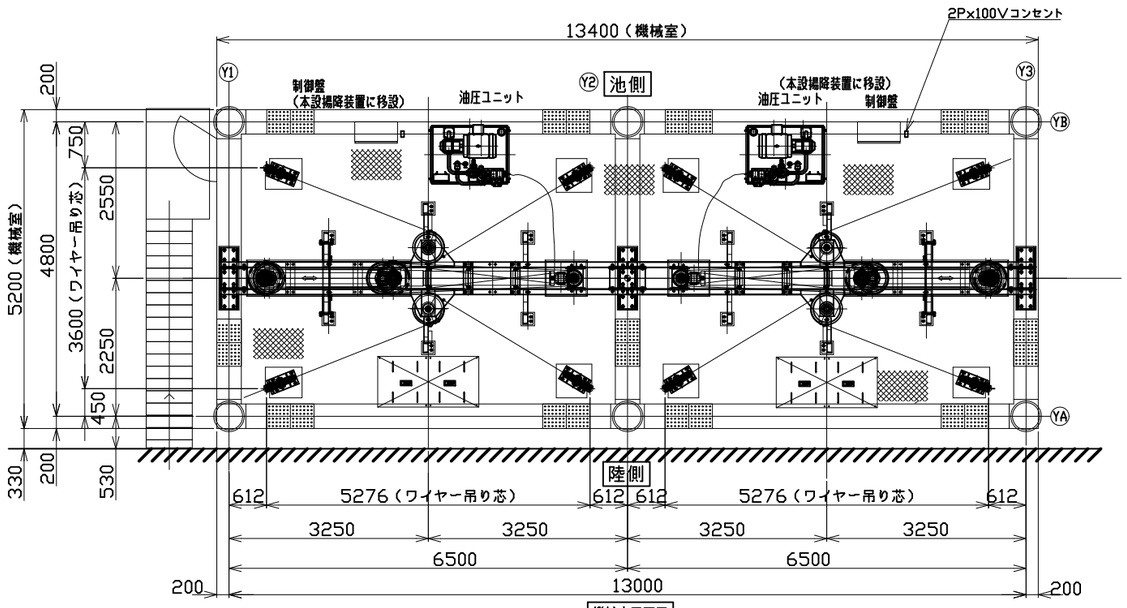




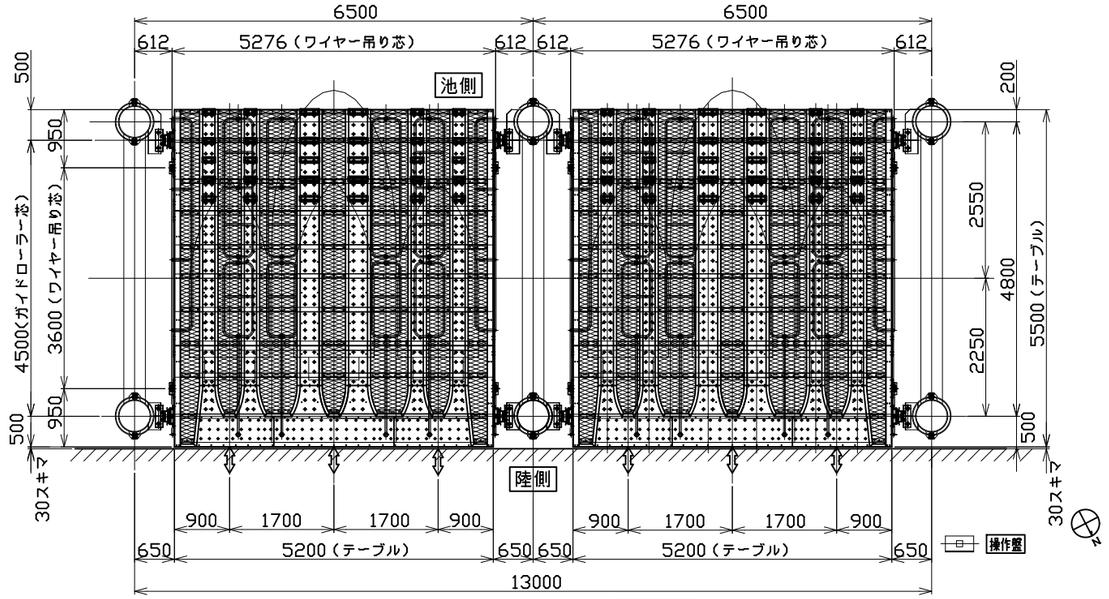
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置昇降テーブル組立図【参考】		
縮　尺	1/40	図面番号	278
下関市ボートレース企業局			



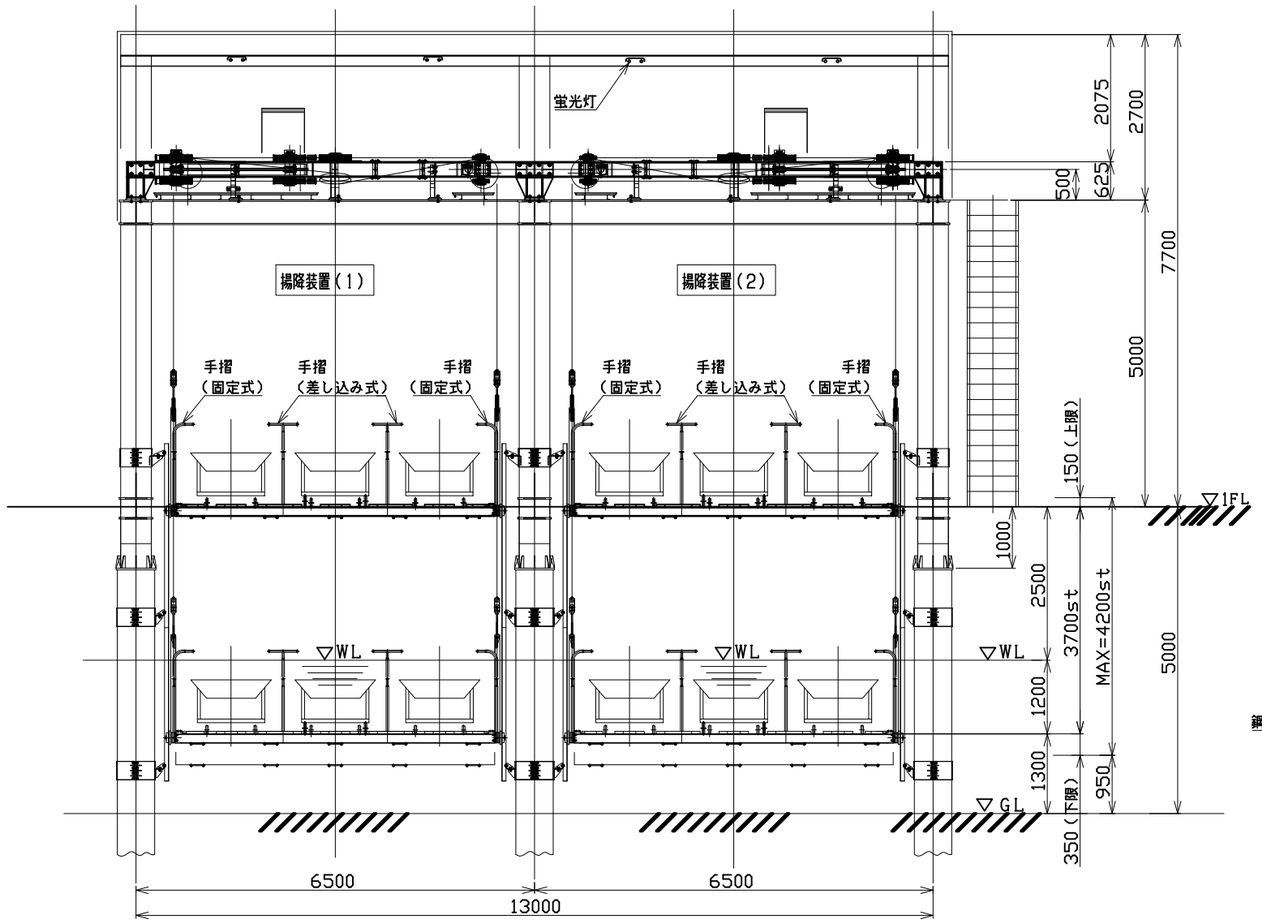
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置駆動部組立図【参考】		
縮　尺	1/40	図面番号	279
下関市ボートレース企業局			

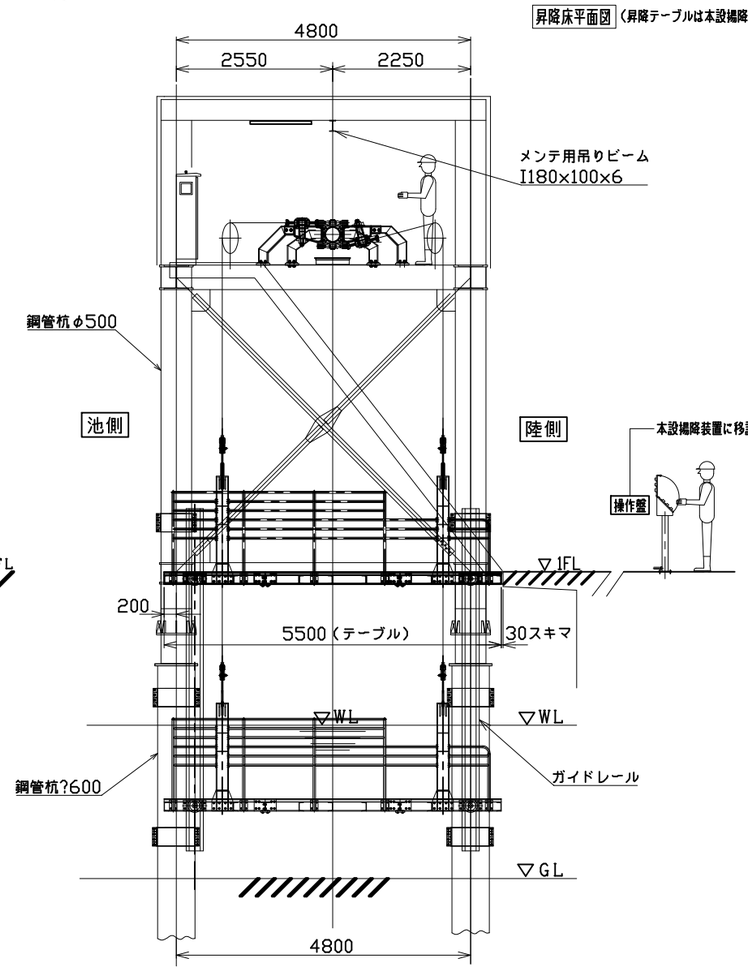


機械室平面図



昇降床平面図（昇降テーブルは本設揚降装置に移設）

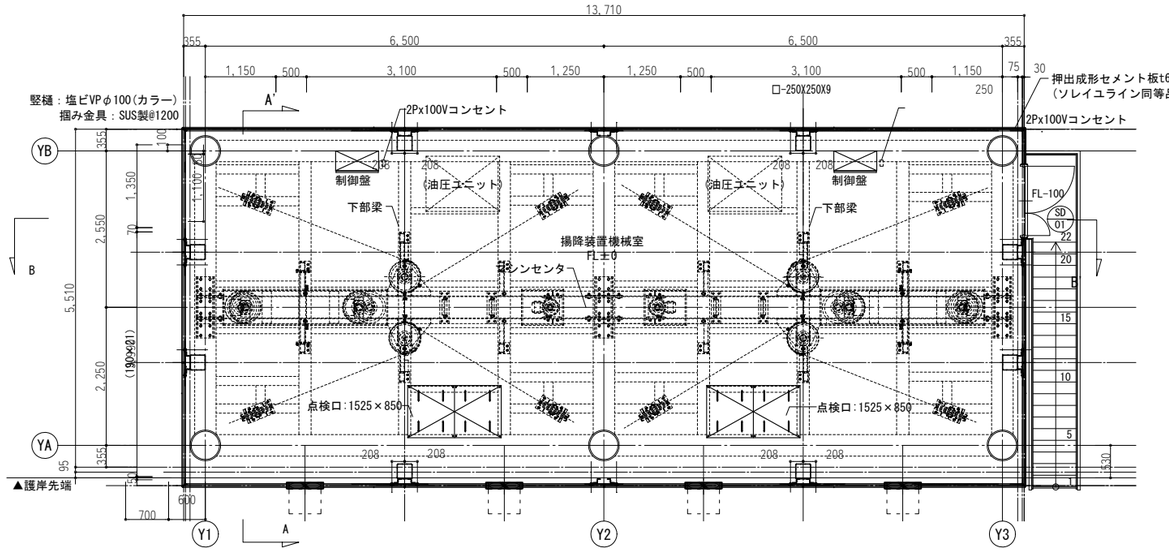




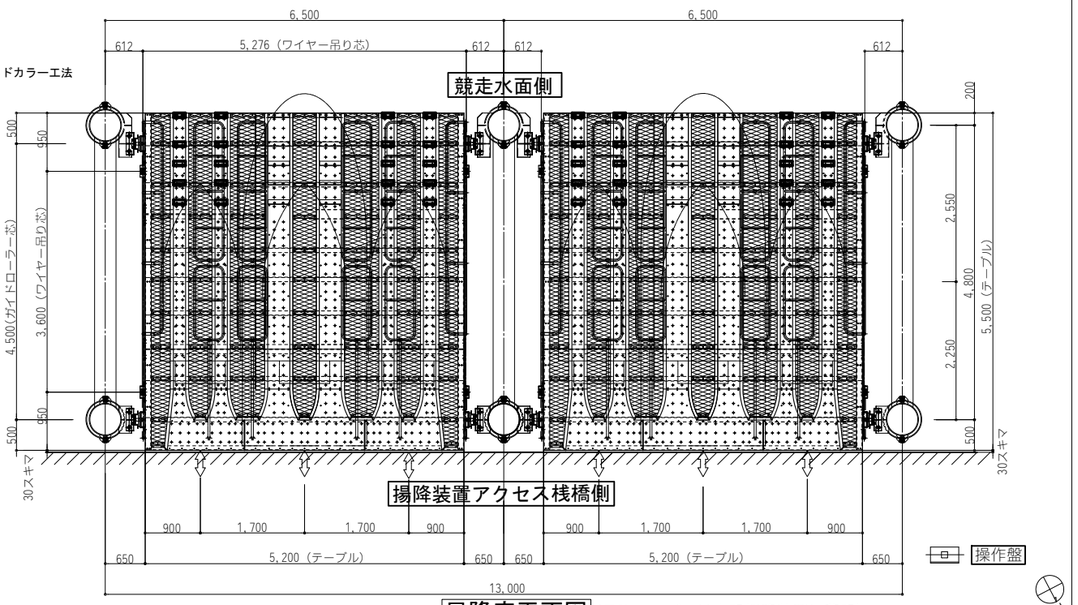
仕様概略

台　数	2　基
昇降方式	間接油圧式
積載量	競走艇×3、又は救助艇×1
最大積載量	1500Kg
昇降速度	6m/min
最大揚程	実 3700mm　最大 4200mm
モーター	15KWx6Pxφ3x220Vx60Hz
油圧ポンプ	VPNE-90-2-21
メインシリンダー	ラム型φ180（ロッド径）x2100st
吊りワイヤー	4x2本-φ12.5 6xFi(29) JIS13号ネ
滑　車	PCDφ500　2溝～4溝　SS材
昇降テーブル骨格	C200,C150,L75,L50 SS(亜鉛メッキ)
台車ガイドレール	3t　SUS曲ゲ材
床　張　り（昇降テーブル）	4t　SUS(レール部)
	エキスパンドメタル　XG11　SUS
手　摺　り	両側固定　中央差込式(2分割)　SUS(みがき)
昇降ガイドレール	5t　SUS曲ゲ材
昇降ガイドローラー	MCナイロン901　軸SUS

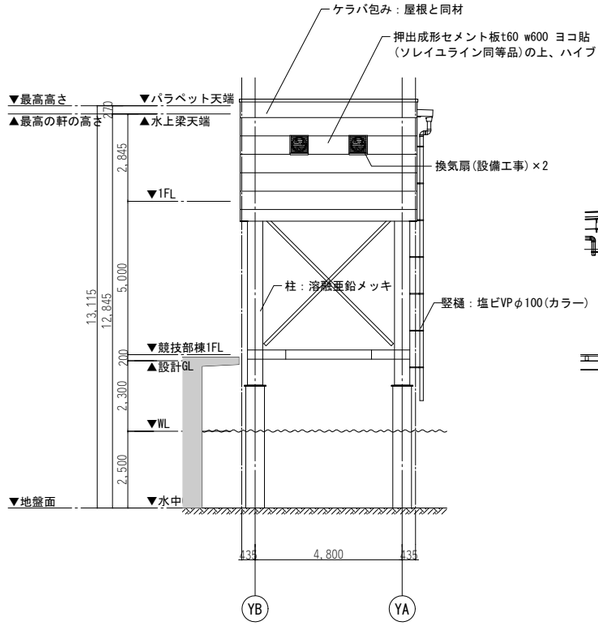
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置全体組立図【参考】		
縮　尺	1/400	図面番号	280
下関市ボートレース企業局			



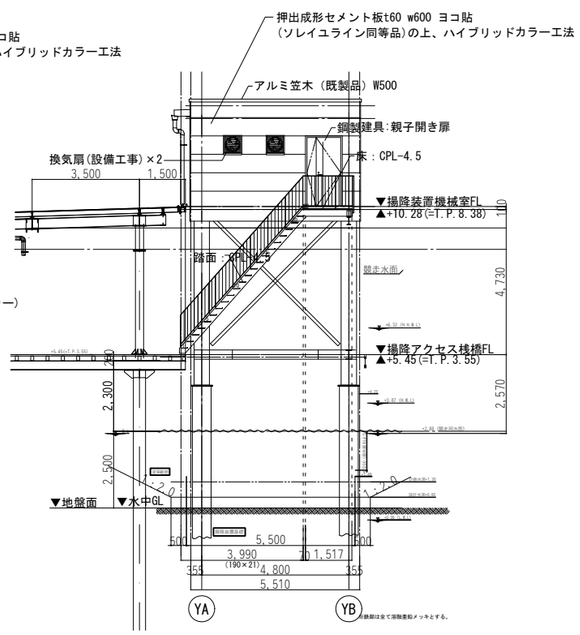
機械室平面図 S=1/50



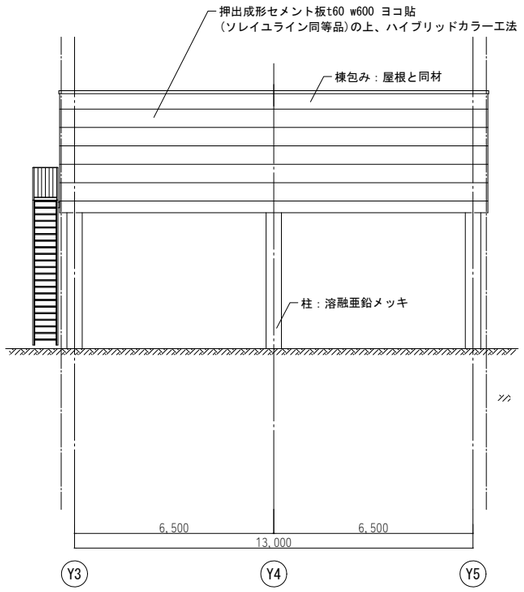
昇降床平面図（昇降テーブルは本設揚降装置に移設）



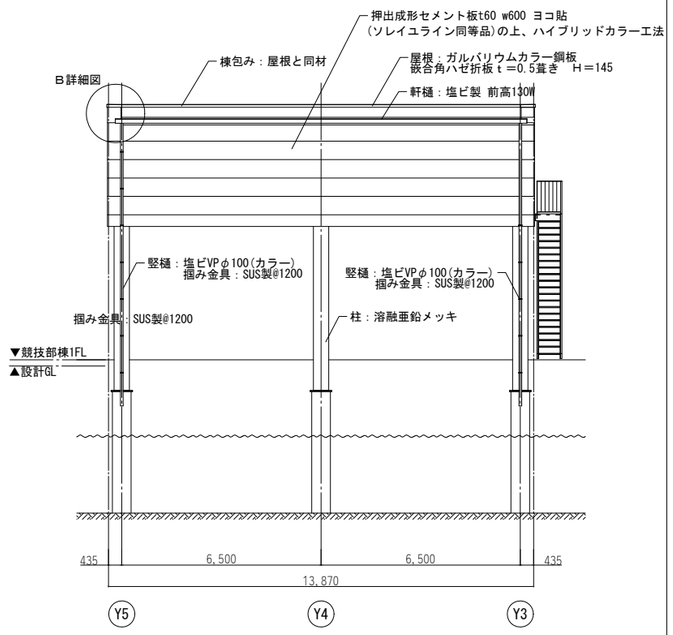
東側立面図 S=1/100



西側立面図 S=1/100

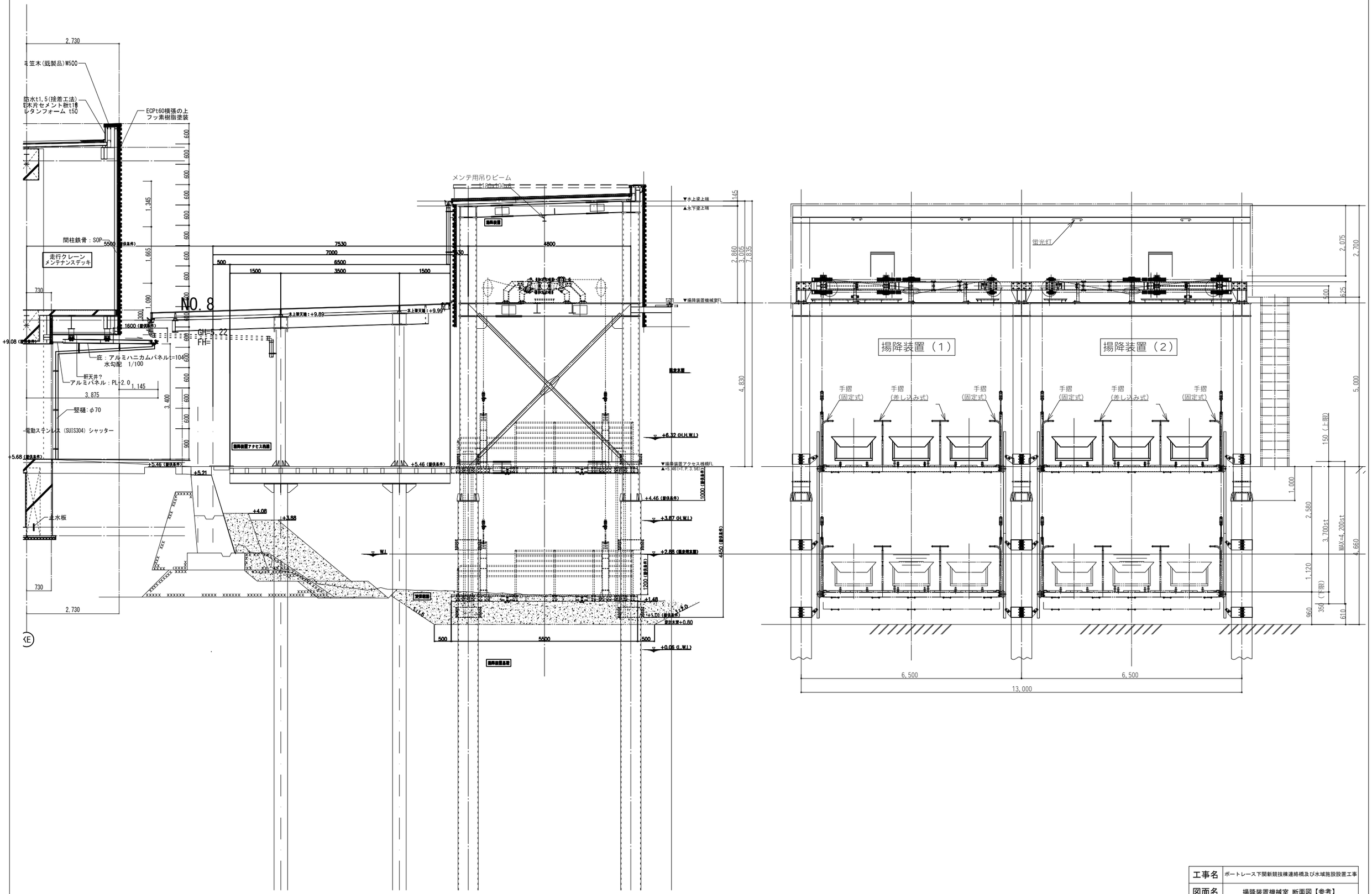


南側立面図 S=1/100

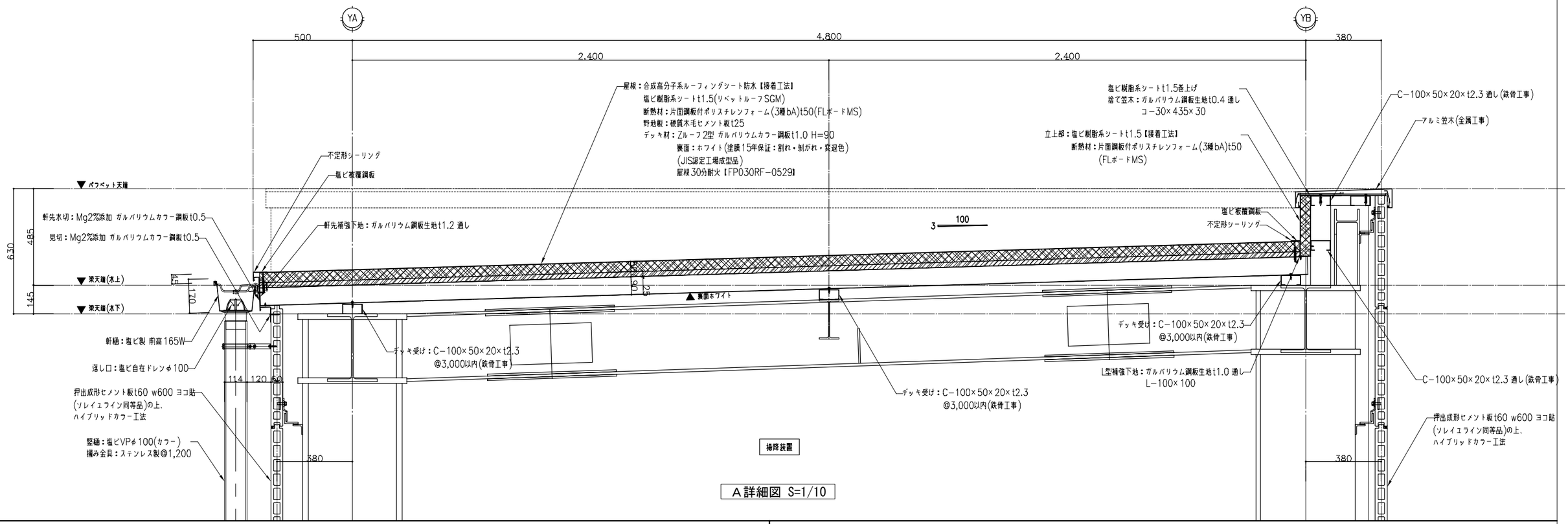


北側立面図 S=1/100

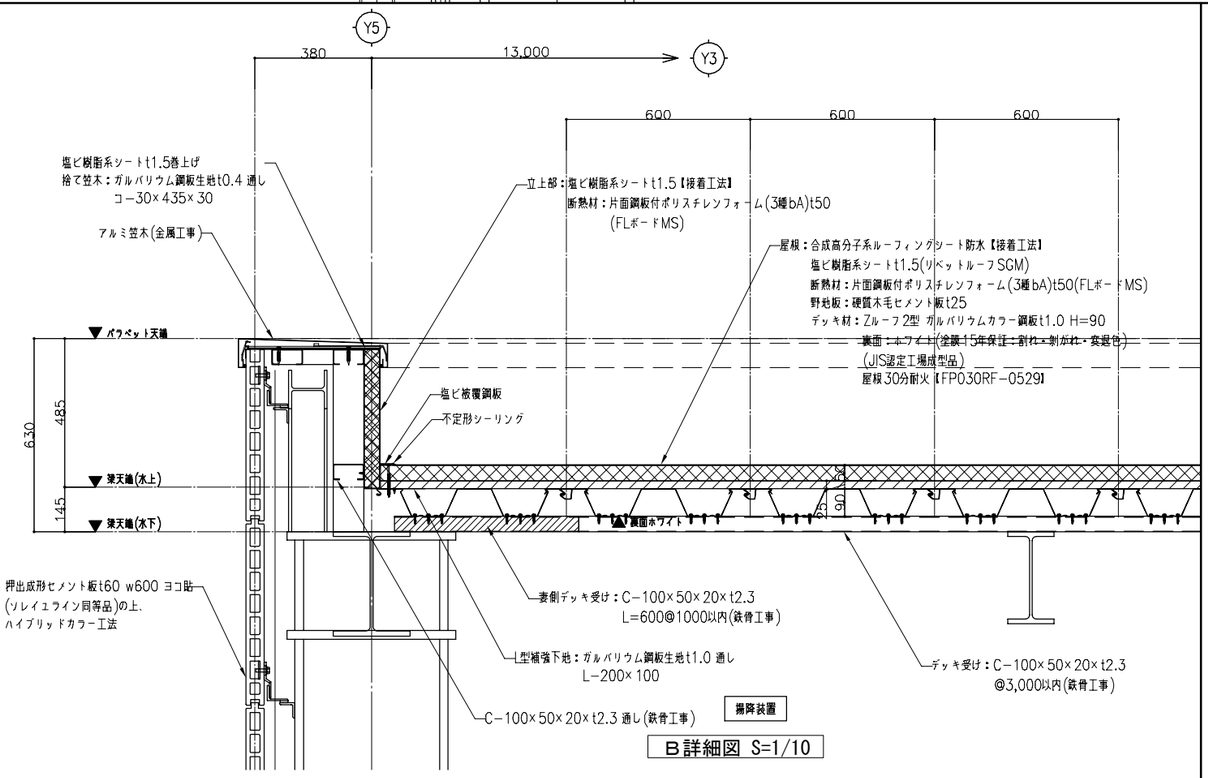
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室 平面図・立面図【参考】		
縮　尺	図示	図面番号	281
下関市ボートレース企業局			



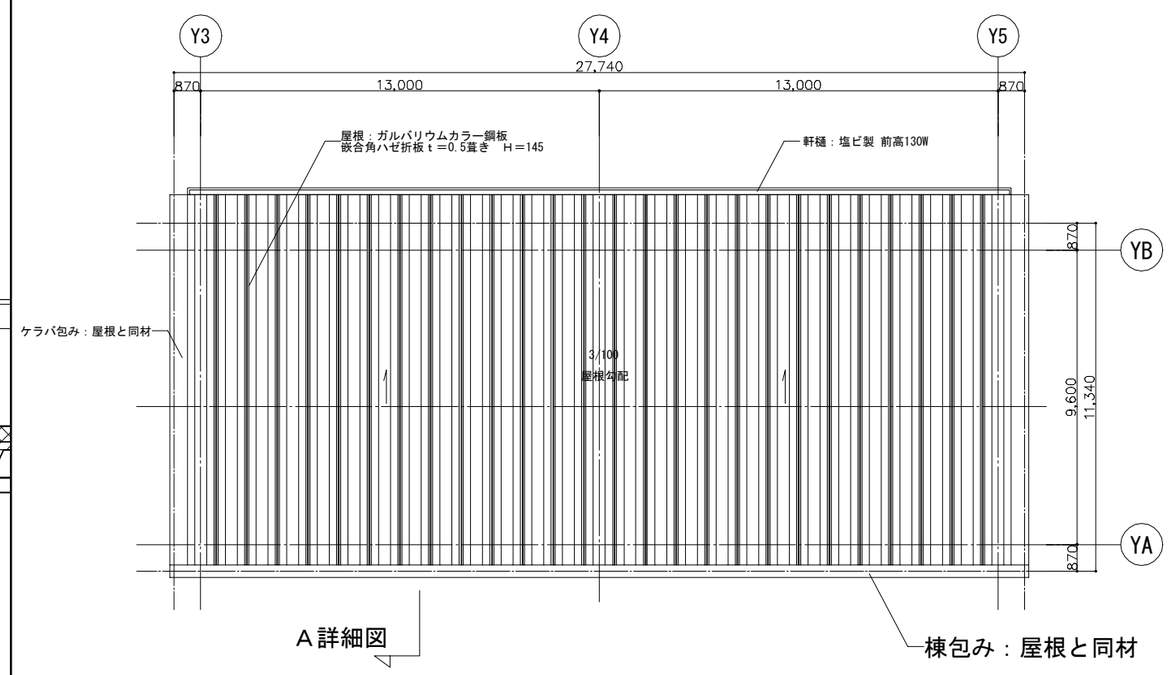
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室 断面図【参考】		
縮　尺	1/100	図面番号	282
下関市ボートレース企業局			



A詳細図 S=1/10



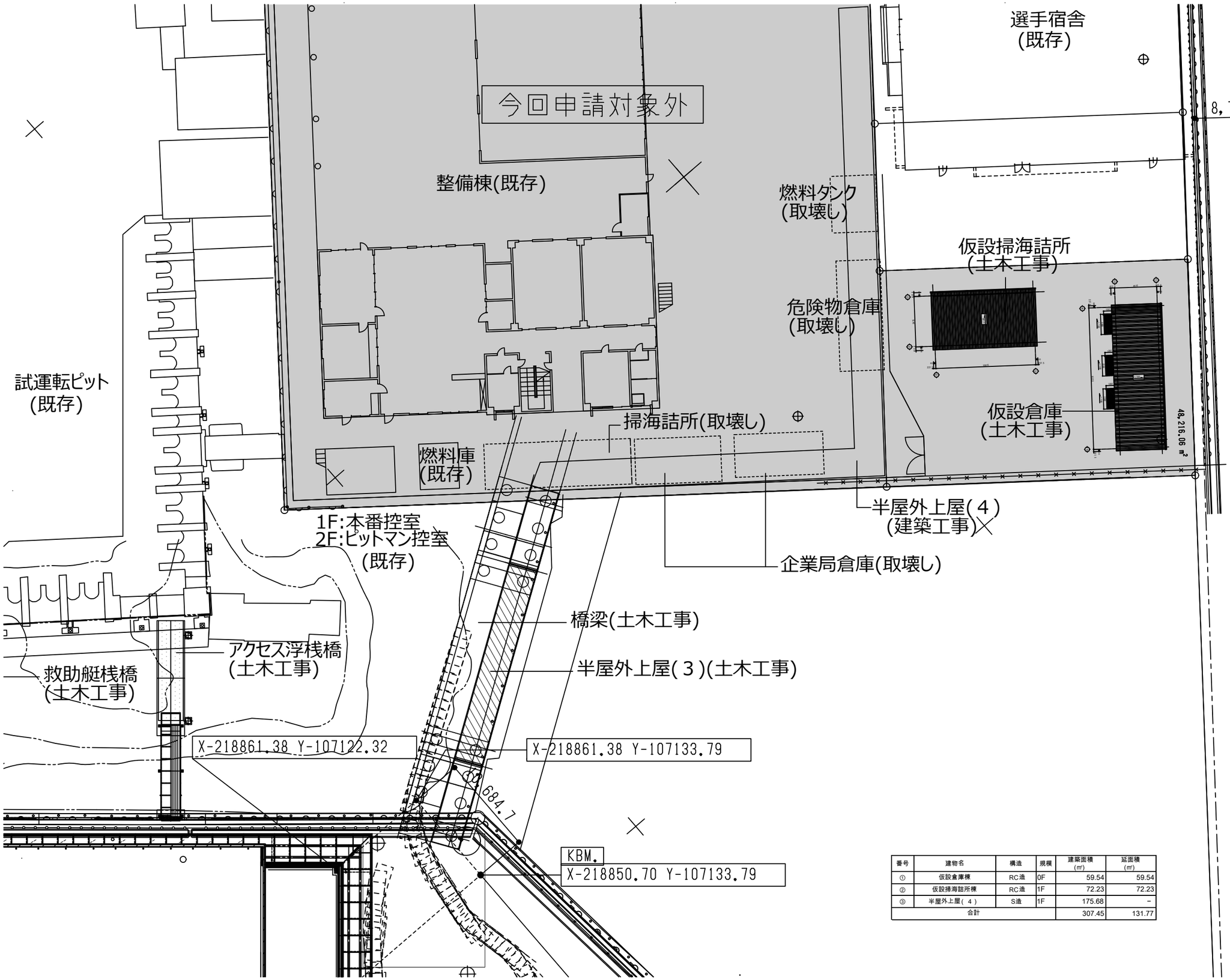
B詳細図 S=1/10



A詳細図

機械室屋根伏図 S=1/50

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	揚降装置機械室 屋根詳細図【参考】		
縮 尺	図示	図面番号	283
下関市ボートレース企業局			



番号	建物名	構造	規模	建築面積 (㎡)	延面積 (㎡)
①	仮設倉庫棟	RC造	0F	59.54	59.54
②	仮設掃海詰所棟	RC造	1F	72.23	72.23
③	半屋外上屋（４）	S造	1F	175.68	－
合計				307.45	131.77

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	配置図（仮設倉庫・詰所）		
縮　尺	1/400	図面番号	284
下関市ボートレース企業局			

設 計 概 要

一般事項	工事名称	下関競艇場改修工事に伴う仮設詰所・倉庫設置工事（詰所棟）		建築場所	山口県下関市長府松小田東町
	建築種別	新築	耐火種別 / その他	建物用途	事務所
	地域指定	用途地域指定	商業地域	建ペイ率指定	80 % / 容積率指定 400 %
		防火地域指定	準防火地域	その他指定	
建物概要	建物規模	階 数	平屋建	最高軒高	3 M 640 / 最高高さ 3 M 810
		建築面積	本体：4.575 × 15.375 = 70.340625	延床面積	4.575 × 15.375 = 70.340625
			庇：（1.2875 -1.0000× 2.200 × 3 = 1.8975		
			計 72.23 ㎡		計 70.34 ㎡
構造概要	基礎型式	RC基礎		地耐力	50 kN/m² （ 長期 、 仮定値 、 実値 ）
	軸 組	軽量鉄骨造（ﾌﾞﾚｰｽ構造） （大和ﾘｰｽ(株) ﾀﾞｲﾜﾌﾗｯﾄL 同等）		積 雪	30 cm （ 短期： 600 N/m² ）
				床荷重	-
	内部軸組	1階床	床ﾊﾟﾈﾙ（合板 t=12,根太:90×30@300）	内 壁	外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし
			大引:C-75×45×15×2.3@1800		
			束:鋼製束@900	間仕切	軽量鉄骨壁下地 65形（ｼｬﾜｰ室・便所廻りのみ50形）
			防湿ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ t=0.15		
				天 井	天井ﾊﾟﾈﾙ（表面材:ｶﾗｰ合板 t=2.5）
					天井裏断熱材:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50（16kg/m³）敷込み
外部仕上	屋 根	折板葺（ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板<素地> t=0.6,H=131,ｷｬｯﾌﾟ式）		外 壁	ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ t=22
		裏面：ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ t=4（室内側のみ）			表面）ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.35（ｻﾝﾄﾞﾎﾜｲﾄ）
		軒裏:折板裏あらわし			芯材）ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ
錺	樋	軒樋：塩ﾋﾞ製（ｶﾗｰ 120型）、竪樋：塩ビ製（ｶﾗｰVU 75φ）			
	板金金物	基礎水切：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.35、換気面戸：ｶﾗｰ鉄板 t=0.35、ｹﾗﾊﾞ包み：ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.6			
塗 装	錆止塗装	屋内・隠蔽部：JIS K 5621又はJIS K 5674（1種）工場1回塗り			
	鉄部見掛塗装	FE塗装（工場1回塗り、現場にてﾀｯﾁｱｯﾌﾟ）			
建 具	外部：ｱﾙﾐ製 内部:軽量鋼製建具				
雑工事	庇	鋼製,折板葺（ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.6,H=88,ﾎﾞﾙﾄ式）			
	ﾎﾟｰﾁ	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ t=120（金ｺﾞﾃ押さえ）,ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ 6φ-150×150,再生砕石 t=100			
設 備	電気設備、空調設備、換気設備、給排水衛生設備、雨水排水設備				

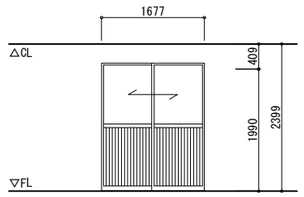
室 内 仕 上 表

階	室 名	床	巾 木	壁	天井	廻 縁	天井高	備考
1	掃海員控室	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=2（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ）	木製	内壁:外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし	天井ﾊﾟﾈﾙ（表面材:ｶﾗｰ合板 t=2.5）	-	2,399	
		（ﾗﾜﾝ合板 t=4下地）	18×36程度	間仕切り:化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5				
	合羽・作業着室	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=2（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ）	木製	内壁:外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし	天井ﾊﾟﾈﾙ（表面材:ｶﾗｰ合板 t=2.5）	-	2,399	
		（ﾗﾜﾝ合板 t=4下地）	18×36程度	間仕切り:ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6（EP塗装）				
	湯沸室	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=2（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ）	木製	内壁:外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし	天井ﾊﾟﾈﾙ（表面材:ｶﾗｰ合板 t=2.5）	-	2,399	
		（ﾗﾜﾝ合板 t=4下地）	18×36程度	間仕切り:化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5				
	便所	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=2（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ）	木製	内壁:外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし	天井ﾊﾟﾈﾙ（表面材:ｶﾗｰ合板 t=2.5）	-	2,399	棚板 D=300
		（ﾗﾜﾝ合板 t=4下地）	18×36程度	間仕切り:化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5				
	脱衣室	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=2（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ）	木製	内壁:外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし	天井ﾊﾟﾈﾙ（表面材:ｶﾗｰ合板 t=2.5）	-	2,399	ｶｰﾃﾝ、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ
		（ﾗﾜﾝ合板 t=4下地）	18×36程度	間仕切り:化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5				ﾕﾆｯﾄｼｬﾜｰ（TOTO JSV0812L同等品）
	倉庫・作業室	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=2（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ）	木製	内壁:外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし	天井ﾊﾟﾈﾙ（表面材:ｶﾗｰ合板 t=2.5）	-	2,399	
		（ﾗﾜﾝ合板 t=4下地）	18×36程度	間仕切り:化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5				

建 具 表

符号・数量：AD 1 倉庫・作業室、掃海員控室 合羽・作業着室 3

姿 図

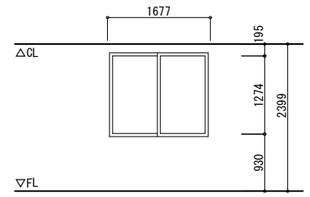


ｻｯｼ性能(S-1)

仕 上	ｱﾙﾐ製引違い戸
硝 子	透明（t=3）
備 考	引手、ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ
	召し合せ錠

符号・数量：AW 1 倉庫・作業室 掃海員控室 3

姿 図

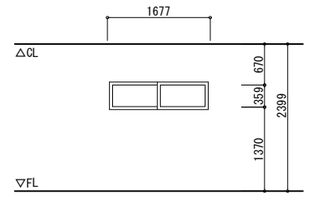


ｻｯｼ性能(S-3, A-4, W-3)

仕 上	ｱﾙﾐ製引違い窓
硝 子	透明（t=3）
備 考	ｸﾚｾﾝﾄ
	網戸合せ錠

符号・数量：AW 2 倉庫・作業室 3

姿 図

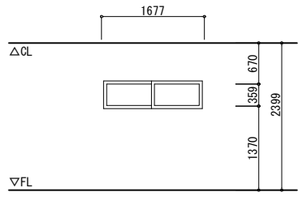


ｻｯｼ性能(S-3, A-4, W-3)

仕 上	ｱﾙﾐ製引違い窓
硝 子	透明（t=3）
備 考	ｸﾚｾﾝﾄ
	網戸

符号・数量：AW 2a 脱衣室、湯沸室 2

姿 図

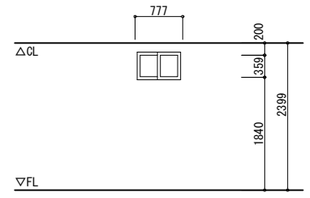


ｻｯｼ性能(S-3, A-4, W-3)

仕 上	ｱﾙﾐ製引違い窓
硝 子	型板（t=4）
備 考	ｸﾚｾﾝﾄ
	網戸

符号・数量：AW 3 便所 1

姿 図

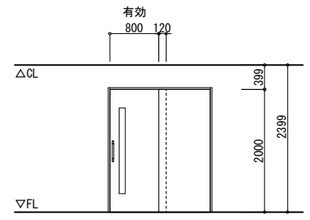


ｻｯｼ性能(S-3, A-4, W-3)

仕 上	ｱﾙﾐ製引違い窓
硝 子	型板（t=4）
備 考	ｸﾚｾﾝﾄ
	網戸

符号・数量：LSD 1 倉庫・作業室 合羽・作業着室 2

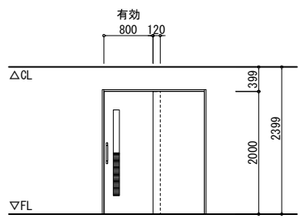
姿 図



仕 上	軽量鋼製片引き戸
硝 子	透明（t=3）
備 考	ﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、ｻﾑﾀｰﾝ
	付属金物一式

符号・数量：LSD 2 脱衣室 1

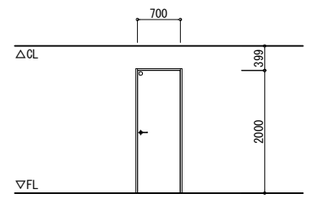
姿 図



仕 上	軽量鋼製片引き戸
硝 子	型板（t=4）
備 考	ﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、ｻﾑﾀｰﾝ、ｶﾞﾗﾘ
	付属金物一式

符号・数量：LSD 3 便所 1

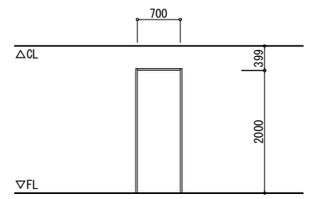
姿 図



仕 上	軽量鋼製片開き戸
硝 子	明かり窓（ｱｸﾘﾙ製、半透明）
備 考	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、丁番、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ
	表示錠、ｻﾑﾀｰﾝ

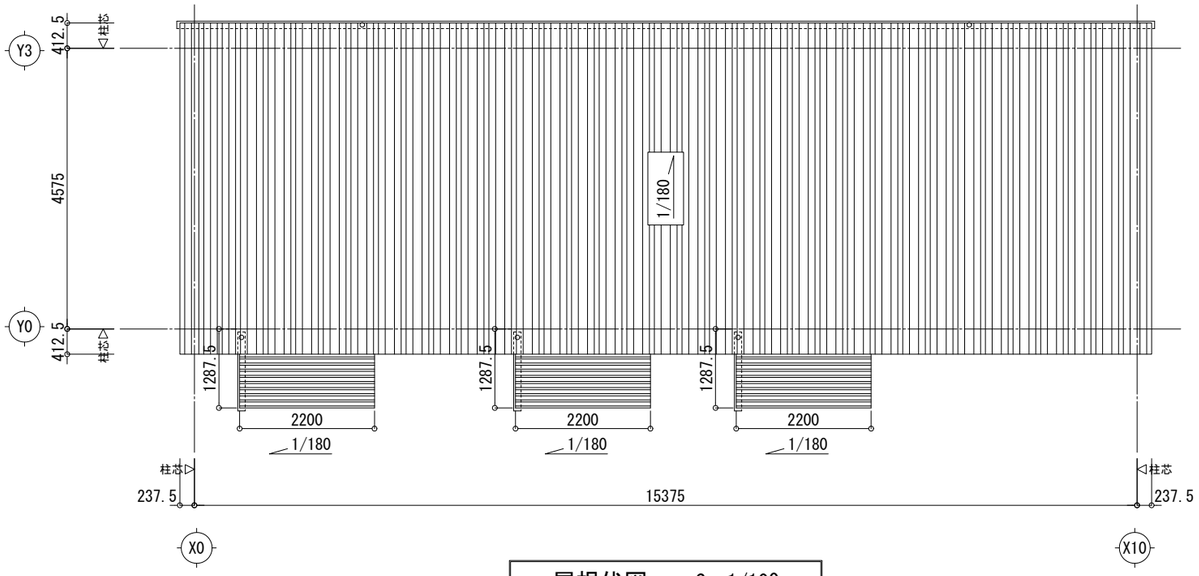
符号・数量：WF 1 湯沸室 1

姿 図

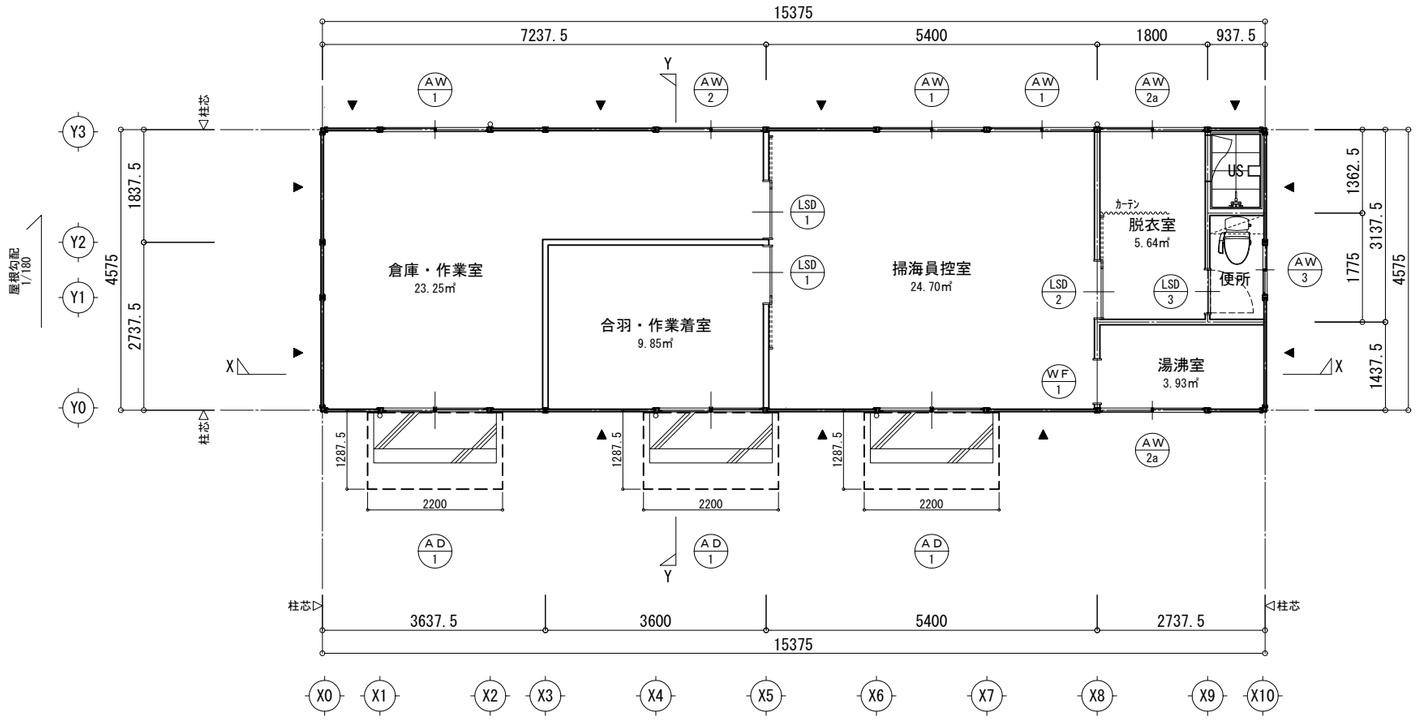


仕 上	木製三方枠
硝 子	-
備 考	

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	設計概要・仕上表・建具表（詰所）		
縮 尺	－	図面番号	285
下関市ボートレース企業局			



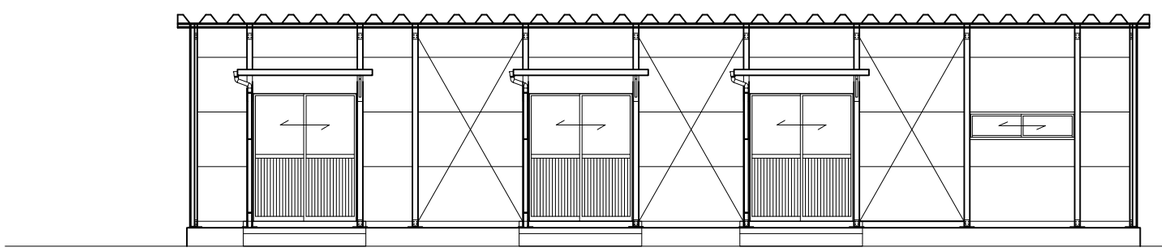
屋根伏図　S=1/100



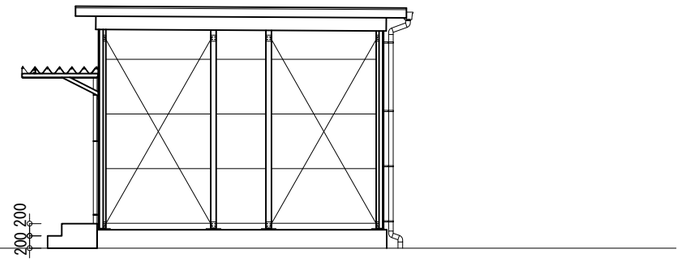
平面図　S=1/100

※▼・・・壁ブレース位置を示す。

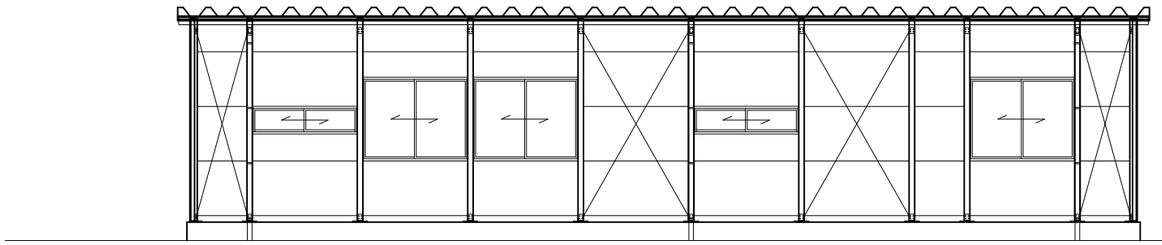
工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	平面図（詰所）		
縮　尺	1/100	図面番号	286
下関市ボートレース企業局			



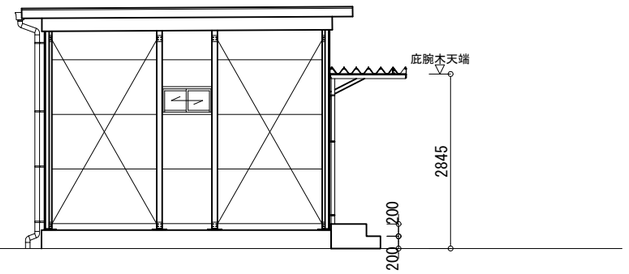
Y0 立面図 S=1/100



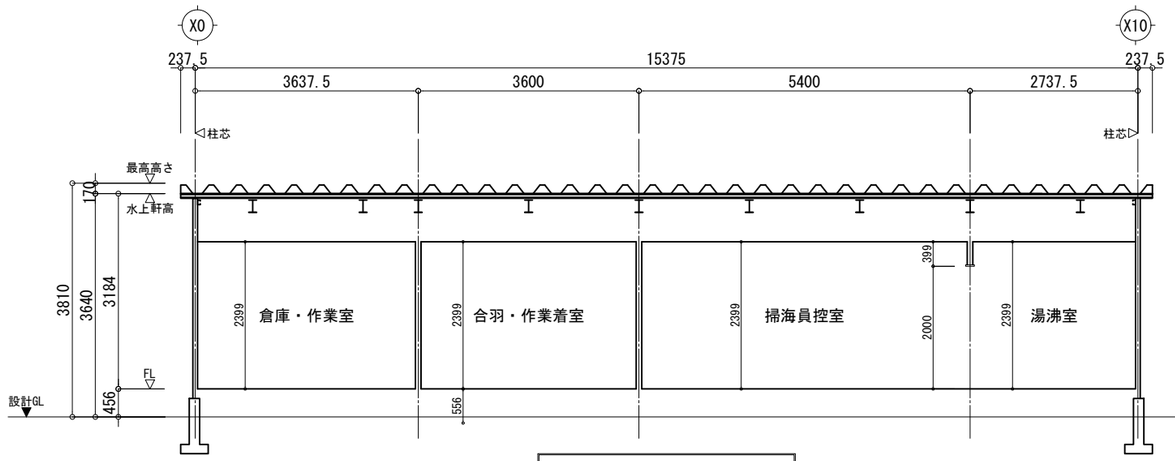
X10 立面図 S=1/100



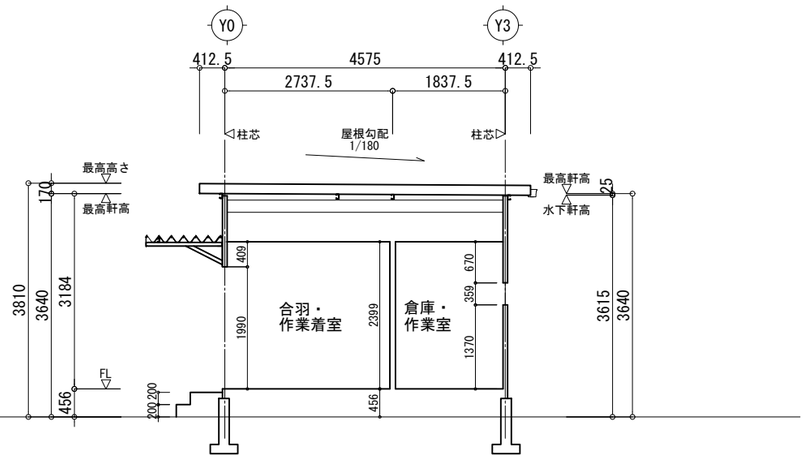
Y3 立面図 S=1/100



X0 立面図 S=1/100



X-X断面図 S=1/100



Y-Y断面図 S=1/100

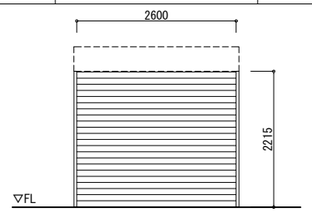
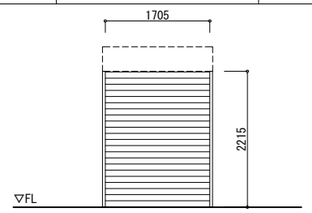
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	立面図・断面図（詰所）		
縮　尺	1/100	図面番号	287
下関市ボートレース企業局			

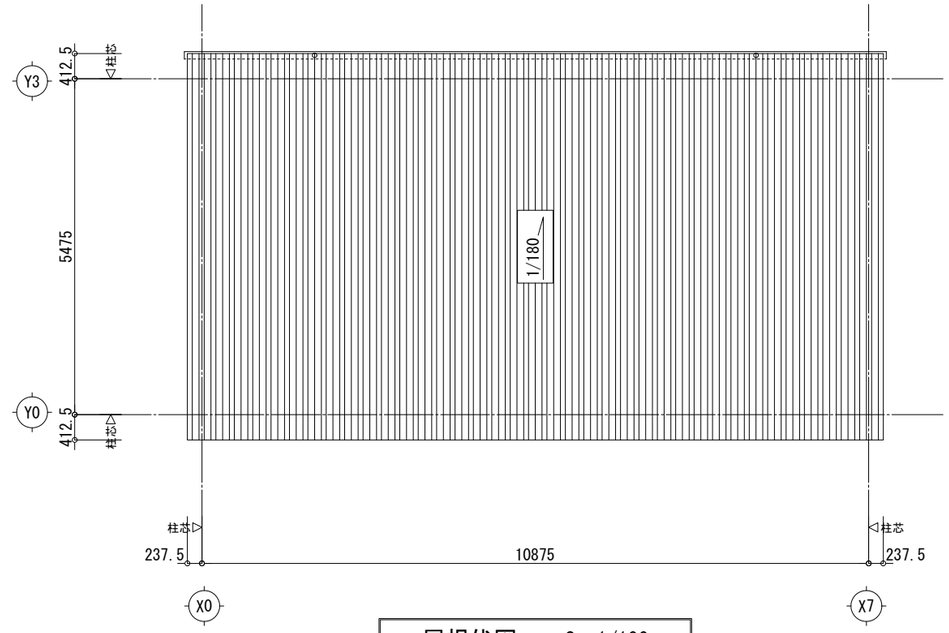
設 計 概 要

一般事項	工事名称	下関競艇場改修工事に伴う仮設詰所・倉庫設置工事（倉庫棟）		建築場所	山口県下関市長府松小田東町
	建築種別	新築	耐火種別 その他	建物用途	倉庫
	地域指定	用途地域指定	商業地域	建ペイ率指定	80 % 容積率指定 400 %
		防火地域指定	準防火地域	その他指定	
建物概要	建物規模	階 数	平屋建	最高軒高	3 M 445 最高高さ 3 M 615
		建築面積	本体：5.475 × 10.875 = 59.540625 計 59.54 ㎡	延床面積	本体：5.475 × 10.875 = 59.540625 計 59.54 ㎡
構造概要	基礎型式	RC基礎		地耐力	50 kN/m² （ 長期 、 仮定値 、 実値 ）
	軸 組	軽量鉄骨造（ﾌﾞﾚｰｽ構造） （大和ﾘｰｽ㈱ ﾀﾞｲﾜﾌﾗｯﾄL 同等）		積 雪	30 cm （ 短期： 600 N/m² ）
				床荷重	-
	内部軸組	1階床	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え t=120	内 壁	外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし
			ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ6φ-150x150		
			防湿ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ t=0.15	間仕切	木下地
			再生砕石 t=100		
				天 井	折板裏あらわし
外部仕上	屋 根	折板葺（ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板<素地> t=0.6,H=131,ｷｬｯﾌﾟ式）		外 壁	ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ t=22
		裏面：ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ t=4（室内側のみ）			表面）ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.35（ｻﾝﾄﾞﾎﾜｲﾄ）
		軒裏:折板裏現し			芯材）ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ
錺	樋	軒樋：塩ﾋﾞ製（ｶﾗｰ 120型）、竪樋：塩ビ製（ｶﾗｰVU 75φ）			
	板金金物	基礎水切：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.35、換気面戸：ｶﾗｰ鉄板 t=0.35、ｹﾗﾊﾞ包み：ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=1.6			
塗 装	錆止塗装	屋内・隠蔽部：JIS K 5621又はJIS K 5674（1種）工場1回塗り			
	鉄部見掛塗装	FE塗装（工場1回塗り、現場にてﾀｯﾁｱｯﾌﾟ）			
建 具	外部：ｱﾙﾐ製				
雑工事	ﾎﾟｰﾁ	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ t=120（金ｺﾞﾃ押さえ）,ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ 6φ-150x150,再生砕石 t=100			
設 備	電気設備、換気設備、雨水排水設備				

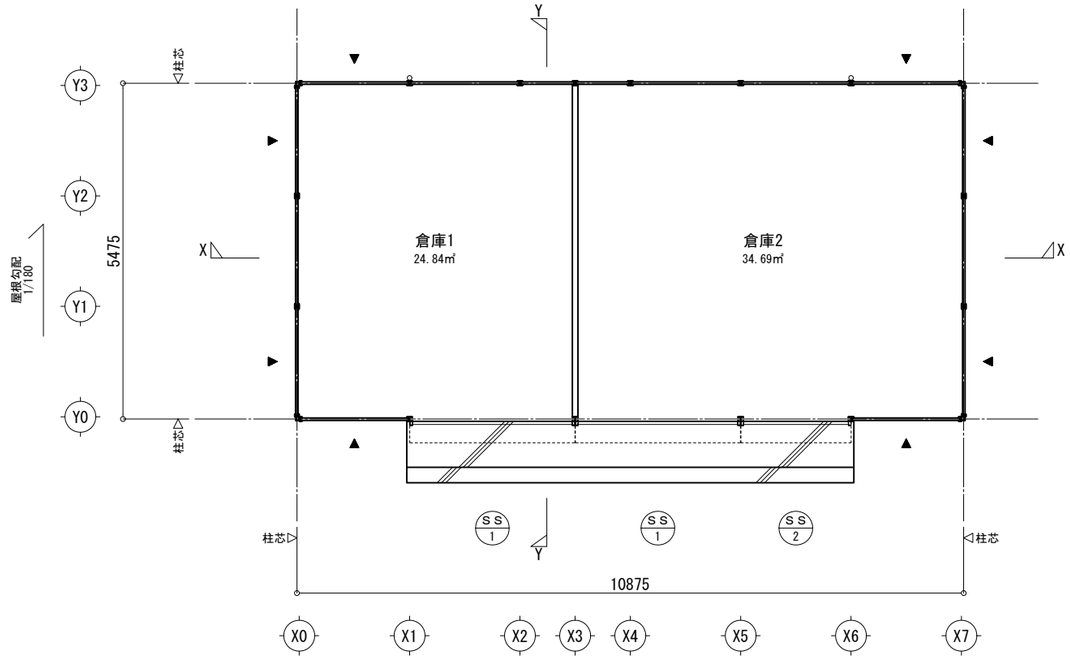
室 内 仕 上 表

階	室 名	床	巾 木	壁	天井	廻 縁	天井高	備考
1	倉庫1,2	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え		内壁:外壁ﾊﾟﾈﾙあらわし 間仕切壁:石膏ボード t=12.5 あらわし	屋根材裏あらわし		梁下まで 2,835	

符号・数量	SS 1 手動軽量鋼製ｼｬｯﾀｰ 2	SS 2 手動軽量鋼製ｼｬｯﾀｰ 1	
姿 図			
仕 上	鋼製 ｽﾗｯﾄt=0.5	鋼製 ｽﾗｯﾄt=0.5	
硝 子	-	-	
備 考	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座金	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座金	
	付属金物一式	付属金物一式	



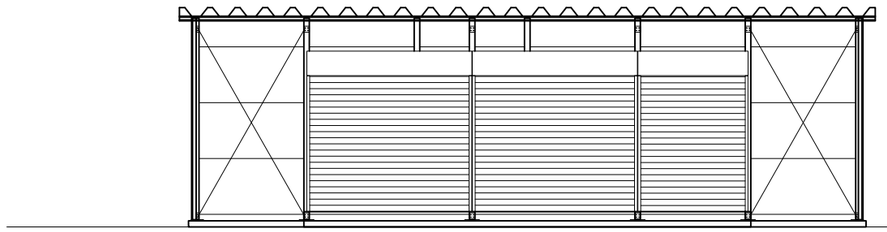
屋根伏図 S=1/100



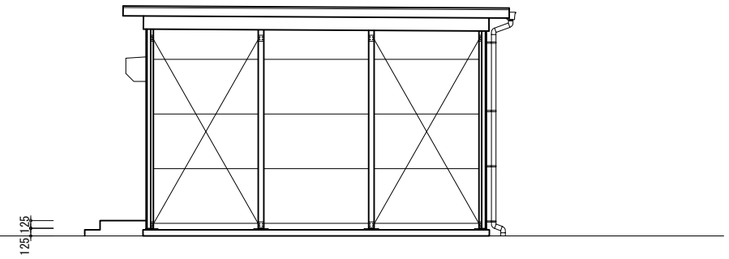
平面図 S=1/100

※▼・・・壁ブレース位置を示す。

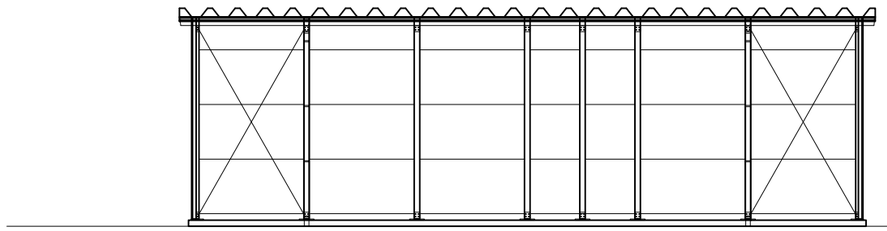
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	設計概要・仕上表・建具表・平面図（仮設倉庫）		
縮 尺	1/100	図面番号	288
下関市ボートレース企業局			



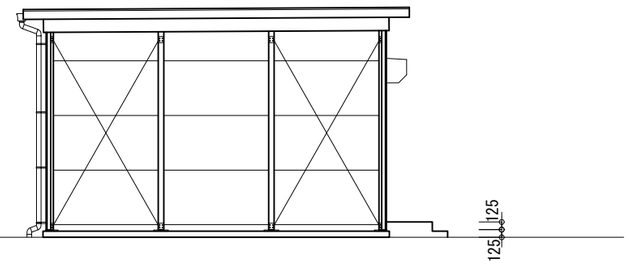
Y0 立面図 S=1/100



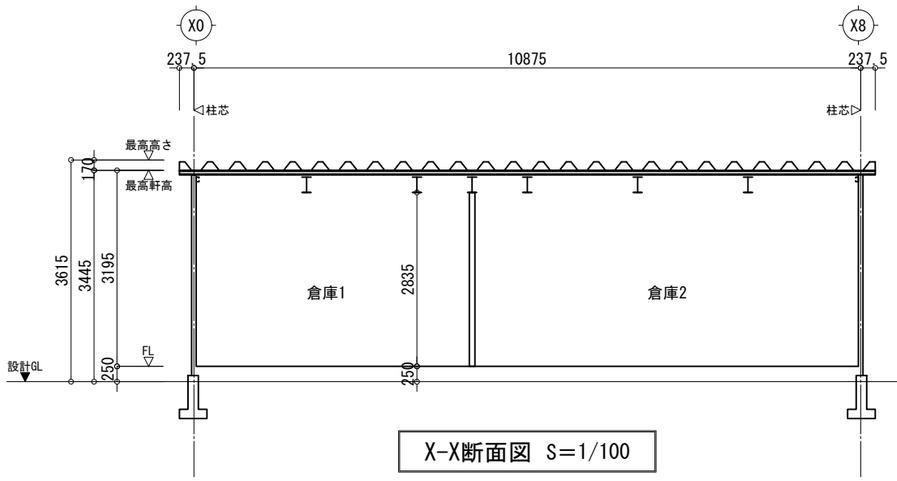
X8 立面図 S=1/100



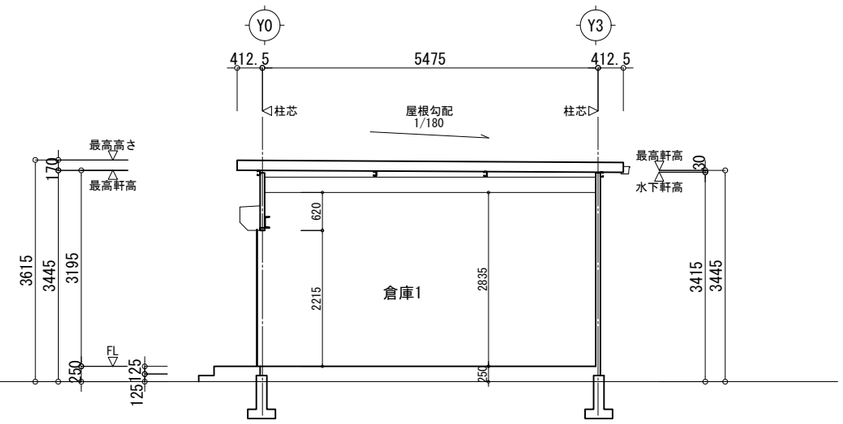
Y3 立面図 S=1/100



X0 立面図 S=1/100



X-X断面図 S=1/100



Y-Y断面図 S=1/100

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	立面図・断面図（仮設倉庫）		
縮　尺	1/100	図面番号	289
下関市ボートレース企業局			

梓設計　建築工事補足仕様書　　（令和4年版）

梓設計建築工事補足仕様書(以下「補仕」という。)は、全て社団法人公共建築協会編「民間（七会）連合協定工事請負契約約款に適合した工事共通仕様書令和2年版(建築工事編）」（以下「共仕」という）に対して構成されている。

特記補足仕様書

1章　一般共通事項

補5節　施　　工

補1.5.1　総　合　図　等

（ａ）総合図は、施工者が建築、設備、その他関連する工事の概要を把握し、施工図の作成の適正化と効率化のために、一つの図面に建築、電気設備、機械設備その他関連する器具、機械類、アウトレット類を網羅し記入することにより、工事の全体概要と相互関係を把握し、各工事相互の調整、整合を図り、工事の円滑な進行に資することを目的とし作成する。作成する図面の種類と範囲及び縮尺は特記による。

（ｂ）総合図は、建物用途や機能等により、更に詳細な内容や詳細な寸法が必要な場合は、総合施工図として作成する。

（ｃ）総合施工図(以下総合施工図は総合図を含め総合図等という。)の作成は総合図の作成に準拠し、作成の適用及び作成する図面の種類と範囲ならびに縮尺等は特記による。

（ｄ）総合図等の作成は、次による他、総合図等の作成例ならびに記入する機器類等の詳細は、「監理方針書」による。

（１）総合図等作成の主体
総合図等は、建築工事施工者が総合図等作成の元図を作成し、各関連工事施工者がこれに記入して作成する。

（２）総合図等の指示と調整
総合図等の作成は、監理者の指示により、各施工者間で調整する。設計図書の不整合、設計変更が発生した場合は、監理者が調整を行う。

（３）総合図等作成の手順と方法

（ⅰ）作成手順
工事の工程における総合図等の作成は、工事別施工図の作成開始前に完成する。

（ⅱ）作成要領
基本的に総合図等は、全体的把握が目的であるので、表現は必要最小限としわかり易いことを旨とする。

（４）総合図等に記入する機器類等
総合図等には、各工事に含まれる機器、器具類、アウトレット類を原則として全て、元図となる平面図、展開図、天井伏図等に記入する。別途発注になる家具、機器類も記入する。

（５）関口確認会議の実施
① 建築工事施工者は、施工図を作成するにあたり、建築・設備その他設計図書に分散して盛り込まれている建具やダクト、配管類の躯体開口情報を一元化し、意図伝達者・監理者と調整及び確認する。
② 実施時期は総合図のチェック・調整を行う時期とするが、施工図作成等現場業務に影響を与えないよう注意する。具体的な開催時期は監理者と協議を行い決定する。

（６）総合図の確認と承認
（２）による調整の完了した総合図等に対する監理者による承認の必要性の有無は、特記による。特記がなければ、監理者の調整完了の確認により、各工事別施工図の作成に活用する。確認の場合の手順等に関しては、監理者と協議の上、決定する。

補7節　完成図等

補1.7.1　工事完成図等

ＣＡＤ図面データに関する規定は、下記による他、事前に監理者と打合せを行い、その内容を確認する。

（１）完成図の作成に際して、梓設計作成のＣＡＤ設計図データを使用する場合には梓設計所定の「ＣＡＤデータ使用契約書」により両社において契約を締結する。

（２）ＣＡＤデータを提出する場合、梓設計が受領したＣＡＤデータの使用権は、梓設計が有するものとする。

（３）ＣＡＤソフトはＡutoＣＡＤを標準とし、データ形式は、ＡutoＣＡＤの標準フォーマットであるＤＷＧ形式とする。(ＡutoＣＡＤは米国オートディスク社の登録商標)ＤＷＧ形式への対応ができない場合に限り、ＤＸＦ形式を認める。

（４）ファイル名、レイヤ名、線種、文字スタイル、ペン種別等に関しては、監理者との協議による。

（５）ＣＡＤデータの受渡しに際しては、「工事に関する書類作成要領-施工者が提出する書類-」で規定する。媒体の種類、仕様により作成する。

補1.7.2　竣工データファイル

ディスク(記録媒体)による竣工データファイルの作成に関しては、次による他、事前に監理者と協議を行い、その内容を確認する。ﾒﾃﾞｨｱｽｸ(記録媒体)：DVD-R(ｗｉｎｄｏｗｓﾌｫｰﾏｯﾄ4.7GB以上)

（１）竣工引渡し書類中のディスク化対象書類
（ⅰ）建築概要・設計要旨
（ⅱ）完成図
設計図及び各種計算書の引渡し時の状態を表現したものとする。
＊具体的な対象図面・書類名称については、「特記仕様書７．完成時の提出書類」による。
（ⅲ）施工図
構造躯体図の他、総合図を含む建物維持管理に必要な施工図
（ⅳ）竣工引渡し書類
① 維持管理上必要な図書
② 工事契約上の書類
③ 官公署関連の許可・認可等の書類
＊ ①～③の具体的な書類名称については、「工事に関する書類作成要領-施工者が提出する書類-」による。
（ⅴ）竣工写真
竣工写真アルバムと同じカットを収録する。

（２）ディスク作成仕様
ディスク化を行う対象の資料は、スキャナーから読込みデジタル化を行う。
（ⅰ）(１)・(ⅰ)～(ⅳ)のデジタル化仕様（下記①、②を収録する）
① ＴＩＦＦファイル形式
データ形式：ＴＩＦＦ(インテルアーキテクチャを標準とする)Ｖ5.0以上、１ファイル１画像
解像度：400dpi(Ａ3を超えるものは200dpi)
色彩：モノクロ　　＊カラーの場合はフルカラー
サイズ：原稿原寸
データ圧縮形式：ＬＺＷ
② ＰＤＦファイル形式
上記①の仕様にてスキャナーから読み込んだＴＩＦＦファイルを一つのＰＤＦファイルに変換し同ＣＤ－ＲＯＭに格納する。ＴＩＦＦ形式データにおけるフォルダ、ファイルの階層構造を同様に設定しＰＤＦファイルの“しおり”に置き換える。建物規模が大きく図面の数が多い場合は、監理者と打ち合わせの上、建築・電気・給排水・空調・その他工事のようにカテゴリー毎にそれぞれ一つのＰＤＦファイルとして格納する。（詳細な仕様に関しては「工事に関する書類作成要領-施工者が提出する書類-」による。）

（ⅱ）竣工写真のデジタル化仕様
データ形式：TIFF（インテルアーキテクチャーを標準とする）Ｖ5.0以上、１ファイル１画像
色　彩　　：フルカラー
サイズ　　：原稿原寸
データ圧縮形式：G4MMR
（ⅲ）ディスクには各種ビュワーソフトの格納は行わない。
（ⅳ）その他詳細な仕様については「工事に関する書類作成要領-施工者が提出する書類-」による。

補1.7.3　竣　工　写　真

（ⅰ）撮影者、撮影箇所、撮影日時などについては監理者と詳細に協議する。
（ⅱ）設備工事などが分離発注されている場合も、監理者と協議のうえ、各工事協調して撮影からアルバム製作に至る作業を１本化する。
（ⅲ）提出部数、装丁などは下記を標準とする。

	発注者提出用	梓設計受領用⑤～⑨
部数	特記仕様書による部数	
装丁	監理者の指示による	監理者の指示による写真サイズ
写真サイズ	特記仕様書による	特記仕様書による
その他	① 第1頁に建物概要を挿入する。 ② 各写真に標題（撮影箇所の説明）を付ける。 ③ 各写真にネガ照合番号を付ける。 ④ 最終頁に撮影者（名称・住所・電話番号） ネガの所在・版権の所在などを表示する。 ⑤ アルバムには市販のA4版30穴クリアファイル・ホルダーを使用して下さい。 （カラーは黒を使用のこと） ＊ 写真枚数に合わせて最適な厚さと、耐久性のあるものを選定して下さい。 ⑥ 写真用ポケットは下記製品、または同様の他社製品を使用して下さい。 建築概要、写真リスト等、キャビネ以上のサイズの写真を入れる場合は通常のA4クリアファイル、または下記製品のA4/1ポケットを使用して下さい。 ＊サンプルが必要な場合は情報システム部へ請求して下さい。 （TEL　03-6710-0364） ＊ 透明ポケット２ファイル(A4-L・30穴)　品番S-842 メーカー名：コレクト(株) 東京都台東区元浅草3-19-2 TEL:03-3844-7151 ⑦ 写真サイズは原則としてキャビネ版とし、写真の脱落防止のため中厚の台紙を入れ、１ポケット裏・表に１枚ずつ、計４枚の写真をセットして下さい。 ＊ ポケットNo・カット名・ネガNoを台紙左上に、テプラ等による表示して下さい。 （その際はベースの薄いものを使用のこと） ⑧ ページ構成は次の順でセットして下さい。 １）建物概要　２）設計主旨　３）図面　４）竣工写真 ５）写真リスト　＊ﾎﾟｹｯﾄNo、ｶｯﾄNo、ﾈｶﾞNo ＊案内、配置、各階平面、立面、断面図 撮影者名、ｶﾒﾗﾏﾝ名、住所、TEL・FAX ⑨ 竣工写真タイトルは背表紙に縦書きで建物名を、コードNoを横書きで下記の位置に表示して下さい。 建物名または工事名 コード番号 ○○○○ ＊背表紙はホルダーの内側にセットして下さい ⑩ 注意：このアルバムは梓設計に提出する１冊のみの体裁です。 それ以外は、要望がない限り現状のアルバムを使用してください。
注）「その他」の③④項は、後日（場合によっては10年～数10年後）梓設計または発注者から幾増注文を行う際のために必要な事項なので、必ず記載する。		

（Ⅳ）アルバムの表紙および背の表示内容は監理者の指示による。
（Ⅴ）建物概要作成仕様は監理者の指示による。
（Ⅵ）竣工写真（カラー）のデジタル化は「補足仕様書1.7.2」による。

補1.7.4　保全に関する資料

保全に関する資料の作成は「共仕」による他、「工事に関する書類作成要領-施工者が提出する書類-」を参照すること

（１）数量調書
数量調書は、建物完成後の維持管理の保全並びに更新段階に必要となる、建物各部の数量をまとめたもので、工事期間中の設計変更、追加工事等の内容を反映し、建物完成時の状態を表現するものとする。
作成する項目、範囲に関しては特記仕様書　1.7[完成時の提出図書]による他、監理者の指示による。

補1.7.5　施工者による自主的な品質管理

（ａ）請負者は、施工品質の自主的管理を実施するために自主施工管理者を選任した施工管理体制を組織し、自主施工管理者による指導及び監理を実施し、品質管理を徹底する。

（ｂ）自主施工管理者が、その者の責任において実施する指導及び監理者の重点管理項目は、次に掲げる時期及び事項を標準とする。

（１）品質管理の時期

（ⅰ）品質保証活動の方針決定段階
施工者は、工事着手時に監理者が設計説明会において、建築主の基本的要求品質や設計者の設計意図及び監理者による工事監理方針等、設計で意図した要求品質を確保するための方針を受けて、工事目的物を要求性能通りに完成させるために、工事運営計画書を作成する。工事運営計画書は、施工運営方針、基本施工計画、基本施工管理計画により、施工者側の心構え、施工のやり方、品質管理のルールの原則を明確にする。

（ⅱ）合意品質のつくり込みの段階
自主施工管理者と施工者は、設計品質を具体的に品質の目標を定めた合意品質としてつくり込むために、総合的な各工事間の調整を行い、施工図、施工計画書、施工品質管理計画書に反映させる。
施工品質管理計画書に反映させる品質管理の内容は、次の事項を標準とする。
① 品質管理の方針
② 施工中の品質管理
管理項目、管理水準(規準)、管理分担、管理方法、管理限界を外れた場合の処置
③ 施工完了時の検査
検査項目、検査方法、検査体制

（ⅲ）品質保証活動の確認の段階
施工者は、「合意品質のつくり込み」で具体的に計画した活動を実施し、その結果が目標レベルでの許容範囲内に入っているかどうか確認するため工事中間時及び工事完成時に性能、機能検査を含めた品質検査を行い、記録、報告する。

（２）品質管理の対象事項

（ⅰ）品質管理を実施する事項は、「共仕」の基本要求品質に関する事項及び建築工事監理指針(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修令和元年版)による各章の基本要求品質及び、施工計画書記載事項のうち品質計画に関する事項とする。各章の項目に表示されている項目は補表1.7.1による。

補表1.7.1　建築工事監理指針による基本要求品質及び施工計画書に記載する品質計画

章	工事項目	基本要求品質	施工計画書に記載する品質計画
3	土工事	3.1.2	3.1.1(3)
4	地業工事	4.1.2	4.3.1(3)既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業 4.4.1鋼杭地業 4.5.1(3)場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業
5	鉄筋工事	5.1.2	5.1.1(3)
6	ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	6.1.2	6.1.1(3)
7	鉄骨工事	7.1.2	7.1.5(5)
8	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ ALCﾊﾟﾈﾙ・押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	8.1.2	8.2.1(3)補強ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造 8.3.1(3)ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ帳壁及び塀 8.4.1(5)ALCﾊﾟﾈﾙ 8.5.1(3)押出成形セメント板（ECP）
9	防水工事	9.1.2	9.2.1(3)(ｸ)ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 9.3.1(3)(ｲ)改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水 9.4.1(3)合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水 9.5.1(3)(ｲ)塗膜防水 9.6.1(3)(ｲ)ケイ酸質系塗布防水 9.7.1(3)ｼｰﾘﾝｸﾞ
10	石工事	10.1.2	10.1.1(4)
11	タイル工事	11.1.2	11.2.1(2)セメントモルタルによる陶磁器質ﾀｲﾙ張り 11.3.1(3)接着剤による陶磁器質ﾀｲﾙ張り 11.4.1(2)陶磁器質ﾀｲﾙ型枠先付け
12	木工事	12.1.2	12.1.1(3)
13	屋根及びとい工事	13.1.2	13.2.1(3)長尺金属板葺 13.3.1(3)折板葺 13.4.1(3)粘土瓦葺 13.5.1(2)とい
14	金属工事	14.1.2	14.4.1(3)軽量鉄骨天井下地 14.5.1(3)軽量鉄骨壁下地 14.6.1(3)金属成形板張り 14.7.1(3)ｱﾙﾐﾆｳﾑ製笠木
15	左官工事	15.1.2	15.3.1(3)ﾓﾙﾀﾙ塗り 15.5.1(3)ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り 15.6.1(3)仕上塗材仕上げ 15.8.1(3)せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ塗り
16	建具工事	16.1.2	16.1.1(3)
17	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	17.1.2	17.1.2(1)～(3)
18	塗装工事	18.1.2	18.1.1(3)
19	内装工事	19.1.2	19.2.1(3)ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ、ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ及びｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ張り 19.3.1(3)ｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 19.4.1(3)合成樹脂塗り床 19.5.1(3)ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り 19.6.1(3)畳敷き 19.7.1(3)せっこうﾎﾞｰﾄﾞ、その他ﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張り 19.8.1(3)壁紙張り 19.9.2(3)断熱・防露
20	ﾕﾆｯﾄ及びその他の工事	20.1.2	20.3.1(4)ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ工事 14.8.1(3)手すり及びﾀﾗｯﾌﾟ
21	排水工事	21.1.2	21.1.1(6)
22	舗装工事	22.1.2	22.1.1(4)
23	植栽及び置土緑化工事	23.1.2	23.1.1(3)
注）基本要求品質欄の番号は、令和2年版[共仕]の項目番号を示し、施工計画書に記載する品質計画欄の番号は、[建築工事監理指針(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)令和元年版]の項目番号を示す。			

（ｃ）自主施工管理者の実施する重点管理項目は、（ｂ）による事項について、施工者は監理者との協議により、当該工事の品質管理上必要な事項を重点管理項目に選定して、運用する。

補8節　性能試験

補1.8.1 性能試験

（ａ）材料や施工の品質及び性能の確認のために実施する性能試験を要する工事の内[共仕]に記載されたものを除いた試験は次により、その適用は、特記による。

（ｂ）試験の項目

（１）防水工事　　漏水試験(防水一般)
塗膜厚試験(塗膜防水)
漏水試験(金属シート防水)
真空試験(金属シート防水)

（２）石工事　　圧縮強さ試験

（３）タイル工事　　接着力試験
吸水率及びひび割れ試験

（４）木工事　　含水率試験

（５）屋根及びとい工事　　とい通水試験

（６）建具工事　　耐風圧性能試験
気密性能試験
水密性能試験
遮音性能試験
断熱性能試験
耐露性能試験

（７）カーテンウォール工事　　ユニットの耐風圧性能試験
ユニットの層間変位追従性能試験
ユニットの水密性能試験

（８）塗装工事　　塗り厚試験

（９）内装工事　　床遮音性能試験
音環境測定試験

（ｃ）試験の工程

（１） 防水工事

（ⅰ）屋外（屋根等）漏水試験は、原則として3日間水張り試験とし、水張り深さは水上で10cm以上とする。
但し、荷重条件等により水張り試験が困難な場合には、監理者と協議の上、放水試験に替えることができる。

（ⅱ）屋内(浴室、厨房等)漏水試験は、原則として24時間水張り試験とする。

（ⅲ）外壁防水層の厚さの試験は、製造所管理者の報告による。

（ⅳ）金属シート防水の試験の種別は次による。
① 真空試験：各継手交点を行う。
② 漏水試験：防水工事に倣う。

（２）石工事
試験は、JIS A5003(石材)の規定により、種別は次による。
① 吸水率試験
② 圧縮強さ試験

（３）タイル工事
吸水率及びひび割れ試験：寸法及び形状がJIS A5209(セラミックタイル)の規格にないものは、吸水率及びひび割れ試験(オートクレーブ試験器)を行う。吸水率は3%以下、ひび割れ試験圧力は1N/mm2を標準とする。

（４）木工事
含水率試験：工事現場に搬入時とし、測定方法は全乾重量法又は高周波水分計法とする。

（５）屋根及びとい工事
とい　屋根の排水管は通水試験を行う。

（６）建具工事

（ⅰ）性能及び区分は下表とし、JIS A 4706(サッシ)の規定による。

（ⅱ）試験方法は、JISの規定により、種別は次による。但し、カーテンウォール製品は、カーテンウォール性能基準(JCMA基準)を適用する。
① 耐風圧性能試験JIS A 1515(建具の耐風圧性試験方法)
② 気密性能試験　JIS A 1516(建具の気密性試験方法)
③ 水密性能試験　JIS A 1517(建具の水密性試験方法)
④ 遮音性能試験　JIS A 1416(実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法)
⑤ 断熱性能試験　JIS A 4710(建具の断熱性試験方法)
⑥ 耐露性試験　JIS A 1521(片開きドアセットの面内変形追随性試験方法)
⑦ 耐風圧性能試験JIS A 4705（重量シャッター構成部材）
⑧ 耐風圧性能試験JIS A 4704（軽量シャッター構成部材）
⑨ 耐風圧性能試験JIS A 4715（オーバーヘッドドア構成部材）

補表1.8.1　耐風圧性能(Pa)

耐風圧性能の等級	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6	S-7	S-8
JISによる対応値	800	1200	1600	2000	2400	2800	3600	U

補表1.8.2　気密性能(等級級)

気密性能の等級	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
JISによる対応値	120	30	8	2	U

補表1.8.3　水密性能(Pa)

水密性能の等級	W-1	W-2	W-3	W-4	W-5	W-6
JISによる対応値	100	150	250	350	500	U

補表1.8.4　遮音性能(等級級)

遮音性能の等級	T-1	T-2	T-3	T-4	T-5
JISによる対応値	25	30	35	40	U

補表1.8.5　断熱性能(W/(㎡・K))

断熱性能の等級	H-4	H-5	H-6	H-7	H-8	H-9
JISによる対応値	2.9以下	2.3以下	1.9以下	1.5以下	1.1以下	U

補表1.8.6　日射熱取得性能

日射熱取得率	N-1	N-2	N-3	N-4
JISによる対応値	1.00	0.50	0.35	U

補表1.8.7　面内変位追随性能(rad)

面内変位追随性能の等級	D-1	D-2	D-3	D-4
JISによる対応値	1/300	1/150	1/120	U

補表1.8.8　耐風圧性能（Pa）
重量シャッター耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ・ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ耐風圧強度計算基準」による。

補表1.8.9　耐風圧性能（Pa）
軽量シャッター耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ・ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ耐風圧強度計算基準」による。

補表1.8.10　耐風圧性能（Pa）
オーバーヘッドドア耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ・ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ耐風圧強度区分」による。
注）U：JIS規格を超えるもの。数値を指定する場合は特記する。

（７）カーテンウォール工事
性能及び区分は補表1.8.11～補表1.8.13とし、社団法人日本カーテンウォール工業会のカーテンウォールの性能基準(JCMA基準)の規定による。試験方法はJIS A 1414(建築用(パネル)の性能試験方法)及びJCMA基準を適用する。
① ユニットの耐風圧性能試験
② ユニットの層間変位追従性能試験
③ ユニットの水密性能試験

補表1.8.11　耐風圧性能グレード

荷重(Pa)	2400	2800	3600	5000
性能グレード	1　2	3	4	5

補表1.8.12　層間変位追従性能グレード

層間変位角(rad.)	条件1	1/400	1/300
	条件2	1/300　1/200	1/150　1/100
性能グレード		1　2	3　4　5

注）条件１：健全で再使用できる程度
条件２：主要部が破損しない程度

補表1.8.13　水密性能グレード

圧力差(Pa)	可動部	350	500	650	1000
	はめ殺し部	650	1000	1500	2000
性能グレード		1　2	3	4	5

（８）塗装工事
塗料一般の試験は、JIS K 5600(塗料一般試験方法)の規定により、塗り厚試験の項目は、次による。
① 塗膜の外観
② 乾燥膜厚の測定
③ 試験を行う塗料の種類及び適用箇所は、特記による。

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事補足仕様書（１）		
縮　尺	－	図面番号	290
下関市ボートレース企業局			

（9）内装工事
（ｉ）フローリング張り床、弾性床及び遮音床の遮音性能試験測定方法及び、評価方法は、次のJIS
の規定及び日本建築学会推奨測定基準による。又、測定対象は、軽量衝撃音及び重量衝撃音とし、適用は特記による。
① JIS A 1418(建築物の床衝撃音遮断性能の測定方法)
② JIS A 1419(建築物及び建築部材の遮音性能の評価方法)
（ⅱ）音環境測定試験
① 測定方法及び、評価方法は、次のJISの規定及び日本建築推奨測定基準による。
（イ）JIS A 1409（残響室法吸音率の測定方法）
（ロ）JIS A 1417（建築物の空気音遮断性能の測定方法）
（ハ）JIS A 1418（建築物の床衝撃音遮断性能の測定方法）
（ニ）JIS A 1419（建築物及び建築部材の遮音性能の評価方法）
（ホ）JIS A 1520（建具の遮音試験方法）
（ヘ）JIS Z 8731（環境騒音の表示・測定方法）
② 測定項目は、次により、項目の適用及び測定対象室等の適用箇所は、特記による。
（イ）外周壁遮音測定
（ロ）室間遮音測定
（ハ）床衝撃音測定
（ニ）室内音響測定　室内騒音レベル測定、室内残響測定、室内明瞭度測定
（ホ）給排水音測定

2章　仮設工事

補5節　工事用看板

補2.5.1　工事用看板
工事現場の適切な場所に、粋設計工事用看板を設ける。
（a）設置の適用
「社名看板」：設置する。
「外部足場上部看板」：設置の要否などは監理者の指示による。
「工事監理事務所に掲げる看板」：設置の要否などは監理者の指示による。
（b）各看板の仕様は「工事現場に掲示する看板等の運用基準」による。
（c）工事用看板の製作者は、特記による。

8章　ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾟﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事

補4節　ＡＬＣパネル

補8.4.1　ＡＬＣパネル
この節は、建築基準法により認定されたＡＣＬパネルを圍仕切壁、屋根(非歩行用)、床及び外壁に用いる工事に適用する。ここに規定のないものは、「共仕」8章4節［ＡＬＣパネル］による。

補8.4.2　材　　料
（a）外壁パネルのパネル形状、表面形状等は次により、適用は特記による。
（1）パネル形状
（ｉ）一般パネル（平パネル）、（ⅱ）コーナーパネル
（2）表面形状等
（ｉ）フラットパネル、（ⅱ）デザインパネル、（ⅲ）プレコートパネル、（ⅳ）撥水パネル
（b）圍仕切壁パネルのパネル形状、表面形状等は次により、適用は特記による。
（1）パネル形状
（ｉ）一般パネル（平パネル）、（ⅱ）コーナーパネル
（2）表面形状等
（ｉ）フラットパネル、（ⅱ）デザインパネル、（ⅲ）撥水パネル

補8.4.3　屋根及び床パネル構法
屋根及び床パネル構法は「共仕」8.4.5[屋根及び床パネル構法]に指定された構法を、敷設筋構法と称す。

補8.4.4　耐火性能
（a）パネルの耐火性能は、特記による。
（b）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（c）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補5節　押出成形セメント板(ECP)

補8.5.1　押出成形セメント板(ECP)
この節は、外壁及び圍仕切壁に用いる押出成形セメント板(以下、ECPパネルという)の工場製品に適用する。
ここに規定のないものは、「共仕」8章5節[押出成形セメント板]による。

補8.5.2　材　　料
ECPパネルのうち壁用パネルの種類、表面形状等は、次により、適用は特記による。
（1）種　　類
（ｉ）常備品、（ⅱ）受注生産品、（ⅲ）特注品
（2）表面形状
（ｉ）フラットパネル、（ⅱ）標準リブパネル、（ⅲ）特注規模パネル、（ⅳ）タイルパネル、（ｖ）タイル下地パネル、（ⅵ）塗装化粧パネル、（ⅶ）コーナーパネル

補8.5.3　パネルの取扱い
（a）種類、長さなどの異なるパネルは、原則として混合して積上げてはならない。

補8.5.4　外壁パネル工法
外壁パネル工法は「共仕」8.5.3［外壁パネル工法］の表8.5.1［外壁パネルの取付け工法種別］にＤ種を追加する。
Ｄ種の工法は補表8.5.1による。

補表8.5.1　外壁パネルの取付け工法種別

種　別	取　付　け　工　法
Ｄ　種	（大型パネル工法） （1）工場組立とする。 （2）性能は、建築基準法施行令又は建設省告示第1458号(平成12年5月31日)に定められた風圧に対して安全なものとし、層間変位追従性等の性能について満足するものとする。 （1）性能などを証明する計算書等の資料を提出すること。 （2）所定の取付け順序及び方法によって建込み、仮止め後取付け位置を調整し、本締めを行う。 現場溶接を行った場合には、「共仕」表18.3.1[鉄鋼面錆止め塗料の種別]のＢ種の錆止め塗装を行う

補8.5.5　溝掘り及び開口部の補強
（a）切断加工(欠込み及び孔あけ)は原則として工場加工とし、パネル製造所の基準に基づいて行う。切断部は必要に応じて補修材にて充填を行う。
（b）開口部の補強は、特記による。特記がなく、地上高さが16m以下の部分で軽微な場合は次による。
（1）外壁パネル縦張り工法

補表8.5.2　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1000	Ｌ－50×50×6	Ｌ－50×50×6
1000＜Ｗ≦1800	Ｌ－65×65×6	Ｌ－65×65×6
1800＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×6	Ｌ－75×75×6

（2）外壁パネル横張り工法

補表8.5.3　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1500	Ｌ－75×75×6	Ｌ－50×50×6
1500＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×9	Ｌ－65×65×6

（3）圍仕切壁パネル工法

補表8.5.4　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1000	Ｌ－50×50×6	Ｌ－50×50×6
1000＜Ｗ≦1800	Ｌ－65×65×6	Ｌ－65×65×6
1800＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×6	Ｌ－75×75×6

（3）圍仕切壁パネル工法

補表8.5.4　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1000	Ｌ－50×50×6	Ｌ－50×50×6
1000＜Ｗ≦1800	Ｌ－65×65×6	Ｌ－65×65×6
1800＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×6	Ｌ－75×75×6

補8.5.6　耐火性能
（a）耐火性能は、特記による。
（b）ECPパネルの中空充填材（外壁は除く）はロックウールとし、適用は特記による。
（c）本実継ぎ以外の目的は耐火目地材を充填する。耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（d）ECP取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補8.5.7　施　工　図
（a）ECPパネルの割付図を作成する。
（b）ECPパネル幅の最小限度は、原則として補表8.5.5による。

補表8.5.5　ECPパネル幅の最小限度

パネル長さ　Ｌ　mm	Ｌ≦2000	2000＜Ｌ≦3000	3000＜Ｌ≦5000
最小幅　　mm	200	250	300

補6節　繊維補強セメント・コンクリート複合材

補8.6.1　適 用 範 囲
この節は、各種繊維により補強されたセメント・コンクリートの工場製品に適用する。

補8.6.2　種　　別
（a）繊維補強セメント・コンクリート複合材の種別は次による。
（1）炭素繊維補強セメント複合材　ＣＦＲＣ(Carbon Fiber Reinforced Concrete)
（2）ガラス繊維補強セメント複合材　ＧＲＣ(Glass Fiber Reinforced Concrete)
（3）鋼繊維補強セメント複合材　ＳＦＲＣ(Steel Fiber Reinforced Concrete)
（4）合成繊維補強セメント複合材 ＰＦＲＣ(Plastic Fiber Reinforced Concrete)
（5）ビニロン繊維補強コンクリート板ＶＦＲＣ（Vinilon Fiber Reinforced Concrete）
（b）繊維補強セメント・コンクリート複合材の標準的な適用は次により、その適用は特記による。
（1）一般的な建築内外塗材は、ＣＦＲＣ又は、ＧＲＣを適用する。
（2）外溝及び土木用の部材は、ＳＦＲＣを適用する。
（3）強度及び耐火性能等をそれほど必要としない備品的な成形品は、ＰＦＲＣを適用する。

補8.6.3　材　　料
繊維補強セメント・コンクリート複合材を構成する材料は、セメント、骨材(砂、人工軽量骨材)、繊維により構成され、使用するセメントによるパネルの物性その他特徴は、補表8.6.1により、その適用は、特記による。

補表8.6.1　使用するセメントによるパネルの物性その他

物性その他	普通ポルトランドセメント	低アルカリセメント
アルカリ性	PH－12～12.5	PH－10.5～11
インサート類	電気亜鉛めっき程度	ステンレス
吸水率	6～9%	12～18%
塗装性	密実なので塗装ののり が良い	ポーラスであるので、塗装には下地 処理が必要
乾燥収縮率	600～800×10^{-6}	300～400×10^{-6}
模様	角欠けしにくく模様の再現性が良い	脱型時にやわらかいため模様の再現性は劣る
表面仕上げ材	打放し品に適する塗装	塗装・タイル・石打込み、長大・細長品に適する
耐久性	タイル・石型枠先付けの場合、版の「そり」が発生しやすい	乾燥収縮率が小さいので耐久性が高い
コスト	-	セメント、取付け金物とも高価

補8.6.4　工　　法
繊維補強セメント・コンクリート複合材パネルの製造法は次により、その適用は特記による。
（1）ダイレクトスプレー法（ＧＲＣに限る）
薄板上で、複雑なパターンの模様、形状等を持つパネル製品の成形に適している。レリーフ、くり形等の表現の際内部を空洞化し、軽量化できる。セメントモルタルをスプレーガンで吹付け加工しながら同時に繊維をチョッパーガンで一定の長さに切断しながら吹付けていく方法。ＦＲＰ製品の製法に近く、高強度で軽量なパネルが得られる。
（2）プレミックス法
セメントと、あらかじめ適当な長さに切断された繊維をミキサー内で混合し、形枠に流込む工法。混合時のガラス繊維の損傷で成形が困難である等の難点があったが、流込み技術の改善により採用が増えている。ＰＣ板の製法に近く、ダイレクトスプレー法に比べ厚肉で重量も大となる。補強筋(線)により強度を付加する場合が多い。

補8.6.5　耐 火 性 能
（a）パネルの耐火性能は、特記による。
（b）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（c）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補7節　穴あきＰＣ板

補8.7.1　適 用 範 囲
この節は、建築基準法により認定された、空洞プレストレストコンクリートパネル(以下穴あきＰＣ板と称す)を外壁及び圍仕切壁のうちの非耐力壁と屋根及び床に用いる工事に適用する。

補8.7.2　材　　料
（a）穴あきＰＣ板は、JIS A 6511(空洞プレストレストコンクリートパネル)の規格品とし、種類、寸法、配筋による種別、表面形状、表面仕上げ材、常備品及び特注品等の区分は、特記による。
（b）鋼材の種類
（1）JIS G 3536(ＰＣ鋼線及びＰＣ鋼より線)に規定するＰＣ鋼より線並びにこれに準ずるもの
（2）JIS G 3109(ＰＣ鋼棒)に規定するＰＣ棒鋼
（3）鉄筋の種別は「共仕」表5.2.1[鉄筋の種類等]により、径は板厚に適応したものを使用する。
（4）JIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)に規定する平鋼
（5）JIS G 3532(鉄線)に規定する普通鉄線
（6）JIS G 3551(溶接金鋼)に規定する溶接金鋼
（c）取付け金物
（1）ボルト、ナット及び座金の形状寸法等は、JIS B 1180(六角ボルト)、JIS B 1181(六角ナット)及び JIS B1256(平座金)による。
（2）取付け金物及び開口部補強鋼材はJIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)のSS400とする。
（3）その他の金物は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（d）金物の表面処理
ボルト、ナット、座金及びその他の取付け金物、開口部補強鋼材及び溶接部には「共仕」表18.3.1[鉄鋼面錆止め塗料の種別]のＢ種の錆止め塗装を行う。
（e）コンクリート
（1）コンクリートの強度は材齢28日で40N/mm2以上とする。
（2）ＰＣ鋼材のコンクリートかぶり厚は20mm以上とする。

補8.7.3　その他の材料
（a）モルタル用材料は、「共仕」15.3.2[材料]により、調合は穴あきＰＣ板製造所の指定する調合比とする。
（b）モルタルに使用する混和剤は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（c）穴あきＰＣ板の補修に用いる材料は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（d）穴あきＰＣ板相互の接合部に用いるシーリング材は、特記仕様書9.12[シーリング]による。

補8.7.4　穴あきＰＣ板の取扱い
穴あきＰＣ板の積上げには、捩れ、反り、及び曲がり等が生じない様に、所定の位置に正確に銅いものを銅い、積上げ高さは板の長さが5m未満の場合は10枚、5m以上の場合は7枚以下とする。

補8.7.5　施　工　図
（a）パネルの割付図及び施工図を作成する。
（b）穴あきＰＣ板の板幅の最小限は原則として壁用500mmとする。

補8.7.6　工　　法
（a）外壁縦張り工法
（1）取付け工法は、層間変位対応工法とし、層間変位量は、特記による。
（2）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（3）位置を決定したパネルを、上端2ヶ所以上下端2ヶ所以上の埋込み金物に、取付けピース(ファスナー)金物を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。
（4）ファスナーは、製造所の指定するものを使用する。
（b）外壁横張り工法
（1）取付け工法は、層間変位対応工法とし、層間変位量は、特記による。
（2）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（3）位置を決定したパネルを、上端2ヶ所以上下端2ヶ所以上の埋込み金物に、取付けピース(ファスナー)金物を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。
（4）ファスナーは、製造所の指定するものを使用する。
（c）圍仕切壁縦張り工法
（1）取付け工法の種類は、層間変位対応工法又は固定取付け工法とし、種別は、特記による。
（2）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（3）層間変位対応工法の上部は、片側の通しアングルに1枚当たり2ヶ所のアングルピースでパネルをはさみ込み、現場溶接で取付ける。又、パネル上部にロックウールを充填し、充填高さは、特記により、特記がなければ50mm以上とする。
（4）固定取付け工法は、位置を決定したパネルを片側の通しアングルに上端2ヶ所、下端2ヶ所でアングルピースを当てて躯体に現場溶接で取付ける。
（d）圍仕切り壁横張り工法
（1）取付け工法の種類は、層間変位対応工法又は固定取付け工法とし、種別は、特記による。
（2）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（3）層間変位対応工法は、パネルの上端2ヶ所下端2ヶ所の埋込み金物に取付け金物(ルーズホール付)を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。又、取付け金物及び固定工法は、製造所の仕様による。
（e）普通床工法
（1）取付け工法の種類は、現場溶接工法及び置きスラブ工法とし、種別は、特記による。特記がなければ現場溶接工法とする。
（2）パネルを所定位置に敷込む。
（3）現場溶接工法では、位置を決定したパネルを左右4ヶ所のアンカーに溶接する。
（4）置きスラブ工法では、位置を決定したパネルの周辺をモルタルで充填する。
（f）水平力負担床工法
（1）鉛直荷重及び水平荷重を負担する床工法に適用する。
（2）パネルを所定位置に敷込む。
（3）位置を決定したパネルを、シャチ目地及びシャチ金物で補強して、左右4ヶ所のアンカーに溶接する。
（g）合成床板工法
（1）鉛直荷重及び水平荷重を負担する床工法に適用する。
（2）パネルを所定位置に敷込む。
（3）パネルには、現場打ちコンクリートと一体となるよう製造所の仕様による
（4）スラブ鉄筋コンクリートには、「共仕」6章[コンクリート工事]による。

補8.7.7　穴あけ及び開口補強
（a）切断加工(切込み及び穴あけ)は、原則として図示し、工場加工とする。
（b）壁及び床の開口部の補強は図示による。
（c）切断加工によりＰＣ鋼より線のプレストレスが解除されることが予測される場合には、製造所の保証する工法で補強を行う。

補8.7.8　耐 火 性 能
（a）パネルの耐火性能は、特記による。
（b）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（c）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

9章　防水工事

補8節　複合防水

補9.7.1　適 用 範 囲
この節は、異なる2種類以上の屋根用防水材を複合させ、それぞれの性能を生かし、防水層を構成した複合防水に適用する。

補9.7.2　材　　料
（a）ウレタン系塗膜防水材(塗膜防水)
塗膜を形成する材料は、JIS A 6021(屋根用塗膜防水材)により、種類はウレタンゴム系1類、ウレタンゴム系2類とし、使用部位による区分は、平場は一般用、立上がり部は立上がり用とする。超速硬化ウレタンの場合は、平場・立上がり部は共用とする。
（b）ＦＲＰ系塗膜防水材(ＦＲＰ防水)
塗膜を形成する材料は合成樹脂(ポリエステル樹脂等)と補強材(無機のガラス繊維あるいは不織布)で、製造所の指定する製品とする。
（c）改質アスファルトシート材(改質アスファルト防水)
不織布付き改質アスファルトシートは、通気性及び下地亀裂抵抗性を有し、製造所の指定する製品とする。
（d）合成高分子系ルーフィングシート防水材(シート防水)
使用する合成高分子系ルーフィングシートは、合成ゴム系とし、接着または機械的固定を行う。
（e）その他材料
プライマー、補強布、接着剤、この節でいうシーリング材、仕上塗料等は、主材料製造所の指定する製品とする。

補9.7.3　種別及び工法
種別及び工法は、補表9.7.1により、適用は特記による。又、工法及び仕様は、製造所の仕様による。

補表9.7.1　複合防水の種別

種　別	工　　法	用　　途
[改質アス]＋[ＦＲＰ]系	不織布付き改質アスファルトシートを下地に貼着させ、ポリエステル樹脂を 塗重ねる。	歩行可能床
[改質アス]＋[塗膜]系	改質アスファルトシートを接着、貼着で下地に貼付け、上面にウレタン系塗 膜防水を塗布する。	露出屋根 湿潤下地
[塗膜]＋[ＦＲＰ]系	ウレタンゴム系塗膜防水を 2mm程度下地に塗布し、その上にポリエステル樹脂を1～2層塗りつける。	駐車場 屋上庭園 屋上遊興施設床
[塗膜]＋[改質アス] 積層系	改質アスファルトシートを常温液状ゴム化アスファルトで張付け、用途により積層することもできる。	耐久性を要する人工地盤等
[シート]＋[塗膜]系	合成ゴムシートを接着、又は機械的固定して、その上にウレタン系塗膜防水材を塗布、または超速硬化型ウレタン系塗膜防水材を吹き付ける。	露出屋根 湿潤屋根
[シート]＋[ＦＲＰ]系	合成ゴムシートを接着、又は機械固定し、その上にポリエステル樹脂を1～2 層塗付ける。	歩行可能床 湿潤下地

補9.7.4　施　　工
（a）防水層の下地
（1）防水層の下地は、「共仕」9.2.4(a)による。ただし、入隅は直角に、出隅は丸面に仕上げる。
（2）ルーフドレイン、便器、配管等と防水下地材との取合いは、シーリング材で処理する。
（b）プライマー塗りは、「共仕」9.3.4(b)による。
（c）下地の補強
（1）コンクリートの打継ぎ箇所及び著しいひび割れ箇所は、U形にはつり、シーリング材を充填した上、幅100mm以上の補強布を用い、補強塗りを行う。
（2）ルーフドレイン、配管等の取合い、出隅及び入隅は、それぞれ100mm以上を、補強布を用い補強塗りを行う。
（d）防水材塗り
（1）防水材は、製造所の仕様により、可使時間に見合った量及び方法で塗混ぜる。
（2）防水材塗りは、材料に見合った方法で均一に塗付ける。

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事補足仕様書（2）		
縮　尺	－	図面番号	291
下関市ボートレース企業局			

補９節　金属シート防水

補9.8.1　適 用 範 囲
この節は、建築の屋根、ベランダ、床及び水槽類などに施工する金属シート防水に適用する。

補9.8.2　材　　料
（ａ）ステンレスシートは、JIS G 4305(冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯)のSUS 304又はSUS 316とし、その他の金属シートを含めて、使用材料は、特記による。ステンレスシート板厚は、特記がなければ0.4mmとする。
（ｂ）つり子の材料は、SUS 304又はSUS 316とし、監理者の承認を得る。固定金物は、SUS 304とし、タッピングビス及びセルフドリリングビス類などの切削ねじ込み式固定金物は、SUS 410とする。
（ｃ）落し口は、ドレインに屋根材の平板を一体成形した溶接工法専用の部材とし、材質は防水層と同一とする。
（ｄ）水切り取合い等シーリング材を用いる場合には、特記使用書9.12[シーリング]による。
（ｅ）金属シートの仕上げは、特記による。
（ｆ）下地と金属シートの間に、断熱材あるいは整形のための下葺き材を用いる場合は、特記による。特記がなければ軟質発泡ポリスチレンシート4mm厚とする。
（ｇ）勾配屋根で屋根面がよく見えるもの及び雨音について特に留意する屋根では、軟質発泡ポリスチレンシート4mm厚を全面に敷込みさらに同シート10mm厚をシーム圏の空隙に充填する。
（ｈ）下地材は、自走式シーム溶接機が走行可能な強さを有し、作業員が歩行する場合は、その荷重に耐えるものとする。又、母屋及び垂木等の構造材に必要な強度が得られるよう固定する。

補9.8.3　工　　法
（ａ）施工法については、防水施工者の責任施工とし、施工者は工事に先立って工事概要、材料、仕様、割付け図、納まり詳細等の施工図、施工法、養生方法、安全管理体制及び工程表等を記載した施工計画書を作成し、監理者の承認を得る。
（ｂ）降雨時及び降雪時には溶接作業をしてはならない。又、強風により防水層のばたつき、折れ、及び飛散等が予想される場合には作業をしてはならない。
（ｃ）金属シート面は、常に清掃し、錆の原因となる砂、金属片及び釘等を除去すること。

補１０節　外壁防水

補9.9.1　適 用 範 囲
この節は、外壁用アクリルゴム防水材をＲＣ壁、ＰＣ壁及びＡＬＣパネル壁を下地とする壁に塗布する工法に適用する。
補9.9.2　工　　程
工程は補表9.9.1による。

補表9.9.1　外壁防水の工程

工程	材　　料	塗布量kg/㎡	備　　考
1	プライマー塗り	0.2～0.4	PC版0.2、ALC版0.4
2	外壁用アクリルゴム防水材塗り	1.7	
3	模様吹付け	0.5	
4	化粧材塗り	0.3	ｼﾝﾅｰを含まず、2回塗り

注）① ＡＬＣパネルはＡＬＣ用ﾌｨｰﾗｰで目どめを行う。
　　② 成膜後の防水層の厚さは平均1.0mm程度必要とする。

補9.9.3　材　　料
（ａ）塗膜を形成する材料は、JIS A 6021(屋根用塗膜防水材)の規格品とし、固形分が70～75%(重量)のものとする。
（ｂ）プライマー及び化粧材は主材料製造所の指定する製品とする。

補9.9.4　工　　法
（ａ）工法は、主材料製造所の仕様による。
（ｂ）仕上げの種類は、特記による。
（ｃ）工法は吹付けかローラーとし、適用は、特記による。

補9.9.5　保　　証
外壁防水の施工は、責任施工とし、その保証期間は、特記による。特記がなければ10年間とする。

１０章　石 工 事

補２節　材　　料

補10.2.1　適 用 範 囲
この節は、「共仕」10.2.1[石材]の石材の表面仕上げに、新たな種類を追加する。ここの規定のないものは、「共仕」表10.2.1[石材の粗面仕上げの種類]による。

補10.2.2　材　　料
追加した仕上げの種類とその工法は、補表10.2.1により、その適用は、特記による。尚、ジェットポリッシュ仕上げは大理石には適用しない。

補表10.2.1　追加した仕上げの種類と工法

仕上げの種類	仕　上　げ　の　程　度
つつき	荒削りした表面を、一様につつき工具で突いて凹凸を付け、仕上げた状態
こぶたし	石表面にこぶ状の粗い凹凸面を作る仕上げの状態で、原石に最初に施すもの。こぶの大きさで大中小の3種類がある。
げんのうこづき	原石の切り出し面にげんのうで一様に凹凸をつけて仕上げた状態
ｼﾞｪｯﾄﾎﾟﾘｯｼｭ	ジェットバーナー仕上げを終えた石に、化学繊維ポリッシャー又はバフをかけて研磨し、色彩と肌触りを良くして仕上げた状態

補５節　乾式工法

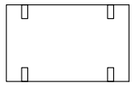
補10.5.1　適 用 範 囲
（ａ）この節に規定のないものは、「共仕」10章１節「一般事項」、2節「材料」、5節「乾式工法」、及び7節「特殊部位の石張り」による。
（ｂ）この節で規定する乾式工法の適用下地は、地震時等の変形量が小さいＲＣ造及びＳＲＣ造のコンクリート壁とし、それ以外の鉄骨下地等に石材を取付ける場合は、特記による。
（ｃ）乾式工法に使用する乾式工法用金物、アンカー及び石材等は、地震力、風圧力及び熱伸縮や躯体の変形等に安全に対応できる機構にするため、各部材等の強度計算を行い、計算書を監理者に提出する。
（ｄ）（ｃ）による耐震性能及び耐風圧性能は、特記による。

補10.5.2　施　　工
（ａ）下地ごしらえ
　（１）ファスナー取付け用アンカーをコンクリートに打込む場合を除いて、あと施工アンカーの埋込み代を確保するためコンクリートの増打ちをする。増打ちの量は、特記による。特記がなければ20mmとする。
　（２）ファスナー取付け用アンカーで、あと施工アンカーをコンクリートに打込む場合は、あと施工アンカー周囲の止水のため合成樹脂を同時に打込む。
　（３）コンクリート面へのあと施工アンカー打込みに際しては、正確に墨出しして、コンクリートの面外方向への傾きがないようグラインダーで平滑に仕上げ、あと施工アンカーの位置を壁面に対して角度が直角に精度良く保てるよう治具を用いる。
　（４）コンクリート面には、打継ぎ目地の他、縦横共約3m以内毎に伸縮調整目地を設け、目地部分にはシーリング材を充填する。シーリング材は特記仕様書9.11[シーリング]による。
　（５）下地面の精度
　　石材を取付ける下地面の寸法精度の標準値は、補表10.5.1による。

補表10.5.1　部位及び工法ごとの下地面の寸法精度　（単位:mm）

部位＼工法		湿式	乾式	空積	床張り
外　壁		±15	±10	－	－
内　壁		－	±10	±15	－
床		－	－	－	±10
特殊部位	ｱｰﾁ・上げ裏	－	±10	±15	－
	笠石・甲板	±15	±10	±15	±15
	浴室・水廻り	±15	±10	±15	－

（ｂ）取付け金物
　（１）取付け金物は、特記による。
　　金物は全てステンレス(SUS304)とし、取付け金物は、ルーズホールを持ったステンレスアングル、スレスプレートとステンレスだぼピンからなり、面内外方向の調整が出来るような金物とし、ボルトにて締めつけ後は固定の為に溶接を行う。溶接を行う時は石を養生する。
　（２）取付け金物は、1枚の石に対して原則として4個の金物で取付け、内2個の金物は石の荷重を受ける形とする。
（ｃ）石の大きさ、加工
　（１）石材の1枚の大きさは図示による。
　　図示がなければ1㎡以下とする。
　（２）石のだぼ穴及びだぼピン径は、特記による。
　　特記がなければ、だぼ穴径は8mm、だぼピン径は6mmとする。
　（３）だぼ穴は治具を用いて、位置、径及び垂直度等を精度良く工場で加工する。位置ずれ等で不要な穴が生じた石材は使用してはならない。
　（４）固定だぼとルーズだぼの位置は下図を標準とする。



　（５）固定だぼはエポキシ樹脂で固定する。
　　ルーズだぼは、だぼの周囲にネオプレーンゴムチューブ(厚さ1.5mm)を差込む。
　（６）石裏周囲には石材の破損による落下防止を目的として、ＦＲＰを張っけるなどの処理を講ずる。
（ｄ）石裏の結露対策として、壁面の頂部と下部に30φ程度の穴を3m内外に設ける。頂部の通気孔は雨仕舞いに注意し、下部の通気孔には排水処理を施す。
（ｅ）目地
　（１）石張りの目地幅は、特記による。特記がなければ8mmとしシーリング材を充填する。空目地の場合は、特記による。
（ｆ）その他の工法は、湿式工法に準ずる。

補８節　石先付けプレキャストコンクリート工法

補10.8.1　適 用 範 囲
石材を仕上げ材として先付けされたプレキャストコンクリートで施工する工事に適用する。

補10.8.2　部 材 性 能
石先付けプレキャストコンクリート部材の性能は、特記仕様書17章[カーテンウォール]及び補17.1.3[性能]、補17.3[ＰＣカーテンウォール]に定められた要求性能を満足するものとする。

補10.8.3　材　　料
（ａ）石材
　（１）種類
　　石材の種類・表面仕上げは、JASS9.2.1[石材]及び[共仕]表10.2.1、表10.2.2によりその適用は、特記による。特記のない場合の外装用の石材は花こう岩とする。
　（２）寸法・形状
　　（ｉ）石材の厚さは25mm以下とする。
　　（ii）石材の形状は、矩形を標準とし、寸法は石材1枚の面積を0.8㎡以下とする。
（ｂ）定着用金物
　石先付けプレキャストコンクリート工法に用いる金物の材質は、すべてステンレス(SUS304)とする。
（ｃ）その他の材料
　「共仕」10.2.3[その他の材料]による。但し、シーリングに関しては、特記仕様書9.12[シーリング]による。
補10.8.4　製　　作
（ａ）定着金物
　（１）必要数量の算出
　　荷重としては負の風圧力の3倍以上の値をとり、定着金物の短期の許容応力が試験で得られた最大耐力の2/3以下の値をとる。
　（２）定着金物の配置
　　石材を固定する定着金物のうち、石材周囲の小口に挿入するかすがい(3.2～4φ)、裏面の各所に配置するシャーコネクター(3.2～4φ)及び裏面の中央部などに重点的に配置するあと施工アンカー(6φ)等は、石材の自重及び外力等を考慮して、十分に安全な数量を適正に配置する。この際、石材とコンクリートの付着強度は期待しないものとする。
（ｂ）裏面処理
　石材とコンクリートの界面が剥離して、水が浸入し、濡れ現象を呈するおそれがある石材には、適切な裏面処理を石材の敷込み前に行う。
（ｃ）石材の敷込み
　石材の敷込みは、石割付図に基づいて石材を損傷させないように敷込む。
（ｄ）ＰＣ版
　ＰＣ版は、「共仕」17章3節[ＰＣカーテンウォール]及び「補仕」17章補3節[ＰＣカーテンウォール]による。

１１章　タイル工事

補３節　陶磁器質タイル張り

補11.3.1　施　　工
（ａ）この項は、床タイル張りの工法を追加補充するもので、ここに規定する以外は「共仕」11.2.7(2)[床タイル張り]による。
（ｂ）床タイル張り工法は、圧着張り、敷モルタル張り及び下地モルタル張りとし、車両等の重量物の通行する場所は圧着張り、300角を超える大形床タイル及び張付け面積の小さいその他のタイルの場合は敷モルタル張りとする。一般床タイル及びユニットタイルを大面積に張る場合は、下地モルタル張りを基準とし、その適用は、特記による。

補４節　長期性能保証制度

補11.4.1　長期性能保証制度
（ａ）この項は、壁面・床面タイル張りにおける長期性能保障制度を追加するもので、適用は「特記仕様書11章タイル工事」による。
（ｂ）保証約款は建専連長期性能保証制度保証約款（社団法人全国タイル業協会用）による。
（ｃ）保証期間は補表11.4.1に、タイル張り工法は補表11.4.2による。

補表11.4.1　保証期間

保証対象部位	保証期間	保証性能基準
壁　面	10年	タイル・石・擬石等の剥離または剥落が発生してはいけない。
床　面	10年	タイル・石・擬石等の剥離が発生してはいけない。

補表11.4.2　タイル張り工法

区分	剥　離　防　止　工　法										
工法	外装タイル有機系接着剤張り							ベースネット工法	インターネット工法	ループボンドｱﾄｯﾁﾒﾝﾄ工法	ネットクロスユニット工法
躯体処理	躯体表面のレーク、剥離材付着物の除去	超高圧水洗浄	高圧水洗浄	ｻﾝﾀﾞｰ掛け後水洗い	MCR工法		各工法の指定の処理方法				
適用下地	コンクリート（直張り）	左官モルタル				ＡＬＣパネル	押出成形セメント板(フラットパネル)	コンクリート（直張り）ＡＬＣパネル		コンクリート（直張り）ＡＬＣパネル押出成形セメント板	
下地精度	3mm/1m							各工法の指定施工要領による			
不陸調整	下地精度の基準を満たさない場合に行う	（社）全国タイル業協会およびその会員である施工業者の指定する材料・工法・仕様による施工				下地精度の基準を満たさない場合に行う					
不陸調整材料	ＪＩＳＡ6916建築用下地調整塗材重歩合品					ＪＩＳＡ6916建築用下地調整塗材重歩合品					
吸水調整											
材　料	タイル・接着剤　：　Ｑ－ＣＡＴ認定品官モルタル										
施工方法	（社）全国タイル業協会の指定する接着剤張り仕様による施工										
保証対象部位	壁　面										
保証性能基準	・タイルの剥離（1箇所0.25㎡以上）が、発生してはならない。 ・タイルの剥落が発生してはならない。										

区分	在　来　工　法								パネル工法
工法	直張り				左官下地面へのタイル張り				パネルへの施工
躯体処理	超高圧水洗浄	高圧水洗浄	サンダー掛け後水洗い	MCR工法	超高圧水洗浄	高圧水洗浄	サンダー掛け後水洗い	MCR工法	
適用下地	コンクリート（直張り）				左官モルタル				ＡＬＣパネル押出成形セメント板(ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ)
下地精度	6mm/2m								
不陸調整	下地精度の基準を満たさない場合に行う				（社）全国タイル業協会およびその会員である施工業者の指定する材料・工法・仕様による施工				下地精度の基準を満たさない場合に行う
不陸調整材料	ＪＩＳＡ6916建築用下地調整塗材重歩合品								ＪＩＳＡ6916建築用下地調整塗材重歩合品
吸水調整	不陸調整箇所は、吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）				モルタル下地面は吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）				吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）
材　料	ＪＩＳＡ6916（建築用下地調整塗材）に規定する試験用タイル張付け用モルタル				（社）全国タイル業協会の指定する接着剤張り仕様による施工 公共建築工事標準仕様書第11章タイル工事に定める仕様による施工				ＪＩＳＡ6916（建築用下地調整塗材）に規定する試験用タイル張付け用モルタル
施工方法	（社）日本建築学会建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ19陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工				（社）日本建築学会建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ19　陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工				（社）日本建築学会建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ19陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工
保証対象部位	壁　面								
保証性能基準	・タイルの剥離（1箇所0.25㎡以上）が、発生してはならない。 ・タイルの剥落が発生してはならない。								

１４章　金 属 工 事

補２節　表面処理

補14.2.1　ステンレスの表面仕上げ
この項は「共仕」14.2.1[ステンレスの表面仕上げ]として、JIS G 4305(冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯)によることになっているが、更にＡＩＳＩ（アメリカ鉄鋼協会規格）No.6,7,8の仕上げを追加する。

補９節　焼付け塗装

補14.9.1　適　用　範　囲
この項は、金属工事のうち、各種金属の表面に工場で行われる焼付け塗装に適用する。但し、塗装鋼板[JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)、JIS G 3320(塗装ステンレス鋼板)]及びJIS H 4001(アルミニウム及びアルミニウム合金の塗装板及び条)は適用範囲外とする。

補14.9.2　素地ごしらえ
（ａ）亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえは「共仕」18.2.4の表18.2.3[亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ]のＡ種による。
（ｂ）ステンレス面の素地ごしらえは、補18.10.6(ｃ)の補表18.10.1[ステンレス面の素地ごしらえ]による。
（ｃ）アルミニウム面の素地ごしらえは、補18.10.6(ｄ)の補表18.10.2[アルミニウム面の素地ごしらえ]による。

補14.9.3　焼付形アクリル樹脂エナメル塗り（B-AE）
（ａ）この項は、金属系素地面における、耐候性及び美装性を目的とする箇所に用いる焼付形アクリル樹脂エナメル塗りに適用する。
（ｂ）焼付形アクリル樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.1及び、補表14.9.2により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.1　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の焼付形アクリル樹脂　エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm	
			亜鉛めっき鋼面	ｽﾃﾝﾚｽ面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による。	－	－
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による。		
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	170℃　15分	－	－
3	上塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	25～35	25～35
4	焼付け	170℃　15分	－	－
合計膜厚			40以上	35以上

補表14.9.2　アルミニウム面の焼付形アクリル樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による。	－
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20
2	上塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	25～35
3	焼付け	170℃　15分	－
合計膜厚			30以上

（ｃ）焼付形アクリル樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は補表14.9.3により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.3　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の焼付形アクリル樹脂　エナメル塗り（ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm		
			亜鉛めっき鋼面	ｽﾃﾝﾚｽ面	ｱﾙﾐﾆｳﾑ面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による	－	－	－
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による			
		ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表18.10.2による			
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	10～15
2	中塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	－	－	－
4	上塗り	焼付形ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙ・ﾒﾀﾘｯｸｺｰﾄ	25～35	25～35	25～35
5	焼付け	170℃　15分	－	－	－
合計膜厚			55以上	50以上	45以上

（ｄ）工法その他は、次による。
　（１）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、1コート、1ベーク10μm以上とする。
　（２）亜鉛鋼板の溶接部分はサンダー等の研磨後、燐酸亜鉛系化成処理の上、ジンクリッチペイント20μm以上(強制乾燥の場合60～80℃20分間)を施す。
　（３）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。

補14.9.4　焼付形1液ウレタン樹脂エナメル塗り（B-UE）
（ａ）この項は金属系素地面における、耐候性及び美装性を目的とする箇所に用いる焼付形１液ウレタン樹脂エナメル塗りに適用する。
（ｂ）焼付形１液ウレタン樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は、補表14.9.4により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.4　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面、アルミニウム面の焼付形1液ウレタン樹脂　エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm		
			亜鉛めっき鋼面	ｽﾃﾝﾚｽ面	ｱﾙﾐﾆｳﾑ面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による	－	－	－
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による			
		ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表18.10.2による			
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	5～10
2	上塗り 1回目	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	15～20	15～20	15～20
3	焼付け	170℃　15分	－	－	－
4	上塗り 2回目	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
5	焼付け	170℃　15分	－	－	－
合計膜厚			50以上	45以上	40以上

（ｃ）焼付形1液ウレタン樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は、補表14.9.5により素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.5　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の焼付形1液ウレタン樹脂

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm		
			亜鉛めっき鋼面	ｽﾃﾝﾚｽ面	ｱﾙﾐﾆｳﾑ面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による	－	－	－
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による			
		ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表18.10.2による			
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	5～10
2	中塗り	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	－	－	－
4	上塗り	焼付形ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～30	20～30	20～30
5	焼付け	170℃　15分	－	－	－
合計膜厚			55以上	50以上	45以上

（ｄ）工法その他は、補14.9.3(ｄ)による。

補14.9.5　中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（B-FE（F））
（ａ）この項は、特に長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる中温焼付け形ふっ素樹脂エナメル塗り[フルオロオレフィン・ビニルエーテル共重合体(ＦＥＶＥ)]に適用する。
（ｂ）中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.6、補表14.9.7及び補表14.9.8により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.6　亜鉛めっき鋼面の中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による	－
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	15～20
2	焼付け	170℃　15分	－
3	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	15～20
4	焼付け	170℃　15分	－
5	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	20～25
6	焼付け	170℃　15分	－
合計膜厚			50以上

補表14.9.7　ステンレス面の中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm
素地ごしらえ		ステンレス面:補表18.10.1による	－
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	10～15
2	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	15～20
3	焼付け	170℃　15分	－
4	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	20～25
5	焼付け	170℃　15分	－
合計膜厚			45以上

補表14.9.8　アルミニウム面の中温焼付形ふっ素　樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による	－
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	5～10
2	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	15～20
3	焼付け	170℃　15分	－
4	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	20～25
5	焼付け	170℃　15分	－
合計膜厚			40以上

（ｃ）中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は補表14.9.9により、素地種別の適用は特記による。

工事名	ポートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事補足仕様書（３）		
縮　尺	－	図面番号	292
下関市ボートレース企業局			

補表14.9.9　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の中温焼付形ふっ素樹脂
エナメル塗り(ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表17.2.3のＡ種による	—	—	—
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表17.10.1による			
		ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表17.10.2による			
1	下塗り	中温焼付用エポキシ樹脂系プライマー	15～20	10～15	5～10
2	中塗り	中温焼付用1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	—	—	—
4	上塗り 1回目	中温焼付用1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｸﾘｱｰﾄﾞｶﾗｰ	20～25	20～25	20～25
5	焼付け	170℃　15分	—	—	—
6	上塗り 2回目	中温焼付用1液ふっ素樹脂　ｸﾘｱｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	20～25	20～25	20～25
7	焼付け	170℃　15分	—	—	—
合計膜厚			75以上	70以上	65以上

（ｄ）中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂塗料は、フルオロオレフィン、ビニルエーテル共重合体樹脂(ＦＥＶＥ)の熱溶融形塗料とし、三ふっ化モノマー配合とする。中塗り及び上塗り塗料樹脂分中のフルオロオレフィン、ビニルエーテル共重合体樹脂は、100%配合されていること。
（ｅ）工法その他は、次による。
（１）塗料の調合は、次による。
（ｉ）熟成時間や可使時間は製造所の指定による。
（ﾛ）シンナーは塗料製造所の指定する製品による。
（２）塗料の方法は原則としてスプレー式により、塗装ライン前処理と連続レクリーンボックスを有すること。
（３）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、１コート、１ベーク10μm以上とする。
（４）ふっ素樹脂焼付塗装工場は、塗料製造所の承認する工場とする。
（５）被塗装物である亜鉛鋼板は亜鉛付着量Ｚ－27(19μm)相当以上のノンスパングルとし、クロメート処理品は不可とする。
（６）亜鉛鋼板の溶接部分はショットブラストの上、亜鉛メタリコン70μm以上とし、熔融亜鉛系化成処理または、エポキシ系ジンクリッチプライマー70μm(強制乾燥の場合60～80℃20分間)とする。
（７）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。

補14.9.6　高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（B-FE（P））
（ａ）この項は、特に長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り[ポリフッ化ビニリデン系(ＰＦＶｄ)]に適用する。
（ｂ）高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.10及び補表14.9.11により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.10　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm	
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による。	—	—
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による。		
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
3	上塗り	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	25～35	25～35
4	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
合計膜厚			40以上	35以上

補表14.9.11　アルミニウム面の高温焼付形ふっ素樹脂 エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による	—
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	5～10
2	上塗り	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	25～35
3	焼付け	232～242℃　5～10分	—
合計膜厚			30以上

（ｃ）高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は補表14.9.12及び補表14.9.13により、素地種別の適用は特記による。

補表14.9.12　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm	
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3の　Ａ種による	—	—
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による。		
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
3	上塗り 1回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ	25～35	25～35
4	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
5	上塗り 2回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｸﾘｱｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	10～15	10～15
6	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
合計膜厚			50以上	45以上

補表14.9.13　アルミニウム面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚　μm
素地ごしらえ		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.2による	—
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	5～10
2	上塗り 1回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ	25～35
3	焼付け	232～242℃　5～10分	—
4	上塗り 2回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｸﾘｱｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	10～15
5	焼付け	232～242℃　5～10分	—
合計膜厚			40以上

（ｄ）上塗りに用いるふっ素樹脂塗料は、ポリフッ化ビニリデン樹脂(ＰＦＶｄ)の熱溶融形塗料とし、カイナー500配合とする。上塗り塗料樹脂分中のポリフッ化ビニリデン樹脂は、100%配合されていること。
（ｅ）工法その他は、次による。
（１）塗料の調合は、次による。
（ｉ）熟成時間や可使時間は製造所の指定による。
（ﾛ）シンナーは塗料製造所の指定する製品による。
（２）塗装の方法は原則としてスプレー式により、塗装ラインは前処理と連続レクリーンボックスを有すること。
（３）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、1コート、１ベーク10μm以上とする。
（４）ふっ素樹脂焼付塗装工場は、塗装製造所の承認する工場とする。
（５）被塗装物である亜鉛鋼板は亜鉛付着量Ｚ－27(19μm)相当以上のノンスパングルとし、クロメート処理品は不可とする。
（６）亜鉛鋼板の溶接部分はショットブラストの上、亜鉛メタリコン70μm以上とし、熔融亜鉛系化成処理または、エポキシ系ジンクリッチプライマー70μm(強制乾燥の場合60～80℃20分間)とする。
（７）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。
（８）現場タッチアップは、B-FE(P)のホットエアーガン焼付又はＦＵＥないし、ふっ素系ＡＤＳ樹脂塗料とする。

補14.9.7　検　　査
（ａ）仕上り塗装の性能は、補表14.9.14による。

補表14.9.14　仕上り塗膜の性能

試験項目	焼付形 ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙ	焼付形 1液ｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	ふっ素樹脂エナメル 高温焼付形	ふっ素樹脂エナメル 中温焼付形	試験項目
光沢(ｸﾞﾛｽ)	80～30	90～30	25～35	80～30	60度鏡面反射率
鉛筆硬度	H～2H	H～2H	H～2H	H～2H	三菱ユニ JIS K 5400
ｺﾞﾊﾞﾝ目ﾃｰﾌﾟﾃｽﾄ	100/100	100/100	100/100	100/100	1mm間隔 JIS K 5400
耐衝撃性	異常なし (0.5kg ×50cm)	異常なし (0.5kg ×50cm)	異常なし (1.0kg ×50cm)	異常なし (0.5kg ×50cm)	デュポン式1/2φ
耐摩耗性	—	—	40mg以下	40mg以下	ﾃｰﾊﾞｰ CS-17 1000回転の損失量
耐ソルトスプレー性	1mm以内 (2,000H)	1mm以内 (2,000H)	1.5mm 以下 (3,000H)	1.5mm 以下 (3,000H)	JIS Z 2371
耐湿性	—	—	異常なし	異常なし	38℃×98%PH 3,000H
耐酸性	異常なし (5%× 500H)	異常なし (5%× 500H)	異常なし (10%× 1ヶ月)	異常なし (5%× 1ヶ月)	硫酸20℃
耐ｱﾙｶﾘ性	異常なし (5%× 120H)	異常なし (5%× 120H)	異常なし (10%× 1ヶ月)	異常なし (5%× 1ヶ月)	苛性ｿｰﾀﾞ20℃
耐ﾓﾙﾀﾙ性	—	—	異常なし	異常なし	耐湿試験 24H後 ﾓﾙﾀﾙ 塗布
耐洗剤性	—	—	異常なし	異常なし	「ﾎﾟﾀﾞﾘ」1% 水溶液に72H浸漬 20℃
促進耐候性	70%以上 (750H)	90%以上 (1,000H)	90%以上 (4,000H)	90%以上 (4,000H)	ｻﾝｼｬｲﾝ ｳｪｻﾞｰﾒｰﾀ
天然暴露性 ﾁｮｰｷﾝｸﾞ	—	—	ASTM 8以上	—	ﾌﾛﾘﾀﾞ南面 45度 暴露5年
天然暴露性 色差	—	—	5以下	—	

注）(　)内Hは時間を表す
（ｂ）仕上り塗装の性能試験及び検査は次により、試験を行う場合は特記による。特記なき場合は塗料製造所による品質を証明する資料を提出し、監理者の承認を受ける。
（１）検査機関は公的試験所とする。但し監理者が認めた場合は、監理者の承認した試験所とすることが出来る。
（２）塗装の種別は、アルミニウム素地面の補14.9.3、補14.9.4、補14.9.5、及び補14.9.6の各塗装とし、各塗料の塗装系は、標準仕様による。
（３）検査項目は補表14.9.14の試験項目による。
（４）検査結果は報告書にまとめて監理者に提出する

補１０節　ステンレス鋼板の曲げ加工

補14.10.1　ステンレス鋼板の曲げ加工
（ａ）ステンレス鋼板の曲げ加工の適用は特記による。
特記がなければ普通曲げとし、角出し曲げは補表14.10.1による。

補表14.10.1　ステンレス鋼板の角出し曲げ加工の種類

区　分	残板厚　(mm)	備　　考
Ａ　角	0.3　～　0.5	変形の恐れが少ない化粧材
Ｂ　角	0.7	板厚　1.5mm　以上
Ｃ　角	1.0	板厚　1.5mm　以上

（ｂ）補強板等は、「共仕」16.3.3(ａ)(１)の表面処理亜鉛めっき鋼板又は亜鉛めっきを行ったものとし、補強板厚はＡ角はステンレス鋼板厚と同等以上とし、Ｂ角及びＣ角は1.6mm以上とする。
（ｃ）補強板等は、「共仕」表18.2.3[亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ]の処理を行った上に、JIS K 5629(鉛酸カルシウム錆止めペイント)を2回塗布する。

補１１節　エキスパンションジョイント(EXP.J)

補14.11.1　安全機構の設置
a）壁、天井、屋根：脱落防止ワイヤー等を設け、EXP.Jカバー金物に損傷が生じた場合に脱落、飛散の防止策を施し、人的被害を生じないように配慮する。(製造所のオプション)
b）床：跳ね上がり、挟み込み、欠損による落下等の人的被害を生じないように配慮する。(製造所オプション)
補14.11.2　構造クリアランスと可動量の確認
a）床、壁、天井、屋根のEXP.Jカバーの製作図は、Ｘ・Ｙ方向共に（可動量±0・－最大・＋最大）作成し、構造クリアランスと可動量を確認の上、監理者の承認を得ること。

15章　左官工事

補８節　薄塗り工法

補15.8.1　適　用　範　囲
この節は、セメント及び無機質系微細骨材を主原料とし、主として内外装仕上げ工事の下地調整に使用する、セメント系下地調整塗材及び合成樹脂エマルションプラスターを、塗り厚10mm以下に塗付ける工事(以下薄塗り工法という)に適用する。但し、合成樹脂エマルションプラスターは内部に使用する。

補表15.8.1　薄塗り工法の種別

種　別	概　　要	塗　り　厚
Ａ　種	プレミックスセメントペースト	3mm以下
Ｂ　種	プレミックスセメントモルタル	3～10mm
Ｃ　種	合成樹脂エマルションプラスター	3～5mm

補15.8.2　工 法 の 種 別
薄塗り工法の種別は補表15.8.1により、適用は特記による。

補15.8.3　材　　料
（ａ）セメント系下地調整塗材(ﾌﾟﾚﾐｯｸｽｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ及びﾌﾟﾚﾐｯｸｽｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)
（１）セメントはJIS R 5210(ポルトランドセメント)に準ずる。
（２）骨材は、JIS A 1102(骨材のふるい分け試験方法)に規定する網ふるい0.6mmをほぼ通過する程度の、硅砂又は寒水砂などとする。
（３）混和液はセメント混和用ポリマーディスパージョンを主成分とし、セメント混和用ポリマーディスパージョンはJIS A 6203(セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂)に適合するものとし、スチレンブタジエン系、アクリル系及びエチレン酢酸ビニル系共重合体とする。
（４）調合割合及び混練り方法は、製造所の仕様による。
（５）品質はJIS A 6916(仕上塗材用下地調整塗材)に規定する品質に適合するものとする。
（ｂ）合成樹脂エマルションプラスター
（１）種類は補表15.8.2により、適用は特記による。

補表15.8.2　合成樹脂エマルションプラスターの種類

種　類	概　　要
1　種	アクリルエマルション系
2　種	エチレン酢酸ビニル系
3　種	酢酸ビニルエマルション系

（２）材料、調 合は製造所の仕様による。

補15.8.4　工　　法
（ａ）プレミックスセメントペースト

補表15.8.3　プレミックスセメントペースト塗り

工　程		塗　り　厚	塗り回数
1	シーラー塗り	0.1 ～ 0.2kg/㎡	1 ～ 2
2	ペースト塗り	1 ～ 3mm	1 ～ 2

注)製造所の仕様により、シーラー塗りを省略する場合には温度、湿度の条件を検討の上、 付着強度を確認すること。

（ｂ）プレミックスセメントモルタル

補表15.8.4　プレミックスセメントモルタル塗り

工　程		塗　り　厚	塗り回数
1	シーラー塗り	0.1 ～ 0.2kg/㎡	1 ～ 2
2	ペースト塗り	3 ～ 10mm	1 ～ 2

注)製造所の仕様により、シーラー塗りを省略する場合には温度、湿度の条件を検討の上、付着強度を確認すること 。

（ｃ）合成樹脂エマルションプラスター
（１）コンクリート下地等

補表15.8.5　コンクリート下地等の合成樹脂エマルションプラスター塗り

工　程		材　料	所要量(kg/㎡)	塗り回数
1	シーラー塗り	シーラー	0.1 ～ 0.25	1 ～ 2
2	下塗り	厚付け用	0.5 ～ 5	1 ～ 2
3	研磨紙ずり	#180～240	—	—
4	上塗り	薄付け用	1 ～ 2	1 ～ 2

注)下地となる場合は、厚付け用で仕上げてもよい。

（２）ＡＬＣパネル下地

補表15.8.6　ＡＬＣパネル下地の合成樹脂エマルションプラスター塗り

工　程		材　料	所要量(kg/㎡)	塗り回数
1	シーラー塗り	シーラー	0.1 ～ 0.25	1 ～ 2
2	目地塗り	厚付け用	—	1
3	下塗り	厚付け用	1.0 ～ 1.2	—
4	研磨紙ずり	#180～240	—	1 ～ 2
5	中塗り	#180～240	1.0 ～ 1.2	1
6	上塗り	薄付け用	0.5 ～ 1.0	1

補15.8.5　仕上がり精度
仕上りの精度は補表15.8.7による。

補表15.8.7　仕上り精度

コンクリートの部位	平 た ん さ
外壁(仕上塗材仕上げ等)	3mにつき10mm以下
外壁(塗装仕上げ等)	3mにつき7mm以下
内壁	3mにつき7mm以下

16章　建　具　工　事

補７節　建具用金物

補16.7.1　鍵
鍵は3本一組とし、室名または建具位置を示す札を付け、目録書及び縮小版平面図による鍵のキープランを添え、一括して鍵箱に収納して引き渡す。必要により設備関係、操作ボックス関係の鍵類も併せて収納する。鍵箱は鍵の個数に相応した鋼製の既製品とする。

補１３節　防災建具

補16.13.1　適　用　範　囲
この節は、防災建具のうち、可動式防煙たれ壁に適用する。

補16.13.2　方　　式
可動式防煙たれ壁の方式は、鉛直降下式、回転式及びロール式とし、その適用は、特記による。

補16.13.3　材　　料
（ａ）防煙たれ壁本体は、鋼板、ガラスクロス塩化ビニル皮膜(不燃認定品)及びアルミニウム板の何れかとし、適用は、特記による。
（ｂ）ガイドレール、座板及びまぐさの材料は、ステンレス、アルミニウム及び鋼板の何れかとし、適用は、特記による。

補16.13.4　機　　構
（ａ）降下
急激に落下しないよう、ステイダンパー、ガバナー及びバランスウェイト等の緩衝装置を設け、降下後は圧力差2kgf/㎡において鉛直に保持すること。又、レールは固定とするが、可動の場合は、特記による。
（ｂ）開閉
（１）煙感知器の信号を受けて自動的に降下する。
（２）手動操作ボックスを設け、手動降下可能な機構とし、復旧は手動によるものとするが、電動の場合は、特記による。尚、何れの場合も取扱い方法を明示する。

１７章　カーテンウォール工事

補１節　一般事項

補17.1.1　適　用　範　囲
本章は、金属、ＰＣコンクリート(繊維補強セメント・コンクリート複合材を含む)及びガラスを主体としたカーテンウォール工事に適用する。本章に記載又は、特記ある事項以外は、「共仕」17章[カーテンウォール工事]による。
但し、「図示」、「共仕」、「補仕」及び特記仕様書に記載のない事項については次に準拠する。
（１）建築基準法、その他関係法令
（２）消防関連法令
（３）日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説」各章
（４）日本建築学会諸計算規準
（５）日本建築学会「非構造部材の耐震設計指針」

補17.1.3　性　　能
（ａ）耐風圧性能
（１）設計風圧力は、特記による。特記がなければ、建築基準法施行令82条の5、建設省告示第1458号により算定した数値以上とする。
（２）たわみ量は、支点間距離が4.0m以下の場合は次による。
（ｉ）メタルカーテンウォールでは、1/150以下かつ20mm以下とする。
（ﾛ）ＰＣカーテンウォールでは、1/600以下とする。
（３）支点間距離が4.0mを超える場合のたわみ量は、特記による。
（ｂ）層間変位追従性能及び耐震性能
（１）層間変位追従性能は、特記による。特記がなければ次による。
（ｉ）いっさいの補修なしに継続使用出来る限界は±H/300(H:階高)
（ﾛ）カーテンウォール部材に破損、脱落、及び残留変形の何れも起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用出来る限界は±H/200
（ﾊﾊ）カーテンウォールの部材に破損及び脱落が起こらない限界は±H/100
（２）耐震性能について、設計震度(Ｋ)は、水平方向はＫＨ＝1.0及び鉛直方向はＫｖ＝0.5とする。この震度に対する損傷の度合いはカーテンウォールの部材に破損、脱落及び残留変形が起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用できるものとする。
（ｃ）水密性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

P:耐風圧性能に用いた最大正圧値(Pa)

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1(低層)	2(低層)	3(31m,市街地)	4(31～60m,郊岸)	5(60m超)
FIX部 (圧力差Pa)	975未満	975	1500	P×0.5かつ 最低値1500	P×0.75かつ 最低値2250
可動部 (圧力差Pa)	525未満	525	750	1000	1500

＊可動部/FIX部

（ｄ）気密性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1(通常空調)	2(市街地・高層)	3(強風・超高層)	4
等級 (等級線) 通気量:圧力差10Pa	JIS等級A-3 (A－3等級線) 8(㎥/h・㎡)	JIS等級A-4 (A－4等級線) 2(㎥/h・㎡)	0.5等級 (0.5等級線) 0.5(㎥/h・㎡)	左記以外 特記 ・(㎥/h・㎡)

＊FIX部のみで構成の場合は気密性能は特記する。

（ｅ）耐火性能
（１）耐火性能は、建築基準法施行令第107条に基づく所定の耐火時間で、延焼の恐れのある部分では1時間とし、それ以外の部分では30分とする
（２）合成耐火構造と防火区画は、特記による。
（ｆ）耐温度差性能(熱安定性能)
（１）耐温度差性能は、ジョイント部や表面仕上げを含むカーテンウォール各部分及び構造体側の取付け部に破損及び有害な変形が発生しない限界の部材温度差で表示する。
（２）部材温度差は特記がなければ次による。
（ｉ）直射日光の当たる暗色の金属材の場合は80℃とする。
（ﾛ）直射日光の当たる明色の金属材の場合は70℃とする。
（ﾊﾊ）その他の部材の場合は60℃とする。
（ｇ）遮音性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1（一般的）	2(市街地)	3(性能重視)	4(特殊構造)
等級 (等級線)	JIS等級T-1 (T-1等級線)	JIS等級T-2 (T-2等級線)	JIS等級T-3 (T-3等級線)	JIS等級T-4 (T-4等級線)
500Hz (db)	25	30	35	40

（ｈ）断熱性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1	2	3(暖冷房重視)	4(暖冷房重視)	5(寒冷地)
等級	JIS等級H-1	JIS等級H-2	JIS等級H-3	JIS等級H-4	JIS等級H-5
(熱還流抵抗 ㎡・K/W)	(0.215以上)	(0.246以上)	(0.287以上)	(0.344以上)	(0.430以上)

（１）耐久性能等その他の性能
（１）カーテンウォールは、通常の清掃及び保守を行うことにより、所要の性能を保持する耐久性能を有するものとする。
（２）異種金属等接触による腐食が生じ、美観その他の性能に欠陥を生じることのないものとする。

補17.1.4　技 術 検 討 会
カーテンウォールの詳細設計、性能試験、製作及び施工の技術的検討を行なうために、設計監理者及び施工者(受注者及びカーテンウォール関連の施工者（ガラス取付け施工者、シーリング施工者等を含む）)の技術者から成る技術検討会を設置する。

補17.1.5　見　　本
（ａ）実物大見本及び模型の製作は、特記による。
（ｂ）各種材料は、見本品を提出し監理者の承認を受け、必要に応じ品質証明書を提出する。
（ｃ）各部材の組立て試験を行う場合は、特記による。試験体は、監理者の承認を受けて、本工事に使用することが出来る。

補17.1.6　実　大　試　験
（ａ）実大試験を行う場合は、特記による。
（ｂ）実大試験を行う範囲及び規模は、特記による。
（ｃ）ガラスは、実際に使用するガラスと同種の強化ガラスとする。
補17.1.7　性　能　試　験
性能試験を行う項目は、特記による。
（ａ）試験荷重条件
試験に用いる数値は設計図書に基づくものとし、試験の方法等については ＪＣＭＡ(日本カーテンウォール工業会)制定のカーテンウォール性能試験要領その他関係ＪＩＳの基準に準ずるものとする。
（ｂ）試験計画書
試験に先立ち、試験計画書を作成し、監理者の承認を受ける。
（ｃ）試験結果報告
（１）供試体の製作、取付け及び試験工程の中間で試験の進捗状況の検査記録書を作成し監理者の検査を受ける。
（２）試験終了後、速やかに試験結果報告書を監理者に提出する。
（３）試験結果に欠陥があった場合には、原因を究明するとともに対策を監理者と協議して定める。

補２節　メタルカーテンウォール

補17.2.1　適　用　範　囲
この節は、主要構成部材に金属系材料を用いたメタルカーテンウォールの各部に適用する。この節に記載又は、特記がある事項以外は、「共仕」J2節[メタルカーテンウォール]による。

補17.2.2　材　　料
（ａ）アルミニウム及びアルミニウム合金材
（１）アルミニウム押出形材
（ｉ）材料は、JIS H 4100(アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材)のA 6063Sとする。
（ﾛ）形材の厚さは、特記による。特記がなければ2.5mm以上とする。
（２）アルミニウム板材
（ｉ）材料は、JIS H 4000(アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条)による。
（ﾛ）板の厚さは、特記による。特記がなければすべて2.5mm以上とする。

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事補足仕様書（４）		
縮　尺	－	図面番号	293
下関市ボートレース企業局			

（３）表面処理は、特記による。特記がなければ、「共仕」表14.2.1[表面処理の種別]のBB-2種とする。
（４）補強材、力骨及びアンカー等は、鋼製、ステンレス製又はアルミニウム合金製とする。
（ｂ）鋼材
（１）鋼材は、ＪＩＳの規格品とする。
（２）材料の厚さは、特記による。特記がなければ1.6mm以上とする。
（３）表面処理及び仕上げは、特記による。
（ｃ）ステンレス鋼材
（１）ステンレス鋼材は、ＪＩＳの規格品とし、種類は特記による。特記がなければ、SUS 304とする。
（２）材料の厚さは、特記による。特記がなければ鏡面仕上げの場合は2.0mm以上、その他は1.5mm以上とする。
（３）表面処理及び仕上げは、特記による。
（ｄ）耐候性鋼材は、ＪＩＳの規格品とする。厚さは1.6mm以上とし、表面処理及び仕上げは、特記による。
（ｅ）カーテンウォールを耐火構造にするための材料は、建設省告示第1399号[耐火構造の指定]、又は特記仕様書7.1[耐火被覆・耐火構造]に適合するものとする。
（ｆ）ガラス
（１）材料は、「共仕」16.13.2「材料」による。
（２）ガラス取り付け用材料
（ｉ）ガラスとめ材は、特記による。
（ⅱ）構造ガスケットを使用する場合は、シーリング機能のほかにガラスを保持する機能を有し,かつ十分な耐久性のあるものとする。
（ｇ）シーリング材
（１）不定形シーリングの種類は、特記仕様書9.12[シーリング]により、その適用は、特記による。
（２）定形シーリングの種類は、特記による。
（３）定形及び不定形シーリング材は、層間変位、風圧及び部材の熱変形による目地の変形に追従可能で、十分な弾性と耐久性をもつものを用いる。
（ｈ）その他、カーテンウォールに先付けする部材もしくは材料は、カーテンウォールの性能に支障のない品質、形状、寸法精度及び剛性を有し、かつ適切な養生を施したものを用いる。

補17.2.3　形状及び仕上げ
（ａ）製品の寸法許容差は、特記による。特記がなければ、その標準値は「共仕」表17.2.1及び補表17.2.1による。

補表17.2.1　アルミニウム合金鋳物カーテンウォール製品の寸法許容差(単位：mm)

項　　目	寸法許容差	項　　目	寸法許容差
辺　　長	＋2～－4	ねじれ、反り	4
対角線長の差	5	曲　　がり	3
板　　厚	－2	見込み深さ	±2
開口部内法寸法	±3	ボルトピッチ	±3
注）製品の大きさは長辺≦4000mm、短辺≦2000mmの範囲内のものとする。			

（ｂ）製品の仕上り面は、仕上げが均一で、著しく外観を損なう傷、色むら及び光沢むら、又は構造上及び防水上支障となるような、割れや損失等があってはならない。

補17.2.4　メタルカーテンウォールの製作
（ａ）製作図書等
（１）受注者は、製作に先立ち製作計画書及び製作図を作成し、監理者に提出して承認を受ける。
（２）製作計画書には、次の事項を記載する。
（ｉ）製作に当たる部署の組織表及び役割分担表
（ⅱ）製作日程
（ⅲ）使用材料(材料加工の方法、接合方法、防食処理、仕上塗料の材料及び工法)
（ⅳ）製作フローチャート及び組立て要領
（ⅴ）検査事項、精度及び検査方法
（ⅵ）養生、運搬、揚重及び保管計画
（ⅶ）清掃方法
（ⅷ）その他監理者の指示する事項
（３）製作図には次の事項を記載する。
（ｉ）層間変位追従方式(構造体への取付部及びユニット周の接合部)
（ⅱ）パネル割付図及び取付け金物配置図
（ⅲ）耐火被覆(層間区画部分)
（ⅳ）結露水及び侵入水の排水処理ルート
（ⅴ）パラペット笠木との取合い
（ｂ）材料及び部品
製作に用いる材料及び部品は、本仕様書及び特記に定められたものとし、これらに該当しない材料、部品については ＪＩＳに規定する試験方法による試験に合格したものとする。
（ｃ）取付け金物
（１）取付け金物は、仕上がりに影響を与えたり、強度低下をもたらす可能性のある変形や寸法誤差のないものを使用する。
（２）補17.1.3(ａ)[耐風圧性能]及び補17.1.3(ｂ)[層間変位追従性能及び耐震性能]に規定する外力に対し十分な強度を有し、有害な変形を生じてはならない。
（ｄ）製作
（１）製作は、製作図、製作計画書及び施工者の社内規格に基づき、十分な技術管理と作業管理の下に正確かつ丁寧に行う。
（２）メタルカーテンウォール(アルミニウム合金鋳物カーテンウォールを除く。)
（ｉ）機械加工は正確に行い、加工による傷及び切削油による腐食等を生じないように十分に注意する。
（ⅱ）主要部材の接合は、原則として工場溶接とする。見掛り面の溶接ビードは研磨仕上げとする。
（ⅲ）工場及び現場での組立ては、次の諸事項に注意して行う。
① 接合部は、指示寸法に正確に合わせ、堅牢に接合する。
② シーリング材は正確に充填する。
③ ウェザーストリップは、切れ目なく完全にはめ合わす。
④ 補強材及び補助材の接合には、接触腐食防止の対策を施す。
⑤ 溶接部は、はねや酸化物を清掃や磨きによって取除いた後、防錆処理を施す。又、溶接によって仕上げ面が著しい変色やゆがみを起してはならない。
（ⅳ）結露により内部腐食や裏打材の剥落等が起こらないようにする。
（ⅴ）製品は、製作所による社内検査を行い、合格したものとし、検査成績書を監理者に提出し、承認を受ける。
（３）アルミニウム合金鋳物カーテンウォール
（ｉ）アルミニウム合金は、溶解したものを適温に保って精練した溶湯を用い、鋳造に際しては、計器測温により溶湯温度を適正に管理する。
（ⅱ）鋳型から分離した製品は、湯口やばり等を除去後、冷却収縮によって生じたひずみを矯正する。
（ⅲ）製品は、製作所による社内検査を行い、合格したものとし検査成績書を監理者に提出し承認を受ける。
（ｅ）製品検査
（１）製品検査は、補17.2.4(ａ)製作計画書に従って行う。検査の判定基準はJASS14.7.2.1、表7.1[製作過程におけるメタルカーテンウォールの検査]による。ただし、製品寸法については、補17.2.3[形状及び仕上げ]の(ａ)による。
（２）製品検査結果は、個体単位の検査成績表を作成し、監理者に提出して、承認を受ける。

補17.2.5　メタルカーテンウォールの取付け
（ａ）アルミニウム合金鋳物カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差は、特記による。特記がなければ、その標準値は補表17.2.2による。

補表17.2.2 アルミニウム合金鋳物カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差

項　　目	寸法許容差 mm	
目地の幅	±5	
目地心の通り	3	
目地面側の段差	4	
各階の基準墨から各部材までの距離	±5	

（ｂ）変位の吸収を要求されている取付け金物は、変位を吸収できるように、部材周の摩擦低減材の挿入やボルトの締付けトルクの適性管理等を行う。

補３節　ＰＣカーテンウォール

補17.3.1　適　用　範　囲
この節はプレキャストコンクリート(繊維補強セメント・コンクリート複合材を含む)を用いたカーテンウォール工事に適用する。この節に記載又は、特記がある事項以外は、「共仕」17章3節[ＰＣカーテンウォール]による。

補17.3.2　材　　料
（ａ）コンクリート
（１）軽量コンクリート
（ｉ）調合
「共仕」17.3.2(ａ)(２)による他、下記に示す事項を考慮して所要の品質が得られるようにする。
① 設計基準強度
② 脱型時及び出荷時強度
③ コンクリート製造条件及び強度の標準偏差
④ 加熱養生条件
一般にＰＣカーテンウォール製作所では、基準とする標準調合を定めている。強度等の条件が満たされる場合は、ＰＣカーテンウォール製作所の標準調合を適用する。
（２）繊維補強セメント・コンクリート複合材
（ｉ）繊維補強セメント・コンクリート複合材を用いたカーテンウォールは、特記による。種別、材料、製法等については、補8.6[繊維補強セメント・コンクリート複合材]による。
（ⅱ）カーテンウォールパネルに適用される材種は次により、その適用は、特記による。
① 炭素繊維
② ガラス繊維補強セメント・コンクリート複合材(ＧＲＣ)
（ｂ）ガラス
（１）ガラス取付け用材料
（ｉ）ガラスとめ材は、特記による。
（ⅱ）ＰＣ板開口部にＹ形ガスケットを使用する場合の取付け部分は、次を標準とする。
① 溝の寸法精度は、JASS17[ガラス工事]による。
② コンクリートパネル面から溝の中心までの寸法は60mm以上とする。
③ 溝の前後におけるコンクリート面の勾配は、5'(8/100)以内とする。溝幅、位置等の精度は、ガラスのはめ込みやガスケットのガラス保持性及び水密性に影響するので十分な精度管理を行う。
（ｃ）シーリング材
（１）不定形シーリングの種類は、特記仕様書9.12[シーリング]により、その適用は、特記による。
（２）定形シーリングの種類は、特記による。
（３）定形及び不定形シーリング材は、層間変位、風圧及び部材の熱変形による目地の変形に追従可能で、十分な弾性と耐久性をもつものを用いる。
（ｄ）先付けサッシの材料
（１）アルミニウム及びアルミニウム合金材
（ｉ）アルミニウム押出形材
補17.2.2[材料]の(ａ)による。
（ⅱ）アルミニウム板材
補17.2.2[材料]の(ａ)による。
（ⅲ）表面処理
「共仕」表14.2.1[表面処理の種別]のＢ－2種とする。
（ⅳ）補強材、力骨、アンカー類は、鋼製、ステンレス製又はアルミニウム合金製とする。
（２）鋼材
補17.2.2[材料]の(ｂ)による。
（３）ステンレス鋼材
補17.2.2[材料]の(ｃ)による。
（ｅ）カーテンウォールに先付けする仕上げ材、金物
（１）石材を先付けする場合においては、石材と裏打ちコンクリートとの挙動の差異を考慮して、この両者の接着は期待せず、定着金物のみで石材を固定する。
（２）その他のカーテンウォールに先付けする部材もしくは材料は、カーテンウォールの性能に支障のない品質、形状、寸法精度及び剛性を有し、かつ適切な養生を施したものを用いる。

補17.3.3　形状及び仕上げ
（ａ）標準(４ｍ×2.5ｍ程度)を大きく上回る板、リブ付き形状板、パラペット部を含む長大板ならびにＬ形コーナー板等では、ＰＣ板の形状、大きさ、建物の条件等を考慮し、製品の寸法許容差は、カーテンウォールの諸性能に影響しない数値とする。
（ｂ）製品の仕上り面は、仕上げ均一で、著しく外観を損なう傷、色むら、光沢むら、構造上及び防水上支障となるような割れや破損等があってはならない。ＰＣ板に先付けする表面仕上げ材は、美観だけでなく、耐久性にも影響を与えるので、その選択には十分注意する。仕上げ材の種類や材料によっては、ＰＣ板製作に先立ち、試験体を製作して付着力、アンカー耐力等の確認を行う。

補17.3.4　ＰＣカーテンウォールの製作
（ａ）製作図書等
（１）受注者は、製作に先立ち製作計画書及び製作図を作成し、監理者に提出し、承認を受ける。
（２）製作計画書には、次の事項を記載する。
（ｉ）製作に当たる部署の組織表及び役割分担表
（ⅱ）製作日程
（ⅲ）使用材料(型枠加工の方法、材料加工の方法、先付け部材の製作方法及び打込み方法、金物類の防食処理、仕上げ塗材・塗料の工法、先付け仕上げ材の工法)
（ⅳ）製作フローチャート及び組立て要領
（ⅴ）検査事項、精度及び検査方法
（ⅵ）養生、運搬、揚重及び保管計画
（ⅶ）清掃方法
（ⅷ）その他監理者の指示する方法
（３）製作図には次の事項を記載する。
（ｉ）層間変位追従方式(構造体への取付部及びユニット周の接合部)
（ⅱ）パネル割付及び取付け金物配置図
（ⅲ）取付け金物の摩擦低減材の材質及び取付け寸法
（ⅳ）ＰＣ板の配筋及び埋込み金物
（ⅴ）版相互のジョイント部の詳細及び耐火目地材の納まり
（ⅵ）構造ガスケットを使用する場合のＰＣ部との納まり
（ⅶ）結露水及び侵入水の排水処理ルート
（ⅷ）パラペット笠木及び他部材との取合い
（ｂ）材料及び部材
製作に用いる材料及び部品は、本仕様書及び特記に定められたものとし、これらに該当しない材料・部品については ＪＩＳに規定する試験方法による試験に合格したものとする。
（ｃ）取付け金物
（１）取付け金物は、仕上がりに影響を与えたり、強度低下をもたらす可能性のある変形や寸法誤差のないものを使用する。
（２）補17.1.3(ａ)[耐風圧性能]及び補17.1.3(ｂ)[層間変位追従性能及び耐震性能]に規定する外力に対し十分な強度を有し、有害な変形を生じてはならない。
（ｄ）製作
（１）製作は、製作図、施工計画書及び施工者の社内規格に基づき、十分な技術管理と作業管理の下に正確かつ丁寧に行う。
（２）せき板は、金属製の場合、厚さ4.5mm以上の鋼板、木製の場合は、「コンクリート型枠用合板日本農林規格」による1種合板とし、厚さ18mm以上で表面加工品とする。
（３）吊下げ用インサート・ナット等は、取付け後フォームポリスチレン材を充填した後シーリング材等で封鎖し、水密を確保する。
（ｅ）製品検査
（１）製品検査は、製作計画書に従って行う。検査の判定基準はJASS14.7.2、表７.2[製作過程におけるプレキャストコンクリートカーテンウォールの検査]による。ただし、製品寸法については、「共仕」17.3.3[形状及び仕上げ]の(ａ)による。製品検査結果は、個体単位の検査成績表を作成し、監理者に提出し承認を受ける。

補17.3.5　ＰＣカーテンウォールの取付け
（ａ）変位の吸収を要求されている取付け金物は、変位を吸収できるように、部材周の摩擦低減材の挿入やボルトの締付けトルクの適性管理等を行う。

補４節　設計条件の確認

補17.4.1　適　用　範　囲
この節は、メタルカーテンウォール及びＰＣカーテンウォールの各部の設計条件の確認に適用する。

補17.4.2　荷重、外力及び層間変位
（ａ）自重の算定に当たっては、吸湿及び吸水の恐れのある材料を使用する部分には、それによる自重の増加を考慮する。
（ｂ）構造計算の対象とする風圧力は、補17.1.3(ａ)[耐風圧性能]による。
（ｃ）構造計算の対象とする地震力は、補17.1.3(ｂ)[層間変位追従性能及び耐震性能]による。
（ｄ）温度応力は通常予想される部材の年間最高温度と最低温度との差を用いて算定する。
（ｅ）カーテンウォール部材の設計に当っては、カーテンウォールの脱型、反転、場内運搬、ストック、場外運搬及び取付け等における荷重及び外力を考慮する。吊上げに用いる金物類は、自重の他に衝撃荷重も考慮する。

補17.4.3　構造上の設計
（ａ）カーテンウォール各部は、通常予測される各応力の繰返し作用に安全でなければならない。
（ｂ）応力の組合わせ及び層間変位追従性
（１）各部に生ずる応力は、補17.4.2[荷重、外力及び層間変位]による各応力の組合わせのうち、最も大きなものをとる。
（２）層間変位追従性は、風圧力及び地震力によって生ずる層間変位のうち、最も大きい方に追従出来るようにする。
（３）ガラスは、熱応力計算値が許容応力を超えないよう熱割れ防止設計を行う。
（ｄ）ガラスの取付け部の溝
（１）ガラスのはめ込みにおけるクリアランス及びかかり代などは、「共仕」表16.13.1[ガラス溝の大きさ]による。面クリアランスとかかり代については、補17.4.3(ｃ)(２)に準じて熱割れ防止のための検討を行う。
（２）ガラスの取付けに不定形シーリングを用いる場合の、エッジクリアランスは、サッシの上下枠の相対水平変位の許容値を確認し、許容値が層間変位によるサッシの変形の大きさ以上になるように決定する。
（３）構造ガスケットを使用する場合で、施工中にガスケットを傷つけないようにガラスエッジの面取りを行う場合は、耐風圧及び熱割れ防止に必要なガラスエッジ強度を確保する。

補17.4.4　取付け金物の設計
（ａ）取付け用金物は、構造体の許容される範囲内の施工誤差及びカーテンウォールの製作誤差を吸収できるものとする。
（ｂ）カーテンウォールに先付けする部材付け金物は、所定の耐力が十分に確保出来る様な位置に設置する。
（ｃ）ＰＣカーテンウォールに先付けする金物は、所定の耐力を確保するのに十分なコンクリート躯面からの寸法及び定着長をとり、必要に応じて補強を行う。また、周囲に打込まれるコンクリートが容易に充填できるような形状、寸法及び配置にする。

補17.4.5　耐　　火
カーテンウォールは補17.1.3(ｅ)[耐火性能]を満足すると共に、内部延焼を防止し、火災による脱落が生じないようにする。

補17.4.6　接　合　部　工　法
（ａ）接合部は、2面シールによるクローズドジョイント又は等圧オープンジョイントによるものとし、その適用は、特記による。
（ｂ）接合部には、外部に排出するための有効な排水機構を設ける。
（ｃ）接合部の目地部の部材躯面の最小寸法は、1次シール材、耐火目地材(部材が耐火被覆材を兼ねる場合)、減圧空間及び2次シール材が無理なく設置出来る値とする。

補17.4.7　その他の設計上の配慮
（ａ）カーテンウォールの室内側及び壁体内に有害な結露を生じないように設計し、結露が生ずる恐れのあるときは適切な処理機能を取込む。結露水による錆や凍結などにより、性能の低下や機構上の欠陥が生じないようにする。
（ｂ）竣工後、補修の必要が予想される部分及び清掃する必要のある部分は、作業が安全かつ容易に行われるようにする。清掃用機械器具を使用する場合は、カーテンウォールの構造耐力や機構が使用に支障のないようにする。
（ｃ）異種金属の接触腐食により、美観その他の性能に欠陥を生ずる恐れのある時は、その部分における漏水や結露水などの発生もしくは異種金属の接触がないようにし、腐食の発生の恐れのある部分は絶縁処理もしくは防錆処理を行う。
（ｄ）部材間にクリアランスをとることにより、各性能が低下する恐れのある場合は、その程度に応じた性能低下防止の処理をする。
（ｅ）予測される風圧力、地震力及び熱応力による変形に起因して発生する擦音や摩擦音は最小限に抑えるようにする。
（１）ファスナー部
金属衝動部にテフロン、りん青銅グラファイト、平滑なステンレス板等を挟む。
（２）方位接合部分
方位とジョイントスリーブの接触部分には、テフロンを挟んだり液状剤等を塗布する。
（３）方位・無目とスパンドレル
方位とスパンドレル、無目とスパンドレルの接合部にはゴム等のクッション材を挟む。
（４）パネル自体
パネルのべこつきを防ぐために板厚を大きくしたり、補強材を付ける。又はタール系の材料等を厚めに塗布する。補強材とパネルは、間にクッション材を挟むか、完全に一体に製作する。
（５）密閉閉部、排煙口等の召合わせ部やドライシールを納めた構成部材間の隙間を空気が流通することによる風切り音に対しては、召合わせの隙間を小さくし、通気量を抑える。その方法は、次による。
（ｉ）吊り金物、締金具等の数を増やす。
（ⅱ）障子、枠断面の寸法、板厚を大きくする。
（６）カーテンウォールに組込まれた換気口からの通気による風切り音空気流に対し、抵抗性のないディテールを考慮する。
（ｆ）乾燥収縮ひび割れの制御
（１）部材周囲の拘束が強過ぎないように、部材は出来るだけ平板状とし、やむを得ずリブ状部材とする場合は、リブで囲まれる平板部の面積を1.5㎡以下とする。
（２）変形した断面部は、応力集中を防ぐため出来るだけ鋭角状としない。
（３）平板部はダブル配筋とし、鉄筋もしくは溶接金網の間隔は部材の厚さの1.5倍以下とする。
（ｇ）構造ガスケット取付部分の設計
（１）開口部にＨ形定形シーリングを使用する場合の取付け部分については、JASS17[ガラス工事]を適用する。
（２）ＰＣカーテンウォール等の開口部にＹ形定形シーリングを使用する場合の取付け部分は次を標準とする。
（ｉ）溝の寸法精度は、JASS17[ガラス工事]による。
（ⅱ）コンクリート躯面から溝の中心までの寸法は60mm以上とする。
（ⅲ）溝の前後におけるコンクリート面の勾配は、5'(8/100)以内とする。
（ｈ）付帯工事部材取付け用先付け金物は、その用途に適した材質を用い、所定の強度ならびに耐久性を有するものとする。

補５節　施　　工

補17.5.1　適　用　範　囲
この節は、メタルカーテンウォール及びＰＣカーテンウォールの施工に適用する。

補17.5.2　施　工　図　書　等
（ａ）受注者は、施工に先立ち施工計画書及び施工図を監理者に提出し承認を受ける。
（ｂ）施工計画書には、次の事項を記載する。
（１）施工関係者の組織表及び役割分担
（２）工程計画
（３）運搬単位による部材一覧表
（４）運搬、揚重及び保管計画
（５）取付け方法及び取付け順位
（６）養生及び清掃計画
（７）検査事項、精度及び検査方法
（８）安全対策
（９）その他監理者の指示する事項
（ｃ）施工図には次の事項を記載する。
（１）構造体側金物配置図
（２）取付け方法、ジョイント、雨仕舞及びシーリング
（３）耐火被覆、層間ふさぎ及び防火煙区画の処理方法
（４）排水処理及び結露対策
（５）設備工事及び内装等その他工事との取合い

補17.5.3　清掃及び養生
（ａ）清　掃
（１）清掃は表面仕上げに異常を生じさせない方法で行う。
（２）清掃の時期及び範囲は、監理者と協議の上決定する。

補17.5.4　施　工　検　査
（ａ）施工検査は、補17.5.2(ｂ)[施工計画書]に従って行い、検査の項目、方法及び判定基準はJASS14.7.3、表7.3[施工過程の検査]により、取付け位置の寸法許容差は補17.2.5[メタルカーテンウォールの取付け]及び補17.3.5[ＰＣカーテンウォールの取付け]による。
（ｂ）施工検査結果は、検査報告書を作成し、監理者に提出し承認を受ける。
（ｃ）検査の結果、補修又は取替えを必要とする場合は、速やかに対処し、結果を監理者に報告する。

18章　塗 装 工 事

補１０節　アクリルシリコン樹脂塗装

補18.10.1　適　用　範　囲
この節は、主として比較的長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いるアクリルシリコン樹脂塗装に適用する。

補18.10.2　素地ごしらえ
（ａ）ステンレス面の素地ごしらえは、補表18.10.1による。

補表18.10.1　ステンレス面の素地ごしらえ

	工　程	面の処理	備　考
1	汚れ、付着物除去	汚れ、付着物をスチールウール布等で除去した後に溶剤拭き	
2	素地除去	ヘアライン又はダル処理	
3	油膜除去	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後湯洗い、又は溶剤洗浄	
4	化成皮膜処理	クロム酸塩化成皮膜又は酸化皮膜処理後、水洗い乾燥	直ちに次の工程に移る

（ｂ）アルミニウム面の素地ごしらえは、補表18.10.2による。

補表18.10.2　アルミニウム面の素地ごしらえ

	工　程	面の処理	備　考
1	汚れ、付着物除去	汚れ、付着物をスチールウール布等で除去した後に溶剤拭き	
2	油膜除去	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後湯洗い、又は溶剤洗浄	
3	化成皮膜処理	クロム酸塩化成皮膜又は酸化皮膜処理後、水洗い乾燥	直ちに次の工程に移る

補18.10.3　材　　料
上塗りに用いるアクリルシリコン樹脂エナメル、及びクリヤは、カネカゼウムラックを配合した非イソシアネート系塗料で、主剤にはアクリルシリコン樹脂（アルコキシシリコン基含有ビニル共重合樹脂）及び硬化剤は、アルコキシシリル基に対する硬化触媒を主成分とする。

補18.10.4　金属系素地面のアクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）
（ａ）この項はステンレス面及びアルミニウム面の金属系素地面における、アクリルシルコン樹脂エナメル塗りに適応する。
（ｂ）ステンレス面及びアルミニウム面のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りは、製造所の仕様による。

補18.10.5　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）
（ａ）この項は、コンクリート打放し面におけるシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りに適用する。
（ｂ）コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りは、補表18.10.6により、シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は、特記による。

補表18.10.6　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリル
シリコン樹脂エナメル塗り

工　程	塗料種別Ｃ種	塗料その他	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ	○	「共仕」表18.2.6によるＡ種	－
1 下塗り	○	シリコン系浸透性吸水防止材	0.15～0.20
2 上塗り 1回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂エナメル	0.10
3 上塗り 2回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂エナメル	0.10
(注)低汚染型の場合は、工程２及び工程３に低汚染型アクリルシリコン樹脂エナメルを使用する。			

（ｃ)工法その他は、製造所の仕様による。

補18.10.6　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り（ASC）
（ａ）この項は、コンクリート打放し面におけるシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り(カラークリヤを含む)に適用する。
（ｂ）コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗りは、補表18.10.7により、塗料種別及びシリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は、特記による。

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事補足仕様書（５）		
縮　尺	－	図面番号	294
下関市ボートレース企業局			

（ｃ）工法その他は、補表18.10.7による。

補表18.10.7　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り

工　　程	塗料種別Ｃ種	塗料その他	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ	○	「共仕」表18.2.6によるＢ種	－
1　下塗り	○	シリコン系浸透性吸水防止材	0.15～0.20
2　上塗り 1回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂クリヤ	0.10
3　上塗り 2回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂クリヤ	0.10
(注) 低汚染型の場合は、工程2及び工程3に低汚染型アクリルシリコン樹脂クリヤを使用する。			

補１１節　常温乾燥形ふっ素樹脂塗装

補18.11.1　適　用　範　囲
この節は、主として比較的長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる常温乾燥形ふっ素樹脂塗装に適用する。

補18.11.2　素地ごしらえ
ステンレス面、アルミニウム面の素地ごしらえは、補表18.10.1及び補表18.10.2による。

補18.11.3　材　　料
中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂塗装は、フルオロオレフィンビニルエーテル共重合体樹脂（ＦＥＶＥ）の常温硬化型塗料とし、対汚染性を考慮して三フッ化モノマー配合とする。中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂分中のフルオロオレフィンビニルエーテル共重合体樹脂が100%配合されていること。促進耐候性試験で4,000時間（ＧＲ90%以上）に耐えるものとする。（補表14.9.14）

補18.11.4　金属系素地面の常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗装（2-FUE）
（ａ）この項はステンレス面及びアルミニウム面の金属系素地面における、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りに適応する。
（ｂ）ステンレス面及びアルミニウム面の常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りは、製造所の仕様による。

補18.11.5　コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り（FUC）
（ａ）この項は、コンクリート打放し面の濡れ肌防止用塗料の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗りに適用する。
（ｂ）コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗りは、補表18.11.4により、塗料種別及びシリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は特記による。

補表18.11.4　コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り

工　　程	塗料種別 A種	塗料種別 B種	塗料その他	標準膜厚μm	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ	○	○	「共仕」表18.2.6によるＢ種	－	－
1　下塗り	○	○	浸透性吸水防止材	－	0.10～0.12
2　中塗り	○	－	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂中塗り濡れ肌防止材	30～40	1.15～0.17
3　上塗り 1回目	○	○	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ(着色)	15～25	0.14～0.30
4　上塗り 2回目	○	○	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ(着色)	15～25	0.10～0.13
(注)低汚染型の場合は、工程2,3及び工程4に低汚染型常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤを使用する。					

１９章　内 装 工 事

補２節　ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

補19.2.1　材　　料
（ａ）ビニル床シート張り
（１）この項は、ビニル床シートの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、「共仕」19章２節[ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り]による。
（２）ビニル床シートの材料はJIS A 5705(ビニル系床材)による他、その他の床シートを含めた床シートの種類は、補表19.2.1により、材料、厚さは特記による。

補表19.2.1　ビニル床シート等の種類

種　類		名　称		記号	粘結材	構　成
ビニル床シート	発泡層のないビニル床シート	単層シート		NM	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂及び塩ﾋﾞﾆﾙ酢酸ﾋﾞﾆﾙ共重合樹脂	単体のもの
		長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ		NC		織布を積層したもの
		ｲﾝﾚｲﾄﾞｼｰﾄ		NF		不織布を積層したもの
		ｿﾌﾄｲﾝﾚｲﾄﾞｼｰﾄ		NO		織布、不織布以外の材料を積層したもの
	発泡層のあるビニル床シート	複合塩ﾋﾞｼｰﾄ(タイプⅠ)		DC		織布を積層したもの
				DF		不織布を積層したもの
				DO		織布、不織布以外の材料を積層したもの
		ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱｰ（タイプⅡ）		PF		不織布を積層し、印刷柄を有するもの
				PO		織布、不織布以外の材料を積層したもので印刷柄をもつもの
ゴム床シート		ゴムシート			合成ゴム	織布
油脂系床ｼｰﾄ		リノリウム			亜麻仁油	織布(麻布)、不織布以外のもの(紙)
Ｎ:None Foamﾀｲﾌﾟ　Ｍ:Mono(単体)　Ｃ:Cotton Wooven で代表される織布　Ｆ:Flet(不織布) Ｏ:Other でＭ,Ｆ,Ｃ以外のもの　Ｄ:Durable use(重歩行用)　Ｐ:Print(印刷柄)						

（ｂ）ビニル床タイル及びゴム床タイル張り
（１）この項は、ビニル床タイル及びゴム床タイルの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、「共仕」19章2節[ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り]による。
（２）ビニル床タイルの材料はJIS A 5705(ビニル系床材)による他、その他の床、タイル等を含めた床タイルの種類は、補表19.2.2により材料厚さは特記による。

補表19.2.2　ビニル床タイル等の種類

種　類		名　称		粘結材	構　成
ビニル床タイル	ﾎﾓｼﾞﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ﾎﾓｼﾞﾆｱｽ(HT)	ﾌﾟﾚｽ	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂及び塩ﾋﾞﾆﾙ酢酸ﾋﾞﾆﾙ共重合樹脂	単層のもの(ﾁｯﾌﾟ、ﾍﾟﾚｯﾄ、板状)
			無地		積層したもの(板状)
			ﾏｰﾌﾞﾙ		
		ﾋﾞﾆﾙﾀｲﾙ			
		ﾋﾞｺｱﾋﾞﾆﾙﾀｲﾙ			単層のもの(ﾁｯﾌﾟ、板状)
	ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	半硬質(CT)軟質(CTS)	無地		半硬質へこみ量 20℃ 0.15mm以上
			ﾏｰﾌﾞﾙ		
			ｽﾙｰﾁｯﾌﾟ		軟質へこみ量 20℃ 0.25mm以上
		エンボスタイル			
	帯電防止、耐酸、耐油ﾋﾞﾆﾙﾀｲﾙ				
ゴム床シート		硬質ゴムタイル		天然、合成ゴム	積層(シート、ペレット状)
		軟質ゴムタイル		合成ゴム	単層(シート、コイン状)
ビニル幅木		硬質ビニル幅木 軟質ビニル幅木			

（ｃ）種類、色柄、寸法、厚さ及び寸法は、特記による。

補５節　フローリング張り

補19.5.1　材　　料
（ａ）この項は、フローリングの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、「共仕」19章5節[フローリング張り]による。
（ｂ）フローリングの種類は補表19.5.1により、その適用は、特記による。

補表19.5.1　フローリングの種類　（単位:mm）

種　類		樹　種	裏うち	厚さ	大きさ	幅	長さ	工　法	塗　装
単層フローリング	特殊集成材	ナラ ブナ カバ		15～30	303×1818 455×1818	－	900 909	接着 釘どめ	なし
		アサダ ｲﾀﾔｶｴﾃﾞ							
		マトア マツ							
複合フローリング	特殊加工木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	ス ギ ヒノキ	接着のみあり	6 ～30	－	50～450	600～2000	モルタル釘どめ接着	あり WPC
	天然木化粧複合ﾌﾞﾛｯｸ	国産針葉樹 国産広葉樹	あり	6 ～30	240×240～303×303	－	－	接着	あり（なし）
	特殊加工木化粧複合ﾌﾞﾛｯｸ	外国産広葉樹	あり	8 ～30	240×240～303×303	－	－	接着	あり WPC
	大型積層材複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	外国産針葉樹		12 ～30	ﾌﾘｰｻｲｽﾞ	－	1818	接着 釘どめ	あり（なし）
ＷＰＣ:合成樹脂含浸木材 工法：モルタル＝モルタル埋込み工法　釘どめ＝釘どめ工法　接着＝接着工法									

補１０節　ポリスチレンフォーム系床下地材

補19.10.1　適　用　範　囲
この節はコンクリート面に施工するポリスチレンフォーム系床下地材に適用する。

補19.10.2　種　　類
種類は畳下パネル及びフローリング類下パネル(桟付)とし、その適用は特記による。

補19.10.3　材　　料
（ａ）ポリスチレンフォーム床下地材はJIS A 9511(発泡プラスチック保温材)に規定するＢ-2により、その寸法は幅600mm、長さ900mmとし、厚さは特記による。特記がなければ40mmとする。
（ｂ）コンクリート面に施工する場合に使用するモルタル及び接着剤、空練りモルタルは、パネル製造所の仕様による。

補19.10.4　工　　法
（ａ）パネルの敷並べ時に、パネル上面に配管等の位置表示を行うこと。割付により、パネルを切り欠く場合は、床仕上げ材へ支障のないようにする。
（ｂ）フローリング類下パネル(桟付)に木質系床材を釘打ちする場合は、接着剤併用とし、接着剤及び塗布方法はパネル製造所の仕様による。

補１１節　住宅用乾式遮音二重床下地材

補19.11.1　適 用 範 囲
この節は調整可能な支持脚により構成された遮音効果のある住宅用乾式遮音二重床について適用する。

補19.11.2　種　　類
種類は補表19.11.1により、適用箇所は、特記による。

補表19.11.1　住宅用乾式遮音二重床下地材の種類

種　類	Ａ　種	Ｂ　種
適 用 箇 所	洋室、厨房、廊下等	洗面所、脱衣室等

補19.11.3　材　　料
（ａ）ベースパネル
パーティクルボードはJIS A 5908に規定する18Mタイプ又は18Pタイプで、日本硬質繊維板工業会の下地用パーティクルボード規格表示のものとし、寸法は、特記による。特記がなければ25mm×1820mm×600mmとする。
又、ホルムアルデヒドの放散量は、Ｆ☆☆☆☆し、その適用は、特記による。水廻りに使用する場合は、表・裏面及び小口面にパラフィン50g/㎡以上を含浸させたものとし、適用は特記による。
（ｂ）拾板合板
木質系複合床板仕上の場合はなしとし、ビニル床シート、カーペット等の場合は普通合板１類でホルムアルデヒド放散量がＦ☆☆☆☆のＪＡＳ規格品厚5.5mmとし適用は特記による。
（ｃ）支持脚等
１．合板ブロック　　JAS TI
２．インサートナット　　JIS G 3507　クロームメッキ処理
３．支持ボルト　　JIS G 3507　クロームメッキ処理
４．防振ゴム　　JIS K 6386　A種　　硬度60±5

補19.11.4　工法・その他
（ａ）支持ボルトのゆるみ防止対策
合板樹脂系接着剤を支持ボルト両端に塗布
（ｂ）家具等のゆれ防止対策
壁面から45.0mm以内に支持脚を設置する。開口部等の壁際は612mm以内とする。
（ｃ）施工仕様
（１）支持脚をベースパネルの固定はスクリューネイラーどめとする。
（２）木質系複合床板貼りはベースパネル上にスクリュー釘どめとし、接着剤は原則として使用しない。
（３）仕上材がカーペット、ビニル床シートの場合は捨張合板厚5.5mmとする。
施工はベースパネル上にスクリュー釘どめとし接着剤は原則として使用しない。
（ｄ）上記以外の項目については製造所仕様による
（ｅ）施工図
上記に基づき施工に先立ち仕上材の貼り方、方向、設備配管等との整合を図り、床きしみ等が生じないよう配慮した施工計画書及びタイプ別割付図を作成する。

補１２節　弾性床

補19.12.1 適 用 範 囲
この節は体育館等(一般体育館、柔道場、剣道場、柔剣道場、スポーツ競技場等)スポーツフロアーとしての強度、弾性、平滑性等を必要とする床工法に適用する。

補19.12.2 塗　り　床
（ａ）弾性塗り床の種別は、補表19.12.1.により、材料及び厚さは特記による。各層の材質及び塗工法は専門業者の仕様による。

補表19.12.1　弾性塗り床の種別

種　　別	床下地の構造 コﾝｸﾘｰﾄ又はﾓﾙﾀﾙ	床下地の構造 鋼製床下地	寸法 厚さ(mm)
ｺﾞﾑﾁｯﾌﾟ弾力層＋ﾈｵﾌﾟﾚﾝ保護層	○	○	15～18
ｺﾞﾑﾁｯﾌﾟ弾力層＋ｳﾚﾀﾝ仕上層	○	○	13～16
ｳﾚﾀﾝ厚塗り	○	○	4～10

（ｂ）下地のコンクリート面の仕上がりの平たんさは、3mにつき5mm以下を標準とし、他の仕様は「共仕」15.5.2による。
（ｃ）塗り床の表面仕上げは、耐摩耗性防滑つや消し仕上げとする。
この他の工法仕様は「共仕」19.4.3[工法]による。

補19.12.3 張　り　床
（ａ）張り床の種別は補表19.12.2により、材料及び厚さは特記による。

補表19.12.2　張り床の種別

種　　別	床下地の構造 ｺﾝｸﾘｰﾄ又はﾓﾙﾀﾙ	床下地の構造 鋼製床下地	寸法 厚さ(mm)	寸法 幅・長さ(mm)
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ(発泡性・非発泡性)	○	○	2～5.5	1820・9000
タイルカーペット	○	○	5～12	915～1525・15000
合成ゴム系シート	○	－	7～11	500・500
パンチカーペット	○	－	4	1820～2730・10000
人工 芝(織物ﾀｲﾌﾟ・砂入ﾀｲﾌﾟ)	○	－	7～30	910～1800 5000～20000

（ｂ）下地は、コンクリート又は鋼製下地合板二重床とし、適用は特記による。下地のコンクリートの仕上がりの平たんさは、3mにつき5mm以下を標準とし、他の仕様は「共仕」15.3.2による。その他については、「共仕」19.2.3[施工]、19.2.4[寒冷地の施工]による。

補19.12.4 木　造　床
（ａ）材料は「フローリングの日本農林規格」合格品とし、樹種及び厚さは、特記による。
（ｂ）下張り板
下張り板は下記とし、適用は、特記による。
（１）合板
普通合板１類でホルムアルデヒド放散量がＦ☆☆☆☆の、コンクリート型枠用合板及び構造用合板の日本農林規格の規格品で防水性能を有し、厚さ12mm以上とする。但し、組床の柔道場、剣道場及び柔剣道場にあっては、15mm以上とし、その適用は特記による。
（２）パーティクルボード
JIS A 5908に規格する18Mタイプ又は18Pタイプで日本硬質繊維板工業会の下地用パーティクルボード規格表示のもので、厚さは20mm以上とし、適用は特記による。又、ホルムアルデヒドの放散量はＦ☆☆☆☆とし、その適用は、特記による。
（ｃ）フローリングの張付け工法
下地材に、接着剤併用で、隠し釘打ち又は隠し釘打ちと脳天ビスでとめるものとし、適用は、特記による。
（ｄ）研磨
研磨紙は、#30～#100以上を標準として用い、荒掛け、中掛け及び仕上げの3回掛けとする。研磨にて落ちない段差、キズ及び汚れ等は板の張替え及び薬品などで拭取りを行う。
（ｅ）塗装
塗装はポリウレタン樹脂塗装(油変性型、湿気硬化型、2液反応型)、酸硬化アミノアルキッド樹脂塗装又は、水性ウレタン樹脂塗装とし、適用は特記による。塗装工程は補表19.12.3による。

補表19.12.3　木造弾性床の塗装工程

工　程	作　　業	G	乾燥養生期間(時間以上) 油性	湿硬	2液	AKP	水性ｳﾚﾀﾝ
素地ごしらえ	研磨された面をよく清掃し付着物を取除き油類は溶剤拭きする。	－	－	－	－	－	－
下塗り	塗料は塗料タイプに応じた量のうすめ液にて希釈し、刷毛又は羊毛刷毛にて塗布する。	60以上	10	8	8	8	8
研磨	研磨紙#100～120にて研磨し気泡をよくとる。	－	－	－	－	－	－
中塗り	下塗りに同じ	60	10	8	8	8	8
研磨	研磨紙#100～120にて研磨し気泡をよくとる。	－	－	－	－	－	－
ライン引		－	－	－	－	－	－
上塗り	下塗りに同じ	60	10	8	8	8	8
G:㎡当り塗布量ｇ　　ＡＫＰ:酸硬化アミノアルキッド樹脂塗装							

（ｆ）完成した床の水平精度は床全体の公差±5mm以内とする。但し、局部的な辺部(出入口など)からくる制約による誤差、又、柔道場の畳部分は除くものとする。

補19.12.5　鋼製床下地
（ａ）鋼製床下地は、JIS A 6519(体育館用鋼製床下地構成材)の規格による。
（ｂ）構成区分及び使用目的による区分は補表19.12.4及び、補表19.12.5により、その適用は特記にる。

補表19.12.4　構成による区分

区　分	記号	備　　考
組床式	Ｆ	支持脚・大引・根太などを組合わせて構成されるもの。
置き床式	Ｓ	支持脚及び床パネルなどを組合わせて構成されるもの。

補表19.12.5　使用目的による区分

区　分	記号	備　　考
一般体育館用	Ｇ	通常の体育館の構成材として使用するもの。
柔道場用	Ｒ	柔道場の構成材として使用するもの。
剣道場用	Ｋ	剣道場の構成材として使用するもの。
柔剣道場用	Ｒ・Ｋ	柔道場及び剣道場に兼用される構成材として使用するもの。

（ｃ）構成材の性能は、JIS A 6519の表3(性能)に適合しなければならない。
（ｄ）構成材に使用する材料は、JIS A 6519の表6(材料)により、床パネル及び支持板の種別は、特記による。

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	建築工事補足仕様書（６）		
縮　尺	－	図面番号	295
下関市ボートレース企業局			

※天井下地における耐震性を考慮した補強は以下とする。　（標仕　14.4.4（1））
（改修標仕　6.6.4（1））

1．一般事項

①適用範囲　：以下の天井については本特記では適用外とし、別途図示する
・天井構成部材の単位面積当たりの重量が20kg/㎡を超える天井
・天井高6m以上、かつ天井面積200㎡を超える天井
・天井吊り長さが3mを超える天井
・曲面や折り上げ、ストライプタイプ等複雑な形状の天井

標準仕様書及び標準詳細図の天井下地の仕様をそのまま使用する場合は、耐震性が確認できていないことや、危険性について建築主に説明し、同意を得た記録を残す。その際、本特記・要領図は使用しない。

②設計地震力：建築工事特記仕様書（1）又は、建築改修工事特記仕様書（1）の1．設計概要による建築非構造部材水平震度及び垂直震度を適用する。
免震構造の天井に対する設計地震力は、H12建設省告示第2009号第6第3項第八号の数値を使用する。

③耐震ランク：「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準及び同解説」（令和3年版）に規定されている耐震ランク
aランク：A類の外部に面する部分、「特定室」に面している部分に適用（特定室は仕上表備考欄に記載する）
bランク：B類及びA類の「一般室」に面している部分に適用

2．耐震性を考慮した天井仕様

・A仕様：国交省告示第771号（特定天井）の仕様ルート（第3第2項）の計算式に基づき斜め部材を設置し、壁際にクリアランスを設ける仕様（ただし、斜め部材設置数算定に用いる設計地震力は、1.②の設計概要の建築非構造部材水平震度による、免震構造の場合は、階数によらずk=0.5とする）
※右欄の斜め部材設置数の目安により設置数を求める。
・告示第771号の計算式による（各室の設置数、接合部仕様一覧表を添付）

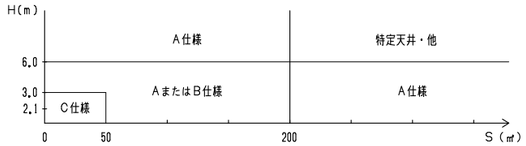
・B仕様：国交省告示第771号（特定天井）の隙間なし天井の仕様ルート（第3第3項）に基づき壁に地震力を負担させる仕様（ただし、衝撃力を考慮した設計地震力は、1.②の設計概要の建築非構造部材水平震度を1.3倍した数値とする、免震構造の場合は、階数によらずk=0.7とする）
※壁が軽量鉄骨下地の場合、スタッドの仕様、ピッチは告示第771号第3第3項の条件を満足するものとする。
※bランクの場合、壁のボードの損傷は許容する。
※隙間なし天井の壁との取り合い部分はB仕様における壁と天井の取り合い部推奨事例による。

・C仕様：天井脱落防止を主目的とした仕様
（標準仕様書及び標準詳細図をベースとするが以下の条件を満たすものとする）
※天井下地材の組み立てはすべてビス止めとし、溶接止めは行わない。
※天井吊り長さは1.5m以下とする（吊り長さ1.5mを超える場合は、吊り材の補剛要領による）
※吊り元はRCスラブや鉄骨準構造部材に緊結する。
※壁と天井の取り合い部は、原則B仕様にならう。
※壁が軽量鉄骨下地の場合、ボードは片面2枚の両面張りとする。
※上層階の軽量鉄骨下地壁は、スタッドのピッチを300mm程度とする。

・D仕様：システム天井の「システム天井グリッドタイプ耐震基準」（2020年版）に示す仕様

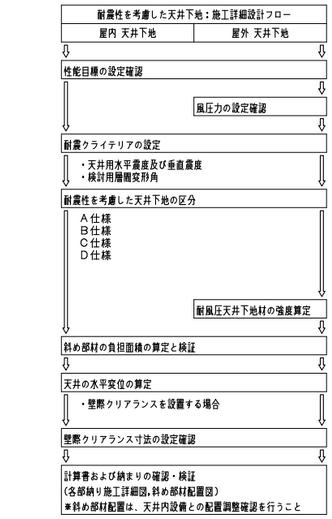
3．各仕様の適用範囲

①天井高6.0m以上、かつ天井面積200㎡未満　→A仕様
②天井高2.1m以上6.0m未満、かつ天井面積200㎡以上　→A仕様
③天井高2.1m以上3.0m以下、かつ天井面積50㎡以下でbランク　→C仕様
④天井高2.1m以上6.0m未満、かつ天井面積200㎡未満のうちC仕様を除くエリアでaランクおよびbランク　→AまたはB仕様



天井適用範囲概念図

※施工時詳細検討要領
※以下のフローに基き、施工要領書，耐震，耐風圧計算書を作成、　検証し提出すること。



※斜め部材の設置は本図の各基本要領図によるが、斜め部材の設置が天井下地組立上困難な場合は、同等の効果のある部材補強等で代替処置を行って良いものとする。

A仕様における斜め部材設置数・クリアランスの目安

1．斜め部材1組当たりの負担面積の目安（重量20kg/㎡の場合の吊り長さによる類型）
□天井の単位面積あたりの重量　20kg/㎡の場合の斜め部材1組当たりの負担面積を求める。
＊縦軸は斜め部材の部材、横軸は水平震度（+想定するユニットの水平許容耐力）とする

・吊り長さ　l≦1.5m（斜め部材の水平投影長さ0.9m）の場合の1組あたりの負担面積（㎡/組）

	k＝1.0	k＝0.6	k＝0.4	水平許容耐力
C-25×19×5	7.22 ㎡	12.04 ㎡	18.07 ㎡	1700N
C-40×20×1.6	11.22 ㎡	18.71 ㎡	28.05 ㎡	2500N

・吊り長さ　1.5m＜l≦2.1m（斜め部材の水平投影長さ1.8m）の場合の1組あたりの負担面積（㎡/組）

	k＝1.0	k＝0.6	k＝0.4	水平許容耐力
C-40×20×1.6	(10.08) ＊1	16.79 ㎡	25.19 ㎡	2500N
C-25×40×20×1.6	17.86 ㎡	29.76 ㎡	44.64 ㎡	3500N

＊1：一部設置可能組数を超える場合がある

・吊り長さ　2.1m＜lの場合はブドウ棚（準構造部材による）を設けて1.5m以下とする

2．斜め部材1組当たりの負担面積の目安（天井の単位面積あたりの重量による補正）
□天井の単位面積当たりの重量 a Kg/㎡の場合の斜め部材1組当たりの負担面積を求める

＊天井の単位面積あたりの重量が20 Kg/㎡の斜め部材1組あたりの負担面積が b ㎡の場合
重量 a Kg/㎡の斜め部材1組あたりの負担面積b' ㎡は次の式で求められる
b'＝b÷a/20（＝b×20/a）　（㎡/1組）

3．斜め部材組数の目安（天井の斜め部材の組数）
□天井面積S㎡の斜め部材の組数nは次の条件で求められる
n≧S/b'
nは整数かつ偶数で上記式を満たす最小値

□斜め部材の組数は接合部の強度に左右される。この目安はメーカーのユニット実験から得られる水平許容耐力を前提に設定している　（仕様ルートの計算式による設定も可能）。

4．クリアランスの目安
□クリアランスの目安を以下に示す
＊dcl：天井面構成部材と壁等との隙間（cm）
＊Lcl：衝突が生じないことを確かめる位置での吊り長さ（cm）
としたとき、水平震度　k＝1.0、0.6、0.4の時のクリアランスは
【k＝1.0の場合】
dcl＝1.5+3/400×Lcl　（cm）
【k＝0.6の場合】
dcl＝0.9+3/400×Lcl　（cm）
【k＝0.4の場合】
dcl＝0.6+3/400×Lcl　（cm）
と設定する。

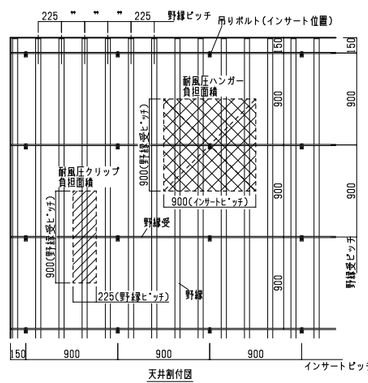
※屋外の軒天井，ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強は以下とする。　（標仕　14.4.3(a)(b),14.4.4(k)）
（改修標仕　6.6.3(a)(b),6.6.4(k)）

1．一般事項
設計風圧力：外部仕上表の指示による。
2．屋外下地の形式及び寸法と耐風圧補強
＊天井の下地適用部材は以下とする。

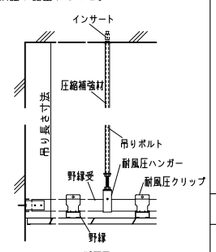
屋外天井下地適用部材表

設計風圧力			・2000N/㎡以下	・2500N/㎡以下	・3000N/㎡以下	・4000N/㎡以下
インサートピッチ			900	900	750	600
野縁受	部材		C－38×12×1.6	C－38×12×1.6	C－38×12×1.6	C－38×12×1.6
	ピッチ(単位mm)		900	600	750	600
野縁	部材		CW－25	CW－25	25形ダブル	25形ダブル
	ピッチ(単位mm)		225	300	300	300
ハンガー			耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー
クリップ			耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）
吊り長さ寸法(単位mm)	吊ボルト	9φ	400以下	450以下	400以下	430以下
		12φ	700以下	800以下	710以下	770以下
		9φ＋□-19×19×1.2	1900以下	2100以下	1900以下	2000以下
注）ケイ酸カルシウム板　t＝6mmの場合の部材選定目安（ケイ酸カルシウム板＋下地材：単位重量 100N/㎡）						

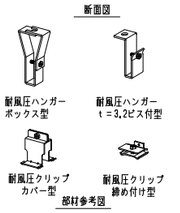
＊仕上材料重量により、天井下地、天井取付けビスの強度計算書を作成、検証し提出すること。
「風圧力　2000N/㎡以下の場合の部材構成参考図」
・野縁受：[－38×12×1.6　@900mm
・野縁：CW－25　W－50×25×0.5　@225mm



天井割付図



断面図

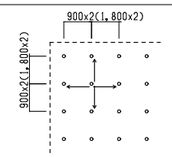
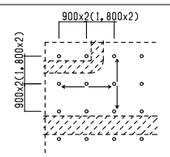


部材参考図

耐震ブレース設置　基本要領図（平面配置）

＊斜め部材配置例「3.6m×3.6m（約13㎡）の配置例」

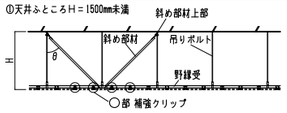
凡例　○：吊りボルト　◯：圧縮補強材　→：斜め部材（下→上）

基本斜め部材配置	天井裏の制限がある場合の斜め部材配置
	
＊（1,800×2）は吊り長さ1.5＜ℓ≦2.1m　の場合	＊（1,800×2）は吊り長さ1.5＜ℓ＜2.1m　の場合
V字配置　X方向、Y方向共 1本の吊りボルトを中心に配置	V字配置　X方向、Y方向共 X方向、Y方向別々にV字配置

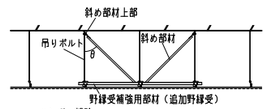
耐震ブレース設置　基本要領図（断面図）

V字配置　θ＝30°～60°

①天井ふところH＝1500mm未満

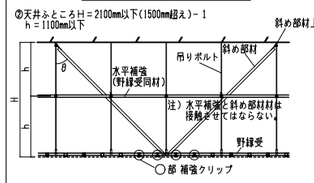


斜め部材取付詳細1（野縁受方向）

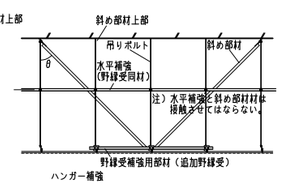


斜め部材取付詳細1（野縁方向）

②天井ふところH＝2100mm以下(1500mm超え)－1
h＝1100mm以下



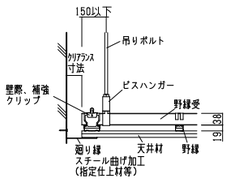
斜め部材取付詳細2（野縁受方向）



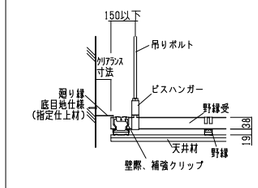
斜め部材取付詳細2（野縁方向）

壁際クリアランス設置　基本要領図

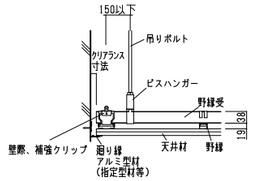
壁際クリアランス－1



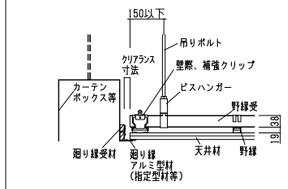
壁際クリアランス－2



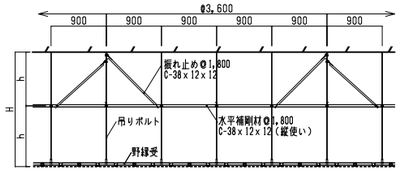
壁際クリアランス－3



壁際クリアランス－4



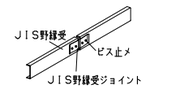
C仕様における吊り材の補剛要領（吊り長さ1.5mを超えた場合で、かつ3.0m以下とする）



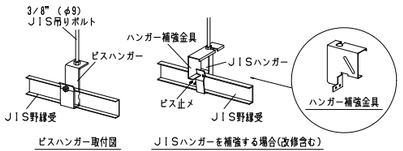
吊り材補剛材詳細

耐震補強使用標準部材参考図

①野縁受ジョイント補強

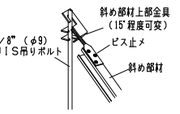


②ビスハンガー、ハンガー補強



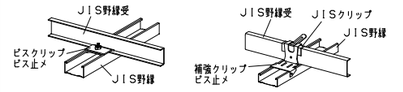
ビスハンガー取付図　JISハンガーを補強する場合(改修含む)

③斜め部材

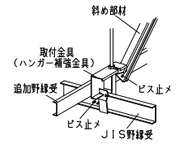


斜め部材上端取付図

④ビスクリップ、補強クリップ

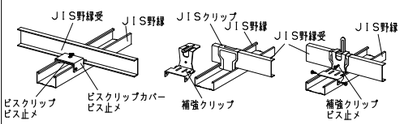


ビスクリップ取付図　JISクリップを補強する場合(改修含む)



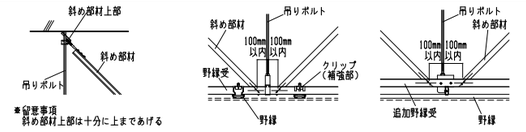
斜め部材下端取付図

⑤斜め部材周辺補強クリップ



斜め部材周辺ビスクリップ補強図　斜め部材周辺JISクリップを補強する場合(改修含む)

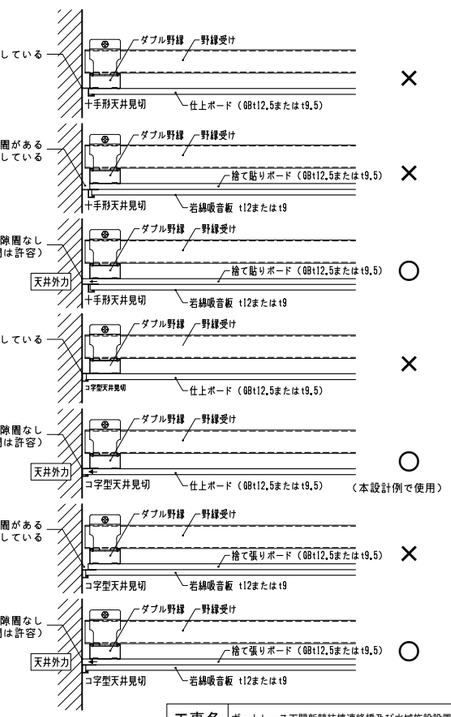
耐震ブレース設置　基本要領図



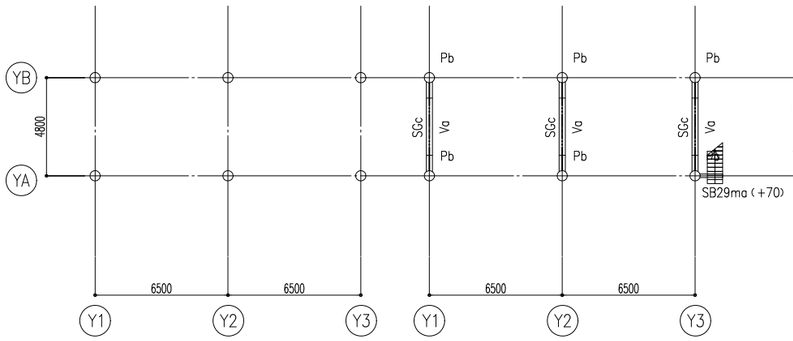
斜め部材上部詳細　斜め部材下部詳細（野縁受け方向）　斜め部材下部詳細（野縁方向）

B仕様における壁と天井の取り合い部推奨事例

推奨する天井と壁の納まり要領

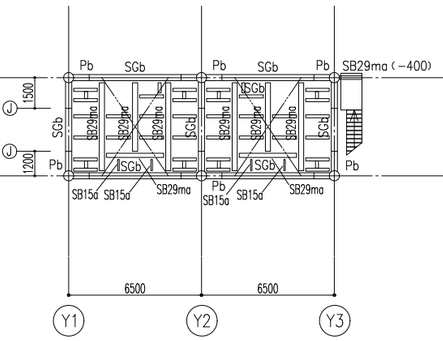


工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図		
縮　尺	－	図面番号	296
下関市ボートレース企業局			



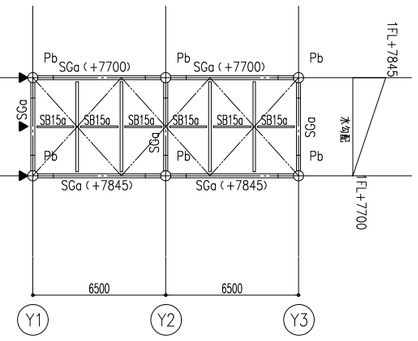
杭伏図　1:300

1. 設計GL=TP+3.68m



1FL　1:300

1. 1FL=設計GL+100（TP+3.78m）
2. 鉄骨天端＝1FL−220
3. 継手位置は柱芯より1000の位置とする
4. （　）内値は1FLからの鉄骨天端レベルを示す。

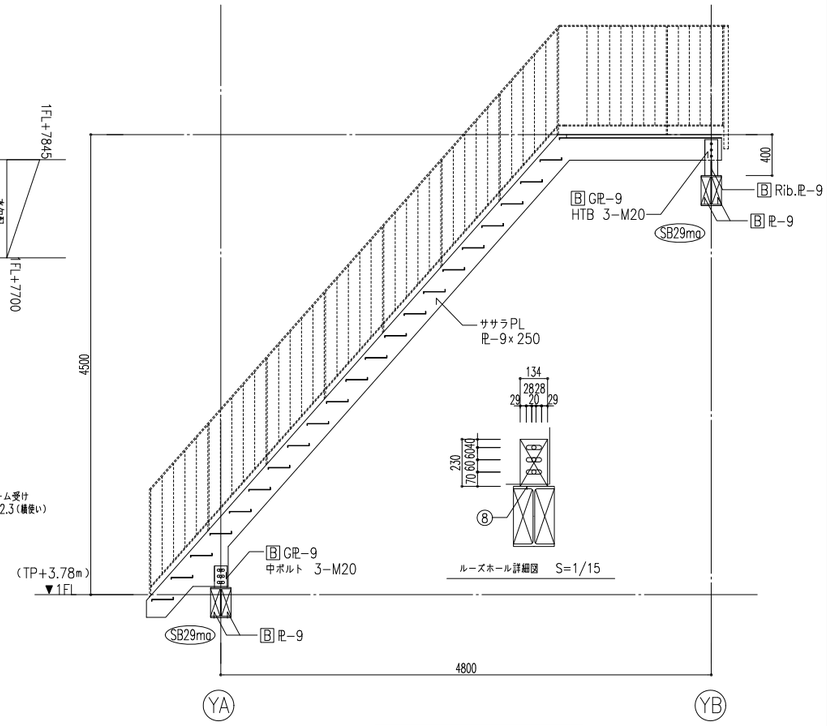


1FL+4500　1:300

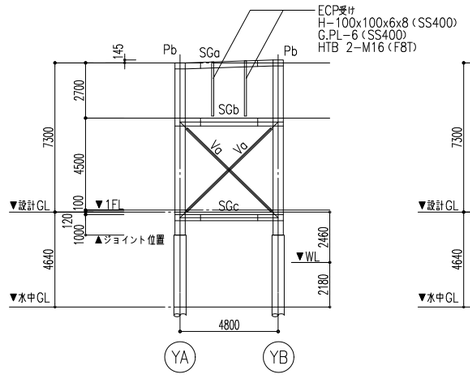
1. 小梁符号　SB30a（揚降装置受け鉄骨）
2. 水平符号　HVa
3. 鉄骨天端＝1FL+4500
4. ◀▶ 印：剛接合を示す
5. 継手位置は柱芯より1000の位置とする

1FL+7200　1:300

1. 小梁符号　SB25a
2. 水平符号　HVa
3. 鉄骨天端＝水勾配による
4. 継手位置は柱芯より1000の位置とする
5. （　）内値は1FLからの鉄骨天端レベルを示す。
6. ▶はタイトフレーム受け C−100x50x20x2.3（横使い）を示す

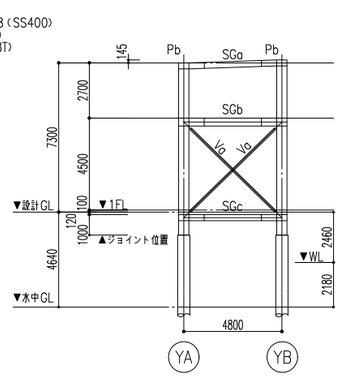


階段詳細図　1:30

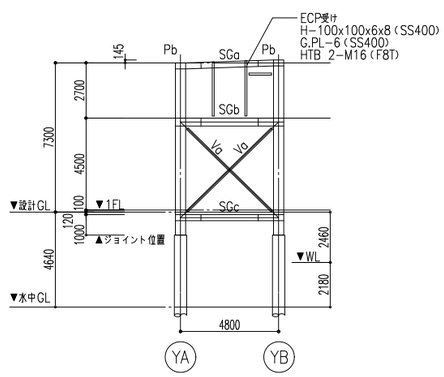


Y1 通り軸組み図　1:300

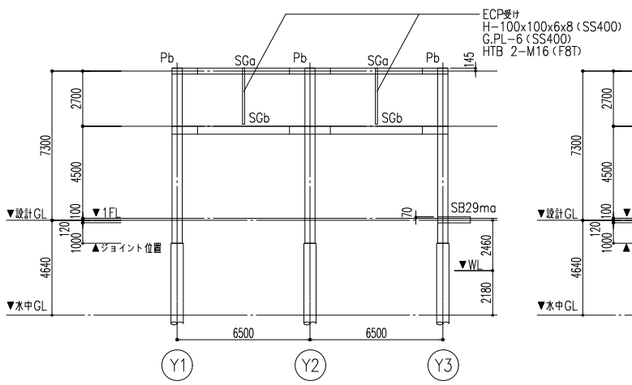
1. 設計GL=TP+3.68m



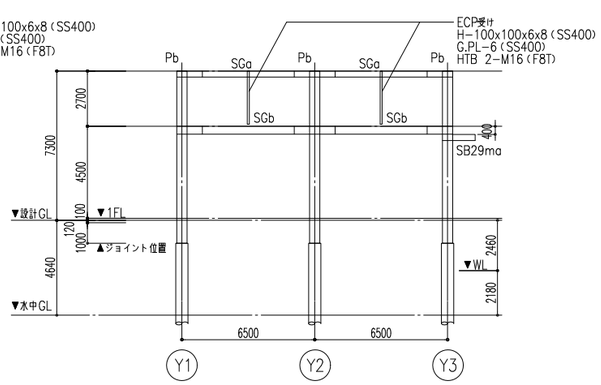
Y2 通り軸組み図　1:300



Y3 通り軸組み図　1:300



YA 通り軸組み図　1:300



YB 通り軸組み図　1:300

鉄骨柱大梁リスト・剛接合タイプ

符号	部材断面寸法（中央部材）	フランジ継手				ウェブ継手					
		H.T.BOLT	S PL− 1	S PL− 2	S PL− L	H.T.BOLT	N·M		E1	P1	S PL− 3
SGa	Ⓐ H−294x 200x 8x 12	8 −M20	Ⓑ PL− 9x200	Ⓑ 2PL− 9x 80	530	6 −M20	2	3	87	60	Ⓑ 2PL− 9x200x290
SGb	Ⓐ H−390x 300x 10x 16	14 −M20	Ⓑ PL−12x300	Ⓑ 2PL−12x110	710	12 −M20	3	4	105	60	Ⓑ 2PL− 9x260x410
SGc	Ⓐ H−300x300x10x15	12 −M20	Ⓑ PL−12x300	Ⓑ 2PL−12x110	620	12 −M20	3	3	90	60	Ⓑ 2PL− 9x200x410
Pb	φ−500x 22（STK490）										
SB29ma	A H −294x200x8x12	6 −M20	B PL−9x200	B 2PL−12x80	410	3 −M20	1	3	87	60	B 2PL− 9x200x170

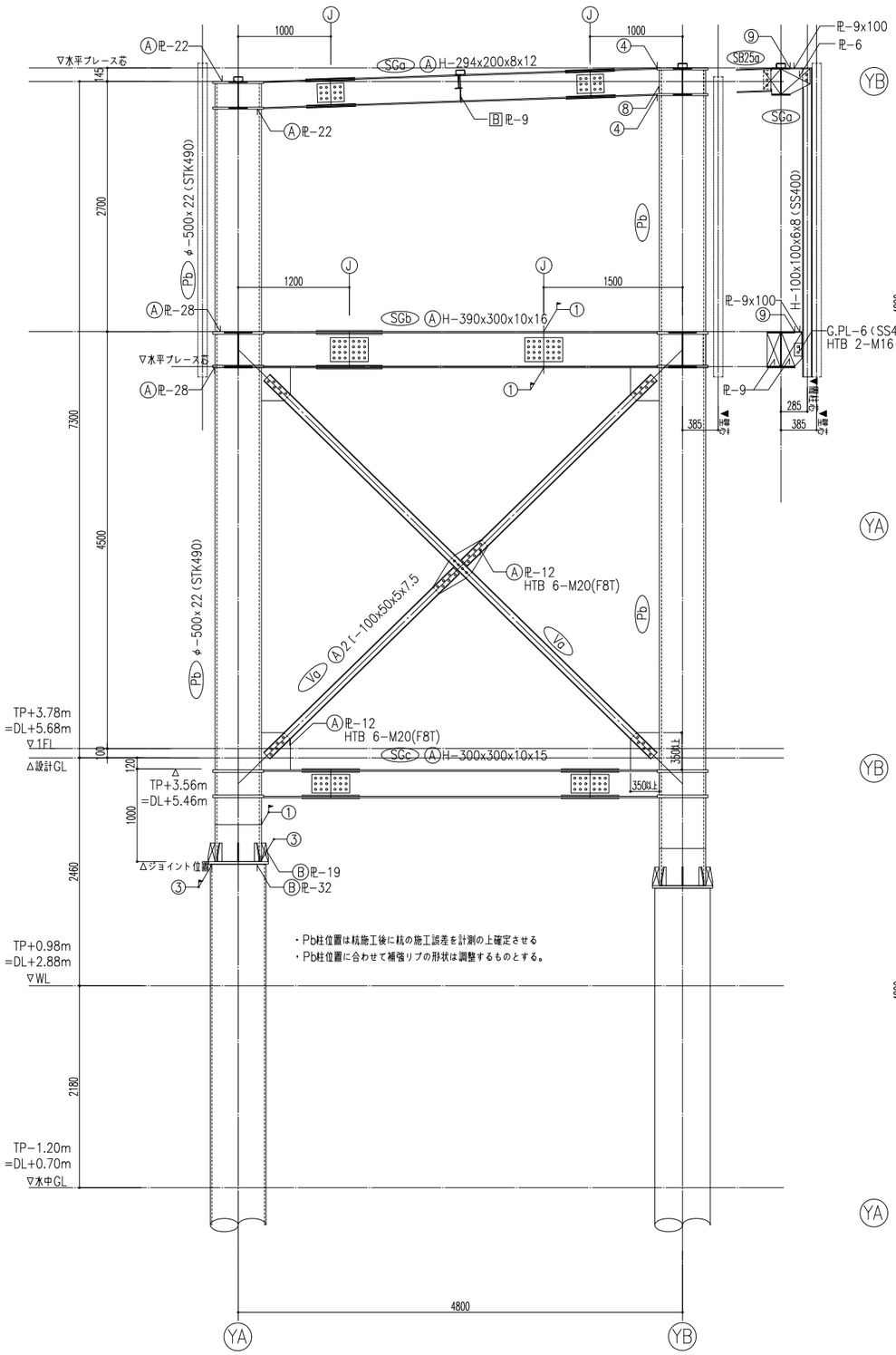
共通事項
1. 基本事項はS−000に従う
2. 鉄骨材質　無印：SS400　B印：SN400B　Ⓐ印：SM490A
   A印：SN400A　C印：SN400C　Ⓒ印：SN490C
3. 鉄骨はすべて溶融亜鉛メッキとし高力ボルトはF8Tとする。
4. 大梁は杭施工後に柱芯位置を計測し部材長さを決定することとする。

鉄骨小梁リスト・ピン接合タイプ

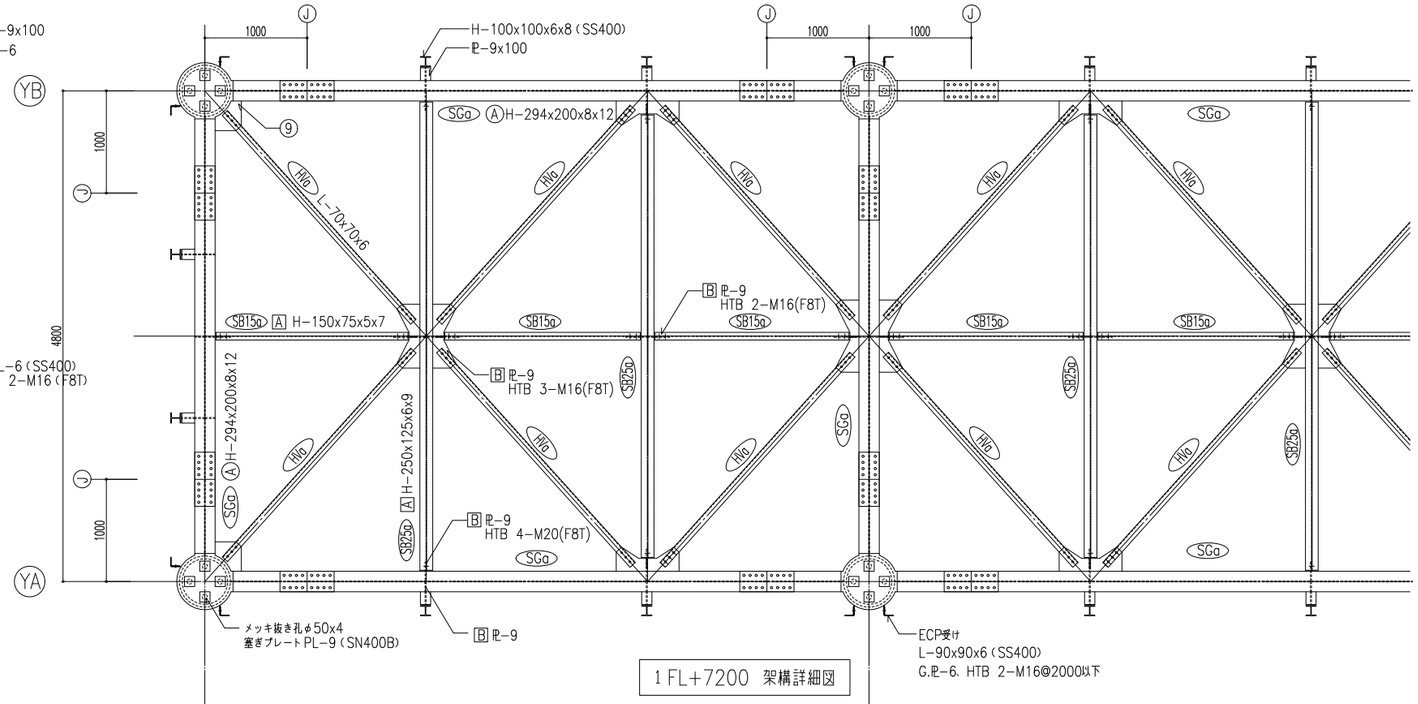
符号	部材断面寸法	継手タイプ	ウェブ継手						備考
			H.T.BOLT	N·M		P1	PL− A	2S PL− B	
SB15a	A H −150x75x5x7	A	2−M16	2	1	60	B PL−9	−	
SB25a	A H −250x125x6x9	A	3−M20	1	3	60	B PL−9	−	
SB29ma	A H −294x200x8x12	A	4−M20	1	4	60	B PL−9	−	
SB30a	A H −300x150x6.5x9	A	3−M20	1	3	60	B PL−9	−	
HVa	L −70x70x6	A	3−M16	1	3	60	B PL−9	−	
Va	Ⓐ 2L −100x50x5x7.5	A	6−M20	2	3	60	Ⓐ PL−12	−	

共通事項
1. 基本事項はS−000に従う
2. 鉄骨材質　無印：SS400　B印：SN400B　Ⓐ印：SM490A
   A印：SN400A　C印：SN400C　Ⓒ印：SN490C
3. 鉄骨はすべて溶融亜鉛メッキとし高力ボルトはF8Tとする。

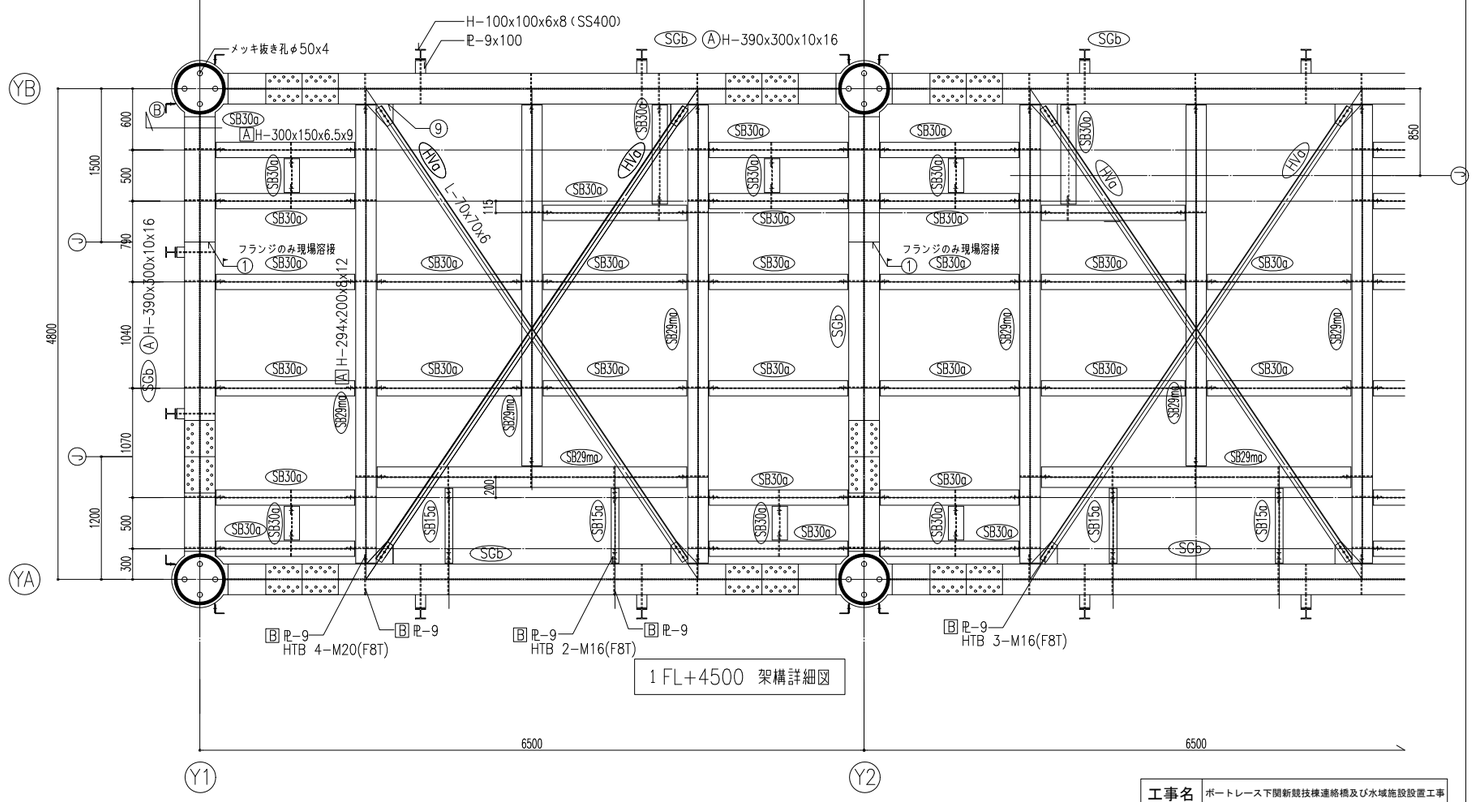
工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	水域施設　揚降装置（仮設）構造図		
縮　尺	図示	図面番号	297
下関市ボートレース企業局			



Y1 通り 架構詳細図



1 FL+7200 架構詳細図



1 FL+4500 架構詳細図

工事名	ボートレース下関新競技棟連絡橋及び水域施設設置工事		
図面名	水域施設　揚降装置（仮設）鉄骨架構詳細図		
縮　尺	1/60	図面番号	298
下関市ボートレース企業局			